

内閣府食品安全委員会事務局
平成 21 年度食品安全確保総合調査報告書

平成 21 年度
食品の安全性に係る
リスクコミュニケーションの効果に関する調査
報告書

平成 22 年 3 月



株式会社ノルド 社会環境研究所

はじめに

この報告書は、平成 21 年度において食品安全委員会事務局から受託した調査研究事業「食品の安全性に係るリスクコミュニケーションの効果に関する調査」の成果を取りまとめたものである。

食品安全委員会は、食品安全基本法第 23 条第 1 項第 7 号に基づいて、リスクコミュニケーションの実施を行なうこととなっており、平成 18 年 11 月には「リスクコミュニケーションの改善に向けて」を策定し、これまでも様々な取組みを展開してきている。

しかしながら、その取組の効果については具体的な評価・検証がなされてこなかった。このことから、本調査研究事業では、より効果的なリスクコミュニケーションを推進するために、食品安全委員会のリスクコミュニケーションの中心的な取組である意見交換会の実施効果を測定する指標を検討し、その効果を明らかにするとともに、更なる効果的なリスクコミュニケーションを推進する上での知見を収集することを目的として実施したものである。

調査研究の実施にあたっては、北野大先生（明治大学教授）を座長とする計 4 名の有識者の方々にお集まりいただいて 4 回の調査検討会を開催し、大変貴重かつ有益なご議論・ご助言を賜った。また、本事業で実施した意見交換会の計画、実施、知見のとりまとめに際しては、関澤純先生（独立行政法人食品総合研究所、前内閣府食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会座長）より多大なるご協力を賜った。また、調査には、数多くの一般生活者のご協力をいただいた。

この場を借りて、調査検討会委員及び調査協力者その他関係各位に深く謝意を表する。

平成 22 年 3 月
株式会社ノルド
社会環境研究所

本調査研究事業の実施体制

堀越 秀彦	調査研究部長〔統括・実施責任者〕
永井 洋	調査研究部研究員
大澤 由紀子	調査研究部研究アシスタント

ほか、株式会社ノルド社会環境研究所調査研究部

目次

1.	調査の概要	2
2.	事前調査（インターネット調査）	12
2.1	調査概要	14
2.2	調査結果	15
(1)	調査結果	15
2.3	意見交換会及び行動指標への示唆	58
(1)	意見交換会への反映	58
(2)	行動指標への反映	60
3.	意見交換会の実施	62
3.1	意見交換会実施内容	64
(1)	開催概要	64
(2)	テーマと実施形式	66
4.	意見交換会参加者による評価（当日）	80
4.1	意見交換会来場者アンケート	82
(1)	調査概要	82
(2)	調査結果	82
4.2	評価のまとめ	130
(1)	満足度について	130
(2)	理解度について	131
(3)	会合の印象について	132
5.	行動指標調査（介入試験）	134
5.1	調査概要	136
(1)	目的	136
(2)	実施方法	136
5.2	評価結果	145
(1)	食品の安全性評価、管理についての知識（自己認識）	145
(2)	情報提供内容の理解	151
(3)	農薬に対する認識	178
(4)	安全性評価、管理制度、関係機関等に対する信頼感	186
(5)	信頼できる情報源	200
(6)	「残留基準量の2倍の農薬が検出された」との情報に触れた際の行動	210
(7)	食品選択に係る行動	232
(8)	日常的な保存・調理等に係る行動	250
(9)	食品のリスクに対する考え方	260
6.	意見交換会の効果と推奨事項	272
6.1	意見交換会の効果について	274
(1)	知識の獲得	274
(2)	農薬や食品の安全性に関する認識の変化	275
(3)	信頼感の変化	276
(4)	行動の変化	277
6.2	リスクコミュニケーション（意見交換会）に係る推奨事項	280
(1)	計画・準備	280
(2)	実施	282
(3)	フォローアップ	286
添付資料		288
	事前調査調査票	290
	来場者アンケート調査票	299
	行動指標調査票	301

1. 調査の概要

1. 目的

食品安全委員会ではこれまで様々なリスクコミュニケーションの取組を推進している。しかしながら、その取組の効果については具体的な評価・検証がなされていない。このことから、より効果的なリスクコミュニケーションを推進するために、食品安全委員会のリスクコミュニケーションの中心的な取組である意見交換会の実施効果を測定する指標を検討し、その効果を明らかにするとともに、更なる効果的なリスクコミュニケーションを推進する上での知見を収集することを目的とした。

2. 調査内容

1. 意見交換会の実施効果に関する調査（介入試験）

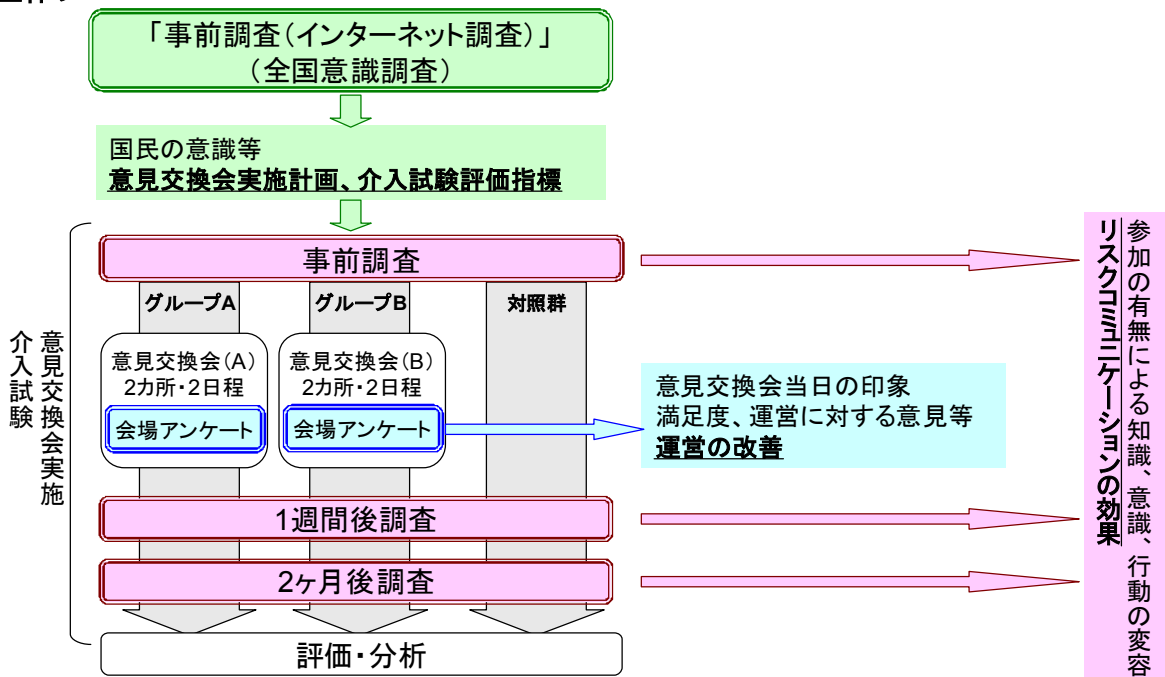
(1) 事前調査

意見交換会のテーマ、行動指標調査の項目を検討するために、全国的な規模で消費者の意識等を把握する事前調査を実施した。

(2) 行動指標調査

一般の者を「グループA」、「グループB」及び「グループC（対照群）」の3つのグループに区分し、「グループA」、「グループB」については形式の異なる意見交換会を実施した。意見交換会の前後に各グループの行動指標調査を行い、意見交換会の効果を対照群と比較分析・検証した。

全体フロー



2. 実施体制

本調査研究事業の目的を効果的に達成するため、有識者委員によって構成される「食品の安全性に関するリスクコミュニケーションの効果等に関する調査検討会」を設置し、調査方法や調査結果についてご意見・ご助言をいただきながら事業を実施した。

(1) 検討会の構成（敬称略）

1) 委員

- 〔座長〕
北野 大 明治大学理工学部教授
- 〔委員〕
神田 玲子 独立行政法人放射線医学総合研究所
放射線防護研究センター規制科学総合研究グループ
リスクコミュニケーション手法開発チームリーダー
中嶋 康博 東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
／同学食の安全研究センター副センター長
広田 すみれ 東京都市大学環境情報学部情報メディア学科准教授

2) 協力・意見交換会講師

- 関澤 純 独立行政法人食品総合研究所
(前内閣府食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会座長)

3) オブザーバー（内閣府食品安全委員会事務局）

- 新本 英二 リスクコミュニケーション官
船坂 和夫 勧告広報課課長補佐
久保 順一 勧告広報課リスクコミュニケーション専門官
手塚 秀 勧告広報課リスクコミュニケーション専門官
馬場 彰子 勧告広報課交流係長

3) 調査検討会事務局（株式会社ノルド〔社会環境研究所〕）

- 堀越 秀彦 調査研究部長
永井 洋 調査研究部 主任研究員
大澤 由紀子 調査研究部 研究アシスタント

(3) 検討経過

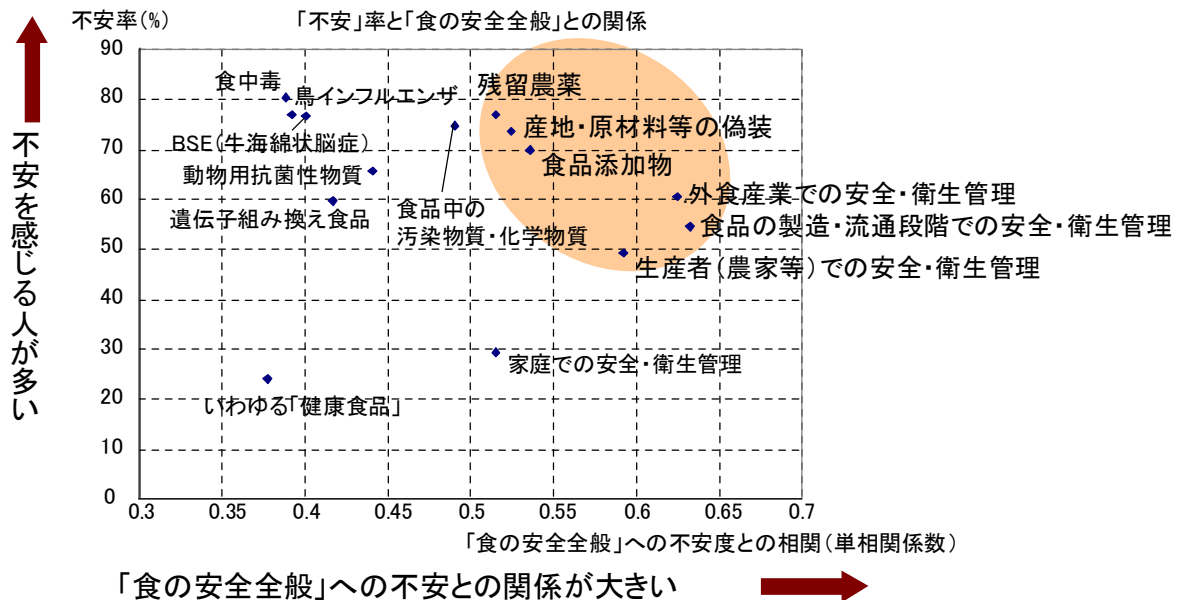
	時期	主な議事
第1回	平成21年 9月9日	全体の調査計画の基本枠組・方向性の検討 事前調査実施内容（調査票）の検討 意見交換会実施内容（概要）の検討
第2回	9月30日	事前調査結果の検討 行動指標調査実施内容（調査票）の検討 意見交換会実施内容の検討
第3回	平成22年 2月9日	意見交換会アンケート結果の検討 意見交換会の実施効果に関する調査（介入試験）結果の検討
第4回	3月12日	全体の調査分析結果の検討 意見交換会の効果及び効果的なリスクコミュニケーションを推進する上での知見のとりまとめ内容の検討

3. 結果の概要

(1) 意見交換会のテーマ及び効果測定指標の検討（事前調査）

意見交換会のテーマ及び意見交換会の効果測定のための指標を検討するため、全国 2008 名を対象に、事前調査（インターネット調査）を行った。

調査結果より意見交換会のテーマを検討した。不安を感じる人が多いこと、食の安全全般への不安との関係（相関）が大きいものとして、残留農薬、産地・原材料等の偽装、食品添加物、安全・衛生管理を候補とした。



また、生活者のリスク認知の構造を求めるため、リスク認知に係る設問群について因子分析を行ったところ「危害」「管理」「回避」「知識」の因子がみられたので、それぞれの要素を取り入れやすいことをテーマの選定基準として考慮した。

リスク認知に係る因子分析

	因子1 「危害」	因子2 「管理」	因子3 「回避」	因子4 「知識」
得体が知れない	0.7565	0.0115	0.0670	0.0012
摂取するたびに人体に蓄積されている	0.7488	-0.0603	0.2533	0.0344
将来世代にまで影響を及ぼす	0.7371	-0.0117	0.1635	0.0968
いったん被害を受けると回復がむずかしい	0.7029	0.0091	0.2160	0.0915
問題が発生する確率が高い	0.6789	0.1649	0.0069	0.1263
問題が発生したときの被害が大きい	0.6784	0.0607	0.0998	0.0051
安全性を判断する材料が不十分	0.6138	-0.1489	0.2823	0.0177
行政による安全管理施策・体制が確立している	-0.0245	0.9116	0.0299	0.0657
生産者、流通過程の安全管理施策・体制が確立	-0.0055	0.7943	0.0777	0.0799
科学的な食品健康影響評価(*)が行われている	0.0651	0.7396	0.0235	0.2684
危害の回避に必要な情報が提供されている	-0.0036	0.7084	-0.0285	0.3973
危ないとされるものは買わないようにしている	0.2894	0.0163	0.7548	0.0378
家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている	0.2363	0.0924	0.6499	0.0903
どのように安全管理されているか知っている	0.0228	0.5147	0.0240	0.7329
どのような被害・影響があるのか知っている	0.2077	0.2960	0.1562	0.6424

	二乗和	寄与率(%)	累積寄与率(%)
1	3.66	24.38	24.38
2	2.93	19.53	43.90
3	1.26	8.38	52.29
4	1.24	8.23	60.52

さらに、生活者にとって身近であること、リスクとベネフィットの両面があること等を考慮して「残留農薬」を意見交換会のテーマとして選定した。

残留農薬をテーマとして、講義型、グループディスカッション型の意見交換会を実施した。

意見交換会実施概要

○テーマ

基準値の2倍！どうしたらいいの？－残留農薬の危険性を考える－

○日程

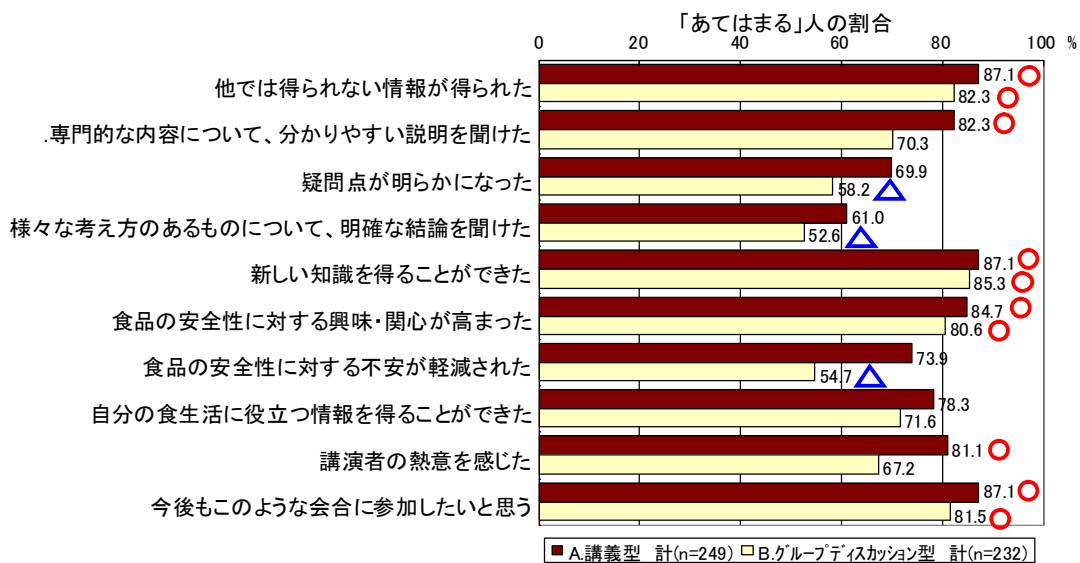
日	時	開催形式
11月1日	10:00～12:00	講義型
11月1日	14:00～16:00	グループディスカッション型
11月3日	10:00～12:00	グループディスカッション型
11月3日	14:00～16:00	講義型

○講師

関澤純先生（元徳島大学総合科学部教授、元内閣府食品安全委員会・リスクコミュニケーション専門調査会座長、環境省中央環境審議会専門委員、食品総合研究所特別研究員）

参加者に会合の印象をたずねたところ「他で得られない情報を得た」「新しい知識を得た」「興味、関心が高まった」「今後も参加したい」は共通して多くの参加者が感じていた。

グループ B（グループディスカッション型）において「明確な結論が聞けた」「疑問点が明らかになった」「不安が軽減された」参加者の割合が小さかった。



また、意見交換会の参加者からは次のような肯定的、否定的評価を得た。

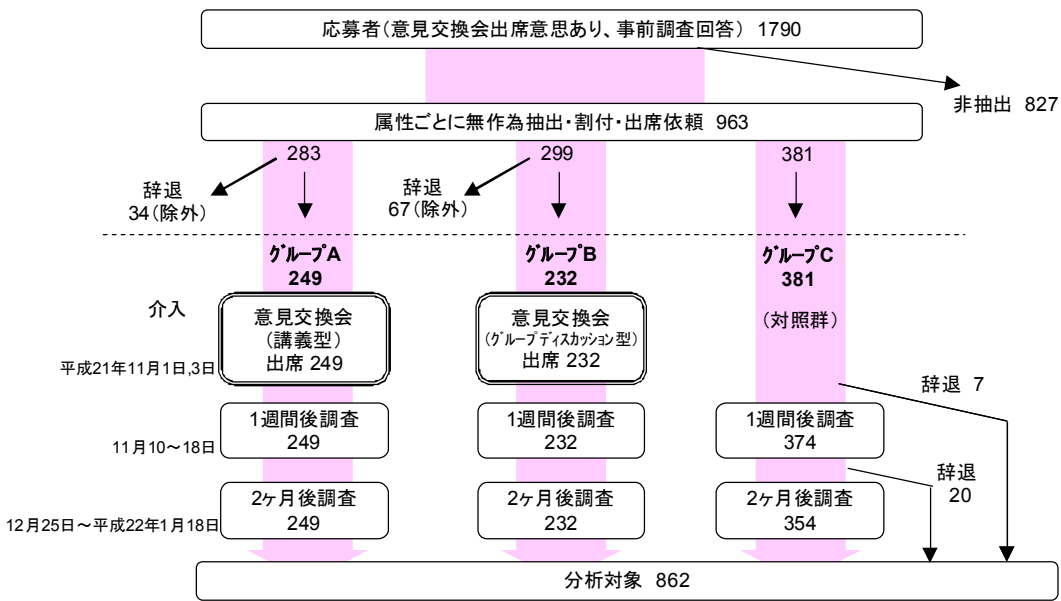
講義型

- 肯定的評価
 - 新しい知識を得た
 - 興味、関心が高まった
 - 今後も参加したい
 - 専門家の話が貴重
 - 質疑で他人の意見を聞けた
- 否定的評価
 - 専門家の説明時間が短い
 - ディスカッション形式がよい

グループディスカッション型

- 肯定的評価
 - 新しい知識を得た
 - 興味、関心が高まった
 - 今後も参加したい
 - 他の参加者に触発された
 - 一方的でないやり方である
- 否定的評価
 - 専門家の説明時間が短い
 - 事前に講義が必要
 - 質問への回答・対話が不十分
 - グループ・人数が多い

介入試験により、意見交換会の前後での各種指標の変化を確認した。調査、分析の流れは下のとおり。



事前調査、1週間後、2ヶ月後調査の結果を集計、分析したところ、意見交換会の参加によって次ような変化がみられた。多くはグループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間で差異はみられなかった。

意見交換会による変化

- 知識獲得
 - 「知っている」という自己認識
 - 意見交換会で伝えた内容の理解
- リスクに対する認識に変化(受容、不安緩和側)
 - ベネフィット(農薬の効用)の想起
 - リスクの観念的な理解(但し、必ずしもリスクを受け入れるというわけではない)
 - 食品のリスクはそれほど大きくないこと(特に講義型において)
- 信頼感の向上(特に食品安全行政に対して)
- 行動の変容
 - 意義の小さい回避行動をとる人の減少
 - 清潔維持などの波及効果
 - 情報を収集し、影響を考える人の増加
 - 行政機関・行政情報の利用意向の高まり
 - 講義型→”冷静”
 - 回避行動減少、「意識しない」「何もしない」増加
 - グループディスカッション型→”能動”
 - 「基準の2倍の農薬検出」に接した際に、何らかの行動をとる人の割合は全体的に グループディスカッション型 > 講義型
 - 但し、期待していない(趣旨に反する)方向に変化することもある。

また、各評価項目についての評価結果(2ヶ月後を抜粋)の詳細は次のとおりであった。

2ヶ月後における介入群と対照群との差異

分類	項目	グループ		A(講義型)			B(グループディスカッション型)		
		C(対照群)	A(講義型)	該当率	比率差 (vs.C)	p値	該当率	比率差 (vs.C)	p値
A講義型、Bグループディスカッション型ともに変化がみられた項目									
知識	食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている	24.1	91.2	67.0	0.0000 **	92.7	68.5	0.0000 **	
知識	食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている	18.4	90.4	72.0	0.0000 **	87.9	69.6	0.0000 **	
内容理解	農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている	77.2	43.0	-34.2	0.0000 **	42.2	-34.9	0.0000 **	
内容理解	農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている	51.2	85.1	34.0	0.0000 **	85.8	34.6	0.0000 **	
内容理解	残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている	51.4	91.2	39.7	0.0000 **	89.2	37.8	0.0000 **	
内容理解	基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない	62.7	92.0	29.2	0.0000 **	92.7	29.9	0.0000 **	
内容理解	基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている	49.3	81.5	32.2	0.0000 **	85.8	36.4	0.0000 **	
内容理解	洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している	64.6	43.4	-21.2	0.0000 **	46.1	-18.4	0.0000 **	
内容理解	「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い	59.6	26.1	-33.5	0.0000 **	28.4	-31.1	0.0000 **	
内容理解	特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切	67.2	91.2	24.0	0.0000 **	90.9	23.8	0.0000 **	
農業への認識	いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える	48.3	13.7	-34.6	0.0000 **	21.1	-27.2	0.0000 **	
農業への認識	農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである	66.9	94.0	27.0	0.0000 **	93.1	26.2	0.0000 **	
農業への認識	国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている	51.2	88.0	36.8	0.0000 **	90.1	38.9	0.0000 **	
信頼感	農業等に対する科学的なリスク評価	41.7	78.3	36.6	0.0000 **	74.1	32.4	0.0000 **	
信頼感	食品の安全管理のための規制の仕組み	36.2	72.7	36.5	0.0000 **	71.1	34.9	0.0000 **	
信頼感	生産者、事業者等の法令遵守	19.9	43.8	23.8	0.0000 **	40.1	20.1	0.0000 **	
信頼感	食品安全委員会	31.2	62.7	31.4	0.0000 **	67.2	36.0	0.0000 **	
信頼感	厚生労働省・農林水産省(うち、食品安全行政について)	25.7	58.6	32.9	0.0000 **	57.8	32.0	0.0000 **	
信頼感	厚生労働省(情報源として信頼)	13.9	34.9	21.0	0.0000 **	31.9	18.0	0.0000 **	
信頼感	農林水産省(情報源として信頼)	13.4	32.9	19.5	0.0000 **	33.2	19.8	0.0000 **	
信頼感	食品安全委員会(情報源として信頼)	19.4	44.6	25.2	0.0000 **	50.9	31.4	0.0000 **	
事象への反応	キャベツを食べないようにする	21.3	7.6	-13.6	0.0000 **	10.3	-10.9	0.0011 **	
事象への反応	「減農薬」「無農薬」の野菜を食べようにする	42.5	21.7	-20.8	0.0000 **	25.4	-17.1	0.0000 **	
事象への反応	残留している量(2倍)に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える	58.5	70.7	12.2	0.0039 **	72.8	14.3	0.0006 **	
事象への反応	その農業についての安全性に関する情報を収集する	47.0	61.4	14.5	0.0009 **	67.7	20.7	0.0000 **	
事象への反応	食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する	47.5	70.7	23.2	0.0000 **	72.8	25.3	0.0000 **	
事象への反応	食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる	13.4	26.1	12.7	0.0001 **	30.2	16.8	0.0000 **	
日常的行動	食品の安全性について情報収集している	17.8	26.1	8.3	0.0472 *	27.6	9.7	0.0160 *	
日常的行動	食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている	11.8	26.1	14.3	0.0000 **	28.9	17.1	0.0000 **	
日常的行動	食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている	59.3	77.1	17.8	0.0000 **	73.3	14.0	0.0010 **	
リスクの考え方	どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である	52.8	68.7	15.9	0.0002 **	64.2	11.5	0.0145 *	
A講義型のみに変化がみられた/A講義型の方が変化が大きかった項目									
事象への反応	A県産の野菜を食べないようにする	52.8	41.0	-11.8	0.0102 *	45.3	-7.5	0.2048	
事象への反応	何もしない(気にしない)	20.7	30.5	9.8	0.0109 *	21.1	0.4	1.0000	
日常的行動	普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している	43.8	61.0	17.2	0.0001 **	54.3	10.5	0.0346 *	
日常的行動	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(健康に対する不安から)	22.8	12.4	-10.4	0.0052 **	15.5	-7.3	0.0920	
リスクの考え方	多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない	13.9	27.3	13.4	0.0000 **	21.1	7.2	0.0436 *	
日常的行動	問題があると話題になった食品は買わない	47.0	38.2	-8.8	0.0882	45.7	-1.3	1.0000	
Bグループディスカッション型のみに変化がみられた/Bグループディスカッション型の方が変化が大きかった項目									
信頼感	食品の安全性に関する報道	24.1	32.5	8.4	0.0607	38.4	14.2	0.0004 **	
事象への反応	生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える	46.5	53.8	7.4	0.2067	59.9	13.5	0.0034 **	
変化がみられなかった項目									
事象への反応	キャベツを買ったらよく洗うようにする	73.0	74.3	1.3	0.3835	75.4	2.5	0.6950	
日常的行動	なるべく国産のものを購入するようにしている	57.5	61.0	3.6	1.0000	65.9	8.5	0.1068	
日常的行動	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(環境への配慮から)	13.9	10.8	-3.1	0.8101	12.1	-1.8	1.0000	
日常的行動	信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している	28.6	34.9	6.3	0.2942	36.2	7.6	0.1562	
日常的行動	作り置き、買い置きをしないようにしている	15.7	18.5	2.7	1.0000	14.2	-1.5	1.0000	
日常的行動	加熱すべき食材は十分に加熱する	68.0	79.5	11.5	0.0038 **	78.0	10.0	0.0180 *	
日常的行動	消費期限、賞味期限を厳守している	24.9	28.9	4.0	0.8535	33.2	8.3	0.0898	
リスクの考え方	食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない	42.8	50.2	7.4	0.2003	45.7	2.9	1.0000	
リスクの考え方	経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである	53.3	63.1	9.8	0.0444 *	59.1	5.8	0.4764	
リスクの考え方	食品は100%の安全が確保されるべきである	22.8	23.3	0.5	1.0000	22.8	0.0	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定のうち、「2ヶ月後」の値を記載

当日の来場者の評価及び介入試験の結果等をもとに今後の意見交換会の開催における推奨事項を検討した。

今後の意見交換会における推奨事項

(1)計画・準備

1) タイトルのつけ方

➤ 生活者の目線からタイトルを付与。具体的かつ容易にテーマを想起できるようにする。

2) 内容の設定

➤ 参加者が知りたいと思うことを事前にたずねて内容に反映し、

➤ 事前にたずねた内容を反映したことを伝える。

3) 告知・募集

➤ 募集にあたっては、食品安全とは無関係な媒体、告知方法を含める。

➤ 開催回ごとにターゲットを明確に設定する。既存のコミュニティを活用してもよい。

➤ 募集にあたっては、食品安全とは無関係な媒体、告知方法を含める。

➤ 開催回ごとにターゲットを明確に設定する。既存のコミュニティを活用してもよい。

(2)実施

1) 実施形式

➤ 講義、グループディスカッション、専門家との対話を組み込む。

2) 講義

➤ 説明事項の量に照らして講義時間を十分にとる。

➤ 具体性のある説明に努める。

➤ 対立がある論点については両論にふれる。

➤ 補完手段（DVD等）を活用する。

3) グループディスカッション

➤ 意図、タスクを明確に伝える。

➤ ディスカッション前に講義を行うなど、主要なメッセージはあらかじめ伝えておく。

➤ ファシリテータにより議論をコントロールする。

➤ グループの成果物を十分に活用する。

4) 対話・質疑応答

➤ テーマをカバーできるように専門家を立てる（場合により複数）。

➤ 専門家の資質（能力、人柄、立場など）に留意する。

➤ 共感を示しながら対話する。

➤ テーマを逸脱する質問を想定し、あらかじめ線引きを設定する。

➤ 事後に個別の質問時間を設けるなど、大勢の前で質問できない人に配慮する。

5) 配付資料

➤ 配付資料は説明しきれぬ量とする。

➤ 資料のみで内容が理解できるようにする。

(3)フォローアップ

1) 会合後の情報提供

➤ 当日の説明が不足した部分について情報提供する。

➤ 情報提供や対話を継続する仕組みを確保する。

2. 事前調査（インターネット調査）

2.1 調査概要

1) 調査目的

食品の選択方法など食行動の現状、食品の安全性に係る認識、食品安全行政やその活動に対する認識等を定量的に把握する。また、行動指標調査で実施する意見交換会のテーマ、行動指標調査の項目の検討にあたって有用な情報を得る。

2) 調査方法

インターネットアンケート調査

3) 調査対象

全国の20代～60代の男女

全国規模の一般生活者モニターから性別・年代別・地域別構成比に応じて層化無作為抽出。

4) サンプル数

2008 サンプル（下表参照）

回収サンプルの内訳（平成17年度国勢調査結果に基づく）

地域	男性					男性計	女性					女性計	合計
	20代	30代	40代	50代	60代		20代	30代	40代	50代	60代		
1.北海道	8	9	8	10	8	43	8	9	9	11	9	46	89
2.東北	13	14	14	17	13	71	12	14	14	17	15	72	143
3.関東	68	82	64	71	60	345	62	76	60	71	62	331	676
4.中部	31	38	32	38	31	170	29	37	32	38	33	169	339
5.近畿	31	39	31	38	34	173	35	40	33	41	36	185	358
6.中国	11	12	11	14	11	59	10	12	11	15	13	61	120
7.四国	5	6	6	7	6	30	5	6	6	8	6	31	61
8.九州・沖縄	20	21	21	26	19	107	21	23	22	27	22	115	222
総計	187	221	187	221	182	998	182	217	187	228	196	1,010	2,008

目標有効回答数を2000サンプルとして、平成17年度実施の国勢調査結果をもとに、性別・年代別・地域別割り付けを行い、各層の回収目標数を設定した。

各層の回収数を回収目標数の90～110%とし、最終的な有効回答数を2000サンプル以上確保した。

5) 調査実施時期

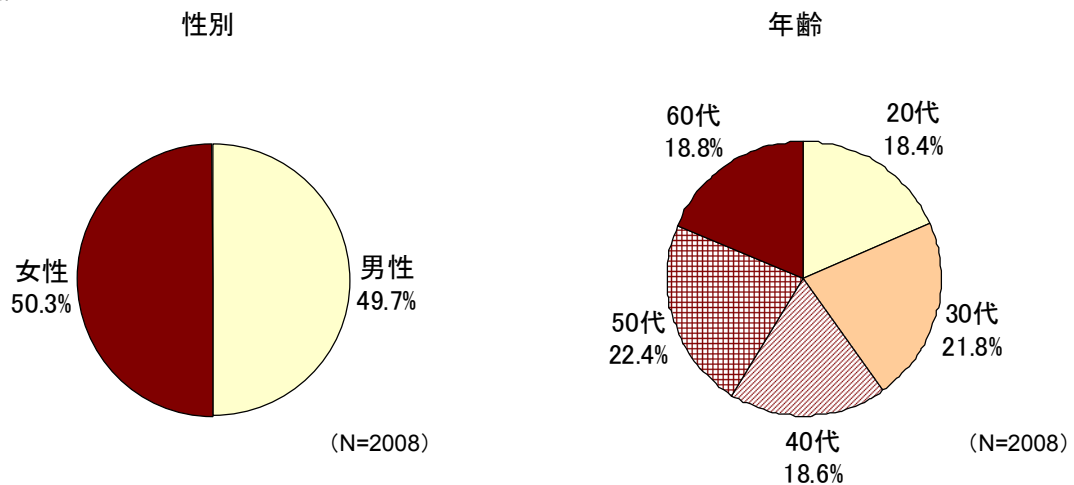
平成21年9月11日～9月17日

2.2 調査結果

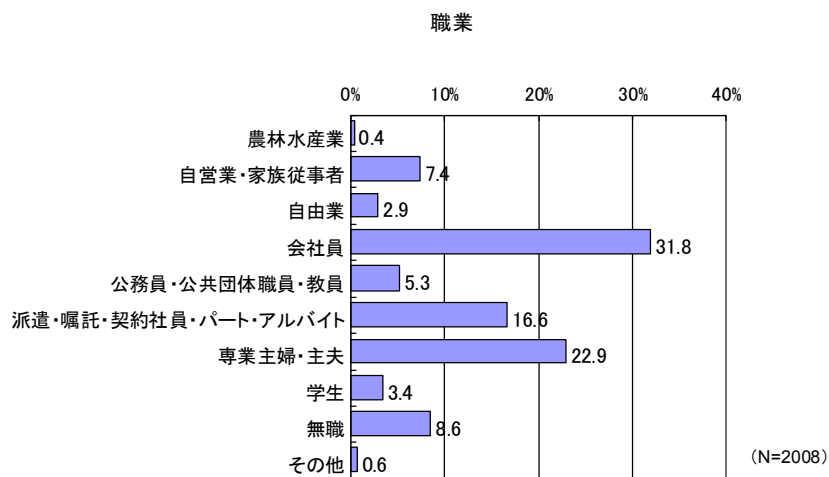
(1)調査結果

1) 回答者属性

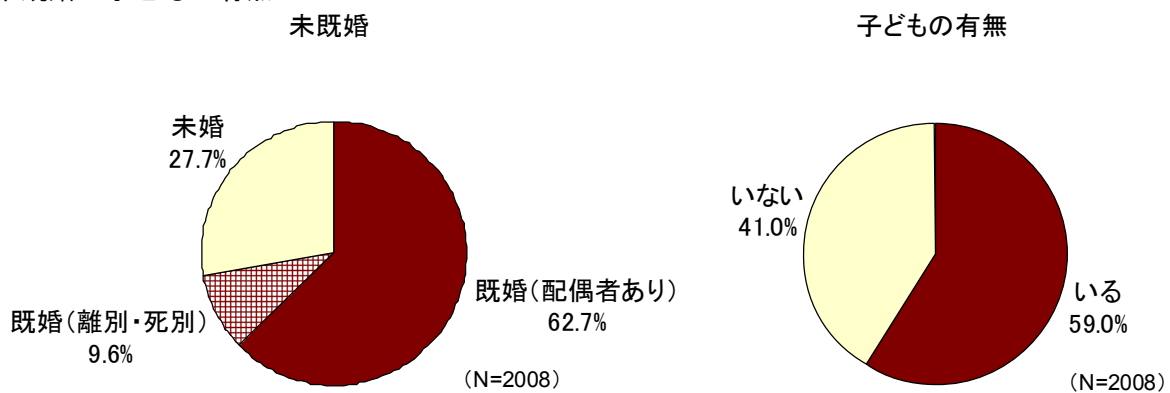
①性別・年齢



②職業



③未既婚・子どもの有無

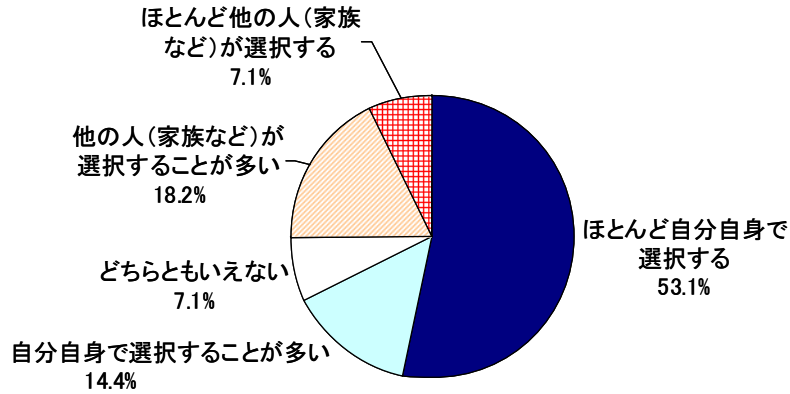


2) 食品選択と情報源

①食品の選択

- 回答者の約 7 割(「ほとんど自分自身で選択する」(53.1%)、「自分自身で選択することが多い」(14.4%))が、自分が食べる食品を自分自身で選択している。

Q1. あなたは、自分が食べる食品を自分で選んでいますか。(ひとつだけ)



(N=2008)

- 女性は 9 割以上が自分が食べる食品を自分自身で選択しているが、男性のうち自分自身が選択しているのは約 4 割である。

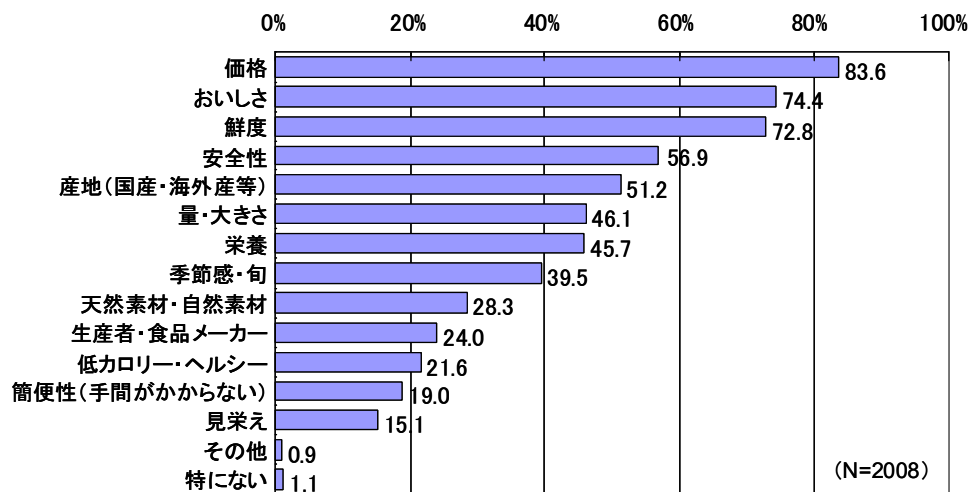
Q1. あなたは、自分が食べる食品を自分で選んでいますか。(ひとつだけ)

	(N)	Q1. 自分で食べる食品の選択				
		ほとんど自分自身で選択する	自分自身で選択することが多い	どちらともいえない	他の人(家族など)が選択することが多い	ほとんど他の人(家族など)が選択する
全体	2008	53.1	14.4	7.1	18.2	7.1
性別						
男性	998	25.5	17.2	11.9	32.8	12.6
女性	1010	80.4	11.7	2.4	3.9	1.7
年齢						
20代	369	48.8	20.3	7.6	14.9	8.4
30代	438	53.4	14.8	7.5	17.4	6.8
40代	374	51.6	14.7	7.0	20.6	6.1
50代	449	57.0	11.8	6.5	18.9	5.8
60代	378	53.7	11.1	7.1	19.3	8.7
性・年齢						
男性-20代	187	38.5	21.9	8.6	20.3	10.7
男性-30代	221	26.7	19.0	13.6	29.4	11.3
男性-40代	187	21.4	15.5	12.8	38.0	12.3
男性-50代	221	24.9	14.9	11.3	37.1	11.8
男性-60代	182	15.4	14.8	13.2	39.0	17.6
女性-20代	182	59.3	18.7	6.6	9.3	6.0
女性-30代	217	80.6	10.6	1.4	5.1	2.3
女性-40代	187	81.8	13.9	1.1	3.2	0.0
女性-50代	228	88.2	8.8	1.8	1.3	0.0
女性-60代	196	89.3	7.7	1.5	1.0	0.5
職業						
自営業・家族就業者・農林水産	157	40.8	18.5	12.7	16.6	11.5
正規就業者	745	33.3	17.0	11.0	28.6	10.1
非正規就業者	393	63.6	13.2	3.3	14.8	5.1
専業主婦・主夫	460	89.8	8.5	0.9	0.9	0.0
学生	68	41.2	23.5	8.8	17.6	8.8
無職	172	32.6	14.5	9.3	29.7	14.0
その他	13	53.8	15.4	15.4	15.4	0.0
未既婚						
既婚(配偶者あり)	1259	52.7	13.7	7.2	19.3	7.1
既婚(離別・死別)	192	74.5	7.8	3.6	12.0	2.1
未婚	557	46.7	18.3	8.1	18.0	9.0
子どもの有無						
いる	1184	55.2	12.3	6.8	18.7	6.9
いない	824	50.0	17.5	7.5	17.6	7.4
子どもの年代						
未就学児	177	54.8	13.0	9.6	16.4	6.2
小学生	90	54.4	20.0	5.6	12.2	7.8
中学生	28	42.9	14.3	14.3	21.4	7.1
高校生	33	54.5	12.1	6.1	21.2	6.1
専門学校・専修学校生	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	60.0	8.3	6.7	18.3	6.7
学校を卒業	485	55.9	12.6	6.6	17.7	7.2
同居者						
一人暮らし	264	91.7	6.8	0.8	0.4	0.4
家族等と同居	1744	47.2	15.6	8.1	20.9	8.1
専攻						
理科系(どちらかといえば)	469	38.2	16.8	10.9	23.9	10.2
文科系(どちらかといえば)	828	57.1	13.6	7.0	16.7	5.6
どちらともいえない	134	65.7	12.7	3.0	12.7	6.0

②食品選択時に重視していること

- 食品選択の際には、「価格」(83.6%)、「おいしさ」(74.4%)、「鮮度」(72.8%)、「安全性」(56.9%)を重視する人が多い。

Q2. 食品を選択する際、あなたが重視していることは何ですか。以下よりあてはまるものを全てお選び下さい。(いくつでも)



- 全体的に、女性において重視している項目が多い。
- 安全性を重視しているのは、男性で 48.9%、女性で 64.9%、20代で 43.9%、60代で 73.5%と、性・年齢による差異が大きい。

Q2.食品を選択する際、あなたが重視していることは何ですか。以下よりあてはまるものを全てお選び下さい。(いくつでも)

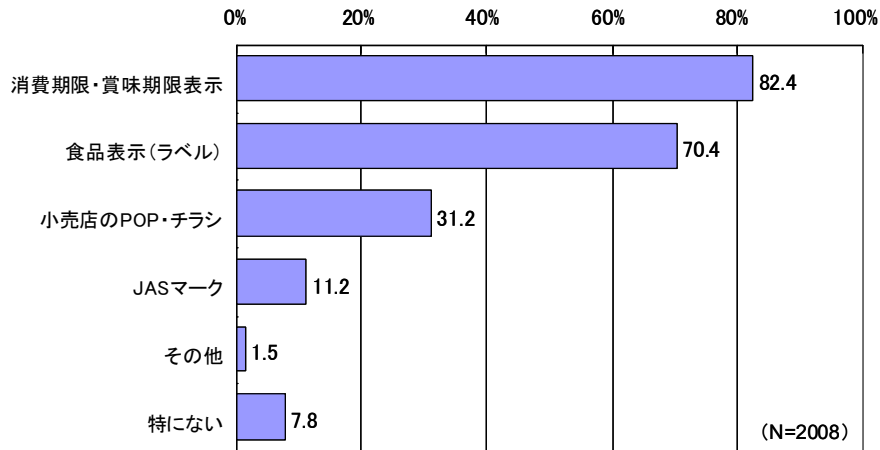
	(N)	Q2.食品選択で重視していること									
		価格	おいしさ	鮮度	見栄え	栄養	安全性	量・大きさ	低カロリー・ヘルシー		
全体	2008	83.6	74.4	72.8	15.1	45.7	56.9	46.1	21.6		
性別	男性	998	80.8	71.5	63.0	13.9	37.9	48.9	39.6	18.1	
	女性	1010	86.3	77.1	82.5	16.3	53.5	64.9	52.6	25.0	
年齢	20代	369	88.6	73.2	56.9	19.0	46.9	43.9	47.2	24.7	
	30代	438	88.1	75.1	71.2	19.4	45.0	45.7	53.4	17.6	
	40代	374	85.0	76.7	71.9	17.1	42.5	55.3	48.4	17.6	
	50代	449	81.3	77.1	79.7	12.0	47.0	65.9	43.9	21.6	
	60代	378	74.6	69.0	82.8	8.2	47.1	73.5	37.0	27.0	
	性・年齢	男性-20代	187	87.2	71.1	48.7	17.6	41.2	33.7	42.8	18.7
	男性-30代	221	86.0	73.3	59.7	18.6	36.7	39.8	48.0	14.0	
	男性-40代	187	80.7	73.8	59.4	19.8	33.7	49.2	40.1	13.9	
	男性-50代	221	77.8	73.3	71.0	8.6	41.2	55.7	33.5	19.9	
	男性-60代	182	71.4	65.4	75.8	4.9	36.3	67.0	33.0	24.7	
	女性-20代	182	90.1	75.3	65.4	20.3	52.7	54.4	51.6	30.8	
	女性-30代	217	90.3	77.0	82.9	20.3	53.5	51.6	59.0	21.2	
	女性-40代	187	89.3	79.7	84.5	14.4	51.3	61.5	56.7	21.4	
	女性-50代	228	84.6	80.7	88.2	15.4	52.6	75.9	53.9	23.2	
	女性-60代	196	77.6	72.4	89.3	11.2	57.1	79.6	40.8	29.1	
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	80.3	75.8	72.6	12.7	43.3	58.6	47.8	20.4	
	正規就業者	745	81.1	73.4	67.1	15.8	40.8	49.1	39.2	19.6	
	非正規就業者	393	85.8	74.0	73.0	17.3	47.8	58.0	50.4	23.4	
	専業主婦・主夫	460	88.0	78.9	86.3	15.7	57.4	68.7	54.8	23.5	
	学生	68	88.2	72.1	45.6	14.7	36.8	35.3	45.6	17.6	
	無職	172	78.5	64.5	70.9	7.6	34.9	63.4	41.3	22.7	
	その他	13	84.6	100.0	84.6	23.1	69.2	61.5	53.8	30.8	
	未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	82.4	75.2	79.3	13.8	48.1	62.0	45.1	21.1
		既婚(離別・死別)	192	80.2	70.8	72.4	11.5	38.5	60.4	39.6	23.4
未婚		557	87.4	73.6	58.3	19.4	42.9	44.3	50.6	21.9	
子どもの有無		いる	1184	81.3	74.7	78.6	12.9	47.6	62.6	42.9	20.1
	いない	824	86.9	73.8	64.4	18.3	43.0	48.8	50.7	23.7	
子どもの年代	未就学児	177	88.1	75.7	72.3	14.7	51.4	50.8	45.2	19.2	
	小学生	90	83.3	77.8	76.7	13.3	46.7	54.4	45.6	15.6	
	中学生	28	96.4	57.1	64.3	14.3	50.0	53.6	50.0	28.6	
	高校生	33	87.9	75.8	72.7	18.2	60.6	66.7	51.5	21.2	
	専門学校・専修学校生	2	0.0	50.0	100.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	71.7	76.7	80.0	15.0	48.3	73.3	43.3	20.0	
	学校を卒業	485	76.3	71.1	81.2	10.3	46.8	72.2	38.8	24.1	
	同居者	一人暮らし	264	91.3	67.8	61.0	14.8	43.9	43.2	53.8	20.1
		家族等と同居	1744	82.4	75.3	74.6	15.2	46.0	59.0	45.0	21.8
専攻		理科系(どちらかといえば)	469	81.7	74.8	66.3	13.9	48.0	54.8	44.1	20.5
	文科系(どちらかといえば)	828	82.2	75.8	72.7	15.3	47.5	56.2	45.3	22.7	
	どちらともいえない	134	87.8	70.1	78.4	14.9	53.0	67.2	47.8	22.4	

	(N)	Q2.食品選択で重視していること								
		天然素材・自然素材	簡便性(手間がかからない)	季節感・旬	産地(国産・海外産等)	生産者・食品メーカー	その他	特にな		
全体	2008	28.3	19.0	39.5	51.2	24.0	0.9	1.1		
性別	男性	998	19.7	15.4	28.1	39.0	17.9	0.3	1.9	
	女性	1010	36.8	22.5	50.8	63.4	29.9	1.6	0.4	
年齢	20代	369	16.8	19.5	23.8	33.6	12.5	0.3	1.1	
	30代	438	24.0	21.5	36.1	47.0	19.9	0.5	1.1	
	40代	374	23.3	19.0	38.5	53.7	25.4	1.6	1.3	
	50代	449	34.7	18.0	45.4	56.1	27.6	0.9	0.9	
	60代	378	42.1	16.7	52.6	65.1	34.1	1.6	1.3	
	性・年齢	男性-20代	187	12.8	16.6	17.6	23.0	9.6	0.5	1.1
	男性-30代	221	14.9	18.1	27.1	35.3	16.3	0.5	1.4	
	男性-40代	187	12.8	13.4	28.9	40.1	19.8	0.0	2.7	
	男性-50代	221	27.1	14.5	29.9	41.6	18.1	0.0	1.8	
	男性-60代	182	30.8	14.3	36.8	55.5	26.4	0.5	2.7	
	女性-20代	182	20.9	22.5	30.2	44.5	15.4	0.0	1.1	
	女性-30代	217	33.2	24.9	45.2	59.0	23.5	0.5	0.9	
	女性-40代	187	33.7	24.6	48.1	67.4	31.0	3.2	0.0	
	女性-50代	228	42.1	21.5	60.5	70.2	36.8	1.8	0.0	
	女性-60代	196	52.6	18.9	67.3	74.0	41.3	2.6	0.0	
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	29.3	21.7	40.8	53.5	31.8	1.3	2.5	
	正規就業者	745	21.5	16.8	29.3	39.1	18.0	0.7	1.3	
	非正規就業者	393	28.8	22.1	40.5	53.7	23.7	0.8	0.8	
	専業主婦・主夫	460	38.9	18.9	57.4	70.2	34.8	1.1	0.0	
	学生	68	17.6	17.6	19.1	35.3	10.3	0.0	1.5	
	無職	172	30.8	17.4	40.1	52.3	20.3	2.3	2.9	
	その他	13	46.2	46.2	46.2	46.2	15.4	0.0	0.0	
	未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	30.8	16.5	44.9	56.8	26.1	1.0	1.0
		既婚(離別・死別)	192	33.9	19.8	43.2	53.1	27.6	1.0	0.5
未婚		557	20.8	24.2	26.0	38.1	17.8	0.9	1.8	
子どもの有無		いる	1184	31.3	15.6	44.9	57.4	27.1	0.8	0.8
	いない	824	24.0	23.8	31.7	42.4	19.4	1.2	1.6	
子どもの年代	未就学児	177	20.9	15.3	33.3	48.6	17.5	0.6	0.0	
	小学生	90	22.2	18.9	43.3	55.6	23.3	0.0	1.1	
	中学生	28	21.4	7.1	28.6	53.6	14.3	3.6	0.0	
	高校生	33	30.3	15.2	36.4	57.6	39.4	3.0	0.0	
	専門学校・専修学校生	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	48.3	15.0	43.3	58.3	36.7	3.3	1.7	
	学校を卒業	485	38.6	15.9	53.6	64.1	33.6	0.4	1.2	
	同居者	一人暮らし	264	22.7	29.5	29.2	37.9	15.9	1.1	0.0
		家族等と同居	1744	29.2	17.4	41.1	53.3	25.2	0.9	1.3
専攻		理科系(どちらかといえば)	469	25.4	17.9	36.2	42.4	20.5	0.9	1.5
	文科系(どちらかといえば)	828	29.5	19.1	40.8	51.3	24.6	0.8	0.7	
	どちらともいえない	134	39.6	18.7	43.3	65.7	32.8	1.5	3.0	

③食品選択時に参照しているもの

- 食品選択の際には、「消費期限・賞味期限表示」(82.4%)、「食品表示(ラベル)」(70.4%)を参照している人が多い。

Q3. 食品選択の際に、あなたが参照しているものをお選び下さい(いくつでも)



- 「食品表示(ラベル)」「消費期限・賞味期限表示」「JAS マーク」は、男性よりも女性で、また、年齢が高いほど参照する人が多い。

Q3. 食品選択の際に、あなたが参照しているものをお選び下さい(いくつでも)

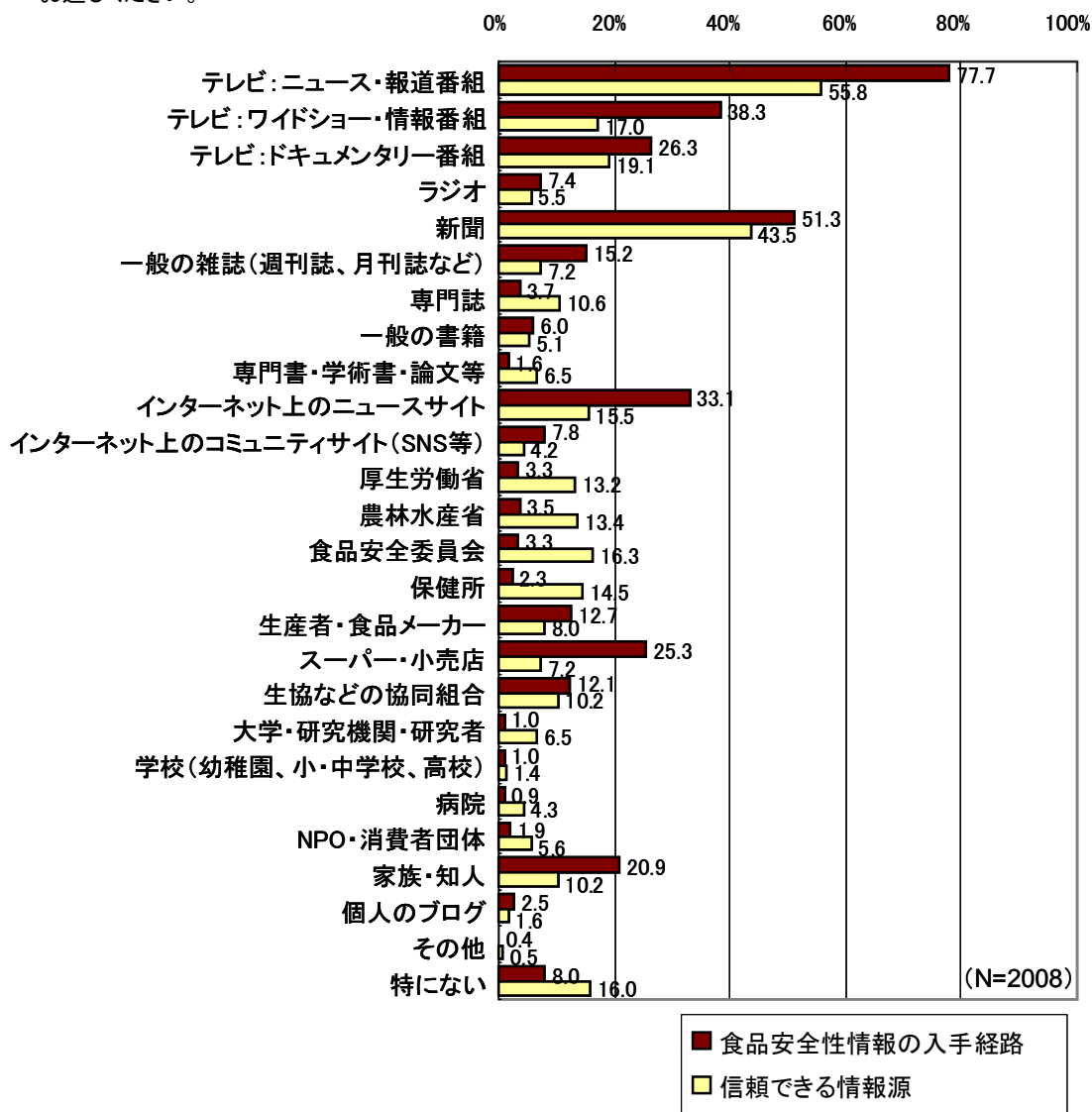
	(N)	Q3. 食品選択で参照するもの					
		食品表示 (ラベル)	消費期 限・賞味 期限表示	JASマー ク	小売店の POP・チ ラシ	その他	特にない
全体	2008	70.4	82.4	11.2	31.2	1.5	7.8
性別							
男性	998	61.8	75.7	9.3	24.4	0.7	11.6
女性	1010	78.8	89.1	13.0	37.9	2.3	4.1
年齢							
20代	369	63.4	77.8	7.6	30.9	0.3	12.5
30代	438	69.2	79.9	8.4	37.0	0.7	9.1
40代	374	69.8	81.8	10.2	35.6	2.1	6.7
50代	449	73.9	85.5	12.0	26.7	2.4	5.8
60代	378	74.9	86.8	17.7	25.9	1.9	5.3
性・年齢							
男性-20代	187	56.1	70.6	10.2	26.2	0.0	17.6
男性-30代	221	61.1	74.7	8.6	29.0	0.0	12.2
男性-40代	187	55.6	72.7	8.0	25.7	1.1	11.2
男性-50代	221	66.5	79.6	10.0	20.8	0.9	8.6
男性-60代	182	69.2	80.2	9.9	20.3	1.6	8.8
女性-20代	182	70.9	85.2	4.9	35.7	0.5	7.1
女性-30代	217	77.4	85.3	8.3	45.2	1.4	6.0
女性-40代	187	84.0	90.9	12.3	45.5	3.2	2.1
女性-50代	228	81.1	91.2	14.0	32.5	3.9	3.1
女性-60代	196	80.1	92.9	25.0	31.1	2.0	2.0
職業							
自営業・家族就業者・農林水産	157	69.4	79.6	10.2	30.6	3.2	10.2
正規就業者	745	61.9	76.8	9.5	23.5	0.8	10.9
非正規就業者	393	73.3	84.2	10.7	33.1	2.3	5.3
専業主婦・主夫	460	82.2	92.2	15.0	43.3	1.1	2.8
学生	68	64.7	79.4	7.4	30.9	0.0	11.8
無職	172	71.5	80.2	11.0	29.1	2.9	9.9
その他	13	76.9	84.6	15.4	30.8	0.0	7.7
未既婚							
既婚(配偶者あり)	1259	73.4	84.6	12.0	32.7	1.4	6.7
既婚(離別・死別)	192	72.9	85.4	14.6	22.9	4.2	4.2
未婚	557	62.7	76.5	8.1	30.7	0.7	11.7
子どもの有無							
いる	1184	73.1	84.9	12.7	31.2	1.9	6.2
いない	824	66.4	78.9	9.0	31.3	1.0	10.2
子どもの年代							
未就学児	177	70.6	82.5	4.5	35.6	0.6	7.3
小学生	90	70.0	82.2	8.9	24.4	1.1	10.0
中学生	28	67.9	75.0	0.0	25.0	0.0	14.3
高校生	33	72.7	81.8	18.2	39.4	0.0	9.1
専門学校・専修学校生	2	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	75.0	78.3	13.3	28.3	3.3	5.0
学校を卒業	485	75.7	86.8	17.7	26.4	2.7	5.4
同居者							
一人暮らし	264	67.0	79.9	8.0	27.3	0.8	7.2
家族等と同居	1744	70.9	82.8	11.6	31.8	1.6	7.9
専攻							
理科系(どちらかといえば)	469	66.5	79.3	8.5	24.1	1.1	9.4
文科系(どちらかといえば)	828	73.3	82.2	12.7	35.1	1.6	6.9
どちらともいえない	134	70.1	90.3	13.4	31.3	1.5	6.0

④食品に関する情報入手経路と信頼できる情報源

- 食品に関する情報源としては「テレビ：ニュース・報道番組」(77.7%)、「新聞」(51.3%)、「テレビ：ワイドショー・情報番組」(38.3%)、「インターネット上のニュースサイト」(33.1%)を利用する人が多い。
- 「テレビ：ニュース・報道番組」(55.8%)、「新聞」(43.5%)以外情報源の信頼性は全て低く評価され、信頼できる情報源としてあげた人が2割に満たない。
- 「食品安全委員会」を情報入手経路としてあげたのは3.3%であったが、16.3%が信頼できる情報源として評価している。

Q4.あなたは、食品の安全性についてどこから情報を入手していますか。(いくつでも)

Q5.食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。



Q4.あなたは、食品の安全性についてどこから情報を入手していますか。(いくつでも)

	(N)	Q4.食品安全性情報の入手経路												
		テレビ：ニュース・報道番組	テレビ：ワイドショー・情報番組	テレビ：ドキュメンタリー番組	ラジオ	新聞	一般の雑誌(週刊誌、月刊誌など)	専門誌	一般の書籍	専門書・学術書・論文等	インターネット上のニュースサイト	インターネット上のコミュニティサイト(SNS等)	厚生労働省	農林水産省
全体	2008	77.7	38.3	26.3	7.4	51.3	15.2	3.7	6.0	1.6	33.1	7.8	3.3	3.5
性別	998	72.5	31.5	25.9	8.3	49.9	14.6	4.5	5.6	1.9	33.7	7.4	3.6	4.0
	1010	82.9	45.1	26.7	6.4	52.7	15.7	3.0	6.4	1.4	32.5	8.1	3.1	3.0
年齢	369	68.8	35.0	20.3	4.1	28.5	15.2	4.9	6.2	3.3	31.4	11.1	1.9	1.6
	438	76.3	39.3	25.8	8.4	40.4	16.4	3.4	6.6	1.8	36.8	8.9	3.0	2.5
	374	75.1	39.6	25.1	6.1	53.2	16.3	4.5	7.2	0.8	35.0	7.2	2.1	3.2
	449	81.5	39.6	27.2	8.2	59.7	16.0	4.0	5.1	1.8	33.6	7.8	3.8	4.0
	378	86.2	37.8	32.8	9.5	74.3	11.6	1.9	5.0	0.5	27.8	3.7	5.8	6.1
性・年齢	187	64.7	29.4	20.3	7.0	25.1	12.3	6.4	6.4	4.8	31.0	10.7	2.1	1.6
	221	69.7	29.4	24.9	11.3	40.7	13.6	4.5	5.4	1.8	39.4	9.0	2.7	2.3
	187	72.2	37.4	26.7	8.0	51.3	17.1	6.4	6.4	0.5	35.8	7.5	1.1	2.1
	221	74.7	29.9	28.1	7.7	57.0	18.6	4.1	5.4	1.8	33.5	6.8	5.0	5.4
	182	81.9	31.9	29.1	7.1	76.4	11.0	1.1	4.4	0.5	27.5	2.7	7.1	8.8
	182	73.1	40.7	20.3	1.1	31.9	18.1	3.3	6.0	1.6	31.9	11.5	1.6	1.6
	217	82.9	49.3	26.7	5.5	40.1	19.4	2.3	7.8	1.8	34.1	8.8	3.2	2.8
	187	78.1	41.7	23.5	4.3	55.1	15.5	2.7	8.0	1.1	34.2	7.0	3.2	4.3
	228	88.2	49.1	26.3	8.8	62.3	13.6	3.9	4.8	1.8	33.8	8.8	2.6	2.6
	196	90.3	43.4	36.2	11.7	72.4	12.2	2.6	5.6	0.5	28.1	4.6	4.6	3.6
職業	157	75.2	34.4	32.5	17.2	59.9	15.9	6.4	8.3	2.5	37.6	12.1	7.0	7.0
	745	74.5	32.3	25.0	6.4	47.9	16.4	4.3	5.5	1.6	34.8	7.5	2.8	3.0
	393	75.3	37.9	24.4	5.3	46.3	13.5	4.3	7.4	1.3	33.6	9.7	1.8	2.0
	460	86.7	49.3	27.8	7.6	57.4	16.1	1.5	4.8	1.1	27.6	5.7	3.5	3.0
	68	60.3	27.9	8.8	5.9	29.4	11.8	10.3	11.8	7.4	32.4	8.8	2.9	2.9
	172	82.0	41.9	33.1	7.0	61.6	10.5	1.2	4.7	1.2	34.3	8.2	5.8	7.6
	13	84.6	61.5	30.8	7.7	53.8	38.5	0.0	0.0	0.0	46.2	15.4	0.0	0.0
未既婚	1259	79.8	39.3	26.0	7.5	57.7	15.6	3.1	5.6	1.3	30.7	6.0	3.9	4.1
	192	80.2	37.0	26.6	8.3	52.1	12.5	2.6	4.7	1.0	31.8	9.9	3.1	3.6
	557	72.2	36.6	26.9	6.6	36.6	15.3	5.6	7.4	2.7	38.8	11.1	2.2	2.2
子どもの有無	1184	80.6	39.9	26.3	7.8	57.9	14.4	2.5	5.2	1.1	30.6	5.4	3.8	4.1
	824	73.7	36.2	26.3	6.8	41.7	16.4	5.5	7.3	2.4	36.7	11.2	2.7	2.5
子どもの年代	177	73.4	36.2	19.8	4.5	37.9	15.8	2.3	4.5	0.6	35.6	9.0	1.1	1.1
	90	71.1	37.8	22.2	11.1	34.4	21.1	2.2	4.4	2.2	30.0	6.7	2.2	3.3
	28	85.7	25.0	10.7	3.6	42.9	10.7	0.0	3.6	0.0	28.6	0.0	3.6	0.0
	33	78.8	45.5	45.5	6.1	66.7	15.2	3.0	6.1	0.0	42.4	15.2	9.1	15.2
	2	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	60	78.3	40.0	25.0	3.3	71.7	20.0	8.3	10.0	3.3	31.7	10.0	3.3	1.7
	485	85.4	41.0	28.7	9.5	68.0	9.7	1.6	4.5	0.6	29.1	4.1	5.2	5.2
同居者	264	72.3	35.2	28.4	4.9	32.2	13.3	4.5	4.9	1.9	39.8	10.6	2.3	0.8
	1744	78.6	38.8	26.0	7.7	54.2	15.5	3.6	6.2	1.6	32.1	7.3	3.5	3.9
専攻	469	72.7	31.3	26.0	7.2	46.3	13.6	5.3	6.2	3.0	33.3	8.1	4.5	4.5
	828	78.7	39.1	25.8	7.0	54.1	18.4	3.9	6.9	1.3	36.2	8.2	3.5	3.9
	134	79.9	41.8	26.9	8.2	51.5	9.7	3.0	4.5	3.7	29.1	7.5	5.2	3.7

	(N)	Q4.食品安全性情報の入手経路												
		食品安全委員会	保健所	生産者・食品メーカー	スーパー・小売店	生協などの協同組合	大学・研究機関・研究者	学校(幼稚園・小・中学校・高校)	病院	NPO・消費者団体	家族・知人	個人のブログ	その他	特になし
全体	2008	3.3	2.3	12.7	25.3	12.1	1.0	1.0	0.9	1.9	20.9	2.5	0.4	8.0
性別	998	3.1	1.7	10.5	20.5	6.7	1.0	1.1	0.9	1.7	14.9	2.4	0.2	11.1
	1010	3.6	2.9	14.9	30.1	17.4	1.1	1.0	1.0	2.2	26.8	2.7	0.6	4.9
年齢	369	2.2	1.9	9.8	23.8	7.9	2.7	1.6	1.1	1.1	19.5	3.8	0.0	15.7
	438	1.8	1.6	11.9	28.8	10.7	0.7	1.4	0.7	1.6	21.7	3.4	0.2	8.9
	374	2.4	1.3	10.7	26.7	12.6	0.5	1.1	0.8	1.6	19.0	2.4	0.5	7.0
	449	4.2	3.3	16.0	22.7	14.3	0.4	0.9	0.9	2.0	20.7	2.0	0.9	5.8
	378	6.1	3.2	14.6	24.6	14.8	1.1	0.3	1.3	3.4	23.5	1.1	0.3	2.9
性・年齢	187	2.7	1.1	9.6	18.2	5.9	2.7	2.1	1.1	1.6	13.4	3.7	0.0	19.3
	221	0.9	0.9	11.8	23.1	4.1	0.5	0.9	0.5	1.8	15.8	3.6	0.0	13.6
	187	1.6	0.5	7.5	21.4	6.4	1.1	0.5	1.1	0.0	15.5	1.1	0.0	10.2
	221	5.9	4.1	11.3	15.8	7.7	0.5	1.4	0.9	2.3	15.4	2.7	0.9	9.0
	182	4.4	1.6	12.1	24.7	9.9	0.5	0.5	1.1	2.7	14.3	0.5	0.0	3.3
	182	1.6	2.7	9.9	29.7	9.9	2.7	1.1	1.1	0.5	25.8	3.8	0.0	12.1
	217	2.8	2.3	12.0	34.6	17.5	0.9	1.8	0.9	1.4	27.6	3.2	0.5	4.1
	187	3.2	2.1	13.9	32.1	18.7	0.0	1.6	0.5	3.2	22.5	3.7	1.1	3.7
	228	2.6	2.6	20.6	29.4	20.6	0.4	0.4	0.9	1.8	25.9	1.3	0.9	2.6
	196	7.7	4.6	16.8	24.5	19.4	1.5	0.0	1.5	4.1	32.1	1.5	0.5	2.6
職業	157	5.1	7.6	15.9	22.9	12.1	1.9	1.3	1.9	5.1	22.9	3.8	0.6	8.3
	745	3.0	0.9	10.7	20.3	7.7	0.5	0.9	0.7	1.5	15.6	1.7	0.1	9.5
	393	2.8	2.0	12.0	29.8	15.3	0.3	0.5	0.3	2.3	20.4	4.3	0.8	7.4
	460	3.5	2.8	15.7	31.1	17.0	0.4	1.3	1.5	1.5	31.5	1.5	0.4	4.1
	68	5.9	1.5	11.8	23.5	7.4	11.8	2.9	1.5	1.5	14.7	2.9	0.0	23.5
	172	3.5	2.9	12.2	25.0	11.0	1.7	0.6	1.2	1.7	17.4	2.3	0.6	7.0
	13	0.0	0.0	15.4	23.1	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0	23.1	15.4	0.0	0.0
未既婚	1259	4.1	2.6	13.7	26.9	14.1	0.5	1.3	0.9	2.0	23.4	1.7	0.5	6.0
	192	2.6	1.6	11.5	20.8	16.7	1.6	0.0	0.5	3.1	17.7	3.1	0.5	7.8
	557	1.8	1.8	11.0	23.3	6.1	2.2	0.9	1.3	1.4	16.3	4.3	0.2	12.6
子どもの有無	1184	4.0	2.4	13.3	26.8	16.6	0.6	1.3	0.7	2.2	22.9	1.4	0.5	6.2
	824	2.4	2.2	11.9	23.3	5.7	1.7	0.7	1.3	1.6	18.1	4.2	0.2	10.6
子どもの年代	177	0.6	0.6	11.3	31.6	16.4	0.0	1.1	0.6	0.6	28.8	1.7	0.0	8.5
	90	1.1	2.2	5.6	22.2	15.6	0.0	1.1	0.0	5.6	17.8	1.1	0.0	10.0
	28	3.6	3.6	10.7	35.7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	0.0	0.0	3.6
	33	12.1	6.1	18.2	27.3	33.3	3.0	3.0	3.0	12.1	27.3	3.0	3.0	9.1
	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60	1.7	5.0	16.7	21.7	26.7	0.0	0.0	0.0	3.3	20.0	1.7	1.7	5.0
	485	5.2	2.5	14.0	25.4	13.4	0.8	0.4	0.8	2.3	23.1	1.4	0.4	4.1
同居者	264	0.8	1.9	9.1	23.5	8.0	1.5	0.4	1.1	1.5	12.9	4.2	0.4	13.6
	1744	3.7	2.4	13.2	25.6	12.7	1.0	1.1	0.9	2.0	22.1	2.3	0.4	7.1
専攻	469	4.3	2.8	12.6	20.7	9.6	1.9	1.7	1.3	2.6	17.5	2.3	0.2	10.7
	828	3.1	2.3	12.0	27.2	13.8</								

Q5.食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。

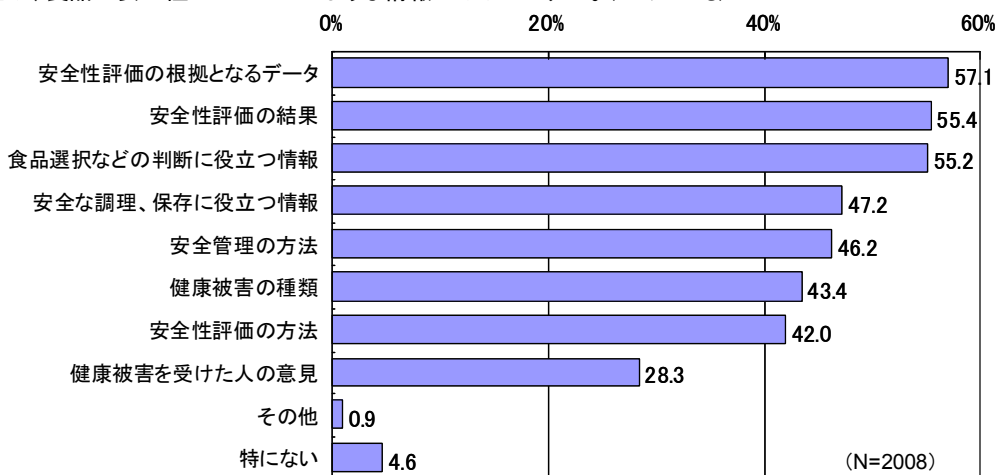
		(N)	Q5.信頼できる情報源												
			テレビ：ニュース・報道番組	テレビ：ワイドショー・情報番組	テレビ：ドキュメンタリー番組	ラジオ	新聞	一般の雑誌(週刊誌、月刊誌など)	専門誌	一般の書籍	専門書・学術書・論文等	インターネット上のニュースサイト	インターネット上のコミュニティサイト(SNS等)	厚生労働省	農林水産省
性別		2008	55.8	17.0	19.1	5.5	43.5	7.2	10.6	5.1	6.5	15.5	4.2	13.2	13.4
男性		998	53.8	17.1	19.7	6.7	43.0	8.3	11.6	5.8	7.8	18.4	4.4	15.5	14.9
女性		1010	57.7	16.9	18.5	4.3	44.0	6.0	9.5	4.5	5.2	12.7	4.0	10.9	11.9
年齢															
20代		369	46.1	16.8	13.3	4.1	29.3	8.4	11.1	7.0	8.4	13.3	6.2	14.9	14.6
30代		438	53.2	17.8	18.5	5.9	33.1	6.8	10.0	5.9	7.3	15.3	3.4	11.9	11.2
40代		374	50.5	13.9	16.0	5.6	42.8	8.8	10.7	5.9	6.1	15.2	4.5	13.4	13.4
50代		449	61.5	17.1	21.2	5.6	49.2	6.2	13.4	3.6	7.1	17.6	4.7	14.3	14.3
60代		378	66.7	19.3	26.2	6.1	63.2	5.8	7.1	3.4	3.4	15.9	2.1	11.6	13.8
性・年齢															
男性・20代		187	46.5	18.7	15.5	7.5	28.3	9.6	11.8	9.1	11.2	20.3	7.0	17.1	16.0
男性・30代		221	49.3	14.5	17.2	6.8	36.7	6.8	13.1	5.0	7.2	19.0	4.1	12.7	12.2
男性・40代		187	48.7	16.0	18.2	5.9	39.6	11.8	11.2	8.6	8.0	17.1	4.3	15.5	14.4
男性・50代		221	60.6	16.3	23.1	7.7	45.7	7.7	14.0	3.2	7.2	20.4	4.5	17.6	17.2
男性・60代		182	63.7	20.9	24.7	5.5	65.9	6.0	7.1	3.8	5.5	14.8	2.2	14.8	14.8
女性・20代		182	45.6	14.8	11.0	0.5	30.2	7.1	10.4	4.9	5.5	6.0	5.5	12.6	13.2
女性・30代		217	57.1	21.2	19.8	5.1	29.5	6.9	6.9	6.9	7.4	11.5	2.8	11.1	10.1
女性・40代		187	52.4	11.8	13.9	5.3	46.0	5.9	10.2	3.2	4.3	13.4	4.8	11.2	12.3
女性・50代		228	62.3	18.0	19.3	3.5	52.6	4.8	12.7	3.9	7.0	14.9	4.8	11.0	11.4
女性・60代		196	69.4	17.9	27.6	6.6	60.7	5.6	7.1	3.1	1.5	16.8	2.0	8.7	12.8
職業															
自営業・家族就業者・農林水産		157	53.5	15.9	24.8	8.3	42.7	8.3	14.6	8.3	8.3	21.0	5.7	13.4	14.6
正職就業者		745	54.1	15.8	18.9	5.1	41.6	9.3	11.9	5.4	7.5	19.2	4.4	16.0	14.8
非正規就業者		393	53.4	16.3	15.3	4.6	39.9	4.1	9.4	5.6	5.1	15.3	4.3	10.4	10.4
専業主婦・主夫		460	63.0	20.0	19.1	4.8	48.0	6.7	8.3	3.3	5.0	9.6	2.6	10.0	10.7
学生		68	30.9	11.8	13.2	5.9	30.9	5.9	13.2	7.4	13.2	5.9	4.4	20.6	26.5
無職		172	61.0	18.6	23.8	7.6	53.5	5.2	7.0	4.1	5.2	14.0	4.1	13.4	16.3
その他		13	53.8	23.1	46.2	15.4	38.5	15.4	30.8	7.7	7.7	30.8	23.1	7.7	0.0
未既婚															
既婚(配偶者あり)		1259	58.8	17.2	19.5	6.4	48.3	7.4	10.4	4.6	6.1	14.1	3.3	13.3	12.9
既婚(離別・死別)		192	60.4	18.8	22.9	3.1	42.7	5.2	7.3	2.6	3.1	19.3	5.2	6.8	10.4
未婚		557	47.4	16.2	16.9	4.1	32.9	7.4	12.0	7.2	8.6	17.6	5.9	15.1	15.6
子どもの有無															
いる		1184	59.4	17.2	19.5	5.8	48.0	6.7	9.6	3.9	5.1	13.6	2.7	12.2	12.4
いない		824	50.6	16.7	18.6	5.0	37.0	7.9	11.9	6.9	8.6	18.1	6.3	14.6	14.8
子どもの年代															
未就学児		177	53.1	17.5	16.9	5.6	27.1	7.3	7.9	4.5	3.4	13.6	1.7	10.7	8.5
小学生		90	51.1	20.0	16.7	7.8	35.6	8.9	13.3	7.8	11.1	15.6	5.6	13.3	12.2
中学生		28	42.9	7.1	3.6	0.0	32.1	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0
高校生		33	66.7	21.2	27.3	9.1	54.5	12.1	18.2	9.1	9.1	24.2	3.0	21.2	24.2
専門学校・専修学校生		2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短大・高等専門学校・大学・大学		60	51.7	11.7	15.0	3.3	60.0	15.0	20.0	6.7	10.0	10.0	10.0	8.3	11.7
学校を卒業		485	64.3	17.7	22.7	5.4	57.9	4.7	8.0	2.9	3.3	14.8	2.5	12.2	13.6
同居者															
一人暮らし		264	52.3	16.3	20.8	3.0	29.9	5.7	12.1	4.9	8.0	19.3	6.1	14.0	14.4
家族等と同居		1744	56.3	17.1	18.9	5.8	45.5	7.4	10.3	5.2	6.3	15.0	3.9	13.1	13.2
専攻															
理系(どちらかといえば)		469	52.2	16.0	17.9	6.0	40.3	6.4	12.2	5.3	9.2	16.0	4.1	15.4	15.8
文系(どちらかといえば)		828	54.8	13.3	18.8	4.6	47.0	8.2	11.5	5.4	7.5	16.5	4.0	12.4	13.5
どちらともいえない		134	52.2	18.7	17.9	6.7	35.8	3.7	11.9	5.2	6.0	11.9	6.0	9.7	10.4

		(N)	Q5.信頼できる情報源													
			食品安全委員会	保健所	生産者・食品メーカー	スーパー・小売店	生協などの協同組合	大学・研究機関・研究者	学校(幼稚園・小・中学校、高校)	病院	NPO・消費者団体	家族・知人	個人のブログ	その他	特にない	
性別		2008	16.3	14.5	8.0	7.2	10.2	6.5	1.4	4.3	5.6	10.2	1.6	0.5	16.0	
男性		998	15.8	14.9	7.0	6.5	6.5	6.6	1.2	4.3	5.5	8.0	1.7	0.4	16.4	
女性		1010	16.7	14.2	8.9	7.8	13.9	6.3	1.7	4.4	5.6	12.4	1.6	0.6	15.5	
年齢																
20代		369	14.1	11.1	10.3	6.5	6.2	7.6	0.8	4.9	3.5	9.8	2.7	0.0	22.2	
30代		438	11.6	12.8	6.2	6.2	8.4	3.9	2.3	5.5	3.0	11.9	3.0	0.7	18.7	
40代		374	14.7	12.3	6.1	7.0	9.6	5.3	1.6	3.5	5.9	8.3	0.5	0.5	18.2	
50代		449	18.7	17.8	7.8	8.5	12.2	8.0	1.8	3.6	6.9	9.4	1.1	0.7	11.6	
60代		378	22.5	18.3	9.8	7.7	14.3	7.7	0.5	4.2	8.7	11.6	0.8	0.5	9.8	
性・年齢																
男性・20代		187	14.4	12.3	10.7	4.8	4.3	8.6	0.5	4.8	4.8	10.7	2.1	0.0	21.9	
男性・30代		221	12.2	14.0	4.5	5.9	4.1	3.6	1.4	4.1	2.7	6.8	3.2	0.5	18.6	
男性・40代		187	11.8	10.7	3.7	6.4	6.4	5.9	1.1	3.7	5.3	7.0	1.1	0.0	18.2	
男性・50代		221	18.6	19.0	7.2	7.2	6.8	8.6	2.3	4.5	5.9	7.7	1.4	0.9	12.7	
男性・60代		182	22.5	18.1	9.3	8.2	11.5	6.6	0.5	4.4	9.3	8.2	0.5	0.5	11.0	
女性・20代		182	13.7	9.9	9.9	8.2	8.2	6.6	1.1	4.9	2.2	8.8	3.3	0.0	22.5	
女性・30代		217	11.1	11.5	7.8	6.5	12.9	4.1	3.2	6.9	3.2	17.1	2.8	0.9	18.9	
女性・40代		187	17.6	13.9	8.6	7.5	12.8	4.8	2.1	3.2	6.4	9.6	0.0	1.1	18.2	
女性・50代		228	18.9	16.7	8.3	9.6	17.5	7.5	1.3	2.6	7.9	11.0	0.9	0.4	10.5	
女性・60代		196	22.4	18.4	10.2	7.1	16.8	8.7	0.5	4.1	8.2	14.8	1.0	0.5	8.7	
職業																
自営業・家族就業者・農林水産		157	15.3	15.3	7.6	7.6	12.7	8.3	3.8	5.1	9.6	10.2	1.9	1.3	17.2	
正職就業者		745	14.0	14.6	7.2	5.9	7.0	6.4	1.1	4.7	4.0	7.1	1.5	0.1	15.0	
非正規就業者		393	15.0	10.7	6.1	5.9	12.0	4.1	0.3	1.3	7.1	12.0	2.5	0.8	17.0	
専業主婦・主夫		460	18.0	15.4	8.9	8.9	13.7	7.0	2.6	5.4	4.6	13.9	0.4	0.4	14.1	
学生		68	20.6	11.8	10.3	5.9	4.4	14.7	0.0	5.9	7.4	7.4	1.5	0.0	30.9	
無職		172	23.3	19.8	11.0	9.9	9.3	5.8	0.0	4.1	5.8	9.3	2.3	1.2	16.3	
その他		13	23.1	30.8	23.1	23.1	30.8	7.7	15.4	23.1	23.1	30.8	15.4	0.0	7.7	
未既婚																
既婚(配偶者あり)		1259	17.3	15.1	8.0	8.2	12.1	6.0	1.6	4.1	5.3	11.0	1.0	0.5	13.3	
既婚(離別・死別)		192	16.1	14.1	8.9	5.2	15.6	4.7	0.0	2.1	7.8	8.3	1.6	1.0	16.7	
未婚		557	14.0	13.5	7.5	5.6	4.1	8.3	1.6	5.6	5.4	9.0	3.2	0.4	21.9	
子どもの有無																
いる		1184	16.6													

⑤食品の安全性に関して欲しい情報

- 食品の安全性に関しては「安全性評価の根拠となるデータ」(57.1%)、「安全性評価の結果」(55.4%)のように安全性評価に関する情報(根拠と結果)と「食品選択などの判断に役立つ情報」(47.2%)が欲しいと考える人が多い。

Q14.あなたは、食品の安全性についてどのような情報がほしいですか。(いくつでも)



Q14.あなたは、食品の安全性についてどのような情報がほしいですか。(いくつでも)

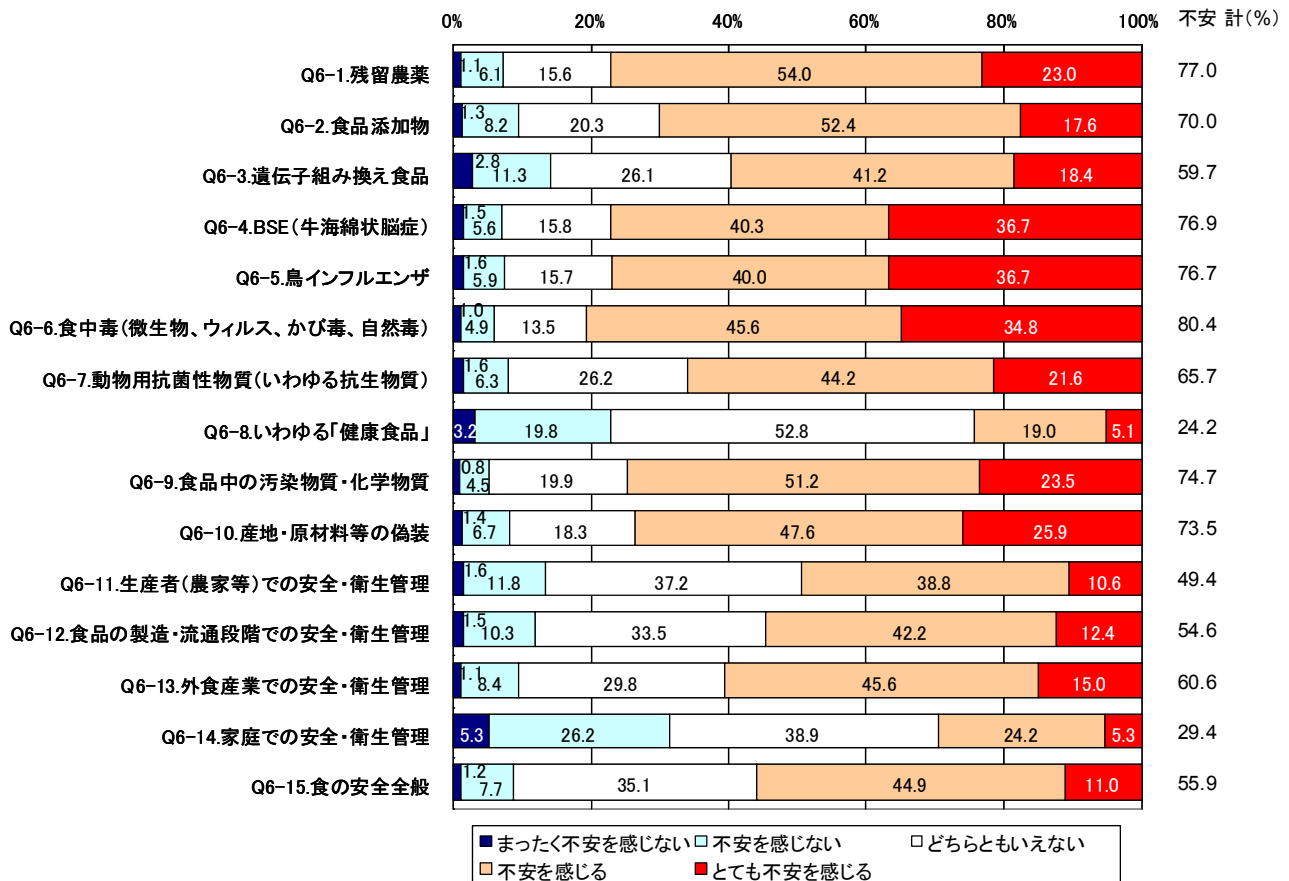
	(N)	Q14. 食品安全性でほしい情報									
		安全性評価の根拠となるデータ	安全性評価の方法	安全性評価の結果	安全管理の方法	健康被害の種類	健康被害を受けた人の意見	食品選択などの判断に役立つ情報	安全な調理、保存に役立つ情報	その他	特にない
全体	2008	57.1	42.0	55.4	46.2	43.4	28.3	55.2	47.2	0.9	4.6
性別											
男性	998	55.0	43.0	54.6	42.7	40.4	24.7	47.3	38.6	1.1	6.3
女性	1010	59.1	41.1	56.1	49.7	46.4	31.9	63.0	55.6	0.8	3.0
年齢											
20代	369	58.3	45.3	53.1	47.7	42.0	30.6	42.5	39.8	0.3	8.1
30代	438	54.8	45.9	59.6	45.4	47.7	33.8	52.3	49.1	1.4	5.5
40代	374	54.3	39.3	53.7	48.1	42.2	30.2	61.0	50.0	1.1	3.2
50代	449	62.4	42.1	55.7	43.4	44.1	24.1	57.2	49.0	1.1	3.3
60代	378	55.0	37.0	54.0	47.1	40.2	23.0	62.7	47.1	0.8	3.2
性・年齢											
男性-20代	187	58.8	48.1	55.6	45.5	40.1	25.7	32.1	29.9	0.0	9.6
男性-30代	221	55.7	45.2	58.4	41.6	41.6	31.2	45.2	41.2	1.8	7.7
男性-40代	187	51.9	40.1	51.9	44.9	41.2	27.8	51.9	39.0	0.5	5.3
男性-50代	221	60.6	44.8	52.9	41.6	41.6	22.2	48.9	38.5	1.4	5.4
男性-60代	182	46.7	35.7	53.8	40.1	36.8	15.9	58.8	44.0	1.6	3.3
女性-20代	182	57.7	42.3	50.5	50.0	44.0	35.7	53.3	50.0	0.5	6.6
女性-30代	217	53.9	46.5	60.8	49.3	53.9	36.4	59.4	57.1	0.9	3.2
女性-40代	187	56.7	38.5	55.6	51.3	43.3	32.6	70.1	61.0	1.6	1.1
女性-50代	228	64.0	39.5	58.3	45.2	46.5	25.9	65.4	59.2	0.9	1.3
女性-60代	196	62.8	38.3	54.1	53.6	43.4	29.6	66.3	50.0	0.0	3.1
職業											
自営業・家族就業者・農林水産	157	59.9	44.6	56.1	52.2	46.5	36.3	56.7	48.4	2.5	6.4
正規就業者	745	57.4	44.6	56.2	43.6	41.6	26.3	46.3	39.1	0.5	5.2
非正規就業者	393	56.5	38.2	49.9	39.7	44.5	26.0	53.7	47.8	1.0	4.3
専業主婦・主夫	460	59.3	39.1	56.1	52.8	45.4	32.4	67.6	60.0	0.9	2.2
学生	68	54.4	48.5	61.8	52.9	44.1	27.9	48.5	35.3	0.0	7.4
無職	172	48.8	41.9	57.6	44.8	39.5	23.3	62.8	47.7	1.7	7.0
その他	13	61.5	53.8	76.9	69.2	53.8	46.2	84.6	76.9	0.0	0.0
未既婚											
既婚(配偶者あり)	1259	56.4	40.4	55.2	47.3	43.2	28.2	58.1	49.6	0.7	3.4
既婚(離別・死別)	192	57.3	40.6	48.4	39.6	39.6	25.5	55.7	39.1	2.1	4.2
未婚	557	58.5	46.1	58.2	46.0	45.2	29.6	48.3	44.5	1.1	7.5
子どもの有無											
いる	1184	56.9	41.4	55.7	45.9	42.4	27.5	57.1	46.7	0.8	3.7
いない	824	57.3	43.0	54.9	46.6	44.9	29.5	52.4	47.8	1.2	5.9
子どもの年代											
未就学児	177	55.9	44.6	65.0	49.2	46.3	33.3	52.5	49.2	0.6	4.0
小学生	90	57.8	40.0	62.2	45.6	38.9	32.2	57.8	46.7	0.0	4.4
中学生	28	46.4	39.3	53.6	57.1	46.4	32.1	57.1	42.9	0.0	3.6
高校生	33	57.6	48.5	48.5	42.4	51.5	36.4	60.6	54.5	3.0	9.1
専門学校・専修学校生	2	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	73.3	40.0	58.3	51.7	40.0	23.3	65.0	41.7	3.3	1.7
学校を卒業	485	56.7	39.4	54.4	45.8	40.6	22.9	62.7	47.8	0.4	2.3
同居者											
一人暮らし	264	58.0	48.5	58.0	44.3	45.5	26.1	51.5	43.2	1.5	6.4
家族等と同居	1744	56.9	41.1	55.0	46.5	43.1	28.7	55.7	47.8	0.9	4.4
専攻											
理料系(どちらかといえば)	469	54.4	43.1	57.4	45.4	43.1	24.5	50.1	45.4	1.7	6.2
文科系(どちらかといえば)	828	59.9	43.7	56.4	45.9	44.0	29.1	57.6	45.9	0.6	3.1
どちらともいえない	134	62.7	45.5	63.4	52.2	47.0	38.1	59.7	53.7	1.5	3.0

3) 食に関する認知と行動

①食品に関するリスク認知

- 食品に関する危害要因に対する不安感についてたずねたところ、不安を感じる人が多かったのは「食中毒(微生物、ウイルス、かび毒、自然毒)」(80.4%)、「残留農薬」(77.0%)、「BSE(牛海綿状脳症)」(76.9%)、「鳥インフルエンザ」(76.7%)。
- 「食の安全全般」について不安を感じているのは回答者の 55.9%であった。

Q6.あなたは以下にあげるものに対して、普段、どの程度不安を感じていますか。(それぞれひとつだけ)



- 下表は、各危害要因に対する不安の大きさを平均スコア(不安なほど大きな値となる)の順で示したものである。
- 全ての危害要因について、男性より女性の方が不安度が高い。
- 多くの危害要因について、年齢が上がるほど不安度が高くなる傾向があるが、「家庭での安全・衛生管理」については50代、60代の不安度は低めである。

Q6.あなたは以下にあげるものに対して、普段、どの程度不安を感じていますか。(それぞれひとつだけ) (※平均スコア)

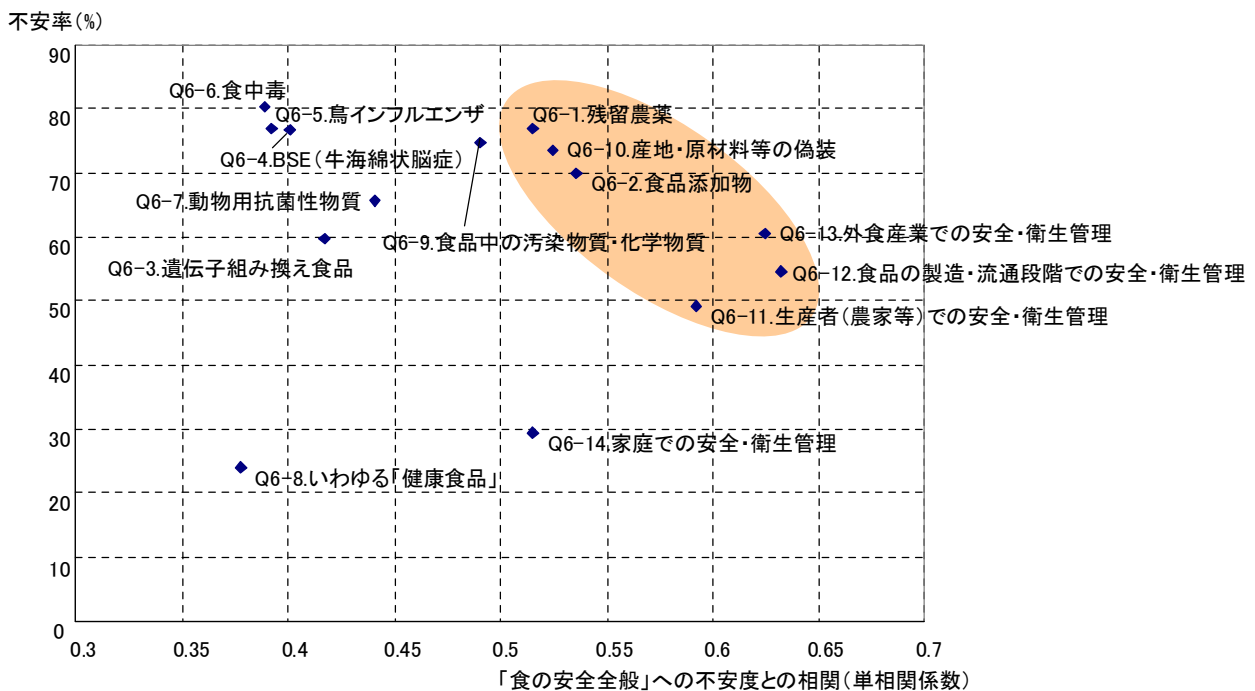
	性別		年齢					
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
食中毒(微生物、ウイルス、かび毒、自然毒)	5.4	4.9	5.9	5.1	5.3	5.4	5.4	5.9
BSE(牛海綿状脳症)	5.3	4.4	6.1	4.4	4.6	5.5	5.7	6.0
鳥インフルエンザ	5.2	4.5	5.9	4.5	4.6	5.3	5.4	6.3
食品中の汚染物質・化学物質	4.6	4.1	5.1	3.9	4.1	4.5	5.0	5.4
残留農薬	4.6	3.8	5.3	3.8	4.2	4.9	4.9	5.1
産地・原材料等の偽装	4.5	3.8	5.2	3.3	4.3	4.6	4.6	5.6
動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	3.9	3.3	4.5	2.8	3.4	3.9	4.4	5.0
食品添加物	3.8	3.1	4.6	2.8	3.5	4.0	4.2	4.7
外食産業での安全・衛生管理	3.3	2.5	4.0	2.8	3.0	3.5	3.4	3.6
遺伝子組み換え食品	3.1	2.2	3.9	1.7	2.5	3.7	3.4	4.1
食品の製造・流通段階での安全・衛生管理	2.7	1.9	3.5	1.9	2.4	3.0	3.0	3.2
生産者(農家等)での安全・衛生管理	2.3	1.7	2.8	1.2	2.0	2.4	2.7	3.1
いわゆる「健康食品」	0.2	-0.2	0.5	-0.7	-0.4	0.1	0.6	1.0
家庭での安全・衛生管理	-0.1	-0.5	0.3	0.1	0.2	0.4	-0.4	-0.9
食の安全全般	2.8	2.1	3.6	2.4	2.8	3.1	2.9	3.0

※平均スコア： 回答内容について、以下の配点で平均を求めたもの。

とても不安を感じる	+10
不安を感じる	+5
どちらともいえない	0
不安を感じない	-5
まったく不安を感じない	-10

- 下図は、各危害要因と「食の安全全般」への不安度の関係を図示したものである。
- 縦軸(Y 軸)は、各危害要因について「不安(「やや」を含む)」と回答した人の割合(不安率)、横軸(X 軸)は各危害要因の不安度と「食の安全全般」に対する不安度との相関関係(単相関係数)をとったものである。
- 点が上にあるほど、不安だという人が大きく、右にあるほど「食の安全全般」に対する不安度への寄与が大きい。
- 「残留農薬」「産地・原材料等の偽装」「食品添加物」「外食産業での安全・衛生管理」「食品の製造・流通段階での安全・衛生管理」「生産者(農家等)での安全・衛生管理」が、不安率が高くかつ食の安全全般に対する不安への寄与が大きい。

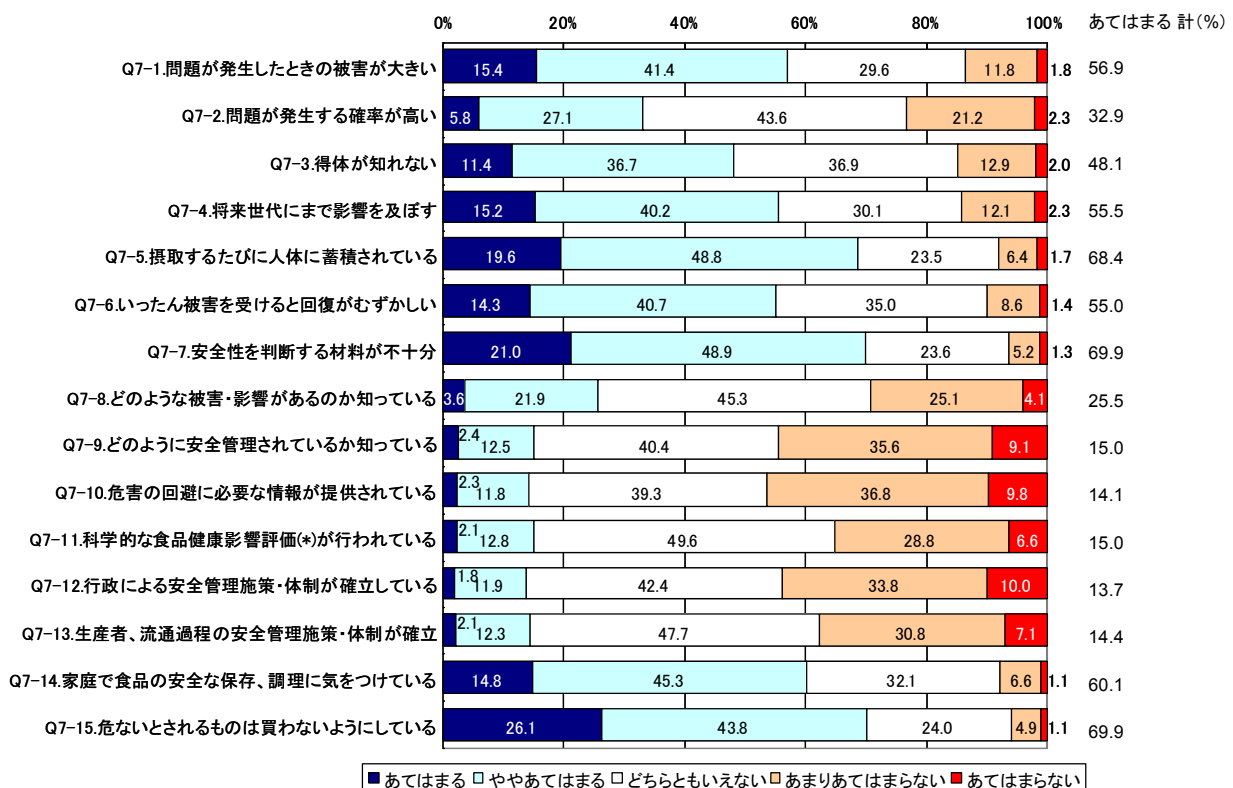
各危害要因と「食の安全全般」との関係



②食品の安全性に関する認知と行動

- 食の安全に関する認知や行動についてたずねた。
- 発生確率が高いと評価する人は多くない(32.9%)が問題が発生したときの被害が大きいと考える人が多い(56.9%)。
- (対象となる危害要因は明確でないが)「得体が知れない」(48.1%)、「将来世代にまで影響」(55.5%)、「蓄積性がある」(68.4%)などの否定的イメージを持つ人が多い、いったん被害を受けると回復が難しい(55.5%)と考える人が多い。
- 被害・影響の内容の認知(25.5%)、安全管理についての認知(15.0%)や安全管理施策・体制への信頼(「行政による施策・体制が確立」(13.7%)、「生産者・流通過程での施策・体制が確立」(14.4%))は低く、また、安全性を判断する材料が不十分(69.9%)とする人が多い。
- 家庭での食品の安全な保存、調理に気をつける(60.1%)や危ないとされるものは買わないなどの回避行動(69.9%)をとる人が多い。

Q7. 食の安全について、あなたの認知や行動に近いものをお選び下さい。



* 食品健康影響評価

食品が健康に悪い影響を与える可能性と程度を科学的に評価することです。リスク評価ともいいます。農薬の残留基準のような基準値を決める根拠にもなります。

- 「危ないとされるものは買わない」「家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている」などの回避行動や「安全性を判断する材料が不十分」「摂取するたびに人体に蓄積されている」など、ハザードに対するネガティブな印象は、多くの項目で男性よりも女性、若年よりも高齢層で高く示されている。

Q7.食の安全について、あなたの認識や行動に近いものをお選び下さい。(※平均スコア)

	性別		年齢					
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
危ないとされるものは買わないようにしている	4.4	3.8	5.1	3.3	4.1	4.3	5.0	5.6
安全性を判断する材料が不十分	4.2	3.8	4.5	3.9	3.9	4.3	4.2	4.5
摂取するたびに人体に蓄積されている	3.9	3.4	4.4	3.3	3.5	3.8	4.4	4.5
家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている	3.3	2.5	4.1	2.3	2.8	3.3	3.8	4.4
いったん被害を受けると回復がむずかしい	2.9	2.7	3.1	1.9	2.6	2.9	3.3	3.6
問題が発生したときの被害が大きい	2.8	2.8	2.9	2.4	2.7	3.0	2.9	3.2
将来世代にまで影響を及ぼす	2.7	2.1	3.3	1.8	2.3	2.7	3.0	3.7
得体が知れない	2.1	1.9	2.3	1.8	2.1	2.4	2.0	2.4
問題が発生する確率が高い	0.6	0.4	0.9	0.0	0.4	0.9	0.6	1.3
どのような被害・影響があるのか知っている	-0.2	-0.3	-0.2	-0.7	-0.4	-0.1	0.1	-0.1
科学的な食品健康影響評価(*)が行われている	-1.2	-1.2	-1.3	-1.2	-1.3	-1.3	-0.8	-1.7
生産者、流通過程の安全管理施策・体制が確立	-1.4	-1.4	-1.4	-1.3	-1.6	-1.4	-1.1	-1.8
どのように安全管理されているか知っている	-1.8	-1.7	-1.9	-2.2	-1.7	-1.8	-1.7	-1.7
行政による安全管理施策・体制が確立している	-1.9	-2.0	-1.8	-1.8	-1.9	-2.1	-1.6	-2.3
危害の回避に必要な情報が提供されている	-2.0	-2.0	-2.0	-2.0	-2.1	-1.8	-1.7	-2.4

※平均スコア： 回答内容について、以下の配点で平均を求めたもの。

あてはまる	+10
ややあてはまる	+5
どちらともいえない	0
あまりあてはまらない	-5
あてはまらない	-10

③食品の安全性に関する認知と行動の構造

- 食品の安全性に関する認知と行動の構造を把握するため、因子分析を行ったところ、下表のような因子が出現した。
- 食品の安全性に関する認知と行動は、危害要因に対する認知(「危害」因子とする)、安全管理施策・体制など(「管理」因子とする)、選択購入・調理などの行動(「回避」因子とする)、安全管理や影響などに対する知識(「知識」因子とする)によって構成されていることがうかがえる。

因子名	因子に影響する項目
因子1	Q7-3.得体が知れない
	Q7-5.摂取するたびに人体に蓄積されている
	Q7-4.将来世代にまで影響を及ぼす
	Q7-6.いったん被害を受けると回復がむずかしい
	Q7-2.問題が発生する確率が高い
	Q7-1.問題が発生したときの被害が大きい
	Q7-7.安全性を判断する材料が不十分
因子2	Q7-12.行政による安全管理施策・体制が確立している
	Q7-13.生産者、流通過程の安全管理施策・体制が確立
	Q7-11.科学的な食品健康影響評価(*)が行われている
	Q7-10.危害の回避に必要な情報が提供されている
因子3	Q7-15.危ないとされるものは買わないようにしている
	Q7-14.家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている
因子4	Q7-9.どのように安全管理されているか知っている
	Q7-8.どのような被害・影響があるのか知っている

	因子1	因子2	因子3	因子4
Q7-3.得体が知れない	0.7565	0.0115	0.0670	0.0012
Q7-5.摂取するたびに人体に蓄積されている	0.7488	-0.0603	0.2533	0.0344
Q7-4.将来世代にまで影響を及ぼす	0.7371	-0.0117	0.1635	0.0968
Q7-6.いったん被害を受けると回復がむずかしい	0.7029	0.0091	0.2160	0.0915
Q7-2.問題が発生する確率が高い	0.6789	0.1649	0.0069	0.1263
Q7-1.問題が発生したときの被害が大きい	0.6784	0.0607	0.0998	0.0051
Q7-7.安全性を判断する材料が不十分	0.6138	-0.1489	0.2823	0.0177
Q7-12.行政による安全管理施策・体制が確立している	-0.0245	0.9116	0.0299	0.0657
Q7-13.生産者、流通過程の安全管理施策・体制が確立	-0.0055	0.7943	0.0777	0.0799
Q7-11.科学的な食品健康影響評価(*)が行われている	0.0651	0.7396	0.0235	0.2684
Q7-10.危害の回避に必要な情報が提供されている	-0.0036	0.7084	-0.0285	0.3973
Q7-15.危ないとされるものは買わないようにしている	0.2894	0.0163	0.7548	0.0378
Q7-14.家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている	0.2363	0.0924	0.6499	0.0903
Q7-9.どのように安全管理されているか知っている	0.0228	0.5147	0.0240	0.7329
Q7-8.どのような被害・影響があるのか知っている	0.2077	0.2960	0.1562	0.6424

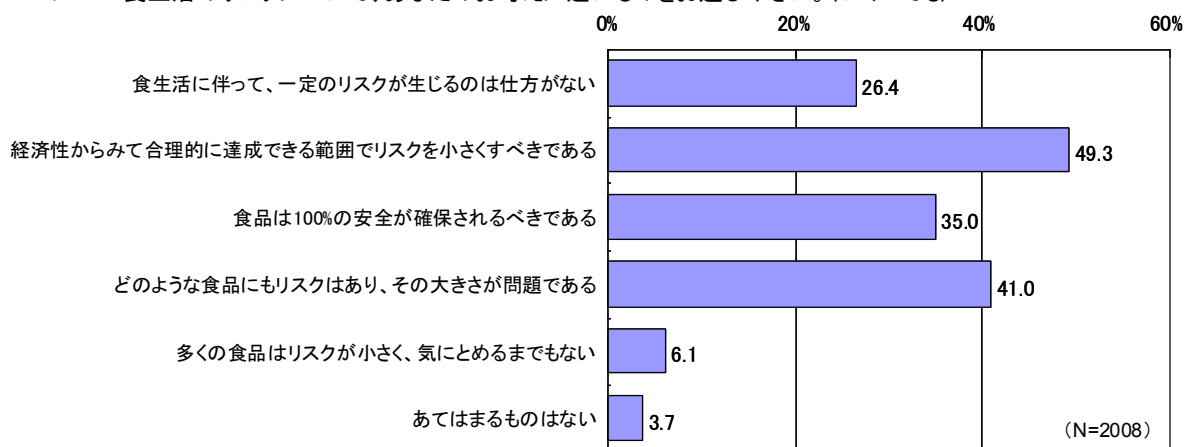
固有値(回転後)バリマックス法

因子 No.	二乗和	寄与率(%)	累積寄与率(%)
1	3.66	24.38	24.38
2	2.93	19.53	43.90
3	1.26	8.38	52.29
4	1.24	8.23	60.52

④食生活のリスクについての考え方

- 「多くの食品はリスクは小さく、気にとめるまでもない」と回答したのは6.1%にすぎない。また、「どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題」と回答したのは 41.0%であり、リスクの存在は認識され、意識されていることがうかがえる。
- リスクを小さくすべきであると考える人は多く、「経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである」と回答したのは 49.3%、一方、「食品は 100%の安全が確保されるべきである」と回答したのは 35.0%である。

Q8. 食生活のリスクについて、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)



Q8.食生活のリスクについて、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)

		(N)	Q8. 食品リスクに対する考え					
			食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない	経済性がらみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである	食品は100%の安全が確保されるべきである	どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である	多くの食品はリスクが小さく、気にしてもない	あてはまるものはない
全体		2008	26.4	49.3	35.0	41.0	6.1	3.7
性別	男性	998	29.9	52.9	31.1	39.8	8.2	4.1
	女性	1010	23.1	45.6	38.9	42.2	4.1	3.4
年齢	20代	369	30.9	47.7	30.6	40.1	6.2	7.9
	30代	438	29.9	48.2	30.6	40.9	8.0	4.1
	40代	374	26.7	50.5	30.2	40.1	4.5	3.7
	50代	449	21.8	48.8	40.3	39.2	5.1	1.1
	60代	378	23.3	51.3	42.9	45.0	6.6	2.4
性・年齢	男性-20代	187	36.4	51.3	29.4	34.8	9.6	8.6
	男性-30代	221	36.2	51.6	26.2	41.6	10.4	4.1
	男性-40代	187	29.4	50.3	26.2	41.2	5.9	4.3
	男性-50代	221	21.7	56.1	37.1	37.1	5.9	0.9
	男性-60代	182	25.8	54.9	36.3	44.5	9.3	3.3
	女性-20代	182	25.3	44.0	31.9	45.6	2.7	7.1
	女性-30代	217	23.5	44.7	35.0	40.1	5.5	4.1
	女性-40代	187	24.1	50.8	34.2	39.0	3.2	3.2
	女性-50代	228	21.9	41.7	43.4	41.2	4.4	1.3
女性-60代	196	20.9	48.0	49.0	45.4	4.1	1.5	
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	29.9	49.0	36.9	46.5	10.8	5.1
	正規就業者	745	28.6	54.1	29.8	39.1	6.6	3.9
	非正規就業者	393	29.0	45.8	33.1	45.5	5.9	3.1
	専業主婦・主夫	460	17.6	45.9	45.7	35.7	3.0	2.4
	学生	68	32.4	51.5	22.1	48.5	10.3	7.4
	無職	172	29.1	46.5	35.5	45.9	7.0	5.2
	その他	13	30.8	23.1	53.8	30.8	7.7	7.7
未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	24.4	50.0	37.3	38.8	5.5	2.4
	既婚(離別・死別)	192	21.9	43.2	39.1	40.1	6.3	3.6
	未婚	557	32.7	49.7	28.5	46.3	7.5	6.8
子どもの有無	いる	1184	23.1	48.6	37.5	37.3	5.0	3.0
	いない	824	31.2	50.1	31.4	46.2	7.8	4.9
子どもの年代	未就学児	177	26.0	44.1	37.3	32.2	3.4	4.0
	小学生	90	33.3	51.1	28.9	28.9	4.4	7.8
	中学生	28	25.0	39.3	50.0	32.1	10.7	0.0
	高校生	33	27.3	48.5	30.3	57.6	3.0	3.0
	専門学校・専修学校生	2	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	短大・高等専門学校・大学・大学 学校を卒業	60	10.0	50.0	48.3	33.3	0.0	1.7
		485	22.3	50.3	41.0	41.0	5.6	1.9
同居者	一人暮らし	264	34.8	50.8	30.7	47.0	8.3	5.3
	家族等と同居	1744	25.2	49.0	35.7	40.1	5.8	3.5
専攻	理科系(どちらかといえば)	469	29.9	53.3	30.1	43.5	7.7	5.1
	文科系(どちらかといえば)	828	26.0	52.7	32.6	40.9	6.2	2.5
	どちらともいえない	134	20.1	43.3	42.5	37.3	3.0	6.0

⑤健康への悪影響を回避するためにしていること

Q10. あなたは、食生活によって健康に悪影響を与えないようにするために、食品の選択や調理、保存の際にどのようなことに気をつけていますか。実際に行っていることをお書き下さい。(ご自由に)

■ 購入、調達時の選択、回避

(食材の選択、回避)

- 加工食品を避ける。
- 問題となった食材を避ける。

(産地、生産者の選択、回避)

- 国産品を購入する。外国産、中国産を避ける。
- 地元のものを購入する。
- 生産者がわかるものを購入する。
- 自宅で野菜など生産していて農薬なしで化学肥料を使わないで作っている。

(メーカー、流通経路の選択、回避)

- 事件を起こした会社の商品进行避ける。
- 信頼のおける店で購入する。

(危害要因の回避)

- 遺伝子組み換え食品を買わない。
- 農薬を使用していない野菜を購入する。
- 添加物を避ける。

■ 冷蔵・冷凍保存

- すぐに冷蔵庫に保存し鮮度を保つ。
- 買ってきたら、すぐに調理をするか冷凍保存をするようにしている。

■ 作り置き、買い置きをしない。

- 買ってきた物はその日のうちに食べる
- 長期保存ではなくなるべく使う分だけ購入するようにしている。
- 調理する際には、食べきれる量の食材で使いきれる量を調理する。

■ 食品、手、調理器具の洗浄

- 調理の際には手を洗う。
- 野菜をよく水洗いする。
- 調理器具を清潔に保つ。

■ 加熱調理

- よく加熱する。生食しない。

■ 自分の味覚・嗅覚で判断

- 見た目や匂いに注意。
- 見た目に新鮮なものを選ぶようにしている。
- 自分の味覚や臭覚を大事にしかつ冷蔵冷凍庫などを利用する。

■ 消費期限・賞味期限を守る。

- 消費期限や管理要領の確認。期限内に食べる。
- 賞味期限が切れた食品は食べない。

■ 情報収集

- 食品表示を参照する。
- 適切に保存するため、情報を集める。
- 保存方法を本やインターネットなどで調べる。

■ バランスよく食べる

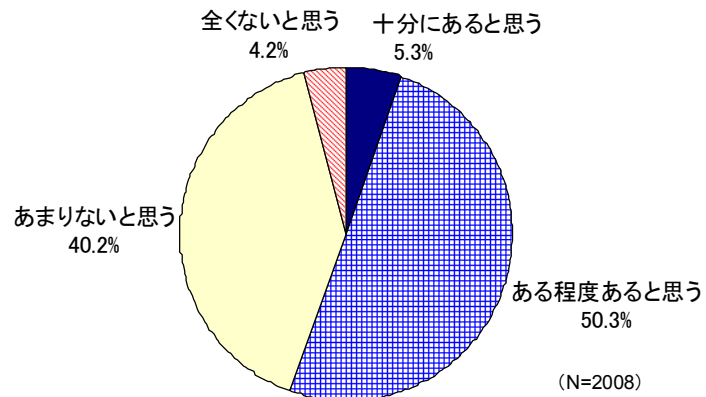
- 好きだからといって特定の食品ばかりを継続して食べないように心がけている。
- バランスがとれたものを摂取しようとしている。

4) 食品の安全性に関する知識

①食品の安全性に関する知識（自己認識）

- 回答者の 5 割以上 (55.6%) は、健康への悪影響を与えないための食品選択や調理について知識を持っていると回答している。

Q9.あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(ひとつだけ)



- 男性よりも女性、若年層よりも高齢層で知識があると感じている人が多く、特に女性の40代～60代では、6割以上が知識を持っていると感じており、その割合は年齢があがるごとに大きくなる。

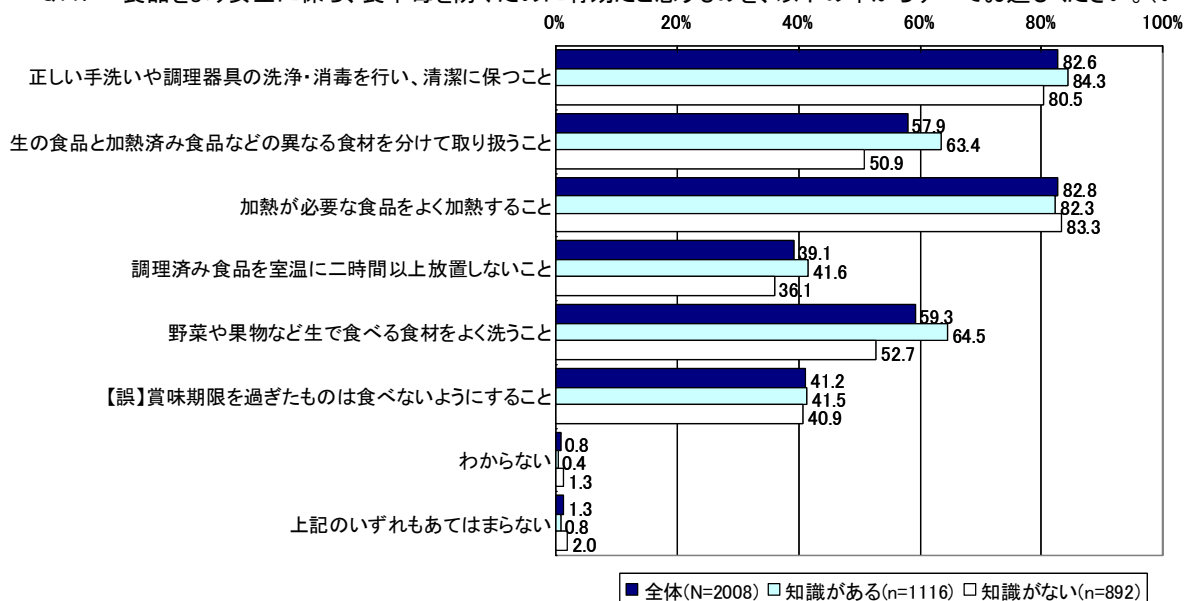
Q9.あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(ひとつだけ)

	(N)	Q9.健康に悪影響を与えない知識の程			
		十分にあると思う	ある程度あると思う	あまりないと思う	全くないと思う
全体	2008	5.3	50.3	40.2	4.2
性別					
男性	998	4.9	43.5	45.7	5.9
女性	1010	5.6	57.0	34.8	2.6
年齢					
20代	369	5.7	37.7	48.8	7.9
30代	438	5.0	45.2	44.5	5.3
40代	374	4.5	50.8	41.4	3.2
50代	449	6.0	55.9	35.6	2.4
60代	378	5.0	61.4	31.0	2.6
性・年齢					
男性-20代	187	6.4	30.5	52.4	10.7
男性-30代	221	3.2	46.2	44.3	6.3
男性-40代	187	3.7	42.2	49.7	4.3
男性-50代	221	7.2	45.7	43.4	3.6
男性-60代	182	3.8	52.2	39.0	4.9
女性-20代	182	4.9	45.1	45.1	4.9
女性-30代	217	6.9	44.2	44.7	4.1
女性-40代	187	5.3	59.4	33.2	2.1
女性-50代	228	4.8	65.8	28.1	1.3
女性-60代	196	6.1	69.9	23.5	0.5
職業					
自営業・家族就業者・農林水産	157	7.6	50.3	38.9	3.2
正規就業者	745	5.8	45.8	43.4	5.1
非正規就業者	393	5.1	54.2	36.9	3.8
専業主婦・主夫	460	4.6	60.9	33.0	1.5
学生	68	1.5	33.8	58.8	5.9
無職	172	5.2	38.4	47.1	9.3
その他	13	0.0	61.5	38.5	0.0
未既婚					
既婚(配偶者あり)	1259	5.6	54.9	36.9	2.6
既婚(離別・死別)	192	5.7	51.6	36.5	6.3
未婚	557	4.5	39.5	48.8	7.2
子どもの有無					
いる	1184	5.7	54.9	36.7	2.8
いない	824	4.7	43.7	45.3	6.3
子どもの年代					
未就学児	177	7.3	46.3	41.8	4.5
小学生	90	7.8	53.3	37.8	1.1
中学生	28	7.1	39.3	50.0	3.6
高校生	33	9.1	48.5	39.4	3.0
専門学校・専修学校生	2	50.0	50.0	0.0	0.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	6.7	65.0	28.3	0.0
学校を卒業	485	5.2	61.2	31.1	2.5
同居者					
一人暮らし	264	6.1	41.3	47.7	4.9
家族等と同居	1744	5.2	51.7	39.0	4.1
専攻					
理科系(どちらかといえば)	469	5.5	47.3	42.4	4.7
文科系(どちらかといえば)	828	5.0	50.6	40.8	3.6
どちらともいえない	134	5.2	57.5	33.6	3.7

②食中毒に関する知識

- 食中毒防止に有効だと思うことについてたずねたところ、「加熱が必要な食品をよく加熱すること」(82.8%)、「正しい手洗いや調理器具の洗浄・消毒を行い、清潔に保つこと」(82.6%)について、8割以上の人が正しく認識しているが、「調理済み食品を室温に二時間以上放置しないこと」について認識している人は39.1%と少ない。
- 「賞味期限を過ぎたものは食べないようにすること」が食中毒防止に有効だと考えている人が41.2%存在する。
- 自分が「知識がある」と感じている人と「知識がない」と感じている人による差異は小さく、「生の食品と加熱済み食品などの異なる食材を分けて取り扱うこと」「野菜や果物など生で食べる食材をよく洗うこと」において、10ポイント強の差がみられる程度である。

Q11. 食品をより安全に保ち、食中毒を防ぐために有効だと思うものを、以下の中からすべてお選びください。(いくつでも)



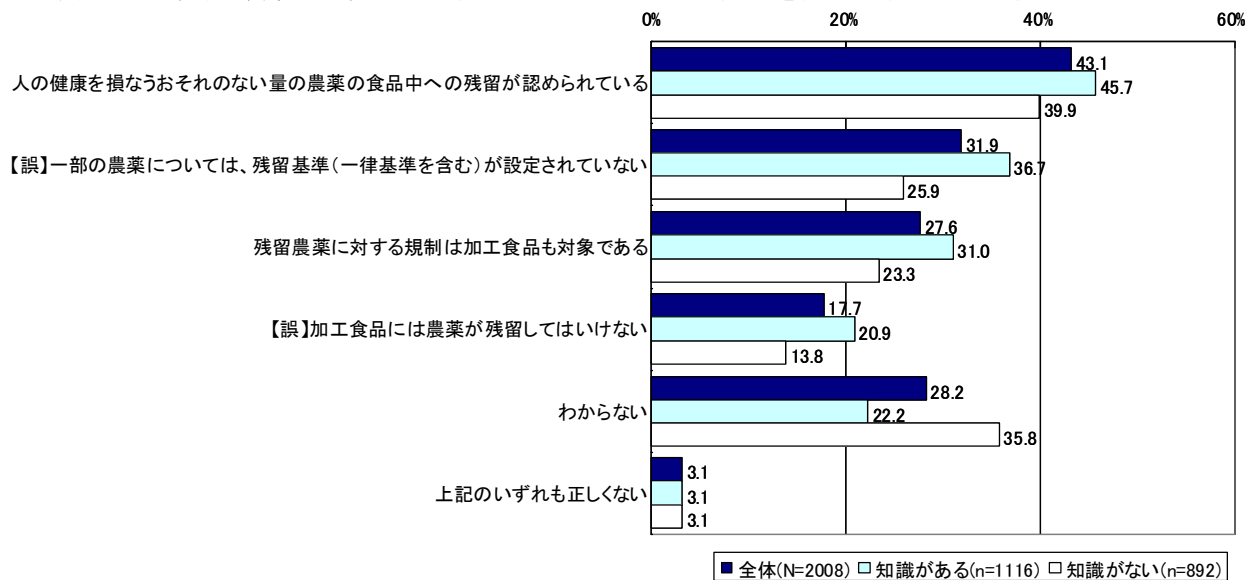
Q11. 食品をより安全に保ち、食中毒を防ぐために有効だと思うものを、以下の中からすべてお選びください。(いくつでも)

	(N)	Q11. 食品安全に有効な行動							わからない	上記のい ずれもあ てはまら ない
		正しい手 洗いや調 理器具の 洗浄・消 毒を行 い、清潔 に保つこ と	生の食品 と加熱済 み食品な どの異な る食材を 分けて取 り扱ふこ と	加熱が必 要な食品 をよく加 熱するこ と	調理済み 食品を室 温に二時 間以上放 置しない こと	野菜や果 物など生 で食べる 食材をよ く洗うこ と	賞味期限 を過ぎた ものは食 べないよ うにする こと			
全体	2008	82.6	57.9	82.8	39.1	59.3	41.2	0.8	1.3	
性別										
	男性	998	77.7	50.2	77.7	34.6	52.1	40.7	0.9	2.2
	女性	1010	87.5	65.4	87.8	43.7	66.3	41.8	0.8	0.5
年齢										
	20代	369	78.3	53.9	81.3	39.0	51.8	42.8	1.6	2.4
	30代	438	84.5	54.1	81.7	33.6	52.7	39.5	0.7	2.3
	40代	374	82.9	61.8	84.2	36.4	55.6	40.6	0.0	0.3
	50代	449	84.0	59.5	84.6	44.5	64.4	41.6	0.9	0.7
	60代	378	82.8	60.3	81.7	42.1	71.7	41.8	1.1	1.1
性・年齢										
	男性-20代	187	73.3	45.5	75.9	33.2	42.2	41.2	1.1	3.7
	男性-30代	221	80.5	48.0	77.4	30.8	46.2	41.6	0.5	4.1
	男性-40代	187	76.5	55.1	77.5	32.6	49.7	43.3	0.0	0.5
	男性-50代	221	78.7	51.1	79.6	39.8	55.7	36.7	1.4	0.9
	男性-60代	182	78.6	51.6	77.5	36.3	67.6	41.2	1.6	1.6
	女性-20代	182	83.5	62.6	86.8	45.1	61.5	44.5	2.2	1.1
	女性-30代	217	88.5	60.4	86.2	36.4	59.4	37.3	0.9	0.5
	女性-40代	187	89.3	68.4	90.9	40.1	61.5	38.0	0.0	0.0
	女性-50代	228	89.0	67.5	89.5	49.1	72.8	46.5	0.4	0.4
	女性-60代	196	86.7	68.4	85.7	47.4	75.5	42.3	0.5	0.5
職業										
	自営業・家族就業者・農林水産	157	84.7	63.1	84.7	45.9	66.9	39.5	1.3	1.9
	正規就業者	745	78.8	51.5	76.9	35.2	49.8	40.9	0.7	1.9
	非正規就業者	393	84.2	60.8	86.3	41.5	61.8	40.7	0.8	1.0
	専業主婦・主夫	460	88.0	66.7	88.7	42.4	67.4	41.5	0.7	0.2
	学生	68	82.4	44.1	85.3	33.8	52.9	36.8	1.5	2.9
	無職	172	77.9	54.7	80.8	36.6	66.3	45.3	1.7	1.7
	その他	13	100.0	69.2	92.3	61.5	84.6	53.8	0.0	0.0
未既婚										
	既婚(配偶者あり)	1259	84.1	59.8	83.2	40.1	62.0	40.5	0.6	0.9
	既婚(離別・死別)	192	77.1	56.3	80.2	37.0	58.9	41.1	1.0	1.6
	未婚	557	81.1	54.0	82.6	37.7	53.1	42.9	1.3	2.3
子どもの有無										
	いる	1184	83.1	60.3	82.8	39.4	62.2	41.3	0.6	0.9
	いない	824	81.9	54.4	82.8	38.8	55.1	41.1	1.2	1.9
子どもの年代										
	未就学児	177	87.0	61.0	83.6	32.8	53.1	40.7	0.6	1.1
	小学生	90	76.7	63.3	80.0	36.7	54.4	44.4	0.0	2.2
	中学生	28	82.1	39.3	92.9	32.1	53.6	50.0	0.0	0.0
	高校生	33	87.9	63.6	90.9	39.4	69.7	36.4	0.0	0.0
	専門学校・専修学校生	2	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	90.0	56.7	81.7	46.7	71.7	46.7	1.7	0.0
	学校を卒業	485	81.9	60.4	83.1	41.9	69.9	42.7	0.8	0.8
同居者										
	一人暮らし	264	79.2	53.8	83.0	37.9	54.9	38.3	0.8	3.0
	家族等と同居	1744	83.1	58.5	82.7	39.3	59.9	41.7	0.9	1.1
専攻										
	理科系(どちらかといえば)	469	79.1	57.1	78.9	38.2	55.4	40.5	1.3	2.3
	文科系(どちらかといえば)	828	82.6	58.2	83.8	38.8	59.3	41.5	0.6	1.1
	どちらともいえない	134	85.8	64.2	84.3	41.0	65.7	47.8	1.5	0.0

③残留農薬に関する知識

- 食中毒の設問に比べて「わからない」(28.2%)と回答した人が多い(食中毒の設問で「わからない」と回答したのは0.8%)。
- 誤った選択肢「一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない」を選んだ人が31.9%とやや多い。
- 自分が「知識がある」と感じている人と「知識がない」と感じている人による回答傾向の差異は小さく、「知識がある」と感じている人は、正答、誤答とも選択している人の割合が大きい。

Q12.食品中に残留する農薬の基準について、以下の中から正しいと思うものをすべてお選びください。(いくつでも)



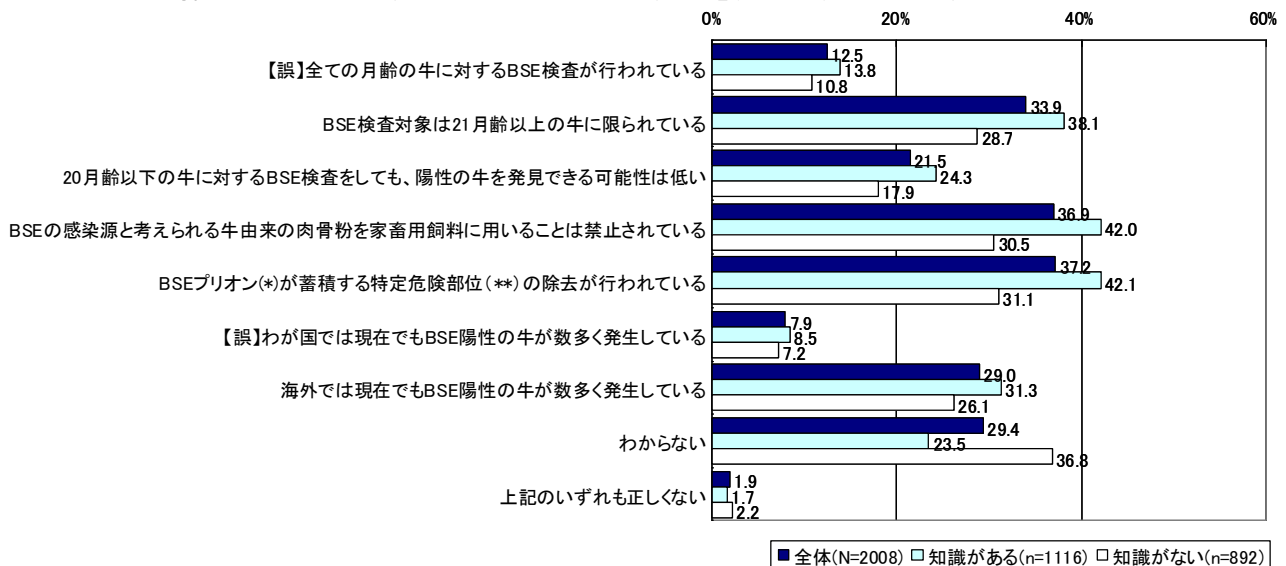
Q12.食品中に残留する農薬の基準について、以下の中から正しいと思うものをすべてお選びください。(いくつでも)

		(N)	Q12. 残留農薬の基準で正しい説明					
			人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている	一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない	残留農薬に対する規制は加工食品も対象である	加工食品には農薬が残留してはいけない	わからない	上記のいずれも正しくない
全体		2008	43.1	31.9	27.6	17.7	28.2	3.1
性別	男性	998	44.6	33.7	30.8	18.6	26.0	3.2
	女性	1010	41.7	30.2	24.5	16.8	30.5	3.1
年齢	20代	369	42.5	29.8	26.3	14.6	32.0	2.7
	30代	438	41.3	31.5	21.2	13.0	30.6	5.0
	40代	374	43.6	32.4	23.8	16.8	27.0	2.4
	50代	449	45.0	33.0	30.1	19.4	25.4	2.2
	60代	378	43.1	32.8	37.0	25.1	26.5	3.2
性・年齢	男性-20代	187	42.2	32.1	34.8	16.6	27.8	3.2
	男性-30代	221	44.8	32.6	20.4	15.4	27.6	6.3
	男性-40代	187	45.5	33.2	28.3	17.1	24.1	3.2
	男性-50代	221	48.4	35.3	33.5	19.0	24.4	0.5
	男性-60代	182	41.2	35.2	38.5	25.8	25.8	2.7
	女性-20代	182	42.9	27.5	17.6	12.6	36.3	2.2
	女性-30代	217	37.8	30.4	22.1	10.6	33.6	3.7
	女性-40代	187	41.7	31.6	19.3	16.6	29.9	1.6
	女性-50代	228	41.7	30.7	26.8	19.7	26.3	3.9
	女性-60代	196	44.9	30.6	35.7	24.5	27.0	3.6
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	48.4	31.8	28.0	19.7	28.0	2.5
	正規就業者	745	44.3	32.6	30.5	17.0	25.0	3.6
	非正規就業者	393	42.5	34.9	24.4	18.8	27.5	3.1
	専業主婦・主夫	460	40.2	27.8	25.0	15.7	33.9	2.2
	学生	68	54.4	33.8	19.1	16.2	27.9	2.9
	無職	172	37.8	30.2	29.1	21.5	29.7	4.7
	その他	13	46.2	61.5	69.2	30.8	23.1	0.0
未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	43.8	32.2	27.9	17.0	27.6	2.9
	既婚(離別・死別)	192	35.9	29.7	27.6	22.9	30.2	2.1
	未婚	557	44.0	32.0	26.9	17.6	29.1	3.9
子どもの有無	いる	1184	42.7	30.9	29.0	18.8	27.4	3.0
	いない	824	43.7	33.4	25.6	16.1	29.4	3.4
子どもの年代	未就学児	177	40.7	26.0	20.3	13.0	33.3	2.3
	小学生	90	47.8	34.4	26.7	17.8	24.4	5.6
	中学生	28	21.4	32.1	25.0	25.0	35.7	3.6
	高校生	33	54.5	30.3	24.2	12.1	27.3	3.0
	専門学校・専修学校生	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	41.7	35.0	26.7	20.0	30.0	0.0
	学校を卒業	485	41.4	32.4	35.1	23.1	26.4	3.1
同居者	一人暮らし	264	47.0	33.0	26.1	16.7	28.0	3.4
	家族等と同居	1744	42.5	31.8	27.8	17.9	28.3	3.1
専攻	理科系(どちらかといえば)	469	51.2	39.9	28.8	16.8	19.6	3.0
	文科系(どちらかといえば)	828	42.9	33.5	25.8	17.0	28.9	2.7
	どちらともいえない	134	35.1	30.6	25.4	17.2	38.8	1.5

④BSEに関する知識

- 食中毒の設問に比べて「わからない」(29.4%)と回答した人が多い(食中毒の設問で「わからない」と回答したのは0.8%)。
- 誤った選択肢「全ての月齢の牛に対する BSE 検査が行われている」(12.5%)、「わが国では現在でも BSE 陽性の牛が数多く発生している」(7.9%)を選んだ人は少ない。
- 自分が「知識がある」と感じている人と「知識がない」と感じている人による回答傾向の差異は小さく、「知識がある」と感じている人は、正答、誤答とも選択している人の割合が大きい。

Q13.BSE(牛海綿状脳症)について、以下の中から正しいと思うものをすべてお選びください。(いくつでも)



*BSEプリオン

BSEを引き起こす異常なタンパク質です。

**特定危険部位

BSEプリオンが蓄積しやすいといわれる部位です。具体的には、牛の脳、眼、脊髄及びすべての牛の腸の一部です。

Q13.BSE(牛海綿状脳症)について、以下の中から正しいと思うものをすべてお選びください。(いくつでも)

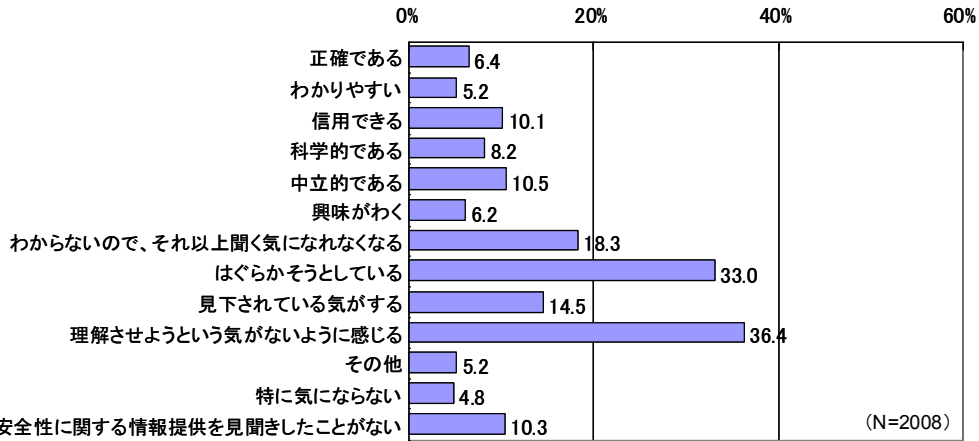
		(N)	Q13.BSEで正しい説明								
			全ての月齢の牛に対するBSE検査が行われている	BSE検査対象は21月齢以上の牛に限られている	20月齢以下の牛に対するBSE検査をしても、陽性の牛を発見できる可能性は低い	BSEの感染源と考えられる牛由来の家畜用飼料に用いることは禁止されている	BSEプリオン(*)が蓄積する特定危険部位(**)の除去が行われている	わが国では現在でもBSE陽性の牛が数多く発生している	海外では現在でもBSE陽性の牛が数多く発生している	わからない	上記のいずれも正しくない
全体		2008	12.5	33.9	21.5	36.9	37.2	7.9	29.0	29.4	1.9
性別	男性	998	14.0	35.5	24.3	36.9	38.7	9.2	26.9	25.8	2.4
	女性	1010	10.9	32.4	18.6	36.9	35.7	6.6	31.1	33.0	1.5
年齢	20代	369	10.6	25.2	17.3	26.0	27.4	8.9	27.6	37.1	2.7
	30代	438	13.2	26.5	19.6	32.4	32.2	9.4	29.0	34.7	2.7
	40代	374	13.6	33.7	23.3	34.8	38.8	7.2	27.0	27.0	1.6
	50代	449	14.3	39.0	24.5	44.3	45.0	7.8	30.3	23.6	1.1
	60代	378	10.1	45.2	22.2	46.0	41.8	6.1	30.7	24.9	1.6
性・年齢	男性-20代	187	13.9	28.3	18.7	28.3	31.0	12.3	26.7	31.6	3.7
	男性-30代	221	16.3	29.0	22.6	33.0	36.7	10.4	27.1	28.5	4.5
	男性-40代	187	16.6	29.9	25.7	32.6	38.0	9.6	28.3	26.7	1.6
	男性-50代	221	13.6	43.0	27.6	42.5	44.8	7.7	23.5	23.1	0.5
	男性-60代	182	9.3	47.3	26.9	47.8	42.3	6.0	29.1	18.7	1.6
	女性-20代	182	7.1	22.0	15.9	23.6	23.6	5.5	28.6	42.9	1.6
	女性-30代	217	10.1	24.0	16.6	31.8	27.6	8.3	30.9	41.0	0.9
	女性-40代	187	10.7	37.4	20.9	36.9	39.6	4.8	25.7	27.3	1.6
	女性-50代	228	14.9	35.1	21.5	46.1	45.2	7.9	36.8	24.1	1.8
	女性-60代	196	10.7	43.4	17.9	44.4	41.3	6.1	32.1	30.6	1.5
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	9.6	40.1	18.5	38.9	42.7	10.8	28.0	33.8	0.6
	正規就業者	745	15.0	34.8	24.6	35.6	36.5	9.9	27.2	25.5	2.1
	非正規就業者	393	13.2	33.3	24.9	39.4	39.7	5.9	31.3	29.5	2.0
	専業主婦・主夫	460	8.9	31.5	16.7	38.3	35.7	5.9	28.5	34.3	1.3
	学生	68	13.2	29.4	10.3	25.0	32.4	7.4	33.8	33.8	2.9
	無職	172	11.6	33.7	20.9	36.0	34.9	7.0	32.0	26.2	2.9
	その他	13	7.7	38.5	7.7	38.5	46.2	7.7	23.1	38.5	7.7
未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	11.6	36.2	22.9	39.0	38.8	7.6	29.5	27.6	1.4
	既婚(離別・死別)	192	15.6	41.1	19.3	35.4	35.4	3.1	27.1	29.7	2.1
	未婚	557	13.3	26.2	19.0	32.7	34.1	10.2	28.5	33.4	3.2
子どもの有無	いる	1184	12.6	38.3	23.1	38.9	38.9	6.8	29.2	26.9	1.4
	いない	824	12.3	27.5	19.2	34.0	34.8	9.6	28.6	33.0	2.8
子どもの年代	未就学児	177	10.7	23.7	17.5	26.0	24.9	6.8	29.9	37.9	0.6
	小学生	90	13.3	51.1	25.6	41.1	38.9	6.7	31.1	25.6	1.1
	中学生	28	28.6	28.6	25.0	32.1	35.7	14.3	28.6	25.0	0.0
	高校生	33	15.2	42.4	18.2	33.3	42.4	6.1	33.3	27.3	0.0
	専門学校・専修学校生	2	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	5.0	41.7	30.0	50.0	48.3	5.0	26.7	18.3	0.0
	学校を卒業	485	13.0	42.7	22.5	44.9	43.7	6.4	30.9	24.7	1.4
同居者	一人暮らし	264	12.5	31.4	20.5	34.5	36.4	8.3	25.0	31.8	3.0
	家族等と同居	1744	12.4	34.3	21.6	37.3	37.3	7.9	29.6	29.0	1.8
専攻	理科系(どちらかといえば)	469	13.9	40.5	26.9	39.0	42.0	8.5	29.6	21.7	1.9
	文科系(どちらかといえば)	828	11.4	34.8	22.2	36.6	37.3	9.9	29.8	27.7	1.6
	どちらともいえない	134	11.9	27.6	14.2	27.6	23.1	5.2	25.4	42.5	3.0

5) 行政（国）による情報提供について

①行政（国）による情報提供に対する印象

- 行政(国)による情報提供に対しては、「理解させようという気がないように感じる」(36.4%)、「はぐらかそうとしている」(33.0%)と回答した人が多い。

Q15. あなたは行政(国)による食品の安全性に関する情報提供に対して、どのように感じますか。(いくつでも)



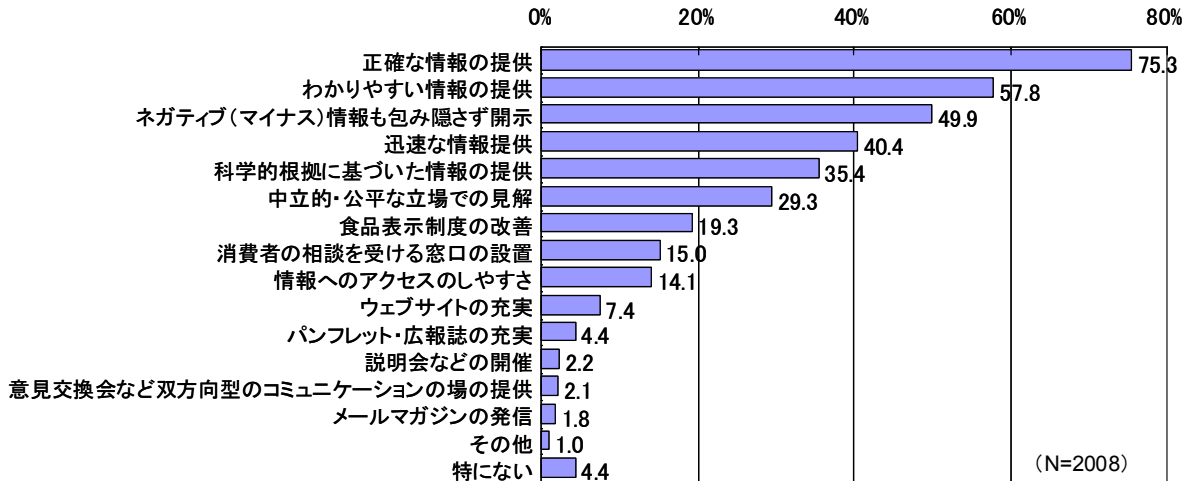
Q15.あなたは行政(国)による食品の安全性に関する情報提供に対して、どのように感じますか。(いくつでも)

		(N)	正確である	わかりやすい	信用できる	科学的である	中立的である	興味がわく	わからないので、それ以上聞く気になれなくなる	はぐらかそうとしている	見下されている気がする	理解させようという気がないように感じる	その他	特に気にならない	行政(国)による食品の安全性に関する情報提供を見聞きしたことがない
全体		2008	6.4	5.2	10.1	8.2	10.5	6.2	18.3	33.0	14.5	36.4	5.2	4.8	10.3
性別	男性	998	8.7	5.7	12.3	10.1	11.1	6.6	18.4	33.6	16.5	35.3	4.9	6.0	9.1
	女性	1010	4.1	4.8	7.9	6.3	9.8	5.7	18.1	32.5	12.6	37.4	5.5	3.7	11.4
年齢	20代	369	8.4	8.1	13.3	9.8	12.7	6.2	20.3	28.5	10.0	29.0	3.0	7.9	10.8
	30代	438	5.9	4.3	8.2	8.2	11.0	4.8	21.2	34.7	14.6	36.8	4.6	4.6	9.6
	40代	374	6.1	3.2	9.1	8.0	11.2	4.5	18.7	34.8	15.5	38.8	5.3	3.5	8.8
	50代	449	5.8	5.1	9.6	7.6	8.5	7.8	15.8	33.0	15.8	36.1	5.8	4.7	10.7
	60代	378	5.8	5.6	10.8	7.7	9.3	7.4	15.3	33.9	16.4	41.0	7.4	3.7	11.4
	性・年齢	男性-20代	187	13.9	9.1	16.6	14.4	16.6	8.0	18.2	25.7	10.7	27.8	2.7	11.2
	男性-30代	221	6.3	4.5	9.5	9.5	11.8	5.9	22.2	36.2	17.6	33.5	4.1	5.4	10.0
	男性-40代	187	9.1	4.3	9.1	10.2	9.6	6.4	19.8	32.1	17.6	35.3	4.3	3.7	9.6
	男性-50代	221	7.7	5.9	11.8	8.1	9.0	6.3	15.8	35.3	18.1	40.3	6.8	5.9	7.7
	男性-60代	182	7.1	4.9	15.4	8.8	8.8	6.6	15.9	37.9	18.1	39.0	6.6	3.8	11.5
	女性-20代	182	2.7	7.1	9.9	4.9	8.8	4.4	22.5	31.3	9.3	30.2	3.3	4.4	14.8
	女性-30代	217	5.5	4.1	6.9	6.9	10.1	3.7	20.3	33.2	11.5	40.1	5.1	3.7	9.2
	女性-40代	187	3.2	2.1	9.1	5.9	12.8	2.7	17.6	37.4	13.4	42.2	6.4	3.2	8.0
	女性-50代	228	3.9	4.4	7.5	7.0	7.9	9.2	15.8	30.7	13.6	32.0	4.8	3.5	13.6
	女性-60代	196	4.6	6.1	6.6	6.6	9.7	8.2	14.8	30.1	14.8	42.9	8.2	3.6	11.2
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	3.8	3.8	8.9	6.4	10.8	7.0	14.0	38.2	16.6	40.1	11.5	4.5	10.8
	正規就業者	745	9.5	7.0	13.8	10.3	11.3	7.4	18.3	33.0	14.5	33.3	3.6	4.7	8.7
	非正規就業者	393	5.3	4.3	8.7	7.4	10.7	4.6	20.6	36.6	15.0	36.9	5.1	4.3	10.7
	専業主婦・主夫	460	3.5	4.1	5.7	5.0	9.1	5.2	17.2	30.2	12.2	38.3	4.8	3.7	12.0
	学生	68	5.9	5.9	16.2	11.8	13.2	2.9	25.0	19.1	10.3	30.9	5.9	11.8	10.3
	無職	172	5.2	4.1	7.6	9.3	8.7	7.0	16.9	34.9	20.9	40.1	8.1	7.0	11.6
	その他	13	7.7	0.0	15.4	15.4	7.7	15.4	23.1	7.7	0.0	61.5	0.0	7.7	0.0
未婚	既婚(配偶者あり)	1259	5.3	5.1	10.2	7.5	10.6	6.0	16.8	32.4	14.7	37.1	5.3	4.4	9.7
	既婚(離別・死別)	192	6.3	4.2	7.9	8.3	6.8	7.3	18.2	34.4	13.5	34.9	6.8	3.1	10.9
	未婚	557	8.8	5.9	10.6	9.7	11.3	6.1	21.5	33.9	14.5	35.2	4.5	6.5	11.3
子どもの有無	子どもがいる	1184	5.9	5.5	10.6	7.5	10.5	6.8	17.3	31.8	14.2	36.3	5.4	4.2	9.6
	子どもがいない	824	7.0	4.9	9.3	9.2	10.4	5.2	19.7	34.7	15.0	36.4	5.0	5.7	11.2
	子どもなし	177	4.5	3.4	11.9	3.4	11.9	4.5	22.6	31.1	9.8	29.9	4.5	4.0	9.6
	小学生	90	7.8	8.9	11.1	8.9	14.4	4.4	17.8	38.9	12.2	38.9	2.2	2.2	7.8
	中学生	28	0.0	3.6	14.3	7.1	10.7	7.1	21.4	32.1	10.7	25.0	3.6	7.1	3.6
	高校生	33	12.1	3.0	9.1	9.1	12.1	6.1	24.2	24.2	15.2	45.5	9.1	0.0	6.1
	専門学校・専修学校生	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	3.3	6.7	11.7	3.3	3.3	8.3	20.0	30.0	18.3	38.3	6.7	8.3	8.3
	学校を卒業	485	5.6	6.4	10.5	8.7	8.5	9.5	15.5	32.8	16.5	37.5	6.4	3.7	10.3
	同居者	二人暮らし	264	6.8	5.3	9.8	9.5	9.8	6.8	22.7	31.4	16.3	36.0	6.8	4.5
	家族等と同居	1744	6.3	5.2	10.1	8.0	10.6	6.1	17.6	33.3	14.3	36.4	5.0	4.9	10.3
専攻	理科系(どちらかといえば)	469	8.3	4.7	14.9	11.1	13.2	6.2	17.1	29.9	13.9	33.9	6.2	4.9	10.2
	文科系(どちらかといえば)	828	6.5	5.9	9.9	8.1	8.9	6.9	19.1	33.2	14.3	38.0	5.1	3.6	8.3
	どちらともいえない	134	3.7	6.0	4.5	4.5	12.7	1.5	14.2	42.5	18.7	32.8	7.5	6.7	11.9

②情報提供についての行政への期待

- 食品の安全性に関する情報提供について行政(国)に期待することとしては「正確な情報の提供」(75.3%)をあげる人が多く、次いで「わかりやすい情報の提供」(57.8%)。「ネガティブ(マイナス)情報も包み隠さず開示」(49.9%)の順となっている。
- 一方、「メールマガジンの発信」(1.8%)、「双方向型のコミュニケーションの場の提供」(2.1%)、「説明会などの開催」(2.2%)、「パンフレット・広報誌の充実」(4.4%)などはそれほど期待されていない。

Q17. 食品の安全性に関する情報提供について、行政に期待することは何ですか。あなたが期待することについて5つまでお選びください。(5つまで)



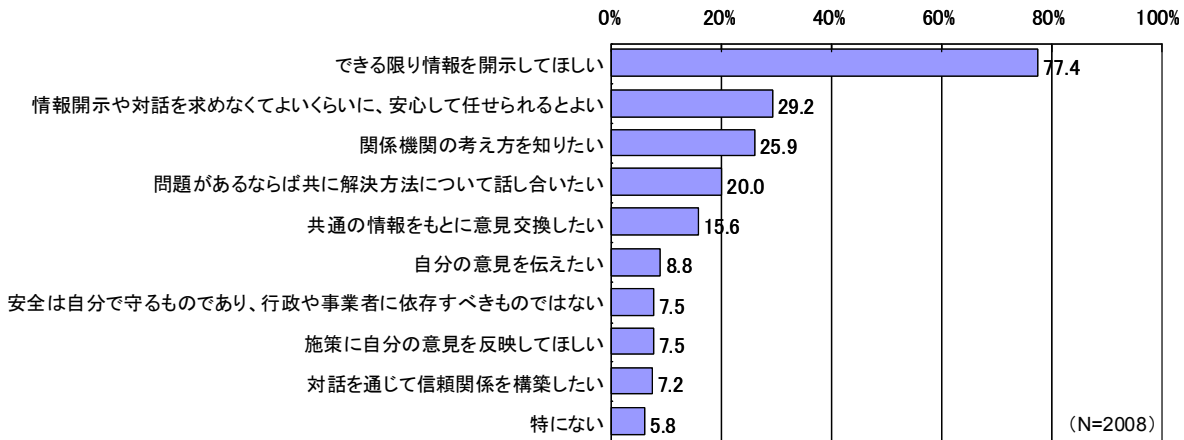
Q17. 食品の安全性に関する情報提供について、行政に期待することは何ですか。あなたが期待することについて5つまでお選びください。(5つまで)

	(N)	Q17. 行政への期待																
		正確な情報の提供	わかりやすい情報の提供	科学的根拠に基づいた情報の提供	ネガティブ(マイナス)情報も包み隠さず開示	中立的・公平な立場での見解	食品表示制度の改善	迅速な情報提供	情報へのアクセスのしやすさ	ウェブサイトの充実	メールマガジンの発信	パンフレット・広報誌の充実	消費者の相談を受ける窓口の設置	説明会などの開催	意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供	その他	特になし	
全体	2008	75.3	57.8	35.4	49.9	29.3	19.3	40.4	14.1	7.4	1.8	4.3	15.0	2.2	2.1	1.0	4.4	
性別																		
男性	998	71.3	54.0	40.9	49.6	33.5	16.6	37.2	14.2	9.2	1.9	2.6	12.7	2.0	1.4	1.6	5.5	
女性	1010	79.2	61.6	29.9	50.2	25.2	22.0	43.6	14.0	5.6	1.8	6.0	17.3	2.2	2.9	0.5	3.4	
年齢																		
20代	369	62.9	57.5	32.0	50.4	24.7	19.8	26.8	17.6	8.9	2.4	5.1	8.7	2.2	1.4	0.3	7.9	
30代	438	74.4	58.7	34.5	47.3	30.4	15.8	31.7	14.2	6.6	1.6	2.7	13.9	1.6	1.6	1.6	6.6	
40代	374	76.5	62.0	35.3	48.9	31.0	18.4	41.2	12.3	9.4	1.9	4.5	17.9	1.1	1.6	1.3	3.2	
50代	449	81.1	56.8	37.0	50.3	30.3	18.9	47.4	13.1	6.0	1.1	4.0	15.6	2.0	2.7	0.7	2.2	
60代	378	80.4	54.2	37.8	52.9	29.9	24.3	54.5	13.5	6.6	2.4	5.6	19.0	4.2	3.4	1.3	2.4	
性・年齢																		
男性-20代	187	58.3	52.4	36.9	50.8	29.9	20.3	26.7	19.3	10.7	2.7	4.3	9.1	3.2	0.5	0.0	8.0	
男性-30代	221	72.4	52.9	41.2	46.6	34.4	12.7	33.0	16.3	6.3	2.3	1.4	10.9	1.8	0.9	3.2	7.7	
男性-40代	187	71.7	54.5	40.6	46.0	34.2	14.4	33.7	9.6	15.5	2.1	1.6	12.3	1.6	1.6	1.1	5.9	
男性-50代	221	77.4	53.4	42.5	50.7	35.3	15.8	40.7	10.4	6.8	0.9	1.8	14.9	1.8	1.8	1.4	3.2	
男性-60代	182	75.8	57.1	42.9	54.4	33.0	20.9	52.2	15.9	7.7	1.6	4.4	16.5	1.6	2.2	2.2	2.7	
女性-20代	182	67.6	62.6	26.9	50.0	19.2	19.2	26.9	15.9	7.1	2.2	6.0	8.2	1.1	2.2	0.5	7.7	
女性-30代	217	76.5	64.5	27.6	47.9	26.3	18.9	30.4	12.0	6.9	0.9	4.1	17.1	1.4	2.3	0.0	5.5	
女性-40代	187	81.3	69.5	29.9	51.9	27.8	22.5	48.7	15.0	3.2	1.6	7.5	23.5	0.5	1.6	1.6	0.3	
女性-50代	228	84.6	60.1	31.6	50.0	25.4	21.9	53.9	15.8	5.3	1.3	6.1	16.2	2.2	3.5	0.0	1.3	
女性-60代	196	84.7	51.5	33.2	51.5	27.0	27.6	56.6	11.2	5.6	3.1	6.6	21.4	6.6	4.6	0.5	2.0	
職業																		
自営業・家族就業者・農林水産	157	71.3	54.1	40.1	53.5	36.3	16.6	39.5	12.7	10.2	1.9	4.5	17.8	3.8	1.3	3.2	4.5	
正規就業者	745	72.5	55.0	38.9	46.2	32.1	16.6	35.2	15.3	9.7	2.0	3.4	19.0	1.5	1.5	0.8	5.1	
非正規就業者	393	74.6	60.8	30.5	53.4	28.8	22.4	38.9	16.0	5.9	2.8	4.1	17.0	2.8	2.5	0.8	3.8	
専業主婦・主夫	460	82.0	60.4	30.9	49.6	23.9	20.9	48.0	11.7	4.6	1.1	6.1	18.9	2.8	3.0	0.2	3.0	
学生	68	66.2	66.2	39.7	52.9	26.5	27.9	23.5	22.1	5.9	0.0	2.9	4.4	0.0	0.0	0.0	7.4	
無職	172	77.3	55.2	37.2	52.9	29.1	18.0	50.6	8.7	7.6	1.7	5.2	18.0	1.7	2.9	3.5	5.8	
その他	13	92.3	69.2	30.8	69.2	15.4	30.8	76.9	15.4	0.0	0.0	0.0	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0	
未婚																		
既婚(配偶者あり)	1259	78.2	58.5	35.6	49.2	29.4	19.6	43.8	13.5	6.7	1.7	4.7	15.8	2.0	2.1	1.0	2.9	
既婚(離別・死別)	192	72.4	54.2	31.3	47.9	25.0	21.9	44.8	11.5	5.7	1.6	5.2	18.2	1.6	3.1	1.0	5.2	
未婚	557	69.7	57.5	36.3	52.1	30.7	17.8	31.1	16.3	9.7	2.2	3.2	12.2	2.9	2.0	1.3	7.5	
子どもの有無																		
いる	1184	77.4	57.3	35.7	47.7	28.2	21.0	44.5	13.0	6.8	1.8	4.9	15.8	2.1	2.4	0.8	3.5	
いない	824	72.2	58.5	34.8	53.0	30.9	16.9	34.5	15.7	8.3	1.9	3.5	14.0	2.3	1.8	1.5	5.8	
子どもの年代																		
未就学児	177	71.8	57.1	33.3	40.1	26.6	19.2	32.2	16.4	6.8	1.7	5.6	11.3	0.6	1.1	0.0	5.1	
小学生	90	72.2	61.1	25.6	53.3	33.3	21.1	36.7	13.3	10.0	0.0	1.1	15.6	1.1	0.0	0.0	5.6	
中学生	28	82.1	53.6	32.1	46.4	28.6	10.7	46.4	7.1	0.0	3.6	3.6	14.3	3.6	3.6	0.0	3.6	
高校生	33	75.8	48.5	36.4	54.5	33.3	27.3	39.4	12.1	9.1	0.0	0.0	27.3	3.0	3.0	0.0	9.1	
専門学校・専修学校生	2	100.0	100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	86.7	56.7	45.0	58.3	26.7	16.7	50.0	21.7	3.3	0.0	3.3	8.3	1.7	6.7	1.7	1.7	
学校を卒業	485	79.8	56.5	35.3	49.5	28.5	24.7	53.4	12.2	6.4	1.9	6.4	16.9	3.9	3.3	1.2	1.9	
同居者																		
一人暮らし	264	72.0	57.2	37.5	54.2	31.4	17.0	38.3	15.9	10.6	3.4	3.0	13.6	4.5	2.3	0.8	5.7	
家族等と同居	1744	75.8	57.9	35.0	49.3	29.0	19.7	40.7	13.8	6.9	1.6	4.5	15.3	1.8	2.1	1.1	4.2	
専攻																		
理料系(どちらかといえば)	469	72.1	53.5	44.3	54.2	35.6	19.6	38.8	15.6	9.8	2.1	3.2	12.2	2.1	1.9	1.3	5.1	
文科系(どちらかといえば)	828	74.9	58.3	33.5	48.7	29.8	17.9	39.4	15.2	7.6	1.6	4.7	15.0	2.5	1.8	0.8	3.6	
どちらともいえない	134	79.1	61.2	35.1	51.5	23.9	19.4	43.3	9.0	3.0	2.2	3.7	19.4	2.2	2.2	0.0	5.2	

③行政や事業者との関係についての考え方

- 行政や事業者との関係としては、「できる限り情報を開示してほしい」(77.4%)と考える人が多い。

Q16. 食品の安全に関する行政や事業者との関係について、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)



Q16.食品の安全に関する行政や事業者との関係について、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)

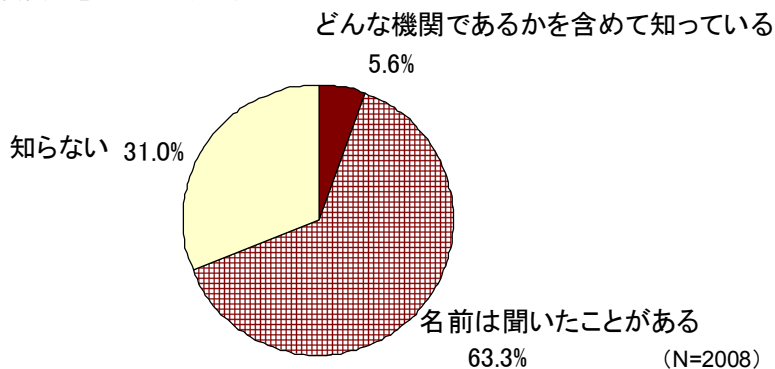
	(N)	Q16.食品安全での行政、事業者との望む関係									
		できる限り情報を開示してほしい	共通の情報をもとに意見交換したい	関係機関の考え方を知りたい	問題があるならば共に解決方法について話し合いたい	自分の意見を伝えたい	施策に自分の意見を反映してほしい	対話を通じて信頼関係を構築したい	情報開示や対話を求めなくてよいくらいに、安心して任せられるとよい	安全は自分で守るものであり、行政や事業者に依存すべきものではない	特になし
全体	2008	77.4	15.6	25.9	20.0	8.8	7.5	7.2	29.2	7.5	5.8
性別											
男性	998	73.0	16.8	29.5	21.3	10.9	9.0	7.7	26.2	8.2	7.5
女性	1010	81.7	14.5	22.4	18.6	6.7	5.9	6.7	32.3	6.8	4.2
年齢											
20代	369	71.5	14.9	26.0	15.2	9.8	6.2	5.7	20.1	8.4	9.2
30代	438	74.2	17.6	25.1	16.9	10.5	7.8	7.3	27.6	6.4	9.4
40代	374	78.1	15.5	26.5	20.6	7.2	7.5	5.9	29.4	5.1	4.3
50代	449	82.4	15.8	24.1	22.3	7.3	7.1	6.2	30.3	8.7	2.7
60代	378	80.2	14.0	28.3	24.9	9.3	8.7	11.1	38.6	9.0	3.7
性・年齢											
男性-20代	187	66.3	16.0	30.5	18.7	10.7	7.0	5.3	18.7	9.6	11.8
男性-30代	221	72.4	19.0	30.8	15.8	13.1	10.0	8.6	27.6	7.2	11.3
男性-40代	187	71.1	16.0	30.5	21.4	10.7	9.6	7.5	24.1	5.3	7.5
男性-50代	221	78.3	18.6	28.1	25.3	8.1	8.1	5.4	22.6	10.4	3.6
男性-60代	182	76.4	13.7	27.5	25.8	12.1	10.4	12.1	38.5	8.2	3.3
女性-20代	182	76.9	13.7	21.4	11.5	8.8	5.5	6.0	21.4	7.1	6.6
女性-30代	217	76.0	16.1	19.4	18.0	7.8	5.5	6.0	27.6	5.5	7.4
女性-40代	187	85.0	15.0	22.5	19.8	3.7	5.3	4.3	34.8	4.8	1.1
女性-50代	228	86.4	13.2	20.2	19.3	6.6	6.1	7.0	37.7	7.0	1.8
女性-60代	196	83.7	14.3	29.1	24.0	6.6	7.1	10.2	38.8	9.7	4.1
職業											
自営業・家族就業者・農林水産	157	76.4	16.6	29.3	26.1	14.0	12.7	10.8	34.4	10.2	6.4
正規就業者	745	73.2	19.1	29.5	20.0	12.2	9.3	7.7	23.2	6.6	6.7
非正規就業者	393	77.6	15.5	24.7	22.4	6.6	6.9	5.9	30.0	7.9	4.8
専業主婦・主夫	460	84.1	10.9	20.2	16.3	5.4	4.8	5.4	33.7	7.0	4.1
学生	68	79.4	17.6	20.6	13.2	4.4	4.4	5.9	27.9	10.3	7.4
無職	172	75.6	11.6	27.3	20.3	5.8	5.2	10.5	37.2	8.7	8.1
その他	13	100.0	23.1	23.1	30.8	0.0	0.0	7.7	30.8	7.7	0.0
未既婚											
既婚(配偶者あり)	1259	78.9	14.7	24.8	19.6	8.5	7.9	7.0	30.4	7.4	4.4
既婚(離別・死別)	192	75.0	13.0	22.9	22.4	6.3	5.2	5.7	28.1	8.3	5.2
未婚	557	74.9	18.7	29.4	19.9	10.4	7.4	8.3	26.9	7.5	9.2
子どもの有無											
いる	1184	78.8	14.6	24.8	20.5	8.4	7.9	6.6	29.8	7.7	4.7
いない	824	75.4	17.1	27.4	19.2	9.5	6.8	8.1	28.4	7.3	7.4
子どもの年代											
未就学児	177	74.0	15.3	24.9	14.7	11.9	10.2	5.1	20.9	7.9	9.6
小学生	90	74.4	12.2	23.3	14.4	10.0	8.9	4.4	30.0	8.9	4.4
中学生	28	71.4	21.4	35.7	14.3	3.6	17.9	3.6	35.7	10.7	3.6
高校生	33	81.8	12.1	27.3	24.2	9.1	9.1	9.1	33.3	3.0	6.1
専門学校・専修学校生	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
短大・高等専門学校・大学・大学	60	80.0	15.0	23.3	20.0	5.0	3.3	5.0	25.0	10.0	1.7
学校を卒業	485	81.6	13.0	25.6	23.5	6.6	8.5	8.9	36.1	8.2	2.5
同居者											
一人暮らし	264	73.5	16.3	28.8	20.8	11.0	6.4	8.3	29.5	8.7	8.0
家族等と同居	1744	78.0	15.5	25.5	19.8	8.5	7.6	7.1	29.2	7.3	5.5
専攻											
理科室(どちらかといえば)	469	73.8	16.6	29.4	22.6	10.0	7.5	7.2	24.5	9.6	7.5
文科系(どちらかといえば)	828	79.6	17.3	24.9	19.9	9.3	7.4	7.1	28.3	6.4	3.9
どちらともいえない	134	79.1	20.9	26.9	20.1	9.7	9.0	11.2	32.1	7.5	6.0

6) 食品安全委員会に対する認識

① 食品安全委員会の認知

- 食品安全委員会について「どんな機関であるかを含めて知っている」と回答したのは 5.6%、「名前は聞いたことがある」と回答したのは 63.3%である。

Q18. あなたは、食品安全委員会をご存知ですか。(ひとつだけ)



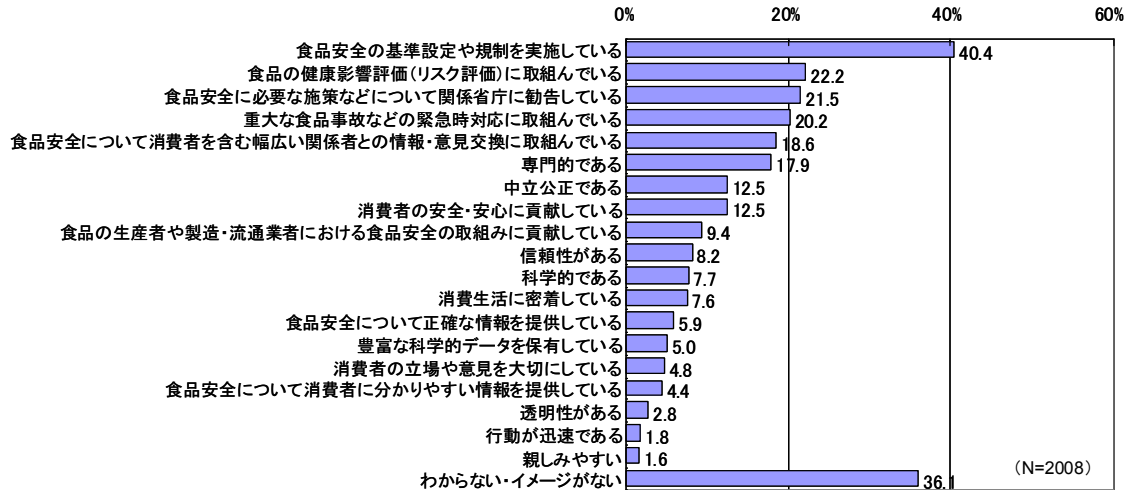
Q18. あなたは、食品安全委員会をご存知ですか。(ひとつだけ)

		(N)	Q18. 食品安全委員会の認知 どんな機関であるかを含めて知っている	名前は聞いたことがある	知らない
全体		2008	5.6	63.3	31.0
性別	男性	998	6.0	59.7	34.3
	女性	1010	5.2	66.9	27.8
年齢	20代	369	5.7	55.6	38.8
	30代	438	2.7	60.0	37.2
	40代	374	4.3	62.8	32.9
	50代	449	6.9	68.6	24.5
	60代	378	8.7	69.0	22.2
	性・年齢	男性-20代	187	6.4	50.3
	男性-30代	221	4.5	53.4	42.1
	男性-40代	187	2.7	61.0	36.4
	男性-50代	221	8.1	62.9	29.0
	男性-60代	182	8.2	72.0	19.8
	女性-20代	182	4.9	61.0	34.1
	女性-30代	217	0.9	66.8	32.3
	女性-40代	187	5.9	64.7	29.4
	女性-50代	228	5.7	74.1	20.2
	女性-60代	196	9.2	66.3	24.5
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	7.6	64.3	28.0
	正規就業者	745	6.8	59.9	33.3
	非正規就業者	393	4.1	66.4	29.5
	専業主婦・主夫	460	5.9	65.2	28.9
	学生	68	4.4	50.0	45.6
	無職	172	2.3	69.8	27.9
	その他	13	0.0	76.9	23.1
	未既婚	既婚（配偶者あり）	1259	6.6	64.6
	既婚（離別・死別）	192	5.7	69.3	25.0
	未婚	557	3.4	58.5	38.1
子どもの有無	いる	1184	6.3	65.1	28.5
	いない	824	4.6	60.8	34.6
子どもの年代	未就学児	177	4.5	55.4	40.1
	小学生	90	4.4	63.3	32.2
	中学生	28	0.0	60.7	39.3
	高校生	33	9.1	69.7	21.2
	専門学校・専修学校生	2	0.0	100.0	0.0
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	5.0	66.7	28.3
	学校を卒業	485	8.7	70.7	20.6
	同居者	一人暮らし	264	3.4	59.5
	家族等と同居	1744	6.0	63.9	30.1
専攻	理科系（どちらかといえば）	469	7.2	61.2	31.6
	文科系（どちらかといえば）	828	6.2	63.5	30.3
	どちらともいえない	134	4.5	64.9	30.6

②食品安全委員会のイメージ

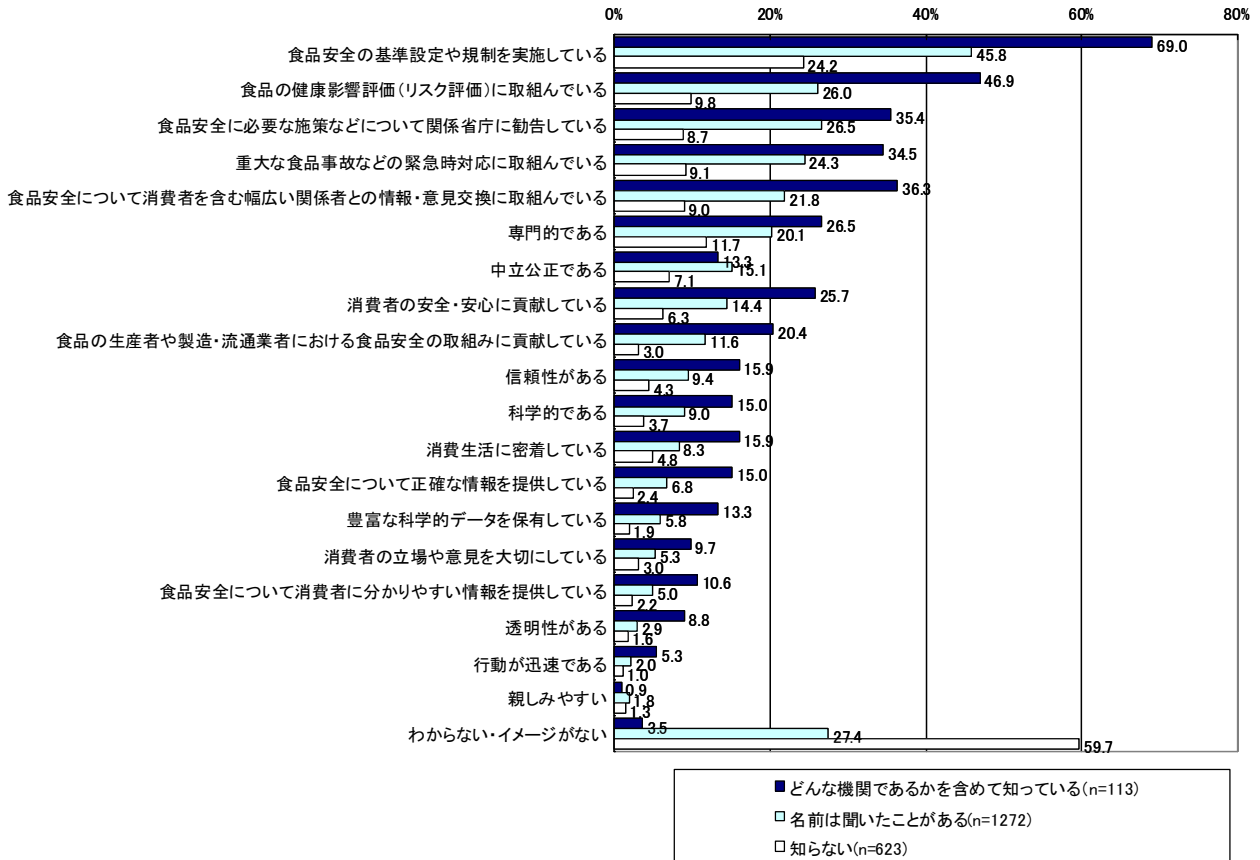
- 食品安全委員会に対するイメージとしては「基準設定や規制を実施している」(40.4%)と回答した人が多く、規制機関のイメージがあることがうかがえる。
- 健康影響評価、関係省庁への勧告、緊急時対応、幅広い意見交換の認知は約 2 割程度の水準である。
- 回答者の 36.1%は「わからない・イメージがない」と回答している。

Q19. 食品安全委員会に対するイメージとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)



- 食品安全委員会が「どんな機関であるか知っている」と回答している人においても「基準設定や規制を実施している」(69.0%)と回答した人が多く、規制機関としてのイメージが強い。

Q19. 食品安全委員会に対するイメージとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)



Q19. 食品安全委員会に対するイメージとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

		(N)	Q19. 食品安全委員会のイメージ 食品安全の基準設定や規制を実施している	食品安全の健康影響評価(リスク評価)に取り組んでいる	食品安全について消費者を含む幅広い関係者との情報・意見交換に取り組んでいる	重大な食品事故などの緊急事態に対応している	食品安全に必要な施策などについて関係省庁に働きかけている	信頼性がある	中立公正である	科学的である	親しみやすい	透明性がある	
全体		2008	40.4	22.2	18.6	20.2	21.5	8.2	12.5	7.7	1.6	2.8	
性別	男性	998	35.0	22.6	18.1	18.8	20.3	8.6	14.3	10.0	1.9	3.4	
	女性	1010	45.8	21.7	19.1	21.5	22.6	7.7	10.7	5.3	1.3	2.3	
年齢	20代	369	36.9	24.7	15.7	16.5	20.6	7.3	11.1	8.1	1.9	1.9	
	30代	438	37.7	18.7	13.7	19.2	16.7	8.0	10.7	5.5	2.5	2.1	
	40代	374	38.5	21.7	15.5	19.0	18.4	8.3	12.8	7.2	0.8	3.2	
	50代	449	46.8	26.1	22.3	21.2	23.2	9.1	11.8	8.0	0.9	3.1	
	60代	378	41.5	19.6	25.9	24.9	28.8	7.9	16.4	9.8	1.9	4.0	
	性・年齢	男性-20代	187	33.7	24.1	16.6	18.2	20.3	10.7	14.4	10.2	2.7	3.2
	男性-30代	221	33.5	22.6	13.1	15.4	13.6	8.6	11.3	5.9	3.2	2.3	
	男性-40代	187	28.3	20.3	14.4	17.6	18.7	7.0	12.8	11.2	1.6	3.2	
	男性-50代	221	41.2	26.7	19.9	19.5	23.1	8.6	12.2	10.0	0.5	3.2	
	男性-60代	182	37.4	18.7	27.5	24.2	26.9	8.2	22.0	13.7	1.6	5.5	
	女性-20代	182	40.1	25.3	14.8	14.8	20.9	3.8	7.7	6.0	1.1	0.5	
	女性-30代	217	41.9	14.7	14.3	23.0	19.8	7.4	10.1	5.1	1.8	1.8	
	女性-40代	187	48.7	23.0	16.6	20.3	18.2	9.6	12.8	3.2	0.0	3.2	
	女性-50代	228	52.2	25.4	24.6	22.8	23.2	9.6	11.4	6.1	1.3	3.1	
	女性-60代	196	45.4	20.4	24.5	25.5	30.6	7.7	11.2	6.1	2.0	2.6	
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	40.8	23.6	22.3	21.0	21.7	10.8	14.0	12.1	1.9	1.9	
	正規就業者	745	37.3	25.9	18.1	20.4	20.1	9.3	12.1	8.2	1.6	3.4	
	非正規就業者	393	41.7	18.6	17.6	18.6	20.6	6.9	12.7	6.1	1.5	3.1	
	専業主婦・主夫	460	45.4	20.4	18.9	22.0	23.9	7.4	10.7	5.7	0.7	1.7	
	学生	68	44.1	27.9	14.7	13.2	22.1	8.8	10.3	10.3	2.9	1.5	
	無職	172	35.5	14.0	18.6	18.0	20.3	6.4	17.4	8.7	3.5	4.7	
	その他	13	46.2	38.5	46.2	46.2	46.2	0.0	23.1	15.4	0.0	0.0	
	未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	41.3	22.7	19.3	21.7	22.6	8.4	12.4	7.5	1.1	2.8
	既婚(離別・死別)	192	38.5	20.3	24.0	17.2	20.3	9.9	16.7	10.4	2.1	4.2	
	未婚	557	39.1	21.5	15.3	17.8	19.2	7.0	11.3	7.0	2.5	2.5	
子どもの有無	いる	1184	41.4	22.6	20.9	20.9	21.7	9.5	13.4	8.6	1.4	3.4	
	いない	824	39.1	21.6	15.3	19.2	21.1	6.3	11.2	6.3	1.9	2.1	
子どもの年代	未就学児	177	37.9	21.5	16.4	18.1	17.5	7.9	10.2	7.9	1.1	1.7	
	小学生	90	32.2	21.1	14.4	25.6	16.7	7.8	12.2	5.6	1.1	4.4	
	中学生	28	25.0	21.4	21.4	25.0	17.9	7.1	7.1	10.7	0.0	7.1	
	高校生	33	51.5	30.3	21.2	21.2	18.2	9.1	18.2	6.1	0.0	0.0	
	専門学校・専修学校生	2	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	36.7	23.3	15.0	13.3	25.0	15.0	8.3	1.7	0.0	1.7	
	学校を卒業	485	44.5	21.0	25.8	22.3	26.4	8.7	15.1	9.7	1.4	3.5	
	同居者	一人暮らし	264	39.8	22.3	15.9	16.7	18.9	4.9	9.1	7.2	0.8	3.0
		家族等と同居	1744	40.5	22.1	19.0	20.7	21.8	8.7	13.0	7.7	1.7	2.8
	専攻	理系(どちらかといえば)	469	36.5	26.0	19.4	20.3	22.4	7.9	13.2	10.9	1.7	3.0
文系(どちらかといえば)		828	43.0	23.2	19.9	20.4	22.0	8.5	11.6	6.6	1.3	2.5	
どちらともいえない		134	41.0	21.6	12.7	19.4	17.2	7.5	14.2	5.2	2.2	4.5	

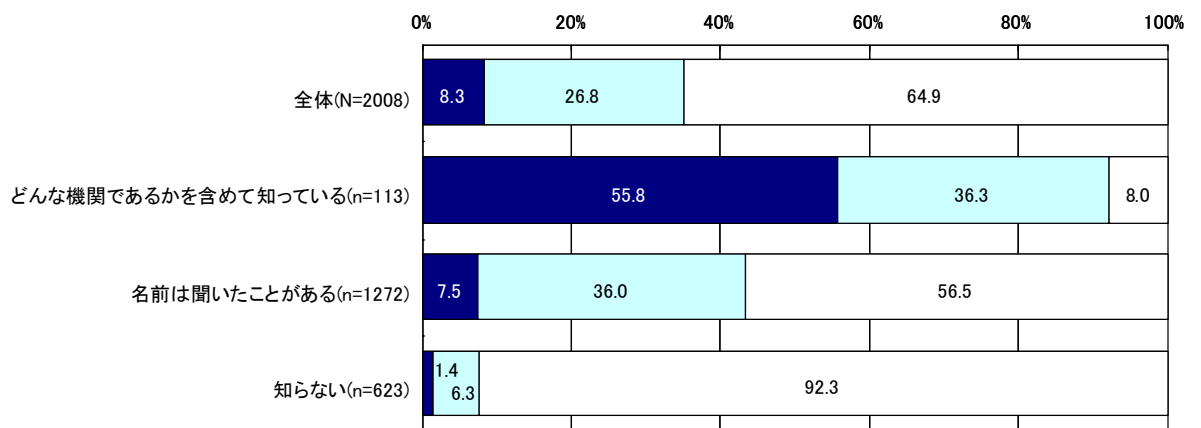
		(N)	Q19. 食品安全委員会のイメージ 専門的である	消費生活に密着している	行動が迅速である	消費者の安全・安心に貢献している	消費者の立場や意見を大切にしている	食品の生産者や流通業者における食品の安全に貢献している	食品の生産者や流通業者における食品の安全に関する取組に貢献している	食品安全について正確な情報を提供している	食品安全について消費者の理解を促している	豊富な科学的データを保有している	わからないイメージがない
全体		2008	17.9	7.6	1.8	12.5	4.8	9.4	5.9	4.4	5.0	36.1	
性別	男性	998	18.7	6.2	2.0	10.6	3.9	7.5	4.4	3.3	4.6	39.4	
	女性	1010	17.0	9.0	1.7	14.4	5.7	11.3	7.3	5.5	5.4	32.8	
年齢	20代	369	19.5	6.5	2.2	9.8	3.8	7.3	4.3	2.7	5.1	38.2	
	30代	438	20.3	4.8	1.6	8.2	3.4	5.9	2.7	2.1	4.1	41.3	
	40代	374	14.7	7.2	1.3	10.2	6.7	5.3	4.5	2.9	3.7	39.0	
	50代	449	15.8	7.1	1.6	12.7	5.1	11.6	7.3	4.5	5.8	30.5	
	60代	378	19.0	13.0	2.6	22.2	5.3	16.9	10.6	10.3	6.3	31.5	
	性・年齢	男性-20代	187	20.3	7.5	3.7	9.6	3.7	4.8	4.3	2.7	5.3	37.4
	男性-30代	221	19.9	4.1	1.4	8.1	2.7	5.9	1.8	1.4	3.6	46.6	
	男性-40代	187	12.3	4.8	2.1	5.3	4.3	4.8	2.7	2.7	4.8	43.9	
	男性-50代	221	19.0	5.4	0.9	10.4	4.1	8.1	5.4	3.6	4.1	33.9	
	男性-60代	182	22.0	9.9	2.2	20.3	4.9	14.3	8.2	6.6	5.5	34.6	
	女性-20代	182	18.7	5.5	0.5	9.9	3.8	9.9	4.4	2.7	4.9	39.0	
	女性-30代	217	20.7	5.5	1.8	8.3	4.1	6.0	3.7	2.8	4.6	35.9	
	女性-40代	187	17.1	9.6	0.5	15.0	9.1	5.9	6.4	3.2	2.7	34.2	
	女性-50代	228	12.7	8.8	2.2	14.9	6.1	14.9	9.2	5.3	7.5	27.2	
	女性-60代	196	16.3	15.8	3.1	24.0	5.6	19.4	12.8	13.8	7.1	28.6	
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	21.0	10.8	0.0	16.6	6.4	12.1	5.1	5.1	7.0	38.9	
	正規就業者	745	18.7	6.4	2.1	8.9	3.5	7.0	4.2	3.6	4.8	35.2	
	非正規就業者	393	14.5	8.4	1.5	12.2	5.1	10.4	5.3	2.8	3.1	37.9	
	専業主婦・主夫	460	17.2	6.5	1.1	15.0	6.1	9.8	8.3	6.1	5.0	33.0	
	学生	68	26.5	8.8	2.9	10.3	4.4	7.4	1.5	1.5	1.5	36.8	
	無職	172	16.9	9.9	4.1	16.9	5.2	13.4	9.9	7.6	9.3	42.4	
	その他	13	30.8	15.4	7.7	46.2	7.7	30.8	15.4	7.7	15.4	15.4	
	未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	17.6	7.2	1.4	13.2	5.0	10.1	6.8	4.8	4.6	34.9
	既婚(離別・死別)	192	17.7	11.5	2.6	17.2	6.3	11.5	7.3	6.8	5.7	34.4	
	未婚	557	18.5	7.2	2.7	9.3	3.9	7.2	3.2	2.9	5.7	39.3	
子どもの有無	いる	1184	18.0	8.4	1.7	14.1	5.3	11.1	7.1	5.5	4.7	33.9	
	いない	824	17.7	6.4	2.1	10.2	4.1	6.9	4.1	2.9	5.5	39.2	
子どもの年代	未就学児	177	20.3	5.1	0.6	8.5	2.8	6.8	2.8	1.7	1.7	41.2	
	小学生	90	21.1	5.6	0.0	11.1	7.8	7.8	3.3	3.3	6.7	38.9	
	中学生	28	10.7	10.7	3.6	10.7	0.0	7.1	3.6	3.6	7.1	39.3	
	高校生	33	15.2	9.1	0.0	18.2	6.1	9.1	6.1	3.0	6.1	24.2	
	専門学校・専修学校生	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	8.3	3.3	1.7	11.7	3.3	6.7	5.0	8.3	3.3	31.7	
	学校を卒業	485	17.7	11.3	2.5	18.4	4.9	15.7	10.3	8.2	5.6	30.5	
	同居者	一人暮らし	264	17.8	7.6	2.7	11.7	3.0	9.1	5.7	4.9	6.4	40.9
		家族等と同居	1744	17.9	7.6	1.7	12.6	5.1	9.5	5.9	4.4	4.8	35.3
	専攻	理系(どちらかといえば)	469	20.3	6.2	2.1	11.5	4.5	8.1	4.3	2.6	5.5	33.9
文系(どちらかといえば)		828	19.1	8.5	1.6	11.4	4.7	8.5	6.2	4.5	5.0	33.7	
どちらともいえない		134	12.7	4.5	3.7	17.9	8.2	11.9	7.5	8.2	6.7	42.5	

7) 食品健康影響評価に対する認識

①食品健康影響評価の認知

- 食品健康影響評価については「評価している機関が食品安全委員会であることを含めて知っている」のは 8.3%、「評価機関は知らないが、国が評価していることを知っている」のは 26.8%、残る 64.9%はいずれも「知らない」と回答している。
- 食品安全委員会が「どんな機関であるかを含めて知っている」人についてみると、「評価している機関が食品安全委員会であることを含めて知っている」のは 55.8%である。

Q20.あなたは、食品安全委員会が食品の健康に対する影響(リスク)を科学的に評価していることをご存じですか。(ひとつだけ)



- 評価している機関が食品安全委員会であることを含めて知っている
- 評価機関は知らないが、国が評価していることを知っている
- 知らない

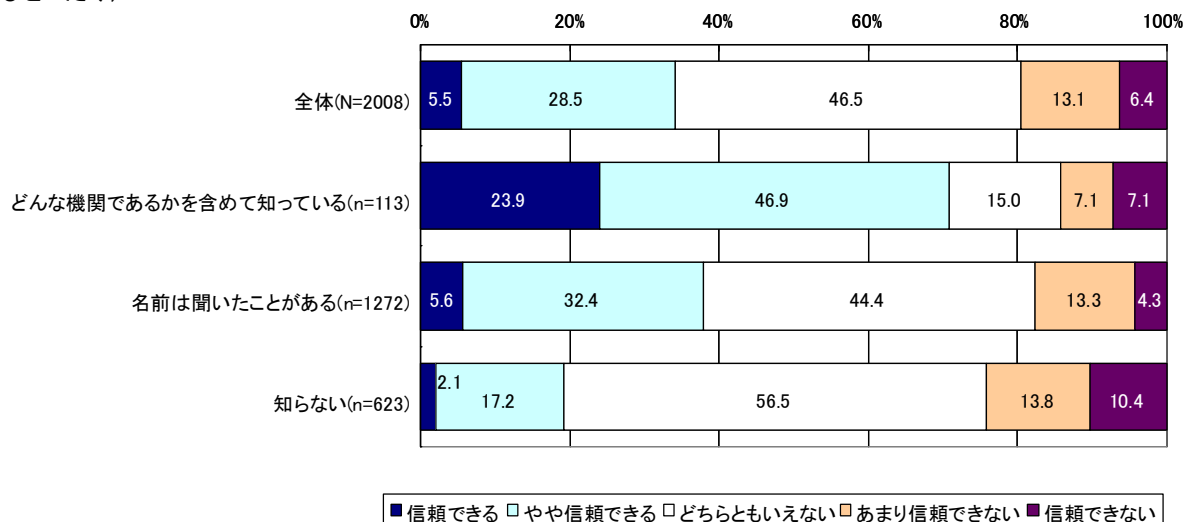
Q20.あなたは、食品安全委員会が食品の健康に対する影響(リスク)を科学的に評価していることをご存じですか。(ひとつだけ)

	(N)	Q20. 食品健康影響評価の認知		
		評価している機関が食品安全委員会であることを知っている	評価機関は知らないが、国が評価していることを知っている	知らない
全体	2008	8.3	26.8	64.9
性別				
男性	998	8.7	29.3	62.0
女性	1010	7.9	24.4	67.7
年齢				
20代	369	7.6	24.1	68.3
30代	438	3.9	23.1	73.1
40代	374	6.1	28.3	65.5
50代	449	10.9	27.4	61.7
60代	378	13.2	31.5	55.3
性・年齢				
男性-20代	187	9.1	25.1	65.8
男性-30代	221	4.5	26.2	69.2
男性-40代	187	6.4	31.0	62.6
男性-50代	221	10.4	31.7	57.9
男性-60代	182	13.7	32.4	53.8
女性-20代	182	6.0	23.1	70.9
女性-30代	217	3.2	19.8	77.0
女性-40代	187	5.9	25.7	68.4
女性-50代	228	11.4	23.2	65.4
女性-60代	196	12.8	30.6	56.6
職業				
自営業・家族就業者・農林水産	157	10.8	29.3	59.9
正規就業者	745	9.0	30.7	60.3
非正規就業者	393	5.6	27.0	67.4
専業主婦・主夫	460	8.0	22.0	70.0
学生	68	10.3	13.2	76.5
無職	172	8.1	26.7	65.1
その他	13	23.1	7.7	69.2
未既婚				
既婚(配偶者あり)	1259	8.3	27.9	63.8
既婚(離別・死別)	192	13.0	28.1	58.9
未婚	557	6.6	23.9	69.5
子どもの有無				
いる	1184	8.9	28.0	63.1
いない	824	7.5	25.0	67.5
子どもの年代				
未就学児	177	5.1	22.0	72.9
小学生	90	4.4	23.3	72.2
中学生	28	3.6	28.6	67.9
高校生	33	3.0	36.4	60.6
専門学校・専修学校生	2	0.0	50.0	50.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	8.3	30.0	61.7
学校を卒業	485	11.8	30.1	58.1
同居者				
一人暮らし	264	7.2	25.4	67.4
家族等と同居	1744	8.5	27.0	64.5
専攻				
理科系(どちらかといえば)	469	10.2	33.9	55.9
文科系(どちらかといえば)	828	8.8	27.4	63.8
どちらともいえない	134	5.2	22.4	72.4

②食品健康影響評価の信頼性

- 食品健康影響評価の信頼性については「信頼できる(「やや」を含む)」が34.0%、「信頼できない(「あまり」を含む)」が19.5%であり、半数程度の回答者は「どちらともいえない」(46.5%)としている。
- 食品安全委員会の認知が高い層ほど、信頼できると回答する人の割合が増える。「食品安全委員会がどんな機関であるかを含めて知っている」層では、約7割が食品健康影響評価を「信頼できる(「やや」を含む)」と回答している。

Q21. 食品安全委員会が行う、食品の健康に対する影響の科学的な評価(食品健康影響評価)をどの程度信用できますか。(ひとつだけ)



Q21. 食品安全委員会が行う、食品の健康に対する影響の科学的な評価(食品健康影響評価)をどの程度信用できますか。(ひとつだけ)

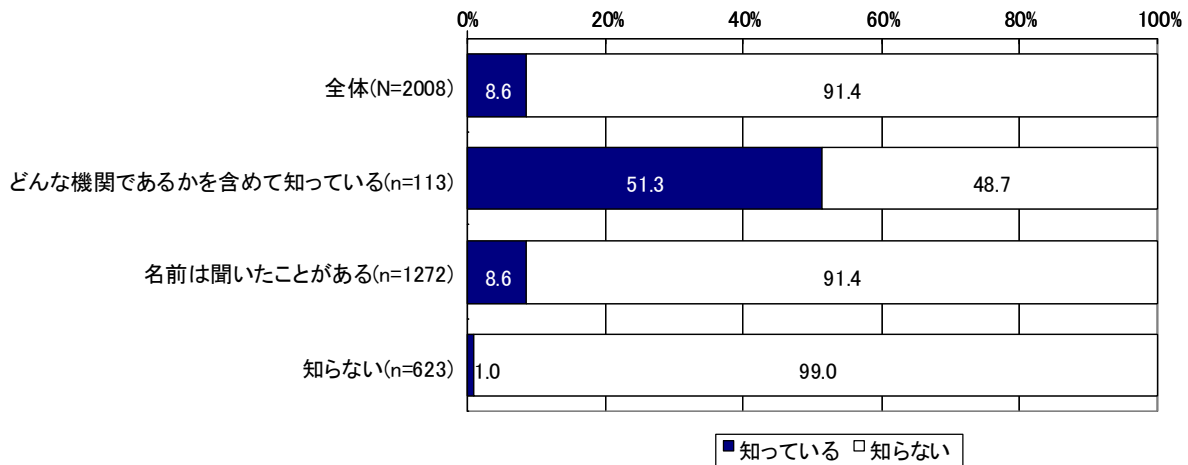
	(N)	Q21. 食品健康影響評価の信頼性					平均
		信頼できる	やや信頼できる	どちらともいえない	あまり信頼できない	信頼できない	
全体	2008	5.5	28.5	46.5	13.1	6.4	0.68
性別							
男性	998	5.6	27.6	44.2	14.7	7.9	0.41
女性	1010	5.4	29.4	48.8	11.5	4.9	0.96
年齢							
20代	369	5.7	25.7	50.7	10.3	7.6	0.58
30代	438	3.2	27.4	47.5	15.5	6.4	0.27
40代	374	4.8	27.8	45.5	14.7	7.2	0.41
50代	449	6.5	29.2	47.2	13.4	3.8	1.06
60代	378	7.7	32.3	41.5	11.1	7.4	1.08
性・年齢							
男性-20代	187	7.5	24.1	48.1	12.3	8.0	0.53
男性-30代	221	2.3	27.1	44.3	17.6	8.6	-0.16
男性-40代	187	4.8	26.2	44.4	14.4	10.2	0.05
男性-50代	221	6.3	28.5	45.7	14.9	4.5	0.86
男性-60代	182	7.7	31.9	37.9	13.7	8.8	0.80
女性-20代	182	3.8	27.5	53.3	8.2	7.1	0.63
女性-30代	217	4.1	27.6	50.7	13.4	4.1	0.71
女性-40代	187	4.8	29.4	46.5	15.0	4.3	0.78
女性-50代	228	6.6	29.8	48.7	11.8	3.1	1.25
女性-60代	196	7.7	32.7	44.9	8.7	6.1	1.35
職業							
自営業・家族就業者・農林水産	157	4.5	28.0	44.6	13.4	9.6	0.22
正規就業者	745	6.4	28.3	44.4	14.4	6.4	0.70
非正規就業者	393	4.6	28.0	47.3	14.2	5.9	0.56
専業主婦・主夫	460	4.8	28.7	50.7	11.5	4.3	0.90
学生	68	4.4	32.4	44.1	8.8	10.3	0.59
無職	172	7.0	27.9	45.3	11.0	8.7	0.67
その他	13	7.7	38.5	46.2	7.7	0.0	2.31
未既婚							
既婚(配偶者あり)	1259	5.7	29.6	45.6	12.9	6.1	0.79
既婚(離別・死別)	192	7.3	27.6	48.4	12.5	4.2	1.07
未婚	557	4.5	26.2	47.9	13.6	7.7	0.31
子どもの有無							
いる	1184	6.3	29.6	45.9	12.7	5.6	0.92
いない	824	4.4	26.9	47.5	13.7	7.5	0.35
子どもの年代							
未就学児	177	5.6	22.0	49.7	16.9	5.6	0.25
小学生	90	4.4	25.6	51.1	13.3	5.6	0.50
中学生	28	7.1	17.9	39.3	28.6	7.1	-0.54
高校生	33	9.1	30.3	30.3	21.2	9.1	0.45
専門学校・専修学校生	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	-2.50
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	6.7	26.7	48.3	10.0	8.3	0.67
学校を卒業	485	7.4	33.2	42.3	12.2	4.9	1.30
同居者							
一人暮らし	264	7.2	26.5	45.5	14.8	6.1	0.70
家族等と同居	1744	5.3	28.8	46.7	12.8	6.4	0.68
専攻							
理科系(どちらかといえば)	469	7.0	29.9	44.1	11.1	7.9	0.85
文科系(どちらかといえば)	828	6.2	28.4	45.4	14.4	5.7	0.75
どちらともいえない	134	2.2	22.4	53.0	17.2	5.2	-0.04

8) 食品安全委員会のリスクコミュニケーションに対する認識

① 食品安全委員会によるリスクコミュニケーションの取り組みの認知

- 食品安全委員会によるリスクコミュニケーションの取り組みを「知っている」と回答したのは 8.6%。
- 食品安全委員会の認知が高い層ほど、取り組みを「知っている」と回答する人の割合が増える。「食品安全委員会がどんな機関であるかを含めて知っている」層では、51.3%が取り組みを「知っている」と回答している。

Q22. 食品安全委員会ではリスクに関する情報及び意見の相互交換(リスクコミュニケーション)に取り組んでいることを知っていますか。(ひとつだけ)



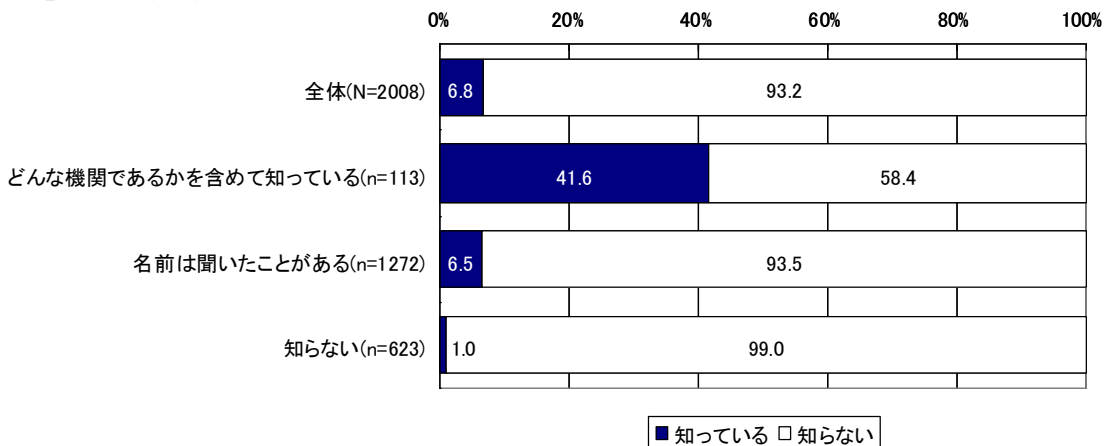
Q22. 食品安全委員会ではリスクに関する情報及び意見の相互交換(リスクコミュニケーション)に取り組んでいることを知っていますか。(ひとつだけ)

	(N)	Q22. RCの認知	
		知っている	知らない
全体	2008	8.6	91.4
性別	男性	998	90.5
	女性	1010	92.3
年齢	20代	369	93.0
	30代	438	94.3
	40代	374	92.0
	50代	449	89.1
	60代	378	88.6
性・年齢	男性-20代	187	89.8
	男性-30代	221	94.6
	男性-40代	187	91.4
	男性-50代	221	88.7
	男性-60代	182	87.4
	女性-20代	182	96.2
	女性-30代	217	94.0
	女性-40代	187	92.5
	女性-50代	228	89.5
	女性-60代	196	89.8
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	88.5
	正規就業者	745	89.4
	非正規就業者	393	94.1
	専業主婦・主夫	460	92.8
	学生	68	92.6
	無職	172	91.9
	その他	13	92.3
	未既婚	1259	90.5
既婚(配偶者あり)	192	88.5	
既婚(離別・死別)	557	94.3	
未婚	1184	89.6	
子どもの有無	824	93.9	
いない	177	94.4	
子どもの年代	未就学児	90	91.1
小学生	28	92.9	
中学生	33	87.9	
高校生	2	50.0	
専門学校・専修学校生	60	86.7	
短大・高等専門学校・大学・大学院生	485	88.5	
学校を卒業	264	94.3	
同居者	一人暮らし	1744	90.9
家族等と同居	469	88.5	
専攻	理科系(どちらかといえば)	828	90.6
文科系(どちらかといえば)	134	93.3	
どちらともいえない			

②意見交換会の認知

- 食品安全委員会による意見交換会を「知っている」と回答したのは6.8%。
- 食品安全委員会の認知が高い層ほど、取り組みを「知っている」と回答する人の割合が増える。「食品安全委員会がどんな機関であるかを含めて知っている」層では、41.6%が意見交換会を開催していることを「知っている」と回答している。
-

Q23. 食品安全委員会では、食品の安全性について国民と関係者が意見を交わすことができる意見交換会を開催していることをご存じですか。(ひとつだけ)



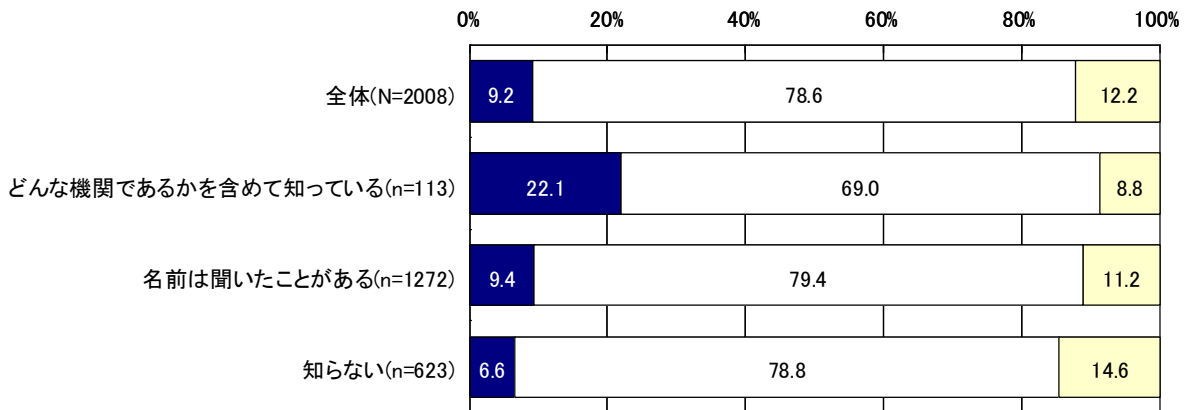
Q23. 食品安全委員会では、食品の安全性について国民と関係者が意見を交わすことができる意見交換会を開催していることをご存じですか。(ひとつだけ)

	(N)	Q23. 意見交換会認知	
		知っている	知らない
全体	2008	6.8	93.2
性別			
男性	998	7.2	92.8
女性	1010	6.3	93.7
年齢			
20代	369	5.4	94.6
30代	438	5.5	94.5
40代	374	3.7	96.3
50代	449	8.5	91.5
60代	378	10.6	89.4
性・年齢			
男性-20代	187	8.0	92.0
男性-30代	221	5.4	94.6
男性-40代	187	2.1	97.9
男性-50代	221	9.5	90.5
男性-60代	182	11.0	89.0
女性-20代	182	2.7	97.3
女性-30代	217	5.5	94.5
女性-40代	187	5.3	94.7
女性-50代	228	7.5	92.5
女性-60代	196	10.2	89.8
職業			
自営業・家族就業者・農林水産	157	9.6	90.4
正規就業者	745	8.2	91.8
非正規就業者	393	3.8	96.2
専業主婦・主夫	460	6.1	93.9
学生	68	5.9	94.1
無職	172	7.0	93.0
その他	13	7.7	92.3
未結婚			
既婚(配偶者あり)	1259	7.6	92.4
既婚(離別・死別)	192	8.3	91.7
未婚	557	4.3	95.7
子どもの有無			
いる	1184	8.1	91.9
いない	824	4.9	95.1
子どもの年代			
未就学児	177	5.6	94.4
小学生	90	6.7	93.3
中学生	28	0.0	100.0
高校生	33	6.1	93.9
専門学校・専修学校生	2	0.0	100.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	11.7	88.3
学校を卒業	485	9.7	90.3
同居者			
一人暮らし	264	4.9	95.1
家族等と同居	1744	7.1	92.9
専攻			
理科系(どちらかといえば)	469	9.4	90.6
文科系(どちらかといえば)	828	7.2	92.8
どちらともいえない	134	4.5	95.5

③意見交換会への参加意向

- 意見交換会に「参加したい」(9.2%)、「参加したいと思わない」(12.2%)とも、約 1 割程度であり、回答者の 8 割程度(78.6%)は「どちらともいえない」としている。

Q24. あなたは、このような意見交換会に参加したいと思いますか。(ひとつだけ)



■ 参加したい □ どちらともいえない □ 参加したいと思わない

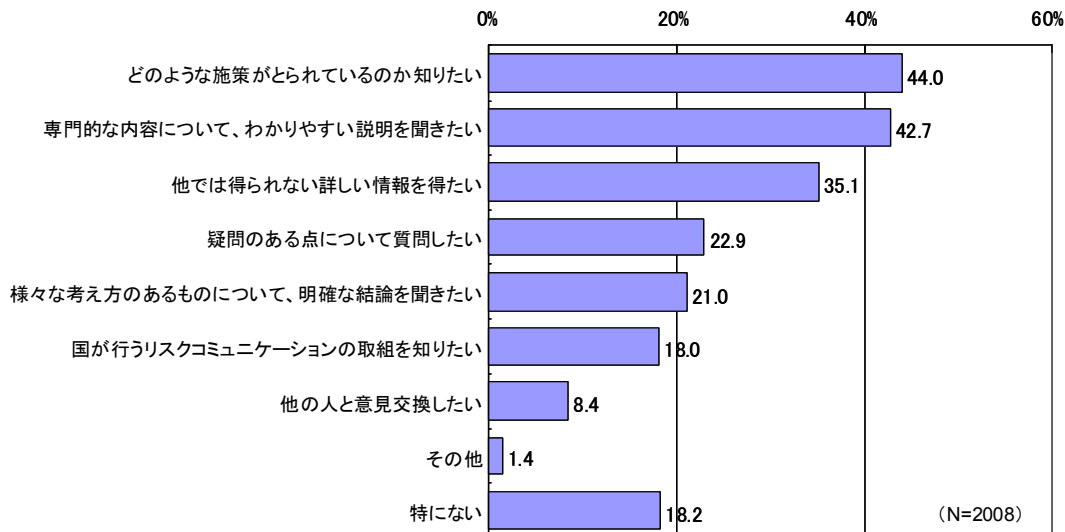
Q24. あなたは、このような意見交換会に参加したいと思いますか。(ひとつだけ)

	(N)	Q24. 参加意向		
		参加したい	どちらともいえない	参加したいと思わない
全体	2008	9.2	78.6	12.2
性別				
男性	998	9.5	77.7	12.8
女性	1010	8.9	79.6	11.5
年齢				
20代	369	10.6	74.5	14.9
30代	438	8.0	78.8	13.2
40代	374	8.0	79.4	12.6
50代	449	8.9	80.2	10.9
60代	378	10.8	79.9	9.3
性・年齢				
男性-20代	187	12.3	71.1	16.6
男性-30代	221	7.7	77.8	14.5
男性-40代	187	7.5	81.8	10.7
男性-50代	221	9.0	80.1	10.9
男性-60代	182	11.5	76.9	11.5
女性-20代	182	8.8	78.0	13.2
女性-30代	217	8.3	79.7	12.0
女性-40代	187	8.6	77.0	14.4
女性-50代	228	8.8	80.3	11.0
女性-60代	196	10.2	82.7	7.1
職業				
自営業・家族就業者・農林水産	157	14.6	71.3	14.0
正規就業者	745	9.1	78.9	11.9
非正規就業者	393	7.1	79.4	13.5
専業主婦・主夫	460	9.1	79.8	11.1
学生	68	11.8	76.5	11.8
無職	172	8.7	79.7	11.6
その他	13	7.7	84.6	7.7
未既婚				
既婚(配偶者あり)	1259	9.2	79.2	11.6
既婚(離別・死別)	192	9.9	82.8	7.3
未婚	557	9.0	75.9	15.1
子どもの有無				
いる	1184	9.5	80.3	10.1
いない	824	8.7	76.2	15.0
子どもの年代				
未就学児	177	8.5	77.4	14.1
小学生	90	11.1	77.8	11.1
中学生	28	3.6	92.9	3.6
高校生	33	21.2	69.7	9.1
専門学校・専修学校生	2	0.0	50.0	50.0
短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	16.7	80.0	3.3
学校を卒業	485	9.3	81.6	9.1
同居者				
一人暮らし	264	9.8	76.1	14.0
家族等同居	1744	9.1	79.0	11.9
専攻				
理科系(どちらかといえば)	469	11.3	77.0	11.7
文科系(どちらかといえば)	828	9.3	78.9	11.8
どちらともいえない	134	6.7	78.4	14.9

④意見交換会への期待

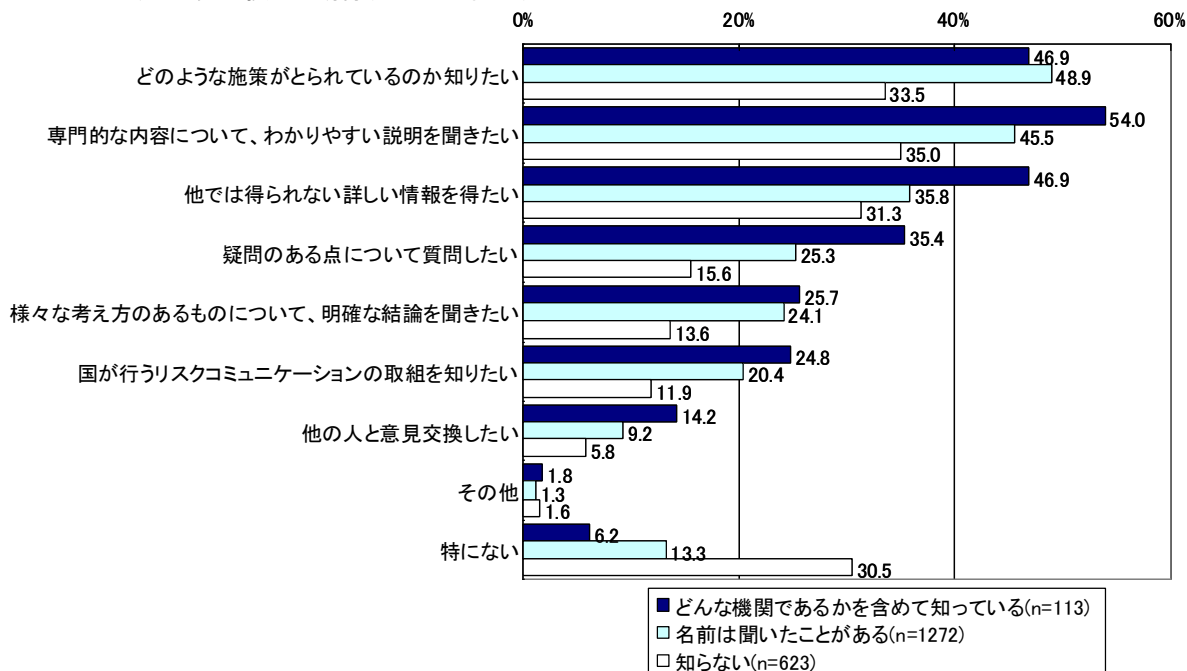
- 意見交換会に期待することとしては「どのような施策がとられているのか知りたい」(44.0%)「専門的な内容について、わかりやすい説明を聞きたい」(42.7%)をあげた人が多い。

Q25. このような意見交換会に期待することは何ですか(いくつでも)



- 食品安全委員会を内容まで認知している層では、認知していない層よりも全体的に期待することが多く、「専門的な内容について、わかりやすい説明を聞きたい」(54.0%)、「どのような施策がとられているのか知りたい」(46.9%)、「他では得られないような情報を得たい」(46.9%)の順となっている。

Q25. このような意見交換会に期待することは何ですか(いくつでも)



Q25. このような意見交換会に期待することは何ですか(いくつでも)

		(N)	Q25. 意見交換会への期待								
			他では得られない詳しい情報を得たい	専門的な内容について、わかりやすい説明を聞きたい	どのような施策がとられているのを知りたい	疑問のある点について質問したい	他の人と意見交換したい	様々な考え方のものについて、明確な結論を聞きたい	国が行うリスクコミュニケーションの取組を知りたい	その他	特になし
	全体	2008	35.1	42.7	44.0	22.9	8.4	21.0	18.0	1.4	18.2
性別	男性	998	31.9	40.8	42.6	25.1	9.2	19.6	16.7	1.9	21.3
	女性	1010	38.2	44.7	45.4	20.7	7.6	22.3	19.3	0.9	15.1
年齢	20代	369	36.3	35.2	37.9	23.8	9.5	15.7	12.2	0.3	24.7
	30代	438	36.8	42.2	40.9	21.9	10.5	20.8	13.9	2.3	20.1
	40代	374	34.5	43.6	42.8	19.5	7.2	19.3	19.3	2.1	17.1
	50代	449	33.0	46.1	48.3	22.9	7.8	22.5	21.4	0.7	16.7
	60代	378	34.9	45.8	49.7	26.2	6.9	26.2	23.3	1.6	12.7
性・年齢	男性-20代	187	36.9	34.2	40.1	27.3	11.8	14.4	12.8	0.5	25.7
	男性-30代	221	31.7	39.4	37.6	21.7	9.5	19.5	12.2	2.3	24.9
	男性-40代	187	31.0	36.9	40.6	22.5	7.5	20.9	17.6	3.2	20.9
	男性-50代	221	28.5	46.6	46.6	26.7	9.5	20.4	19.5	0.9	19.5
	男性-60代	182	31.9	46.2	48.4	27.5	7.7	23.1	22.0	2.7	15.4
	女性-20代	182	35.7	36.3	35.7	20.3	7.1	17.0	11.5	0.0	23.6
	女性-30代	217	41.9	45.2	44.2	22.1	11.5	22.1	15.7	2.3	15.2
	女性-40代	187	38.0	50.3	44.9	16.6	7.0	17.6	20.9	1.1	13.4
	女性-50代	228	37.3	45.6	50.0	19.3	6.1	24.6	23.2	0.4	14.0
	女性-60代	196	37.8	45.4	51.0	25.0	6.1	29.1	24.5	0.5	10.2
職業	自営業・家族就業者・農林水産	157	33.1	45.9	43.3	28.7	12.7	17.8	26.1	2.5	19.1
	正規就業者	745	33.2	41.9	43.0	25.1	9.5	18.5	14.8	1.7	18.5
	非正規就業者	393	35.4	38.9	44.8	20.9	6.6	24.4	20.1	1.3	16.3
	専業主婦・主夫	460	39.1	45.0	45.7	17.4	6.3	20.9	17.0	0.2	17.0
	学生	68	39.7	42.6	35.3	27.9	8.8	25.0	14.7	1.5	23.5
	無職	172	32.0	44.8	45.3	23.8	9.9	25.0	23.8	2.3	23.3
	その他	13	30.8	61.5	61.5	38.5	0.0	23.1	23.1	0.0	0.0
未既婚	既婚(配偶者あり)	1259	34.6	44.0	46.1	21.7	7.7	21.2	17.4	1.4	16.2
	既婚(離別・死別)	192	32.3	42.7	45.3	27.1	7.3	19.8	22.9	1.0	17.2
	未婚	557	37.2	39.9	38.8	24.1	10.4	20.8	17.8	1.4	23.2
子どもの有無	いる	1184	34.5	44.0	46.1	22.0	7.7	20.3	18.2	1.4	16.3
	いない	824	35.9	40.9	41.0	24.2	9.5	22.0	17.8	1.5	21.0
子どもの年代	未就学児	177	34.5	34.5	40.1	20.9	8.5	15.8	8.5	0.6	20.9
	小学生	90	41.1	37.8	36.7	20.0	12.2	17.8	14.4	1.1	20.0
	中学生	28	39.3	57.1	39.3	10.7	3.6	7.1	7.1	3.6	17.9
	高校生	33	33.3	36.4	48.5	33.3	18.2	18.2	21.2	0.0	21.2
	専門学校・専修学校生	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	短大・高等専門学校・大学・大学院生	60	35.0	61.7	53.3	30.0	5.0	15.0	20.0	1.7	16.7
	学校を卒業	485	34.0	46.2	50.5	22.7	6.6	23.3	23.7	1.2	12.0
同居者	一人暮らし	264	37.5	44.7	43.6	23.1	10.2	22.7	20.5	1.1	18.2
	家族等と同居	1744	34.7	42.4	44.1	22.8	8.1	20.7	17.7	1.4	18.2
専攻	理科系(どちらかといえば)	469	36.7	44.6	46.1	25.4	9.4	19.2	16.6	1.5	16.0
	文科系(どちらかといえば)	828	33.3	42.1	43.8	23.9	9.3	22.5	19.3	2.1	16.5
	どちらともいえない	134	41.8	47.8	35.8	22.4	6.7	21.6	20.1	0.7	19.4

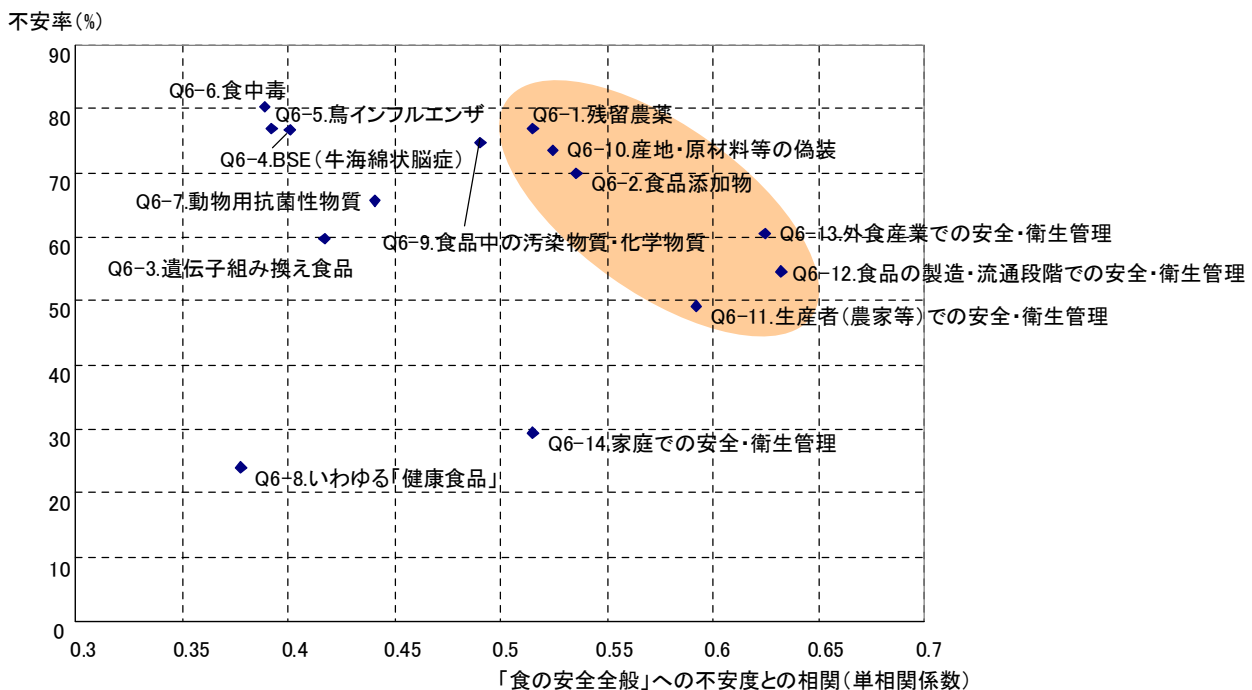
2.3 意見交換会及び行動指標への示唆

(1)意見交換会への反映

1) 意見交換会のテーマ

国民の不安が高いものであることを優先するという観点からは「食中毒」や「鳥インフルエンザ」「BSE」とすることも考えられるが、これらは必ずしも国民の「食の安全全般への不安」の主要な形成要因ではないことがうかがえる。むしろ、下図の右上（不安が高く、食の安全全般への不安との相関が高い）にある、「残留農薬」「産地・原材料等の偽装」「食品添加物」、または、「外食産業」「食品の製造・流通段階」「生産者（農家等）」での「安全・衛生管理」などが候補となりえる。

各危害要因と「食の安全全般」との関係

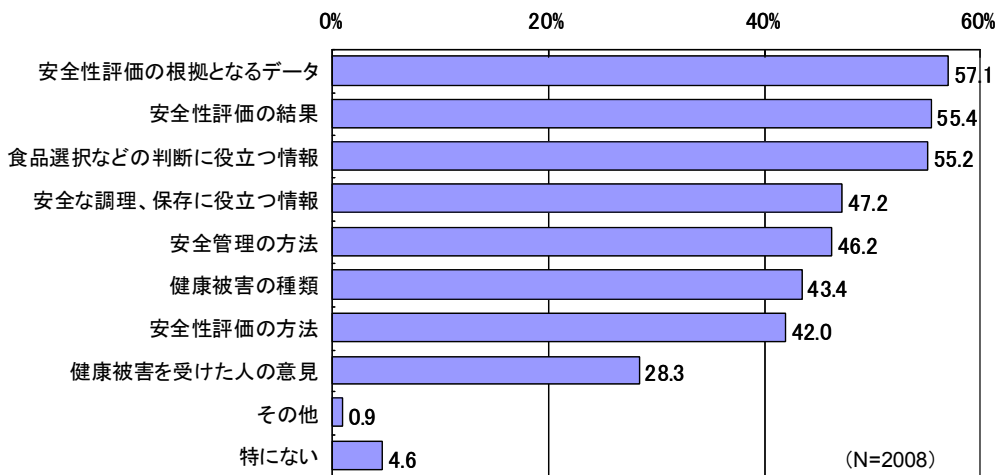


ここで、本件業務が食品安全委員会の事業であることを勘案すれば、管理面だけでなく、科学的評価が論点になるものが望ましく、管理のみが主要な論点となる「産地・原材料等の偽装」「安全・衛生管理」などよりも、「残留農薬」や「食品添加物」とすることが適切と考えられる。

2) 提供する情報

国民は食品の安全性に関して「安全性評価の根拠となるデータ」「安全性評価の結果」及び「食品選択などの判断に役立つ情報」を求めており、意見交換会においてもこのような情報を提供することが有用である。

Q14. あなたは、食品の安全性についてどのような情報がほしいですか。(いくつでも)



(2)行動指標への反映

1) 生活者の認知等の構造の反映

本事前調査の因子分析の結果からは、食品の安全性に関する認知と行動は、危害要因に対する認知（「危害」とする）、安全管理施策・体制など（「管理」とする）、選択購入・調理などの行動（「回避」とする）、安全管理や影響などに対する知識（「知識」とする）によって構成されていることがうかがえる。

よって、行動指標は、次のような因子に考慮しながら「危害要因に対する知識、認識」「管理の信頼性」「回避行動」「回答者の知識」などの項目を含むことが有効であると考えられる。

因子名	因子に影響する項目	
因子1	危害	Q7-3.得体が知れない
		Q7-5.摂取するたびに人体に蓄積されている
		Q7-4.将来世代にまで影響を及ぼす
		Q7-6.いったん被害を受けると回復がむずかしい
		Q7-2.問題が発生する確率が高い
		Q7-1.問題が発生したときの被害が大きい
		Q7-7.安全性を判断する材料が不十分
因子2	管理	Q7-12.行政による安全管理施策・体制が確立している
		Q7-13.生産者、流通過程の安全管理施策・体制が確立
		Q7-11.科学的な食品健康影響評価(*)が行われている
		Q7-10.危害の回避に必要な情報が提供されている
因子3	回避	Q7-15.危ないとされるものは買わないようにしている
		Q7-14.家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている
因子4	知識	Q7-9.どのように安全管理されているか知っている
		Q7-8.どのような被害・影響があるのか知っている

	因子1	因子2	因子3	因子4
Q7-3.得体が知れない	0.7565	0.0115	0.0670	0.0012
Q7-5.摂取するたびに人体に蓄積されている	0.7488	-0.0603	0.2533	0.0344
Q7-4.将来世代にまで影響を及ぼす	0.7371	-0.0117	0.1635	0.0968
Q7-6.いったん被害を受けると回復がむずかしい	0.7029	0.0091	0.2160	0.0915
Q7-2.問題が発生する確率が高い	0.6789	0.1649	0.0069	0.1263
Q7-1.問題が発生したときの被害が大きい	0.6784	0.0607	0.0998	0.0051
Q7-7.安全性を判断する材料が不十分	0.6138	-0.1489	0.2823	0.0177
Q7-12.行政による安全管理施策・体制が確立している	-0.0245	0.9116	0.0299	0.0657
Q7-13.生産者、流通過程の安全管理施策・体制が確立	-0.0055	0.7943	0.0777	0.0799
Q7-11.科学的な食品健康影響評価(*)が行われている	0.0651	0.7396	0.0235	0.2684
Q7-10.危害の回避に必要な情報が提供されている	-0.0036	0.7084	-0.0285	0.3973
Q7-15.危ないとされるものは買わないようにしている	0.2894	0.0163	0.7548	0.0378
Q7-14.家庭で食品の安全な保存、調理に気をつけている	0.2363	0.0924	0.6499	0.0903
Q7-9.どのように安全管理されているか知っている	0.0228	0.5147	0.0240	0.7329
Q7-8.どのような被害・影響があるのか知っている	0.2077	0.2960	0.1562	0.6424

固有値(回転後)バリマックス法

因子 No.	二乗和	寄与率(%)	累積寄与率(%)
1	3.66	24.38	24.38
2	2.93	19.53	43.90
3	1.26	8.38	52.29
4	1.24	8.23	60.52

2) 具体的な行動

「食生活によって健康に悪影響を与えないようにするために実際に行っていること」として、次のものがあげられた。

食生活による健康への悪影響回避のために生活者が行っていること

段階	行動の内容
食材の選択・購入	食材の選択、回避（加工食品、特定の食材の回避） 産地、生産者の選択、回避（外国産回避、国産・地元産等の選択） メーカー、流通経路の選択、回避（特定企業、流通経路の選択、回避） 危害要因の回避（農薬、食品添加物、遺伝子組み換え等の回避）
保存・調理・摂取	作り置き、買い置きをしない。 冷蔵・冷凍保存 加熱調理 食品、手、調理器具の洗浄 消費期限・賞味期限を守る。 自分の味覚・嗅覚で判断 バランスよく食べる
情報収集	情報収集（表示やインターネット等）

3. 意見交換会の実施

3.1 意見交換会実施内容

(1)開催概要

1) テーマ

基準値の2倍！どうしたらいいの？－残留農薬の危険性を考える－

2) 日程及び参加者

	日	時	場所	開催形式	参加者
1	11月1日	10:00～12:00	新宿	講義型	グループA 127人
2	11月1日	14:00～16:00	新宿	グループディスカッション型	グループB 113人
3	11月3日	10:00～12:00	浜松町	グループディスカッション型	グループB 119人
4	11月3日	14:00～16:00	浜松町	講義型	グループA 122人

2グループ(A,B)×2分割で計4回開催

3) 運営スタッフ

①講師

関澤純先生（元徳島大学総合科学部教授、元内閣府食品安全委員会・リスクコミュニケーション専門調査会座長、環境省中央環境審議会専門委員、食品総合研究所特別研究員）

②オブザーバー

内閣府食品安全委員会事務局 久保リスクコミュニケーション専門官
食品の安全性に係るリスクコミュニケーションの効果に関する調査検討会委員

③事務局

株式会社ノルド社会環境研究所

4) 会場

①新宿会場（11月1日）

ベルサール西新宿 1F HALL
東京都新宿区西新宿 4-15-3
http://www.bellesalle.co.jp/bs_nishishinjuku/photo/

②浜松町会場（11月3日）

コンベンションホール AP 浜松町
東京都港区芝公園 2-4-1 ダヴィンチ芝パーク B館地下 1F
<http://www.ap-hamamatsucho.com/>

5) プログラム

グループ A：講義型（11月1日午前、3日午後）

1日	3日	グループ A 講義型
10:00～10:10	14:00～14:10	開会・趣旨説明
10:10～10:35	14:10～14:35	DVD「気になる農薬」視聴
10:35～11:15	14:35～15:15	講演（関澤先生） 「基準値の2倍！」どうしたらいいの？－残留農薬の危険性を考える－
11:15～11:55	15:15～15:55	質疑応答・対話（関澤先生・事務局） ・DVD、講義の内容に関して、会場から質疑受付 ・関澤先生または事務局より回答・対話
11:55～12:00	15:55～16:00	来場者アンケート記入（事務局）
12:00	16:00	閉会（事務局） ・アンケート回収

グループ B：グループディスカッション型（11月1日午後、3日午前）

1日	3日	グループ B グループディスカッション型
14:00～14:10	10:00～10:10	開会・趣旨説明
14:10～14:35	10:10～10:35	DVD「気になる農薬」視聴
14:35～14:45	10:35～10:45	グループディスカッション 導入
14:45～15:10	10:45～11:10	グループディスカッション ディスカッション
15:10～15:55	11:10～11:55	グループディスカッション グループ発表・回答・対話
15:55～16:00	11:55～12:00	来場者アンケート記入（事務局）
16:00	12:00	閉会（事務局） ・アンケート回収

(2)テーマと実施形式

1) テーマ設定

①対象ハザード

意見交換会のテーマとするハザードの選定においては、次の事項を考慮した。

■生活者の不安が大きいこと。

事前調査においては、不安を感じる人が多いハザード「食中毒（微生物、ウイルス、かび毒、自然毒）」(80.4%)、「残留農薬」(77.0%)、「BSE（牛海綿状脳症）」(76.9%)、「鳥インフルエンザ」(76.7%)であったことを考慮し、残留農薬、BSEを優先することとした。

■生活者にとって身近に感じられること。

遺伝子組み換え食品は生活者にとって選択の余地がなく、意識されていない可能性がある。またBSEについては現在は問題となる食品が実際に流通していないので、優先度を下げることにした。

■リスク・ベネフィットの観点から論じることができること。

食中毒、BSE、鳥インフルエンザなどは優先度を下げることにした。
上記の条件を考慮し対象ハザードを残留農薬とした。

②テーマの検討

今回の参加者は、通常の見聞交換会に参加するような自ら主体的に情報を求める者ではないことから、抽象的な議論ではなく、具体的な場面を設定してテーマを容易に想起することが必要と考えられた。また、短時間での実施となることから、議論の拡散を防ぐための工夫が必要と考えられた。

これらを考慮して、平成20年に現実に報道された事象を参考に「ある農産物から、基準値の2倍の農薬が検出された」という架空のケースを設定し、具体的かつ容易にテーマを想起できるように検討した。

最終的に、テーマを「基準値の2倍！どうしたらいいの？—残留農薬の危険性を考える—」とした。

2) 実施形式

2種類の意見交換会を実施することとした。一方のグループは講義型、もう一方はグループディスカッション型とした。

	グループ A	グループ B
形式	講義型	グループディスカッション型
説明内容	やや多め 用意したスライドを全て講義で説明	やや少なめ 用意したスライドから参加者の疑問が出たものを説明
質疑応答・対話	一方的に講義等で提供した情報に対する質疑応答・対話	参加者の疑問に沿った質疑応答・対話
配付資料	A,B 共通（Aの講義用スライドから）の資料を使用。 資料及び講義内容の作成にあたっては、あらかじめ（応募時に）「残留農薬について知りたいこと」をたずねておき、その内容に沿って作成した。	

3) 進行・提示資料

①DVD「気になる農薬」(グループA、Bとも)

農薬の分解性や排泄のメカニズムを調べながら、食品安全委員会が行っている農薬のリスク評価を紹介するもの。講義やディスカッションに先立って、基本的な情報を提供することを目的として視聴していただいた。

気になる農薬



②講義 (グループA)

グループA (講義型) では、事例のようなケースに遭遇したときの考え方、安全性確保の実態などをスライドを用いて講義したうえで質疑応答の時間を設けた。

主な講義内容

- 基準値違反の情報提供、報道の問題点と改善方策
- 農薬の残留基準値の決め方
- 基準値作成の手順
 - 毒性試験 (動物実験)
 - ADI と残留基準の関係
 - 基準値の求め方 (計算例)
 - 基準値の設定方法 (作物ごとに基準設定)
- ポジティブリスト
- 現在の農薬のほとんどは毒物・劇物ではない
- 食品規格の国際的な考え方
- 輸入品に対する検査
- 輸入食品の安全性
- 複合作用
- 農薬の効用
- 有機栽培野菜の安全性
- 日本と米国での作物の農薬使用量 等

講義では、テーマである「ある農産物から、基準値の2倍の農薬が検出された」という情報の意味合いを伝えるため、特に、基準値の求め方、設定方法の説明に重きを置いた。

講義資料（配付資料）

もっと知りたい食の安全
基準値の2倍！どうしたらいいの？
ー残留農薬の危険性を考えるー

配布資料

平成21年11月

関澤 純
独立行政法人 食品総合研究所

1

基準違反への対応のあり方について

- 行政の対応** 「健康に影響はない」「冷静な対応が必要」
⇒問題はないと発表しつつ、食品は回収、廃棄
- 毒性** 危険性が低い食品や企業名の公表
⇒問題ない企業名の公表は必要か？
検査強化での対応
⇒食品をすべて検査することは不可能
- 企業の対応** 企業名公表の企業は食品の回収
⇒問題はない食品の回収は必要か？
- 消費者の声** 困惑や不安の声
⇒行政と消費者とコミュニケーションの必要性
食品すべてに検査を求める声
⇒安易な検査強化発言をしたための誤解

3

情報提供の問題点と改善について

II、解決のための対策

- ①用語が難しい ⇒ 日常語で言い換える
 - ・専門的な言葉の禁止
 - ・カタカナ語をむやみに使わない
- ②文章の表現の問題 ⇒ 簡潔な言葉で明確に説明する
 - ・できるだけ短い文章で
 - ・結論をはっきりと示す
- ③不安や誤解をまねく⇒ 具体例で説明
 - ・身近な具体例で受け入れられやすくする

5

農薬の食品残留基準違反の新聞報道から

…汚染米から、農林水産省の検査で検出された農薬メタミドホスの残留量は、0.02ppmだったことがわかった。食品衛生法で定める基準(0.01ppm)の2倍にあたる。

[2008.10.7 朝日新聞 汚染米事件]

「基準の～倍」の表現：

スピード違反とは大違いなのに！

⇒残留基準がどのように設定されているか
知らない人には不安

2

情報提供の問題点と改善について聞きました

I、理解しにくい原因

「ポジティブリスト制度」 『食品の安全性に関する用語集(第4版)』

原則禁止の中で、禁止していないものを例外的に一覧表に示す制度をいいます。従前より、食品添加物については、「ヒトの健康を損なうおそれのない場合」として厚生労働大臣が指定するもの以外は、原則として使用が認められないポジティブリスト制度がとられてきました。また、平成18年5月からは、食品中に残留する農薬、飼料添加物や動物用医薬品(以下「農薬等」)についてもポジティブリスト制度が導入され、食品中に一定の量を超えて農薬等が残留する場合、その食品の販売等は原則禁止されることとなります。

①用語が難しい:原則禁止、例外、原則の用語

消費者 企業 報道

②文章の表現の問題:文章が長い、表現が堅苦しい

消費者 研究

③不安や誤解をまねく:禁止かそうでないか、なぜ導入されたか

消費者 企業 報道

4

情報提供の問題点と改善について

III、分かりやすくする改善案の提示

「ポジティブリスト制度」 改善のために作成した説明文

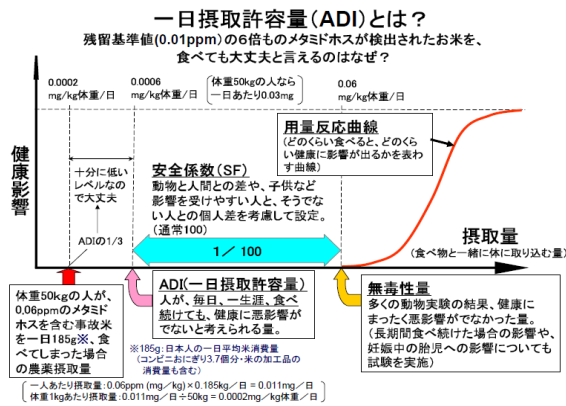
農薬の場合は適用作物と使用条件を限って許可した品目と作物について 食べて安全である基準値とともに一覧表(許可リスト)に示す方法です。輸入食品に海外で許可された農薬が見つかったも国内基準が全く対応できなかったため、リスク評価をして、国内で許可する農薬とともに一覧表で示すことになりました。

誤解を招く「原則禁止の中で、禁止していないもの」という表現を避け、導入された理由の説明も加えた。

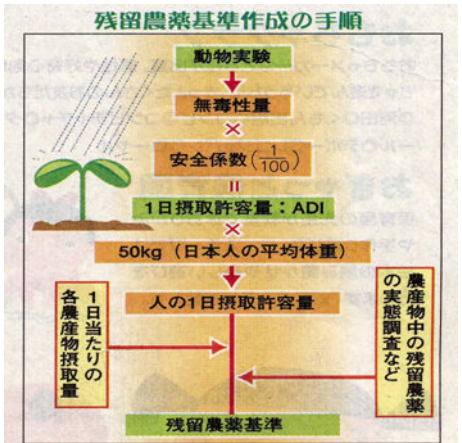
改善されたと回答した割合(対象別)

職業	消費者	行政	企業	研究	報道
%	100.0	33.3	100.0	75.0	0(1人)

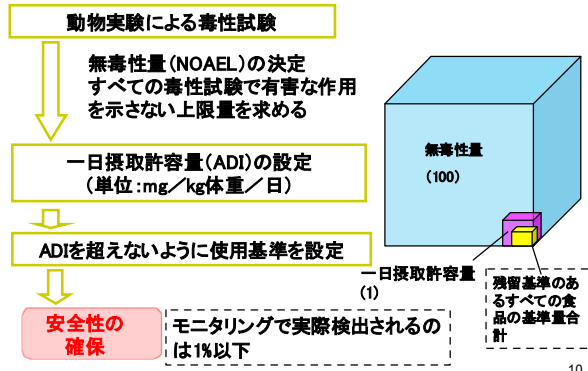
6



情報提供は改善できる！
 徳島県では分かりやすく説明しています



農薬の基準はどのように決める？



最も低い量は犬で検出 無毒性量の検出・確認の例

慢性毒性試験	ビーグル犬	湿餌投与	一群雌雄各6匹	1年間	0.2、8、32 ppm
イヌデータ	8 ppm 以上で雌雄で脳と赤血球のコリンエステラーゼ活性抑制(20%以上)				無毒性量は2ppm雌雄: 0.06 mg/kg 体重/日
ラットデータ	2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット) 一群雌雄各50匹、5段階				無毒性量は2 ppm雌雄とも(雄: 0.1 mg/kg アット体重/日、雌: 0.12 mg/kg 体重/日)
マウスデータ	2年間発がん性試験(マウス) 一群雌雄各50匹、4段階				無毒性量は5 ppm雌雄とも(雄: 0.67 mg/kg 体重/日、雌: 0.78 mg/kg 体重/日)

ADIと残留基準の関係はこうです！

認められるような健康上のリスクを伴わずに、人が生涯にわたり毎日摂取することが出来る量
 $ADI = \text{無毒性量} / \text{安全係数}(100)$
 ADIは無毒性量の100分の1！
 ADIは動物には全く害のない量にさらに100倍の安全率を見込んでいる
 $ADI \times 80\% > \text{総計}(\text{残留基準値} \times \text{食品摂取量})$
 →トータルの残留農薬量がADIを超えないように個々の食品の残留農薬基準を設定

実際にあてはめてみよう！

慢性影響のADIは $0.0006 \text{ mg/kg 体重/日}$
 $\times 50$
 体重50キログラムの人では 0.03 mg となるがこの値は

急性の影響は別の実験から24時間以内に健康に悪影響を与えない量(急性参照用量)は一日あたり体重1kg当たり 0.003 mg であった
 $\times 50$
 体重50キログラムの人では 0.15 mg となるがこの値は

0.02 ppm メタミドホスを含む米を毎日 1.5 kg ($0.03 \div 0.02 = 1.5 \text{ kg}$) = 米10合(平均的な日本人の消費量の10倍)に相当し、実際は事故米だけを主食として一生懸命食べ続けることは考えにくく心配はいらぬ

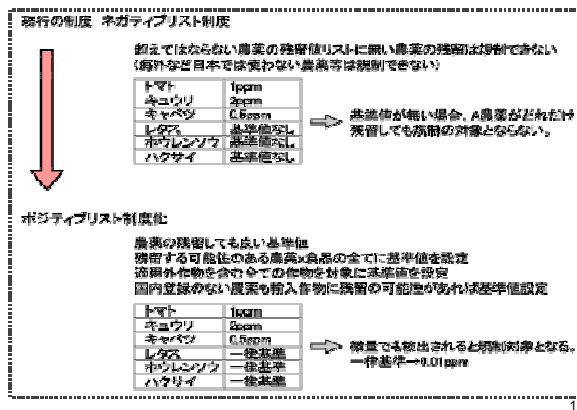
0.02 ppm のメタミドホスを含む米を一日に 2.5 kg ($0.15 \div 0.02 = 7.5 \text{ kg}$) = 51合(1合150g)相当でありこれほど食べられないので心配はいらぬ

メタミドホスの残留基準の一部(19品目のみ)
 実際は160品目に基準を設定(単位はppm) *百万分の一

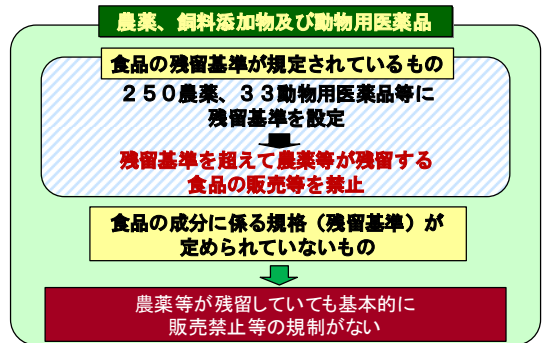
食品名	基準値	備考
米(玄米)	0.01	暫定
小麦	0.01	暫定
大麦	0.01	暫定
ライ麦	0.01	暫定
とうもろこし	0.1	暫定
そば	0.01	暫定
その他の穀類	0.01	暫定
大豆	0.05	
小豆類	2	暫定
えんどう	0.01	暫定
から豆	0.2	暫定
落花生	0.1	暫定
その他の豆類	0.3	暫定
ばれいしょ	0.25	
さといも類	0.01	暫定
かんしょ	0.01	暫定
やまいも(長いもをいう)	0.3	暫定
こんにやくいも	0.01	暫定
その他のいも類	0.01	暫定

(2回目のみ提示)

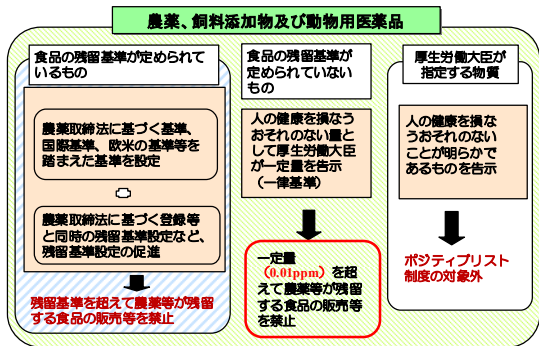
ポジティブリスト制度の適用により違反が増えた！



食品に残留する農薬等へのポジティブリスト制度の導入-1
【従前の規制】



食品に残留する農薬等へのポジティブリスト制度の導入-2
(平成18年5月29日施行)



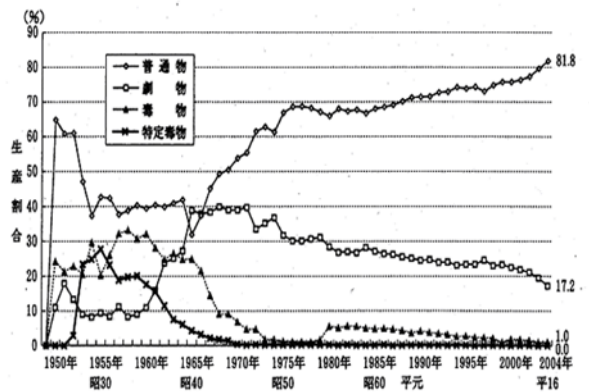
農薬について動物での毒性試験のみで20種類ある！

急性経口毒性試験	反復経口投与と神経毒性試験
急性経皮毒性試験	28日間反復経口投与と遅発性神経毒性試験
急性吸入毒性試験	1年間反復経口投与と毒性試験
皮膚刺激性試験	発がん性試験
眼刺激性試験	繁殖毒性試験
皮膚感受性試験	催奇形性試験
急性神経毒性試験	変異原性試験
急性遅発性神経毒性試験	・復帰突然変異試験
90日間反復経口投与と毒性試験	・染色体異常試験
21日間反復経皮投与と毒性試験	・小核試験
90日間反復吸入毒性試験	生体機能影響試験
	動物体内運命に関する試験

環境関連の試験の種類はこうなっている！

- 植物体内運命に関する試験
- ・ 土壤中運命に関する試験
 - ・ 好氣的湛水土壤中運命試験
 - ・ 好氣的土壤中運命試験
 - ・ 嫌氣的土壤中運命試験
- 水中運命に関する試験
- ・ 加水分解運命試験
 - ・ 水中光分解運命試験
- 水産動植物への影響に関する試験
- ・ 魚類急性毒性試験
 - ・ ミジンコ類急性遊泳阻害試験
 - ・ ミジンコ類繁殖試験
 - ・ 藻類生長阻害試験
- 水産動植物以外の有用生物への影響に関する試験
- ・ ミツバチ影響試験
 - ・ 蚕影響試験
 - ・ 天敵昆虫等影響試験
 - ・ 鳥類影響試験（強制経口投与と試験／混餌投与と試験）
- 有効成分の性状、安定性、分解性等に関する試験
- ・ 水質汚濁性に関する試験
 - ・ 環境中予測濃度算定に関する試験成績
- 農作物への残留性に関する試験
- ・ 作物残留性試験
 - ・ 乳汁への移行試験
- 土壌への残留性に関する試験
- ・ 土壌残留性試験（容器内試験／ほ場試験）
 - ・ 後作物残留性試験

農薬の急性毒性による分類の変遷



食品衛生法の規定より

第十一条 厚生労働大臣は公衆衛生の見地から薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて、販売の用に供する食品若しくは添加物の製造、加工、使用、調理若しくは保存の方法につき基準を定め、又は販売の用に供する食品若しくは添加物の成分につき規格を定めることができる。

2項 前項の規定により基準又は規格が定められたときは、その基準に合わない方法により食品もしくは添加物を製造し、加工し、使用し、調理し、もしくは保存し、その基準に合わない方法による食品、もしくは添加物を販売し、もしくは輸入し、またはその規格に合わない食品もしくは添加物を製造し、輸入し、加工し、使用し、調理し、保存し、もしくは販売してはならない。

20

国際的な食品規格での検討では

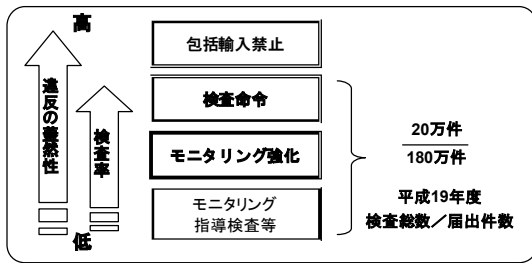
(1) オランダでは毎年約6千件の検査をしているが残留農薬違反が検出された際は、認可された基準値の2倍以下の違反の場合は分析機関の測定における不確実性を考慮し、事業者に警告をする。しかし違反が明確であり速やかなリスク評価の結果、急性のリスクが懸念される時は回収を命じている：FAO/WHO第39回残留農薬部会(2007)より

(2) サンプルングと分析における不確実性を考慮に入れた基準の設定と適用のあり方の国際的な調和の検討：第30回分析・サンプルング法部会(2009)

(3) 残留農薬安全性評価におけるリスクアナリシス原則の適用と残留農薬基準設定手法の再検討会議：第41回残留農薬部会(2009)

21

輸入時の検査体制の概要



22

風評被害? 「中国産=即危険?」販売中止、大量の食品廃棄

輸入食品検査「輸出国」「輸入時」「国内流通時」3段階で衛生対策確保

平成18年輸入食品監視統計：届出件数185万件(3156万トン)
 全検査数：203,101件(検査率11%)違反1515件
 (違反率は0.1%)
 モニタリング検査:79,665件(計画の102%実施)/違反:114件
 (違反率は0.1%)
 命令検査件数：100,108件/違反：681件
 (違反率は0.68%)
違反品は積み戻し、廃棄等の措置を実施する

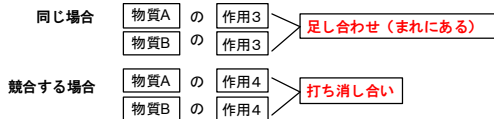
海外輸出用食品を製造する中国の工場はHACCPが導入され検査検疫済みマークであるCIQマークがないと輸出できず日本の中小零細工場より設備が整った工場も多いが.....

23

①作用が異なるものの場合 複合作用を科学的に考えると難しい

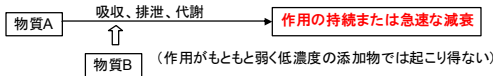


②作用が同じ、または競合する場合



③作用は異なるが、他の物質の作用を強める、あるいは弱める場合

：他の物質の吸収、排泄、代謝に影響を示す物質との組み合わせ
 (例外的できわめて高濃度同士の組み合わせの時のみ影響が見られる)



24

無農薬栽培の影響

農薬を使用する場合を100%とする

	収穫量	収益
水稲	74%	66%
小麦	64%	34%
りんご	3%	1%
もも	0%	0%
キャベツ	37%	36%

25

有機栽培はすべて本当に大丈夫ですか？

	無農薬栽培	通常栽培
市販野菜の農薬検出率	54%	45%

通常栽培と無農薬栽培の野菜を分析検出された農薬の濃度にもあまり差がない<神戸大学>

認証されている有機農業資材から外国で農薬登録された毒性の強い抗生物質殺虫剤が混入されていた。別の有機資材に合成ピレスロイド剤シベルメトリンが入っていた。こうした資材が環境保全型農業に便乗し新聞などで大々的に宣伝し販売されている。
千葉大学名誉教授・農業資材審議会会長本山直樹氏発表から

26

アメリカは小麦や大豆やとうもろこしなど農薬の必要が少ない作物を大規模栽培し、病気や害虫の影響を受けやすい果樹で使用する農薬量はアメリカも日本も大きく違わない

日本における農薬使用	作物名(群)	作付面積比(%)	ha当たり使用量(kg)	アメリカにおける農薬使用	作物名(群)	作付面積比(%)	ha当たり使用量(kg)
	果実	7.6	24.2		果実	1.2	26.4
野菜	11.5	17.2	野菜	1.5	12.6		
水稲	45.3	7.9	とうもろこし	31.6	2.5		
その他	35.6	2.0	大豆	25	1.6		
計	100.0	8.1	麦類	35.2	0.5		
			棉	5.5	9.9		
			計	100	2.4		

27

③グループディスカッション（グループB）

グループ B（グループディスカッション型）では、「汚染米から、農林水産省の検査で検出された農薬メタミドホスの残留量は、0.02ppm だったことがわかった。食品衛生法で定める基準(0.01ppm)の 2 倍にあたる。[2008.10.7 朝日新聞 汚染米事件]」という事案に遭遇したときに、何が知りたいのかグループで討議のうえで「これだけは知りたい質問」を発表してもらい、質問に対する回答として情報を提供した。

グループディスカッションの進行

段階		
導入(10分)	テーマ提示	<p>「汚染米から、農林水産省の検査で検出された農薬メタミドホスの残留量は、0.02ppm だったことがわかった。食品衛生法で定める基準(0.01ppm)の 2 倍にあたる。[2008.10.7 朝日新聞 汚染米事件]」 このような報道に接したとき、皆さんはどう考えるか呼びかけた。</p>
	作業内容説明、ゴールの明示	<p>本当に知りたいこと、知っておくべきと考えることは何か、グループで「これだけは知りたい質問」を1~2問を模造紙にまとめてもらうことをゴールとして説明した。(完成イメージを提示)</p>
		<p style="text-align: center;">模造紙完成イメージ</p>
ディスカッション(25分)	ひとりひとりの疑問の抽出	<p>あらかじめ配布した付箋紙に各自が知りたいことを記入していただいた。</p>
	グループ内で発表(アイズプレイク)	<p>各グループのテーブル上の模造紙に、自分が感じた疑問を紹介しながら付箋を貼り付けてもらった。(自己紹介を兼ねる)</p>
	グループ内での役割分担	<p>グループ内で以下の担当者を決めてもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①進行役: 議事進行・発表 ②タイムキーパー ③模造紙係: 付箋の整理 <p>ひとりひとりの疑問が書かれた付箋を模造紙上でグルーピングしながらグループとして特に知りたいポイントを整理し、最終的に 1~2 問の質問を作成し、模造紙内に記入してもらった。 ディスカッション時には、事務局スタッフを配置。2~3 グループに 1 名の担当スタッフがつき、さらに 2 名が全体を巡回して議論を支援した。</p>
発表・回答・対話(45分)	発表	<p>各グループの進行役が質問を発表</p>
	回答・議論	<p>各グループの疑問について専門家が回答し、参加者と議論。 グループ数が多く(各 13 グループ)、類似の質問も多くみられたことから、逐次ではなく、類似の質問にまとめて回答し、さらに質疑応答した。</p>

今回の意見交換会は介入試験を目的としており、もう一方の開催形式である講義型との比較のため、講義型と総時間数を揃える、グループディスカッション型ではあえて講義をしないなどの条件を課しており、標準的なグループディスカッションとは以下の点が異なる。

- 事前講義をせず（DVD 視聴のみ）でディスカッションに入っている。
- 運営側からのファシリテータをグループに常駐させずに、進行をグループ任せている。
- ディスカッションの時間及びその後の議論の時間が短めである。
- 参加人数、グループが多い（各回 100 人超、各 13 グループ）
- 時間、人数の制約により、一問一答形式ではなく類似の質問についてはまとめて回答する。

このように、標準的なグループディスカッションよりも質的には簡素な設計となっている。

4) 各回の特徴

①実施状況

意見交換会は、各グループごとに同一のプログラムで実施したが、時間配分や参加者の反応等により、運営方法に若干の違いが生じている。下表は主な実施状況の違いである。

実施状況の違い

		講義型		グループディスカッション型	
		講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
資料 説明内容	参加者の意見の反映	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。 毒性試験から基準値を求めるまでの具体的な計算例を追加。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。 毒性試験から基準値を求めるまでの具体的な計算例を追加。
	資料からの説明内容	資料に沿って講義した。	資料に沿って講義した。(一部割愛)	資料はほとんど使用しなかった。 質疑への応答において関係するページを適宜参照したのみ。	一部使用した。 質疑応答において、資料の一部を用いて短く講義した。
	説明内容に反映したことの伝達	応募時に寄せられたことを説明内容に反映したことに言及。	内容に反映したことは伝えなかった。	内容に反映したことは伝えなかった。	内容に反映したことは伝えなかった。
DVD「気になる農業」		最初に提示	最初に提示	最初に提示	最初に提示
専門家の話		講義(50分) 質疑応答(40分)	講義(40分) 質疑応答(40分)	まとまった話はなし。 ディスカッション後の質疑応答のみ。(45分)	まとまった話はなし。 ディスカッション後の質疑応答で、資料を用いて順序立てて回答。(51分)
専門家との対話・質疑応答		講義後質疑応答(40分)	講義後質疑応答(40分) 多少、本題から外れるテーマの質問があったが、可能な限り回答した。(内閣府事務局も回答)	ディスカッション後に質疑応答(40分(各グループの発表時間含む)) ディスカッション後、各グループからの疑問に対して回答。ひとつひとつではなく、類似の疑問にまとめて回答した。	ディスカッション後に質疑応答(51分(各グループの発表時間含む)) ディスカッション後、各グループからの疑問に対して回答。ひとつひとつではなく、類似の疑問にまとめて回答した。
他の参加者の意見にふれる機会		講義後質疑応答(40分)	講義後質疑応答(40分)	グループディスカッション(45分) 10~13人×13グループ ディスカッション結果発表、対話・質疑応答(40分)	グループディスカッション(46分) 10~13人×13グループ ディスカッション結果発表、対話・質疑応答(51分)
その他					不規則発言あり 音声トラブルあり

②説明内容（提示したスライド）

下表は、各回で提示・説明したスライドの一覧である。

講義型は講師・運営側で提示内容を決めて情報を提供した。1回目よりも2回目の情報内容が少ない。これは、各形式1回目を実施後の反省から、複雑と思われる内容を一部割愛して、代わりに1回目で説明不足の感があった基準値の決め方を丁寧に説明したためである。

グループディスカッション型では、質問に答える形式で情報を提示した。このため、情報提供内容は参加者の興味、関心に依存している。特に、グループディスカッション型1回目の説明内容は他の回と比較して少ない。

提示スライド

		講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
1	タイトル	○	○	○	○
2	新聞報道から	○			○
3	基準違反への対応のあり方	○			
4	情報提供の問題点と改善(理解しにくい原因)	○			
5	情報提供の問題点と改善(解決のための対策)	○			
6	情報提供の問題点と改善(分かりやすくする改善案)	○			
7	一日摂取許容量(食品安全委員会)	○	○	○	○
8	情報提供は改善できる(徳島県)	○			
9	残留農薬基準作成の手順	○	○	○	○
10	農薬の基準はどのように決める?	○	○	○	○
追加1	無毒性量の検出・確認の例		○		○
11	ADIと残留基準の関係はこうです!	○	○		○
追加2	実際にあてはめてみよう!		○		○
12	メタミドホスの残留基準の一部	○	○		○
13	ポジティブリスト制度の適用により違反が増えた!	○			
14	ポジティブリスト制度の導入(従前の規制)	○			
15	ポジティブリスト制度の導入	○			
16	ほかに食品安全関連で聞く言葉の例	○			
17	動物での毒性試験のみで20種類ある!	○	○	○	○
18	環境関連の試験の種類はこうなっている!	○	○		○
19	農薬の急性毒性による分類の変遷	○	○		○
20	食品衛生法の規定より	○			
21	国際的な食品規格の検討では	○	○		
22	輸入時の検査体制の概要	○	○		○
23	風評被害?中国産	○	○	○	○
24	複合作用を科学的に考えると難しい	○	○	○	○
25	無農薬栽培の影響	○	○		○
26	有機栽培はすべて本当に大丈夫ですか?	○	○		○
27	日米の農薬使用量の比較	○			

③質疑応答内容

下表は、各回の参加者からの質問の内容である。

今回のテーマは主に安全性評価を中心としていたが、講義型では主に安全性評価に関する質問が多かったのに対して、グループディスカッション型では管理・対策に関する質問が多かった。

講義型2回目については健康エコナ問題や有機・無農薬野菜のおいしさ、栄養価などテーマを逸脱する質疑もあった。

質疑応答内容

		講義型(1 回目)	講義型(2 回目)	グループ ディスカッ ション型(1 回目)	グループ ディスカッ ション型(2 回目)	
安全性 評価	評価・基準値	農薬の作用(虫を殺すメカニズム、耐性)	○	○		
		基準値の決め方(ADI、年数、食品ごとの差、個人差等の考慮)	○		○	○
		新たな知見の反映状況(基準見直し頻度)	○	○		
		新しい(選択性のある)農薬と古くから使われている農薬の割合		○		
		複合作用の影響		○	○	○
		農作業者の曝露の評価		○		
		環境への影響の評価			○	
		基準値の国際間調整、共通化の動向		○		
	輸入食品	輸入食品の安全性	○	○	○	○
		安全基準に対する欧米と日本の消費者の意識の違い	○			
	加工食品等	加工食品、外食の安全性	○	○		○
	有機・無農薬 産地	有機・無農薬野菜と普通の野菜の違い	○	○	○	○
	産地による安全性の違い	○	○			
管理・ 対策	管理体制	検査・管理体制		○	○	
	発生時対策 予防策	原因究明、罰則、再発防止策		○	○	
		基準値を超えた際の人体への影響			○	○
		基準値を超える食品を摂取した際の対処方法			○	○
		水洗の有効性、家庭でできる対処方法、自己防衛策	○		○	○
		農業者ができる対処方法				○
	危害情報、信頼できる情報の取得方法	○	○	○	○	
他	健康エコナ		○			
	有機・無農薬食品のおいしさ、栄養価		○			

グループディスカッションにおける各グループからの質問

■ 基準値を超えた際の人体への影響

- 基準値を超えたらどのような影響があるのかを具体的に。
- どのくらい食べたらどう影響が出るのか。
- もっと人体への影響をわかりやすく説明してほしい。
- 人体への影響は具体的にどのようなものがあるか。
- 人体への具体的な影響ないしは農薬の危険値をもう少し細かく知りたい。
- 循環器、肝臓、特定疾患を持つ人が農薬を摂取したときの影響は。
- 年齢、性別によって許容量が変化するのではないか。
- 持病のある方、及び妊婦、子供への影響は。
- 0.01ppm の 2 倍の差は？それによる人体の影響と対処法（男女・体質・歳 etc.）
- 2 倍というのは本当に大丈夫な数値なのか。
- 0.02ppm の数値は人体にどのような悪影響があるのか。
- 倍になったところでどの程度あるのか。
- ものすごく小さい値の 2 倍は危険なのか。
- 0.02ppm の残留農薬量があった場合、米をどれだけ食べても大丈夫なのか。
- 定義と危険性という問題で、基準値の 2 倍というのはどのようなものをまず把握したい。
- 0.02ppm というのはどういう単位でどういう量なのか。
- 基準値の 2 倍がいったいなんなのかわからない。それが本当に人体に影響のある範囲なのか。

■ 複合影響、変成

- 単品の農薬ではなく添加物まで含めた相互作用はチェックできるのか。
- 体の中で複数の農薬が混ざったときの影響についての情報はあるのか。
- 特定の薬を服薬されている方の副作用は。
- 複合による影響はあるのか（他の薬、持病、妊婦さん etc.）
- 安全と言われる薬品が加工された事により変質することはないのか。

■ 個人的な対処方法

- 食べてしまった、入手してしまった時の対処法は？
- すでに汚染米が出回っているときのリスク回避の方法と、汚染米を口にしないためのリスク回避を知りたい。
- 対応法。もし買った場合に、洗うとか、家庭でできるような対応法はあるのか。
- よく洗うということでこういったリスクは回避できるのか。
- 基準値は洗う前のものか、洗ったらどれくらい減るのか。
- どうすればリスクを避けたり敬遠できるのか。
- 除去方法。たとえば炊いたらなくなるのか、加工しても残っているのかなど。
- 体内の入る前の軽減する方法（調理・洗浄他）はないか。
- 自己防衛の手段。洗ったらどのくらい落ちるのか、米は研いだらどのくらい落ちるのか、七分づきぐらいにしたら落ちるのかなど、個人のレベルでの防衛手段を教えていただきたい。

■ 信頼できる情報源

- 情報の信憑性の根拠はどこにあるのか。
- 正確な情報を何処から仕入れたらよいか。
- マスコミの曲げた情報ではなく、正確な情報をどのように得たらいいのか。
- 全国的、経年的な統計調査（人体への累積、野菜への残留）はあるのか。

■ 検査・管理体制

- 農薬の具体的な管理体制について。（調査方法、加工品の管理、調査、輸入品の管理調査）
- 検査体制とは？2 倍と分かったところはどこ？検査の手順は？その米の検査基準は？
- 検査方法についていろいろと教えていただきたい。
- 農薬の広い意味でのチェック・管理（使用者への罰則、流通ルート段階でのチェック etc.）はどうなっているのか。

- これらの内容が客観的に評価され、複数のところが評価しているのか。
- 加工食品の原材料（特に輸入品）などの残留農薬の検査も同じ基準で丁寧に行われているのか。
- 社会の仕組みとして、二度とこの問題を発生させないための対策をどうしていけばいいのか。
- 農薬は管理されているが無農薬は管理されていないのではないのか。
- 外国産の野菜ではどうなのか（中国など）。対策や実状はどうなっているのか。
- 行政の対応。監査のしくみ、国際間のばらつき。
- 農薬の検査管理の体制はどうなっているのか。どこの機関がやっているのか。
- 発生原因と具体的な対応。

■ 基準値の決め方、信頼性

- メタミドホス自体がよく分からない。メタミドホスの毒性と基準値の決め方及び影響がどのようなものか。
- 基準値の0.01という値はどのように決めたのか。
- 基準値を決め方を知りたい。
- 基準値を求める際に使われる「一生」とは何年か。
- 基準値は安全な値なのか。
- ADIは何から決めたのか。たとえば変異原性なのか催奇性なのか、慢性毒性なのか。
- 個人差、年齢差があるのに平均的なデータを基にした判断でよいのか。
- 基準値自体が適正なものなのか。
- 基準値をどのように決めているのか
- 安全の基準について明確な算定式。
- 調査段階でのサンプル量というのはどのような形で決まっているのか。

■ 流通経路、リスクの範囲

- 米のどの部位から検出されたのか。
- この米の流通経路はどのようになっていたのか。一般に流通したのか。
- 産地、加工品なら原材料など、リスクの範囲を明確にして欲しい。

■ その他（環境内運命、農薬の使用法、ppm）

- 農薬を散布された農作物以外に、土壌に入ってそれが分解されずに河川等流れて、それが魚介類に蓄積される、と、環境全般に与えるような影響のようなことまで研究はされているのか。
- 農薬の使い方はどうなっているのか。使う側での個人差は。
- ppmの意味を知りたい。

4. 意見交換会参加者による評価（当日）

4.1 意見交換会来場者アンケート

(1)調査概要

1) 調査目的

意見交換会のプロセス、内容について満足度、理解度等を定量的に把握する。

2) 調査方法

質問紙による（当日配布、当日回収）

3) 調査対象及びサンプル数

調査対象者（意見交換会参加者）

グループ	11月1日	11月3日	計
グループA(講義型)	127	122	249
グループB(グループディスカッション型)	113	119	232
計	240	241	481

4) 調査実施時期

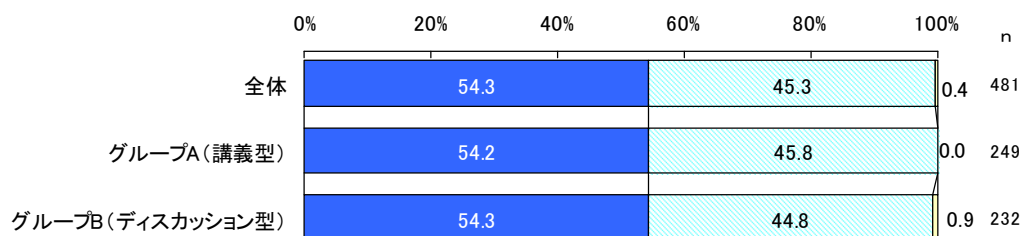
平成21年11月1日及び11月3日

(2)調査結果

1) 回答者属性

①性別

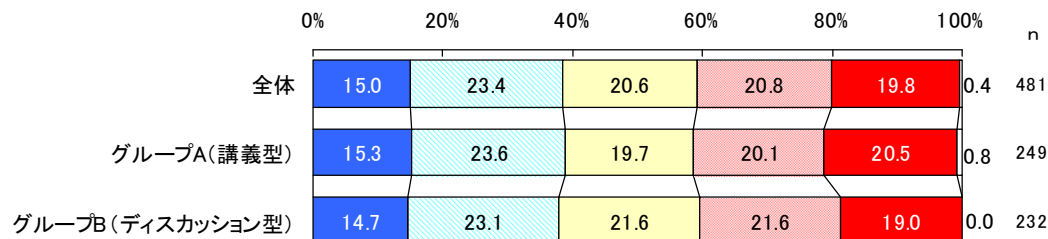
性別



■ 男性 □ 女性 □ 不明

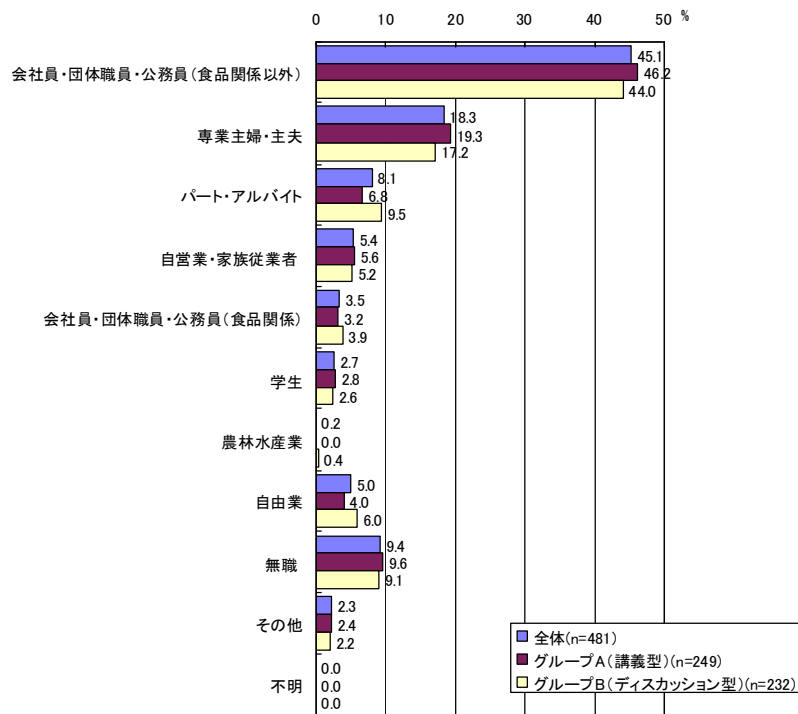
②年齢

年齢



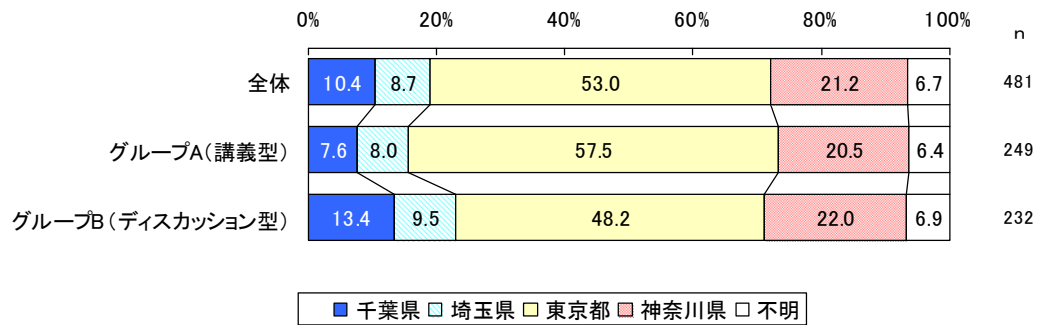
■ 20代 □ 30代 □ 40代 □ 50代 □ 60代 □ 不明

③職業



④居住地

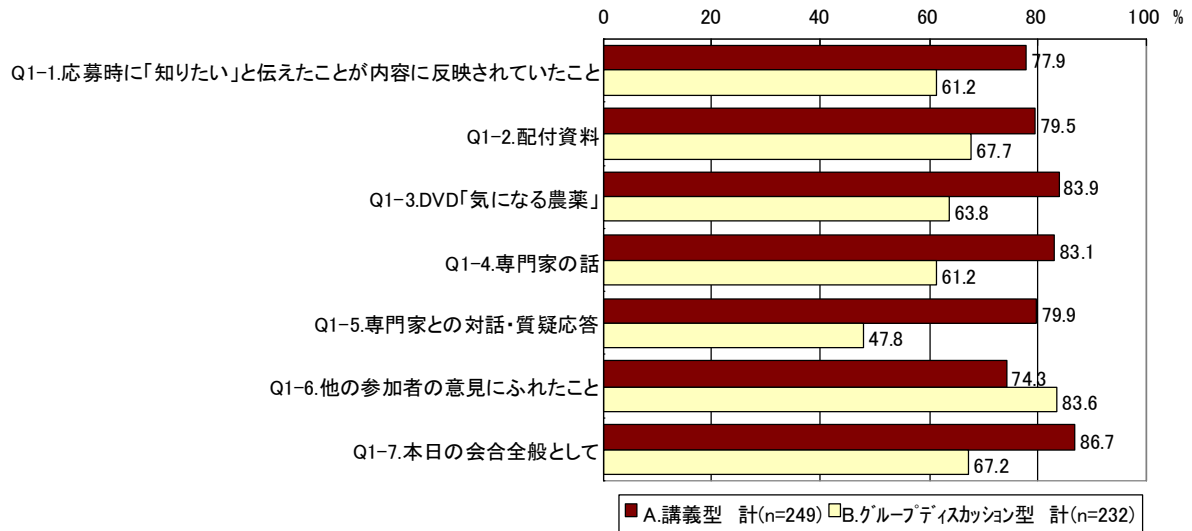
居住地



2) 満足度評価

- 全体的にグループ A(講義型)での満足度が高い。特に「専門家との対話・質疑応答」について満足した人の割合は、グループ A(講義型)とグループ B(グループディスカッション型)で 30%以上の差がある。
- グループ B(グループディスカッション型)の満足度が高かったのは「他の参加者の意見にふれたこと」のみである。

満足(「やや」含む)と回答した人の割合



- 「他の参加者の意見にふれたこと」については 5%有意水準で B(グループディスカッション型)の満足度が高く、それ以外の全ての項目については、1%有意水準でグループ A(講義型)の満足度が高い。

独立性の検定結果 (検定方法: 適合度によるカイ自乗検定)

	グループ A(講義型) (n=249)	グループ B(ディスカッション型) (n=232)	比率差	χ^2 値	自由度	P値	判定
Q1-1.応募時に「知りたい」と伝えたことが内容に反映されていたこと	77.9%	61.2%	16.7%	15.91	1	0.0001	***
Q1-2.配付資料	79.5%	67.7%	11.8%	8.72	1	0.0032	**
Q1-3.DVD「気になる農業」	83.9%	63.8%	20.1%	25.47	1	0.0000	***
Q1-4.専門家の話	83.1%	61.2%	21.9%	29.00	1	0.0000	***
Q1-5.専門家との対話・質疑応答	79.9%	47.8%	32.1%	53.93	1	0.0000	***
Q1-6.他の参加者の意見にふれたこと	74.3%	83.6%	9.3%	6.25	1	0.0124	*
Q1-7.本日の会合全般として	86.7%	67.2%	19.5%	26.07	1	0.0000	***

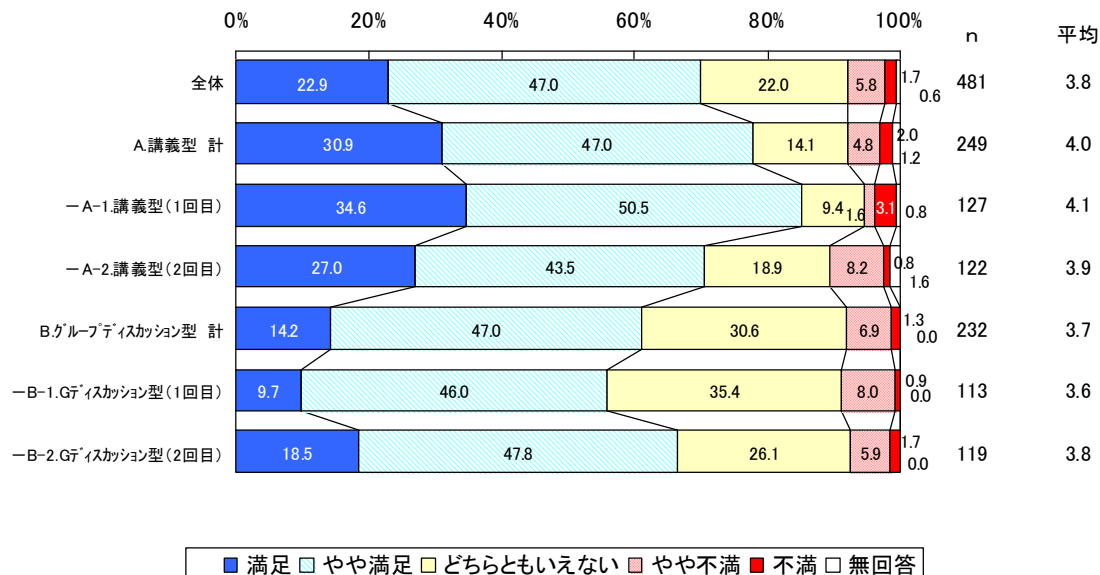
①応募時に「知りたい」と伝えたことが内容に反映されていたこと

関係する運営方法

		講義型		グループディスカッション型		
		講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)	
① 応募時に「知りたい」と伝えたことが内容に反映されていたこと	参加者の意見の反映	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。 毒性試験から基準値を求めるまでの具体的な計算例を追加。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。 毒性試験から基準値を求めるまでの具体的な計算例を追加。	
	②配付資料	資料からの説明内容	資料に沿って講義した。	資料に沿って講義した。(一部割愛)	資料はほとんど使用しなかった。質疑への応答において関係するページを適宜参照したのみ。	一部使用した。質疑応答において、資料の一部を用いて短く講義した。
	説明内容に反映したことの伝達	応募時に寄せられたことを説明内容に反映したことに言及。	内容に反映したことは伝えなかった。	内容に反映したことは伝えなかった。	内容に反映したことは伝えなかった。	

- 応募時に知りたいと伝えたことが内容に反映されていたことに「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の約 69.9%。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の 77.9%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では 61.2%である。
- 講義型 1 回目に対する評価が高く、グループディスカッション型では 2 回目の方が評価が高い。

Q1-1. 応募時に「知りたい」と伝えたことが内容に反映されていたこと



(注) 図表の「平均」は回答内容について、以下の配点で平均を求めたものである。

満足	5
やや満足	4
どちらともいえない	3
やや不満	2
不満	1

(以下の図について同様)

今回の意見交換会では、あらかじめ応募時に「基準値を超える残留農薬」に関して「知りたい」と思うことをたずねておき、その内容を配付資料に反映した。

グループ A（講義型）では、配布資料に沿って講義している。1回目と2回目の講義内容はほぼ同一だが、講義型の1回目では、応募時に寄せられた「知りたい」と思うことを説明内容に反映したことを伝えている。また、講義型の2回目では時間の都合により内容を一部割愛している。

グループ B（グループディスカッション型）では、グループディスカッションによって各グループから示された質問事項に沿って説明しているため、「知りたい」と伝えた内容が反映されたということは認識されていない。

その結果、現実に応募時に「知りたい」と伝えた内容に沿って講義した講義型の評価が高く、また、応募時に寄せられた意見を資料に反映したことを参加者に伝えた講義型1回目の評価が高くなっている。

講義内容やテーマ設定においては、応募者が知りたいことをたずねて内容に反映するとともに、参加者に対してあらかじめたずねたことが内容に反映されていることを伝えることが満足度の向上につながると思われる。

また、今回はグループディスカッション型においては講義は行わなかったが、グループディスカッション型の意見交換会においても、参加者の知りたいことを反映した講義を実施することが有効と考えられる。

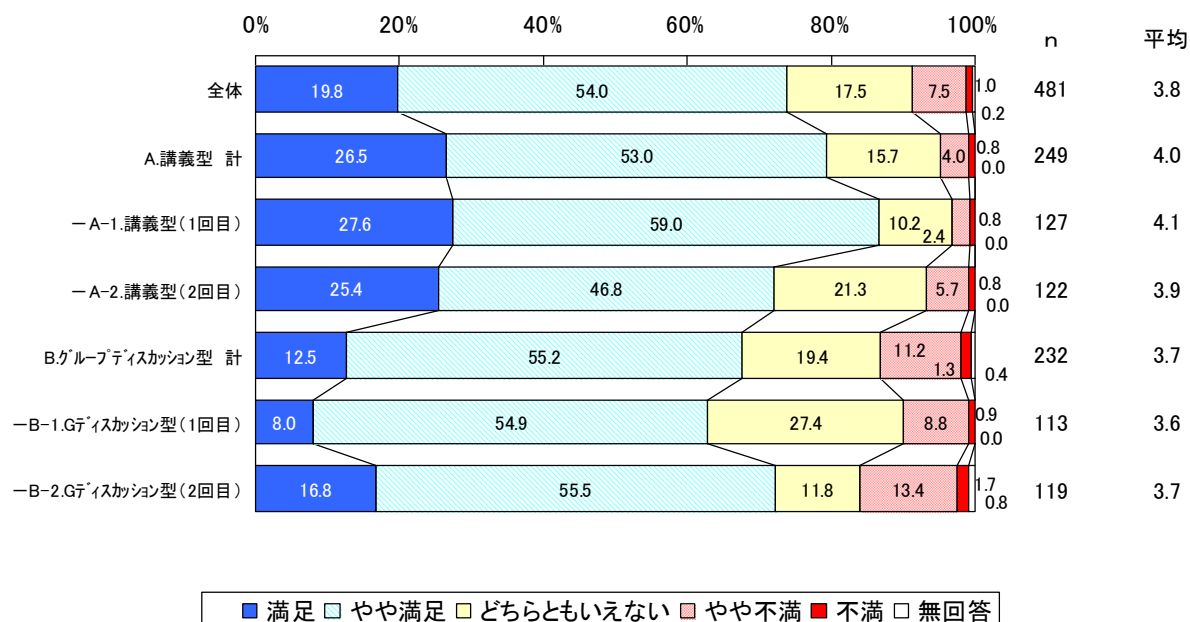
②配付資料

関係する運営方法

		講義型		グループディスカッション型	
		講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
① 応募時に「知りたい」と伝えたいことが内容に反映されていたこと ②配付資料	参加者の意見の反映	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。 毒性試験から基準値を求めるまでの具体的な計算例を追加。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。	応募時に「知りたい」と思うことをたずね、説明内容(配付資料)に反映した。 毒性試験から基準値を求めるまでの具体的な計算例を追加。
	資料からの説明内容	資料に沿って講義した。	資料に沿って講義した。(一部割愛)	資料はほとんど使用しなかった。質疑への応答において関係するページを適宜参照したのみ。	一部使用した。質疑応答において、資料の一部を用いて短く講義した。
	説明内容に反映したことの伝達	応募時に寄せられたことを説明内容に反映したことに言及。	内容に反映したことは伝えなかった。	内容に反映したことは伝えなかった。	内容に反映したことは伝えなかった。

- 配付資料に「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の73.8%。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の79.5%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では67.7%である。
- 講義型1回目に対する評価が高く、グループディスカッション型では2回目の方が評価が高い。

Q1-2.配付資料



関連する自由回答

■ 初学者向けに工夫されている。

- DVD や資料も初学者向けに工夫されていてよかったと思う。(講義型 1 回目 男性 20 代)

■ 難解である。

- 配付資料の内容が難しかったので、ビデオに取り入れてほしいと思いました。(講義型 1 回目 女性 30 代)
- 専門家向けの資料みたいで理解しづらい。(グループディスカッション型 1 回目 男性 30 代)
- 資料に関して言えばもう少し誰が見ても理解できるものにした方がよい。(グループディスカッション型 1 回目 男性 20 代)

■ 印刷が見づらい

- スライドの印刷が読みにくい部分がある。PP の配布資料機能ではなく、プリンタの機能を使えばもっと大きくて見やすいのに…と思った。(講義型 2 回目 女性 30 代)

■ 資料を説明、活用すべき。(グループディスカッション型)

- 資料を読む時間がほしかったです。(グループディスカッション型 1 回目 男性 30 代)
- DVD と資料内容の説明時間が短すぎるので判りにくい。(グループディスカッション型 1 回目 男性 50 代)
- スライドを全て説明して頂けなかったなので、全体としてはわかりづらかったです。(グループディスカッション型 2 回目 女性 40 代)
- スライドや配布資料がうまく活かしきれてない。(グループディスカッション型 2 回目 男性 20 代)
- せっかくの資料なのだから、もっとうまく活用して下さい。(グループディスカッション型 2 回目 女性 50 代)
- 資料をいただきましたが、その資料を読む時間がほしかったです。DVD と合わせ、この資料の説明が必要だったと思います。(グループディスカッション型 1 回目 男性 30 代)

■ 説明と資料の順序が一致していない。(グループディスカッション型)

- 資料の順が説明時と違ってわかりにくかったです…。(グループディスカッション型 2 回目 女性 20 代)
- 資料があっちこっちバラバラでみづらかった。(グループディスカッション型 2 回目 女性 30 代)
- 資料の順番もバラバラで見にくい。(グループディスカッション型 2 回目 女性 20 代)
- 最初に配布資料の説明をして欲しかった。その上でギモン点を出した方がよかった。(グループディスカッション型 2 回目 女性 40 代)

■ 資料の内容、掲載してほしいことなど

- ADI についてのグラフ。安全性が分かりやすいものになっていると思う。頂いた資料に関して「情報提供の問題～Ⅲ～」にある回答割合の信用性が感じられない。回答人数が少ないのが明らかな数値。(講義型 2 回目 男性 20 代)
- 有機・無農薬栽培と通常栽培の分析結果データを詳しく知りたい。本日の資料のみでは疑問が残る。(講義型 2 回目 男性 40 代)
- 私たち一般消費者がより優れた正しい情報を得る。又は疑問を解決する HP、機関などの具体的な情報を合わせて色々と伺いたいしそれらの具体的な情報を資料としてもらいたい。(講義型 2 回目 女性 50 代)
- 大変良い資料ですが、資料として配布するにはプラスαをつけてほしかったです。(資料 P○ごらん下さいにとどめ、資料以外の事を 30 分間聞きたかったです)(グループディスカッション型 1 回目 女性 50 代)

配付資料は 25 頁カラー印刷のプレゼンテーションであり、そのまま講義に用いることを前提に作成されている。資料は各回ともほぼ同一の内容である(各グループ 2 回目は 2 枚追加)ので、この評価の差は資料の利用方法の違いに由来すると考えられる。

講義型では資料に沿って説明しているが、グループディスカッション型では質疑応答に答える際に必要に応じて参照するにとどめた。このためグループディスカッション型では資料の大半は説明されなかった。また、資料の順に沿って体系的な説明はできなかった。このため資料を説明すべきとの指摘がみられた。また説明と資料の順序が一致していないとの指摘を受けることとなった。

講義型 1 回目と 2 回目にも評価に差異がある。運営上の違いは 1 回目では参加者が知りたいと思う内容を反映したことを伝えたこと、資料を割愛せずに全て説明したことであり、これらが影響していると考えられる。

資料については、講義型ではさらに追加して欲しい内容など建設的な意見がみられたが、グループディスカッション型では利用方法や説明不足に関する意見が目立った。資料を配付するからには、適宜参照だけでなく、ひとつおき順序立てて体系的に説明する時間を設けるなどして活用することが満足度の向上につながる。

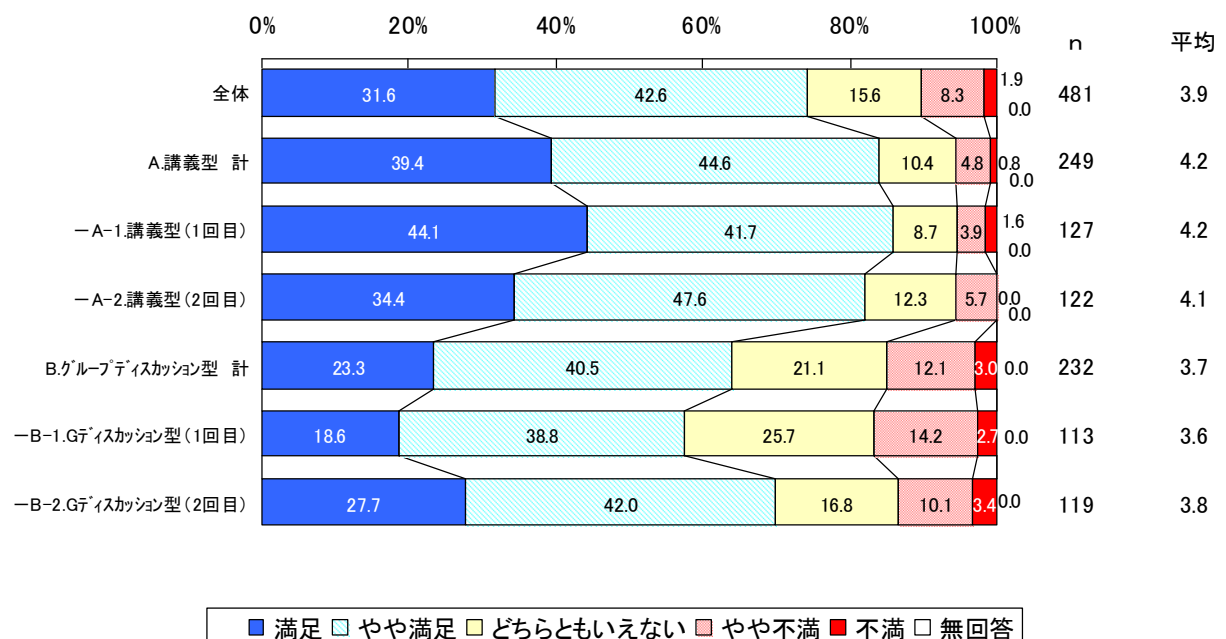
③DVD「気になる農薬」

関係する運営方法

	講義型		グループディスカッション型	
	講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
③DVD「気になる農薬」	最初に提示	最初に提示	最初に提示	最初に提示

- DVD「気になる農薬」配付資料に「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の74.2%。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の83.9%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では63.8%である。
- グループディスカッション型では1回目よりも2回目の評価が高い。

Q1-3.DVD「気になる農薬」



関連する自由回答

- DVDはわかりやすい。
 - TVでDVDを放映して下さい。(講義型1回目 男性 60代)
 - DVDはとても分かりやすかった。(講義型1回目 女性 30代)
 - DVDや資料も初学者向けに工夫されていてよかったと思う。(講義型1回目 男性 20代)
 - DVDと講演がわかりやすく良かったです。農薬について気になっていたものの、自分ではなかなか調べられないので。(講義型1回目 女性 30代)
 - DVDは分かりやすかったです。(グループディスカッション型1回目 男性 20代)
 - DVDはとても分かりやすく無知だった私もすぐに理解することができました。(グループディスカッション型1回目 女性 20代)
- DVDの質が低い、わかりにくい。
 - 今回のDVD(納税者として怒りを覚えるほどの質の悪いものであった。)の質の低さに呆然とした。観る側をバカにした内容で、脚本、演技etc、アナクロなおそまつさであった。(グループディスカッション型1回目 女性 50代)
 - 内容が浅い。おバカな主婦にスマートな男性と利発な男の子という設定がステレオタイプ。(グループディスカッション型2回目 女性 40代)
 - 小学生教育のフィルム?ちょっと退屈(講義型2回目 女性 60代)

- 大人向けの会合で子供向けのビデオを再生するのは止めて欲しい。(グループディスカッション型2回目 男性 50代)

■ 進行上、DVD は不要に感じた。(グループディスカッション型)

- このような会合では DVD をカットして資料を使って問題を提起して討論、レクチャーという進行にしてほしい。(グループディスカッション型1回目 女性 50代)
- DVD とディスカッションのテーマが似ているようで似ていない。参加側からすると、論点がずれやすい。(グループディスカッション型2回目 男性 20代)
- 先に DVD を見てある程度の知識を得てからのグループディスカッションに入るのではなく、全く無の状態の方が素直な意見を出し易いと思いました。(グループディスカッション型2回目 女性 30代)
- 質問に答えきれないなら DVD は不必要だったように感じた。(グループディスカッション型2回目 男性 20代)

■ DVD の内容について疑問。

- 日本国内での基準値や農薬の研究などは DVD を見てわかった気がしますが、輸入品についての不安は解消されませんでした。(グループディスカッション型1回目 女性 40代)
- DVD 中で残留農薬のチェックをしているとのことでしたが、どういう様にサンプル抽出をしているのでしょうか。(講義型2回目 女性 50代)

DVD についても講義型での評価が高く、特に講義型1回目にわかりやすかったとの意見が目立つ。DVD は同一のものを使用し、提示のタイミングも同様であったので評価の違いはその後の会の展開によると考えられる。

特に、グループディスカッション型では事前の DVD 視聴は不要に感じたとの意見がみられた。DVD よりも資料での問題提起が必要、ディスカッションに入るには白紙の状態がよいといった意見やグループディスカッション後の質疑応答の時間不足が指摘されており、DVD は知識提供として中途半端であったことや、DVD 視聴の時間が無駄に感じられたことが推察される。

講義型であれば DVD の放映もよいが、グループディスカッション型においてはディスカッションテーマに則した資料説明や事後の講義等に置き換える方が適切と考えられる。

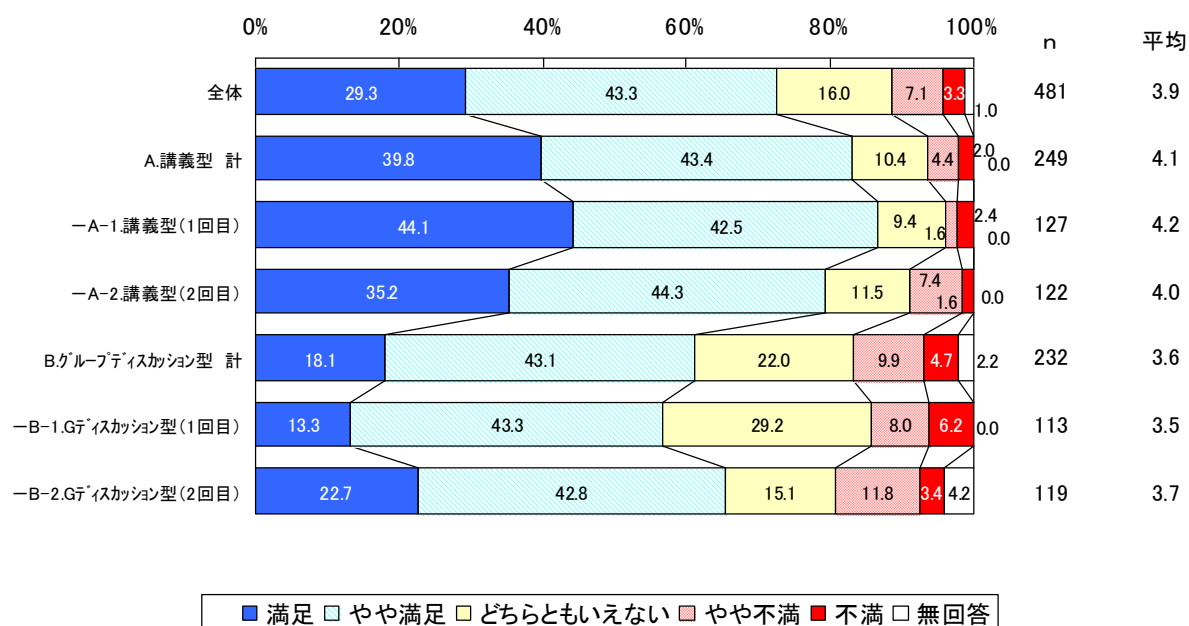
④ 専門家の話

関係する運営方法

	講義型		グループディスカッション型	
	講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
④ 専門家の話	講義(50分) 質疑応答(40分)	講義(40分) 質疑応答(40分)	まとまった話はなし。 ディスカッション後の質疑応答のみ。(45分)	まとまった話はなし。 ディスカッション後の質疑応答で、資料を用いて順序立てて回答。(51分)

- 専門家の話に「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の72.6%。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の83.1%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では61.2%である。
- グループディスカッション型2回を比較すると、「専門家の話」を設定していない1回目よりも、ディスカッションで出された質問に対して短い講義形式で順序立てて回答した2回目の評価が高い。

Q1-4. 専門家の話



関連する自由回答

- 専門家の話がわかりやすかった。(講義型)
 - 講演者の話もわかりやすかった。(講義型1回目 男性 40代)
 - 関澤先生の話がわかりやすく、マスコミ報道や風説だけにとらわれて判断や行動をしてはいけないと思った。(講義型1回目 男性 40代)
 - より具体的な話となったので、わかりやすかった。(講義型1回目 女性 60代)
 - 詳しく解説頂き、良いセミナーでした。(講義型1回目 男性 60代)
 - わかりやすい説明でよかった。(講義型2回目 女性 60代)
 - 講師の方のお話は、専門家でない人でも、割とわかりやすく、聞きやすかったです。(講義型2回目 女性 30代)
- 普段聞く機会がない専門家の話が聞けてよかった。
 - 貴重なお話が伺えて、とても参考になりました。(講義型1回目 女性 30代)

- 元食安委の先生の貴重な話を聞けて、非常におもしろかった。一番そういった情報を持っている専門家の話を聞く機会が「貴重」であるのが残念です。(講義型1回目 女性 20代)
- 日頃、疑問に思っていることについて、専門の方の説明を聞いたのが良かったと思います。(講義型1回目 女性 40代)
- 専門家の方の話を聞く機会はないので、一般人にはよかったです。(講義型1回目 女性 20代)
- 関澤先生のお話しがとてもわかりやすく良かったです。質疑応答も大変誠実でした。専門家のお話を直接聞ける機会はなかなか無いので、大変為になったと思います。ありがとうございました。(講義型2回目 女性 40代)
- 専門家の方から、色々な情報を伺えて、貴重な経験でした。(講義型2回目 女性 50代)
- 日常生活では聞くことのないような情報が聞くことができよかったです。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
- 今まであまり得ることができなかった食の安全について貴重な話がきけたと思います。(グループディスカッション型2回目 男性 30代)

■ 専門家の説明の時間をもう少し多めに設定すべき。

- 講演時間が短かった。(講義型2回目 男性 40代)
- 関澤先生のお話を1時間ぐらいあっても良かったのではと思います。(講義型2回目 男性 40代)
- 専門家のお話を聞く時間をもう少し多めに設定するとなお良いと思う。(グループディスカッション型1回目 男性 20代)
- 時間が足りず、説明が不十分だったところがあったのが残念。(グループディスカッション型1回目 女性 20代)
- 先生の話をもっと長く聞ければよかったです。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
- 専門家の先生のお話がわかりやすかった。もっと(あと1h位)時間が欲しかった。少々盛り沢山すぎる。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
- 時間にゆとりがなく専門家のお話をあまり聞けずに残念だった。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
- 専門家の方の時間が少なくて可哀想だった。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
- もう少し時間があれば、もっとゆっくりと確実に理解できたのではないかと思います。(グループディスカッション型2回目 男性 30代)
- 時間が足りなかったのもあり、説明が早く知識がもともとない私には難しく感じる部分があった。(グループディスカッション型2回目 女性 20代)
- せっかくの専門家のお話が、時間が少ないため早くわかりにくく残念だった。(グループディスカッション型2回目 女性 30代)
- 時間をかけてもわかりやすい言葉で聞けるともっとよかったです。(グループディスカッション型2回目 女性 20代)
- 専門家の講演が一番役に立った(これだけで十分だと思う。もっと時間を取ってほしかった)(グループディスカッション型2回目 男性 30代)
- わかりやすかった！最初からこの人の話ききたかった。(グループディスカッション型2回目 女性 50代)
- もう少し時間がほしい。内容が難しかった(先生の話)(グループディスカッション型2回目 男性 20代)

■ スライドを順序立てて全て説明して欲しかった。(講義型2回目)

- 時間がなかったため、スキップされた部分があり残念だった。専門用語が少し出て不明な部分があった。(講義型2回目 女性 20代)
- 講演の先生のお話がいまいちまとまりがなく、意味を理解するのに少々時間がかかった。話題のテーマを話の流れでいちいち後回しにする所が多く、特にその部分が気になった。おかげで眠かったです。(講義型2回目 女性 30代)
- スライドは個々興味深かったが、プレゼンの都合で前後することになってしまったのが、わかりにくくさせてしまって残念だった。(講義型2回目 男性 20代)

■ 講演者を複数にして、違った視点から話を聞きたかった。(講義型)

- 講演者を複数にして、違った視点を持った意見をそれぞれ聞ける形にしたなら、参加者の考える際の比較の余地がもっと増えて良いのではないかと思います。(講義型1回目 男性 30代)

■ 講義だけでは退屈。(講義型)

- 話を聞く(文字)だけでは少し退屈。見学(実験場所)や実際の検査の様子を見た方がわかりやすい。
(講義型 1 回目 女性 30 代)

講義型、グループディスカッション型とも、専門家の話については満足とした人が多く、特に、講義時間の長い講義型の方が評価が高かった。

4 回を比較すると、配布資料を駆け足ながらも全て説明した講義型 1 回目の評価が最も高く、一部割愛して説明にメリハリをつけた講義型 2 回目において満足度が低い。また、資料を配付したにもかかわらず、説明の時間をとらなかったグループディスカッション型の評価はさらに低い。

講義型、グループディスカッション型とも、専門家の登壇については参加者にとって貴重な機会であり、話が聞けて良かったという印象だが、説明のために十分な時間がなかったことが不満につながっている。もとより、グループディスカッション型では講義の時間は特に設定せずに、質疑応答の中で一部のスライドを用いて説明したにすぎない。また、講義型での講義時間は 40 分だったが、内容の量や難易度に照らして不足と感じられていることがうかがえる。

また、講義型では、複数の視点から話が聞きたい、検討会方式がよいなどの意見がみられた。また、講義だけでは退屈との意見もある。

開催方式によらず、専門家の話は参加者にとって貴重な機会であり、満足につながるため、できるだけ専門家の話の時間をとることが必要である。その際には説明内容と講演時間の配分を考慮し、説明しきれる程度の内容に絞り、配布した資料については、全て説明することが必要と考えられる。

講義型参加者からは、ひとりの専門家からの講義だけではなく、複数の視点からの意見を聞くこと、検討会形式、座学だけでない方法などを求める意見もあり、双方向性や多様な意見にふれる方法が望ましいと考えられる。

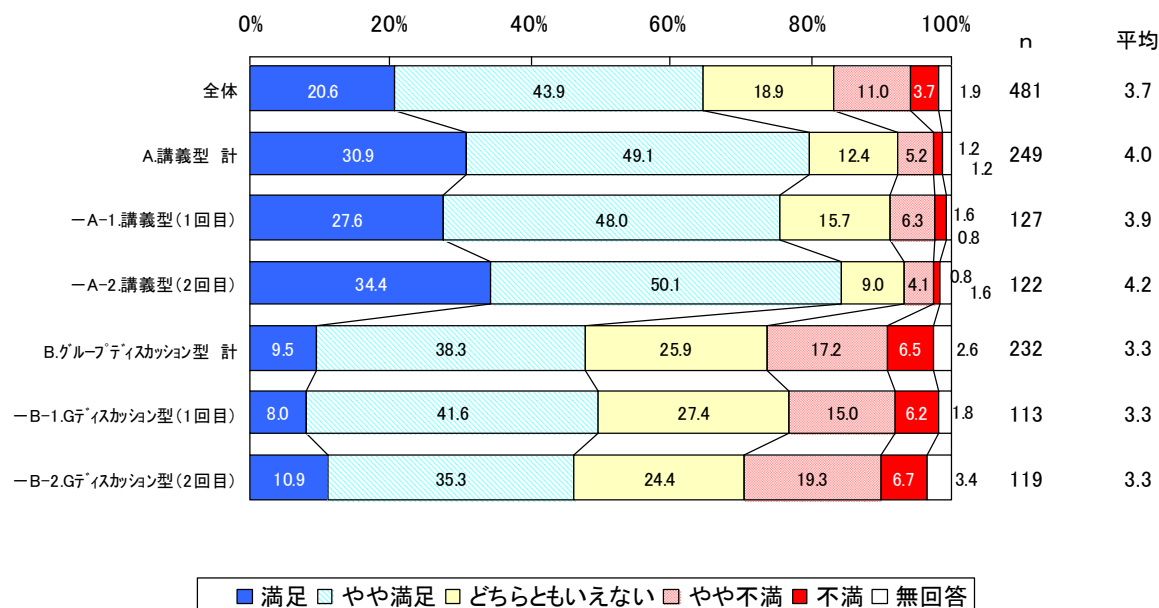
⑤ 専門家との対話・質疑応答

関係する運営方法

	講義型		グループディスカッション型	
	講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
⑤ 専門家との対話・質疑応答	講義後質疑応答(40分)	講義後質疑応答(40分) 多少、本題から外れるテーマの質問があったが、可能な限り回答した。 (内閣府事務局も回答)	ディスカッション後に質疑応答(40分(各グループの発表時間含む)) ディスカッション後、各グループからの疑問に対して回答。ひとつひとつではなく、類似の疑問にまとめて回答した。	ディスカッション後に質疑応答(51分(各グループの発表時間含む)) ディスカッション後、各グループからの疑問に対して回答。ひとつひとつではなく、類似の疑問にまとめて回答した。

- 専門家との対話・質疑応答に「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の 64.4%。グループ A(講義型)での満足度が高い。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の 79.9%であるのに対して、グループ B(グループディスカッション型)では 47.8%である。

Q1-5. 専門家との対話・質疑応答



関連する自由回答

- 質疑応答、対話が有意義だった。(講義型)
 - 質疑応答がいちばんおもしろかった。(講義型 1回目 男性 30代)
 - 質疑応答も充実していて全般的に非常にレベルが高い良い会だったと思います。(講義型 2回目 男性 40代)
 - 質疑応答の時間がタメになりました。(講義型 2回目 男性 20代)
 - 質疑応答の時間が長くとられていて、いろいろな話がきけたので、よかったです。(講義型 2回目 女性 40代)

- 質疑応答がわかりやすかった。(講義型)
 - 専門的で難しい質問に対して、わかりやすく説明された。(講義型2回目 女性 50代)
 - 関澤先生のお話しがとてもわかりやすく良かったです。質疑応答も大変誠実でした。(講義型2回目 女性 40代)
 - 関澤先生の説明、質問への返答が丁寧で理解しやすかったのもとても良かった。(講義型2回目 男性 20代)
- 質疑応答で他の人の意見を聞いたことが有意義だった。(講義型)
 - 今日はやっぱり一面的だという印象もあったので、質疑応答でいろんな意見を聞けるのは面白かったです。(講義型2回目 女性 30代)
 - 様々な方がそれぞれの興味について熱心に意見交換されている様が印象的であった。(講義型1回目 男性 40代)
 - 人によっていろいろな考え方を持っていることが実感できた。(講義型2回目 男性 20代)
- 対話・質疑応答の時間がもっと必要。(講義型)
 - ディスカッションの時間がもっとあると良いと思った (講義型1回目 女性 40代)
 - 質疑応答の時間がもっとあると嬉しいです。(講義型1回目 女性 40代)
- 質問に答える専門家が複数必要。(講義型)
 - 多様な背景からの質問に対応できる様に大所高所からのご講演者と別に各分野の専門家(若手研究者等)がディスカッションの為に参加して頂けたらと思います。(講義型1回目 男性 40代)
 - 質疑応答時、専門家の方が数人いた方が良いと思いました。安全ではないという会合にも出てみたいと思いました。(講義型1回目 男性 30代)
- 検討会、ディスカッションの方が望ましい。(講義型)
 - 対立する意見も含めたパネル形式であれば、もっと良かった。(講義型1回目 男性 50代)
 - テーマディスカッションの様なこともできればもっと良かったのでは。(講義型1回目 女性 50代)
 - 食の危険・不安について書かれている人との討論会なども聞いてみたいと思いました。(講義型2回目 女性 30代)
 - もう少し検討会形式の方がよかった。(講義型1回目 男性 40代)
- 質問に答え切れていない場面がみられた。(講義型)
 - 質疑応答の際、質問と回答があまりかみ合っていないように感じた。(講義型1回目 男性 30代)
 - 質疑回答が結論まで行っていない。(講義型1回目 男性 40代)
- 関係のない質問が多く、有益でなかった。(講義型2回目;本題と外れる質疑応答について)
 - エコナ問題についての質問が多く、本来のテーマ以外の話が多くて、後半は少しがっかりした。(講義型2回目 男性 30代)
 - 質疑応答の時間がややとり過ぎなのと、質疑応答の内容は(個人的に)さほど有益なものではなかった。(講義型2回目 男性 40代)
 - 本来のこの会の主旨とことなるような質問も多くあり、もう少し開催方法を変えるべきだと感じた。(講義型2回目 男性 20代)
 - 質疑応答の質問者の質問がくだらなかった。(意味不明、ピントボケている)(講義型2回目 男性 40代)
 - 参加者の質問の内容について「自己主張」をする人が多過ぎた。司会者がもう少し本来の主旨である本日の発表に対する質問をするように言うべきだった。特に「味が違う」という主張は個人差。(講義型2回目 男性 40代)
 - 質問者が論者や他人の話聞いてないなあ…と思うことが多くなので、質疑応答にあきてしまいました。テーマと関係ない話をだらだらと…腹が立ってきました。(講義型2回目 女性 30代)
- 本題から外れる質問にも回答していた。(講義型2回目;本題と外れる質疑応答について)
 - 本題からいつ脱する質問に対してもていねいに答えられており、好感がもてた。(講義型2回目 男性 40代)

- 専門家の意見は、貴重でしたが、答えにくいものもあったのかとも思いました。（講義型 2 回目 女性 20 代）
- 都合の悪い質問を途中でやめさせていた。(講義型 2 回目;本題と外れる質疑応答について)
 - 自分達に都合の悪い質問は途中でやめさせるという点が明らかだった。（講義型 2 回目 女性 50 代）
- グループごとの質問に専門家が答える形式で理解できた。(グループディスカッション型)
 - グループごとの質問に専門家が答えるという形式でよく理解できた。（グループディスカッション型 2 回目 女性 50 代）
- 質問への回答が不十分、質問には個別に回答して欲しかった。(グループディスカッション型)
 - グループディスカッション自体は良いことだが、その発表とそれに対する応答が不十分。（グループディスカッション型 1 回目 男性 40 代）
 - 各グループから出た意見の解答がまったくなされていない。あくまでも資料の説明だけであり、これでは何のためのグループディスカッションかわからない。もう少し主催者はまともな進行をしてほしい。（グループディスカッション型 1 回目 男性 50 代）
 - 関澤先生の説明は用意したデータを紹介しているだけで、質問の回答に努めきれていない印象。（グループディスカッション型 2 回目 女性 20 代）
 - 出した質問に答えると言うより、資料を読んでいるだけだと思う。ただの発表会に呼ばれた感じであった。質問のあとに答えていく方がよいと思いました。（グループディスカッション型 2 回目 女性 30 代）
 - 質問へは個別に答えながら進行してほしいと思います。重複する部分もたくさんあったので、まとめるのは良いと思うのですが、少し時間が足りなかったような気がします。（グループディスカッション型 1 回目 女性 50 代）
 - 講義内容を事前に準備されているので、GD で質問を受けつけるのは講師泣かせな企画だと思った。（グループディスカッション型 2 回目 男性 30 代）
 - 模造紙を生かして欲しかった。（グループディスカッション型 1 回目 女性 40 代）
- グループが多い、時間が短い。(グループディスカッション型)
 - グループ数も多すぎるため、質問への回答が不十分になっていた。（グループディスカッション型 2 回目 男性 30 代）
 - 時間が短いと思います。質疑もなんとなく中途半端な気がしました。（グループディスカッション型 2 回目 女性 40 代）
 - 別に質疑応答時間を設けて欲しかった。（グループディスカッション型 2 回目 男性 40 代）
- あらかじめ Q&A を配布するとよい。
 - 事前に参加者の疑問が分かっているのであれば、予め Q&A のようなものを配布するとよいと思う。（講義型 1 回目 男性 30 代）
- 大勢の前では質問づらい。
 - 先生と個別にお話ししてみたかったです。(なかなか大勢の前では質問づらいので)（講義型 1 回目 女性 20 代）

「専門家との対話・質疑応答」については、質疑応答に 40 分の時間を設定した講義型の参加者の満足度が高かった。また、対話・質疑応答の時間が有意義だったとの意見が目立った。理由としては、わかりやすい、他の人の意見が聞けるなどがあげられている。

また、今回の運営では質疑応答の回答者は 1 名の専門家であったが、複数の専門家が異なる視点から答えることも必要であるとされる。さらに、講義型参加者からは検討会やディスカッション方式がよいとの意見も目立った。

講義型 2 回目では、本題と外れる質疑があったが専門家、内閣府が可能な限り回答した。その点について誠実な対応は評価されているが、むしろ関係ない質問に時間を費やしたことに批判的な意見が多く、司会者の参加が不十分であると指摘された。

グループディスカッション型では、ディスカッション後に各グループからの疑問に対して回答した。今

回は各 13 グループを対象としており、重複する質問が多かったため、ひとつひとつではなく類似の疑問にまとめて回答したが、その方法については批判が目立った。また、説明にあらかじめ用意した資料を用いたことから、質問への回答ではなく、資料を説明しているだけとの印象を持った参加者もみられた。

対話・質疑応答に十分な時間をとることは評価につながる。また、可能であれば多様な立場の専門家が回答することが望ましく、さらにいえば 1 人の専門家だけが回答するのではなく、ディスカッション形式が望ましいとされる。

質疑応答では本題と外れる質問が発されることがあるが、なるべく事前に回避できるよう、テーマの範囲を明確にしておくことにも配慮が必要である。

グループディスカッション型については「専門家との対話・質疑応答」の満足度は低かった。これは、重複する回答をまとめたこと、回答時間が十分でなかったことに由来している。講義型での満足度の高さに照らせば、質疑応答の時間を十分にとってそれぞれの質問に回答していくことで満足度は大きく高まるものと考えられる。

その他運用の工夫としては Q&A を配布する、大勢の前で質問しにくいという参加者のために、個別に質疑応答できる時間を設けることも望ましい。

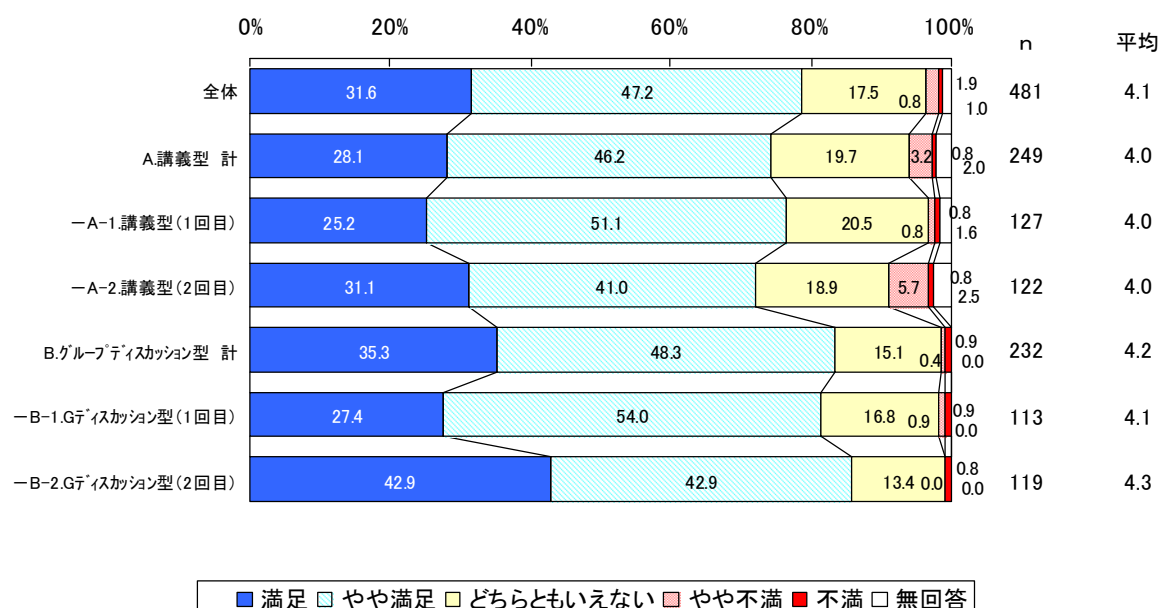
⑥他の参加者の意見にふれたこと

関係する運営方法

	講義型		グループディスカッション型	
	講義型(1回目)	講義型(2回目)	グループディスカッション型(1回目)	グループディスカッション型(2回目)
⑥他の参加者の意見にふれたこと	講義後質疑応答(40分)	講義後質疑応答(40分)	グループディスカッション(45分) 10~13人×13グループ ディスカッション結果発表、対話・質疑応答(40分)	グループディスカッション(46分) 10~13人×13グループ ディスカッション結果発表、対話・質疑応答(51分)

- 他の参加者の意見にふれたことに「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の78.8%。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の74.3%だが、グループB(グループディスカッション型)では83.6%であり、グループB(グループディスカッション型)での満足度が高い。

Q1-6.他の参加者の意見にふれたこと



■ 満足 □ やや満足 □ どちらともいえない □ やや不満 ■ 不満 □ 無回答

関連する自由回答

- 他の方の意見を聞いて参考になった、満足した。
 - 種々の意見が聞いて参考になったと思う。(グループディスカッション型2回目 男性 50代)
 - いろいろな方の意見が聞いてよかった。(グループディスカッション型2回目 女性 50代)
 - 多様な意見を聞いて参考になりました。(グループディスカッション型2回目 男性 30代)
 - 他の方々と話して新しい意見を聞いて満足でした。(グループディスカッション型1回目 男性 30代)
 - グループ内の話し合いがよかった。(グループディスカッション型1回目 男性 60代)
 - 知らない人と話し合うことが非常によかった。(グループディスカッション型2回目 男性 40代)
 - 徐々にディスカッション形式のものに参加でき、他の方のご意見を聞くことができ、勉強になった。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
 - 様々な意見を聞くことができとても参考になった。(講義型1回目 男性 20代)
 - 同じグループの方のそれぞれの分野に関する有易な情報も得ることができ、とてもためになりました。

した。(グループディスカッション型2回目 女性 30代)

■ 他の方の考え方、意識がわかった。

- 色々な、様々な意見を持った方がいらっしゃるのだなと思いました。こういった情報を一般のものと多くの方に知っていただける対策をしていただければと思います。(講義型2回目 男性 20代)
- 人によっていろいろな考え方を持っていることが実感できた。(講義型2回目 男性 20代)
- 参加者の意見が良かった。みなさん同じ考えだと思った。(グループディスカッション型2回目 男性 40代)

■ 他の参加者の意識の高さ、熱心さを感じた。触発された。

- 参加者の意識の高さにも驚かされた。(講義型1回目 男性 20代)
- 非常に真剣な質疑があり、大変参考になった。大変真面目なセミナーであった。食べることにはこれだけ、皆が注目しているのかと改めて驚いています。(講義型2回目 男性 60代)
- 食の安全に対する意識はみんな高いのだと思った。みな熱心でした。(講義型1回目 女性 30代)
- 一般の方の質疑応答の論点のレベルが非常に高く興味深かったです。(講義型2回目 女性 20代)
- 食の安全に対する意識の高い人が多いことにおどろいた(グループディスカッション型1回目 女性 40代)
- みなさん健康等、農業について、関心があることがわかりました。(グループディスカッション型1回目 女性 50代)
- 様々な方がそれぞれの興味について熱心に意見交換されている様が印象的であった。(講義型1回目 男性 40代)
- 参加者の方がとても真剣だったので自分がはずかしく感じられた。(講義型1回目 男性 20代)
- 他の参加者の熱心な思いにふれて、意識が高まった。(グループディスカッション型1回目 女性 30代)
- いろいろな意見を聞いて、自分の知識を更に深めていきたいと思いました。(講義型1回目 女性 40代)

■ 一方的でないやり方がよい。(グループディスカッション型)

- 一方的でないやり方は良いと思います。(グループディスカッション型1回目 男性 40代)

■ グループディスカッションをしてから説明という流れがよかった。(グループディスカッション型)

- 他の方がどう感じ考えているかが分かり、疑問点を洗い出してから専門家のお話を聞けたので分かり易かった。一方的にお話を聞くという方法よりも目的意識をもって学習でき、とても参考になった。(グループディスカッション型2回目 女性 60代)

■ 時間が不足。(グループディスカッション型)

- 参加型の会合はすばらしいと思うが、やや時間不足であった。(グループディスカッション型1回目 男性 40代)
- 時間が短く問題が幅広すぎて答えとしては出ずらく、まとまりがつきづらかった様に思う。(グループディスカッション型2回目 女性 50代)
- 参加している人の熱意の割には時間が短かったので、満足して帰ったかどうか疑問。(グループディスカッション型1回目 男性 30代)
- 時間が長くてもいいので、各パート、特にディスカッションの時間ももっと長くてもいいと思いました。今日はありがとうございました。(グループディスカッション型1回目 男性 30代)
- ディスカッションの方法を考えた方がよい。時間が足りない。意見及び説明とも。(グループディスカッション型1回目 男性 50代)
- 時間が短か過ぎです。3時間以上は必要かと…グループ内での討論はためになり、とても良かった。(グループディスカッション型2回目 男性 50代)
- ディスカッションのやり方については工夫が必要。時間たりないっすね。(グループディスカッション型2回目 女性 30代)
- ディスカッションテーマが広すぎる。グループ人数も多すぎな上に時間も短い為、単なる意見会になり有意義でない。グループ毎に質問を言っていく時間がムダ。(グループディスカッション型2回目 女

性 20代)

- 2時間でGDをやった上で講義をする事は大変だったと思う。構成が参考になりました。(グループディスカッション型 2回目 男性 30代)

■ 人数が多すぎる。(グループディスカッション型)

- 1グループの人数が多かったと思います。6人程度が適当では？(グループディスカッション型 1回目 男性 20代)
- 参加者が多すぎると思われる。(グループディスカッション型 1回目 男性 40代)
- 参加人数が多過ぎないか。半分位でないと。(グループディスカッション型 2回目 男性 60代)
- 本日は時間が短く、参加人数が多いため十分なディスカッションにはならなかったと思う。しかしグループの方とのお話は有意義でした。(グループディスカッション型 1回目 女性 40代)
- 人数(グループ)が多過ぎ？参加者が消化不良にならないように。(グループディスカッション型 2回目 男性 50代)
- 時間が短い中での開催の為、グループの人数をもっと少なくし、それぞれの意見をもっと話し合える形式にした方が良い。グループ数も多すぎるため、質問への回答が不十分になっていた。(グループディスカッション型 2回目 男性 30代)

■ グループで意見をまとめると同じような内容になってしまう。(グループディスカッション型)

- ディスカッションの方法がよくなかった。意見をまとめていくと、大体方向性は同じになっていく。ここから得られるものはあったのだろうか？(グループディスカッション型 2回目 男性 20代)
- グループごとにまとめると同じような質問になるので、それ以外の質疑応答があればよいかと。(グループディスカッション型 2回目 男性 60代)

■ 参加者の意識に違いがありすぎる。(グループディスカッション型)

- 集まった人に意識のちがいがありすぎて色々問題が多いと思われた。少人数での話合いも有かなと思う。レベルの同じ位の人と…が望ましかったデス。(グループディスカッション型 2回目 女性 50代)
- 会合の目的とは異なり、多種多様な方々が集まっていて主催者の方々のご苦勞が伺えた。(グループディスカッション型 2回目 女性 50代)

■ ディスカッションの前に専門家が講義すべき。(グループディスカッション型)

- ディスカッションの前に、専門家のお話をあらかじめ聞いてから行った方が良いと思いました。その方が有意義な質問が出ると思う。(グループディスカッション型 2回目 女性 50代)
- ディスカッションは先生のご説明の後にすべきだと思う。(グループディスカッション型 2回目 男性 30代)
- 最初に配布資料の説明をして欲しかった。その上でギモン点を出した方がよかった。(グループディスカッション型 2回目 女性 40代)
- 15分のDVDだけで、他の説明ナシで、ディスカッションは不親切。(グループディスカッション型 2回目 女性 50代)

■ グループに議論を補う人、進行スタッフが必要。(グループディスカッション型)

- テーブルに一人、質問に解答して下さる方をおいて下さるともっと良かったと思います。(グループディスカッション型 1回目 女性 60代)
- グループによりディスカッションのレベルに差があると思う。ディスカッションをおこなう役の人が必要だと思った。(グループディスカッション型 1回目 男性 30代)
- GDはstaffの人が進行役になったほうが良いと思った。(グループディスカッション型 1回目 男性 20代)
- 急にリーダー決めてやれと言われても…そういう進行は主催がやるべきでは？(ふだんの会う学生のクラス内でもけっこう大変なのに)(グループディスカッション型 2回目 女性 50代)
- グループディスカッションは参加者によっては、負担が大きいと思う。(グループディスカッション型 2回目 女性 40代)

■ グループディスカッションの進め方、意図がわからなかった。(グループディスカッション型)

- グループディスカッションの進行方法がわかりにくかった。(グループディスカッション型 2回目 女性 40代)

- GDで何を求めているのかわかりませんでした。ちょっと暑かった。(グループディスカッション型1回目 男性 20代)
- 内容についてのdiscussionがないのに、SGDをやっても無意味。何のためにやったの？主催者がみな疑問を知りたかっただけでは？ (グループディスカッション型2回目 男性 30代)

■ 段取り、進行が悪い。(グループディスカッション型)

- 何だか段取りわるいなあ…全体像がわかりにくい。(グループディスカッション型2回目 女性 50代)
- 2時間の会合に水分くらい提供してほしい、各班の発表の時間くらい決めてほしい(1分以内とか)、時間通りにおわってほしい。(グループディスカッション型2回目 女性 60代)

「他の参加者の意見にふれたこと」に対しては全体的に満足した人が多いが、講義型よりもグループディスカッション型の満足度が高かった。他の人の意見を聞くことで参考になった、他の人の考え方、意識がわかったなどと評価されている。また、他の人の意識の高さにふれて、自分自身の意識が高まったという意見もみられるなど、他者の意見にふれることは、単なる知識提供だけでなく意識の向上効果も期待される。

今回のグループディスカッション型の運用では、事前の知識提供はDVDの視聴にとどめた。その点については、事前に講義をしてからディスカッションに入るべきとの指摘もあったが、逆に、ディスカッションで疑問点を洗い出してから話を聞くことで目的意識をもって学習できるという意見もあり、賛否両論であった。

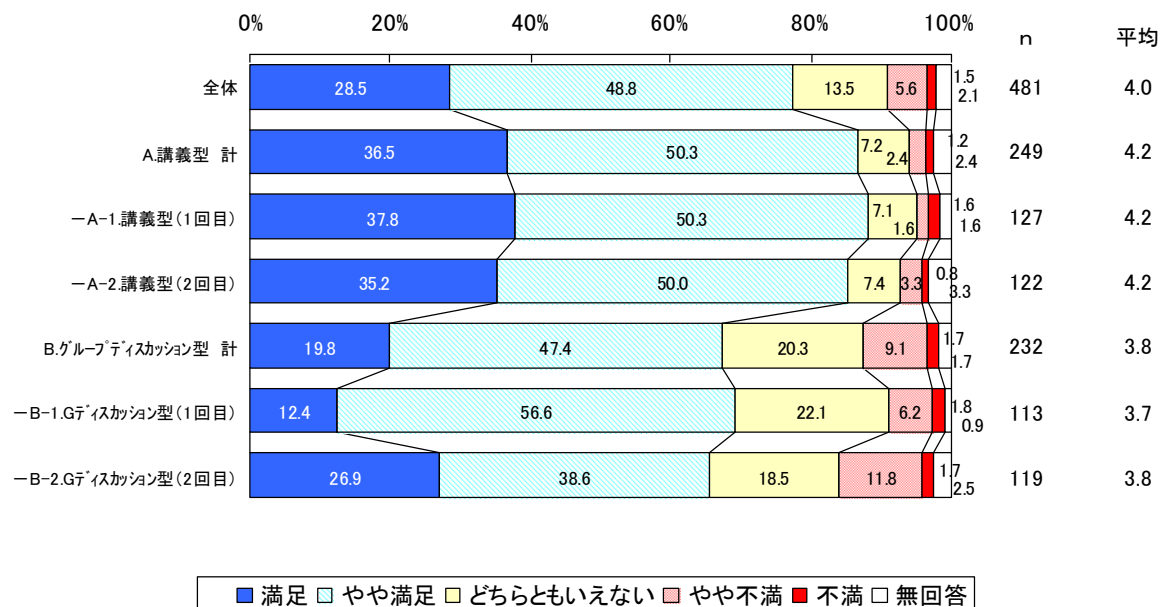
全体的に「他の参加者の意見にふれたこと」を好意的に評価した人が多い。グループディスカッション型においては批判的意見も目立つが、グループディスカッションという方法に対する批判は少なく、運用の不十分さが主な対象となっている。特に、時間不足や参加人数が多すぎて十分な意見交換やディスカッションができなかったことに対する不満が目立った。このことはディスカッションをもっと充実させるべきという意識の顕れである。また、今回はグループディスカッションの進行をグループに任せしたが、各グループに議論を補う人、進行スタッフが必要と必要との指摘がみられた。また、グループディスカッションの進行方法や意図がわかりづらい、段取りが悪いなどといったものであり、運用を改善することでさらに満足度は向上するものと考えられる。

改善の方法としては、時間を十分にとる、参加人数を絞る、各グループに対してスタッフ側が進行や知識提供などでサポートするといったことが考えられる。

⑦会合全般として

- 会合全般としての評価は「満足(「やや」含む)」と回答したのは参加者の77.3%。
- 「満足(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の86.7%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では67.2%である。

Q1-7.本日の会合全般として



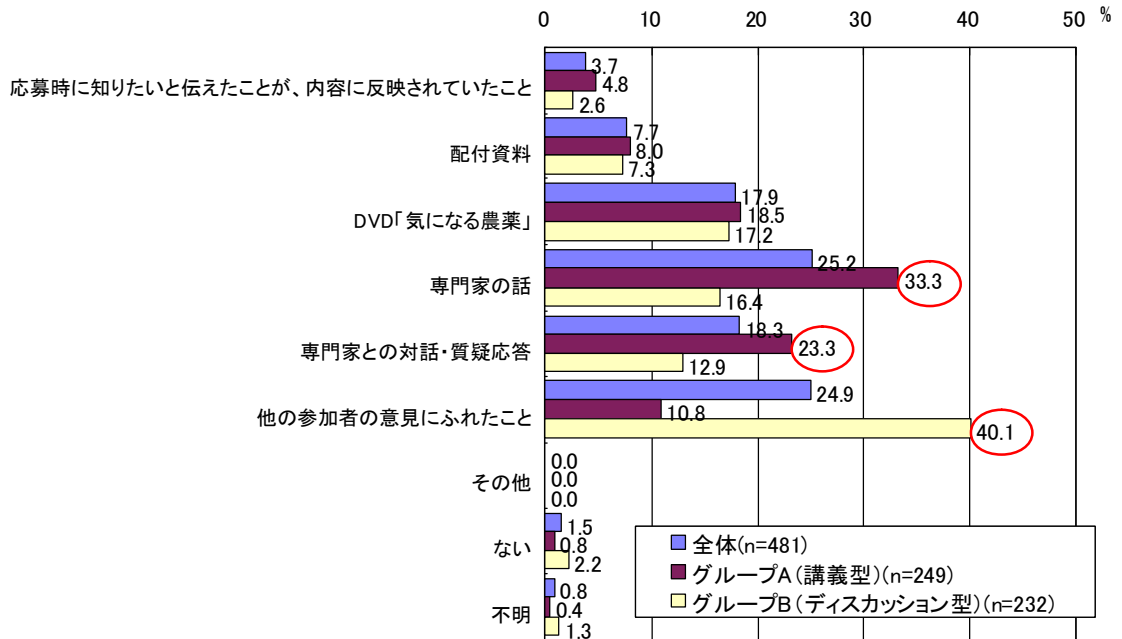
全体として、講義型の満足度が高く、グループディスカッション型の満足度が低めである。

グループディスカッション型に対する不満の内容をみると、時間の不足、人数が多すぎる、発表した結果へのフォロー時間の不足(複数グループ分をまとめて回答するなど)、段取りが悪いといったものであり、手法への不満というよりも、運営上の問題によるところが大きい。

⑧最も満足度が高かったもの

- 最も満足度が高かったものとしては、グループ A(講義型)では「専門家の話」33.3%、「専門家との対話・質疑応答」23.3%をあげた参加者が多く、グループ B(グループディスカッション型)では「他の参加者の意見にふれたこと」が 40.1%で特に多い。

Q2.最も満足度が高かったもの(ひとつだけ)

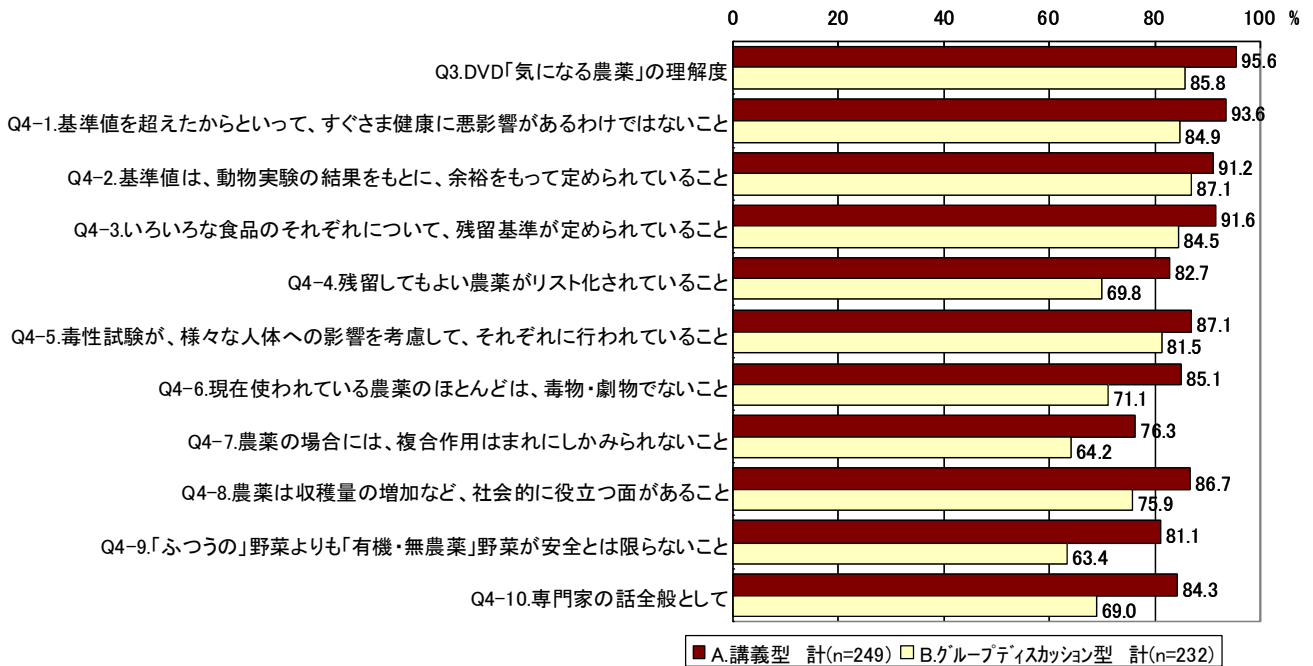


	合計	Q2.最も満足度が高かったもの								
		応募時に 知りたい と伝えた ことが、	配付資料	DVD「気 になる農 業」	専門家 の話	専門家 との 対話・ 質疑 応答	他の参加 者の意見 にふれた こと	その他	ない	無回答
全体	481	3.7	7.7	17.9	25.2	18.3	24.9	0.0	1.5	0.8
グループA 講義型 計	249	4.8	8.0	18.5	33.3	23.3	10.8	0.0	0.8	0.4
-A-1. 講義型 (1回目)	127	3.9	8.7	20.5	37.0	20.5	7.9	0.0	1.6	0.0
-A-2. 講義型 (2回目)	122	5.7	7.4	16.4	29.5	26.2	13.9	0.0	0.0	0.8
グループB グループディスカッション型 計	232	2.6	7.3	17.2	16.4	12.9	40.1	0.0	2.2	1.3
-B-1. ディスカッション型 (1回目)	113	2.7	8.0	22.1	8.8	13.3	39.8	0.0	3.5	1.8
-B-2. ディスカッション型 (2回目)	119	2.5	6.7	12.6	23.5	12.6	40.3	0.0	0.8	0.8

3) 理解度評価

- 今回の意見交換会の主題である「基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと」「基準値は動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること」「いろいろな食品のそれぞれについて残留基準が定められていること」「毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること」は、グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)とも8割以上が理解できたとしている。
- 全体的にグループA(講義型)での理解度が高い。

理解できた(「やや」含む)と回答した人の割合



- 「気になる農薬」「基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと」「残留してもよい農薬がリスト化されていること」「現在使われている農薬のほとんどは、毒物劇物でないこと」「農薬の場合には複合作用はまれにしかみられないこと」「農薬は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること」「『ふつうの』野菜よりも『有機・無農薬』野菜が安全とは限らないこと」「専門家の話全般として」については、有意水準 1%でグループA(講義型)の理解度が高い。

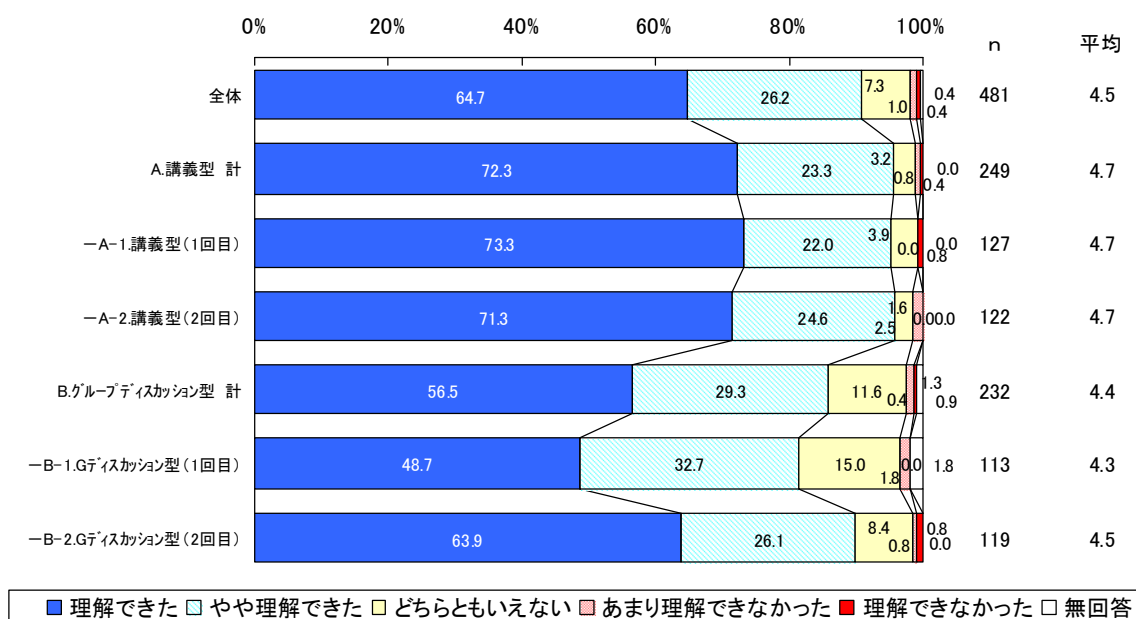
独立性の検定結果 (検定方法: 適合度によるカイ自乗検定)

	グループA(講義型) (n=249)	グループB(ディス カッション 型) (n=232)	比率差	χ^2 値	自由度	P値	判定
Q3.DVD「気になる農薬」の理解度	95.6%	85.8%	9.8%	13.90	1	0.0002	***
Q4-1.基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと	93.6%	84.9%	8.7%	9.50	1	0.0021	**
Q4-2.基準値は、動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること	91.2%	87.1%	4.1%	2.09	1	0.1483	[]
Q4-3.いろいろな食品のそれぞれについて、残留基準が定められていること	91.6%	84.5%	7.1%	5.77	1	0.0163	* []
Q4-4.残留してもよい農薬がリスト化されていること	82.7%	69.8%	12.9%	11.13	1	0.0009	***
Q4-5.毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること	87.1%	81.5%	5.7%	2.95	1	0.0860	[]
Q4-6.現在使われている農薬のほとんどは、毒物・劇物でないこと	85.1%	71.1%	14.0%	13.93	1	0.0002	***
Q4-7.農薬の場合には、複合作用はまれにしかみられないこと	76.3%	64.2%	12.1%	8.42	1	0.0037	**
Q4-8.農薬は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること	86.7%	75.9%	10.9%	9.44	1	0.0021	**
Q4-9.「ふつうの」野菜よりも「有機・無農薬」野菜が安全とは限らないこと	81.1%	63.4%	17.8%	19.03	1	0.0000	***
Q4-10.専門家の話全般として	84.3%	69.0%	15.4%	15.99	1	0.0001	***

①DVD「気になる農薬」

- DVD「気になる農薬」に対しては参加者の90.9%が「理解できた(「やや」を含む)」と回答している。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の95.6%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では85.8%である。

Q3.DVD「気になる農薬」の理解度



(注) 図表の「平均」は回答内容について、以下の配点で平均値を求めたものである。

理解できた	5
やや理解できた	4
どちらともいえない	3
あまり理解できなかった	2
理解できなかった	1

(以下の図表について同じ)

DVD は全ての回に共通して提示しているが理解度が異なる。

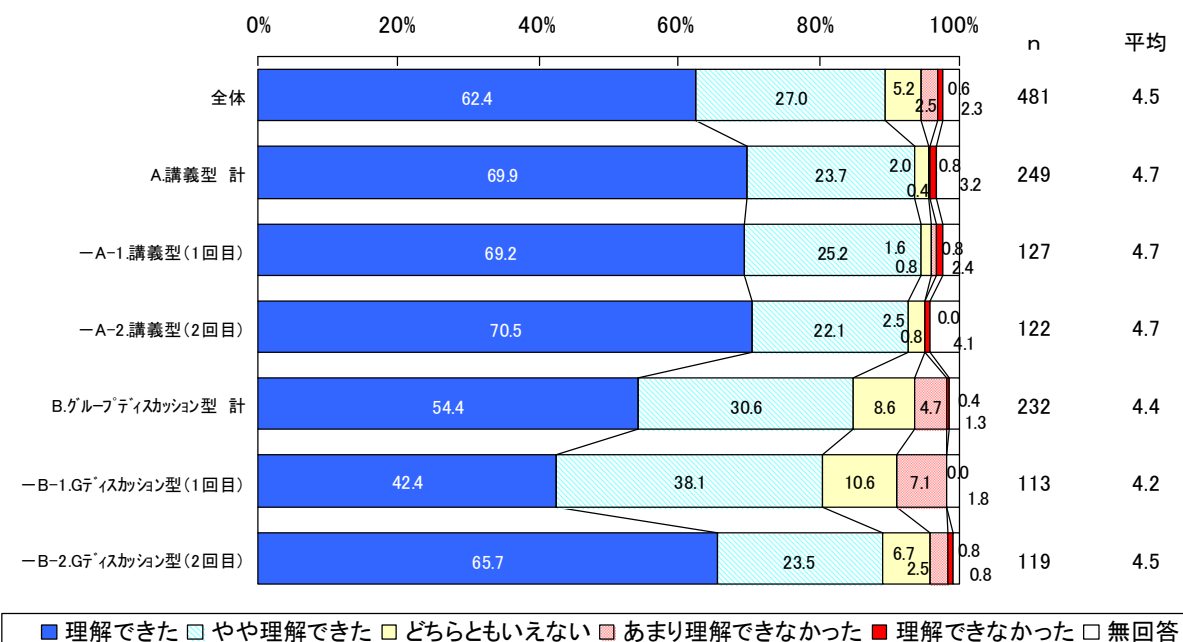
②基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと。

関係する説明内容

スライド		講義型 (1回目)	講義型 (2回目)	グループディスカッション型 (1回目)	グループディスカッション型 (2回目)
1	タイトル	提示	提示	提示	提示
2	新聞報道から	提示			提示
3	基準違反への対応のあり方	提示			
9	残留農薬基準作成の手順	提示	提示	提示	提示
10	農薬の基準はどのように決める？	提示	提示	提示	提示
追加1	無毒性量の検出・確認の例		提示		提示
11	ADIと残留基準の関係はこうです！	提示	提示		提示
追加2	実際にあてはめてみよう！		提示		提示
21	国際的な食品規格の検討では	提示	提示		

- 専門家から提供した情報のうち「基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと」に対しては参加者の89.4%が「理解できた(「やや」含む)」と回答している。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の93.6%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では84.9%である。

Q4-1.基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと



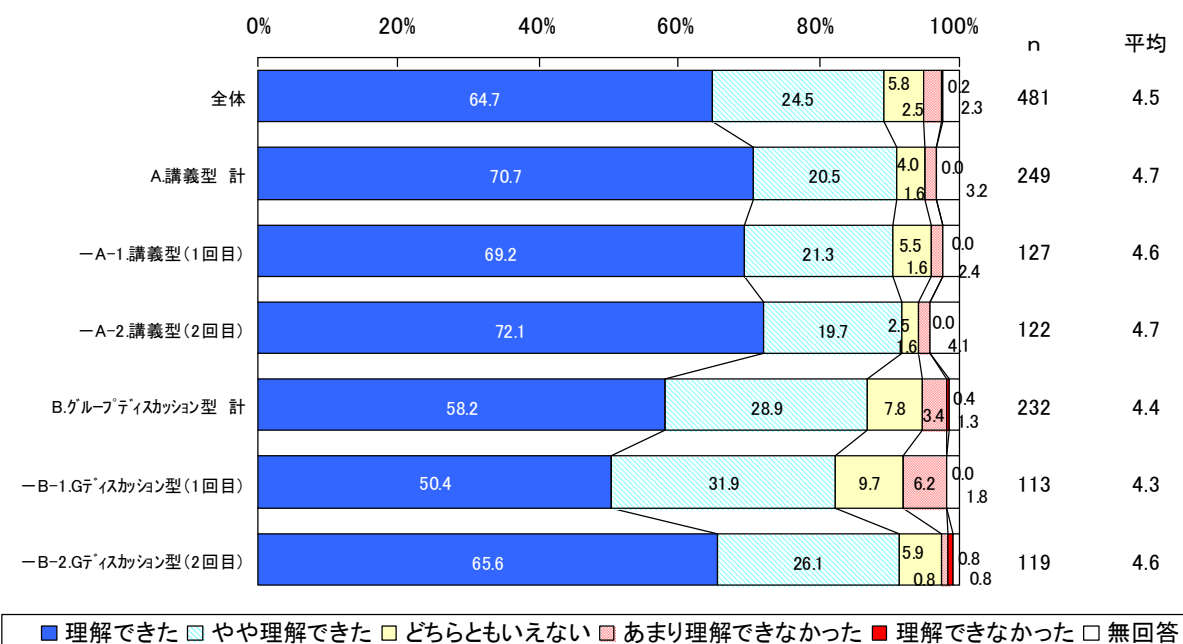
③基準値は、動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型(2回目)	グループディス カッション型 (1回目)	グループディス カッション型 (2回目)
9 残留農薬基準作成の手順	提示	提示	提示	提示
10 農薬の基準はどのように決める？	提示	提示	提示	提示
追加1 無毒性量の検出・確認の例		提示		提示
11 ADIと残留基準の関係はこうです！	提示	提示		提示
追加2 実際にあてはめてみよう！		提示		提示

- 専門家から提供した情報のうち「基準値は、動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること」に対しては参加者の89.2%が「理解できた(「やや」含む)」と回答している。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の91.2%、グループB(グループディスカッション型)では87.1%である。

Q4-2.基準値は、動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること



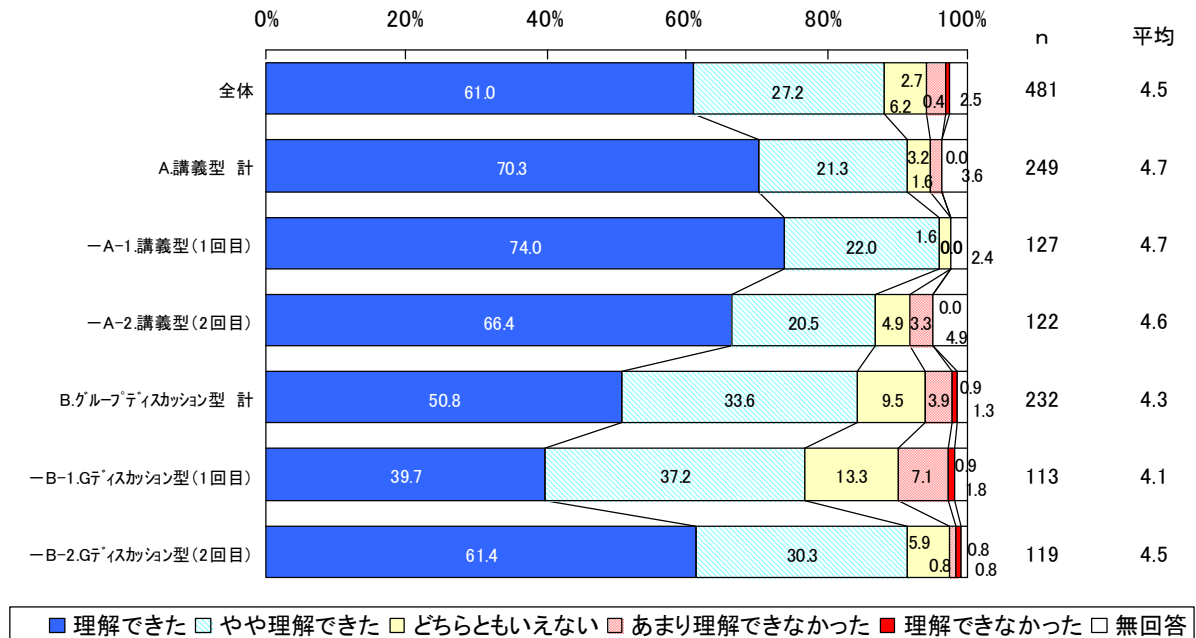
④いろいろな食品のそれぞれについて、残留基準が定められていること。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型(2回目)	グループディスカ ッション型 (1回目)	グループディスカ ッション型 (2回目)
12 メタミドホスの残留基準の一部	提示	提示		提示

- 専門家から提供した情報のうち「いろいろな食品のそれぞれについて、残留基準が定められていること」に対しては参加者の88.1%が「理解できた(「やや」含む)」と回答している。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の91.6%、グループB(グループディスカッション型)では84.5%である。

Q4-3.いろいろな食品のそれぞれについて、残留基準が定められていること。



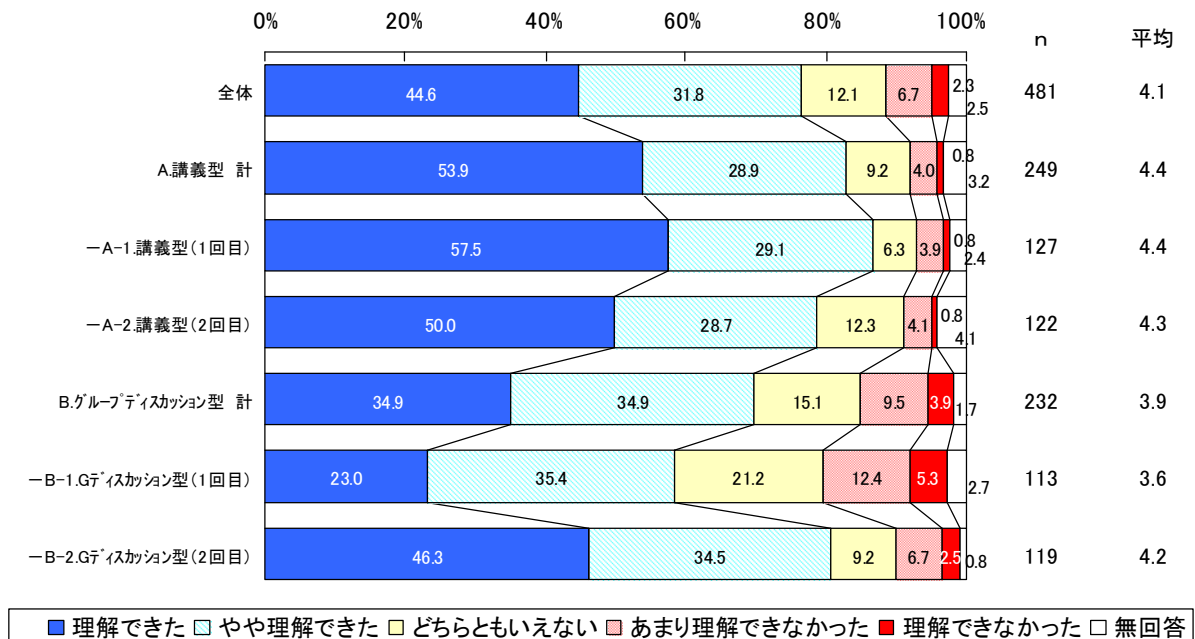
⑤残留してもよい農薬がリスト化されていること。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型(2回 目)	グループデ ィスカッショ ン型(1回 目)	グループデ ィスカッショ ン型(2回 目)
13 ポジティブリスト制度の適用により違反が増えた！	提示			
14 ポジティブリスト制度の導入(従前の規制)	提示			
15 ポジティブリスト制度の導入	提示			

- 専門家から提供した情報のうち「残留してもよい農薬がリスト化されていること」に対しては、参加者の76.5%が「理解できた(「やや」含む)」と回答している。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の82.7%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では69.8%である。

Q4-4.残留してもよい農薬がリスト化されていること



⑥毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型(2回 目)	グループディス カッション型 (1回目)	グループディス カッション型 (2回目)
17 動物での毒性試験のみで20種類ある！	提示	提示	提示	提示
18 環境関連の試験の種類はこうなっている！	提示	提示		提示

- 専門家から提供した情報のうち「毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること」に対しては、参加者の84.4%が「理解できた(「やや」含む)」と回答している。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の87.1%、グループB(グループディスカッション型)では81.5%である。

Q4-5.毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること



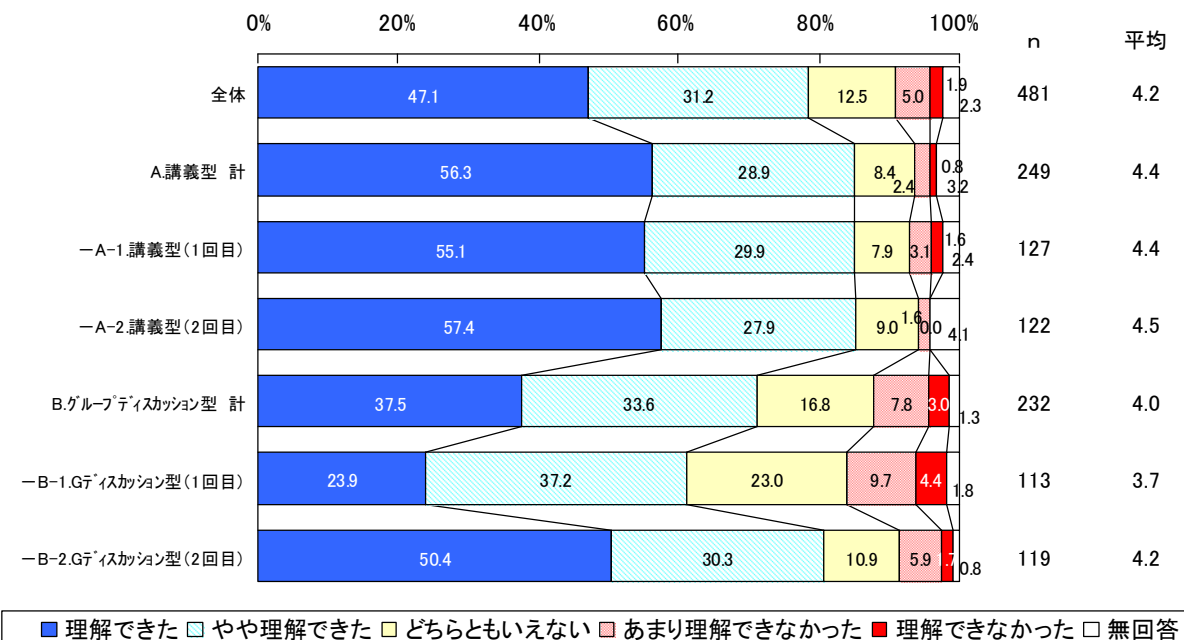
⑦現在使われている農薬のほとんどは、毒物・劇物でないこと。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型(2回 目)	グループディス カッション型(1 回目)	グループディス カッション型(2 回目)
19 農薬の急性毒性による分類の変遷	提示	提示		提示

- 専門家から提供した情報のうち「現在使われている農薬のほとんどは、毒物・劇物でないこと」に対して、「理解できた(「やや」含む)」のは参加者の78.4%となっている。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の85.1%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では71.1%である。

Q4-6.現在使われている農薬のほとんどは、毒物・劇物でないこと



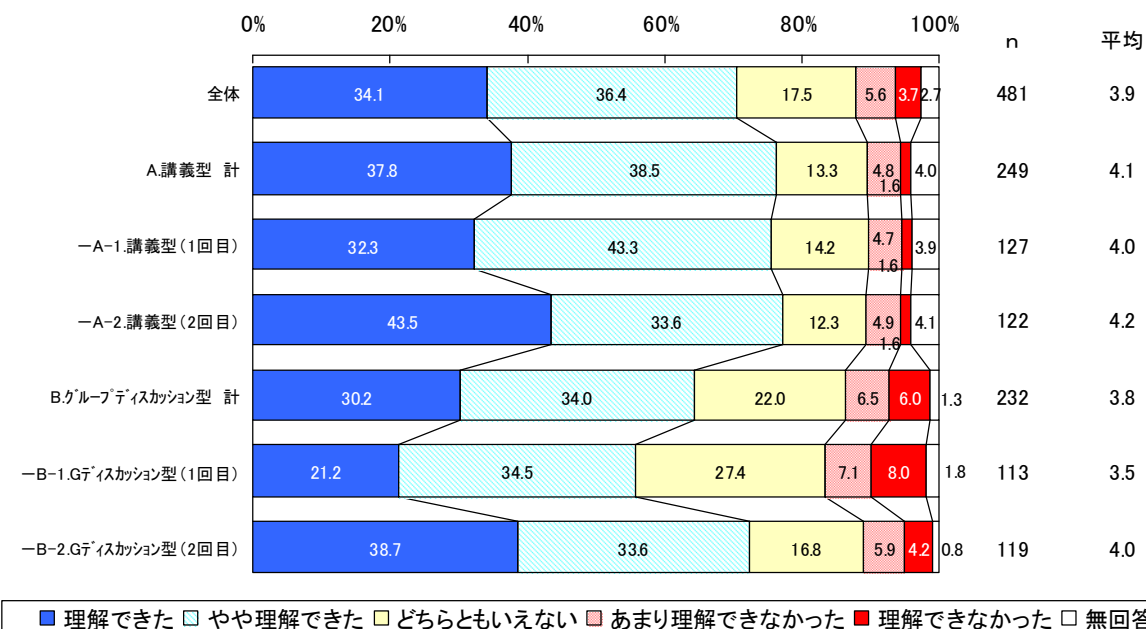
⑧農薬の場合には、複合作用はまれにしかみられないこと。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型 (2回目)	グループディスカッション型 (1回目)	グループディスカッション型 (2回目)
24 複合作用を科学的に考えると難しくない	提示	提示	提示	提示

- 専門家から提供した情報のうち「農薬の場合には、複合作用はまれにしかみられないこと」に対して、「理解できた(「やや」含む)」のは参加者の70.5%となっている。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の76.3%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では64.2%である。

Q4-7.農薬の場合には、複合作用はまれにしかみられないこと



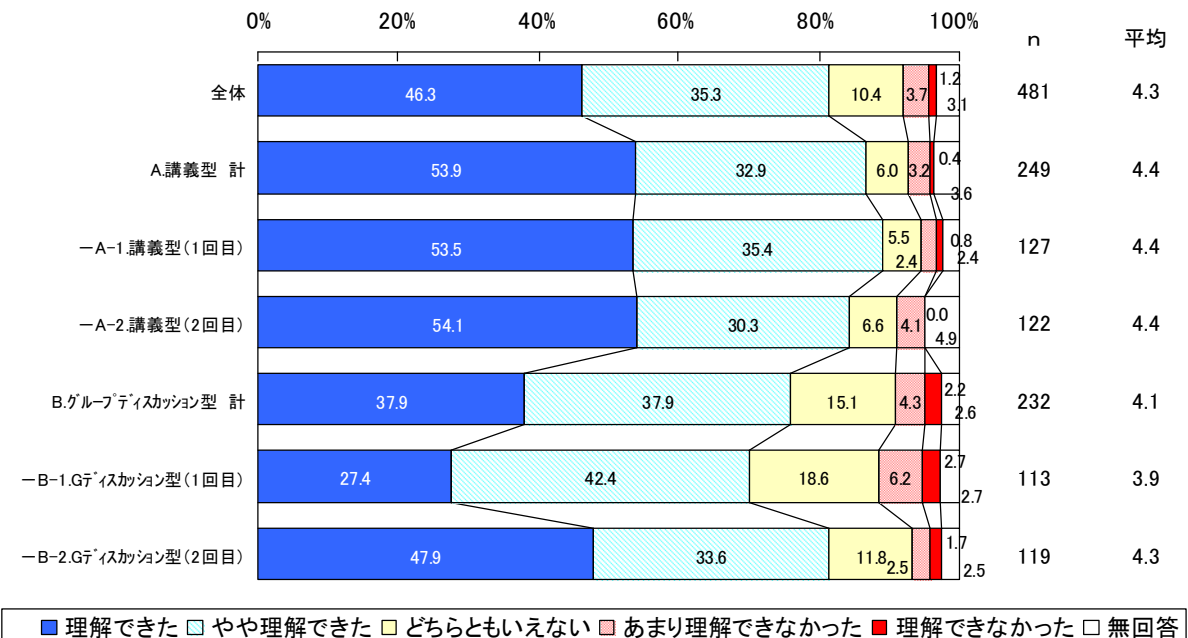
⑨農業は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること。

関係する説明内容

スライド	講義型 (1回目)	講義型 (2回目)	グループディス カッション型(1 回目)	グループディス カッション型(2 回目)
25 無農業栽培の影響	提示	提示		提示

- 専門家から提供した情報のうち「農業は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること」に対して、「理解できた(「やや」含む)」のは参加者の81.5%となっている。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の86.7%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では75.9%である。

Q4-8.農業は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること



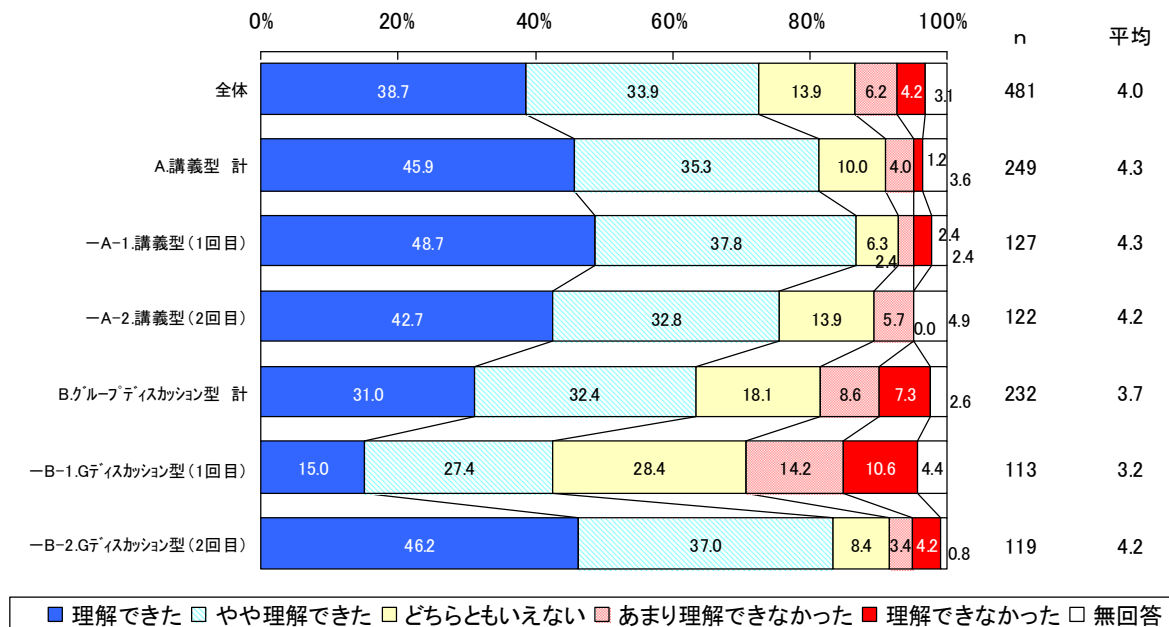
⑩「ふつうの」野菜よりも「有機・無農薬」野菜が安全とは限らないこと。

関係する説明内容

スライド				
	講義型 (1回目)	講義型 (2回目)	グループディスカッション型 (1回目)	グループディスカッション型 (2回目)
26 有機栽培はすべて本当に大丈夫ですか？	提示	提示		提示
27 日米の農薬使用量の比較	提示			

- 専門家から提供した情報のうち『「ふつうの」野菜よりも「有機・無農薬」野菜が安全とは限らないこと』に対して「理解できた(「やや」含む)」のは参加者の72.6%となっている。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の81.1%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では63.4%である。

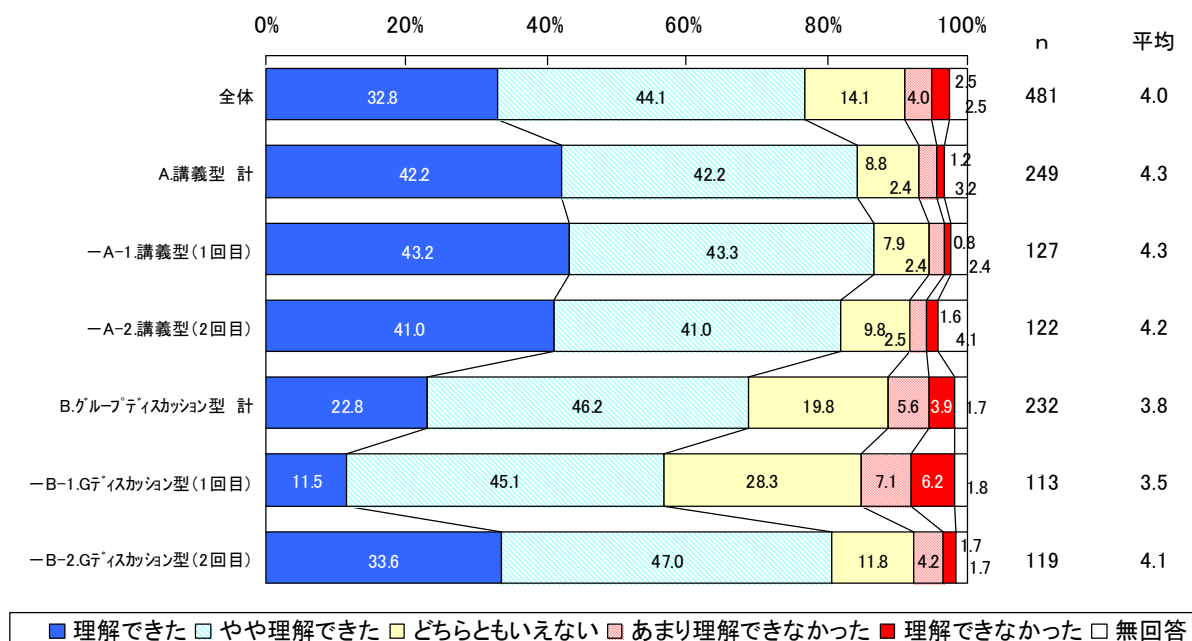
Q4-9.「ふつうの」野菜よりも「有機・無農薬」野菜が安全とは限らないこと



⑪ 専門家の話全般として

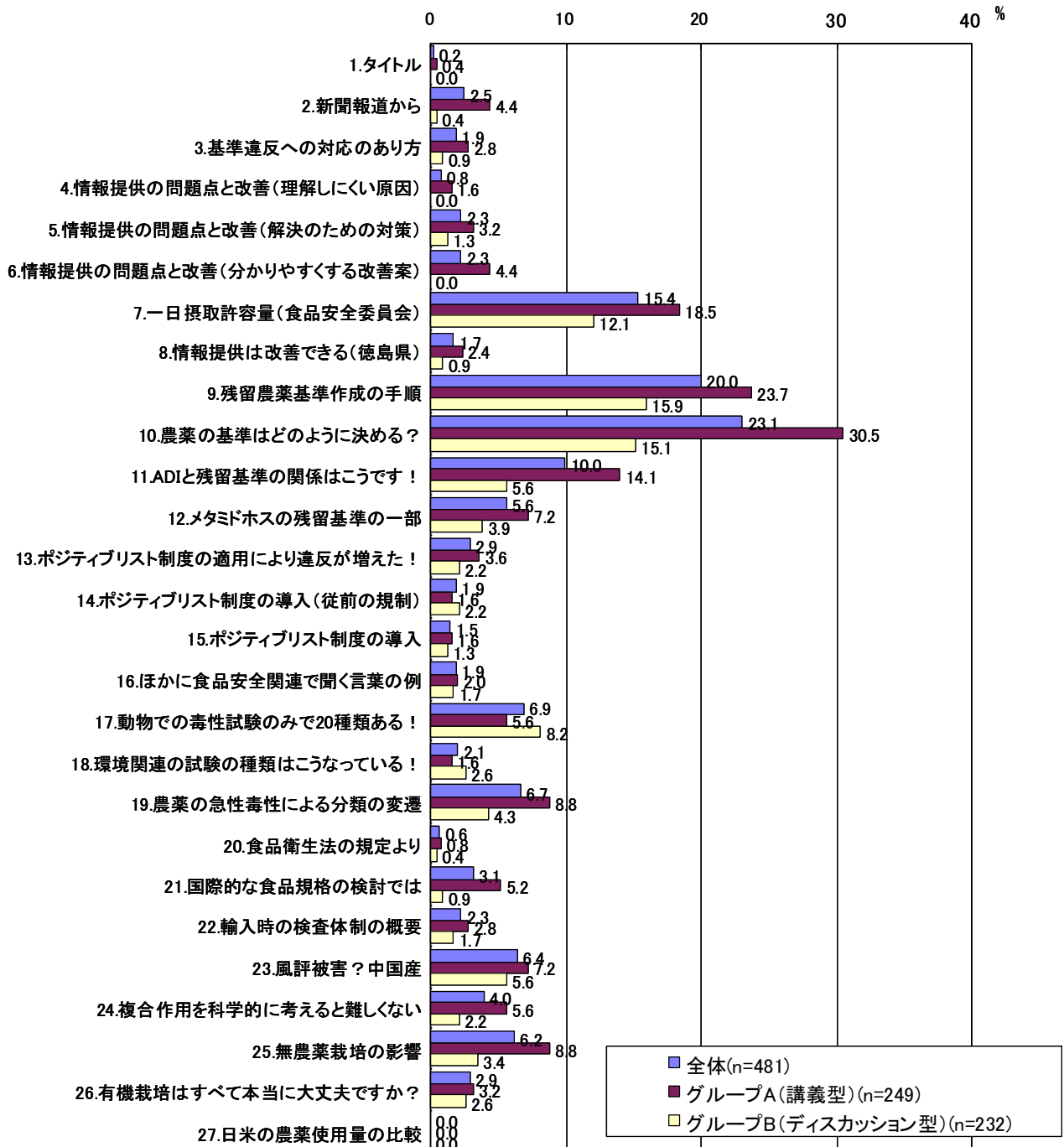
- 専門家の話全般に対して、「理解できた(「やや」含む)」のは参加者の76.9%となっている。
- 「理解できた(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の84.3%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では69.0%である。

Q4-10. 専門家の話全般として



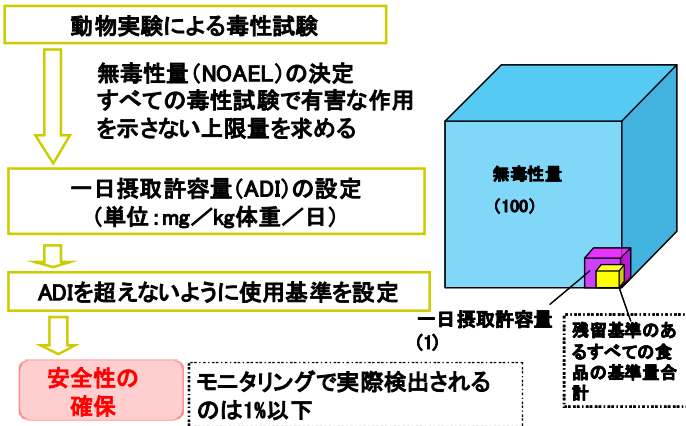
⑫知りたいことがわかったと感じたスライド

- グループ A(講義型)、グループ B(グループディスカッション型)とも、相対的には「農薬の基準はどのように決める?」「残留農薬の基準作成の手順」「一日摂取許容量(食品安全委員会)」をあげた人が多い。
- グループ A(講義型)において、多くのスライドがあげられている。

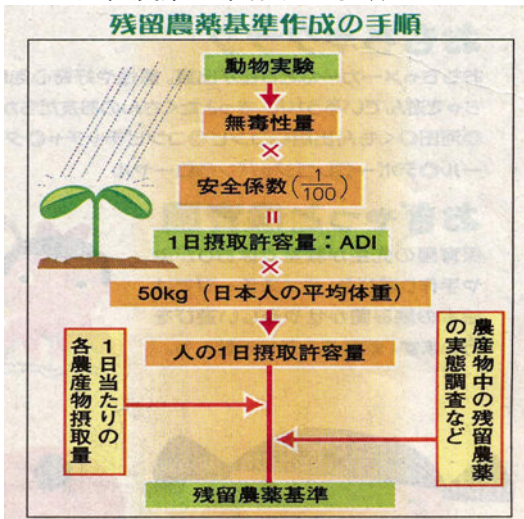


スライド 10: 農薬の基準はどのように決める？

農薬の基準はどのように決める？



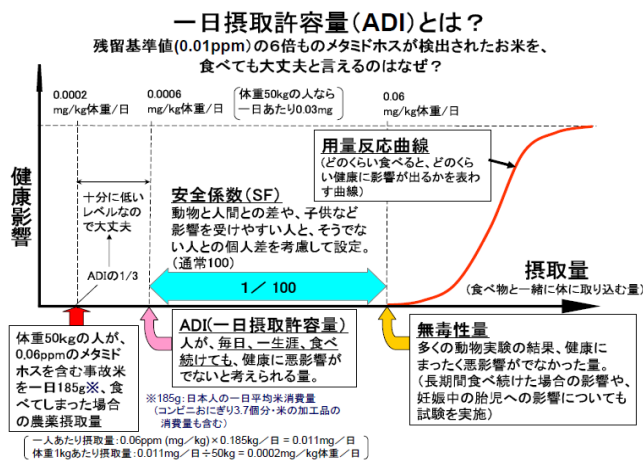
スライド 9: 残留農薬基準作成の手順



9

スライド 7: 一日摂取許容量(食品安全委員会)

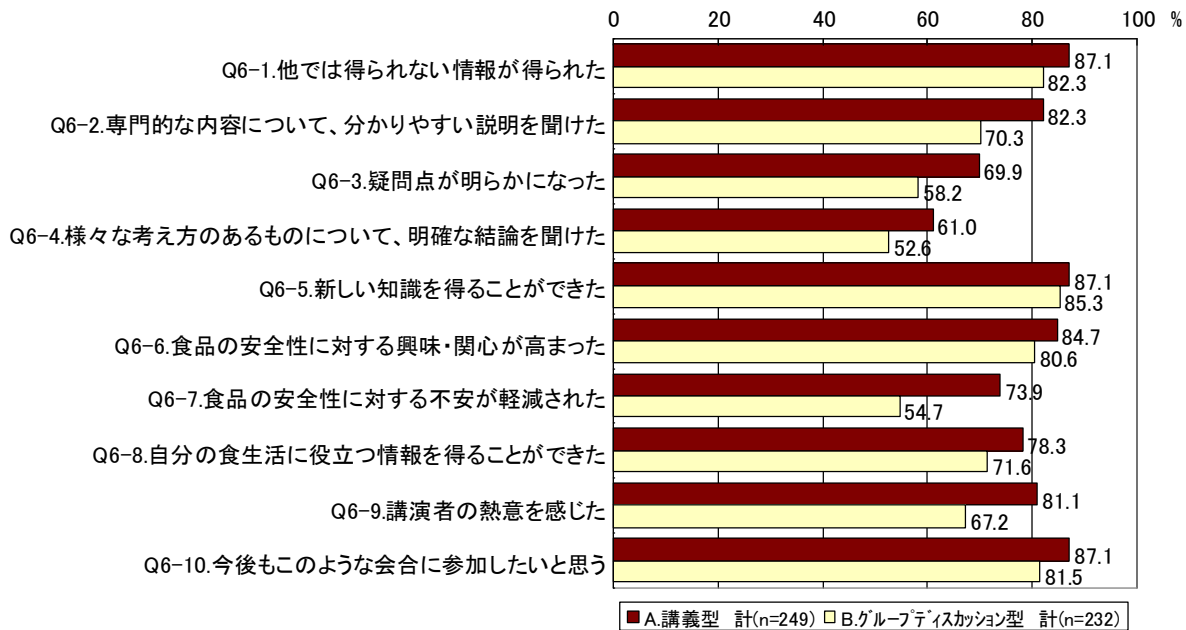
マミドホスの場合 食品安全委員会の説明から これを理解できますか？



4) 印象評価

- グループ A、グループ B とも 8 割以上が「他では得られない情報が得られた」「新しい知識を得ることが得られた」「食品の安全性に対する興味・関心が高まった」「今後もこのような会合に参加したいと思う」について、「あてはまる」と回答しており、今回の意見交換会は新たな知識の提供や興味・関心の喚起につながっている。
- 全体的にグループ A(講義型)での評価が高い。特に「食品の安全性に対する不安が軽減された」については、グループ A(講義型)とグループ B(グループディスカッション型)との間で20%程度の差がある。

あてはまる(「やや」含む)と回答した人の割合



- 「専門的な内容について、わかりやすい説明を聞いた」「疑問点が明らかになった」「食品に対する不安が軽減された」「講演者の熱意を感じた」については、1%有意水準でグループ A(講義型)にあてはまると回答した人が多い。

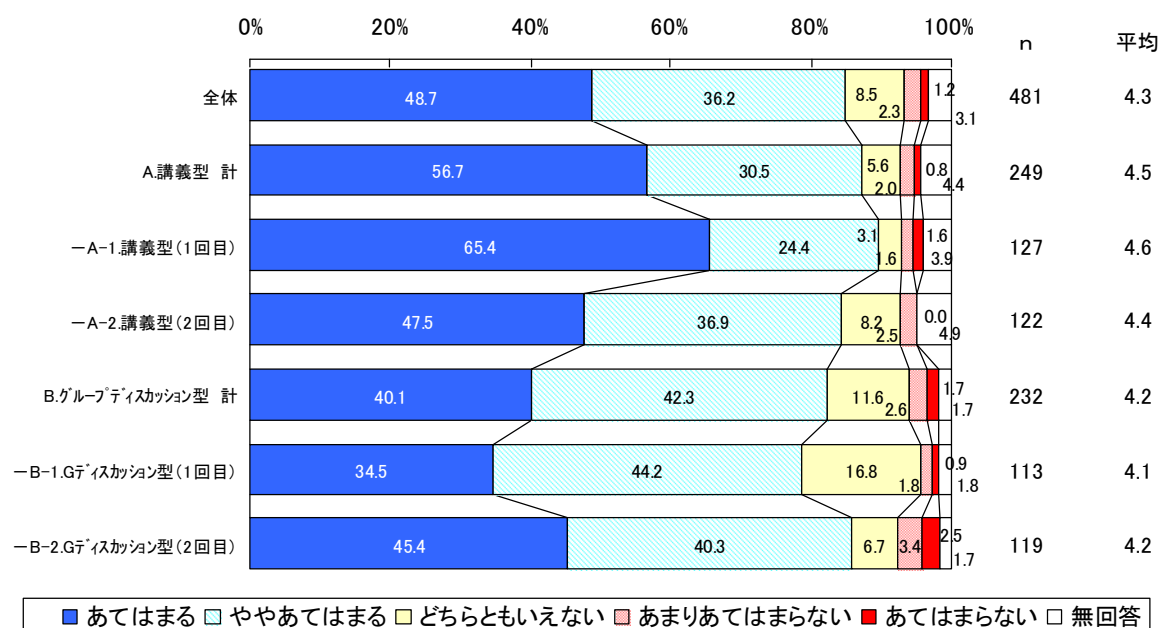
独立性の検定結果 (検定方法: 適合度によるカイ自乗検定)

	グループ A (講義型) (n=249)	グループ B (ディスカッション型) (n=232)	比率差	χ^2 値	自由度	P値	判定
Q6-1. 他では得られない情報が得られた	87.1%	82.3%	4.8%	2.17	1	0.1409	[]
Q6-2. 専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた	82.3%	70.3%	12.1%	9.74	1	0.0018	**
Q6-3. 疑問点が明らかになった	69.9%	58.2%	11.7%	7.14	1	0.0075	**
Q6-4. 様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞いた	61.0%	52.6%	8.5%	3.50	1	0.0612	[]
Q6-5. 新しい知識を得ることができた	87.1%	85.3%	1.8%	0.33	1	0.5656	[]
Q6-6. 食品の安全性に対する興味・関心が高まった	84.7%	80.6%	4.1%	1.44	1	0.2304	[]
Q6-7. 食品の安全性に対する不安が軽減された	73.9%	54.7%	19.2%	19.28	1	0.0000	***
Q6-8. 自分の食生活に役立つ情報を得ることができた	78.3%	71.6%	6.8%	2.93	1	0.0868	[]
Q6-9. 講演者の熱意を感じた	81.1%	67.2%	13.9%	12.16	1	0.0005	***
Q6-10. 今後もこのような会合に参加したいと思う	87.1%	81.5%	5.7%	2.95	1	0.0860	[]

①他では得られない情報が得られた。

- 「他では得られない情報が得られた」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の84.8%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の87.1%、グループ B(グループディスカッション型)では82.3%である。

Q6-1.他では得られない情報が得られた



(注) 図表の「平均」は回答内容について、以下の配点で平均を求めたものである。

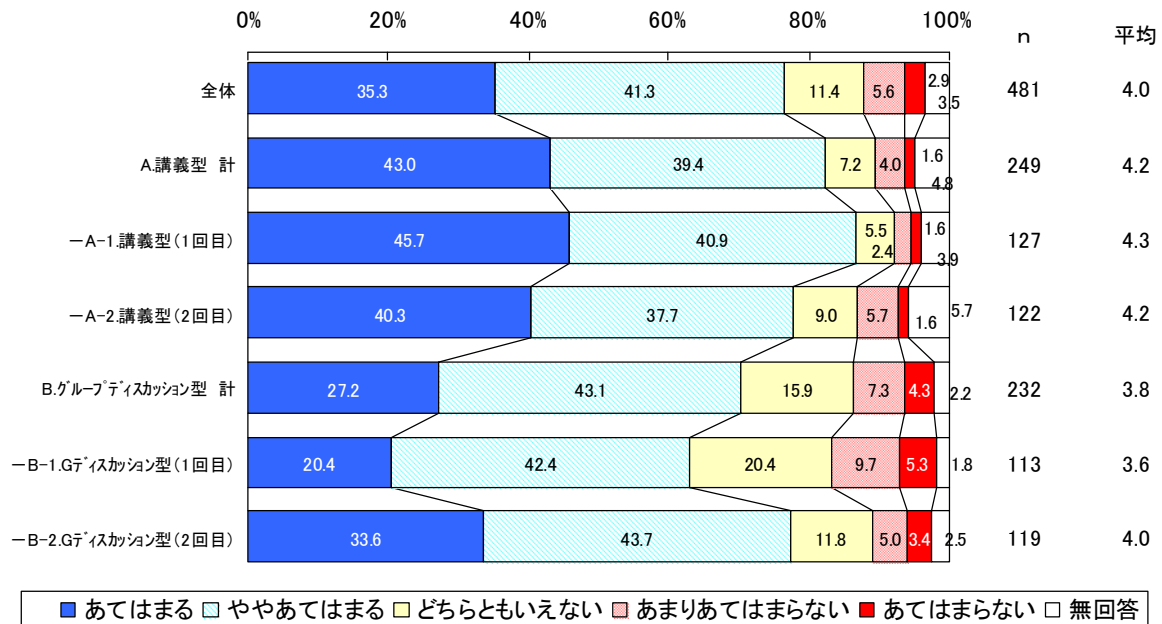
あてはまる	5
ややあてはまる	4
どちらともいえない	3
あまりあてはまらない	2
あてはまらない	1

(以下の図表について同じ)

②専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた。

- 「専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の76.5%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の82.3%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では70.3%である。

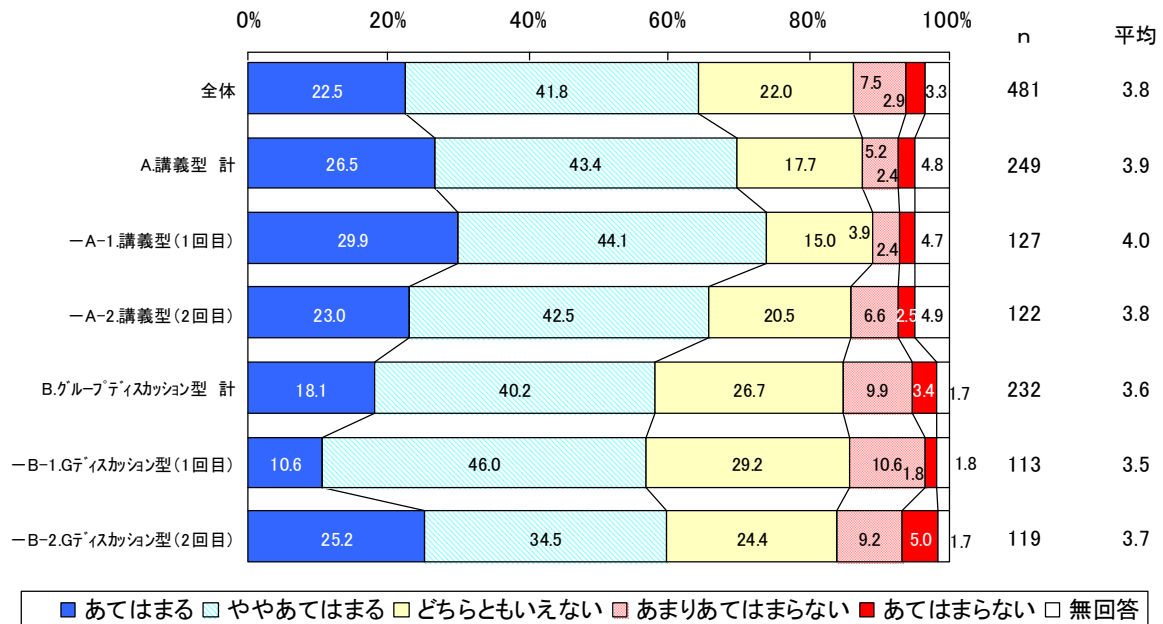
Q6-2.専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた



③疑問点が明らかになった。

- 「疑問点が明らかになった」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の 64.2%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の 69.9%であるのに対して、グループ B(グループディスカッション型)では 58.2%である。

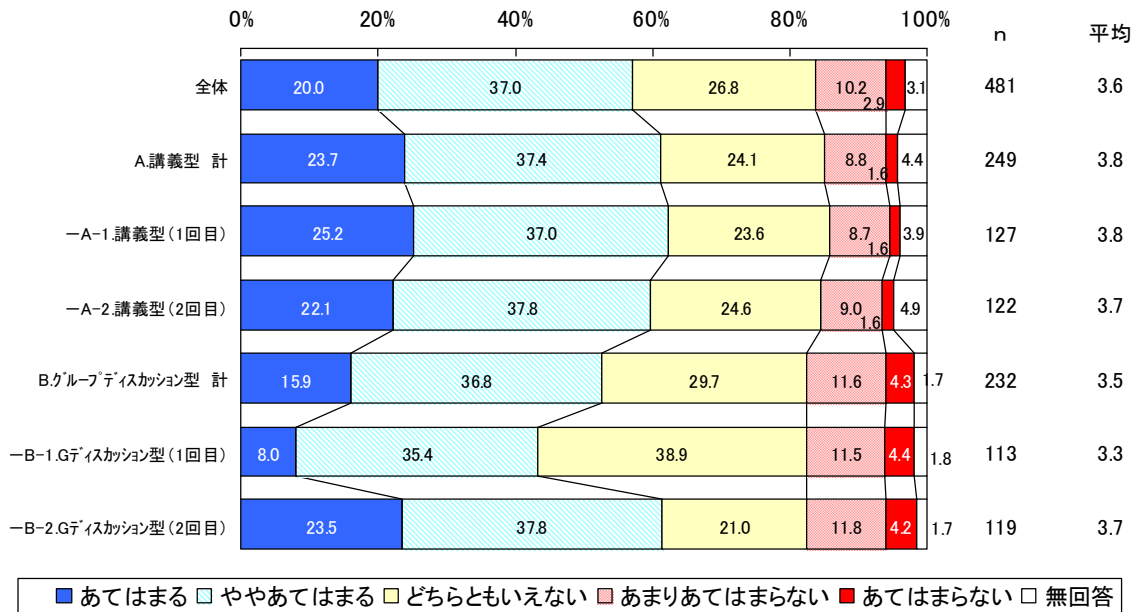
Q6-3.疑問点が明らかになった



④様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞いた。

- 「様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞いた」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の57.0%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の61.0%、グループB(グループディスカッション型)では52.6%である。

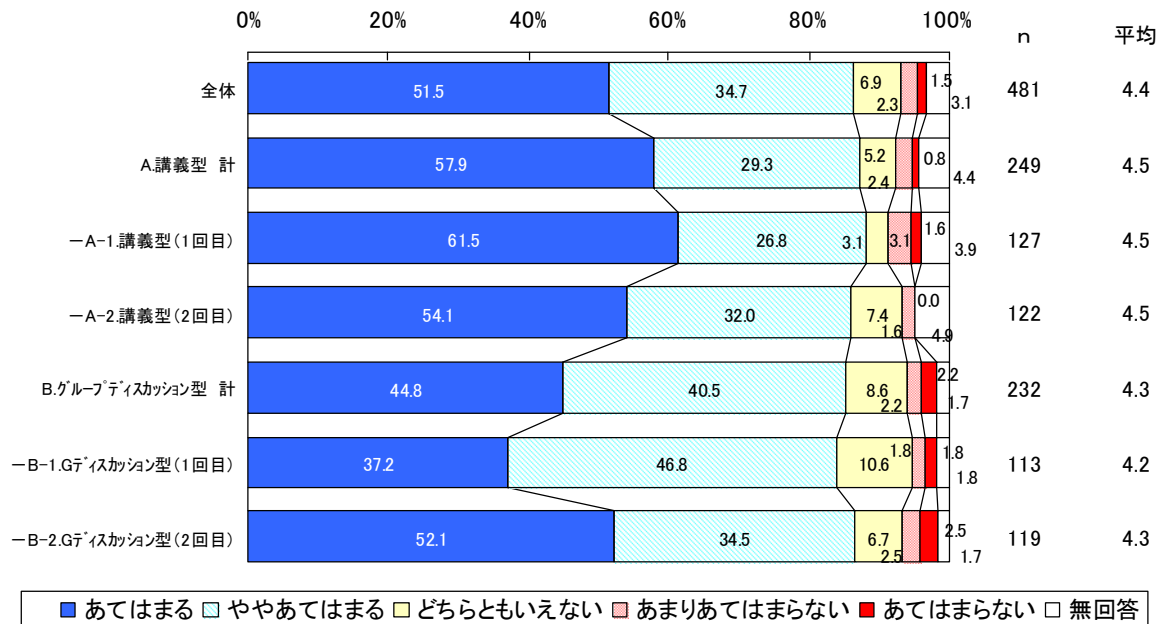
Q6-4.様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞いた



⑤新しい知識を得ることができた。

- 「新しい知識を得ることができた」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の 86.3% となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の 87.1%、グループ B(グループディスカッション型)では 85.3%である。

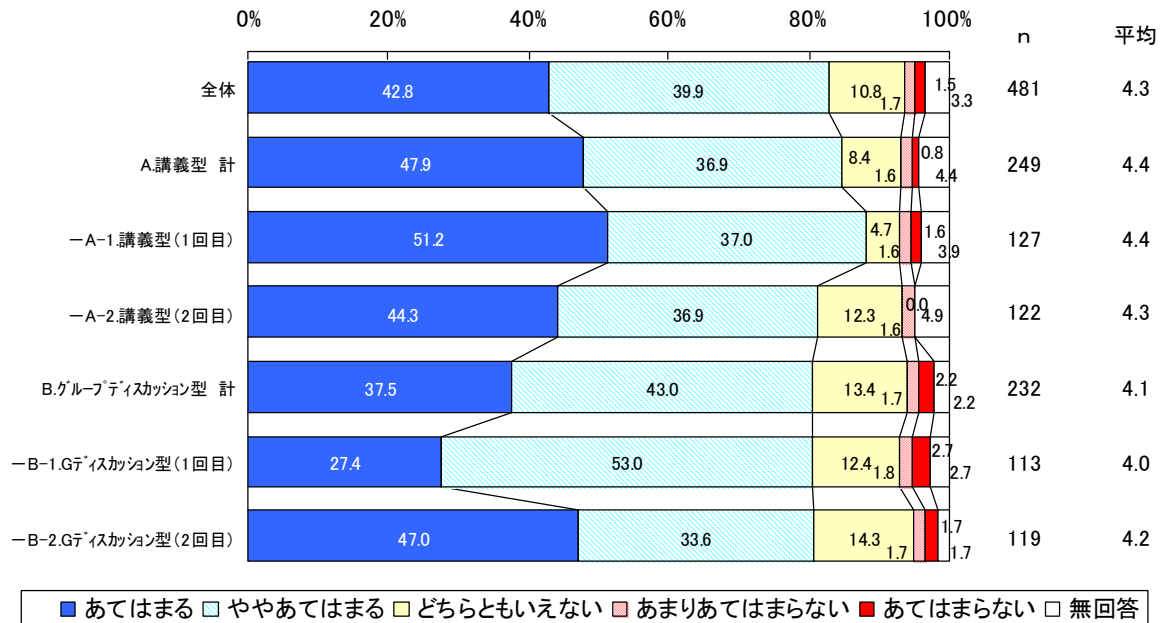
Q6-5.新しい知識を得ることができた



⑥食品の安全性に対する興味・関心が高まった。

- 「食品の安全性に対する興味・関心が高まった」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の 82.7%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の 84.7%、グループ B(グループディスカッション型)では 80.6%である。

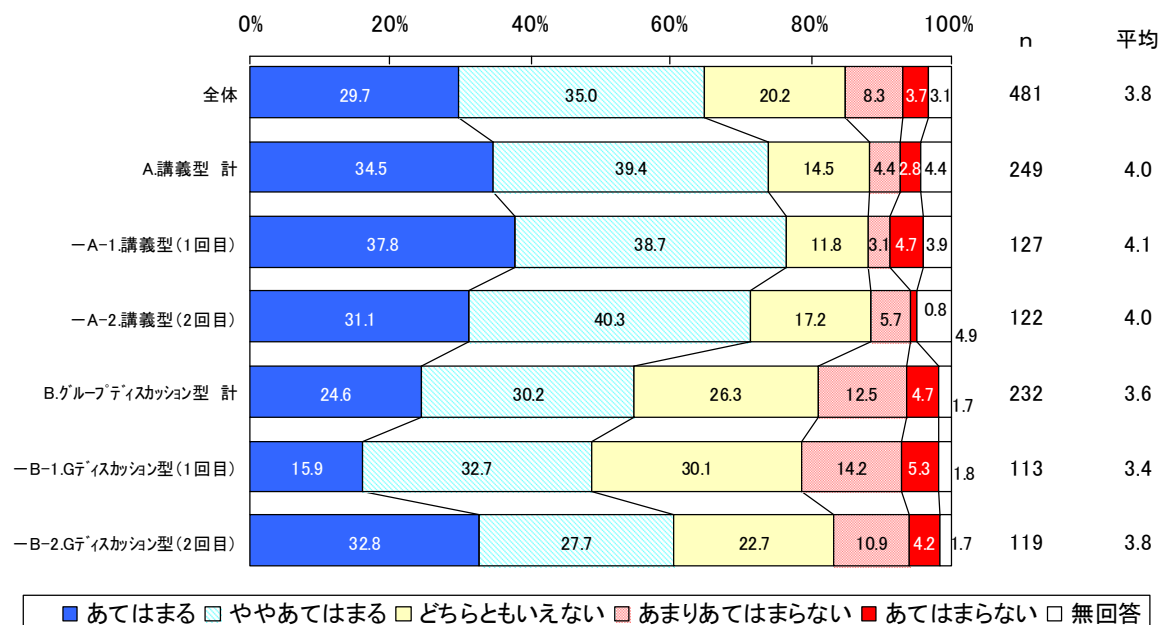
Q6-6.食品の安全性に対する興味・関心が高まった



⑦食品の安全性に対する不安が軽減された。

- 「食品の安全性に対する不安が軽減された」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の 64.7%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の 73.9%であるのに対して、グループ B(グループディスカッション型)では 54.7%である。

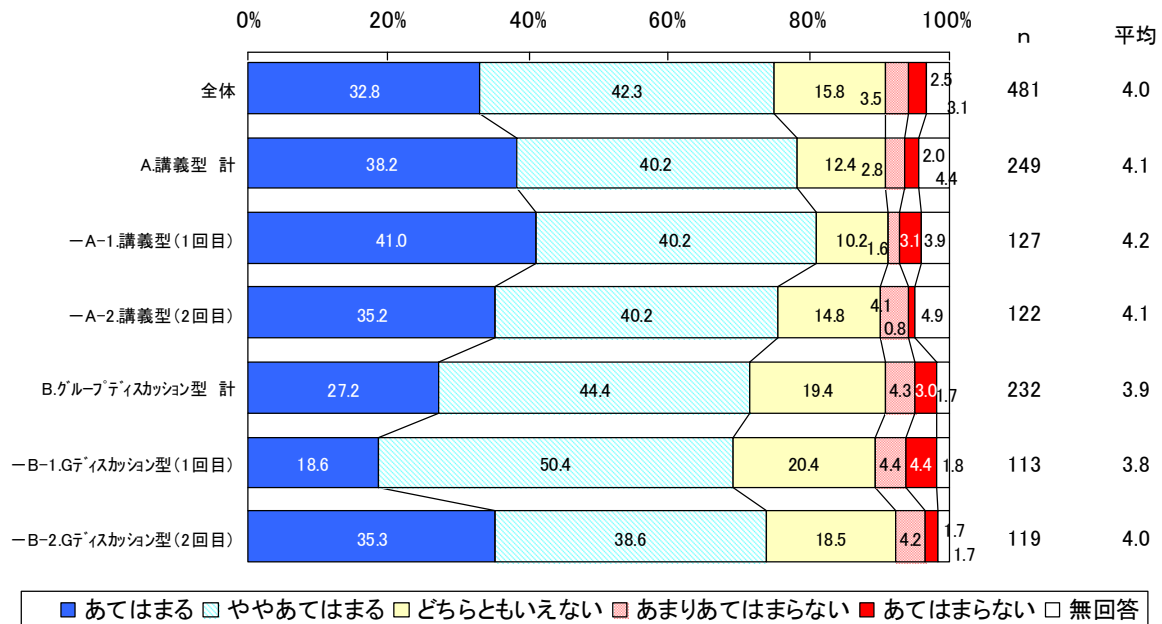
Q6-7.食品の安全性に対する不安が軽減された



⑧自分の食生活に役立つ情報を得ることができた。

- 「自分の食生活に役立つ情報を得ることができた」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の75.1%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の78.3%、グループB(グループディスカッション型)では71.6%である。

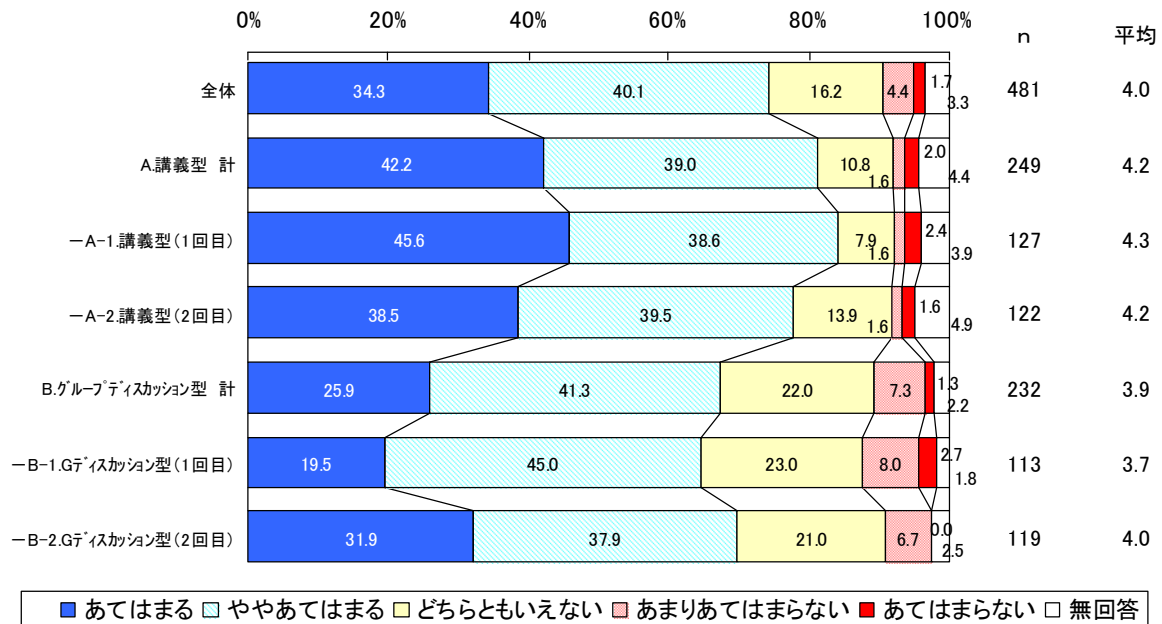
Q6-8.自分の食生活に役立つ情報を得ることができた



⑨講演者の熱意を感じた。

- 「講演者の熱意を感じた」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の74.4%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループA(講義型)では参加者の81.1%であるのに対して、グループB(グループディスカッション型)では67.2%である。

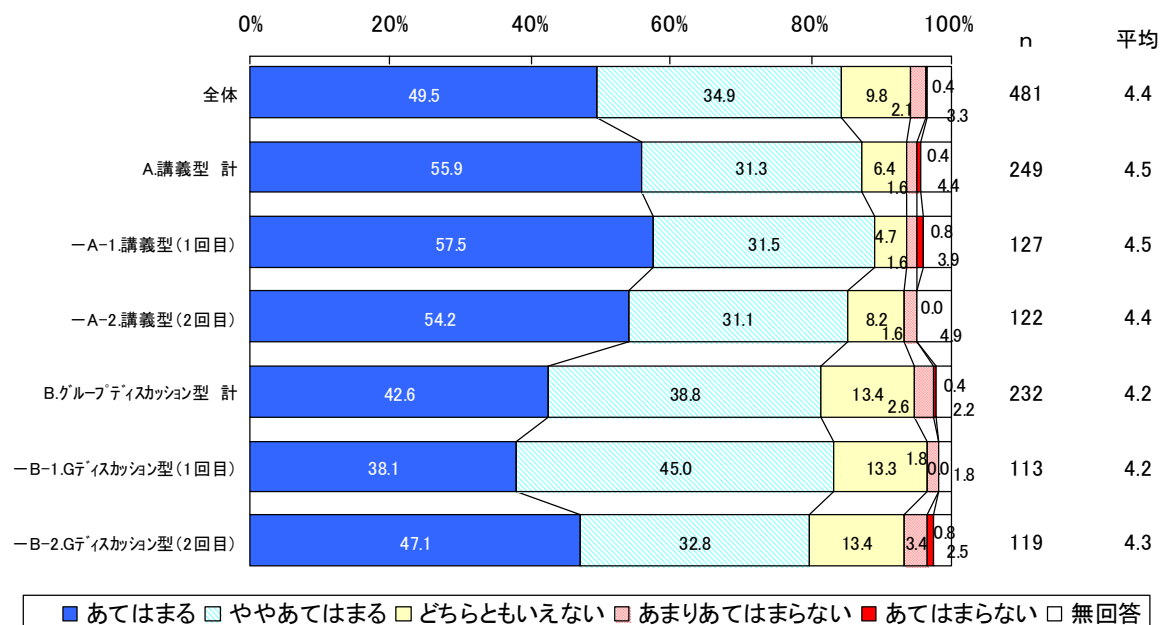
Q6-9.講演者の熱意を感じた



⑩今後もこのような会合に参加したいと思う。

- 「今後もこのような会合に参加したいと思う」について「あてはまる(「やや」含む)」と回答したのは参加者の 84.4%となっている。
- 「あてはまる(「やや」含む)」と回答しているのは、グループ A(講義型)では参加者の 87.1%、グループ B(グループディスカッション型)では 81.5%である。

Q6-10.今後もこのような会合に参加したいと思う



4.2 評価のまとめ

(1)満足度について

会合全般に対する満足度はグループ A（講義型）において高かった。また、個別の評価項目についても、グループ B（グループディスカッション型）の方が満足度が高い項目は「他の参加者の意見にふれたこと」のみである。

満足度評価

	グループ A(講義型) (n=249)	グループ B(ディスカッション型) (n=232)	比率差	χ^2 値	自由度	P値	判定
Q1-1.応募時に「知りたい」と伝えたことが内容に反映されていたこと	77.9%	61.2%	16.7%	15.91	1	0.0001	***
Q1-2.配付資料	79.5%	67.7%	11.8%	8.72	1	0.0032	**
Q1-3.DVD「気になる農薬」	83.9%	63.8%	20.1%	25.47	1	0.0000	***
Q1-4.専門家の話	83.1%	61.2%	21.9%	29.00	1	0.0000	***
Q1-5.専門家との対話・質疑応答	79.9%	47.8%	32.1%	53.93	1	0.0000	***
Q1-6.他の参加者の意見にふれたこと	74.3%	83.6%	-9.3%	6.25	1	0.0124	*
Q1-7.本日の会合全般として	86.7%	67.2%	19.5%	26.07	1	0.0000	***

意見交換会の開催に先立ち、応募時に「知りたい」ということをあらかじめたずねておき、その結果を講義資料に反映した。グループ A（講義型）では、応募者の疑問に沿って準備された資料を筋道を立てて説明したが、グループ B（グループディスカッション型）での情報提供はグループから出された疑問への回答という形で行われ、必ずしも応募時に知りたいと伝えたことについて説明できたわけではなかった。このことが、グループ A と B の満足度の差異につながっていることと考えられる。

配付資料については、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも同一の資料を配付したが、グループ A（講義型）では資料に沿って説明したのに対して、グループ B（グループディスカッション型）では質疑応答の際に一部参照されるのみで、十分な説明の時間を設けなかった。このことが、グループ A と B の満足度の差異につながっていることと考えられる。

DVD「気になる農薬」についても、グループ B（グループディスカッション型）での満足度が低い。これは、グループ B（グループディスカッション型）では、内容について講義や質疑応答でフォローアップできなかったこと、グループディスカッション後の質疑応答の時間が不足したのに対して、DVD視聴の時間が無駄に感じられたことが推察される。

「専門家との対話・質疑応答」「専門家の話」について満足度の差が大きい（20%以上の差がある）。これは、グループ A（講義型）では十分な時間をとって説明、質疑応答できたのに対して、グループディスカッション型では、質疑応答など専門家との対話の時間が短かったことに由来すると考えられる。

他の参加者の意見に触れる機会は、グループ A では質疑応答のみだが、グループ B（グループディスカッション型）ではグループディスカッションの成果をもとに対話してもらっている。このことがグループ B に高い満足度をもたらしている。

結果として会合全般としては、グループ A（講義型）の満足度が有意に高くなっている。グループ A（講義型）の満足度が高かった原因としては、参加者の疑問に沿った講演内容、筋道の立った説明、専門家の話と対話・質疑応答の充実が考えられる。一方、グループ B（グループディスカッション型）の満足度が低かった原因としては、筋道を立てた知識の提供時間がなかったこと、ディスカッション後の専門家との対話時間が短かったことが考えられる。

(2)理解度について

今回の意見交換会の主題である「基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと」「基準値は動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること」「いろいろな食品のそれぞれについて残留基準が定められていること」「毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること」は、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 8 割以上が理解できたとしている。

理解度評価

	グループ A(講義型) (n=249)	グループ B(ディスカッション型) (n=232)	比率差	χ^2 値	自由度	P値	判定
Q3.DVD「気になる農薬」の理解度	95.6%	85.8%	9.8%	13.90	1	0.0002	***
Q4-1.基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと	93.6%	84.9%	8.7%	9.50	1	0.0021	**
Q4-2.基準値は、動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること	91.2%	87.1%	4.1%	2.09	1	0.1483	[]
Q4-3.いろいろな食品のそれぞれについて、残留基準が定められていること。	91.6%	84.5%	7.1%	5.77	1	0.0163	* []
Q4-4.残留してもよい農薬がリスト化されていること	82.7%	69.8%	12.9%	11.13	1	0.0009	***
Q4-5.毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること	87.1%	81.5%	5.7%	2.95	1	0.0860	[]
Q4-6.現在使われている農薬のほとんどは、毒物・劇物でないこと	85.1%	71.1%	14.0%	13.93	1	0.0002	***
Q4-7.農薬の場合には、複合作用はまれにしかみられないこと	76.3%	64.2%	12.1%	8.42	1	0.0037	**
Q4-8.農薬は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること	86.7%	75.9%	10.9%	9.44	1	0.0021	**
Q4-9.「ふつうの」野菜よりも「有機・無農薬」野菜が安全とは限らないこと	81.1%	63.4%	17.8%	19.03	1	0.0000	***
Q4-10.専門家の話全般として	84.3%	69.0%	15.4%	15.99	1	0.0001	***

今回の意見交換会ではテーマを「基準値の 2 倍！どうしたらいいの」と掲げ、基準値の意味や決め方を主題として情報を伝えるものと予告していた。

「基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと」「基準値は動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること」「いろいろな食品のそれぞれについて残留基準が定められていること」「毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること」については、DVD「気になる農薬」でも言及され、グループ A（講義型）の講義内容にも含まれていた。また、グループ B（グループディスカッション型）においても、グループ討議の結果としてこれらのことが疑問であるとされた。その結果、グループ A,B ともこれらの項目については参加者の 8 割以上が理解できたとしている。

一方、「複合作用」「現在の農薬が毒物劇物でないこと」「『ふつうの』野菜よりも『有機・無農薬』野菜が安全とは限らない」などの話題については、グループ A（講義型）では講義内容に含まれていたが、グループ B（グループディスカッション型）では短時間の質疑応答で言及されたただけなので理解度に差が出ることとなった。

なお、これらは開催当日の結果であり、最終的な理解度については介入試験の評価を参照されたい。

(3)会合の印象について

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）ともに 8 割以上が「他では得られない情報が得られた」「新しい知識を得ることができた」と感じており、「今後もこのような会合に参加したいと思う」についても 8 割以上があてはまると回答した。

全体的にグループ A（講義型）の評価が高く、「専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた」「疑問点が明らかになった」「食品の安全性に対する不安が軽減された」「講演者の熱意を感じた」については、グループ A（講義型）とグループ B（グループディスカッション型）での差異が大きかった。

印象評価

	グループ A(講義型) (n=249)	グループ B(ディスカッション型) (n=232)	比率差	χ^2 値	自由度	P値	判定
Q6-1.他では得られない情報が得られた	87.1%	82.3%	4.8%	2.17	1	0.1409	[]
Q6-2.専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた	82.3%	70.3%	12.1%	9.74	1	0.0018	**]
Q6-3.疑問点が明らかになった	69.9%	58.2%	11.7%	7.14	1	0.0075	**]
Q6-4.様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞いた	61.0%	52.6%	8.5%	3.50	1	0.0612	[]
Q6-5.新しい知識を得ることができた	87.1%	85.3%	1.8%	0.33	1	0.5656	[]
Q6-6.食品の安全性に対する興味・関心が高まった	84.7%	80.6%	4.1%	1.44	1	0.2304	[]
Q6-7.食品の安全性に対する不安が軽減された	73.9%	54.7%	19.2%	19.28	1	0.0000	***]
Q6-8.自分の食生活に役立つ情報を得ることができた	78.3%	71.6%	6.8%	2.93	1	0.0868	[]
Q6-9.講演者の熱意を感じた	81.1%	67.2%	13.9%	12.16	1	0.0005	***]
Q6-10.今後もこのような会合に参加したいと思う	87.1%	81.5%	5.7%	2.95	1	0.0860	[]

会合全般としては、両グループとも 8 割以上が「今後もこのような会合に参加したいと思う」と回答していることから、有意義なものと感じられたことが推察される。特に、今回の参加者はアンケートモニターから抽出しており、その多くは普段から食品安全委員会のホームページ等をチェックして情報を収集している人たちではないが、何らかのきっかけでこのような会合に参加することで知識を得たと感じることができ、以後も参加意向を持つことがうかがわれる。

両グループを通じて、質疑応答の場面では簡単な説明で納得が得られないことや端的な回答が難しい場面がみられたことから、順序立てて説明することが理解を得るために有効であり、その点講義型の方が有利だったのではないかと推察される。また「講演者の熱意を感じた」については、講演者の登壇時間が長い講義型の方が高い評価となった。

5. 行動指標調査（介入試験）

5.1 調査概要

(1)目的

食品安全委員会のリスクコミュニケーションの中心的な取組みである意見交換会の実施効果を測定する指標を検討し、その効果を明らかにするとともに、更なる効果的なリスクコミュニケーションを推進する上での知見を収集する。

(2)実施方法

1) 調査対象者

首都圏一都三県（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）在住の20代～60代までの男女を対象とした。母集団として登録制アンケートモニターデータベースを利用した。

2) 実施手順

①募集・事前調査

登録制アンケートモニターに対して募集を行った。

意見交換会への参加の意思を確認し、意見交換会への参加意思がある応募者に対して事前調査への回答を依頼した。意見交換会への参加意思があり、事前調査に回答した応募者を本件調査対象の候補者とした。（1790名）

②抽出・割り付け

候補者1790名から、性別・年代別に介入グループAに283名、介入グループBに299名を抽出し、各意見交換会日程を指定して参加を依頼した。また、グループC（対照群）に381名を割り付け、調査への回答を依頼した。（計963名）

なお、参加者の抽出、割付にあたった者は事前調査の回答内容を把握していない。また、グループA、Bの参加者は他のグループの存在を知らない。

③意見交換会実施

意見交換会参加依頼の後、当日までにグループAから34名、グループBから67名が参加を辞退したため対象から除外した。

最終的にグループAは249名、グループBは232名が意見交換会に参加した。

④事後調査実施

各グループに対して、1週間後、2ヶ月後に事前調査と同様の調査票によりアンケートを実施した。

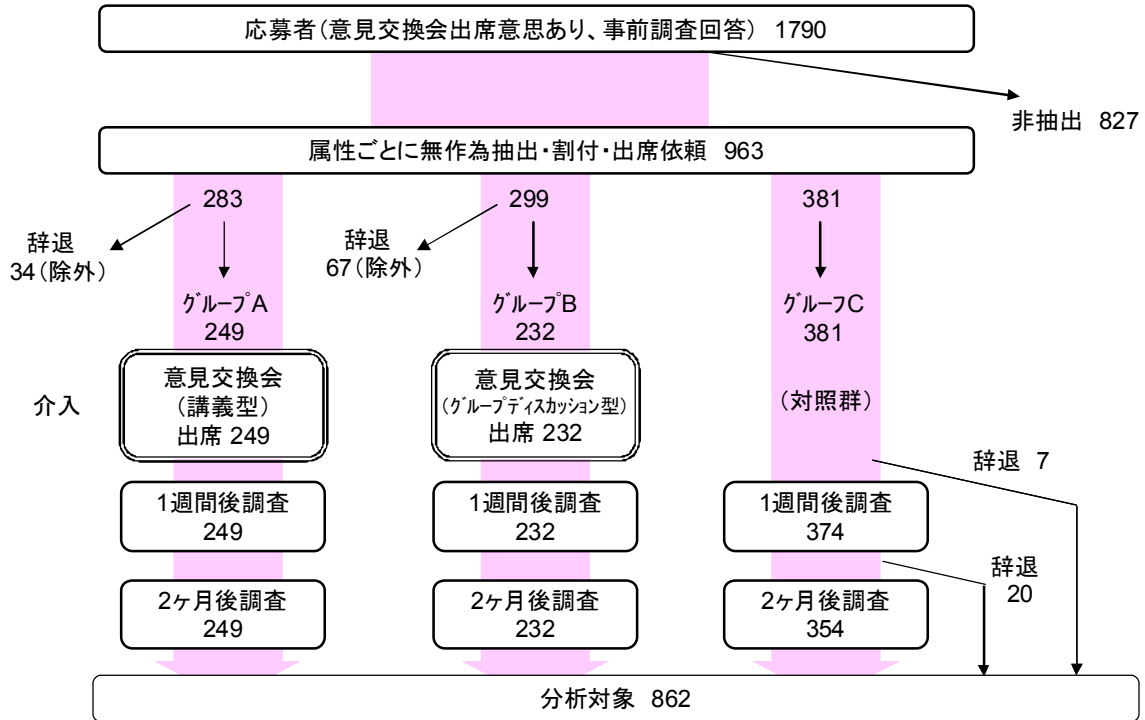
グループC（対照群）381名のうち、1週間後調査の段階で7名、さらに2ヶ月後調査の段階で20名、計27名が回答を拒否したが、いずれも評価対象に含めた。

最終的に、グループA（講義型意見交換会出席者）249名、グループB（グループディスカッション型意見交換会出席者）232名、グループC（対照群）381名、計862名を評価対象とした。

グループA、Bの参加者は他のグループの存在を知らない。

グループC（対照群）は、自分の出席がないままに意見交換会が開催されたことを知っているが、意見交換会の内容を知らない。

募集から実施、調査分析の流れ

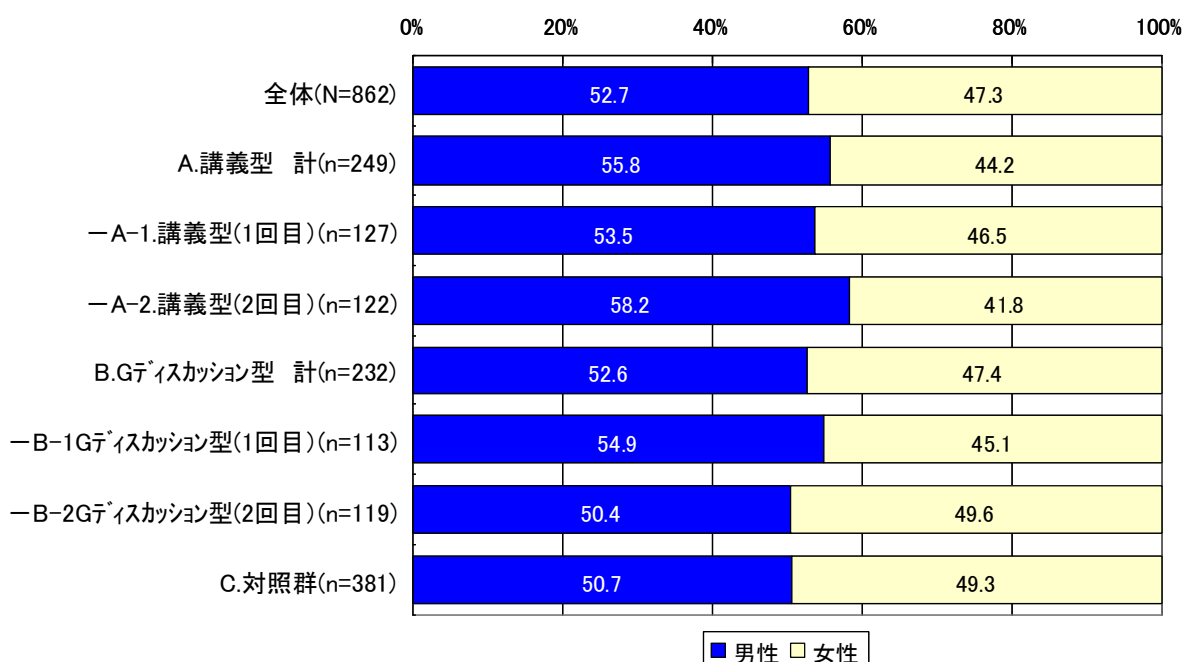


3) 評価対象者

①全体

	グループA (講義型)	グループB (グループディスカッション型)	グループC (対照群)
計	249	232	381
-1回目(11/1)	127	113	
-2回目(11/3)	122	119	

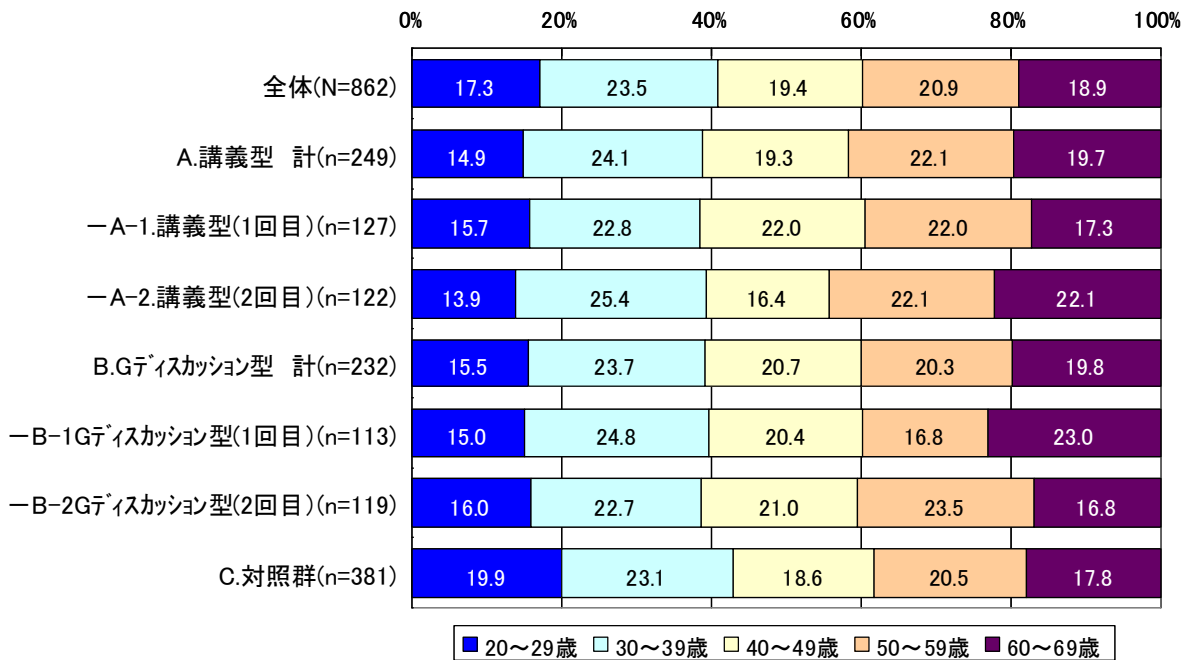
②性別



	合計	性別			
		男性	女性	不明	
全体	862	454	408	0	
グループ	A. 講義型 計	249	139	110	0
	-A-1. 講義型(1回目)	127	68	59	0
	-A-2. 講義型(2回目)	122	71	51	0
	B. Gディスカッション型 計	232	122	110	0
	-B-1. Gディスカッション型(1回目)	113	62	51	0
	-B-2. Gディスカッション型(2回目)	119	60	59	0
	C. 対照群	381	193	188	0

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
男性	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	55.8%	52.6%	3.2%	0.7121	0.4764	□
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	55.8%	50.7%	5.2%	1.2700	0.2041	□
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	52.6%	50.7%	1.9%	0.4637	0.6429	□
女性	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	44.2%	47.4%	3.2%	0.7121	0.4764	□
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	44.2%	49.3%	5.2%	1.2700	0.2041	□
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	47.4%	49.3%	1.9%	0.4637	0.6429	□

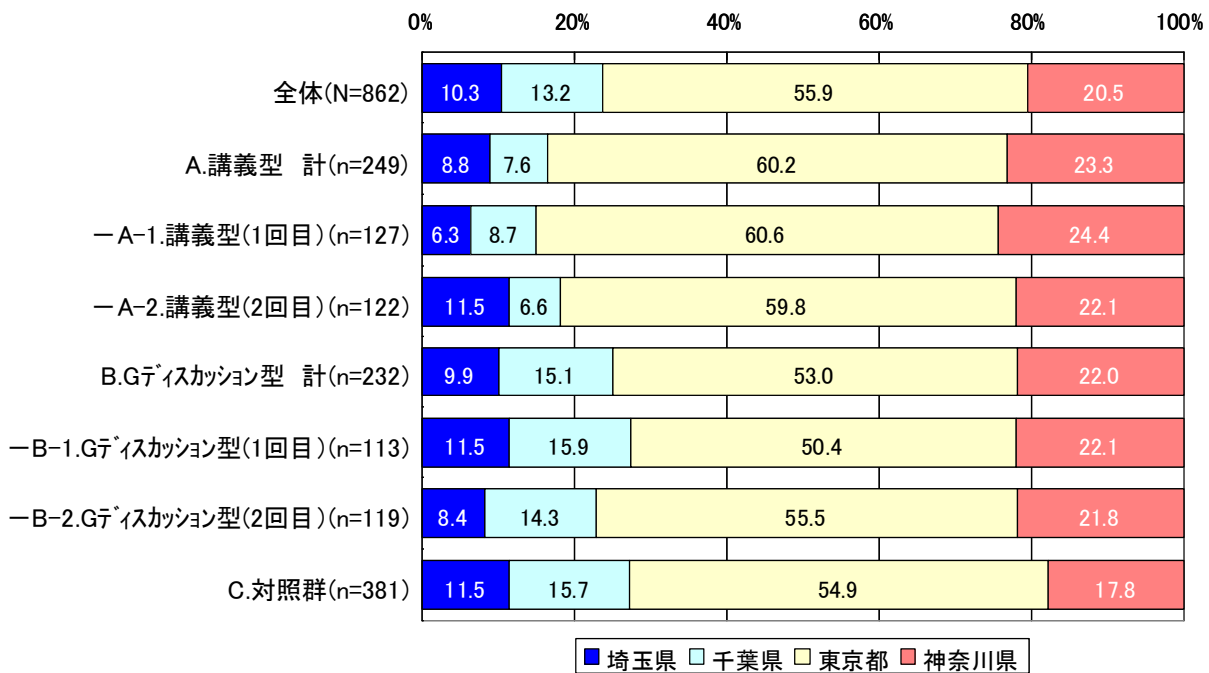
③年代別



	合計	年代								
		10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明	
全体	862	0	149	203	167	180	163	0	0	
グループ	A.講義型 計	249	0	37	60	48	55	49	0	0
	-A-1.講義型(1回目)	127	0	20	29	28	28	22	0	0
	-A-2.講義型(2回目)	122	0	17	31	20	27	27	0	0
	B.Gディスカッション型 計	232	0	36	55	48	47	46	0	0
	-B-1.Gディスカッション型(1回目)	113	0	17	28	23	19	26	0	0
	-B-2.Gディスカッション型(2回目)	119	0	19	27	25	28	20	0	0
	C.対照群	381	0	76	88	71	78	68	0	0

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
20～29歳	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	14.9%	15.5%	0.7%	0.2009	0.8408	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	14.9%	19.9%	5.1%	1.6274	0.1036	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	15.5%	19.9%	4.4%	1.3767	0.1686	[]
30～39歳	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	24.1%	23.7%	0.4%	0.1001	0.9203	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	24.1%	23.1%	1.0%	0.2892	0.7724	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	23.7%	23.1%	0.6%	0.1731	0.8625	[]
40～49歳	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	19.3%	20.7%	1.4%	0.3873	0.6985	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	19.3%	18.6%	0.6%	0.2013	0.8405	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	20.7%	18.6%	2.1%	0.6237	0.5328	[]
50～59歳	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	22.1%	20.3%	1.8%	0.4906	0.6237	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	22.1%	20.5%	1.6%	0.4859	0.6270	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	20.3%	20.5%	0.2%	0.0637	0.9492	[]
60～69歳	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	19.7%	19.8%	0.1%	0.0410	0.9673	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	19.7%	17.8%	1.8%	0.5778	0.5634	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	19.8%	17.8%	2.0%	0.6110	0.5412	[]

④居住地別

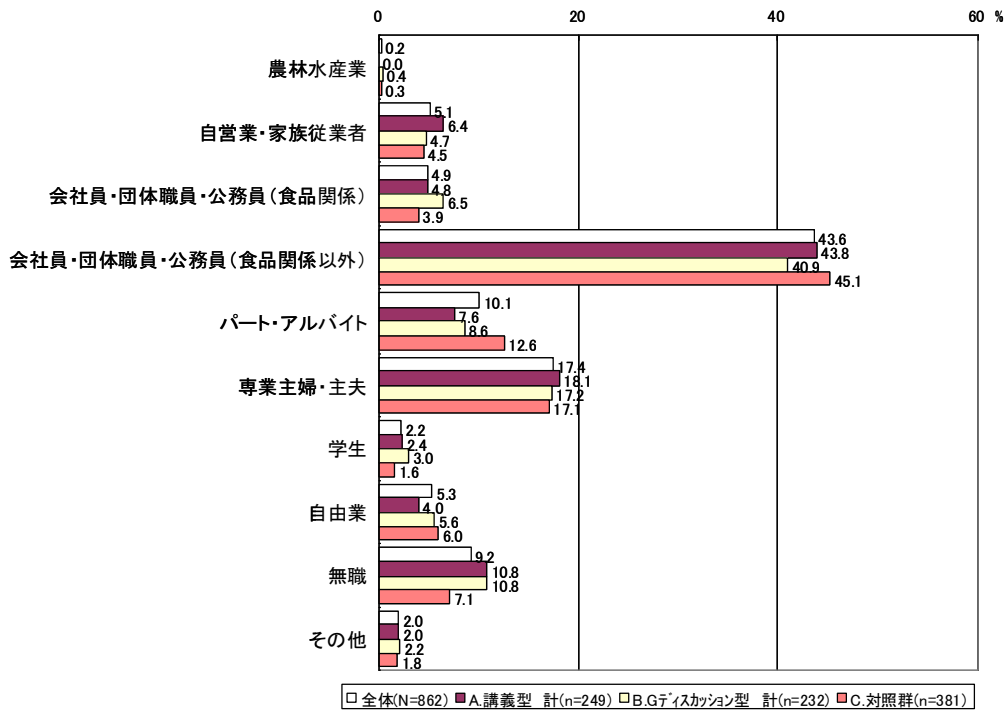


■ 埼玉県 □ 千葉県 □ 東京都 ■ 神奈川県

	合計	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	不明
全体	862	89	114	482	177	0
グループ A. 講義型 計	249	22	19	150	58	0
—A-1. 講義型(1回目)	127	8	11	77	31	0
—A-2. 講義型(2回目)	122	14	8	73	27	0
グループ B. Gディスカッション型 計	232	23	35	123	51	0
—B-1. Gディスカッション型(1回目)	113	13	18	57	25	0
—B-2. Gディスカッション型(2回目)	119	10	17	66	26	0
グループ C. 対照群	381	44	60	209	68	0

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
埼玉県	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	8.8%	9.9%	1.1%	0.4059	0.6849	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	8.8%	11.5%	2.7%	1.0872	0.2770	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	9.9%	11.5%	1.6%	0.6292	0.5292	[]
千葉県	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	7.6%	15.1%	7.5%	2.5882	0.0096	***
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	7.6%	15.7%	8.1%	3.0079	0.0026	***
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	15.1%	15.7%	0.7%	0.2196	0.8262	[]
東京都	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	60.2%	53.0%	7.2%	1.5980	0.1101	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	60.2%	54.9%	5.4%	1.3348	0.1819	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	53.0%	54.9%	1.8%	0.4431	0.6577	[]
神奈川県	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	23.3%	22.0%	1.3%	0.3430	0.7316	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	23.3%	17.8%	5.4%	1.6706	0.0948	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	22.0%	17.8%	4.1%	1.2554	0.2093	[]

⑤職業

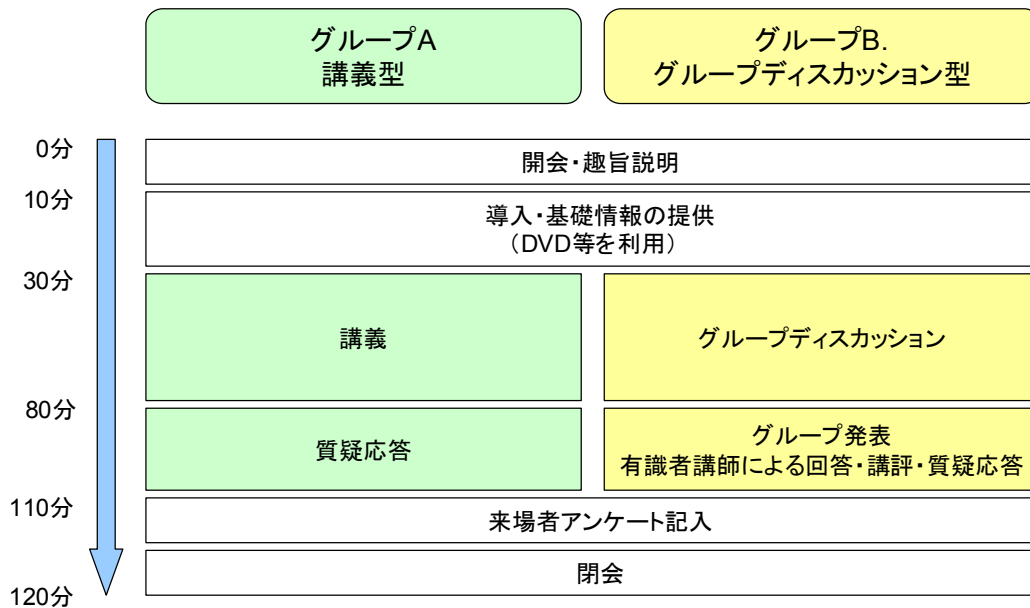


	合計	職業											
		農林水産業	自営業・家族従業者	会社員・団体職員・公務員(食品関係)	会社員・団体職員・公務員(食品関係以外)	パート・アルバイト	専業主婦・主夫	学生	自由業	無職	その他	不明	
全体	862	2	44	42	376	87	150	19	46	79	17	0	
グループ	A.講義型 計	249	0	16	12	109	19	45	6	10	27	5	0
	-A-1.講義型(1回目)	127	0	6	4	60	9	24	4	4	14	2	0
	-A-2.講義型(2回目)	122	0	10	8	49	10	21	2	6	13	3	0
	B.ディスカッション型 計	232	1	11	15	95	20	40	7	13	25	5	0
	-B-1.ディスカッション型(1回目)	113	0	7	7	54	11	17	1	3	9	4	0
	-B-2.ディスカッション型(2回目)	119	1	4	8	41	9	23	6	10	16	1	0
C.対照群	381	1	17	15	172	48	65	6	23	27	7	0	

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
農林水産業	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	0.0%	0.4%	0.4%	1.0371	0.2997	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	0.0%	0.3%	0.3%	0.8091	0.4185	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	0.4%	0.3%	0.2%	0.3550	0.7226	[]
自営業・家族従業者	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	6.4%	4.7%	1.7%	0.8019	0.4226	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	6.4%	4.5%	2.0%	1.0816	0.2794	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	4.7%	4.5%	0.3%	0.1607	0.8723	[]
会社員・団体職員・公務員(食品関係)	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	4.8%	6.5%	1.6%	0.7838	0.4332	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	4.8%	3.9%	0.9%	0.5346	0.5930	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	6.5%	3.9%	2.5%	1.4074	0.1593	[]
会社員・団体職員・公務員(食品関係以外)	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	43.8%	40.9%	2.8%	0.6268	0.5308	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	43.8%	45.1%	1.4%	0.3380	0.7353	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	40.9%	45.1%	4.2%	1.0162	0.3095	[]
パート・アルバイト	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	7.6%	8.6%	1.0%	0.3975	0.6910	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	7.6%	12.6%	5.0%	1.9775	0.0480	[*]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	8.6%	12.6%	4.0%	1.5210	0.1283	[]
専業主婦・主夫	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	18.1%	17.2%	0.8%	0.2387	0.8113	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	18.1%	17.1%	1.0%	0.3271	0.7436	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	17.2%	17.1%	0.2%	0.0577	0.9540	[]
学生	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	2.4%	3.0%	0.6%	0.4106	0.6814	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	2.4%	1.6%	0.8%	0.7495	0.4536	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	3.0%	1.6%	1.4%	1.2022	0.2293	[]
自由業	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	4.0%	5.6%	1.6%	0.8153	0.4149	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	4.0%	6.0%	2.0%	1.1130	0.2657	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	5.6%	6.0%	0.4%	0.2213	0.8249	[]
無職	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	10.8%	10.8%	0.1%	0.0238	0.9810	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	10.8%	7.1%	3.8%	1.6468	0.0996	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	10.8%	7.1%	3.7%	1.5900	0.1118	[]
その他	グループA(講義型)	グループB(グループディスカッション型)	2.0%	2.2%	0.1%	0.1130	0.9100	[]
	グループA(講義型)	グループC(対照群)	2.0%	1.8%	0.2%	0.1533	0.8782	[]
	グループB(グループディスカッション型)	グループC(対照群)	2.2%	1.8%	0.3%	0.2756	0.7829	[]

4) 介入の内容

グループ A に対しては講義型、グループ B に対してはグループディスカッション型の意見交換会を実施した。グループ C (対照群) には意見交換会を実施せず、実施 1 週間後、2 ヶ月後の調査への回答のみを求めた。



5) 実施時期

段階	時期
募集・事前調査	平成 21 年 10 月 8 日～19 日
介入 (意見交換会)	平成 21 年 11 月 1 日、3 日
1 週間後調査	平成 21 年 11 月 10 日～18 日
2 ヶ月後調査	平成 21 年 12 月 25 日～平成 22 年 1 月 18 日

6) 倫理的配慮

意見交換会においては、各グループとも食品の安全性評価等の理解の促進につながると考えられる情報を提供した。

7) 評価項目

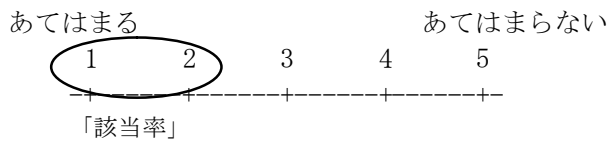
残留農薬をテーマとして、以下の項目について評価した。

- 食品の安全性評価、管理についての知識 (自己認識)
- 食品の安全性に係る認識
- 安全性評価と判断に関する認識
- 安全評価、管理制度等に対する信頼感
- 信頼できる情報源
- 「残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」との情報に触れた際の行動
- 日常的な食行動 (食品選択)
- 日常的な食行動 (保存、調理)
- 食品のリスクに対する考え方

8) 統計処理方法

①評価指標

評価項目ごとに5段階評価の設問を設定し、上位2段階を該当として該当率を求めた。



複数回答形式の設問においては、評価対象となる選択肢を選択した回答者の割合を求めた。

②検定方法

a. 時期×グループ比較（意見交換会出席の有無による差異）

介入群と対照群との間での比率（該当率等）の差について、二元配置の分散分析及び下位検定を行った。

b. 開催回ごとの比較、満足度別の比較

開催回ごと、満足度ごとの母比率の差の検定においてはZ検定（両側）を行った。

Z検定

集団	件数	比率
1	n_1	\bar{p}_1
2	n_2	\bar{p}_2

上表の分布に対して、検定統計量 T を求める。 $T = \frac{\bar{p}_1 - \bar{p}_2}{\sqrt{\bar{p}(1-\bar{p})\left(\frac{1}{n_1} + \frac{1}{n_2}\right)}}$ 但し、 $\bar{p} = \frac{n_1\bar{p}_1 + n_2\bar{p}_2}{n_1 + n_2}$

T	有意差の判定
$T \geq 2.58$	危険率 1% で差がある。
$1.96 \leq T < 2.58$	危険率 5% で差がある。
$T < 1.96$	差があるとはいえない。

③データの見方

○グラフ

特にことわりがない場合「時期」の各水準ごとに各「グループ」の測定値を示している。グラフ上の有意差判定記号（*）は「時期」の各水準（事前、1週間後、2ヶ月後）におけるグループ間の差異の有意性を示している。グラフ上のひげは95%信頼区間である。

なお、「まとめ」と「満足度別」のグラフでは、2ヶ月後の測定値と群間の有意差について示している。

○二元配置の分散分析

最終的に注目するのは、事後におけるグループ C（対照群）とグループ A または B（介入群）の差と、グループ A または B（介入群）における事前と事後（1週間後、2ヶ月後）の差である。

以下に、データの解釈の方法について示す。

（1）交互作用効果

まず、分散分析表から「グループ*時期」（交互作用効果）をみる。

交互作用効果が有意である（p 値が小さく判定欄に「*」「**」が付されている）評価項目では、それぞれの独立変数（グループ、時期）が従属変数（測定値）に対して影響し、その影響の方向や規模は独立変数（グループ、時期）の値によって異なると解釈できる。

(1-1) 交互作用効果がある場合

1つの要因の水準別に他の要因の効果を確認する。

まず「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定に着目する。

1週間後、2ヶ月後の各水準においてグループAまたはBとグループC（対照群）と比較して有意差があれば、意見交換会に出席したグループと出席していないグループとの間に差が認められたこととなる。

また「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定に着目する。各グループにおいて、1週間後または2ヶ月後と事前の間に差があれば、意見交換会の実施前後で差が認められたこととなる。

(1-2) 交互作用効果がない場合

分散分析表の「グループ」「時期」（主効果）に着目する。それぞれ、効果が有意であれば「グループ」または「時期」により差があることとなる。

(1-2-1) 交互作用効果、主効果ともない場合

変化はないと判断する。

(1-2-2) 交互作用効果はないが、主効果がある場合

主効果の組み合わせにより、次のように判断する。

(1-2-2-1) 「時期」「グループ」ともに差異がある場合

1つの要因の水準別に他の要因の効果を確認する。

まず「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定に着目する。

1週間後、2ヶ月後の各水準においてグループAまたはBとグループC（対照群）と比較して有意差があれば、意見交換会に出席したグループと出席していないグループとの間に差が認められたこととなる。

また「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定に着目する。各グループにおいて、1週間後または2ヶ月後と事前の間に差があれば、意見交換会の実施前後で差が認められたこととなる。

(1-2-2-2) 「グループ」のみに差異がある場合

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定に着目し、事前においてグループC（対照群）との間に差がなく、かつ1週間後または2ヶ月後にグループC（対照群）との間に差があったグループについて変化ありと判断する。

(1-2-2-3) 「時期」のみに差異がある場合

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定に着目し、グループC（対照群）において「時期」による差がなく、かつ、グループAまたはB（介入群）について事前と1週間後または2ヶ月後の間に差があった場合に、そのグループについて変化ありと判断する。

または、グループC（対照群）において「時期」による差があり、かつ、グループAまたはB（介入群）について事前と1週間後または2ヶ月後の間に差がない場合にも、そのグループについて変化（影響）ありと判断する。

(2) 変化の持続性

変化が認められた項目について、「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定に着目し、1週間後と2ヶ月後の間に差がないものについては効果が持続していると判断する。

○参考：開催回ごとの差異（Z検定）

「時期」の各水準ごとに、各開催回とグループC（対照群）との差をみることができる。但し、多重比較ではない。

○参考：会合の満足度ごとの差異（Z検定）

2ヶ月後における、会合の満足度による差をみることができる。

5.2 評価結果

(1)食品の安全性評価、管理についての知識（自己認識）

1) 残留農薬の安全性の評価方法の認知

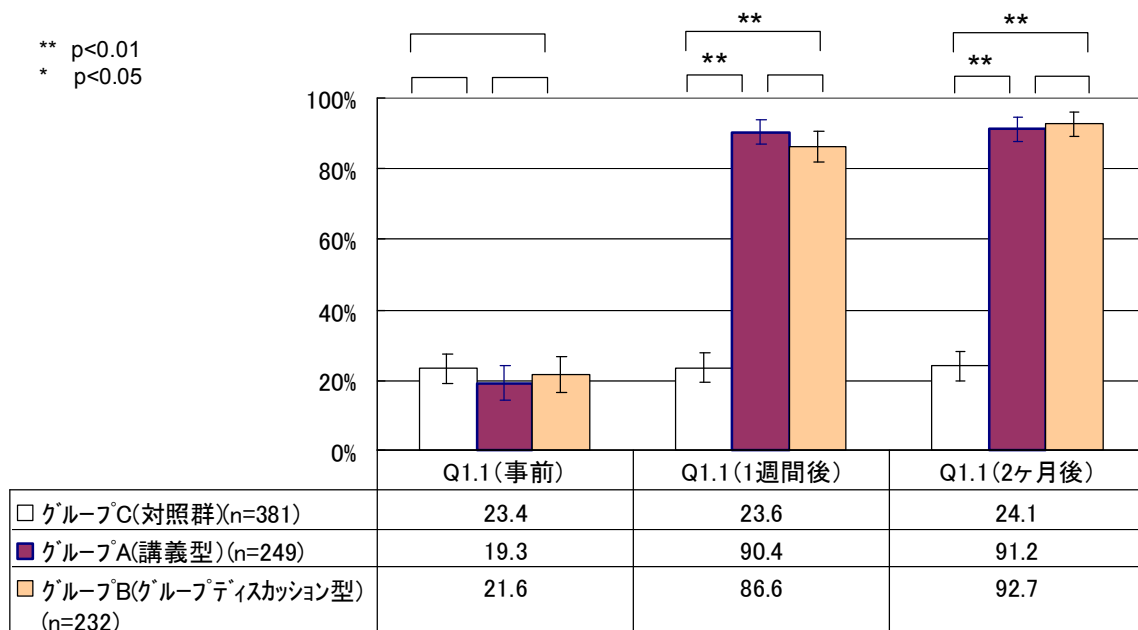
「食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか」は今回の意見交換会の主題であり、DVD や講義、質疑応答などの機会でも説明した。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人は大きく増加し、参加者の大半が知識を獲得できたと感じている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q1.1.食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている。

該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q1.1	47.2982	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	119.2179	2	59.6090	416.2246	0.0000	**
時期	119.7610	2	59.8805	418.1205	0.0000	**
グループ * 時期	68.4646	4	17.1162	119.5150	0.0000	**
誤差	369.0611	2577	0.1432			
全体	645.2873	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q1.1	Bonferroni	A	B	0.6693	0.6695	0.0002	0.0098	1.0000	
			A	C	0.6693	0.2371	0.4322	24.2770	0.0000	**
			B	C	0.6695	0.2371	0.4324	23.7671	0.0000	**
時期	Q1.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.2169	0.5986	0.3817	20.9380	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.2169	0.6195	0.4026	22.0836	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5986	0.6195	0.0209	1.1455	0.7563	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q1.1	事前	グループ	0.2516	2	0.1258	0.8785	0.4155	
		誤差	369.0611	2577	0.1432			
	1週間後	グループ	89.8337	2	44.9168	313.6356	0.0000	**
		誤差	369.0611	2577	0.1432			
	2ヶ月後	グループ	97.5973	2	48.7986	340.7406	0.0000	**
		誤差	369.0611	2577	0.1432			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q1.1	Bonferroni	事前	A	B	0.1928	0.2155	0.0227	0.6587	1.0000	
			A	C	0.1928	0.2336	0.0408	1.3238	0.5571	
			B	C	0.2155	0.2336	0.0181	0.5737	1.0000	
		1週間後	A	B	0.9036	0.8664	0.0372	1.0783	0.8430	
			A	C	0.9036	0.2362	0.6674	21.6412	0.0000	**
			B	C	0.8664	0.2362	0.6302	19.9956	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.9116	0.9267	0.0151	0.4366	1.0000	
			A	C	0.9116	0.2415	0.6702	21.7315	0.0000	**
			B	C	0.9267	0.2415	0.6853	21.7438	0.0000	**

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q1.1	A	時期	84.8380	2	42.4190	296.1943	0.0000	**
		誤差	369.0611	2577	0.1432			
	B	時期	72.1580	2	36.0790	251.9248	0.0000	**
		誤差	369.0611	2577	0.1432			
	C	時期	0.0122	2	0.0061	0.0428	0.9581	
		誤差	369.0611	2577	0.1432			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q1.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1928	0.9036	0.7108	20.9588	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.1928	0.9116	0.7189	21.1956	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9036	0.9116	0.0080	0.2368	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.2155	0.8664	0.6509	18.5236	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.2155	0.9267	0.7112	20.2411	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8664	0.9267	0.0603	1.7174	0.2581	
		C	事前	1週間後	0.2336	0.2362	0.0026	0.0957	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.2336	0.2415	0.0079	0.2872	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.2362	0.2415	0.0052	0.1915	1.0000	

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q1.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	15.0%	23.8%	8.8%	1.7617	0.0781	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	15.0%	16.8%	1.9%	0.3926	0.6946	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	15.0%	26.1%	11.1%	2.1600	0.0308	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	C対照群	15.0%	23.4%	8.4%	2.0035	0.0451	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	23.8%	16.8%	7.0%	1.3216	0.1863	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	23.8%	26.1%	2.3%	0.4092	0.6824	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C対照群	23.8%	23.4%	0.4%	0.0932	0.9257	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	16.8%	26.1%	9.2%	1.7101	0.0872	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C対照群	16.8%	23.4%	6.5%	1.4784	0.1393	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C対照群	26.1%	23.4%	2.7%	0.6000	0.5485	[]	
	Q1.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	92.9%	87.7%	5.2%	1.3922	0.1639	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	92.9%	85.8%	7.1%	1.7904	0.0734	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	92.9%	87.4%	5.5%	1.4577	0.1449	[]	
A-1.講義型(1回目)		C対照群	92.9%	23.6%	69.3%	13.7525	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	87.7%	85.8%	1.9%	0.4219	0.6731	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	87.7%	87.4%	0.3%	0.0729	0.9419	[]	
A-2.講義型(2回目)		C対照群	87.7%	23.6%	64.1%	12.6204	0.0000	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	85.8%	87.4%	1.6%	0.3478	0.7280	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C対照群	85.8%	23.6%	62.2%	11.9756	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C対照群	87.4%	23.6%	63.8%	12.4622	0.0000	[**]	
Q1.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	92.1%	90.2%	2.0%	0.5453	0.5855	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	92.1%	91.2%	1.0%	0.2729	0.7849	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	92.1%	94.1%	2.0%	0.6155	0.5382	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C対照群	92.1%	24.1%	68.0%	13.4822	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	90.2%	91.2%	1.0%	0.2594	0.7953	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	90.2%	94.1%	4.0%	1.1387	0.2548	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C対照群	90.2%	24.1%	66.0%	12.9456	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	91.2%	94.1%	3.0%	0.8669	0.3860	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C対照群	91.2%	24.1%	67.0%	12.7970	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C対照群	94.1%	24.1%	70.0%	13.5574	0.0000	[**]	

2) 残留農薬の安全性の管理方法の認知

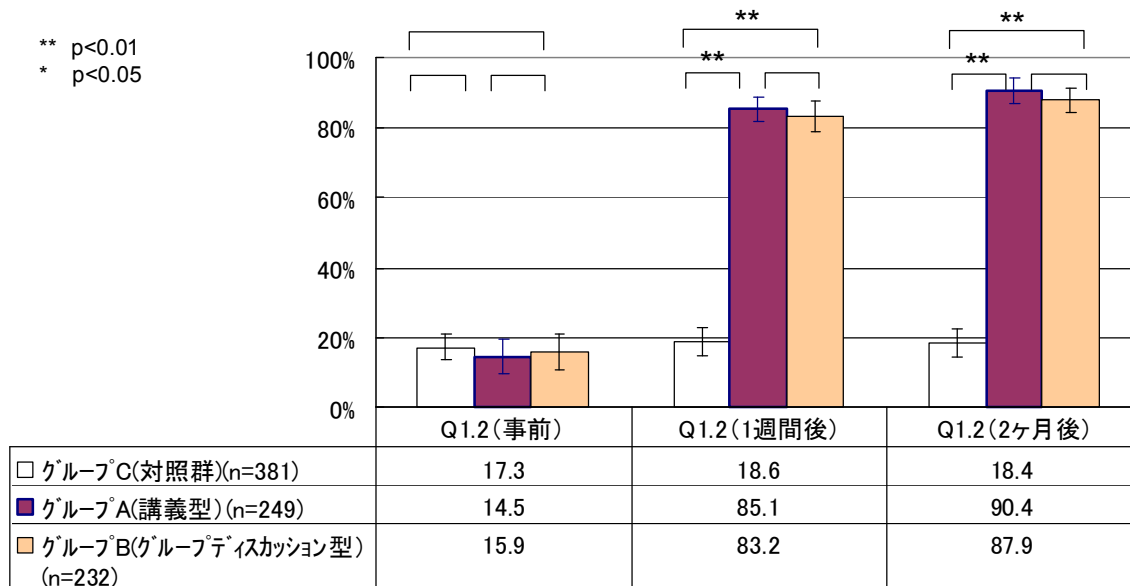
農薬の安全性の管理方法は必ずしも今回の意見交換会の主題ではなかったが、DVD や講義、質疑応答などの機会でも説明した。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とも「そう思う」と回答する人が増え、参加者の大半が知識を獲得できたと感じている。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) との間に有意差はない。また、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q1.2. 食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている。

該当率(「そう思う」+「ややそう思う」) ± 95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q1.2	8.2405	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	127.7498	2	63.8749	481.8043	0.0000	**
時期	126.8667	2	63.4334	478.4737	0.0000	**
グループ * 時期	70.4783	4	17.6196	132.9032	0.0000	**
誤差	341.6443	2577	0.1326			
全体	634.1098	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準		平均値			統計量	判定	
			水準1	水準2	平均値1	平均値2	差		P 値	判定
グループ	Q1.2	Bonferroni	A	B	0.6345	0.6221	0.0124	0.6470	1.0000	
			A	C	0.6345	0.1811	0.4534	26.4691	0.0000	**
			B	C	0.6221	0.1811	0.4410	25.1924	0.0000	**
時期	Q1.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.1613	0.5522	0.3910	22.2911	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.1613	0.5789	0.4176	23.8124	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5522	0.5789	0.0267	1.5214	0.3849	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q1.2	事前	グループ	0.1031	2	0.0516	0.3889	0.6778	
		誤差	341.6443	2577	0.1326			
	1週間後	グループ	91.4358	2	45.7179	344.8471	0.0000	**
		誤差	341.6443	2577	0.1326			
	2ヶ月後	グループ	106.6892	2	53.3446	402.3747	0.0000	**
		誤差	341.6443	2577	0.1326			

** : 1%有意 * : 5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q1.2	Bonferroni	事前	A	B	0.1486	0.1552	0.0066	0.1980	1.0000		
			A	C	0.1486	0.1732	0.0246	0.8302	1.0000		
			B	C	0.1552	0.1732	0.0181	0.5955	1.0000		
			1週間後	A	B	0.8514	0.8319	0.0195	0.5872	1.0000	
			A	C	0.8514	0.1864	0.6651	22.4140	0.0000	**	
			B	C	0.8319	0.1864	0.6455	21.2899	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.9036	0.8793	0.0243	0.7315	1.0000		
			A	C	0.9036	0.1837	0.7199	24.2620	0.0000	**	
			B	C	0.8793	0.1837	0.6956	22.9401	0.0000	**	

** : 1%有意 * : 5%有意

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q1.2	A	時期	88.5382	2	44.2691	333.9187	0.0000	**
		誤差	341.6443	2577	0.1326			
	B	時期	76.1408	2	38.0704	287.1625	0.0000	**
		誤差	341.6443	2577	0.1326			
	C	時期	0.0367	2	0.0184	0.1386	0.8706	
		誤差	341.6443	2577	0.1326			

** : 1%有意 * : 5%有意

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q1.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1486	0.8514	0.7028	21.5374	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.1486	0.9036	0.7550	23.1373	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.8514	0.9036	0.0522	1.5999	0.3292		
			B	事前	1週間後	0.1552	0.8319	0.6767	20.0175	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.1552	0.8793	0.7241	21.4200	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.8319	0.8793	0.0474	1.4025	0.4827		
		C	事前	1週間後	0.1732	0.1864	0.0131	0.4975	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.1732	0.1837	0.0105	0.3980	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.1864	0.1837	0.0026	0.0995	1.0000		

** : 1%有意 * : 5%有意

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P 値	判定マーク	
Q1.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	11.0%	18.0%	7.0%	1.5722	0.1159	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	11.0%	14.2%	3.1%	0.7332	0.4635	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	11.0%	17.6%	6.6%	1.4861	0.1372	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	11.0%	17.3%	6.3%	1.6878	0.0915	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	18.0%	14.2%	3.9%	0.8058	0.4204	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	18.0%	17.6%	0.4%	0.0782	0.9377	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	18.0%	17.3%	0.7%	0.1796	0.8574	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	14.2%	17.6%	3.5%	0.7252	0.4683	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	14.2%	17.3%	3.2%	0.7937	0.4273	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	17.6%	17.3%	0.3%	0.0814	0.9351	[]	
	Q1.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	87.4%	82.8%	4.6%	1.0234	0.3061	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	87.4%	82.3%	5.1%	1.1046	0.2693	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	87.4%	84.0%	3.4%	0.7557	0.4498	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	87.4%	18.6%	68.8%	13.9968	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	82.8%	82.3%	0.5%	0.0981	0.9219	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	82.8%	84.0%	1.2%	0.2601	0.7948	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	82.8%	18.6%	64.2%	13.0004	0.0000	**	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	82.3%	84.0%	1.7%	0.3528	0.7243	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	82.3%	18.6%	63.7%	12.6209	0.0000	**	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	84.0%	18.6%	65.4%	13.1278	0.0000	**	
Q1.2(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	89.0%	91.8%	2.8%	0.7556	0.4499	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	89.0%	86.7%	2.3%	0.5340	0.5934	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	89.0%	89.1%	0.1%	0.0249	0.9801	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	89.0%	18.4%	70.6%	14.3534	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	91.8%	86.7%	5.1%	1.2613	0.2072	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	91.8%	89.1%	2.7%	0.7205	0.4712	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	91.8%	18.4%	73.4%	14.6898	0.0000	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	86.7%	89.1%	2.3%	0.5492	0.5829	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	86.7%	18.4%	68.4%	13.4697	0.0000	**	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	89.1%	18.4%	70.7%	14.0971	0.0000	**	

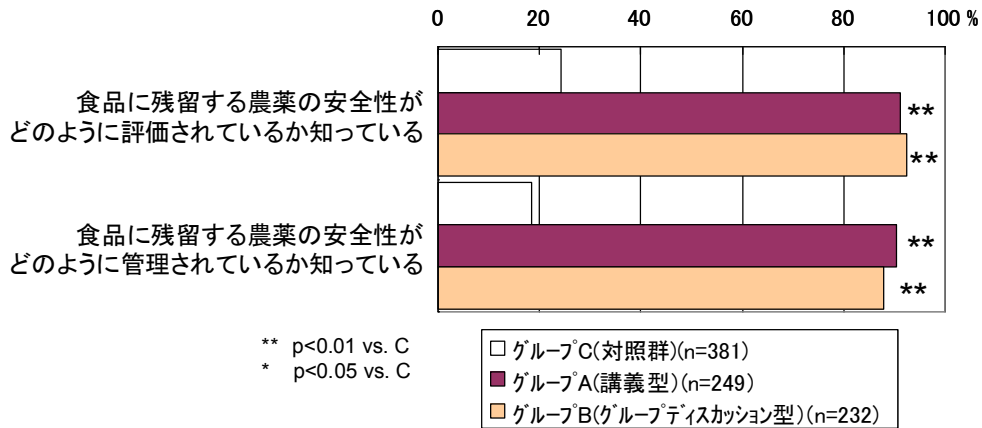
3) まとめ

①2ヶ月後の変化

食品の安全性評価や安全管理の知識についての自己認識については、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも、グループ C（対照群）と比較して高く、意見交換会に参加することにより知識が獲得できたと感じられている。

Q1.次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。

該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)(2ヶ月後)

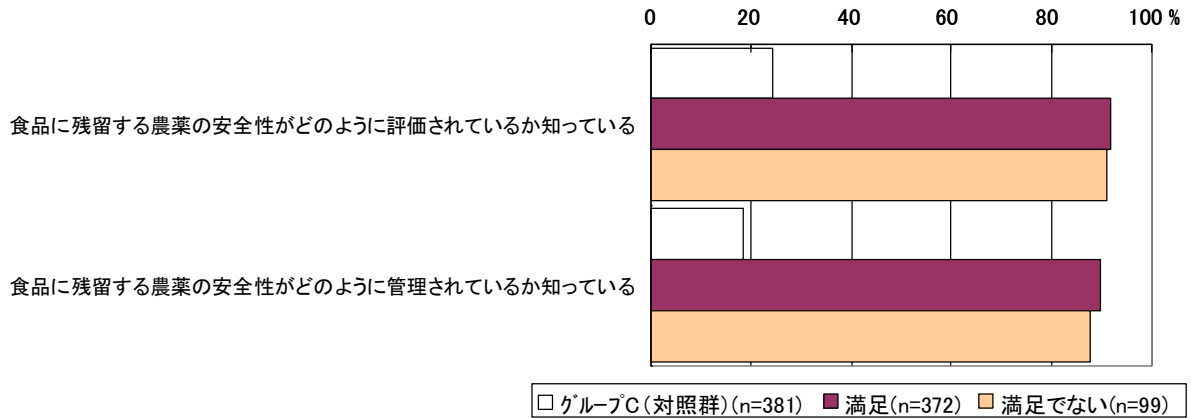


	合計	Q1(2ヶ月後)	
		食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている。	食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている。
全体	862	61.9	57.9
グループ A. 講義型 計	249	91.2	90.4
-A-1. 講義型(1回目)	127	92.1	89.0
-A-2. 講義型(2回目)	122	90.2	91.8
グループ B. G ⁺ ィスカッション型 計	232	92.7	87.9
-B-1. G ⁺ ィスカッション型(1回目)	113	91.2	86.7
-B-2. G ⁺ ィスカッション型(2回目)	119	94.1	89.1
グループ C. 対照群	381	24.1	18.4

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q1.次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。
該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）（2ヶ月後）



グループ × 満足	合計	Q1 (2ヶ月後)	
		食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている	食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている
全体	862	61.9	57.9
満足	372	91.9	89.8
グループA (講義型)	216	91.7	90.7
グループB (グループディスカッション型)	156	92.3	88.5
満足でない	99	90.9	87.9
グループA (講義型)	27	85.2	85.2
グループB (グループディスカッション型)	72	93.1	88.9
グループC (対照群)	381	24.1	18.4

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている	満足	満足でない	91.9%	90.9%	1.0%	0.3293	0.7419	[]
食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている	満足	満足でない	89.8%	87.9%	1.9%	0.5472	0.5843	[]

(2)情報提供内容の理解

1) 農薬の蓄積性

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1 回目)	グループ A 講義型 (2 回目)	グループ B グループディスカッション型 (1 回目)	グループ B グループディスカッション型 (2 回目)
DVD	言及			
配付資料	直接の言及はないが「動物体内運命に関する試験」を実施していることに言及			
口頭での 情報提供	講義で説明	言及なし	言及なし	言及なし

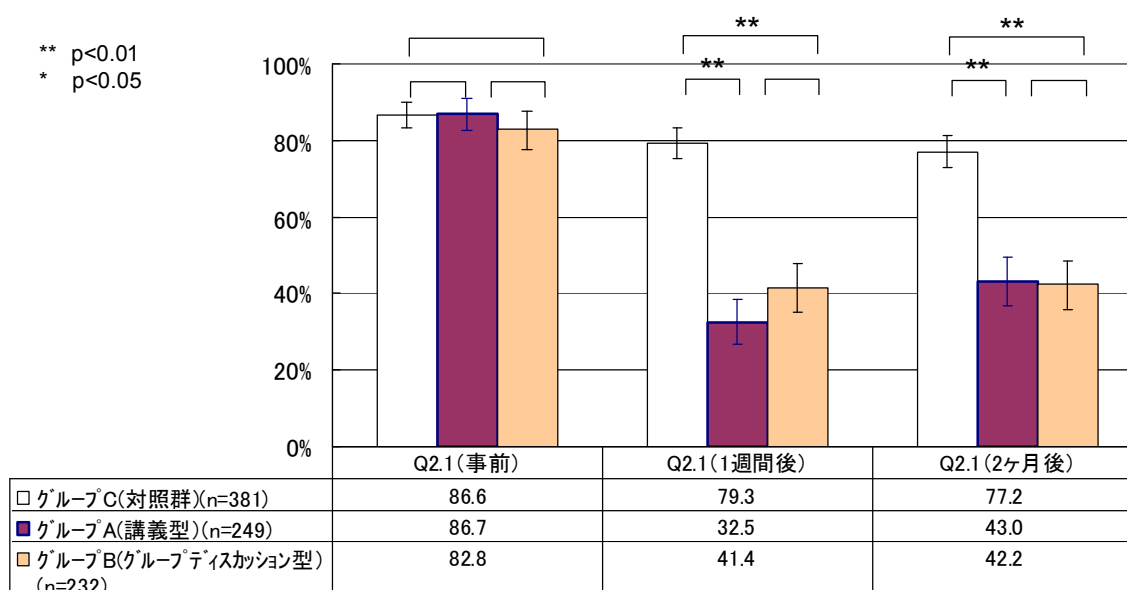
「農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では 8 割近いがグループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも約 4 割となっている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が減少している。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、A グループでは 1 週間後に比較して、2 ヶ月後で「そう思う」と回答する人が増加しており、効果が薄れているが、B グループとも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.1.農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている

該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）±95%信頼区間



等分散性の検定

ルビーン検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.1	77.3745	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	44.0763	2	22.0382	122.3429	0.0000	**
時期	59.2631	2	29.6315	164.4968	0.0000	**
グループ * 時期	20.8425	4	5.2106	28.9263	0.0000	**
誤差	464.2065	2577	0.1801			
全体	577.3086	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.1	Bonferroni	A	B	0.5408	0.5546	0.0138	0.6157	1.0000	
			A	C	0.5408	0.8101	0.2693	13.4872	0.0000	**
			B	C	0.5546	0.8101	0.2556	12.5232	0.0000	**
時期	Q2.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.8561	0.5557	0.3005	14.6971	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.8561	0.5789	0.2773	13.5622	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5557	0.5789	0.0232	1.1349	0.7696	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.1	事前	グループ	0.2592	2	0.1296	0.7195	0.4871	
		誤差	464.2065	2577	0.1801			
	1週間後	グループ	39.2813	2	19.6406	109.0332	0.0000	**
		誤差	464.2065	2577	0.1801			
	2ヶ月後	グループ	25.3783	2	12.6892	70.4428	0.0000	**
		誤差	464.2065	2577	0.1801			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.1	Bonferroni	事前	A	B	0.8675	0.8276	0.0399	1.0298	0.9096	
			A	C	0.8675	0.8661	0.0013	0.0384	1.0000	
			B	C	0.8276	0.8661	0.0386	1.0908	0.8263	
		1週間後	A	B	0.3253	0.4138	0.0885	2.2849	0.0672	
			A	C	0.3253	0.7927	0.4673	13.5125	0.0000	**
			B	C	0.4138	0.7927	0.3789	10.7190	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.4297	0.4224	0.0073	0.1886	1.0000	
			A	C	0.4297	0.7717	0.3419	9.8864	0.0000	**
			B	C	0.4224	0.7717	0.3492	9.8810	0.0000	**

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.1	A	時期	41.2075	2	20.6037	114.3798	0.0000	**
		誤差	464.2065	2577	0.1801			
	B	時期	25.9425	2	12.9713	72.0088	0.0000	**
		誤差	464.2065	2577	0.1801			
	C	時期	1.8758	2	0.9379	5.2066	0.0055	**
		誤差	464.2065	2577	0.1801			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.8675	0.3253	0.5422	14.2535	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.8675	0.4297	0.4378	11.5084	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.3253	0.4297	0.1044	2.7451	0.0183	*
		B	事前	1週間後	0.8276	0.4138	0.4138	10.5006	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.8276	0.4224	0.4052	10.2818	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.4138	0.4224	0.0086	0.2188	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.8661	0.7927	0.0735	2.3899	0.0508	
			事前	2ヶ月後	0.8661	0.7717	0.0945	3.0727	0.0064	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7927	0.7717	0.0210	0.6828	1.0000	

開催回別の差異(Z検定)

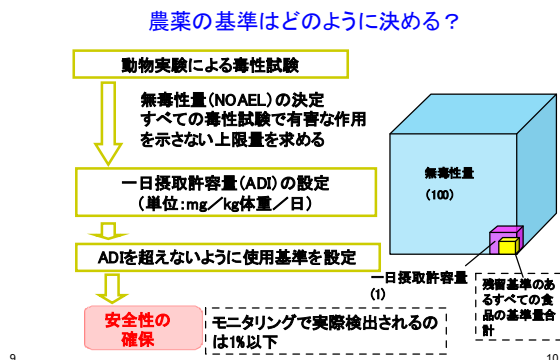
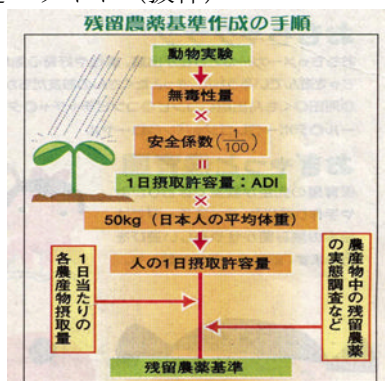
カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	86.6%	86.9%	0.3%	0.0631	0.9497	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	86.6%	80.5%	6.1%	1.2751	0.2023	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	86.6%	84.9%	1.7%	0.3905	0.6962	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	86.6%	86.6%	0.0%	-	1.0000	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	86.9%	80.5%	6.4%	1.3219	0.1862	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	86.9%	84.9%	2.0%	0.4484	0.6538	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	86.9%	86.6%	0.3%	0.0767	0.9389	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	80.5%	84.9%	4.3%	0.8753	0.3814	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	80.5%	86.6%	6.1%	1.6003	0.1095	[]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	84.9%	86.6%	1.7%	0.4805	0.6309	[]	
	Q2.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	30.7%	34.4%	3.7%	0.6260	0.5313	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	30.7%	43.4%	12.7%	2.0306	0.0423	[*]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	30.7%	39.5%	8.8%	1.4444	0.1486	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	30.7%	79.3%	48.6%	10.0881	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gティスカッション型(1回目)	34.4%	43.4%	8.9%	1.4052	0.1600	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	34.4%	39.5%	5.1%	0.8153	0.4149	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	34.4%	79.3%	44.8%	9.2705	0.0000	[**]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	43.4%	39.5%	3.9%	0.5978	0.5500	[]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		C.対照群	43.4%	79.3%	35.9%	7.3904	0.0000	[**]	
B-2.Gティスカッション型(2回目)		C.対照群	39.5%	79.3%	39.8%	8.2484	0.0000	[**]	
Q2.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	37.8%	48.4%	10.6%	1.6836	0.0923	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	37.8%	43.4%	5.6%	0.8773	0.3803	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	37.8%	41.2%	3.4%	0.5423	0.5876	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	37.8%	77.2%	39.4%	8.1921	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	48.4%	43.4%	5.0%	0.7681	0.4424	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	48.4%	41.2%	7.2%	1.1212	0.2622	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	48.4%	77.2%	28.8%	6.0528	0.0000	[**]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	43.4%	41.2%	2.2%	0.3370	0.7361	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	43.4%	77.2%	33.8%	6.8498	0.0000	[**]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	41.2%	77.2%	36.0%	7.3840	0.0000	[**]	

2) 健康影響評価と基準値の設定

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1 回目)	グループ A 講義型 (2 回目)	グループ B グループディスカッション型 (1 回目)	グループ B グループディスカッション型 (2 回目)
DVD	言及			
配付資料	言及			
口頭での 情報提供	講義、質疑応答で説明	講義、質疑応答で説明	質疑応答で説明	質疑応答で説明

関連スライド (抜粋)



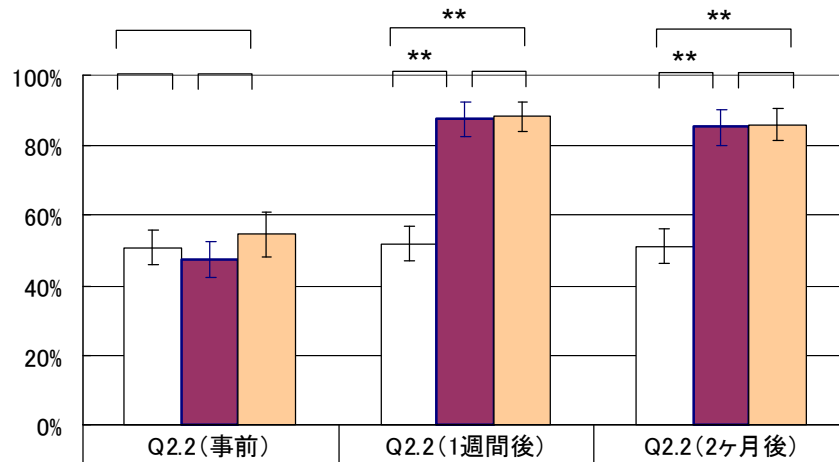
「農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は対照群では約5割だが、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とともに約9割となっている。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とともに「そう思う」と回答する人が増えており、理解が進んでいる。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) との間に有意差はない。また、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とともに1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.2.農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている。
 該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)±95%信頼区間

** p<0.01
 * p<0.05



	Q2.2(事前)	Q2.2(1週間後)	Q2.2(2ヶ月後)
□ グループC(対照群)(n=381)	50.7	52.0	51.2
■ グループA(講義型)(n=249)	47.4	87.6	85.1
■ グループB(グループディスカッション型)(n=232)	54.7	88.4	85.8

等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.2	234.5551	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	** : 1%有意 * : 5%有意 判定
グループ	35.5510	2	17.7755	88.7916	0.0000	**
時期	31.8886	2	15.9443	79.6446	0.0000	**
グループ * 時期	17.5871	4	4.3968	21.9626	0.0000	**
誤差	515.8979	2577	0.2002			
全体	592.9872	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	** : 1%有意 * : 5%有意 P 値 判定
グループ	Q2.2	Bonferroni	A	B	0.7336	0.7629	0.0293	1.2443	0.6405
			A	C	0.7336	0.5127	0.2209	10.4943	0.0000 **
			B	C	0.7629	0.5127	0.2502	11.6326	0.0000 **
時期	Q2.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.5081	0.7204	0.2123	9.8505	0.0000 **
			事前	2ヶ月後	0.5081	0.7030	0.1949	9.0431	0.0000 **
			1週間後	2ヶ月後	0.7204	0.7030	0.0174	0.8074	1.0000

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	** : 1%有意 * : 5%有意 判定
Q2.2	事前	グループ	0.6508	2	0.3254	1.6254	0.1970	
		誤差	515.8979	2577	0.2002			
	1週間後	グループ	27.5200	2	13.7600	68.7335	0.0000 **	
		誤差	515.8979	2577	0.2002			
	2ヶ月後	グループ	24.9673	2	12.4836	62.3579	0.0000 **	
		誤差	515.8979	2577	0.2002			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	** : 1%有意 * : 5%有意 P 値 判定	
Q2.2	Bonferroni	事前	A	B	0.4739	0.5474	0.0735	1.8007	0.2156	
			A	C	0.4739	0.5066	0.0327	0.8959	1.0000	
			B	C	0.5474	0.5066	0.0409	1.0964	0.8190	
			1週間後	A	B	0.8755	0.8836	0.0081	0.1989	1.0000
				A	C	0.8755	0.5197	0.3558	9.7587	0.0000 **
				B	C	0.8836	0.5197	0.3639	9.7673	0.0000 **
		2ヶ月後	A	B	0.8514	0.8578	0.0064	0.1556	1.0000	
			A	C	0.8514	0.5118	0.3396	9.3138	0.0000 **	
			B	C	0.8578	0.5118	0.3459	9.2846	0.0000 **	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.2	A	時期	25.2637	2	12.6319	63.0983	0.0000	**
		誤差	515.8979	2577	0.2002			
	B	時期	16.2414	2	8.1207	40.5643	0.0000	**
		誤差	515.8979	2577	0.2002			
	C	時期	0.0332	2	0.0166	0.0830	0.9203	
		誤差	515.8979	2577	0.2002			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4739	0.8755	0.4016	10.0152	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4739	0.8514	0.3775	9.4143	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8755	0.8514	0.0241	0.6009	1.0000	
			事前	1週間後	0.5474	0.8836	0.3362	8.0930	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5474	0.8578	0.3103	7.4705	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8836	0.8578	0.0259	0.6225	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.5066	0.5197	0.0131	0.4048	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.5066	0.5118	0.0052	0.1619	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.5197	0.5118	0.0079	0.2429	1.0000	

開催回別の差異(Z検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	41.7%	53.3%	11.5%	1.8241	0.0681	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	41.7%	53.1%	11.4%	1.7607	0.0783	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	41.7%	56.3%	14.6%	2.2847	0.0223	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	41.7%	50.7%	8.9%	1.7427	0.0814	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	53.3%	53.1%	0.2%	0.0278	0.9778	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	53.3%	56.3%	3.0%	0.4715	0.6373	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	53.3%	50.7%	2.6%	0.5044	0.6140	[]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	53.1%	56.3%	3.2%	0.4902	0.6240	[]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	C.対照群	53.1%	50.7%	2.4%	0.4559	0.6484	[]	
	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	C.対照群	56.3%	50.7%	5.6%	1.0762	0.2818	[]	
	Q2.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	84.3%	91.0%	6.7%	1.6084	0.1077	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	84.3%	88.5%	4.2%	0.9529	0.3406	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gテイスカッション型(2回目)	84.3%	88.2%	4.0%	0.9047	0.3657	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	84.3%	52.0%	32.3%	6.4325	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gテイスカッション型(1回目)	91.0%	88.5%	2.5%	0.6293	0.5291	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gテイスカッション型(2回目)	91.0%	88.2%	2.7%	0.6996	0.4842	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	91.0%	52.0%	39.0%	7.7051	0.0000	[**]	
B-1.Gテイスカッション型(1回目)		B-2.Gテイスカッション型(2回目)	88.5%	88.2%	0.3%	0.0618	0.9507	[]	
B-1.Gテイスカッション型(1回目)		C.対照群	88.5%	52.0%	36.5%	6.9702	0.0000	[**]	
B-2.Gテイスカッション型(2回目)		C.対照群	88.2%	52.0%	36.3%	7.0677	0.0000	[**]	
Q2.2(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	81.9%	88.5%	6.6%	1.4714	0.1412	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	81.9%	85.0%	3.1%	0.6362	0.5247	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	81.9%	86.6%	4.7%	1.0011	0.3168	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	81.9%	51.2%	30.7%	6.0904	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	88.5%	85.0%	3.6%	0.8078	0.4192	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	88.5%	86.6%	2.0%	0.4631	0.6433	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	88.5%	51.2%	37.3%	7.3351	0.0000	[**]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	85.0%	86.6%	1.6%	0.3485	0.7275	[]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	C.対照群	85.0%	51.2%	33.8%	6.4086	0.0000	[**]	
	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	C.対照群	86.6%	51.2%	35.4%	6.8646	0.0000	[**]	

3) 基準値の決め方

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1 回目)	グループ A 講義型 (2 回目)	グループ B グループディスカッション型 (1 回目)	グループ B グループディスカッション型 (2 回目)
DVD	言及			
配付資料	言及			
口頭での 情報提供	講義、質疑応答で説明	講義、質疑応答で説明	質疑応答で説明	質疑応答で説明

関連スライド (抜粋)

ADIと残留基準の関係はこうです！

認められるような健康上のリスクを伴わずに、人が生涯にわたり毎日摂取することが出来る量

$ADI = \text{無毒性量} / \text{安全係数}(100)$

ADIは無毒性量の100分の1！

ADIは動物には全く害のない量にさらに100倍の安全率を見込んでいる

$ADI \times 80\% > \text{総計(残留基準値} \times \text{食品摂取量)}$

→トータルの残留農薬量がADIを超えないように個々の食品の残留農薬基準を設定

12

実際にあてはめてみよう！

慢性影響のADIは $0.0006 \text{ mg/kg 体重/日}$

$\times 50$

体重50キログラムの人では 0.03mg となるがこの値は

急性の影響は別の実験から24時間以内に健康に悪影響を与えない量(急性参照用量)は一日当たり体重1kg当たり0.003mgであった

$\times 50$

体重50キログラムの人では 0.15mg となるがこの値は

0.02ppm メタミドホスを含む米を毎日1.5kg ($0.03 + 0.02 = 1.5\text{kg}$) = 米10合(平均的な日本人の消費量の10倍)に相当し、実際は事故米だけを主食として一生通食べ続けることは考えにくく心配はいらぬ

0.02ppm のメタミドホスを含む米を一日に2.5kg ($0.15 + 0.02 = 7.5\text{kg}$) = 51合(1合150g)相当でありこれほど食べられないので心配はいらぬ

13

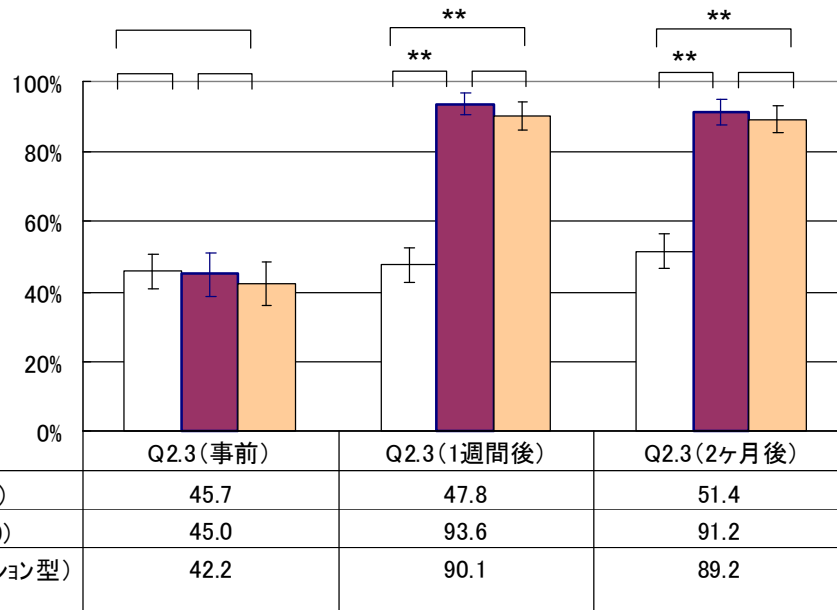
「残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約4~5割だが、グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)とも約9割となっている。

グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)とも「そう思う」と回答する人が増えており、理解が進んでいる。

グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)との間に有意差はない。また、グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.3.残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、
 毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている。
 該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)±95%信頼区間

** p<0.01
 * p<0.05



等分散性の検定

ルビーン検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.3	399.2704	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	46.6453	2	23.3226	124.9411	0.0000	**
時期	59.3535	2	29.6768	158.9806	0.0000	**
グループ * 時期	27.0926	4	6.7732	36.2843	0.0000	**
誤差	481.0463	2577	0.1867			
全体	600.4733	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.3	Bonferroni	A	B	0.7657	0.7385	0.0272	1.1960	0.6954	
			A	C	0.7657	0.4829	0.2828	13.9117	0.0000	**
			B	C	0.7385	0.4829	0.2556	12.3028	0.0000	**
時期	Q2.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.4455	0.7239	0.2784	13.3785	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4455	0.7309	0.2854	13.7129	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7239	0.7309	0.0070	0.3345	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.3	事前	グループ	0.1760	2	0.0880	0.4714	0.6242	
		誤差	481.0463	2577	0.1867			
	1週間後	グループ	41.5356	2	20.7678	111.2547	0.0000	**
		誤差	481.0463	2577	0.1867			
	2ヶ月後	グループ	32.0263	2	16.0132	85.7836	0.0000	**
		誤差	481.0463	2577	0.1867			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q2.3	Bonferroni	事前	A	B	0.4498	0.4224	0.0274	0.6946	1.0000		
			A	C	0.4498	0.4567	0.0069	0.1958	1.0000		
			B	C	0.4224	0.4567	0.0343	0.9527	1.0000		
			1週間後	A	B	0.9357	0.9009	0.0349	0.8848	1.0000	
				A	C	0.9357	0.4777	0.4581	13.0098	0.0000	**
				B	C	0.9009	0.4777	0.4232	11.7613	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.9116	0.8922	0.0194	0.4922	1.0000		
			A	C	0.9116	0.5144	0.3972	11.2818	0.0000	**	
			B	C	0.8922	0.5144	0.3778	10.5005	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.3	A	時期	37.3521	2	18.6760	100.0489	0.0000	**
		誤差	481.0463	2577	0.1867			
	B	時期	34.7787	2	17.3894	93.1561	0.0000	**
		誤差	481.0463	2577	0.1867			
	C	時期	0.6509	2	0.3255	1.7435	0.1751	
		誤差	481.0463	2577	0.1867			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4498	0.9357	0.4859	12.5497	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4498	0.9116	0.4618	11.9274	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9357	0.9116	0.0241	0.6223	1.0000	
			事前	1週間後	0.4224	0.9009	0.4784	11.9269	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4224	0.8922	0.4698	11.7120	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9009	0.8922	0.0086	0.2149	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.4567	0.4777	0.0210	0.6708	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.4567	0.5144	0.0577	1.8446	0.1956	
			1週間後	2ヶ月後	0.4777	0.5144	0.0367	1.1739	0.7217	

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	40.2%	50.0%	9.8%	1.5607	0.1186	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	40.2%	42.5%	2.3%	0.3645	0.7155	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	40.2%	42.0%	1.9%	0.2962	0.7670	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	40.2%	45.7%	5.5%	1.0829	0.2788	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	50.0%	42.5%	7.5%	1.1553	0.2480	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	50.0%	42.0%	8.0%	1.2431	0.2138	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	50.0%	45.7%	4.3%	0.8344	0.4040	[]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	42.5%	42.0%	0.5%	0.0711	0.9433	[]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	C.対照群	42.5%	45.7%	3.2%	0.5989	0.5492	[]	
	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	C.対照群	42.0%	45.7%	3.7%	0.6994	0.4843	[]	
	Q2.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	91.3%	95.9%	4.6%	1.4679	0.1421	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	91.3%	90.3%	1.1%	0.2876	0.7737	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gテイスカッション型(2回目)	91.3%	89.9%	1.4%	0.3830	0.7017	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	91.3%	47.8%	43.6%	8.6350	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gテイスカッション型(1回目)	95.9%	90.3%	5.6%	1.7138	0.0866	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gテイスカッション型(2回目)	95.9%	89.9%	6.0%	1.8144	0.0696	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	95.9%	47.8%	48.1%	9.4236	0.0000	**	
B-1.Gテイスカッション型(1回目)		B-2.Gテイスカッション型(2回目)	90.3%	89.9%	0.3%	0.0890	0.9290	[]	
B-1.Gテイスカッション型(1回目)		C.対照群	90.3%	47.8%	42.5%	8.0251	0.0000	**	
B-2.Gテイスカッション型(2回目)		C.対照群	89.9%	47.8%	42.1%	8.1264	0.0000	**	
Q2.3(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	90.6%	91.8%	1.3%	0.3480	0.7278	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	90.6%	90.3%	0.3%	0.0751	0.9402	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	90.6%	88.2%	2.3%	0.5904	0.5549	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	90.6%	51.4%	39.1%	7.8333	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	91.8%	90.3%	1.5%	0.4129	0.6797	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	91.8%	88.2%	3.6%	0.9248	0.3551	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	91.8%	51.4%	40.4%	7.9631	0.0000	**	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	90.3%	88.2%	2.0%	0.4985	0.6182	[]	
	B-1.Gテイスカッション型(1回目)	C.対照群	90.3%	51.4%	38.8%	7.4081	0.0000	**	
	B-2.Gテイスカッション型(2回目)	C.対照群	88.2%	51.4%	36.8%	7.1575	0.0000	**	

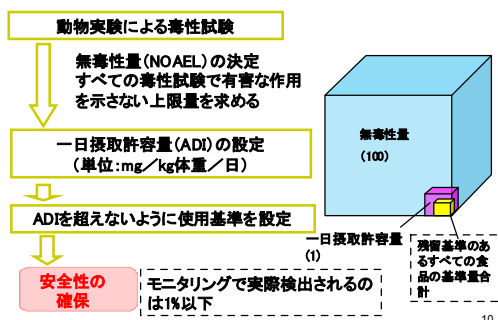
4) 「基準値の2倍」の意味

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1回目)	グループ A 講義型 (2回目)	グループ B グループディスカッション型 (1回目)	グループ B グループディスカッション型 (2回目)
DVD	言及			
配付資料	言及			
口頭での 情報提供	講義、質疑応答で説明	講義、質疑応答で説明	質疑応答で説明	質疑応答で説明

関連スライド (抜粋)

農薬の基準はどのように決める？



今回の意見交換会のテーマは「基準値の2倍！どうしたらいいの」であり、説明に力を入れた部分である。

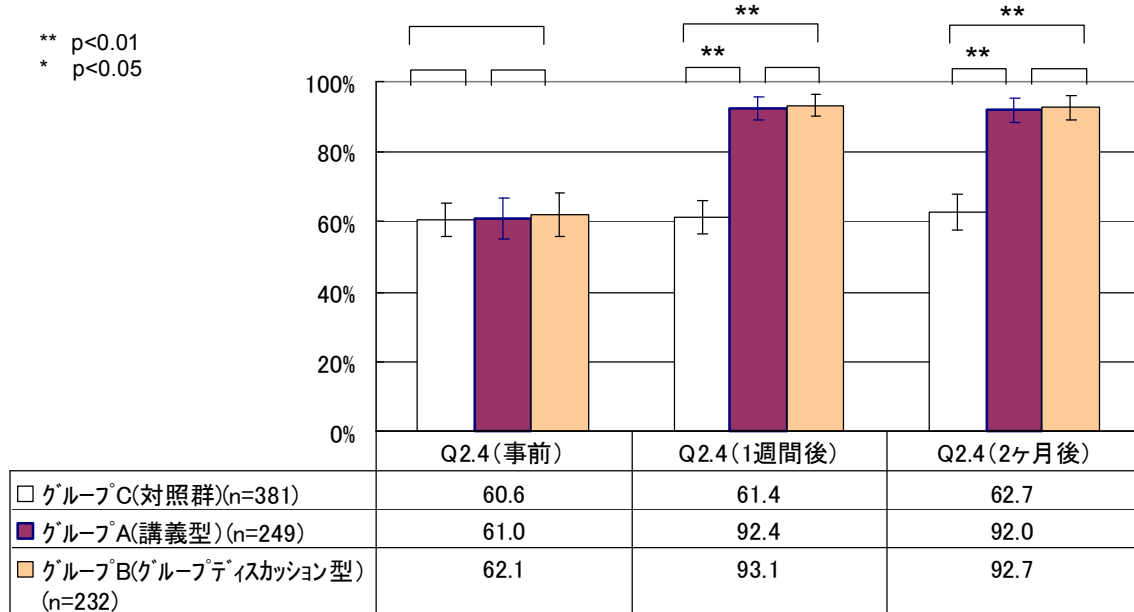
「基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約6割だがグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも約9割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が増えており、理解が進んでいる。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.4.基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、
すぐさま健康に悪影響があるわけではない。

該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.4	317.1946	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	27.0836	2	13.5418	77.4233	0.0000	**
時期	24.4608	2	12.2304	69.9257	0.0000	**
グループ * 時期	12.3949	4	3.0987	17.7165	0.0000	**
誤差	450.7326	2577	0.1749			
全体	508.6775	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.4	Bonferroni	A	B	0.8179	0.8261	0.0082	0.3727	1.0000	
			A	C	0.8179	0.6159	0.2020	10.2668	0.0000	**
			B	C	0.8261	0.6159	0.2102	10.4549	0.0000	**
時期	Q2.4	Bonferroni	事前	1週間後	0.6114	0.7889	0.1775	8.8109	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6114	0.7923	0.1810	8.9837	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7889	0.7923	0.0035	0.1728	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.4	事前	グループ	0.0302	2	0.0151	0.0862	0.9174	
		誤差	450.7326	2577	0.1749			
	1週間後	グループ	20.8429	2	10.4214	59.5831	0.0000	**
		誤差	450.7326	2577	0.1749			
	2ヶ月後	グループ	18.6055	2	9.3027	53.1871	0.0000	**
		誤差	450.7326	2577	0.1749			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q2.4	Bonferroni	事前	A	B	0.6104	0.6207	0.0102	0.2685	1.0000		
			A	C	0.6104	0.6063	0.0041	0.1216	1.0000		
			B	C	0.6207	0.6063	0.0144	0.4132	1.0000		
			1週間後	A	B	0.9237	0.9310	0.0073	0.1923	1.0000	
				A	C	0.9237	0.6142	0.3095	9.0820	0.0000	**
				B	C	0.9310	0.6142	0.3169	9.0979	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.9197	0.9267	0.0070	0.1846	1.0000		
			A	C	0.9197	0.6273	0.2924	8.5791	0.0000	**	
			B	C	0.9267	0.6273	0.2994	8.5974	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.4	A	時期	16.0830	2	8.0415	45.9761	0.0000	**
		誤差	450.7326	2577	0.1749			
	B	時期	14.6925	2	7.3463	42.0012	0.0000	**
		誤差	450.7326	2577	0.1749			
	C	時期	0.0857	2	0.0429	0.2451	0.7826	
		誤差	450.7326	2577	0.1749			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.4	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6104	0.9237	0.3133	8.3575	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6104	0.9197	0.3092	8.2504	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9237	0.9197	0.0040	0.1071	1.0000	
			事前	1週間後	0.6207	0.9310	0.3103	7.9923	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6207	0.9267	0.3060	7.8813	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9310	0.9267	0.0043	0.1110	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.6063	0.6142	0.0079	0.2599	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.6063	0.6273	0.0210	0.6930	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.6142	0.6273	0.0131	0.4331	1.0000	

開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.4(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	59.8%	62.3%	2.5%	0.3967	0.6916	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	59.8%	57.5%	2.3%	0.3645	0.7155	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	59.8%	66.4%	6.5%	1.0624	0.2880	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	59.8%	60.6%	0.8%	0.1572	0.8751	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	62.3%	57.5%	4.8%	0.7462	0.4555	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	62.3%	66.4%	4.1%	0.6629	0.5074	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	62.3%	60.6%	1.7%	0.3282	0.7427	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	57.5%	66.4%	8.9%	1.3909	0.1643	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	57.5%	60.6%	3.1%	0.5920	0.5538	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	66.4%	60.6%	5.8%	1.1294	0.2587	[]	
	Q2.4(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	89.0%	95.9%	6.9%	2.0577	0.0396	[*]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	89.0%	92.0%	3.1%	0.8036	0.4216	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	89.0%	94.1%	5.1%	1.4422	0.1493	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	89.0%	61.4%	27.6%	5.7807	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	95.9%	92.0%	3.9%	1.2511	0.2109	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	95.9%	94.1%	1.8%	0.6366	0.5244	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	95.9%	61.4%	34.5%	7.2189	0.0000	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	92.0%	94.1%	2.1%	0.6256	0.5316	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	92.0%	61.4%	30.6%	6.1493	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	94.1%	61.4%	32.7%	6.7449	0.0000	[**]	
Q2.4(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	89.8%	94.3%	4.5%	1.3056	0.1917	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	89.8%	90.3%	0.5%	0.1293	0.8971	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	89.8%	95.0%	5.2%	1.5250	0.1273	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	89.8%	62.7%	27.0%	5.7300	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	94.3%	90.3%	4.0%	1.1511	0.2497	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	94.3%	95.0%	0.7%	0.2390	0.8111	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	94.3%	62.7%	31.5%	6.6388	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	90.3%	95.0%	4.7%	1.3709	0.1704	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	90.3%	62.7%	27.5%	5.5596	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	95.0%	62.7%	32.2%	6.7229	0.0000	[**]	

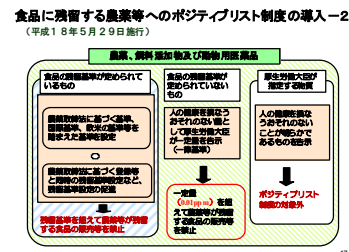
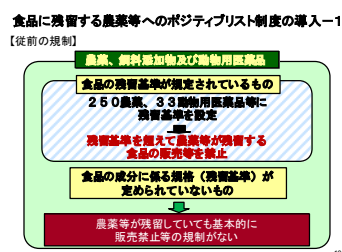
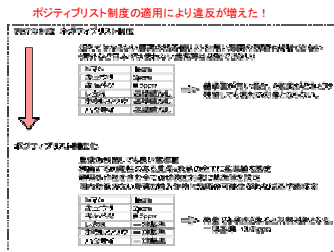
5) 基準値のない農薬の流通

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1 回目)	グループ A 講義型 (2 回目)	グループ B グループディスカッション型 (1 回目)	グループ B グループディスカッション型 (2 回目)
DVD	ポジティブリストの説明において言及			
配付資料	言及			
口頭での 情報提供	講義で説明 輸入食品の安全性の 説明の中で間接的に 言及	輸入食品の安全性の 説明の中で間接的に 言及	輸入食品の安全性の 説明の中で間接的に 言及	輸入食品の安全性の 説明の中で間接的に 言及

基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されていることについては、ポジティブリストや輸入食品の安全性と関連して言及した。

関連スライド（抜粋）

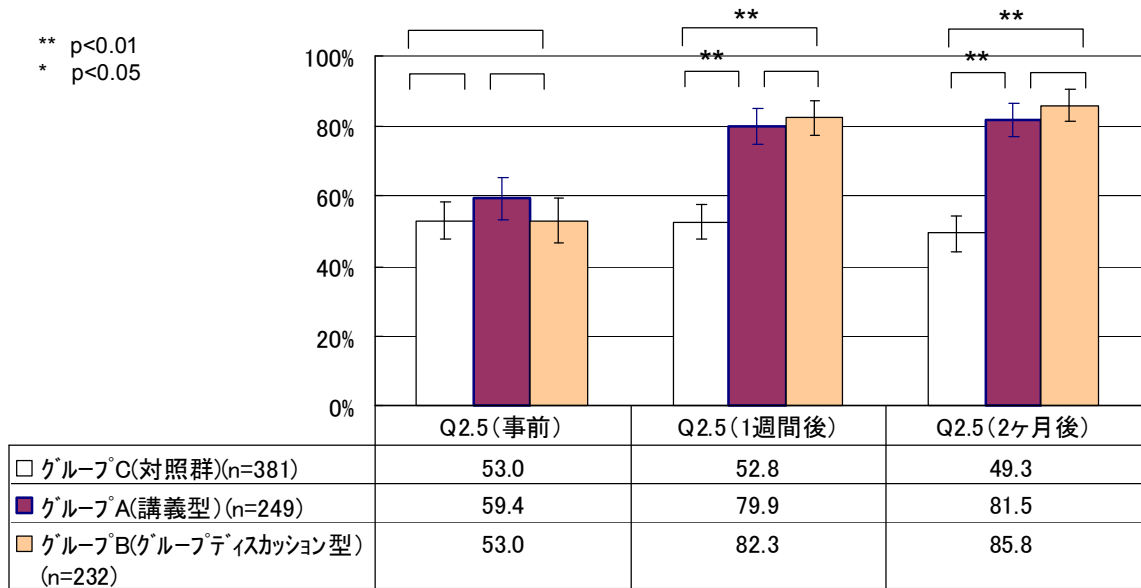


「基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約5割だがグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも約8～9割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が増えており、理解が進んでいる。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.5.基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている
該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.5	140.3043	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	30.7574	2	15.3787	73.0604	0.0000	**
時期	15.4460	2	7.7230	36.6901	0.0000	**
グループ * 時期	12.2293	4	3.0573	14.5246	0.0000	**
誤差	542.4402	2577	0.2105			
全体	596.1052	2585				

** : 1%有意 * : 5%有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.5	Bonferroni	A	B	0.7363	0.7371	0.0008	0.0327	1.0000	
			A	C	0.7363	0.5171	0.2192	10.1557	0.0000	**
			B	C	0.7371	0.5171	0.2200	9.9737	0.0000	**
時期	Q2.5	Bonferroni	事前	1週間後	0.5487	0.6856	0.1369	6.1943	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5487	0.6845	0.1357	6.1418	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.6856	0.6845	0.0012	0.0525	1.0000	

** : 1%有意 * : 5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.5	事前	グループ	0.7298	2	0.3649	1.7335	0.1769	
		誤差	542.4402	2577	0.2105			
	1週間後	グループ	17.1268	2	8.5634	40.6827	0.0000	**
		誤差	542.4402	2577	0.2105			
	2ヶ月後	グループ	25.1301	2	12.5650	59.6934	0.0000	**
		誤差	542.4402	2577	0.2105			

** : 1%有意 * : 5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.5	Bonferroni	事前	A	B	0.5944	0.5302	0.0642	1.5336	0.3757	
			A	C	0.5944	0.5302	0.0642	1.7170	0.2583	
			B	C	0.5302	0.5302	0.0000	0.0003	1.0000	
		1週間後	A	B	0.7992	0.8233	0.0241	0.5752	1.0000	
			A	C	0.7992	0.5276	0.2716	7.2655	0.0000	**
			B	C	0.8233	0.5276	0.2957	7.7399	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.8153	0.8578	0.0425	1.0151	0.9304	
			A	C	0.8153	0.4934	0.3218	8.6078	0.0000	**
			B	C	0.8578	0.4934	0.3643	9.5354	0.0000	**

** : 1%有意 * : 5%有意

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.5	A	時期	7.5529	2	3.7764	17.9409	0.0000	**
		誤差	542.4402	2577	0.2105			
	B	時期	15.0345	2	7.5172	35.7126	0.0000	**
		誤差	542.4402	2577	0.2105			
	C	時期	0.3202	2	0.1601	0.7606	0.4675	
		誤差	542.4402	2577	0.2105			

** : 1%有意 * : 5%有意

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.5	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5944	0.7992	0.2048	4.9812	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5944	0.8153	0.2209	5.3719	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7992	0.8153	0.0161	0.3907	1.0000	
			事前	1週間後	0.5302	0.8233	0.2931	6.8807	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5302	0.8578	0.3276	7.6902	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8233	0.8578	0.0345	0.8095	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.5302	0.5276	0.0026	0.0790	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.5302	0.4934	0.0367	1.1054	0.8072	
			1週間後	2ヶ月後	0.5276	0.4934	0.0341	1.0265	0.9143	

** : 1%有意 * : 5%有意

開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.5(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	53.5%	65.6%	12.0%	1.9327	0.0533	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	53.5%	55.8%	2.2%	0.3431	0.7316	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	53.5%	50.4%	3.1%	0.4900	0.6241	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	53.5%	53.0%	0.5%	0.1027	0.9182	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	65.6%	55.8%	9.8%	1.5412	0.1233	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	65.6%	50.4%	15.2%	2.3837	0.0171	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	65.6%	53.0%	12.6%	2.4318	0.0150	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	55.8%	50.4%	5.3%	0.8134	0.4160	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	55.8%	53.0%	2.7%	0.5118	0.6088	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	50.4%	53.0%	2.6%	0.4954	0.6203	[]	
	Q2.5(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	77.2%	82.8%	5.6%	1.1069	0.2683	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	77.2%	81.4%	4.3%	0.8093	0.4183	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.2%	83.2%	6.0%	1.1830	0.2368	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	77.2%	52.8%	24.4%	4.8411	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	82.8%	81.4%	1.4%	0.2741	0.7840	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	82.8%	83.2%	0.4%	0.0839	0.9331	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	82.8%	52.8%	30.0%	5.8938	0.0000	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	81.4%	83.2%	1.8%	0.3547	0.7228	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	81.4%	52.8%	28.7%	5.4464	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	83.2%	52.8%	30.4%	5.9163	0.0000	[**]	
Q2.5(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	80.3%	82.8%	2.5%	0.5024	0.6154	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	80.3%	86.7%	6.4%	1.3302	0.1835	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	80.3%	84.9%	4.6%	0.9409	0.3468	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	80.3%	49.3%	31.0%	6.1070	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	82.8%	86.7%	3.9%	0.8376	0.4023	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	82.8%	84.9%	2.1%	0.4398	0.6601	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	82.8%	49.3%	33.4%	6.5024	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	86.7%	84.9%	1.9%	0.4036	0.6865	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	86.7%	49.3%	37.4%	7.0682	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	84.9%	49.3%	35.5%	6.8506	0.0000	[**]	

6) 農薬の残留状況

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1 回目)	グループ A 講義型 (2 回目)	グループ B グループディスカッション型 (1 回目)	グループ B グループディスカッション型 (2 回目)
DVD	言及			
配付資料	言及			
口頭での 情報提供	講義で説明	講義で説明	質疑応答で説明	間接的に言及(輸入 食品の違反率が低い)

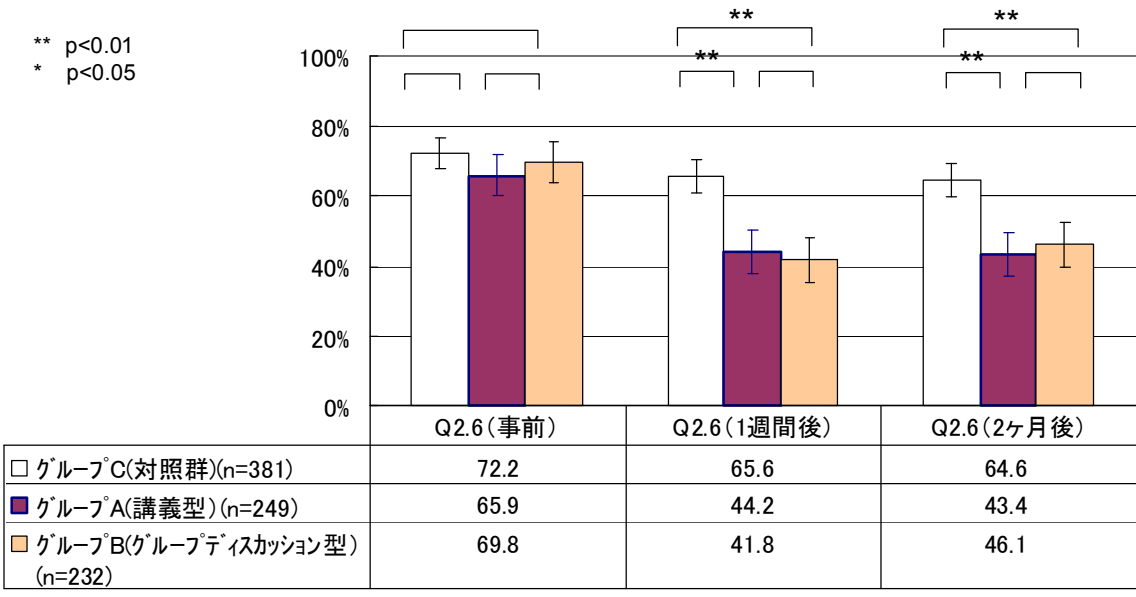
基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されていることについては、ポジティブリストや輸入食品の安全性と関連して言及した。

「洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約 6~7 割だがグループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とともに約 4~5 割程度となっている。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とともに「そう思う」と回答する人が減少しており、理解が進んでいる。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) との間に有意差はない。また、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とともに 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.6.洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している
 該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.6	18.0207	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	15.6321	2	7.8161	34.0724	0.0000	**
時期	18.4676	2	9.2338	40.2527	0.0000	**
グループ * 時期	4.3600	4	1.0900	4.7516	0.0008	**
誤差	591.1529	2577	0.2294			
全体	626.7490	2585				

** : 1%有意 * : 5%有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.6	Bonferroni	A	B	0.5114	0.5259	0.0145	0.5740	1.0000	
			A	C	0.5114	0.6745	0.1632	7.2407	0.0000	**
			B	C	0.5259	0.6745	0.1487	6.4564	0.0000	**
時期	Q2.6	Bonferroni	事前	1週間後	0.6972	0.5302	0.1671	7.2410	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6972	0.5348	0.1624	7.0399	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5302	0.5348	0.0046	0.2011	1.0000	

** : 1%有意 * : 5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.6	事前	グループ	0.6009	2	0.3004	1.3097	0.2701	
		誤差	591.1529	2577	0.2294			
	1週間後	グループ	10.9082	2	5.4541	23.7759	0.0000	**
		誤差	591.1529	2577	0.2294			
	2ヶ月後	グループ	8.4831	2	4.2415	18.4900	0.0000	**
		誤差	591.1529	2577	0.2294			

** : 1%有意 * : 5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.6	Bonferroni	事前	A	B	0.6586	0.6983	0.0396	0.9070	1.0000	
			A	C	0.6586	0.7218	0.0632	1.6180	0.3174	
			B	C	0.6983	0.7218	0.0235	0.5894	1.0000	
		1週間後	A	B	0.4418	0.4181	0.0237	0.5415	1.0000	
			A	C	0.4418	0.6562	0.2144	5.4932	0.0000	**
			B	C	0.4181	0.6562	0.2381	5.9687	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.4337	0.4612	0.0275	0.6286	1.0000	
			A	C	0.4337	0.6457	0.2119	5.4300	0.0000	**
			B	C	0.4612	0.6457	0.1845	4.6248	0.0000	**

** : 1%有意 * : 5%有意

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.6	A	時期	8.1071	2	4.0535	17.6705	0.0000	**
		誤差	591.1529	2577	0.2294			
	B	時期	10.5603	2	5.2802	23.0177	0.0000	**
		誤差	591.1529	2577	0.2294			
	C	時期	1.2966	2	0.6483	2.8261	0.0594	
		誤差	591.1529	2577	0.2294			

** : 1%有意 * : 5%有意

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.6	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6586	0.4418	0.2169	5.0523	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6586	0.4337	0.2249	5.2394	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.4418	0.4337	0.0080	0.1871	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.6983	0.4181	0.2802	6.3003	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6983	0.4612	0.2371	5.3310	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.4181	0.4612	0.0431	0.9693	0.9975	
		C	事前	1週間後	0.7218	0.6562	0.0656	1.8909	0.1762	
			事前	2ヶ月後	0.7218	0.6457	0.0761	2.1935	0.0851	
			1週間後	2ヶ月後	0.6562	0.6457	0.0105	0.3025	1.0000	

** : 1%有意 * : 5%有意

開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.6(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	66.1%	65.6%	0.6%	0.0945	0.9247	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	66.1%	69.9%	3.8%	0.6245	0.5323	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.1%	69.7%	3.6%	0.6054	0.5449	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	66.1%	72.2%	6.0%	1.2941	0.1956	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	65.6%	69.9%	4.3%	0.7102	0.4775	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	65.6%	69.7%	4.2%	0.6924	0.4887	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	65.6%	72.2%	6.6%	1.3933	0.1635	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	69.9%	69.7%	0.2%	0.0271	0.9784	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	69.9%	72.2%	2.3%	0.4696	0.6386	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	69.7%	72.2%	2.4%	0.5133	0.6078	[]	
	Q2.6(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	40.9%	47.5%	6.6%	1.0478	0.2947	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	40.9%	44.2%	3.3%	0.5167	0.6054	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	40.9%	39.5%	1.4%	0.2316	0.8168	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	40.9%	65.6%	24.7%	4.9041	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	47.5%	44.2%	3.3%	0.5061	0.6128	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	47.5%	39.5%	8.0%	1.2593	0.2079	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	47.5%	65.6%	18.1%	3.5664	0.0004	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	44.2%	39.5%	4.8%	0.7335	0.4633	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	44.2%	65.6%	21.4%	4.0850	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	39.5%	65.6%	26.1%	5.0651	0.0000	[**]	
Q2.6(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	40.2%	46.7%	6.6%	1.0448	0.2961	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	40.2%	39.8%	0.3%	0.0528	0.9579	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	40.2%	52.1%	11.9%	1.8785	0.0603	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	40.2%	64.6%	24.4%	4.8343	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	46.7%	39.8%	6.9%	1.0660	0.2864	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	46.7%	52.1%	5.4%	0.8351	0.4036	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	46.7%	64.6%	17.8%	3.5053	0.0005	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	39.8%	52.1%	12.3%	1.8751	0.0608	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	39.8%	64.6%	24.7%	4.6950	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	52.1%	64.6%	12.5%	2.4408	0.0147	[*]	

7) 「減農薬」「無農薬」野菜の安全性

関連する情報提供

	グループ A 講義型 (1 回目)	グループ A 講義型 (2 回目)	グループ B グループディスカッション型 (1 回目)	グループ B グループディスカッション型 (2 回目)
DVD	言及なし			
配付資料	言及			
口頭での 情報提供	講義、質疑応答で説明	講義、質疑応答で説明	質疑応答で説明	質疑応答で説明

「無農薬」野菜については、グループ A（講義型）で説明したほか、全ての回の質疑応答で説明した。
関連スライド

有機栽培はすべて本当に大丈夫ですか？

	無農薬栽培	通常栽培
市販野菜の農薬検出率	54%	45%

通常栽培と無農薬栽培の野菜を分析検出された農薬の濃度にもあまり差がない<神戸大学>

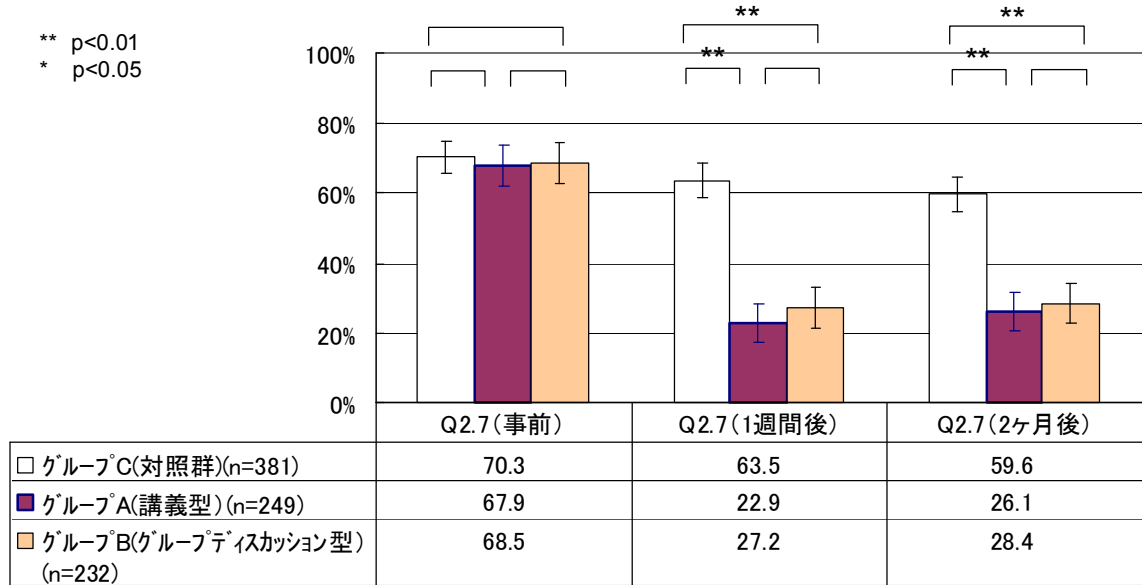
認証されている有機農業資材から外国で農薬登録された毒性の強い抗生物質殺虫剤が混入されていた。別の有機資材に合成ピレスロイド剤シベルメトリンが入っていた。こうした資材が環境保全型農業に便乗し新聞などで大々的に宣伝し販売されている。
千葉大学名誉教授・農業資材審議会会長本山直樹氏
発表から

『「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い』について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約 6 割だが、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）では約 3 割程度である。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が減少しており、理解が進んでいる。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.7.「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い
 該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.7	15.4695	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	38.0428	2	19.0214	89.2935	0.0000	**
時期	52.5394	2	26.2697	123.3197	0.0000	**
グループ * 時期	16.2131	4	4.0533	19.0276	0.0000	**
誤差	548.9552	2577	0.2130			
全体	646.2954	2585				

**:1%有意 *:5%有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.7	Bonferroni	A	B	0.3896	0.4138	0.0242	0.9967	0.9570	
			A	C	0.3896	0.6448	0.2552	11.7539	0.0000	**
			B	C	0.4138	0.6448	0.2310	10.4097	0.0000	**
時期	Q2.7	Bonferroni	事前	1週間後	0.6914	0.4200	0.2715	12.2106	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6914	0.4153	0.2761	12.4193	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.4200	0.4153	0.0046	0.2087	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.7	事前	グループ	0.1035	2	0.0518	0.2430	0.7843	
		誤差	548.9552	2577	0.2130			
	1週間後	グループ	31.8440	2	15.9220	74.7439	0.0000	**
		誤差	548.9552	2577	0.2130			
	2ヶ月後	グループ	22.3083	2	11.1542	52.3618	0.0000	**
		誤差	548.9552	2577	0.2130			

**:1%有意 *:5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q2.7	Bonferroni	事前	A	B	0.6787	0.6853	0.0066	0.1574	1.0000		
			A	C	0.6787	0.7034	0.0247	0.6566	1.0000		
			B	C	0.6853	0.7034	0.0181	0.4701	1.0000		
			1週間後	A	B	0.2289	0.2716	0.0426	1.0124	0.9344	
				A	C	0.2289	0.6352	0.4063	10.8014	0.0000	**
				B	C	0.2716	0.6352	0.3636	9.4604	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.2610	0.2845	0.0234	0.5565	1.0000		
			A	C	0.2610	0.5958	0.3348	8.9004	0.0000	**	
			B	C	0.2845	0.5958	0.3113	8.0997	0.0000	**	

**:1%有意 *:5%有意

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.7	A	時期	31.3574	2	15.6787	73.6017	0.0000	**
		誤差	548.9552	2577	0.2130			
		時期	25.6810	2	12.8405	60.2782	0.0000	**
	B	誤差	548.9552	2577	0.2130			
		時期	2.2590	2	1.1295	5.3022	0.0050	**
		誤差	548.9552	2577	0.2130			

**:1%有意 *5%有意

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.7	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6787	0.2289	0.4498	10.8741	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6787	0.2610	0.4177	10.0974	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2289	0.2610	0.0321	0.7767	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.6853	0.2716	0.4138	9.6561	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6853	0.2845	0.4009	9.3543	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2716	0.2845	0.0129	0.3018	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.7034	0.6352	0.0682	2.0407	0.1241	
			事前	2ヶ月後	0.7034	0.5958	0.1076	3.2181	0.0039	**
			1週間後	2ヶ月後	0.6352	0.5958	0.0394	1.1773	0.7175	

**:1%有意 *5%有意

開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.7(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	65.4%	70.5%	5.1%	0.8678	0.3855	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	65.4%	69.0%	3.7%	0.6043	0.5456	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	65.4%	68.1%	2.7%	0.4511	0.6519	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	65.4%	70.3%	5.0%	1.0532	0.2922	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	70.5%	69.0%	1.5%	0.2444	0.8069	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	70.5%	68.1%	2.4%	0.4080	0.6833	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	70.5%	70.3%	0.2%	0.0317	0.9747	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	69.0%	68.1%	1.0%	0.1573	0.8750	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	69.0%	70.3%	1.3%	0.2679	0.7888	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	68.1%	70.3%	2.3%	0.4716	0.6372	[]	
	Q2.7(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	21.3%	24.6%	3.3%	0.6253	0.5318	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	21.3%	35.4%	14.1%	2.4372	0.0148	[*]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	21.3%	19.3%	1.9%	0.3763	0.7067	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	21.3%	63.5%	42.3%	8.2627	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	24.6%	35.4%	10.8%	1.8101	0.0703	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	24.6%	19.3%	5.3%	0.9861	0.3241	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	24.6%	63.5%	38.9%	7.5091	0.0000	[**]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	35.4%	19.3%	16.1%	2.7509	0.0059	[**]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	35.4%	63.5%	28.1%	5.3036	0.0000	[**]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	19.3%	63.5%	44.2%	8.4310	0.0000	[**]	
Q2.7(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	22.8%	29.5%	6.7%	1.1986	0.2307	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	22.8%	33.6%	10.8%	1.8606	0.0628	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	22.8%	23.5%	0.7%	0.1291	0.8973	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	22.8%	59.6%	36.7%	7.1726	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	29.5%	33.6%	4.1%	0.6794	0.4969	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	29.5%	23.5%	6.0%	1.0507	0.2934	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	29.5%	59.6%	30.1%	5.7877	0.0000	[**]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	33.6%	23.5%	10.1%	1.7041	0.0884	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	33.6%	59.6%	26.0%	4.8584	0.0000	[**]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	23.5%	59.6%	36.1%	6.8672	0.0000	[**]	

8) 特定の食品の危険性よりもバランスが大切

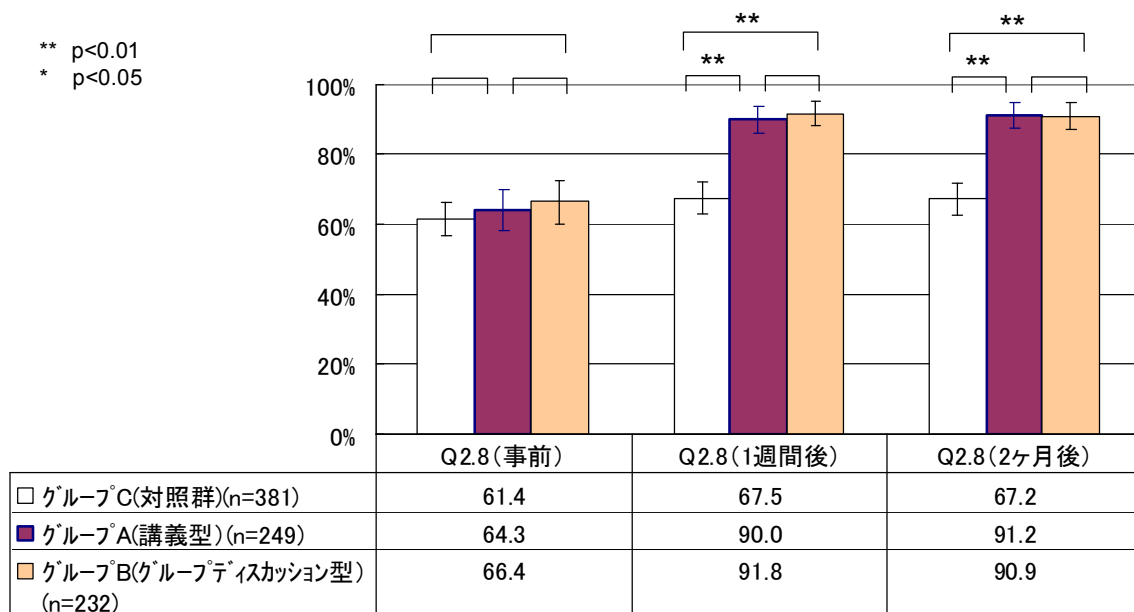
意見交換会では、直接このような説明はしていないが、意見交換会全体を通じて特定の食品に基準値を超える残留農薬があったとしてもすぐに健康に影響はないことを示した。

「特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約7割だがグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約9割程度となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が増えており、理解が進んでいる。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、A、Bグループとも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q2.8.特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切 該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルベーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q2.8	184.2233	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	18.5832	2	9.2916	53.6908	0.0000	**
時期	19.9254	2	9.9627	57.5687	0.0000	**
グループ * 時期	5.5814	4	1.3954	8.0629	0.0000	**
誤差	445.9699	2577	0.1731			
全体	486.6203	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q2.8	Bonferroni	A	B	0.8179	0.8305	0.0125	0.5713	1.0000	
			A	C	0.8179	0.6535	0.1644	8.3994	0.0000	**
			B	C	0.8305	0.6535	0.1769	8.8452	0.0000	**
時期	Q2.8	Bonferroni	事前	1週間後	0.6357	0.8051	0.1694	8.4526	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6357	0.8051	0.1694	8.4526	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8051	0.8051	0.0000	0.0000	1.0000	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.8	事前	グループ	0.3714	2	0.1857	1.0731	0.3421	
		誤差	445.9699	2577	0.1731			
	1週間後	グループ	11.6806	2	5.8403	33.7476	0.0000	**
		誤差	445.9699	2577	0.1731			
	2ヶ月後	グループ	12.1127	2	6.0563	34.9960	0.0000	**
		誤差	445.9699	2577	0.1731			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.8	Bonferroni	事前	A	B	0.6426	0.6638	0.0212	0.5591	1.0000	
			A	C	0.6426	0.6142	0.0284	0.8377	1.0000	
			B	C	0.6638	0.6142	0.0496	1.4323	0.4565	
		1週間後	A	B	0.8996	0.9181	0.0185	0.4875	1.0000	
			A	C	0.8996	0.6745	0.2251	6.6388	0.0000	**
			B	C	0.9181	0.6745	0.2436	7.0306	0.0000	**
	2ヶ月後	A	B	0.9116	0.9095	0.0022	0.0570	1.0000		
		A	C	0.9116	0.6719	0.2397	7.0716	0.0000	**	
		B	C	0.9095	0.6719	0.2376	6.8575	0.0000	**	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q2.8	A	時期	11.5047	2	5.7523	33.2394	0.0000	**
		誤差	445.9699	2577	0.1731			
	B	時期	9.6753	2	4.8376	27.9539	0.0000	**
		誤差	445.9699	2577	0.1731			
	C	時期	0.8871	2	0.4436	2.5631	0.0773	
		誤差	445.9699	2577	0.1731			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q2.8	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6426	0.8996	0.2570	6.8940	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6426	0.9116	0.2691	7.2171	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8996	0.9116	0.0120	0.3232	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.6638	0.9181	0.2543	6.5841	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6638	0.9095	0.2457	6.3609	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9181	0.9095	0.0086	0.2232	1.0000	
	C	事前	1週間後	0.6142	0.6745	0.0604	2.0029	0.1359		
		事前	2ヶ月後	0.6142	0.6719	0.0577	1.9158	0.1665		
		1週間後	2ヶ月後	0.6745	0.6719	0.0026	0.0871	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q2.8(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	65.4%	63.1%	2.2%	0.3686	0.7124	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	65.4%	60.2%	5.2%	0.8288	0.4072	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	65.4%	72.3%	6.9%	1.1687	0.2425	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	65.4%	61.4%	3.9%	0.7933	0.4276	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	63.1%	60.2%	2.9%	0.4629	0.6435	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	63.1%	72.3%	9.2%	1.5186	0.1289	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	63.1%	61.4%	1.7%	0.3359	0.7370	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	60.2%	72.3%	12.1%	1.9487	0.0513	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	60.2%	61.4%	1.2%	0.2375	0.8122	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	72.3%	61.4%	10.9%	2.1528	0.0313	[*]	
	Q2.8(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	92.1%	87.7%	4.4%	1.1604	0.2459	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	92.1%	91.2%	1.0%	0.2729	0.7849	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	92.1%	92.4%	0.3%	0.0913	0.9272	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	92.1%	67.5%	24.7%	5.4640	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	87.7%	91.2%	3.4%	0.8559	0.3920	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	87.7%	92.4%	4.7%	1.2265	0.2200	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	87.7%	67.5%	20.3%	4.3532	0.0000	[**]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	91.2%	92.4%	1.3%	0.3572	0.7209	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	91.2%	67.5%	23.7%	4.9756	0.0000	[**]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	92.4%	67.5%	25.0%	5.3840	0.0000	[**]	
Q2.8(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	89.0%	93.4%	4.5%	1.2414	0.2145	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	89.0%	89.4%	0.4%	0.1006	0.9199	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	89.0%	92.4%	3.5%	0.9317	0.3515	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	89.0%	67.2%	21.8%	4.7690	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	93.4%	89.4%	4.1%	1.1150	0.2649	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	93.4%	92.4%	1.0%	0.3048	0.7605	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	93.4%	67.2%	26.3%	5.7220	0.0000	[**]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	89.4%	92.4%	3.1%	0.8110	0.4174	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	89.4%	67.2%	22.2%	4.6271	0.0000	[**]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	92.4%	67.2%	25.2%	5.4276	0.0000	[**]	

9) まとめ

①2ヶ月後の変化

意見交換会で提供した情報内容については、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも理解が高まっている。

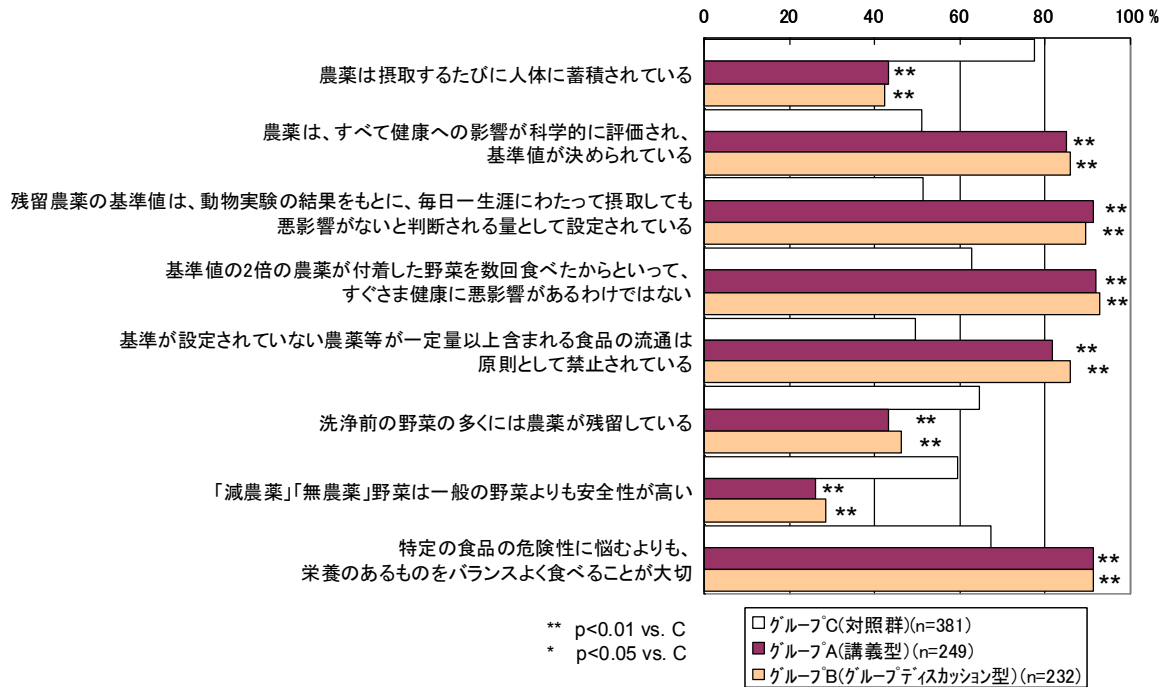
特に、今回の意見交換会の主題である安全性評価や基準値関連の内容についてみると「農薬はすべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている」「残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている」「基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない」は、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも約8割から9割が「そう思う」と回答しており、今回の意見交換会は安全性評価や基準値に関する知識の獲得に役立っていることがわかる。

「農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている」「洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している」については、蓄積性がないこと、残留農薬はほとんどないことをDVDで説明しており、「そう思う」と回答した人の割合は大きく減少している。

また、『減農薬』『無農薬』野菜は一般の野菜よりも安全性が高いについては、主に質疑応答の中で、必ずしもそうとは言えないことに言及した。その結果、「そう思う」と回答した人の割合が減少している。さらに、意見交換会では直接の説明はなかったが「特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切」と感じた人の割合は増加している。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間では、それぞれの項目に大きな差異はなく、効果はほぼ同様となっている。

Q2.次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。
 該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)(2ヶ月後)



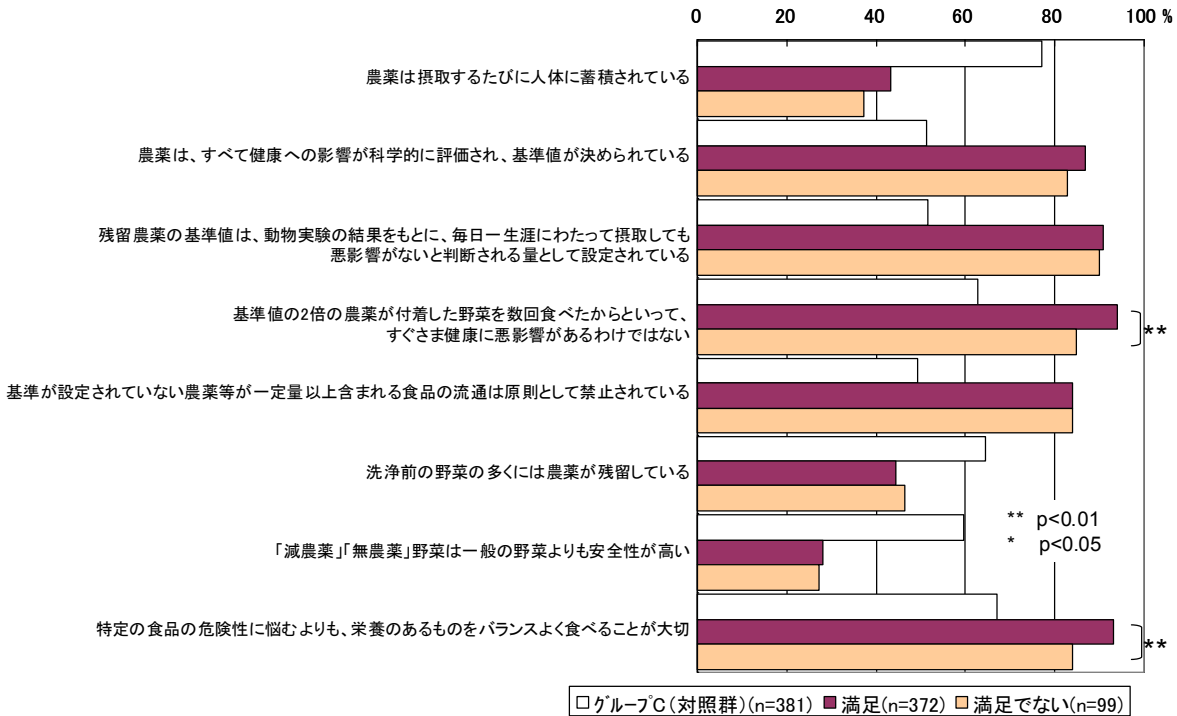
	合計	Q2 (2ヶ月後)							
		農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている。	農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている。	残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている。	基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない。	基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている。	洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している。	「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い。	特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切。
全体	862	57.9	70.3	73.1	79.2	68.4	53.5	41.5	80.5
グループ A. 講義型 計	249	43.0	85.1	91.2	92.0	81.5	43.4	26.1	91.2
-A-1. 講義型(1回目)	127	37.8	81.9	90.6	89.8	80.3	40.2	22.8	89.0
-A-2. 講義型(2回目)	122	48.4	88.5	91.8	94.3	82.8	46.7	29.5	93.4
グループ B. G ⁺ イスカッション型 計	232	42.2	85.8	89.2	92.7	85.8	46.1	28.4	90.9
-B-1. G ⁺ イスカッション型(1回目)	113	43.4	85.0	90.3	90.3	86.7	39.8	33.6	89.4
-B-2. G ⁺ イスカッション型(2回目)	119	41.2	86.6	88.2	95.0	84.9	52.1	23.5	92.4
グループ C. 対照群	381	77.2	51.2	51.4	62.7	49.3	64.6	59.6	67.2

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、多くの項目で差異はみられないが「基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない」「特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切」については、会合に満足した参加者において「そう思う」と回答した人の割合が高い。

Q2.次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。

該当率(「そう思う」+「ややそう思う」)(2ヶ月後)



グループ	満足度	合計	Q2 (2ヶ月後)							
			農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている	農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている	残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている	基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない	基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている	洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している	「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い	特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切
	全体	862	57.9	70.3	73.1	79.2	68.4	53.5	41.5	80.5
グループ×満足	満足	372	43.3	86.8	90.9	94.1	83.9	44.4	28.0	93.0
	グループA (講義型)	216	42.6	85.6	91.7	94.0	82.4	44.0	27.3	92.6
	グループB (グループディスカッション型)	156	44.2	88.5	89.7	94.2	85.9	44.9	28.8	93.6
	満足でない	99	37.4	82.8	89.9	84.8	83.8	46.5	27.3	83.8
	グループA (講義型)	27	40.7	77.8	85.2	74.1	77.8	44.4	22.2	77.8
	グループB (グループディスカッション型)	72	36.1	84.7	91.7	88.9	86.1	47.2	29.2	86.1
グループC (対照群)	381	77.2	51.2	51.4	62.7	49.3	64.6	59.6	67.2	

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている	満足	満足でない	43.3%	37.4%	5.9%	1.0590	0.2901	[]
農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている	満足	満足でない	86.8%	82.8%	4.0%	1.0189	0.3083	[]
残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている	満足	満足でない	90.9%	89.9%	1.0%	0.2921	0.7702	[]
基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない	満足	満足でない	94.1%	84.8%	9.2%	3.0361	0.0024	**
基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている	満足	満足でない	83.9%	83.8%	0.0%	0.0078	0.9938	[]
洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している	満足	満足でない	44.4%	46.5%	2.1%	0.3752	0.7075	[]
「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い	満足	満足でない	28.0%	27.3%	0.7%	0.1350	0.8926	[]
特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切	満足	満足でない	93.0%	83.8%	9.2%	2.8460	0.0044	**

(3)農薬に対する認識

1) 残留農薬による被害可能性

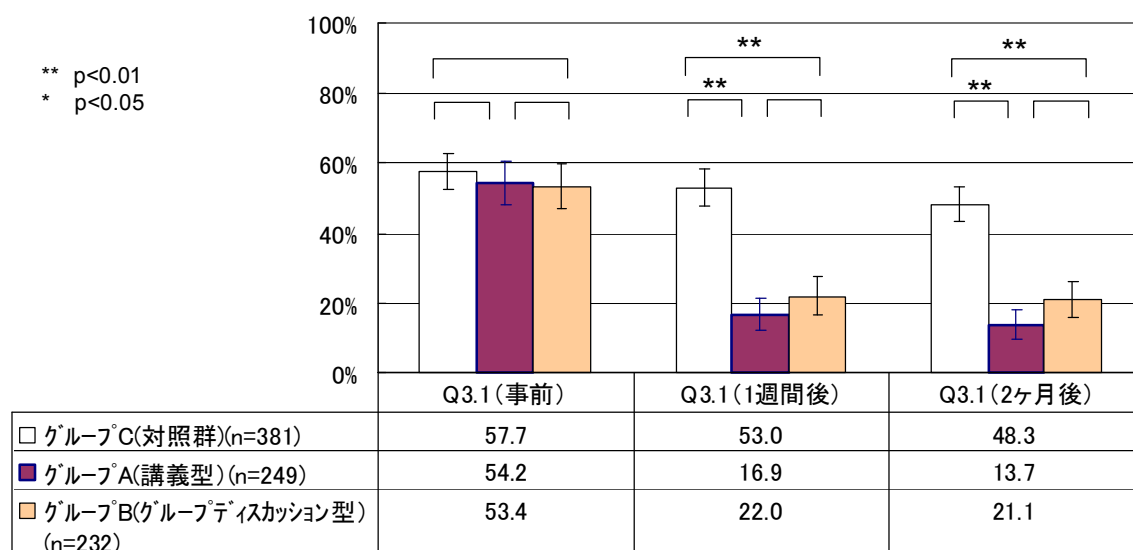
「いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は対照群では約5~6割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも約1~2割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が減少しており、不安は緩和されている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、B（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q3.1.いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える。

該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q3.1	139.1550	8	2577	0.0000

分散分析表	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
因子						
グループ	33.9262	2	16.9631	80.1719	0.0000	**
時期	37.3330	2	18.6665	88.2227	0.0000	**
グループ * 時期	11.9900	4	2.9975	14.1670	0.0000	**
誤差	545.2520	2577	0.2116			
全体	621.9432	2585				

多重比較検定	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
因子	Q3.1	Bonferroni	A	B	0.2825	0.3218	0.0394	1.6249	0.3129	
グループ	Q3.1	Bonferroni	A	C	0.2825	0.5302	0.2477	11.4465	0.0000	**
			B	C	0.3218	0.5302	0.2083	9.4206	0.0000	**
時期	Q3.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.5557	0.3422	0.2135	9.6340	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5557	0.3097	0.2459	11.1001	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.3422	0.3097	0.0325	1.4660	0.4283	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q3.1	事前	グループ	0.3299	2	0.1650	0.7796	0.4587	
		誤差	545.2520	2577	0.2116			
	1週間後	グループ	24.4356	2	12.2178	57.7444	0.0000	**
		誤差	545.2520	2577	0.2116			
	2ヶ月後	グループ	21.1507	2	10.5754	49.9819	0.0000	**
		誤差	545.2520	2577	0.2116			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q3.1	Bonferroni	事前	A	B	0.5422	0.5345	0.0077	0.1831	1.0000		
			A	C	0.5422	0.5774	0.0353	0.9406	1.0000		
			B	C	0.5345	0.5774	0.0429	1.1211	0.7870		
			1週間後	A	B	0.1687	0.2198	0.0512	1.2187	0.6692	
			A	C	0.1687	0.5302	0.3615	9.6443	0.0000	**	
			B	C	0.2198	0.5302	0.3104	8.1021	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.1365	0.2112	0.0747	1.7788	0.2262		
			A	C	0.1365	0.4829	0.3464	9.2410	0.0000	**	
			B	C	0.2112	0.4829	0.2717	7.0938	0.0000	**	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q3.1	A	時期	25.3199	2	12.6600	59.8343	0.0000	**
		誤差	545.2520	2577	0.2116			
	B	時期	15.7443	2	7.8721	37.2057	0.0000	**
		誤差	545.2520	2577	0.2116			
	C	時期	1.7008	2	0.8504	4.0192	0.0181	*
		誤差	545.2520	2577	0.2116			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q3.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5422	0.1687	0.3735	9.0600	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.5422	0.1365	0.4056	9.8393	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.1687	0.1365	0.0321	0.7794	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.5345	0.2198	0.3147	7.3675	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5345	0.2112	0.3233	7.5694	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.2198	0.2112	0.0086	0.2019	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.5774	0.5302	0.0472	1.4176	0.4693		
			事前	2ヶ月後	0.5774	0.4829	0.0945	2.8352	0.0138	*	
			1週間後	2ヶ月後	0.5302	0.4829	0.0472	1.4176	0.4693		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q3.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	52.8%	55.7%	3.0%	0.4721	0.6369	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	52.8%	52.2%	0.5%	0.0842	0.9329	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	52.8%	54.6%	1.9%	0.2933	0.7693	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	52.8%	57.7%	5.0%	0.9817	0.3262	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	55.7%	52.2%	3.5%	0.5418	0.5880	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	55.7%	54.6%	1.1%	0.1742	0.8617	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	55.7%	57.7%	2.0%	0.3896	0.6968	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	52.2%	54.6%	2.4%	0.3678	0.7131	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	52.2%	57.7%	5.5%	1.0414	0.2977	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	54.6%	57.7%	3.1%	0.6003	0.5483	[]	
	Q3.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	12.6%	21.3%	8.7%	1.8354	0.0664	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	12.6%	20.4%	7.8%	1.6257	0.1040	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	12.6%	23.5%	10.9%	2.2356	0.0254	[*]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	12.6%	53.0%	40.4%	7.9701	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	21.3%	20.4%	1.0%	0.1805	0.8567	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	21.3%	23.5%	2.2%	0.4129	0.6797	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	21.3%	53.0%	31.7%	6.1227	0.0000	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.4%	23.5%	3.2%	0.5838	0.5594	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	20.4%	53.0%	32.7%	6.1231	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	23.5%	53.0%	29.5%	5.6342	0.0000	[**]	
Q3.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	16.5%	10.7%	5.9%	1.3508	0.1768	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	16.5%	18.6%	2.0%	0.4169	0.6767	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	16.5%	23.5%	7.0%	1.3726	0.1699	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	16.5%	48.3%	31.8%	6.3177	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	10.7%	18.6%	7.9%	1.7262	0.0843	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	10.7%	23.5%	12.9%	2.6592	0.0078	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	10.7%	48.3%	37.6%	7.4124	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	18.6%	23.5%	4.9%	0.9224	0.3563	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	18.6%	48.3%	29.7%	5.6291	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	23.5%	48.3%	24.8%	4.7719	0.0000	[**]	

2) 農薬の有用性、受容性

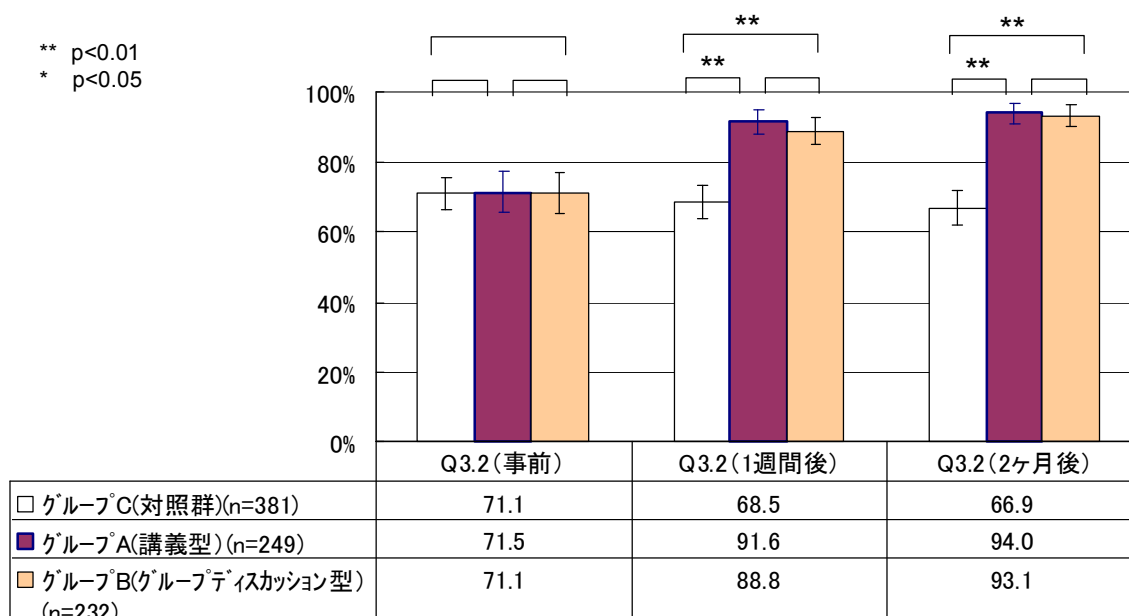
農薬の有用性、受容性についても認識が変化している。「農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである」について、意見交換会実施後に「そう思う」と回答したのは、対照群では7割弱だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約9割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が増加しており、態度は緩和している。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q3.2.農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである。

該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q3.2	147.9419	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	16.7559	2	8.3780	52.0880	0.0000	**
時期	8.7735	2	4.3868	27.2737	0.0000	**
グループ * 時期	8.4539	4	2.1135	13.1401	0.0000	**
誤差	414.4908	2577	0.1608			
全体	445.4787	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q3.2	Bonferroni	A	B	0.8568	0.8434	0.0134	0.6328	1.0000	
			A	C	0.8568	0.6885	0.1682	8.9153	0.0000	**
			B	C	0.8434	0.6885	0.1549	8.0307	0.0000	**
時期	Q3.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.7123	0.8063	0.0940	4.8643	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.7123	0.8179	0.1056	5.4648	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8063	0.8179	0.0116	0.6005	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q3.2	事前	グループ	0.0023	2	0.0012	0.0071	0.9929	
		誤差	414.4908	2577	0.1608			
	1週間後	グループ	10.1263	2	5.0632	31.4790	0.0000	**
		誤差	414.4908	2577	0.1608			
	2ヶ月後	グループ	15.0812	2	7.5406	46.8820	0.0000	**
		誤差	414.4908	2577	0.1608			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q3.2	Bonferroni	事前	A	B	0.7149	0.7112	0.0037	0.0998	1.0000	
			A	C	0.7149	0.7113	0.0036	0.1093	1.0000	
			B	C	0.7112	0.7113	0.0001	0.0024	1.0000	
			A	B	0.9157	0.8879	0.0277	0.7578	1.0000	
			A	C	0.9157	0.6850	0.2306	7.0566	0.0000	**
			B	C	0.8879	0.6850	0.2029	6.0749	0.0000	**
		1週間後	A	B	0.9398	0.9310	0.0087	0.2384	1.0000	
			A	C	0.9398	0.6693	0.2705	8.2757	0.0000	**
			B	C	0.9310	0.6693	0.2617	7.8370	0.0000	**
			A	B	0.9157	0.8879	0.0277	0.7578	1.0000	
			A	C	0.9157	0.6850	0.2306	7.0566	0.0000	**
			B	C	0.8879	0.6850	0.2029	6.0749	0.0000	**

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q3.2	A	時期	7.5930	2	3.7965	23.6040	0.0000	**
		誤差	414.4908	2577	0.1608			
	B	時期	6.2960	2	3.1480	19.5719	0.0000	**
		誤差	414.4908	2577	0.1608			
	C	時期	0.3430	2	0.1715	1.0661	0.3445	
		誤差	414.4908	2577	0.1608			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q3.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.7149	0.9157	0.2008	5.5867	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.7149	0.9398	0.2249	6.2571	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.9157	0.9398	0.0241	0.6704	1.0000	
			事前	1週間後	0.7112	0.8879	0.1767	4.7460	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.7112	0.9310	0.2198	5.9035	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8879	0.9310	0.0431	1.1576	0.7415	
		B	事前	1週間後	0.7113	0.6850	0.0262	0.9033	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.7113	0.6693	0.0420	1.4452	0.4455	
			1週間後	2ヶ月後	0.6850	0.6693	0.0157	0.5420	1.0000	
			事前	1週間後	0.7112	0.8879	0.1767	4.7460	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.7112	0.9310	0.2198	5.9035	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8879	0.9310	0.0431	1.1576	0.7415	
C	事前	1週間後	0.7113	0.6850	0.0262	0.9033	1.0000			
	事前	2ヶ月後	0.7113	0.6693	0.0420	1.4452	0.4455			
	1週間後	2ヶ月後	0.6850	0.6693	0.0157	0.5420	1.0000			
	事前	1週間後	0.7112	0.8879	0.1767	4.7460	0.0000	**		
	事前	2ヶ月後	0.7112	0.9310	0.2198	5.9035	0.0000	**		
	1週間後	2ヶ月後	0.8879	0.9310	0.0431	1.1576	0.7415			

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q3.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	67.7%	75.4%	7.7%	1.3442	0.1789	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	67.7%	64.6%	3.1%	0.5094	0.6105	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	67.7%	77.3%	9.6%	1.6815	0.0927	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	67.7%	71.1%	3.4%	0.7286	0.4662	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	75.4%	64.6%	10.8%	1.8101	0.0703	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	75.4%	77.3%	1.9%	0.3472	0.7284	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	75.4%	71.1%	4.3%	0.9183	0.3585	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	64.6%	77.3%	12.7%	2.1350	0.0328	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	64.6%	71.1%	6.5%	1.3251	0.1851	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	77.3%	71.1%	6.2%	1.3200	0.1869	[]	
	Q3.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	88.2%	95.1%	6.9%	1.9566	0.0504	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	88.2%	87.6%	0.6%	0.1372	0.8909	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	88.2%	89.9%	1.7%	0.4330	0.6650	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	88.2%	68.5%	19.7%	4.3492	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	95.1%	87.6%	7.5%	2.0508	0.0403	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	95.1%	89.9%	5.2%	1.5252	0.1272	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	95.1%	68.5%	26.6%	5.8965	0.0000	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	87.6%	89.9%	2.3%	0.5564	0.5780	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	87.6%	68.5%	19.1%	4.0119	0.0001	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	89.9%	68.5%	21.4%	4.6256	0.0000	[**]	
Q3.2(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	90.6%	97.5%	7.0%	2.3174	0.0205	[*]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	90.6%	93.8%	3.3%	0.9320	0.3513	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	90.6%	92.4%	1.9%	0.5290	0.5968	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	90.6%	66.9%	23.6%	5.1829	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	97.5%	93.8%	3.7%	1.4175	0.1563	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	97.5%	92.4%	5.1%	1.8212	0.0686	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	97.5%	66.9%	30.6%	6.7388	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	93.8%	92.4%	1.4%	0.4111	0.6810	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	93.8%	66.9%	26.9%	5.6566	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	92.4%	66.9%	25.5%	5.4712	0.0000	[**]	

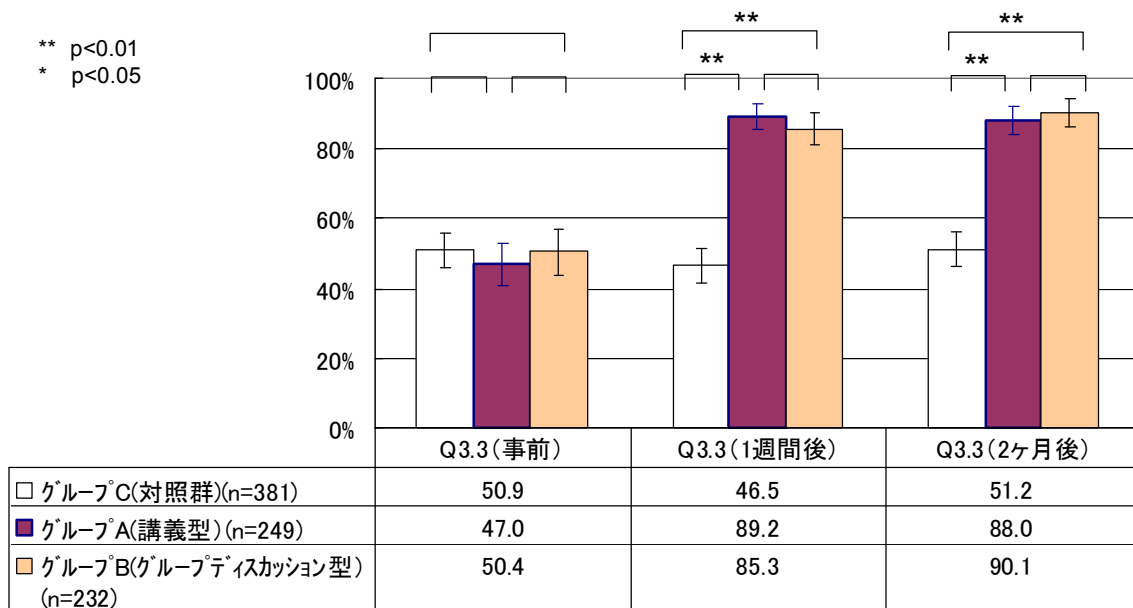
3) 残留農薬の管理状況に対する認識

農薬の規制に対する認識も変化している。「国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている」について、意見交換会実施後に「そう思う」と回答したのは、対照群では約5割だが、A（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約9割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「そう思う」と回答する人が増加しており、理解が進んでいる。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q3.3.国民の健康への悪影響がないように残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている。
該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q3.3	284.4910	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	41.3679	2	20.6840	105.4659	0.0000	**
時期	36.1724	2	18.0862	92.2201	0.0000	**
グループ * 時期	24.9874	4	6.2469	31.8522	0.0000	**
誤差	505.4010	2577	0.1961			
全体	597.7664	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q3.3	Bonferroni	A	B	0.7470	0.7529	0.0059	0.2523	1.0000	
			A	C	0.7470	0.4952	0.2518	12.0850	0.0000	**
			B	C	0.7529	0.4952	0.2577	12.1022	0.0000	**
時期	Q3.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.4965	0.6926	0.1961	9.1909	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4965	0.7227	0.2262	10.6049	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.6926	0.7227	0.0302	1.4140	0.4725	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q3.3	事前	グループ	0.2519	2	0.1260	0.6423	0.5262	
		誤差	505.4010	2577	0.1961			
	1週間後	グループ	35.6713	2	17.8356	90.9426	0.0000	**
		誤差	505.4010	2577	0.1961			
	2ヶ月後	グループ	30.4321	2	15.2161	77.5855	0.0000	**
		誤差	505.4010	2577	0.1961			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q3.3	Bonferroni	事前	A	B	0.4699	0.5043	0.0344	0.8520	1.0000		
			A	C	0.4699	0.5092	0.0393	1.0892	0.8285		
			B	C	0.5043	0.5092	0.0049	0.1322	1.0000		
			1週間後	A	B	0.8916	0.8534	0.0381	0.9433	1.0000	
			A	C	0.8916	0.4646	0.4270	11.8320	0.0000	**	
			B	C	0.8534	0.4646	0.3889	10.5447	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.8795	0.9009	0.0213	0.5282	1.0000		
			A	C	0.8795	0.5118	0.3677	10.1890	0.0000	**	
			B	C	0.9009	0.5118	0.3891	10.5493	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q3.3	A	時期	28.6988	2	14.3494	73.1664	0.0000	**
		誤差	505.4010	2577	0.1961			
	B	時期	21.7615	2	10.8807	55.4801	0.0000	**
		誤差	505.4010	2577	0.1961			
	C	時期	0.5372	2	0.2686	1.3695	0.2544	
		誤差	505.4010	2577	0.1961			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q3.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4699	0.8916	0.4217	10.6246	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.4699	0.8795	0.4096	10.3211	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.8916	0.8795	0.0120	0.3036	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.5043	0.8534	0.3491	8.4911	0.0000	**
				事前	2ヶ月後	0.5043	0.9009	0.3966	9.6442	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.8534	0.9009	0.0474	1.1531	0.7469		
		C	事前	1週間後	0.5092	0.4646	0.0446	1.3906	0.4934		
			事前	2ヶ月後	0.5092	0.5118	0.0026	0.0818	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.4646	0.5118	0.0472	1.4724	0.4231		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q3.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	40.9%	53.3%	12.3%	1.9494	0.0512	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	40.9%	51.3%	10.4%	1.6113	0.1071	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	40.9%	49.6%	8.6%	1.3601	0.1738	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	40.9%	50.9%	10.0%	1.9478	0.0514	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	53.3%	51.3%	2.0%	0.2992	0.7648	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	53.3%	49.6%	3.7%	0.5744	0.5657	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	53.3%	50.9%	2.4%	0.4539	0.6499	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	51.3%	49.6%	1.7%	0.2661	0.7902	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	51.3%	50.9%	0.4%	0.0763	0.9391	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	49.6%	50.9%	1.3%	0.2550	0.7987	[]	
	Q3.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	88.2%	90.2%	2.0%	0.5010	0.6163	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	88.2%	85.8%	2.3%	0.5414	0.5882	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	88.2%	84.9%	3.3%	0.7624	0.4458	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	88.2%	46.5%	41.7%	8.2243	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	90.2%	85.8%	4.3%	1.0221	0.3067	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	90.2%	84.9%	5.3%	1.2437	0.2136	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	90.2%	46.5%	43.7%	8.4881	0.0000	**	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	85.8%	84.9%	1.0%	0.2081	0.8351	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	85.8%	46.5%	39.4%	7.3977	0.0000	**	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	84.9%	46.5%	38.4%	7.3629	0.0000	**	
Q3.3(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	85.0%	91.0%	5.9%	1.4404	0.1497	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	85.0%	89.4%	4.3%	1.0009	0.3169	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	85.0%	90.8%	5.7%	1.3694	0.1709	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	85.0%	51.2%	33.9%	6.7354	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	91.0%	89.4%	1.6%	0.4132	0.6794	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	91.0%	90.8%	0.2%	0.0613	0.9512	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	91.0%	51.2%	39.8%	7.8387	0.0000	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	89.4%	90.8%	1.4%	0.3505	0.7260	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	89.4%	51.2%	38.2%	7.2769	0.0000	**	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	90.8%	51.2%	39.6%	7.7124	0.0000	**	

4) まとめ

①2ヶ月後の変化

農薬に対する認識をみると、被害可能性、有用性、管理状況に対する認識とも対照群との間で差異がみられる。

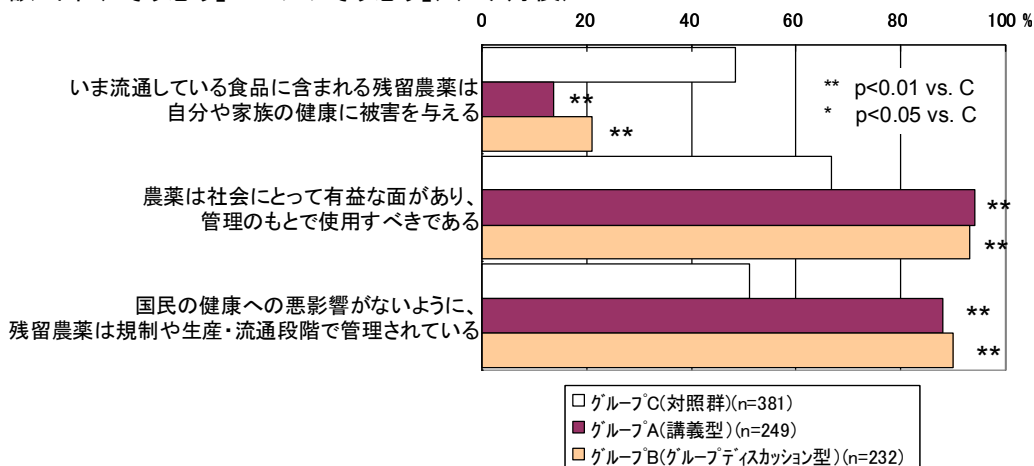
「いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える」について意見交換会実施後に「そう思う」と回答した人の割合は、対照群では約5割だがグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1~2割となっている。

また「農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである」「国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている」については、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも参加者の約9割が「そう思う」と回答している。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）の間では大きな差異はない。

Q3.次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。

該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）（2ヶ月後）



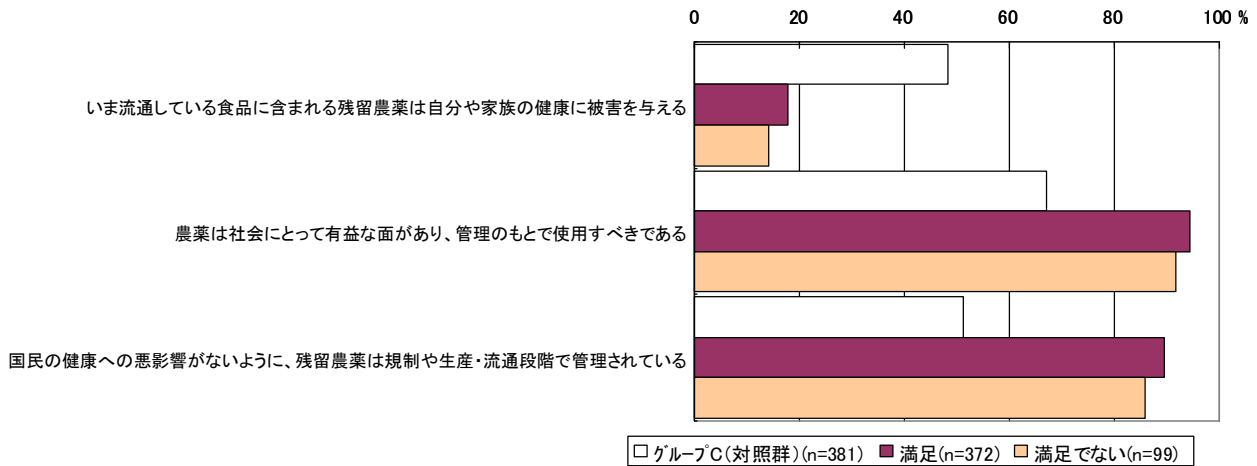
	合計	Q3 (2ヶ月後)		
		いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える。	農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである。	国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている。
全体	862	31.0	81.8	72.3
グループ				
A. 講義型 計	249	13.7	94.0	88.0
-A-1. 講義型(1回目)	127	16.5	90.6	85.0
-A-2. 講義型(2回目)	122	10.7	97.5	91.0
B. G ⁺ イスカッション型 計	232	21.1	93.1	90.1
-B-1. G ⁺ イスカッション型(1回目)	113	18.6	93.8	89.4
-B-2. G ⁺ イスカッション型(2回目)	119	23.5	92.4	90.8
C. 対照群	381	48.3	66.9	51.2

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q3.次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。

該当率（「そう思う」+「ややそう思う」）（2ヶ月後）



グ ル ー プ × 満 足	全体	Q3 (2ヶ月後)			
		いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える	農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである	国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている	
	862	31.0	81.8	72.3	
満足	372	17.7	94.4	89.5	
グループA	グループA (講義型)	216	12.5	94.9	89.8
	グループB (グループディスカッション型)	156	25.0	93.6	89.1
満足でない	99	14.1	91.9	85.9	
	グループA (講義型)	27	22.2	85.2	70.4
グループB	72	11.1	94.4	91.7	
グループC (対照群)	381	48.3	66.9	51.2	

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える	満足	満足でない	17.7%	14.1%	3.6%	0.8479	0.3965	[]
農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである	満足	満足でない	94.4%	91.9%	2.4%	0.8960	0.3703	[]
国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている	満足	満足でない	89.5%	85.9%	3.7%	1.0234	0.3061	[]

(4)安全性評価、管理制度、関係機関等に対する信頼感

1) 科学的なリスク評価の信頼感

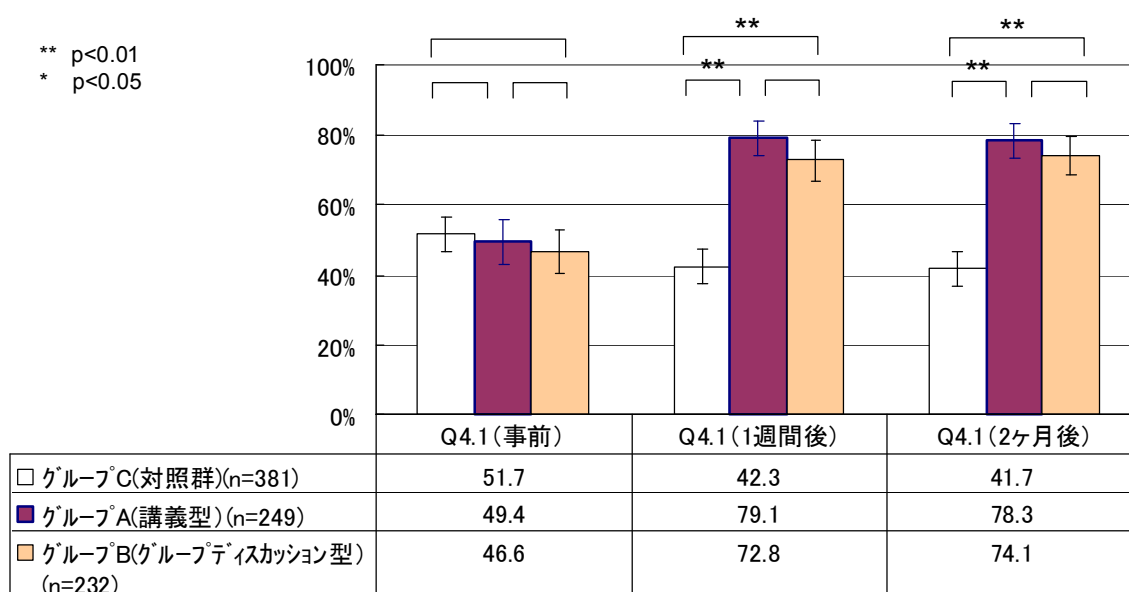
科学的なリスク評価は今回の主題であり、講義型、グループディスカッション型とも説明した。その結果、意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約4～5割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約7～8割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感は高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q4.1.農薬等に対する科学的なリスク評価

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q4.1	69.4888	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	30.3914	2	15.1957	68.1599	0.0000	**
時期	13.1889	2	6.5945	29.5794	0.0000	**
グループ * 時期	20.4165	4	5.1041	22.8944	0.0000	**
誤差	574.5205	2577	0.2229			
全体	632.8326	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q4.1	Bonferroni	A	B	0.6894	0.6451	0.0443	1.7813	0.2250	
			A	C	0.6894	0.4523	0.2371	10.6733	0.0000	**
			B	C	0.6451	0.4523	0.1928	8.4926	0.0000	**
時期	Q4.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.4965	0.6114	0.1148	5.0498	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4965	0.6102	0.1137	4.9988	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.6114	0.6102	0.0012	0.0510	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.1	事前	グループ	0.3853	2	0.1927	0.8642	0.4215	
		誤差	574.5205	2577	0.2229			
	1週間後	グループ	24.8099	2	12.4050	55.6422	0.0000	**
		誤差	574.5205	2577	0.2229			
	2ヶ月後	グループ	25.6126	2	12.8063	57.4424	0.0000	**
		誤差	574.5205	2577	0.2229			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.1	Bonferroni	事前	A	B	0.4940	0.4655	0.0285	0.6605	1.0000		
			A	C	0.4940	0.5171	0.0231	0.6000	1.0000		
			B	C	0.4655	0.5171	0.0515	1.3108	0.5701		
			1週間後	A	B	0.7912	0.7284	0.0627	1.4556	0.4368	
			A	C	0.7912	0.4226	0.3686	9.5795	0.0000	**	
			B	C	0.7284	0.4226	0.3059	7.7790	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.7831	0.7414	0.0418	0.9691	0.9978		
			A	C	0.7831	0.4173	0.3658	9.5072	0.0000	**	
			B	C	0.7414	0.4173	0.3241	8.2414	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.1	A	時期	14.2758	2	7.1379	32.0168	0.0000	**
		誤差	574.5205	2577	0.2229			
	B	時期	11.2443	2	5.6221	25.2179	0.0000	**
		誤差	574.5205	2577	0.2229			
	C	時期	2.4007	2	1.2003	5.3841	0.0046	**
		誤差	574.5205	2577	0.2229			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4940	0.7912	0.2972	7.0230	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.4940	0.7831	0.2892	6.8332	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.7912	0.7831	0.0080	0.1898	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.4655	0.7284	0.2629	5.9976	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4655	0.7414	0.2759	6.2925	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.7284	0.7414	0.0129	0.2950	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.5171	0.4226	0.0945	2.7620	0.0174	*	
			事前	2ヶ月後	0.5171	0.4173	0.0997	2.9155	0.0107	*	
			1週間後	2ヶ月後	0.4226	0.4173	0.0052	0.1534	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q4.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	47.2%	51.6%	4.4%	0.6935	0.4880	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	47.2%	39.8%	7.4%	1.1568	0.2474	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	47.2%	52.9%	5.7%	0.8931	0.3718	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	47.2%	51.7%	4.5%	0.8710	0.3838	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	51.6%	39.8%	11.8%	1.8160	0.0694	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	51.6%	52.9%	1.3%	0.2023	0.8397	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	51.6%	51.7%	0.1%	0.0128	0.9898	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	39.8%	52.9%	13.1%	2.0022	0.0453	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	39.8%	51.7%	11.9%	2.2191	0.0265	[*]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	52.9%	51.7%	1.2%	0.2354	0.8139	[]	
	Q4.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	80.3%	77.9%	2.4%	0.4747	0.6350	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	80.3%	73.5%	6.9%	1.2628	0.2067	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	80.3%	72.3%	8.0%	1.4857	0.1374	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	80.3%	42.3%	38.1%	7.4332	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	77.9%	73.5%	4.4%	0.7894	0.4299	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.9%	72.3%	5.6%	1.0051	0.3148	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	77.9%	42.3%	35.6%	6.8478	0.0000	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	73.5%	72.3%	1.2%	0.2024	0.8396	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	73.5%	42.3%	31.2%	5.8247	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	72.3%	42.3%	30.0%	5.7161	0.0000	[**]	
Q4.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	76.4%	80.3%	3.9%	0.7561	0.4496	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	76.4%	71.7%	4.7%	0.8297	0.4067	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	76.4%	76.5%	0.1%	0.0171	0.9864	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	76.4%	41.7%	34.6%	6.7628	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	80.3%	71.7%	8.6%	1.5544	0.1201	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	80.3%	76.5%	3.9%	0.7278	0.4667	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	80.3%	41.7%	38.6%	7.4222	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	71.7%	76.5%	4.8%	0.8327	0.4050	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	71.7%	41.7%	29.9%	5.5941	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	76.5%	41.7%	34.7%	6.6159	0.0000	[**]	

2) 安全管理、規制の仕組みの信頼感

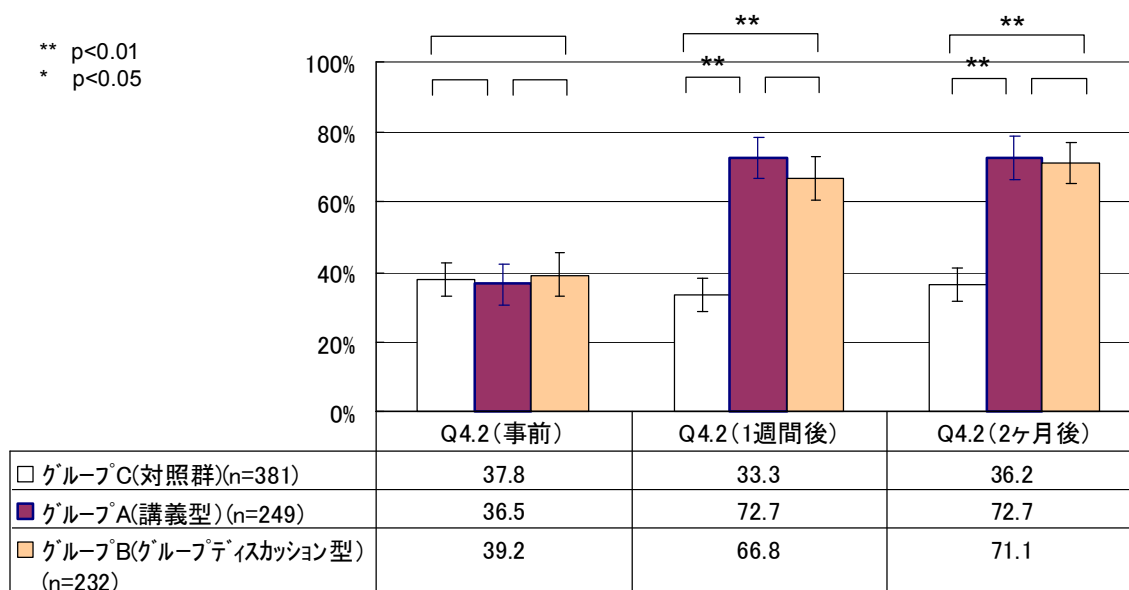
安全管理、規制の仕組みについては、安全評価に比べると説明内容は少ないが、意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約3~4割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約7割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感が高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q4.2. 食品の安全管理のための規制の仕組み

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
Q4.2	F 値	自由度1	自由度2	P 値
	10.6916	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	37.1113	2	18.5557	83.4140	0.0000	**
時期	24.2971	2	12.1485	54.6118	0.0000	**
グループ * 時期	18.8915	4	4.7229	21.2309	0.0000	**
誤差	573.2605	2577	0.2225			
全体	646.3453	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q4.2	Bonferroni	A	B	0.6064	0.5905	0.0159	0.6402	1.0000	
			A	C	0.6064	0.3578	0.2486	11.2028	0.0000	**
			B	C	0.5905	0.3578	0.2327	10.2610	0.0000	**
時期	Q4.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.3782	0.5371	0.1589	6.9957	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.3782	0.5615	0.1833	8.0681	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5371	0.5615	0.0244	1.0723	0.8510	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.2	事前	グループ	0.0862	2	0.0431	0.1937	0.8239	
		誤差	573.2605	2577	0.2225			
	1週間後	グループ	28.7717	2	14.3859	64.6693	0.0000	**
		誤差	573.2605	2577	0.2225			
	2ヶ月後	グループ	27.1450	2	13.5725	61.0129	0.0000	**
		誤差	573.2605	2577	0.2225			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q4.2	Bonferroni	事前	A	B	0.3655	0.3922	0.0268	0.6222	1.0000	
			A	C	0.3655	0.3780	0.0125	0.3250	1.0000	
			B	C	0.3922	0.3780	0.0143	0.3638	1.0000	
		1週間後	A	B	0.7269	0.6681	0.0588	1.3663	0.5158	
			A	C	0.7269	0.3333	0.3936	10.2400	0.0000	**
			B	C	0.6681	0.3333	0.3348	8.5232	0.0000	**
	2ヶ月後	A	B	0.7269	0.7112	0.0157	0.3648	1.0000		
		A	C	0.7269	0.3622	0.3647	9.4888	0.0000	**	
		B	C	0.7112	0.3622	0.3490	8.8856	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.2	A	時期	21.6867	2	10.8434	48.7446	0.0000	**
		誤差	573.2605	2577	0.2225			
	B	時期	13.8966	2	6.9483	31.2349	0.0000	**
		誤差	573.2605	2577	0.2225			
	C	時期	0.3902	2	0.1951	0.8770	0.4161	
		誤差	573.2605	2577	0.2225			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q4.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.3655	0.7269	0.3614	8.5508	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.3655	0.7269	0.3614	8.5508	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7269	0.7269	0.0000	0.0000	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.3922	0.6681	0.2759	6.2994	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.3922	0.7112	0.3190	7.2837	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.6681	0.7112	0.0431	0.9843	0.9752	
	C	事前	1週間後	0.3780	0.3333	0.0446	1.3057	0.5753		
		事前	2ヶ月後	0.3780	0.3622	0.0157	0.4608	1.0000		
		1週間後	2ヶ月後	0.3333	0.3622	0.0289	0.8449	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q4.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	37.0%	36.1%	0.9%	0.1544	0.8773	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	37.0%	33.6%	3.4%	0.5464	0.5848	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	37.0%	44.5%	7.5%	1.2016	0.2295	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	37.0%	37.8%	0.8%	0.1587	0.8739	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	36.1%	33.6%	2.4%	0.3917	0.6953	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	36.1%	44.5%	8.5%	1.3409	0.1800	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	36.1%	37.8%	1.7%	0.3437	0.7311	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	33.6%	44.5%	10.9%	1.7011	0.0889	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	33.6%	37.8%	4.2%	0.8064	0.4200	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	44.5%	37.8%	6.7%	1.3140	0.1889	[]	
	Q4.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	73.2%	72.1%	1.1%	0.1943	0.8460	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	73.2%	62.8%	10.4%	1.7282	0.0839	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	73.2%	70.6%	2.6%	0.4606	0.6451	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	73.2%	33.3%	39.9%	7.8579	0.0000	**
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	72.1%	62.8%	9.3%	1.5226	0.1278	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	72.1%	70.6%	1.5%	0.2649	0.7911	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	72.1%	33.3%	38.8%	7.5391	0.0000	**	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	62.8%	70.6%	7.8%	1.2540	0.2098	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	62.8%	33.3%	29.5%	5.6194	0.0000	**	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	70.6%	33.3%	37.3%	7.1831	0.0000	**	
Q4.2(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	71.7%	73.8%	2.1%	0.3748	0.7078	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	71.7%	68.1%	3.5%	0.5926	0.5534	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	71.7%	73.9%	2.3%	0.4043	0.6860	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	71.7%	36.2%	35.4%	6.9500	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	73.8%	68.1%	5.6%	0.9507	0.3417	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	73.8%	73.9%	0.2%	0.0316	0.9748	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	73.8%	36.2%	37.6%	7.2511	0.0000	**	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	68.1%	73.9%	5.8%	0.9757	0.3292	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	68.1%	36.2%	31.9%	6.0107	0.0000	**	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	73.9%	36.2%	37.7%	7.2188	0.0000	**	

3) 生産者、事業者等の法令遵守の信頼感

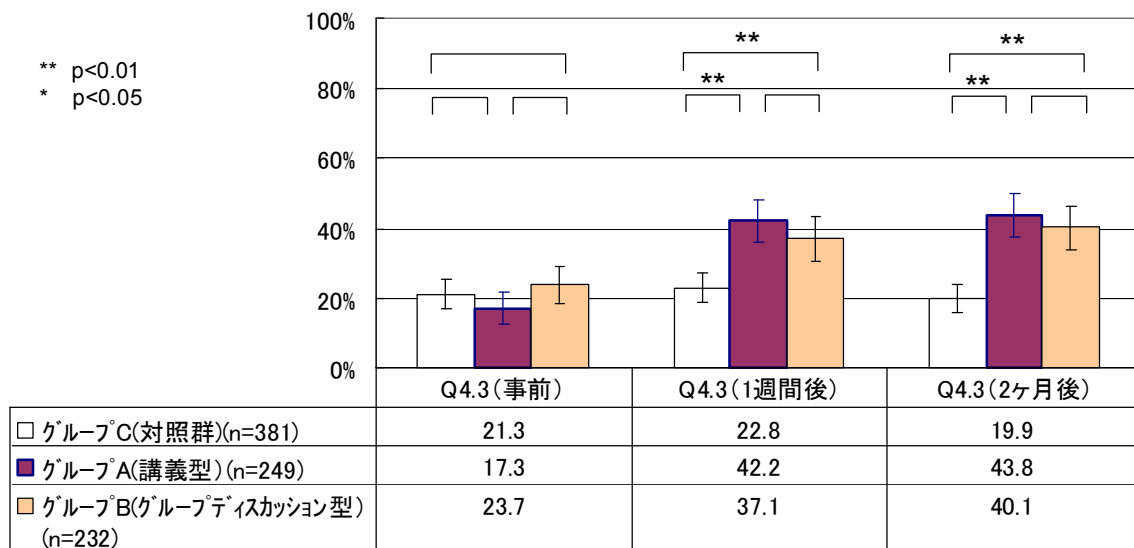
生産者、事業者の法令遵守については、意見交換会では安全性評価等に比べてあまり言及されていないが、意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約2割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約4割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感が高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q4.3. 生産者、事業者等の法令遵守

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q4.3	48.3749	8	2577	0.0000

分散分析表	因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ		10.2752	2	5.1376	26.4191	0.0000	**
時期		10.1003	2	5.0501	25.9694	0.0000	**
グループ * 時期		7.1037	4	1.7759	9.1324	0.0000	**
誤差		501.1373	2577	0.1945			
全体		526.0963	2585				

多重比較検定	因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	**:1%有意 *:5%有意	
										P 値	判定
グループ	Q4.3	Bonferroni	A	B	0.3440	0.3362	0.0078	0.3373	1.0000		
			A	C	0.3440	0.2135	0.1306	6.2932	0.0000	**	
			B	C	0.3362	0.2135	0.1227	5.7887	0.0000	**	
時期	Q4.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.2077	0.3225	0.1148	5.4069	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.2077	0.3225	0.1148	5.4069	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.3225	0.3225	0.0000	0.0000	1.0000		

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.3	事前	グループ	0.5144	2	0.2572	1.3227	0.2666	
		誤差	501.1373	2577	0.1945			
	1週間後	グループ	6.3659	2	3.1830	16.3678	0.0000	**
		誤差	501.1373	2577	0.1945			
	2ヶ月後	グループ	10.4985	2	5.2493	26.9933	0.0000	**
		誤差	501.1373	2577	0.1945			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定								**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.3	Bonferroni	事前	A	B	0.1727	0.2371	0.0644	1.5999	0.3292		
			A	C	0.1727	0.2126	0.0399	1.1105	0.8006		
			B	C	0.2371	0.2126	0.0245	0.6663	1.0000		
			1週間後	A	B	0.4217	0.3707	0.0510	1.2673	0.6154	
			A	C	0.4217	0.2283	0.1933	5.3801	0.0000	**	
			B	C	0.3707	0.2283	0.1423	3.8761	0.0003	**	
		2ヶ月後	A	B	0.4378	0.4009	0.0369	0.9167	1.0000		
			A	C	0.4378	0.1995	0.2383	6.6306	0.0000	**	
			B	C	0.4009	0.1995	0.2014	5.4839	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.3	A	時期	10.9987	2	5.4993	28.2792	0.0000	**
		誤差	501.1373	2577	0.1945			
	B	時期	3.5259	2	1.7629	9.0655	0.0001	**
		誤差	501.1373	2577	0.1945			
	C	時期	0.1592	2	0.0796	0.4094	0.6641	
		誤差	501.1373	2577	0.1945			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定								**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1727	0.4217	0.2490	6.3002	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.1727	0.4378	0.2651	6.7067	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.4217	0.4378	0.0161	0.4065	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.2371	0.3707	0.1336	3.2635	0.0033	**
			事前	2ヶ月後	0.2371	0.4009	0.1638	4.0004	0.0002	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.3707	0.4009	0.0302	0.7369	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.2126	0.2283	0.0157	0.4929	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2126	0.1995	0.0131	0.4107	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2283	0.1995	0.0289	0.9036	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q4.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	14.2%	20.5%	6.3%	1.3187	0.1873	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	14.2%	22.1%	8.0%	1.6032	0.1089	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	14.2%	25.2%	11.0%	2.1829	0.0290	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	14.2%	21.3%	7.1%	1.7460	0.0808	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	20.5%	22.1%	1.6%	0.3054	0.7600	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	20.5%	25.2%	4.7%	0.8726	0.3829	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	20.5%	21.3%	0.8%	0.1810	0.8563	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	22.1%	25.2%	3.1%	0.5525	0.5806	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	22.1%	21.3%	0.9%	0.1965	0.8442	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	25.2%	21.3%	4.0%	0.9051	0.3654	[]	
	Q4.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	47.2%	36.9%	10.4%	1.6547	0.0980	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	47.2%	35.4%	11.8%	1.8580	0.0632	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	47.2%	38.7%	8.6%	1.3594	0.1740	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	47.2%	22.8%	24.4%	5.2534	0.0000	[**]
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	36.9%	35.4%	1.5%	0.2370	0.8126	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	36.9%	38.7%	1.8%	0.2834	0.7769	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	36.9%	22.8%	14.1%	3.0701	0.0021	[**]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	35.4%	38.7%	3.3%	0.5134	0.6077	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	35.4%	22.8%	12.6%	2.6838	0.0073	[**]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	38.7%	22.8%	15.8%	3.4095	0.0007	[**]	
Q4.3(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	51.2%	36.1%	15.1%	2.4034	0.0162	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	51.2%	42.5%	8.7%	1.3483	0.1776	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	51.2%	37.8%	13.4%	2.1071	0.0351	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	51.2%	19.9%	31.2%	6.8073	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	36.1%	42.5%	6.4%	1.0062	0.3143	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	36.1%	37.8%	1.7%	0.2814	0.7784	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	36.1%	19.9%	16.1%	3.6354	0.0003	[**]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	42.5%	37.8%	4.7%	0.7244	0.4688	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	42.5%	19.9%	22.5%	4.8509	0.0000	[**]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	37.8%	19.9%	17.9%	3.9726	0.0001	[**]	

4) 食品安全委員会の信頼感

食品安全委員会については、当初の認知は低かったが科学的な評価を行う機関であることを知らせた、また、本意見交換会の実施主体であり意見交換会にも担当官が参加した。

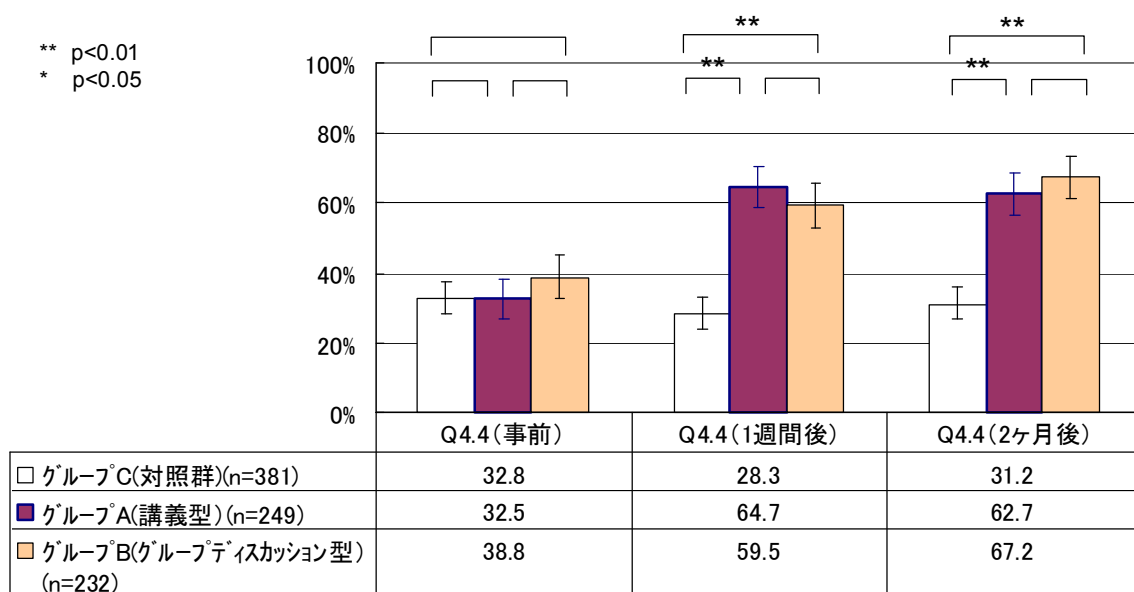
その影響からか、意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約 3 割だが、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）では、ともに約 6~7 割となっている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感は高まっている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q4.4. 食品安全委員会

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q4.4	7.1370	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	35.0420	2	17.5210	78.5073	0.0000	**
時期	17.2319	2	8.6160	38.6060	0.0000	**
グループ * 時期	14.5211	4	3.6303	16.2663	0.0000	**
誤差	575.1261	2577	0.2232			
全体	636.7239	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	**:1%有意 *:5%有意	
									P 値	判定
グループ	Q4.4	Bonferroni	A	B	0.5328	0.5517	0.0189	0.7605	1.0000	
			A	C	0.5328	0.3080	0.2248	10.1157	0.0000	**
			B	C	0.5517	0.3080	0.2438	10.7320	0.0000	**
時期	Q4.4	Bonferroni	事前	1週間後	0.3434	0.4722	0.1288	5.6589	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.3434	0.5000	0.1566	6.8824	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.4722	0.5000	0.0278	1.2235	0.6637	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.4	事前	グループ	0.6310	2	0.3155	1.4137	0.2434	
		誤差	575.1261	2577	0.2232			
	1週間後	グループ	24.6326	2	12.3163	55.1863	0.0000	**
		誤差	575.1261	2577	0.2232			
	2ヶ月後	グループ	24.2995	2	12.1497	54.4400	0.0000	**
		誤差	575.1261	2577	0.2232			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.4	Bonferroni	事前	A	B	0.3253	0.3879	0.0626	1.4529	0.4391		
			A	C	0.3253	0.3281	0.0028	0.0723	1.0000		
			B	C	0.3879	0.3281	0.0598	1.5212	0.3850		
			1週間後	A	B	0.6466	0.5948	0.0518	1.2007	0.6899	
			A	C	0.6466	0.2835	0.3631	9.4323	0.0000	**	
			B	C	0.5948	0.2835	0.3114	7.9144	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.6265	0.6724	0.0459	1.0650	0.8610		
			A	C	0.6265	0.3123	0.3142	8.1608	0.0000	**	
			B	C	0.6724	0.3123	0.3601	9.1527	0.0000	**	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.4	A	時期	16.1312	2	8.0656	36.1400	0.0000	**
		誤差	575.1261	2577	0.2232			
	B	時期	10.0345	2	5.0172	22.4810	0.0000	**
		誤差	575.1261	2577	0.2232			
	C	時期	0.3902	2	0.1951	0.8742	0.4173	
		誤差	575.1261	2577	0.2232			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.4	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.3253	0.6466	0.3213	7.5884	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.3253	0.6265	0.3012	7.1141	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.6466	0.6265	0.0201	0.4743	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.3879	0.5948	0.2069	4.7169	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.3879	0.6724	0.2845	6.4858	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.5948	0.6724	0.0776	1.7688	0.2311		
		C	事前	1週間後	0.3281	0.2835	0.0446	1.3036	0.5775		
			事前	2ヶ月後	0.3281	0.3123	0.0157	0.4601	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2835	0.3123	0.0289	0.8435	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q4.4(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	28.3%	36.9%	8.5%	1.4377	0.1505	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	28.3%	38.9%	10.6%	1.7374	0.0823	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	28.3%	38.7%	10.3%	1.7141	0.0865	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	28.3%	32.8%	4.5%	0.9359	0.3493	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	36.9%	38.9%	2.1%	0.3241	0.7458	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	36.9%	38.7%	1.8%	0.2834	0.7769	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	36.9%	32.8%	4.1%	0.8285	0.4074	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	38.9%	38.7%	0.3%	0.0442	0.9648	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	38.9%	32.8%	6.1%	1.2062	0.2277	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	38.7%	32.8%	5.8%	1.1737	0.2405	[]	
	Q4.4(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	66.1%	63.1%	3.0%	0.4995	0.6174	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	66.1%	56.6%	9.5%	1.5117	0.1306	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.1%	62.2%	4.0%	0.6470	0.5176	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	66.1%	28.3%	37.8%	7.6075	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	63.1%	56.6%	6.5%	1.0127	0.3112	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	63.1%	62.2%	0.9%	0.1492	0.8814	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	63.1%	28.3%	34.8%	6.9312	0.0000	**	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	56.6%	62.2%	5.5%	0.8603	0.3896	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	56.6%	28.3%	28.3%	5.5439	0.0000	**	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	62.2%	28.3%	33.8%	6.6970	0.0000	**	
Q4.4(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	61.4%	63.9%	2.5%	0.4105	0.6815	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	61.4%	65.5%	4.1%	0.6530	0.5138	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.4%	68.9%	7.5%	1.2312	0.2182	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	61.4%	31.2%	30.2%	6.0458	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	63.9%	65.5%	1.6%	0.2488	0.8036	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	63.9%	68.9%	5.0%	0.8171	0.4139	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	63.9%	31.2%	32.7%	6.4401	0.0000	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	65.5%	68.9%	3.4%	0.5549	0.5790	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	65.5%	31.2%	34.3%	6.5540	0.0000	**	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	68.9%	31.2%	37.7%	7.3169	0.0000	**	

5) 厚生労働省・農林水産省の信頼感

厚生労働省・農林水産省も食品安全委員会と同様に信頼感を高めている。

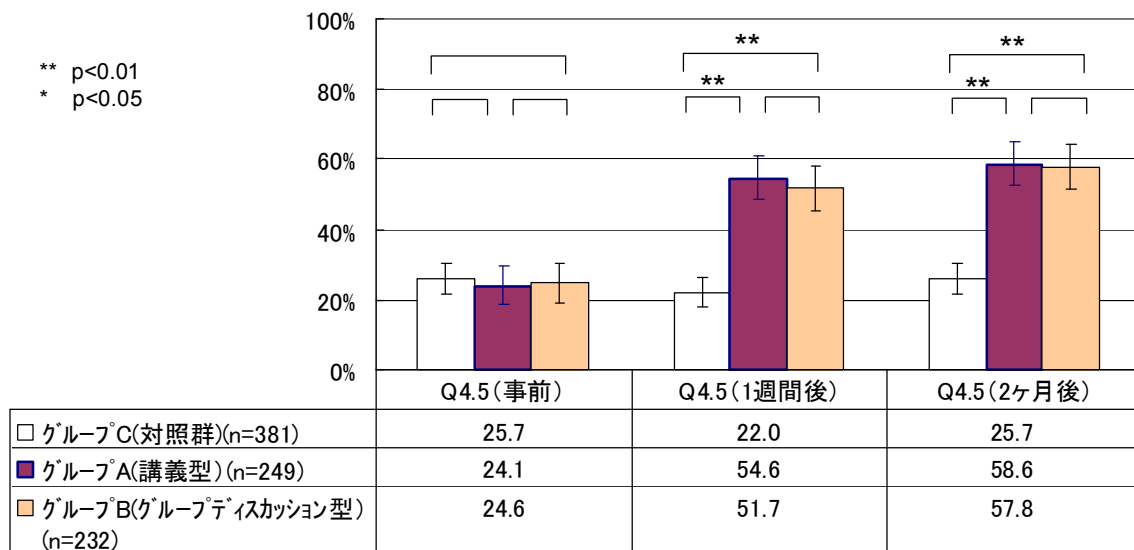
意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約2～3割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約5～6割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感が高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q4.5. 厚生労働省・農林水産省(うち、食品安全行政について)

該当率(「信頼できる」+「やや信頼できる」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q4.5	37.5723	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	27.5207	2	13.7603	66.1266	0.0000	**
時期	23.4124	2	11.7062	56.2552	0.0000	**
グループ* 時期	15.7382	4	3.9345	18.9078	0.0000	**
誤差	536.2504	2577	0.2081			
全体	596.3840	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q4.5	Bonferroni	A	B	0.4578	0.4468	0.0110	0.4574	1.0000	
			A	C	0.4578	0.2450	0.2129	9.9180	0.0000	**
			B	C	0.4468	0.2450	0.2019	9.2041	0.0000	**
時期	Q4.5	Bonferroni	事前	1週間後	0.2494	0.3944	0.1450	6.5996	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.2494	0.4385	0.1891	8.6058	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.3944	0.4385	0.0441	2.0063	0.1348	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.5	事前	グループ	0.0442	2	0.0221	0.1062	0.8992	
		誤差	536.2504	2577	0.2081			
	1週間後	グループ	20.7630	2	10.3815	49.8894	0.0000	**
		誤差	536.2504	2577	0.2081			
	2ヶ月後	グループ	22.4516	2	11.2258	53.9467	0.0000	**
		誤差	536.2504	2577	0.2081			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.5	Bonferroni	事前	A	B	0.2410	0.2457	0.0047	0.1135	1.0000		
			A	C	0.2410	0.2572	0.0163	0.4372	1.0000		
			B	C	0.2457	0.2572	0.0115	0.3035	1.0000		
			1週間後	A	B	0.5462	0.5172	0.0289	0.6953	1.0000	
			A	C	0.5462	0.2205	0.3257	8.7619	0.0000	**	
			B	C	0.5172	0.2205	0.2968	7.8121	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.5863	0.5776	0.0088	0.2104	1.0000		
			A	C	0.5863	0.2572	0.3291	8.8538	0.0000	**	
			B	C	0.5776	0.2572	0.3204	8.4333	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.5	A	時期	17.7671	2	8.8835	42.6906	0.0000	**
		誤差	536.2504	2577	0.2081			
	B	時期	14.5029	2	7.2514	34.8474	0.0000	**
		誤差	536.2504	2577	0.2081			
	C	時期	0.3430	2	0.1715	0.8241	0.4388	
		誤差	536.2504	2577	0.2081			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.5	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2410	0.5462	0.3052	7.4657	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.2410	0.5863	0.3454	8.4481	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.5462	0.5863	0.0402	0.9823	0.9781		
			B	事前	1週間後	0.2457	0.5172	0.2716	6.4114	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.2457	0.5776	0.3319	7.8362	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.5172	0.5776	0.0603	1.4248	0.4630		
		C	事前	1週間後	0.2572	0.2205	0.0367	1.1118	0.7990		
			事前	2ヶ月後	0.2572	0.2572	0.0000	0.0000	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2205	0.2572	0.0367	1.1118	0.7990		

開催回別の差異(Z 検定)

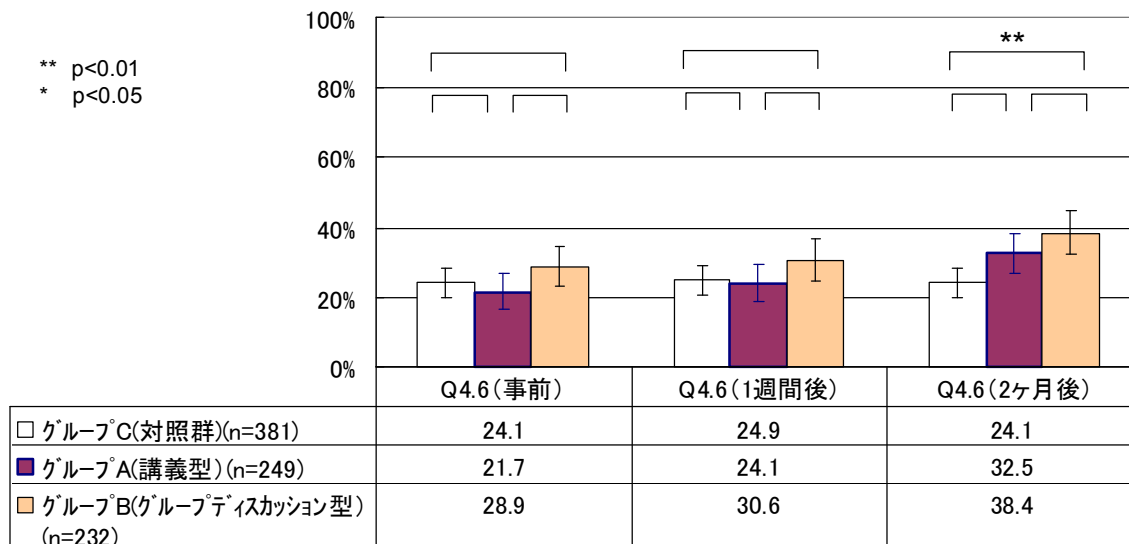
カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q4.5(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	22.8%	25.4%	2.6%	0.4750	0.6348	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	22.8%	23.0%	0.2%	0.0321	0.9744	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	22.8%	26.1%	3.2%	0.5869	0.5572	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	22.8%	25.7%	2.9%	0.6507	0.5152	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	25.4%	23.0%	2.4%	0.4290	0.6679	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	25.4%	26.1%	0.6%	0.1137	0.9094	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	25.4%	25.7%	0.3%	0.0687	0.9453	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	23.0%	26.1%	3.0%	0.5379	0.5906	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	23.0%	25.7%	2.7%	0.5841	0.5591	[]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	26.1%	25.7%	0.3%	0.0715	0.9430	[]	
	Q4.5(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	55.9%	53.3%	2.6%	0.4162	0.6773	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	55.9%	48.7%	7.2%	1.1200	0.2627	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	55.9%	54.6%	1.3%	0.2024	0.8396	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	55.9%	22.0%	33.9%	7.1764	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gティスカッション型(1回目)	53.3%	48.7%	4.6%	0.7057	0.4803	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	53.3%	54.6%	1.3%	0.2091	0.8343	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	53.3%	22.0%	31.2%	6.5754	0.0000	**	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	48.7%	54.6%	5.9%	0.9064	0.3647	[]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		C.対照群	48.7%	22.0%	26.6%	5.5276	0.0000	**	
B-2.Gティスカッション型(2回目)		C.対照群	54.6%	22.0%	32.6%	6.7819	0.0000	**	
Q4.5(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	58.3%	59.0%	0.7%	0.1199	0.9045	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	58.3%	57.5%	0.7%	0.1168	0.9070	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	58.3%	58.0%	0.3%	0.0452	0.9639	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	58.3%	25.7%	32.5%	6.7121	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	59.0%	57.5%	1.5%	0.2321	0.8164	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	59.0%	58.0%	1.0%	0.1628	0.8707	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	59.0%	25.7%	33.3%	6.7663	0.0000	**	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	57.5%	58.0%	0.5%	0.0711	0.9433	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	57.5%	25.7%	31.8%	6.3138	0.0000	**	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	58.0%	25.7%	32.3%	6.5136	0.0000	**	

6) 報道の信頼感

食品の安全性に関する報道については大きな変化はみられないが、2ヶ月後においてグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）ともわずかに増加しており、グループB（グループディスカッション型）とグループC（対照群）との差が有意となっている。

Q4.6. 食品の安全性に関する報道

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q4.6	11.6906	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	3.0183	2	1.5092	7.6990	0.0005	**
時期	2.0536	2	1.0268	5.2383	0.0054	**
グループ * 時期	1.3191	4	0.3298	1.6824	0.1512	
誤差	505.1440	2577	0.1960			
全体	510.9764	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q4.6	Bonferroni	A	B	0.2610	0.3261	0.0651	2.7912	0.0159	*
			A	C	0.2610	0.2441	0.0169	0.8137	1.0000	
			B	C	0.3261	0.2441	0.0821	3.8547	0.0004	**
時期	Q4.6	Bonferroni	事前	1週間後	0.2471	0.2622	0.0151	0.7072	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.2471	0.3039	0.0568	2.6655	0.0232	*
			1週間後	2ヶ月後	0.2622	0.3039	0.0418	1.9583	0.1509	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.6	事前	グループ	0.6430	2	0.3215	1.6400	0.1942	
		誤差	505.1440	2577	0.1960			
	1週間後	グループ	0.6210	2	0.3105	1.5841	0.2053	
		誤差	505.1440	2577	0.1960			
	2ヶ月後	グループ	3.0735	2	1.5367	7.8396	0.0004 **	
		誤差	505.1440	2577	0.1960			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.6	Bonferroni	事前	A	B	0.2169	0.2888	0.0719	1.7803	0.2254		
			A	C	0.2169	0.2415	0.0246	0.6819	1.0000		
			B	C	0.2888	0.2415	0.0473	1.2835	0.5983		
			1週間後	A	B	0.2410	0.3060	0.0651	1.6107	0.3221	
			A	C	0.2410	0.2493	0.0084	0.2323	1.0000		
			B	C	0.3060	0.2493	0.0567	1.5376	0.3728		
		2ヶ月後	A	B	0.3253	0.3836	0.0583	1.4436	0.4470		
			A	C	0.3253	0.2415	0.0838	2.3235	0.0607		
			B	C	0.3836	0.2415	0.1422	3.8555	0.0004 **		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q4.6	A	時期	1.6145	2	0.8072	4.1181	0.0164 *	
		誤差	505.1440	2577	0.1960			
	B	時期	1.1839	2	0.5920	3.0199	0.0490 *	
		誤差	505.1440	2577	0.1960			
	C	時期	0.0157	2	0.0079	0.0402	0.9606	
		誤差	505.1440	2577	0.1960			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q4.6	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2169	0.2410	0.0241	0.6073	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2169	0.3253	0.1084	2.7327	0.0190 *		
			1週間後	2ヶ月後	0.2410	0.3253	0.0843	2.1255	0.1009		
			B	事前	1週間後	0.2888	0.3060	0.0172	0.4194	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.2888	0.3836	0.0948	2.3068	0.0634		
			1週間後	2ヶ月後	0.3060	0.3836	0.0776	1.8874	0.1777		
		C	事前	1週間後	0.2415	0.2493	0.0079	0.2455	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2415	0.2415	0.0000	0.0000	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2493	0.2415	0.0079	0.2455	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q4.6(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	22.8%	20.5%	2.3%	0.4484	0.6538	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	22.8%	24.8%	1.9%	0.3533	0.7239	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	22.8%	32.8%	9.9%	1.7418	0.0815	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	22.8%	24.1%	1.3%	0.3007	0.7637	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	24.8%	4.3%	0.7856	0.4321	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	32.8%	12.3%	2.1584	0.0309	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	20.5%	24.1%	3.7%	0.8317	0.4056	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	24.8%	32.8%	8.0%	1.3430	0.1793	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	24.8%	24.1%	0.6%	0.1375	0.8906	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	32.8%	24.1%	8.6%	1.8680	0.0618	[]	
	Q4.6(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	27.6%	20.5%	7.1%	1.3035	0.1924	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	27.6%	32.7%	5.2%	0.8748	0.3817	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	27.6%	28.6%	1.0%	0.1766	0.8598	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	27.6%	24.9%	2.6%	0.5870	0.5572	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	32.7%	12.3%	2.1292	0.0332	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	28.6%	8.1%	1.4584	0.1447	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	20.5%	24.9%	4.4%	1.0020	0.3163	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	32.7%	28.6%	4.2%	0.6892	0.4907	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	32.7%	24.9%	7.8%	1.6475	0.0995	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	28.6%	24.9%	3.6%	0.7916	0.4286	[]	
Q4.6(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	31.5%	33.6%	2.1%	0.3554	0.7223	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	31.5%	38.1%	6.6%	1.0660	0.2864	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	31.5%	38.7%	7.2%	1.1768	0.2393	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	31.5%	24.1%	7.3%	1.6355	0.1019	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	33.6%	38.1%	4.4%	0.7106	0.4773	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	33.6%	38.7%	5.0%	0.8159	0.4146	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	33.6%	24.1%	9.5%	2.0619	0.0392	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	38.1%	38.7%	0.6%	0.0943	0.9249	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	38.1%	24.1%	13.9%	2.9131	0.0036	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	38.7%	24.1%	14.5%	3.0906	0.0020	[**]	

7) まとめ

①2ヶ月後の変化

制度や関係機関等の信頼感は全体的に高まっているが、特に、安全性評価、規制制度と行政機関の信頼感が高まっている。

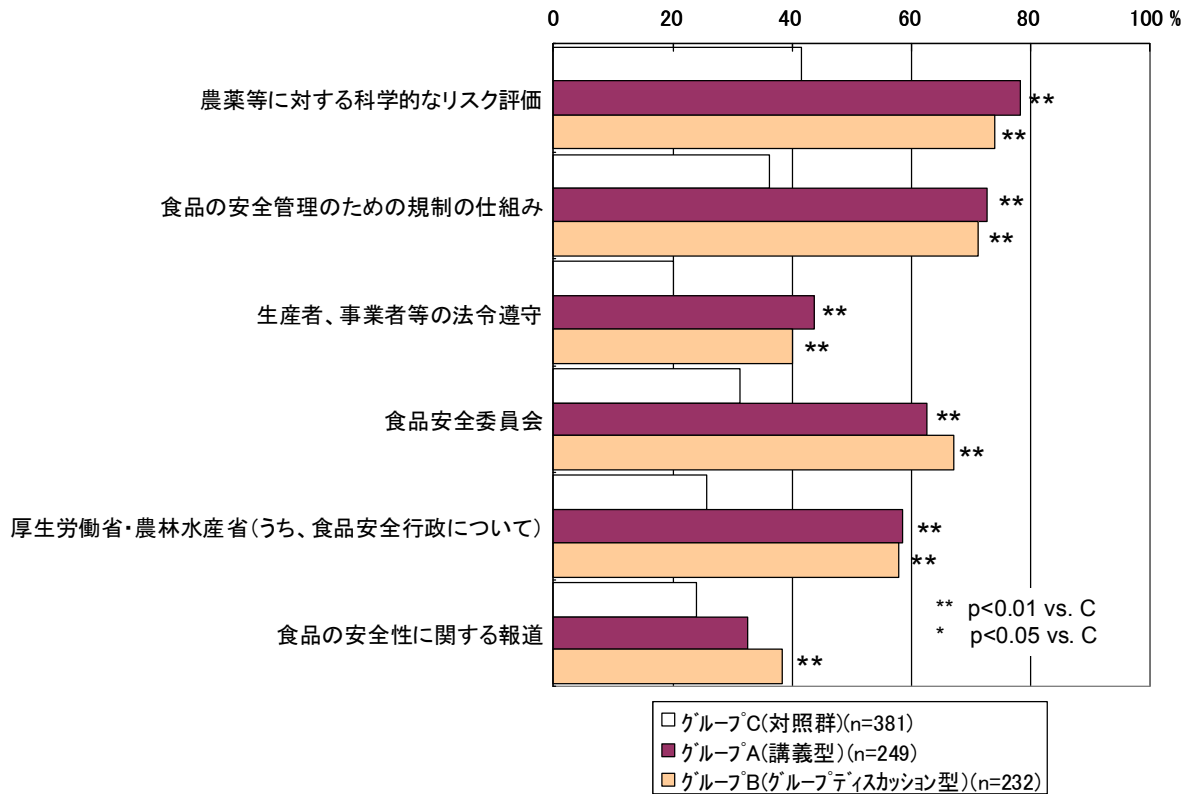
食品の安全性確保に係る制度や主体等に対する信頼感についてみると、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の参加者は「農薬等に対する科学的なリスク評価」「食品の安全管理のための規制の仕組み」「食品安全委員会」「厚生労働省・農林水産省」などを信頼する人が多く、いずれも約6割～8割が信頼できるとしている。

「生産者、事業者の法令遵守」については、必ずしも主題ではなく、安全性評価や規制よりも説明は少なかった。対照群と比べて信頼感は高まっているが「信頼できる」としたのは約4割にとどまる。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）での差異は小さいが、「食品の安全性に関する報道」に対しては、グループ B（グループディスカッション型）の方が信頼感の向上の幅がやや大きい。

Q4.次にあげるものの信頼感についてどう感じますか。

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）



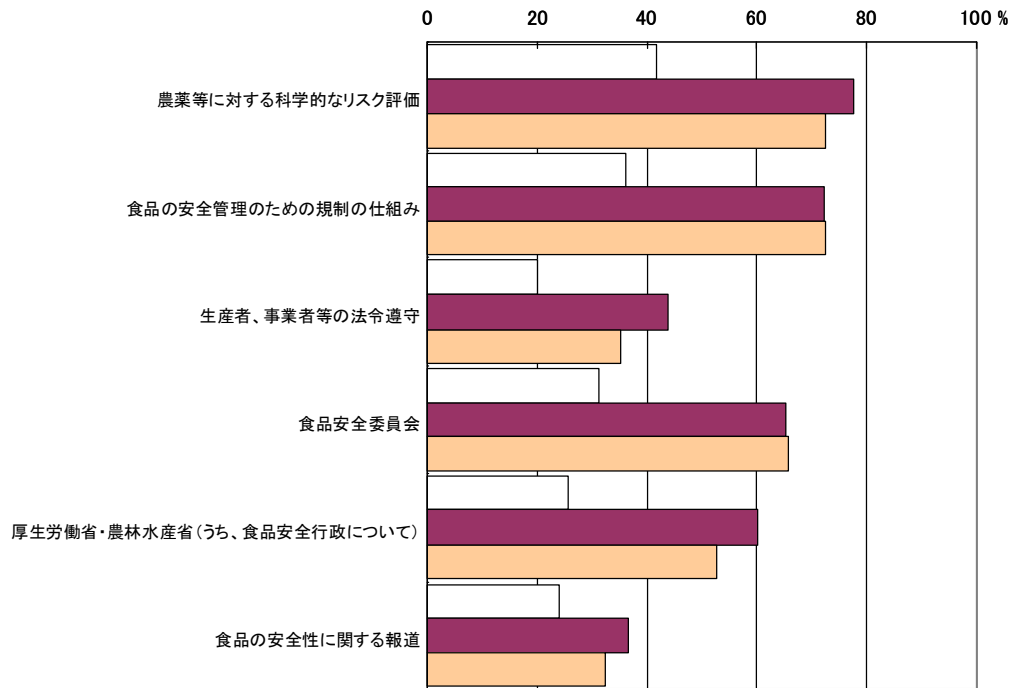
	合計	Q4 (2ヶ月後)					
		農薬等に対する科学的なリスク評価	食品の安全管理のための規制の仕組み	生産者、事業者等の法令遵守	食品安全委員会	厚生労働省・農林水産省(うち、食品安全行政について)	食品の安全性に関する報道
全体	862	61.0	56.1	32.3	50.0	43.9	30.4
グループA. 講義型 計	249	78.3	72.7	43.8	62.7	58.6	32.5
-A-1. 講義型(1回目)	127	76.4	71.7	51.2	61.4	58.3	31.5
-A-2. 講義型(2回目)	122	80.3	73.8	36.1	63.9	59.0	33.6
グループB. ディスカッション型 計	232	74.1	71.1	40.1	67.2	57.8	38.4
-B-1. ディスカッション型(1回目)	113	71.7	68.1	42.5	65.5	57.5	38.1
-B-2. ディスカッション型(2回目)	119	76.5	73.9	37.8	68.9	58.0	38.7
グループC. 対照群	381	41.7	36.2	19.9	31.2	25.7	24.1

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q4.次にあげるものの信頼感についてどう感じますか。

該当率（「信頼できる」+「やや信頼できる」）



グループ	満足度	合計	Q4（2ヶ月後）					
			農業等に対する科学的なリスク評価	食品の安全管理のための規制の仕組み	生産者、事業者等の法令遵守	食品安全委員会	厚生労働省・農林水産省（うち、食品安全行政について）	食品の安全性に関する報道
全体		862	61.0	56.1	32.3	50.0	43.9	30.4
グループA	満足	372	77.7	72.3	43.8	65.3	60.2	36.6
	満足でない	216	81.0	74.1	46.3	63.9	59.7	33.3
グループB	満足	156	73.1	69.9	40.4	67.3	60.9	41.0
	満足でない	99	72.7	72.7	35.4	65.7	52.5	32.3
グループC	満足	27	59.3	63.0	22.2	55.6	51.9	25.9
	満足でない	72	77.8	76.4	40.3	69.4	52.8	34.7
グループC (対照群)		381	41.7	36.2	19.9	31.2	25.7	24.1

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
農業等に対する科学的なリスク評価	満足	満足でない	77.7%	72.7%	5.0%	1.0368	0.2998	□
食品の安全管理のための規制の仕組み	満足	満足でない	72.3%	72.7%	0.4%	0.0822	0.9345	□
生産者、事業者等の法令遵守	満足	満足でない	43.8%	35.4%	8.5%	1.5162	0.1295	□
食品安全委員会	満足	満足でない	65.3%	65.7%	0.3%	0.0621	0.9505	□
厚生労働省・農林水産省（うち、食品安全行政について）	満足	満足でない	60.2%	52.5%	7.7%	1.3805	0.1674	□
食品の安全性に関する報道	満足	満足でない	36.6%	32.3%	4.2%	0.7819	0.4343	□

(5)信頼できる情報源

1) 厚生労働省の信頼感

厚生労働省については、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とも「信頼できる」と回答した人の割合は約 3 割となっている。

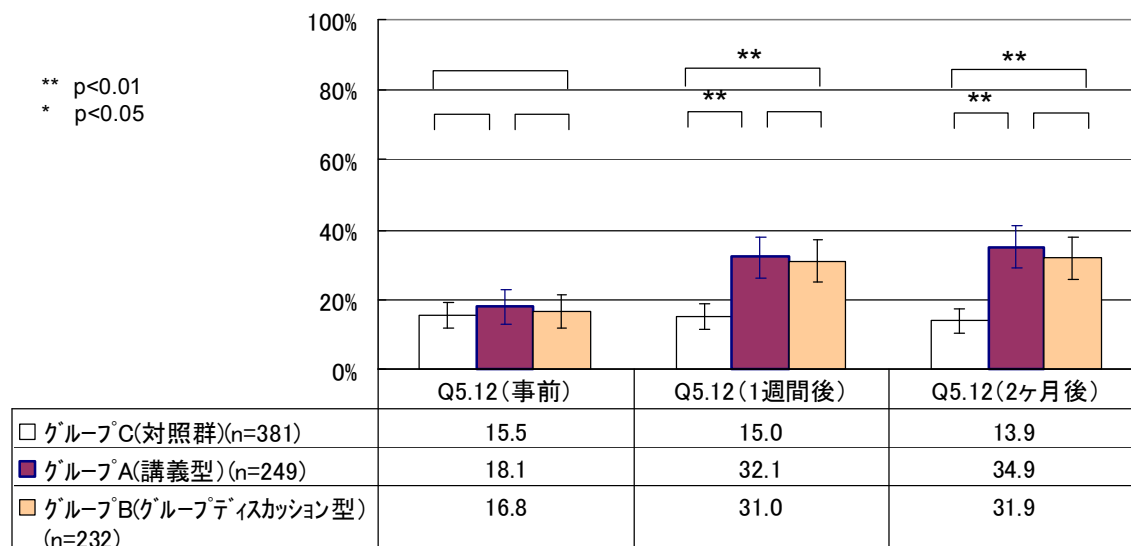
厚生労働省については、意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約 1~2 割だが、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) では、ともに約 3 割となっている。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感は高まっている。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) との間に有意差はない。また、グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型) とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q5. 食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。(いくつでも)

「厚生労働省」の選択率(2ヶ月後)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q5.12	49.3224	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	10.4467	2	5.2234	31.7297	0.0000	**
時期	5.1749	2	2.5874	15.7177	0.0000	**
グループ * 時期	3.8029	4	0.9507	5.7753	0.0001	**
誤差	424.2260	2577	0.1646			
全体	442.1191	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q5.12	Bonferroni	A	B	0.2838	0.2658	0.0180	0.8420	1.0000	
			A	C	0.2838	0.1479	0.1359	7.1216	0.0000	**
			B	C	0.2658	0.1479	0.1179	6.0463	0.0000	**
時期	Q5.12	Bonferroni	事前	1週間後	0.1659	0.2425	0.0766	3.9177	0.0003	**
			事前	2ヶ月後	0.1659	0.2483	0.0824	4.2145	0.0001	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2425	0.2483	0.0058	0.2968	1.0000	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q5.12	事前	グループ	0.1023	2	0.0512	0.3107	0.7329	
		誤差	424.2260	2577	0.1646			
	1週間後	グループ	5.9012	2	2.9506	17.9236	0.0000	**
		誤差	424.2260	2577	0.1646			
	2ヶ月後	グループ	8.2461	2	4.1231	25.0459	0.0000	**
		誤差	424.2260	2577	0.1646			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q5.12	Bonferroni	事前	A	B	0.1807	0.1681	0.0126	0.3409	1.0000		
			A	C	0.1807	0.1549	0.0259	0.7823	1.0000		
			B	C	0.1681	0.1549	0.0132	0.3921	1.0000		
			1週間後	A	B	0.3213	0.3103	0.0109	0.2955	1.0000	
			A	C	0.3213	0.1496	0.1717	5.1924	0.0000	**	
			B	C	0.3103	0.1496	0.1607	4.7572	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.3494	0.3190	0.0304	0.8220	1.0000		
			A	C	0.3494	0.1391	0.2103	6.3602	0.0000	**	
			B	C	0.3190	0.1391	0.1799	5.3231	0.0000	**	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q5.12	A	時期	4.0669	2	2.0335	12.3525	0.0000	**
		誤差	424.2260	2577	0.1646			
	B	時期	3.3305	2	1.6652	10.1156	0.0000	**
		誤差	424.2260	2577	0.1646			
	C	時期	0.0490	2	0.0245	0.1488	0.8617	
		誤差	424.2260	2577	0.1646			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q5.12	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1807	0.3213	0.1406	3.8656	0.0003	**	
			事前	2ヶ月後	0.1807	0.3494	0.1687	4.6387	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.3213	0.3494	0.0281	0.7731	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.1681	0.3103	0.1422	3.7758	0.0005	**
			事前	2ヶ月後	0.1681	0.3190	0.1509	4.0047	0.0002	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.3103	0.3190	0.0086	0.2288	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.1549	0.1496	0.0052	0.1786	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.1549	0.1391	0.0157	0.5357	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.1496	0.1391	0.0105	0.3571	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q5.12(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	18.1%	18.0%	0.1%	0.0159	0.9873	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	18.1%	16.8%	1.3%	0.2638	0.7920	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	18.1%	16.8%	1.3%	0.2690	0.7879	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	18.1%	15.5%	2.6%	0.6962	0.4863	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	18.0%	16.8%	1.2%	0.2459	0.8057	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	18.0%	16.8%	1.2%	0.2509	0.8019	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	18.0%	15.5%	2.5%	0.6662	0.5053	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	16.8%	16.8%	0.0%	0.0015	0.9988	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	16.8%	15.5%	1.3%	0.3401	0.7337	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	16.8%	15.5%	1.3%	0.3449	0.7302	[]	
	Q5.12(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	34.6%	29.5%	5.1%	0.8678	0.3855	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	34.6%	31.0%	3.7%	0.6043	0.5456	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	34.6%	31.1%	3.6%	0.5926	0.5534	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	34.6%	15.0%	19.7%	4.8137	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	29.5%	31.0%	1.5%	0.2444	0.8069	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	29.5%	31.1%	1.6%	0.2676	0.7890	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	29.5%	15.0%	14.5%	3.6023	0.0003	**	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	31.0%	31.1%	0.1%	0.0196	0.9844	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	31.0%	15.0%	16.0%	3.8400	0.0001	**	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	31.1%	15.0%	16.1%	3.9317	0.0001	**	
Q5.12(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	37.0%	32.8%	4.2%	0.6984	0.4850	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	37.0%	24.8%	12.2%	2.0402	0.0413	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	37.0%	38.7%	1.6%	0.2663	0.7900	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	37.0%	13.9%	23.1%	5.6692	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	32.8%	24.8%	8.0%	1.3526	0.1762	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	32.8%	38.7%	5.9%	0.9508	0.3417	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	32.8%	13.9%	18.9%	4.6742	0.0000	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	24.8%	38.7%	13.9%	2.2667	0.0234	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	24.8%	13.9%	10.9%	2.7403	0.0061	**	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	38.7%	13.9%	24.7%	5.9131	0.0000	**	

2) 農林水産省の信頼感

農林水産省についても厚生労働省と同様に信頼感を高めている。

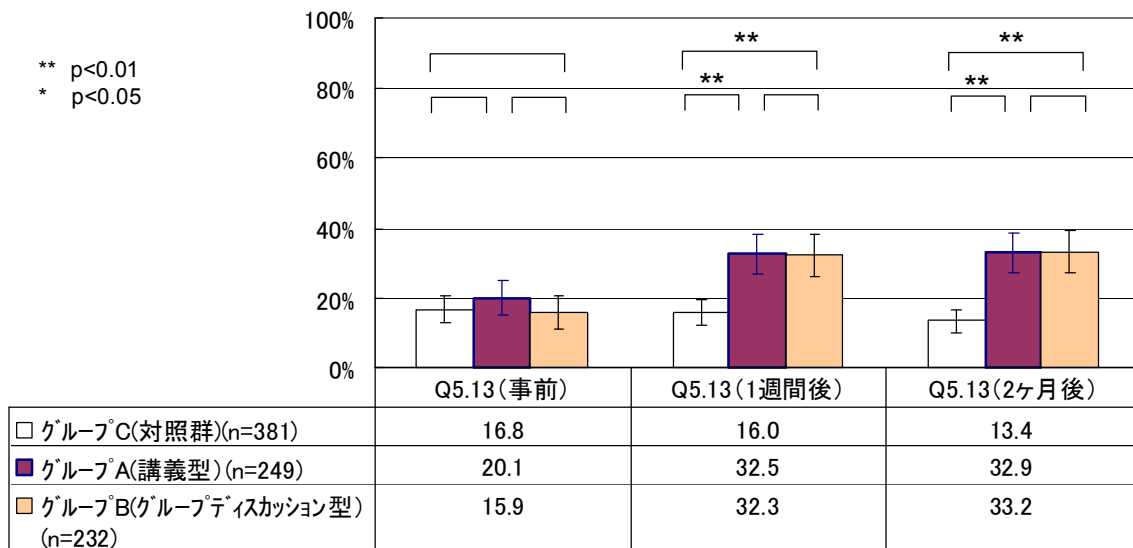
意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約1~2割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約3割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感が高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q5. 食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。(いくつでも)

「農林水産省」の選択率(2ヶ月後)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q5.13	48.1784	8	2577	0.0000

分散分析表	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
因子						
グループ	9.9693	2	4.9847	29.7653	0.0000	**
時期	4.5659	2	2.2830	13.6324	0.0000	**
グループ * 時期	4.2317	4	1.0579	6.3172	0.0000	**
誤差	431.5600	2577	0.1675			
全体	448.8105	2585				

多重比較検定	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
因子										
グループ	Q5.13	Bonferroni	A	B	0.2851	0.2716	0.0136	0.6303	1.0000	
			A	C	0.2851	0.1540	0.1312	6.8122	0.0000	**
			B	C	0.2716	0.1540	0.1176	5.9755	0.0000	**
時期	Q5.13	Bonferroni	事前	1週間後	0.1752	0.2517	0.0766	3.8843	0.0003	**
			事前	2ヶ月後	0.1752	0.2436	0.0684	3.4723	0.0016	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2517	0.2436	0.0081	0.4120	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q5.13	事前	グループ	0.2404	2	0.1202	0.7178	0.4879	
		誤差	431.5600	2577	0.1675			
	1週間後	グループ	5.7339	2	2.8669	17.1195	0.0000	**
		誤差	431.5600	2577	0.1675			
	2ヶ月後	グループ	8.2267	2	4.1134	24.5624	0.0000	**
		誤差	431.5600	2577	0.1675			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q5.13	Bonferroni	事前	A	B	0.2008	0.1595	0.0413	1.1066	0.8058		
			A	C	0.2008	0.1680	0.0328	0.9843	0.9752		
			B	C	0.1595	0.1680	0.0085	0.2493	1.0000		
			1週間後	A	B	0.3253	0.3233	0.0020	0.0542	1.0000	
				A	C	0.3253	0.1601	0.1652	4.9537	0.0000	**
				B	C	0.3233	0.1601	0.1632	4.7880	0.0000	**
		2ヶ月後	A	B	0.3293	0.3319	0.0026	0.0691	1.0000		
			A	C	0.3293	0.1339	0.1955	5.8612	0.0000	**	
			B	C	0.3319	0.1339	0.1980	5.8111	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q5.13	A	時期	2.6586	2	1.3293	7.9378	0.0004	**
		誤差	431.5600	2577	0.1675			
	B	時期	4.3793	2	2.1897	13.0752	0.0000	**
		誤差	431.5600	2577	0.1675			
	C	時期	0.2432	2	0.1216	0.7262	0.4839	
		誤差	431.5600	2577	0.1675			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q5.13	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2008	0.3253	0.1245	3.3946	0.0021	**	
			事前	2ヶ月後	0.2008	0.3293	0.1285	3.5041	0.0014	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.3253	0.3293	0.0040	0.1095	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.1595	0.3233	0.1638	4.3108	0.0001	**
				事前	2ヶ月後	0.1595	0.3319	0.1724	4.5377	0.0000	**
				1週間後	2ヶ月後	0.3233	0.3319	0.0086	0.2269	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.1680	0.1601	0.0079	0.2656	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.1680	0.1339	0.0341	1.1508	0.7498		
			1週間後	2ヶ月後	0.1601	0.1339	0.0262	0.8852	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q5.13(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	19.7%	20.5%	0.8%	0.1589	0.8738	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	19.7%	16.8%	2.9%	0.5737	0.5662	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	19.7%	15.1%	4.6%	0.9409	0.3468	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	19.7%	16.8%	2.9%	0.7412	0.4585	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	16.8%	3.7%	0.7221	0.4703	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	15.1%	5.4%	1.0877	0.2767	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	20.5%	16.8%	3.7%	0.9305	0.3521	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	16.8%	15.1%	1.7%	0.3510	0.7256	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	16.8%	16.8%	0.0%	0.0041	0.9968	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	15.1%	16.8%	1.7%	0.4300	0.6672	[]	
	Q5.13(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	37.0%	27.9%	9.1%	1.5388	0.1239	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	37.0%	30.1%	6.9%	1.1315	0.2578	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	37.0%	34.5%	2.6%	0.4176	0.6762	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	37.0%	16.0%	21.0%	5.0086	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	27.9%	30.1%	2.2%	0.3749	0.7077	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	27.9%	34.5%	6.6%	1.1039	0.2696	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	27.9%	16.0%	11.9%	2.9125	0.0036	**	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	30.1%	34.5%	4.4%	0.7105	0.4774	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	30.1%	16.0%	14.1%	3.3347	0.0009	**	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	34.5%	16.0%	18.4%	4.3583	0.0000	**	
Q5.13(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	33.9%	32.0%	1.9%	0.3174	0.7509	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	33.9%	26.5%	7.3%	1.2286	0.2192	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	33.9%	39.5%	5.6%	0.9174	0.3589	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	33.9%	13.4%	20.5%	5.1452	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	32.0%	26.5%	5.4%	0.9113	0.3621	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	32.0%	39.5%	7.5%	1.2197	0.2226	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	32.0%	13.4%	18.6%	4.6602	0.0000	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	26.5%	39.5%	12.9%	2.0932	0.0363	*	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	26.5%	13.4%	13.2%	3.3189	0.0009	**	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	39.5%	13.4%	26.1%	6.2633	0.0000	**	

3) 食品安全委員会の信頼感

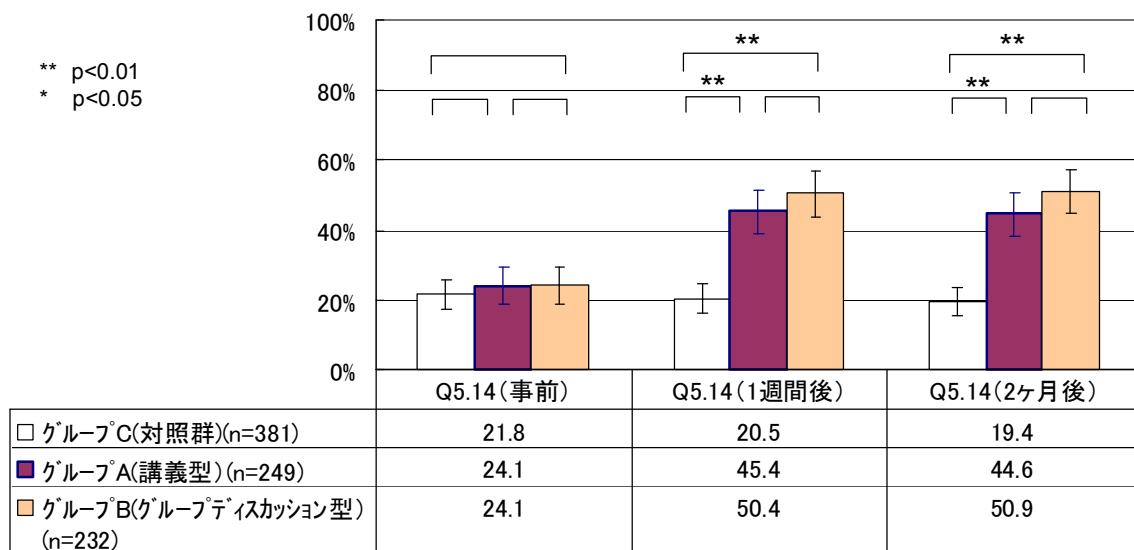
食品安全委員会については、意見交換会実施後に「信頼できる」と回答した人の割合は対照群では約2割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約4～5割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「信頼できる」と回答する人が増加しており、信頼感が高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q5. 食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。(いくつでも)

「食品安全委員会」の選択率(2ヶ月後)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q5.14	57.5526	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	24.2449	2	12.1224	60.7988	0.0000	**
時期	12.6427	2	6.3213	31.7040	0.0000	**
グループ * 時期	9.4385	4	2.3596	11.8345	0.0000	**
誤差	513.8178	2577	0.1994			
全体	556.2877	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q5.14	Bonferroni	A	B	0.3802	0.4181	0.0379	1.6118	0.3214	
			A	C	0.3802	0.2056	0.1746	8.3104	0.0000	**
			B	C	0.4181	0.2056	0.2125	9.8982	0.0000	**
時期	Q5.14	Bonferroni	事前	1週間後	0.2309	0.3573	0.1265	5.8791	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.2309	0.3515	0.1206	5.6094	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.3573	0.3515	0.0058	0.2697	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q5.14	事前	グループ	0.1156	2	0.0578	0.2899	0.7484	
		誤差	513.8178	2577	0.1994			
	1週間後	グループ	16.2029	2	8.1014	40.6320	0.0000	**
		誤差	513.8178	2577	0.1994			
	2ヶ月後	グループ	17.3649	2	8.6825	43.5460	0.0000	**
		誤差	513.8178	2577	0.1994			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q5.14	Bonferroni	事前	A	B	0.2410	0.2414	0.0004	0.0102	1.0000		
			A	C	0.2410	0.2178	0.0231	0.6353	1.0000		
			B	C	0.2414	0.2178	0.0235	0.6328	1.0000		
			1週間後	A	B	0.4538	0.5043	0.0505	1.2393	0.6461	
			A	C	0.4538	0.2047	0.2491	6.8455	0.0000	**	
			B	C	0.5043	0.2047	0.2996	8.0566	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.4458	0.5086	0.0628	1.5422	0.3694		
			A	C	0.4458	0.1942	0.2516	6.9132	0.0000	**	
			B	C	0.5086	0.1942	0.3144	8.4548	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q5.14	A	時期	7.2477	2	3.6238	18.1749	0.0000	**
		誤差	513.8178	2577	0.1994			
	B	時期	10.8707	2	5.4353	27.2604	0.0000	**
		誤差	513.8178	2577	0.1994			
	C	時期	0.1067	2	0.0534	0.2677	0.7652	
		誤差	513.8178	2577	0.1994			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q5.14	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2410	0.4538	0.2129	5.3188	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.2410	0.4458	0.2048	5.1181	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.4538	0.4458	0.0080	0.2007	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.2414	0.5043	0.2629	6.3420	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.2414	0.5086	0.2672	6.4459	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.5043	0.5086	0.0043	0.1040	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.2178	0.2047	0.0131	0.4056	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2178	0.1942	0.0236	0.7302	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2047	0.1942	0.0105	0.3245	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q5.14 (事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	22.8%	25.4%	2.6%	0.4750	0.6348	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	22.8%	25.7%	2.8%	0.5110	0.6093	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	22.8%	22.7%	0.1%	0.0272	0.9783	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	22.8%	21.8%	1.0%	0.2472	0.8048	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	25.4%	25.7%	0.3%	0.0446	0.9644	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	25.4%	22.7%	2.7%	0.4940	0.6213	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	25.4%	21.8%	3.6%	0.8324	0.4052	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	25.7%	22.7%	3.0%	0.5292	0.5966	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	25.7%	21.8%	3.9%	0.8648	0.3871	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	22.7%	21.8%	0.9%	0.2079	0.8353	[]	
	Q5.14 (1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	44.1%	46.7%	2.6%	0.4162	0.6773	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	44.1%	50.4%	6.3%	0.9834	0.3254	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	44.1%	50.4%	6.3%	0.9932	0.3206	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	44.1%	20.5%	23.6%	5.2315	0.0000	**	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	46.7%	50.4%	3.7%	0.5703	0.5685	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	46.7%	50.4%	3.7%	0.5744	0.5657	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	46.7%	20.5%	26.2%	5.6944	0.0000	**	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	50.4%	50.4%	0.0%	0.0034	0.9973	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	50.4%	20.5%	30.0%	6.2782	0.0000	**	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	50.4%	20.5%	29.9%	6.3796	0.0000	**	
Q5.14 (2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	43.3%	45.9%	2.6%	0.4118	0.6805	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	43.3%	51.3%	8.0%	1.2425	0.2140	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	43.3%	50.4%	7.1%	1.1174	0.2638	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	43.3%	19.4%	23.9%	5.3555	0.0000	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	45.9%	51.3%	5.4%	0.8315	0.4057	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	45.9%	50.4%	4.5%	0.7019	0.4827	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	45.9%	19.4%	26.5%	5.8144	0.0000	**	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	51.3%	50.4%	0.9%	0.1382	0.8901	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	51.3%	19.4%	31.9%	6.7310	0.0000	**	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	50.4%	19.4%	31.0%	6.6643	0.0000	**	

4) まとめ

①2ヶ月後の変化

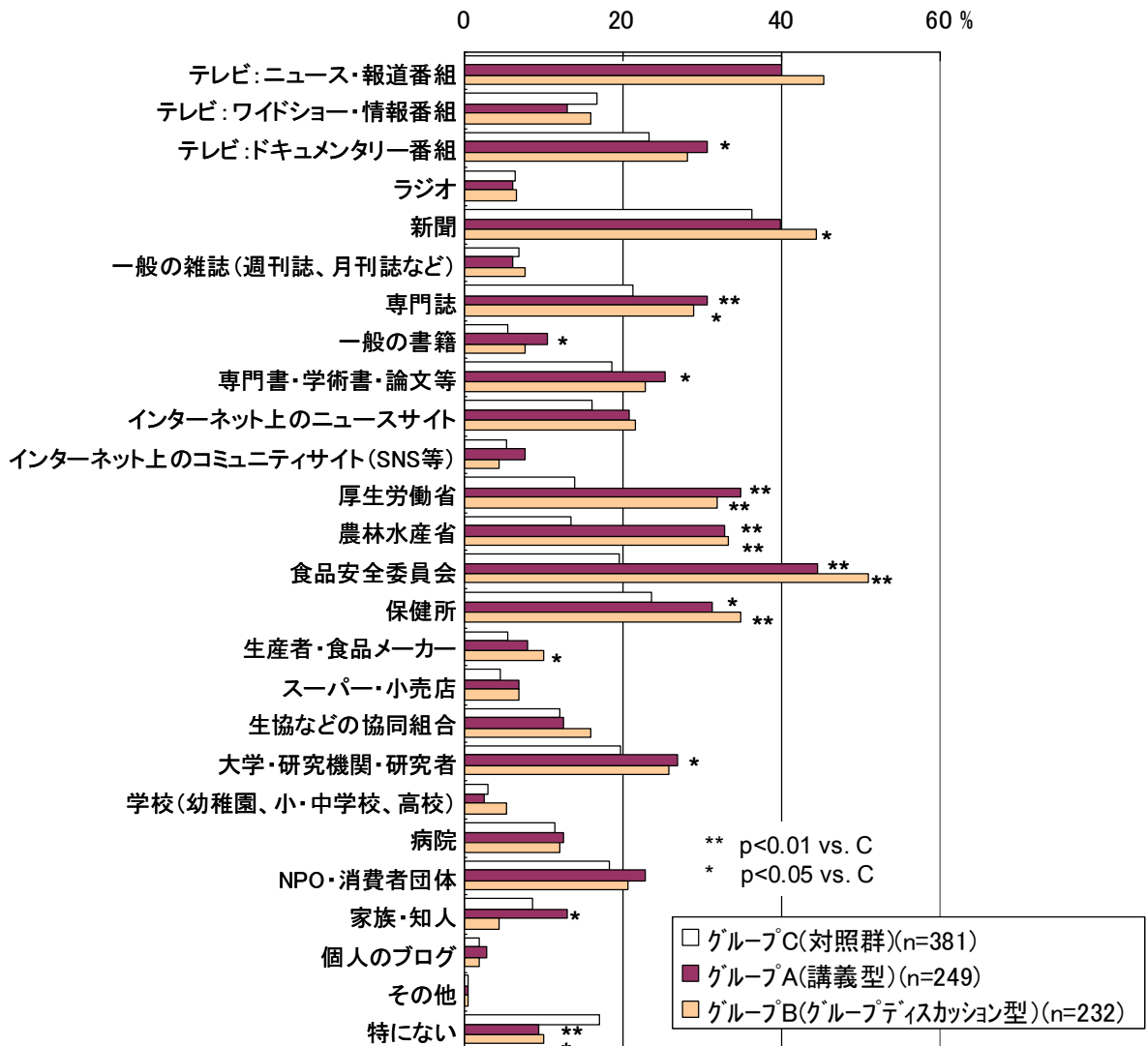
食品の安全性について、信頼できる情報源をたずねたところ「食品安全委員会」「農林水産省」「厚生労働省」「保健所」など行政機関の信頼感が高まっている。

2ヶ月後において、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「食品安全委員会」が信頼できる機関等の最上位であった。特にグループB（グループディスカッション型）では「信頼できる」と回答した人が半数を超えている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）の差異は大きくないが、「テレビ：ドキュメンタリー番組」「一般の書籍」「専門書・学術書・論文等」「大学・研究機関・研究者」「家族・知人」はグループA（講義型）で対照群との差異がやや大きく、「新聞」「食品安全委員会」「保健所」「生産者・食品メーカー」はグループB（グループディスカッション型）で差異がやや大きい。

Q5. 食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。(いくつでも)

選択率(2ヶ月後)



	合計	Q5 (2ヶ月後)									
		テレビ：ニュース・報道番組	テレビ：ワイドショー・情報番組	テレビ：ドキュメンタリー番組	ラジオ	新聞	一般の雑誌（週刊誌、月刊誌など）	専門誌	一般の書籍	専門書・学術書・論文等	
全体	862	41.5	15.4	26.7	6.3	39.4	6.8	26.0	7.5	21.7	
グループ	A. 講義型 計	249	40.2	12.9	30.5	6.0	39.8	6.0	30.5	10.4	25.3
	-A-1. 講義型(1回目)	127	39.4	11.8	32.3	7.1	41.7	6.3	30.7	11.8	22.0
	-A-2. 講義型(2回目)	122	41.0	13.9	28.7	4.9	37.7	5.7	30.3	9.0	28.7
	B. G _テ イスカッション型 計	232	45.3	15.9	28.0	6.5	44.4	7.8	28.9	7.8	22.8
	-B-1. G _テ イスカッション型(1回目)	113	41.6	13.3	22.1	8.0	45.1	8.8	29.2	8.0	22.1
	-B-2. G _テ イスカッション型(2回目)	119	48.7	18.5	33.6	5.0	43.7	6.7	28.6	7.6	23.5
	C. 対照群	381	40.2	16.8	23.4	6.3	36.2	6.8	21.3	5.5	18.6

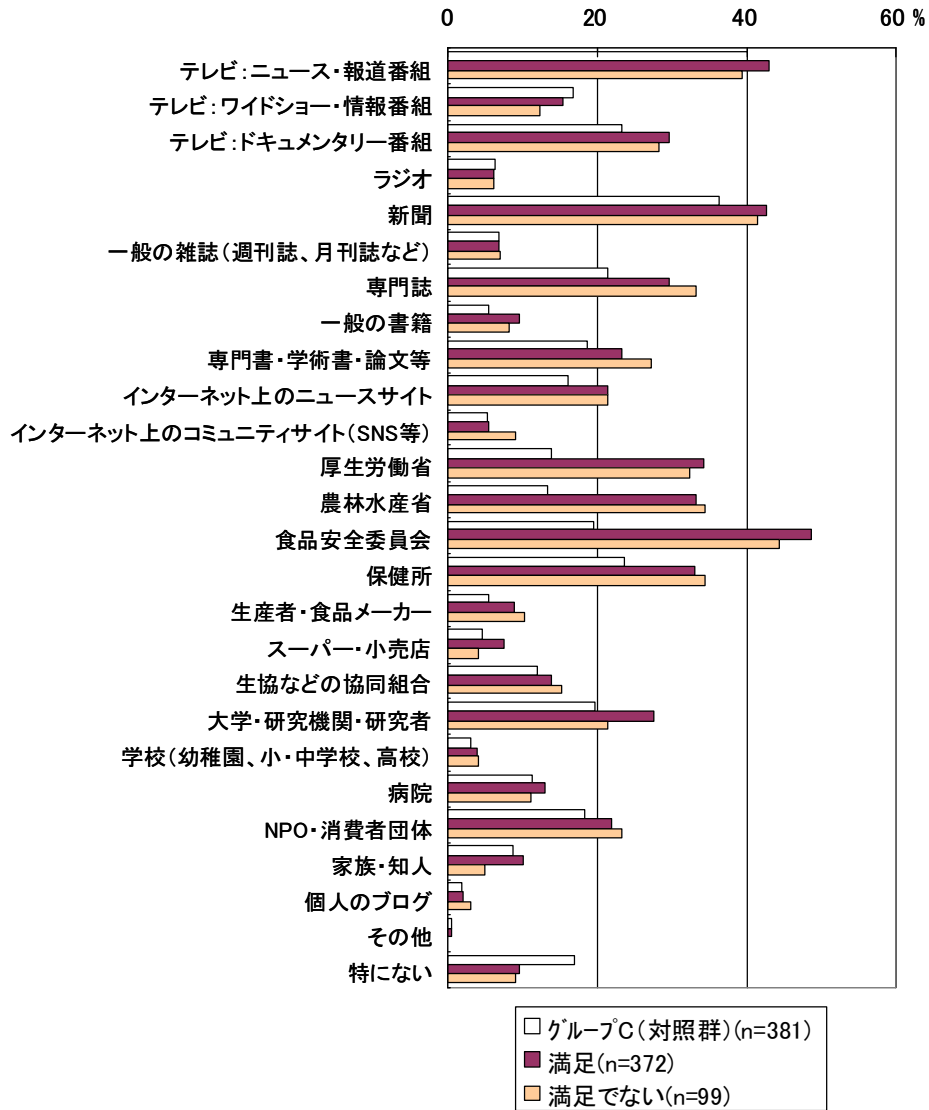
	合計	インターネット上のニュースサイト									
		インターネット上のニュースサイト(SNS等)	厚生労働省	農林水産省	食品安全委員会	保健所	生産者・食品メーカー	スーパー・小売店	生協などの協同組合		
全体	862	18.9	5.7	24.8	24.4	35.2	28.9	7.4	5.8	13.2	
グループ	A. 講義型 計	249	20.9	7.6	34.9	32.9	44.6	31.3	8.0	6.8	12.4
	-A-1. 講義型(1回目)	127	22.0	7.1	37.0	33.9	43.3	31.5	8.7	7.1	15.0
	-A-2. 講義型(2回目)	122	19.7	8.2	32.8	32.0	45.9	31.1	7.4	6.6	9.8
	B. G _テ イスカッション型 計	232	21.6	4.3	31.9	33.2	50.9	34.9	9.9	6.9	15.9
	-B-1. G _テ イスカッション型(1回目)	113	18.6	5.3	24.8	26.5	51.3	35.4	10.6	5.3	14.2
	-B-2. G _テ イスカッション型(2回目)	119	24.4	3.4	38.7	39.5	50.4	34.5	9.2	8.4	17.6
	C. 対照群	381	16.0	5.2	13.9	13.4	19.4	23.6	5.5	4.5	12.1

	合計	インターネット上のニュースサイト									
		大学・研究機関・研究者	学校(幼稚園、小・中学校、高校)	病院	NPO・消費者団体	家族・知人	個人のブログ	その他	特になし	不明	
全体	862	23.4	3.4	11.8	20.3	8.7	2.1	0.5	12.9	2.3	
グループ	A. 講義型 計	249	26.9	2.4	12.4	22.9	12.9	2.8	0.4	9.2	0.0
	-A-1. 講義型(1回目)	127	27.6	1.6	11.0	22.8	11.0	2.4	0.0	8.7	0.0
	-A-2. 講義型(2回目)	122	26.2	3.3	13.9	23.0	14.8	3.3	0.8	9.8	0.0
	B. G _テ イスカッション型 計	232	25.9	5.2	12.1	20.7	4.3	1.7	0.4	9.9	0.0
	-B-1. G _テ イスカッション型(1回目)	113	19.5	4.4	8.0	20.4	4.4	2.7	0.9	11.5	0.0
	-B-2. G _テ イスカッション型(2回目)	119	31.9	5.9	16.0	21.0	4.2	0.8	0.0	8.4	0.0
	C. 対照群	381	19.7	2.9	11.3	18.4	8.7	1.8	0.5	17.1	5.2

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q5. 食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。（いくつでも）
 選択率（2ヶ月後）



	合計	Q5 (2ヶ月後)								
		テレビ：ニュース・報道番組	テレビ：ワイドショー・情報番組	テレビ：ドキュメンタリー番組	ラジオ	新聞	一般の雑誌(週刊誌、月刊誌など)	専門誌	一般の書籍	専門書・学術書・論文等
全体	862	41.5	15.4	26.7	6.3	39.4	6.8	26.0	7.5	21.7
グループ×満足	372	43.0	15.3	29.6	6.2	42.5	6.7	29.6	9.4	23.4
グループ×満足	216	39.4	13.4	29.2	6.5	40.3	6.0	31.5	10.6	25.5
グループ×満足	156	48.1	17.9	30.1	5.8	45.5	7.7	26.9	7.7	20.5
グループ×満足	99	39.4	12.1	28.3	6.1	41.4	7.1	33.3	8.1	27.3
グループ×満足	27	40.7	11.1	37.0	0.0	37.0	7.4	29.6	11.1	25.9
グループ×満足	72	38.9	12.5	25.0	8.3	43.1	6.9	34.7	6.9	27.8
グループ×満足	381	40.2	16.8	23.4	6.3	36.2	6.8	21.3	5.5	18.6

	合計	インターネット上のニュースサイト	インターネット上のコミュニティサイト(SNS等)	厚生労働省	農林水産省	食品安全委員会	保健所	生産者・食品メーカー	スーパー・小売店	生協などの協同組合
グループ×満足	372	21.2	5.4	34.1	33.3	48.7	33.1	8.9	7.5	13.7
グループ×満足	216	21.3	6.9	35.6	34.3	46.8	31.9	8.8	7.9	12.5
グループ×満足	156	21.2	3.2	32.1	32.1	51.3	34.6	9.0	7.1	15.4
グループ×満足	99	21.2	9.1	32.3	34.3	44.4	34.3	10.1	4.0	15.2
グループ×満足	27	22.2	14.8	29.6	25.9	25.9	25.9	3.7	0.0	11.1
グループ×満足	72	20.8	6.9	33.3	37.5	51.4	37.5	12.5	5.6	16.7
グループ×満足	381	16.0	5.2	13.9	13.4	19.4	23.6	5.5	4.5	12.1

	合計	大学・研究機関・研究者	学校(幼稚園、小・中学校、高校)	病院	NPO・消費者団体	家族・知人	個人のブログ	その他	特にない
グループ×満足	372	27.7	3.8	12.9	22.0	9.9	2.2	0.5	9.4
グループ×満足	216	29.6	2.8	13.9	23.6	13.9	2.8	0.5	8.8
グループ×満足	156	25.0	5.1	11.5	19.9	4.5	1.3	0.6	10.3
グループ×満足	99	21.2	4.0	11.1	23.2	5.1	3.0	0.0	9.1
グループ×満足	27	7.4	0.0	3.7	22.2	7.4	3.7	0.0	11.1
グループ×満足	72	26.4	5.6	13.9	23.6	4.2	2.8	0.0	8.3
グループ×満足	381	19.7	2.9	11.3	18.4	8.7	1.8	0.5	17.1

会合の満足度別の差異 (Z検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
テレビ：ニュース・報道番組	満足	満足でない	43.0%	39.4%	3.6%	0.6475	0.5173	□
テレビ：ワイドショー・情報番組	満足	満足でない	15.3%	12.1%	3.2%	0.8006	0.4234	□
テレビ：ドキュメンタリー番組	満足	満足でない	29.6%	28.3%	1.3%	0.2501	0.8025	□
ラジオ	満足	満足でない	6.2%	6.1%	0.1%	0.0449	0.9641	□
新聞	満足	満足でない	42.5%	41.4%	1.1%	0.1896	0.8496	□
一般の雑誌(週刊誌、月刊誌など)	満足	満足でない	6.7%	7.1%	0.4%	0.1231	0.9020	□
専門誌	満足	満足でない	29.6%	33.3%	3.8%	0.7237	0.4692	□
一般の書籍	満足	満足でない	9.4%	8.1%	1.3%	0.4076	0.6835	□
専門書・学術書・論文等	満足	満足でない	23.4%	27.3%	3.9%	0.8022	0.4224	□
インターネット上のニュースサイト	満足	満足でない	21.2%	21.2%	0.0%	0.0053	0.9958	□
インターネット上のコミュニティサイト(SNS等)	満足	満足でない	5.4%	9.1%	3.7%	1.3665	0.1718	□
厚生労働省	満足	満足でない	34.1%	32.3%	1.8%	0.3397	0.7341	□
農林水産省	満足	満足でない	33.3%	34.3%	1.0%	0.1892	0.8500	□
食品安全委員会	満足	満足でない	48.7%	44.4%	4.2%	0.7455	0.4559	□
保健所	満足	満足でない	33.1%	34.3%	1.3%	0.2399	0.8104	□
生産者・食品メーカー	満足	満足でない	8.9%	10.1%	1.2%	0.3776	0.7057	□
スーパー・小売店	満足	満足でない	7.5%	4.0%	3.5%	1.2251	0.2205	□
生協などの協同組合	満足	満足でない	13.7%	15.2%	1.4%	0.3673	0.7134	□
大学・研究機関・研究者	満足	満足でない	27.7%	21.2%	6.5%	1.3003	0.1935	□
学校(幼稚園、小・中学校、高校)	満足	満足でない	3.8%	4.0%	0.3%	0.1277	0.8984	□
病院	満足	満足でない	12.9%	11.1%	1.8%	0.4787	0.6321	□
NPO・消費者団体	満足	満足でない	22.0%	23.2%	1.2%	0.2527	0.8005	□
家族・知人	満足	満足でない	9.9%	5.1%	4.9%	1.5190	0.1288	□
個人のブログ	満足	満足でない	2.2%	3.0%	0.9%	0.5151	0.6065	□
その他()	満足	満足でない	0.5%	0.0%	0.5%	0.7311	0.4647	□
特にない	満足	満足でない	9.4%	9.1%	0.3%	0.0965	0.9231	□

(6) 「残留基準量の2倍の農薬が検出された」との情報に触れた際の行動

1) 産地を回避

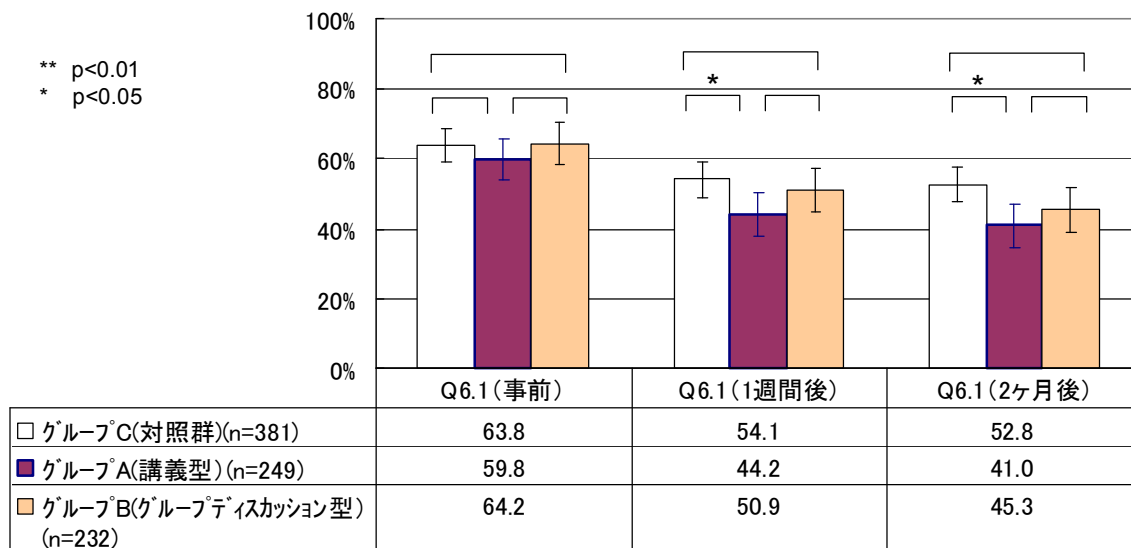
「A県産の野菜を食べないようにする」について「あてはまる」と回答した人の割合は各グループとも減少しているが、グループA（講義型）のみに対照群との間で有意差がみられる。

また、グループA（講義型）では1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

（「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.1. A県産の野菜を食べないようにする

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.1	10.4685	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	**:1%有意 *:5%有意 判定
グループ	3.2958	2	1.6479	6.7640	0.0012	**
時期	12.1474	2	6.0737	24.9304	0.0000	**
グループ * 時期	0.7181	4	0.1795	0.7368	0.5668	
誤差	627.8249	2577	0.2436			
全体	643.3677	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	**:1%有意 *:5%有意 判定
グループ	Q6.1	Bonferroni	A	B	0.4833	0.5345	0.0512	1.9696	0.1470	
			A	C	0.4833	0.5687	0.0854	3.6780	0.0007	**
			B	C	0.5345	0.5687	0.0342	1.4410	0.4492	
時期	Q6.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.6276	0.5035	0.1241	5.2210	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.6276	0.4733	0.1543	6.4896	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5035	0.4733	0.0302	1.2687	0.6140	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.1	事前	グループ	0.3017	2	0.1509	0.6193	0.5384	
		誤差	627.8249	2577	0.2436			
	1週間後	グループ	1.4818	2	0.7409	3.0410	0.0480 *	
		誤差	627.8249	2577	0.2436			
	2ヶ月後	グループ	2.2304	2	1.1152	4.5774	0.0104 *	
		誤差	627.8249	2577	0.2436			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.1	Bonferroni	事前	A	B	0.5984	0.6422	0.0438	0.9735	0.9911	
			A	C	0.5984	0.6378	0.0394	0.9796	0.9821	
			B	C	0.6422	0.6378	0.0044	0.1082	1.0000	
			A	B	0.4418	0.5086	0.0669	1.4843	0.4135	
			A	C	0.4418	0.5407	0.0989	2.4592	0.0420 *	
			B	C	0.5086	0.5407	0.0321	0.7800	1.0000	
		1週間後	A	B	0.4096	0.4526	0.0429	0.9536	1.0000	
			A	C	0.4096	0.5276	0.1179	2.9317	0.0102 *	
			B	C	0.4526	0.5276	0.0750	1.8240	0.2048	
			A	B	0.5984	0.4418	0.1566	3.5407	0.0012 **	
			A	C	0.5984	0.4096	0.1888	4.2670	0.0001 **	
			B	C	0.4418	0.4096	0.0321	0.7263	1.0000	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.1	A	時期	5.0790	2	2.5395	10.4237	0.0000 **	
		誤差	627.8249	2577	0.2436			
	B	時期	4.4052	2	2.2026	9.0408	0.0001 **	
		誤差	627.8249	2577	0.2436			
	C	時期	2.7629	2	1.3815	5.6704	0.0035 **	
		誤差	627.8249	2577	0.2436			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5984	0.4418	0.1566	3.5407	0.0012 **	
			事前	2ヶ月後	0.5984	0.4096	0.1888	4.2670	0.0001 **	
			1週間後	2ヶ月後	0.4418	0.4096	0.0321	0.7263	1.0000	
			事前	1週間後	0.6422	0.5086	0.1336	2.9157	0.0107 *	
			事前	2ヶ月後	0.6422	0.4526	0.1897	4.1384	0.0001 **	
			1週間後	2ヶ月後	0.5086	0.4526	0.0560	1.2227	0.6647	
		B	事前	1週間後	0.6378	0.5407	0.0971	2.7156	0.0200 *	
			事前	2ヶ月後	0.6378	0.5276	0.1102	3.0825	0.0062 **	
			1週間後	2ヶ月後	0.5407	0.5276	0.0131	0.3670	1.0000	
			事前	1週間後	0.6422	0.5086	0.1336	2.9157	0.0107 *	
			事前	2ヶ月後	0.6422	0.4526	0.1897	4.1384	0.0001 **	
			1週間後	2ヶ月後	0.5086	0.4526	0.0560	1.2227	0.6647	

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	58.3%	61.5%	3.2%	0.5162	0.6057	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	58.3%	61.1%	2.8%	0.4403	0.6597	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	58.3%	67.2%	9.0%	1.4513	0.1467	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	58.3%	63.8%	5.5%	1.1106	0.2668	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	61.5%	61.1%	0.4%	0.0650	0.9482	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.5%	67.2%	5.8%	0.9318	0.3514	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	61.5%	63.8%	2.3%	0.4593	0.6460	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.1%	67.2%	6.2%	0.9792	0.3275	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	61.1%	63.8%	2.7%	0.5259	0.5989	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	67.2%	63.8%	3.4%	0.6865	0.4924	[]	
	Q6.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	41.7%	46.7%	5.0%	0.7925	0.4281	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	41.7%	51.3%	9.6%	1.4881	0.1367	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	41.7%	50.4%	8.7%	1.3664	0.1718	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	41.7%	54.1%	12.3%	2.4083	0.0160	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	46.7%	51.3%	4.6%	0.7057	0.4803	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	46.7%	50.4%	3.7%	0.5744	0.5657	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	46.7%	54.1%	7.3%	1.4140	0.1574	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	51.3%	50.4%	0.9%	0.1382	0.8901	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	51.3%	54.1%	2.7%	0.5130	0.6080	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	50.4%	54.1%	3.6%	0.6962	0.4863	[]	
Q6.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	36.2%	45.9%	9.7%	1.5529	0.1204	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	36.2%	49.6%	13.3%	2.0863	0.0370	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	36.2%	41.2%	5.0%	0.7979	0.4250	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	36.2%	52.8%	16.5%	3.2288	0.0012	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	45.9%	49.6%	3.7%	0.5606	0.5750	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	45.9%	41.2%	4.7%	0.7396	0.4595	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	45.9%	52.8%	6.9%	1.3181	0.1875	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	49.6%	41.2%	8.4%	1.2819	0.1999	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	49.6%	52.8%	3.2%	0.5977	0.5501	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	41.2%	52.8%	11.6%	2.2053	0.0274	[*]	

2) 作物を回避

「キャベツを食べないようにする」について、意見交換会実施後に「あてはまる」と回答した人の割合は対照群では約 2 割だが、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも約 1 割である。

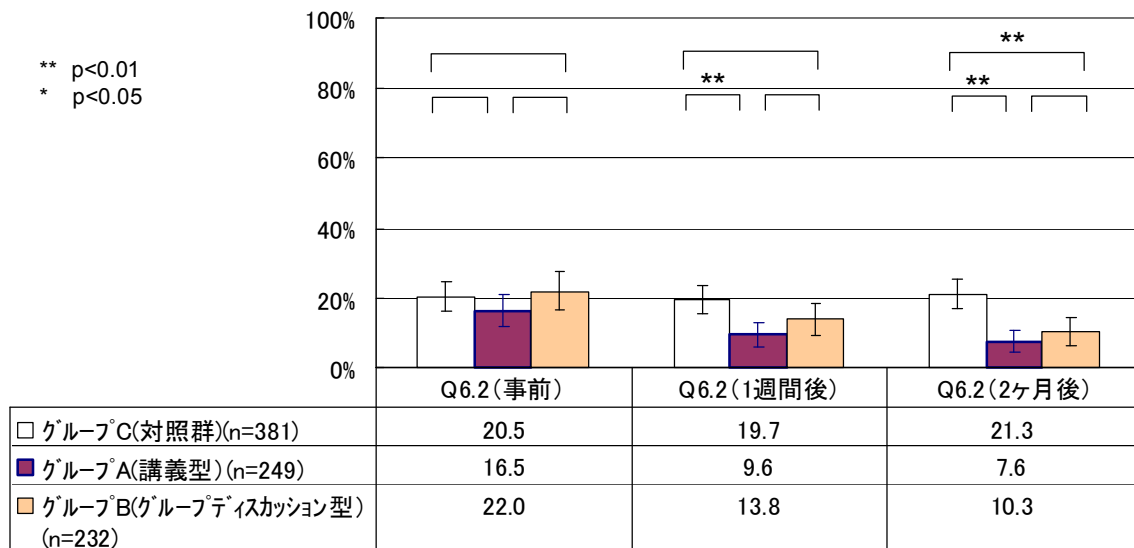
グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも「あてはまる」と回答する人が減少しており、回避行動が緩和されている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

（「A 県産のキャベツから残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.2. キャベツを食べないようにする

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.2	28.7500	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	3.9538	2	1.9769	14.6212	0.0000	**
時期	1.9857	2	0.9929	7.3434	0.0007	**
グループ * 時期	1.3482	4	0.3370	2.4929	0.0412	*
誤差	348.4254	2577	0.1352			
全体	355.1527	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.2	Bonferroni	A	B	0.1124	0.1537	0.0413	2.1313	0.0995	
			A	C	0.1124	0.2047	0.0923	5.3338	0.0000	**
			B	C	0.1537	0.2047	0.0510	2.8841	0.0119	*
時期	Q6.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.1972	0.1520	0.0452	2.5545	0.0321	*
			事前	2ヶ月後	0.1972	0.1439	0.0534	3.0129	0.0078	**
			1週間後	2ヶ月後	0.1520	0.1439	0.0081	0.4585	1.0000	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.2	事前	グループ	0.4040	2	0.2020	1.4941	0.2246	
		誤差	348.4254	2577	0.1352			
	1週間後	グループ	1.5825	2	0.7912	5.8521	0.0029 **	
		誤差	348.4254	2577	0.1352			
	2ヶ月後	グループ	3.3154	2	1.6577	12.2607	0.0000 **	
		誤差	348.4254	2577	0.1352			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.2	Bonferroni	事前	A	B	0.1647	0.2198	0.0552	1.6443	0.3007	
			A	C	0.1647	0.2047	0.0401	1.3371	0.5439	
			B	C	0.2198	0.2047	0.0151	0.4932	1.0000	
		1週間後	A	B	0.0964	0.1379	0.0415	1.2382	0.6472	
			A	C	0.0964	0.1969	0.1005	3.3528	0.0024 **	
			B	C	0.1379	0.1969	0.0589	1.9241	0.1633	
	2ヶ月後	A	B	0.0763	0.1034	0.0271	0.8090	1.0000		
		A	C	0.0763	0.2126	0.1363	4.5485	0.0000 **		
		B	C	0.1034	0.2126	0.1092	3.5645	0.0011 **		

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.2	A	時期	1.0683	2	0.5341	3.9505	0.0194 *	
		誤差	348.4254	2577	0.1352			
	B	時期	1.6580	2	0.8290	6.1316	0.0022 **	
		誤差	348.4254	2577	0.1352			
	C	時期	0.0472	2	0.0236	0.1747	0.8397	
		誤差	348.4254	2577	0.1352			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1647	0.0964	0.0683	2.0717	0.1152	
			事前	2ヶ月後	0.1647	0.0763	0.0884	2.6811	0.0222 *	
			1週間後	2ヶ月後	0.0964	0.0763	0.0201	0.6093	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.2198	0.1379	0.0819	2.3988	0.0496 *	
			事前	2ヶ月後	0.2198	0.1034	0.1164	3.4088	0.0020 **	
			1週間後	2ヶ月後	0.1379	0.1034	0.0345	1.0100	0.9377	
	C	事前	1週間後	0.2047	0.1969	0.0079	0.2956	1.0000		
		事前	2ヶ月後	0.2047	0.2126	0.0079	0.2956	1.0000		
		1週間後	2ヶ月後	0.1969	0.2126	0.0157	0.5911	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	17.3%	15.6%	1.7%	0.3720	0.7099	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	17.3%	17.7%	0.4%	0.0766	0.9390	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	17.3%	26.1%	8.7%	1.6639	0.0961	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	17.3%	20.5%	3.1%	0.7731	0.4395	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	15.6%	17.7%	2.1%	0.4375	0.6617	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	15.6%	26.1%	10.5%	2.0053	0.0449	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	15.6%	20.5%	4.9%	1.1936	0.2326	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	17.7%	26.1%	8.4%	1.5353	0.1247	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	17.7%	20.5%	2.8%	0.6492	0.5162	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	26.1%	20.5%	5.6%	1.2865	0.1983	[]	
	Q6.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	11.8%	7.4%	4.4%	1.1852	0.2360	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	11.8%	15.9%	4.1%	0.9247	0.3551	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	11.8%	11.8%	0.0%	0.0113	0.9910	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	11.8%	19.7%	7.9%	2.0127	0.0441	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	7.4%	15.9%	8.6%	2.0541	0.0400	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	7.4%	11.8%	4.4%	1.1591	0.2464	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	7.4%	19.7%	12.3%	3.1722	0.0015	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	15.9%	11.8%	4.2%	0.9195	0.3579	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	15.9%	19.7%	3.8%	0.8969	0.3698	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	11.8%	19.7%	7.9%	1.9717	0.0486	[*]	
Q6.2(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	6.3%	9.0%	2.7%	0.8073	0.4195	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	6.3%	10.6%	4.3%	1.2087	0.2268	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	6.3%	10.1%	3.8%	1.0855	0.2777	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	6.3%	21.3%	15.0%	3.8410	0.0001	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	9.0%	10.6%	1.6%	0.4132	0.6794	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	9.0%	10.1%	1.1%	0.2820	0.7779	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	9.0%	21.3%	12.2%	3.0445	0.0023	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	10.6%	10.1%	0.5%	0.1339	0.8935	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	10.6%	21.3%	10.6%	2.5410	0.0111	[*]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	10.1%	21.3%	11.2%	2.7350	0.0062	[**]	

3) 「減農薬」「無農薬」を選択

『減農薬』『無農薬』野菜を食べるようにする」について意見交換会実施後に「あてはまる」と回答した人の割合は、対照群では約4～5割だが、グループA（講義型）では約2割、グループB（グループディスカッション型）では3割弱となっている。両グループとも2ヶ月後において対照群との間に20%程度の差異がある。

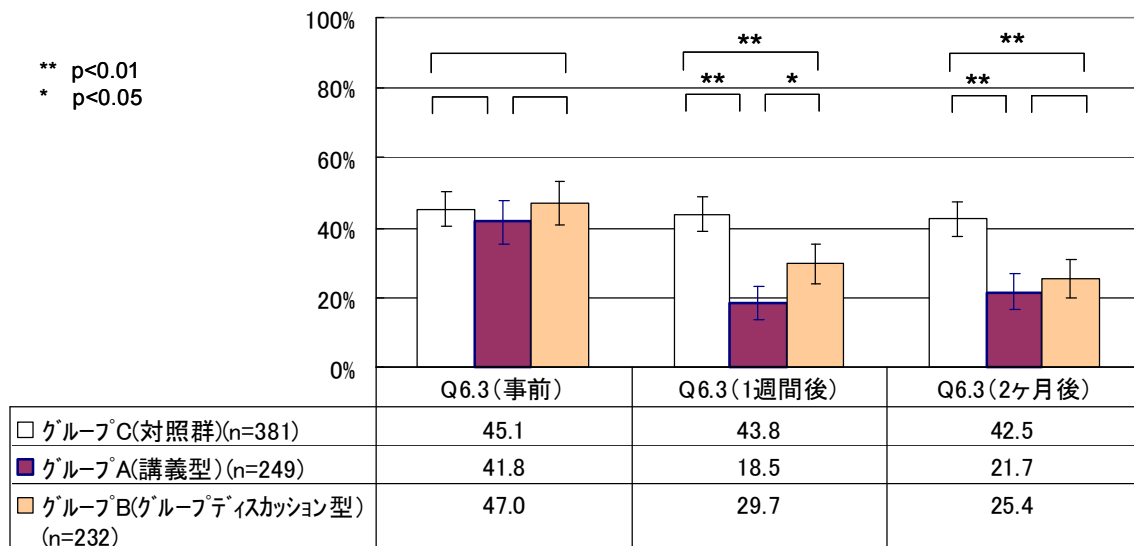
グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「あてはまる」と回答する人が減少しているが、1週間後においてグループA（講義型）の方が、グループB（グループディスカッション型）よりも「あてはまる」人の割合は少なくなっている。

また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

（「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.3. 「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.3	76.7314	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	12.8703	2	6.4352	28.9977	0.0000	**
時期	11.3098	2	5.6549	25.4817	0.0000	**
グループ * 時期	5.3010	4	1.3252	5.9718	0.0001	**
誤差	571.8867	2577	0.2219			
全体	598.8585	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.3	Bonferroni	A	B	0.2731	0.3405	0.0674	2.7168	0.0199	*
			A	C	0.2731	0.4383	0.1652	7.4548	0.0000	**
			B	C	0.3405	0.4383	0.0978	4.3181	0.0000	**
時期	Q6.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.4466	0.3271	0.1195	5.2659	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.4466	0.3190	0.1276	5.6238	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.3271	0.3190	0.0081	0.3579	1.0000	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.3	事前	グループ	0.3425	2	0.1712	0.7717	0.4623	
		誤差	571.8867	2577	0.2219			
	1週間後	グループ	9.9638	2	4.9819	22.4491	0.0000	**
		誤差	571.8867	2577	0.2219			
	2ヶ月後	グループ	7.8650	2	3.9325	17.7204	0.0000	**
		誤差	571.8867	2577	0.2219			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.3	Bonferroni	事前	A	B	0.4177	0.4698	0.0522	1.2133	0.6753		
			A	C	0.4177	0.4514	0.0338	0.8798	1.0000		
			B	C	0.4698	0.4514	0.0184	0.4686	1.0000		
			1週間後	A	B	0.1847	0.2974	0.1127	2.6212	0.0264	*
			A	C	0.1847	0.4383	0.2536	6.6056	0.0000	**	
			B	C	0.2974	0.4383	0.1409	3.5918	0.0010	**	
		2ヶ月後	A	B	0.2169	0.2543	0.0374	0.8710	1.0000		
			A	C	0.2169	0.4252	0.2083	5.4268	0.0000	**	
			B	C	0.2543	0.4252	0.1709	4.3560	0.0000	**	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.3	A	時期	7.9357	2	3.9679	17.8798	0.0000	**
		誤差	571.8867	2577	0.2219			
	B	時期	6.0345	2	3.0172	13.5961	0.0000	**
		誤差	571.8867	2577	0.2219			
	C	時期	0.1312	2	0.0656	0.2957	0.7441	
		誤差	571.8867	2577	0.2219			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4177	0.1847	0.2329	5.5172	0.0000	**	
			事前	2ヶ月後	0.4177	0.2169	0.2008	4.7562	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.1847	0.2169	0.0321	0.7610	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.4698	0.2974	0.1724	3.9419	0.0002	**
			事前	2ヶ月後	0.4698	0.2543	0.2155	4.9273	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.2974	0.2543	0.0431	0.9855	0.9735		
		C	事前	1週間後	0.4514	0.4383	0.0131	0.3845	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.4514	0.4252	0.0262	0.7690	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.4383	0.4252	0.0131	0.3845	1.0000		

開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	36.2%	47.5%	11.3%	1.8107	0.0702	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	36.2%	52.2%	16.0%	2.4928	0.0127	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	36.2%	42.0%	5.8%	0.9314	0.3517	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	36.2%	45.1%	8.9%	1.7596	0.0785	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	47.5%	52.2%	4.7%	0.7156	0.4742	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	47.5%	42.0%	5.5%	0.8622	0.3886	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	47.5%	45.1%	2.4%	0.4625	0.6437	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	52.2%	42.0%	10.2%	1.5553	0.1199	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	52.2%	45.1%	7.1%	1.3225	0.1860	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	42.0%	45.1%	3.1%	0.5994	0.5489	[]	
	Q6.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	19.7%	17.2%	2.5%	0.5024	0.6154	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	19.7%	31.9%	12.2%	2.1621	0.0306	[*]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	19.7%	27.7%	8.0%	1.4857	0.1374	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	19.7%	43.8%	24.1%	4.8603	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	17.2%	31.9%	14.6%	2.6170	0.0089	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	17.2%	27.7%	10.5%	1.9578	0.0502	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	17.2%	43.8%	26.6%	5.2891	0.0000	[**]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	31.9%	27.7%	4.1%	0.6874	0.4918	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	31.9%	43.8%	12.0%	2.2719	0.0231	[*]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	27.7%	43.8%	16.1%	3.1297	0.0018	[**]	
Q6.3(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	19.7%	23.8%	4.1%	0.7820	0.4342	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	19.7%	29.2%	9.5%	1.7194	0.0855	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	19.7%	21.8%	2.2%	0.4183	0.6757	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	19.7%	42.5%	22.8%	4.6208	0.0000	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	23.8%	29.2%	5.4%	0.9442	0.3451	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	23.8%	21.8%	1.9%	0.3554	0.7223	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	23.8%	42.5%	18.7%	3.7138	0.0002	[**]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	29.2%	21.8%	7.4%	1.2858	0.1985	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	29.2%	42.5%	13.3%	2.5433	0.0110	[*]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	21.8%	42.5%	20.7%	4.0637	0.0000	[**]	

4) 残留量に関する情報に注意

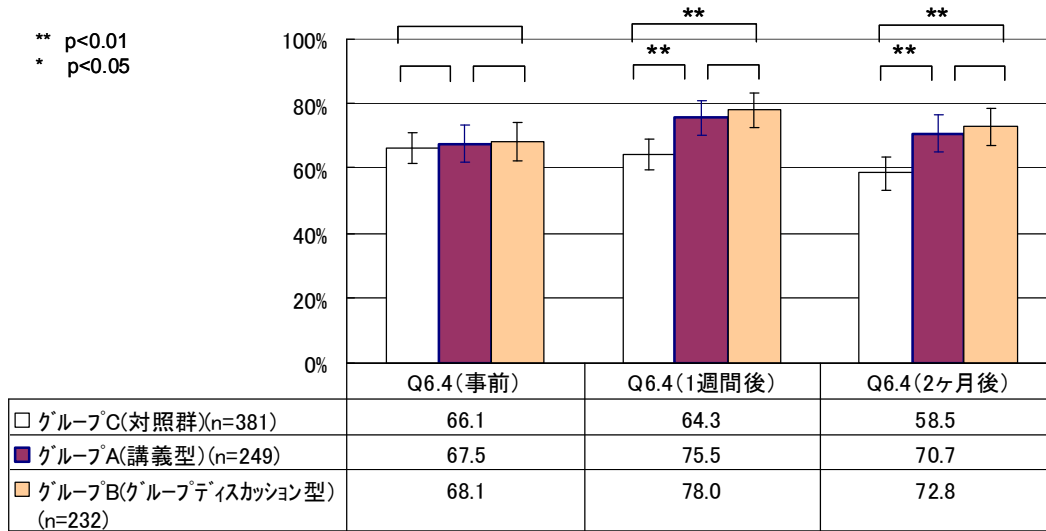
「残留している量（2倍）に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える」と回答した人の割合に大きな変化はない。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）ともわずかに増加しているのに対して、対照群ではわずかに減少しているために1週間後、2ヶ月後の各時点でグループ間に差がみられるが、グループ×時期の交互作用は有意でない。

（「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.4. 残留している量（2倍）に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.4	19.8687	8	2577	0.0000

分散分析表 因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	5.3713	2	2.6856	12.5008	0.0000	**
時期	1.5468	2	0.7734	3.5999	0.0275	*
グループ * 時期	1.7987	4	0.4497	2.0931	0.0792	
誤差	553.6374	2577	0.2148			
全体	562.1655	2585				

多重比較検定 因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.4	Bonferroni	A	B	0.7122	0.7299	0.0177	0.7250	1.0000	
			A	C	0.7122	0.6299	0.0823	3.7722	0.0005	**
			B	C	0.7299	0.6299	0.1000	4.4856	0.0000	**
			事前	1週間後	0.6705	0.7123	0.0418	1.8706	0.1845	
			事前	2ヶ月後	0.6705	0.6589	0.0116	0.5196	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.7123	0.6589	0.0534	2.3902	0.0507	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.4	事前	グループ	0.0616	2	0.0308	0.1433	0.8665	
		誤差	553.6374	2577	0.2148			
	1週間後	グループ	3.3506	2	1.6753	7.7979	0.0004 **	
		誤差	553.6374	2577	0.2148			
	2ヶ月後	グループ	3.7579	2	1.8789	8.7459	0.0002 **	
		誤差	553.6374	2577	0.2148			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.4	Bonferroni	事前	A	B	0.6747	0.6810	0.0063	0.1498	1.0000		
			A	C	0.6747	0.6614	0.0133	0.3516	1.0000		
			B	C	0.6810	0.6614	0.0196	0.5082	1.0000		
			1週間後	A	B	0.7550	0.7802	0.0252	0.5947	1.0000	
			A	C	0.7550	0.6430	0.1120	2.9646	0.0092 **		
			B	C	0.7802	0.6430	0.1371	3.5526	0.0012 **		
		2ヶ月後	A	B	0.7068	0.7284	0.0216	0.5112	1.0000		
			A	C	0.7068	0.5853	0.1215	3.2174	0.0039 **		
			B	C	0.7284	0.5853	0.1431	3.7085	0.0006 **		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.4	A	時期	0.8139	2	0.4070	1.8943	0.1506	
		誤差	553.6374	2577	0.2148			
	B	時期	1.1408	2	0.5704	2.6550	0.0705	
		誤差	553.6374	2577	0.2148			
	C	時期	1.2021	2	0.6010	2.7977	0.0611	
		誤差	553.6374	2577	0.2148			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.4	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6747	0.7550	0.0803	1.9336	0.1598		
			事前	2ヶ月後	0.6747	0.7068	0.0321	0.7734	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.7550	0.7068	0.0482	1.1601	0.7383		
			B	事前	1週間後	0.6810	0.7802	0.0991	2.3036	0.0640	
			事前	2ヶ月後	0.6810	0.7284	0.0474	1.1017	0.8120		
			1週間後	2ヶ月後	0.7802	0.7284	0.0517	1.2019	0.6885		
		C	事前	1週間後	0.6614	0.6430	0.0184	0.5471	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6614	0.5853	0.0761	2.2665	0.0705		
			1週間後	2ヶ月後	0.6430	0.5853	0.0577	1.7195	0.2570		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.4(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	70.1%	64.8%	5.3%	0.8966	0.3700	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	70.1%	68.1%	1.9%	0.3244	0.7457	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.1%	68.1%	2.0%	0.3412	0.7329	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	70.1%	66.1%	3.9%	0.8180	0.4134	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	64.8%	68.1%	3.4%	0.5492	0.5828	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	64.8%	68.1%	3.3%	0.5444	0.5862	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	64.8%	66.1%	1.4%	0.2812	0.7786	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	68.1%	68.1%	0.1%	0.0121	0.9903	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	68.1%	66.1%	2.0%	0.3958	0.6922	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	68.1%	66.1%	1.9%	0.3888	0.6975	[]	
	Q6.4(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	77.2%	73.8%	3.4%	0.6227	0.5335	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	77.2%	81.4%	4.3%	0.8093	0.4183	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.2%	74.8%	2.4%	0.4361	0.6628	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	77.2%	64.3%	12.9%	2.6803	0.0074	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	73.8%	81.4%	7.6%	1.4011	0.1612	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	73.8%	74.8%	1.0%	0.1810	0.8564	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	73.8%	64.3%	9.5%	1.9294	0.0537	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	81.4%	74.8%	6.6%	1.2181	0.2232	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	81.4%	64.3%	17.1%	3.4307	0.0006	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	74.8%	64.3%	10.5%	2.1202	0.0340	[*]	
Q6.4(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	70.1%	71.3%	1.2%	0.2136	0.8308	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	70.1%	71.7%	1.6%	0.2727	0.7851	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.1%	73.9%	3.9%	0.6754	0.4994	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	70.1%	58.5%	11.5%	2.3154	0.0206	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	71.3%	71.7%	0.4%	0.0628	0.9500	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	71.3%	73.9%	2.6%	0.4592	0.6461	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	71.3%	58.5%	12.8%	2.5266	0.0115	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	71.7%	73.9%	2.3%	0.3883	0.6978	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	71.7%	58.5%	13.2%	2.5236	0.0116	[*]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	73.9%	58.5%	15.4%	3.0281	0.0025	[**]	

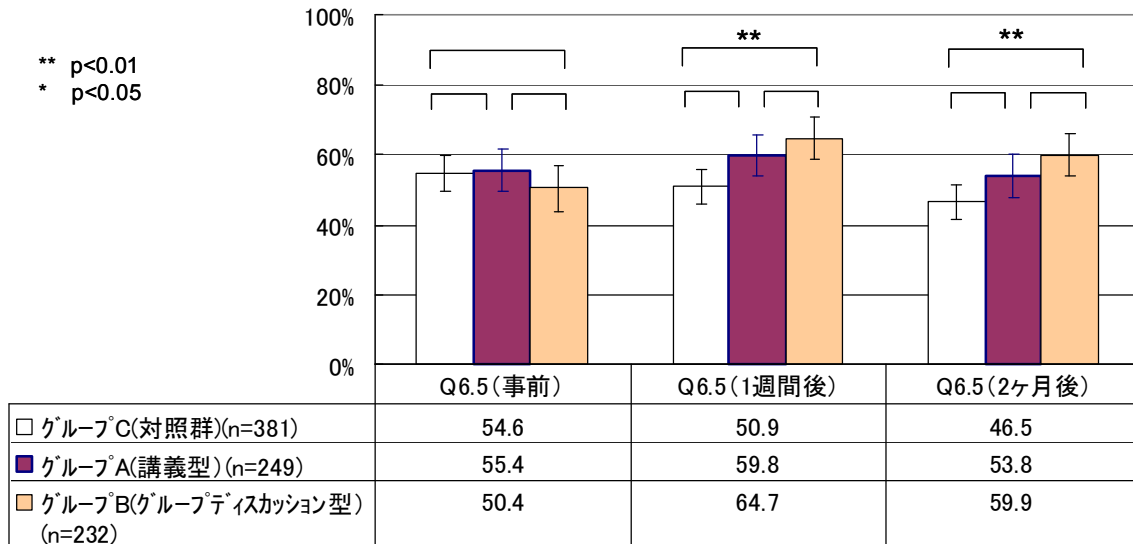
5) 生産現場の情報に注意

「生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える」について「あてはまる」と回答した人の割合は、各グループ、時期とも約 5~6 割。グループ B (グループディスカッション型) においてわずかに増加している。

(「A 県産のキャベツから残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき)

Q6.5. 生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える

該当率(「あてはまる」+「ややあてはまる」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.5	11.3887	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	2.9652	2	1.4826	6.0224	0.0025	**
時期	1.3879	2	0.6939	2.8188	0.0599	
グループ * 時期	3.0552	4	0.7638	3.1026	0.0147	*
誤差	634.4134	2577	0.2462			
全体	641.5623	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.5	Bonferroni	A	B	0.5636	0.5833	0.0197	0.7554	1.0000	
			A	C	0.5636	0.5066	0.0570	2.4428	0.0439	*
			B	C	0.5833	0.5066	0.0768	3.2182	0.0039	**
時期	Q6.5	Bonferroni	事前	1週間後	0.5371	0.5719	0.0348	1.4562	0.4364	
			事前	2ヶ月後	0.5371	0.5220	0.0151	0.6310	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.5719	0.5220	0.0499	2.0872	0.1109	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.5	事前	グループ	0.3521	2	0.1761	0.7151	0.4892	
		誤差	634.4134	2577	0.2462			
	1週間後	グループ	2.9662	2	1.4831	6.0243	0.0025	**
		誤差	634.4134	2577	0.2462			
	2ヶ月後	グループ	2.7022	2	1.3511	5.4881	0.0042	**
		誤差	634.4134	2577	0.2462			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.5	Bonferroni	事前	A	B	0.5542	0.5043	0.0499	1.1023	0.8113		
			A	C	0.5542	0.5459	0.0083	0.2049	1.0000		
			B	C	0.5043	0.5459	0.0416	1.0073	0.9416		
			1週間後	A	B	0.5984	0.6466	0.0482	1.0637	0.8627	
			A	C	0.5984	0.5092	0.0892	2.2063	0.0824		
			B	C	0.6466	0.5092	0.1374	3.3245	0.0027	**	
		2ヶ月後	A	B	0.5382	0.5991	0.0610	1.3470	0.5343		
			A	C	0.5382	0.4646	0.0736	1.8199	0.2067		
			B	C	0.5991	0.4646	0.1346	3.2569	0.0034	**	

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.5	A	時期	0.4846	2	0.2423	0.9842	0.3739	
		誤差	634.4134	2577	0.2462			
	B	時期	2.4339	2	1.2170	4.9433	0.0072	**
		誤差	634.4134	2577	0.2462			
	C	時期	1.2651	2	0.6325	2.5694	0.0768	
		誤差	634.4134	2577	0.2462			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.5	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5542	0.5984	0.0442	0.9935	0.9617		
			事前	2ヶ月後	0.5542	0.5382	0.0161	0.3613	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.5984	0.5382	0.0602	1.3547	0.5269		
			B	事前	1週間後	0.5043	0.6466	0.1422	3.0876	0.0061	**
			事前	2ヶ月後	0.5043	0.5991	0.0948	2.0584	0.1189		
			1週間後	2ヶ月後	0.6466	0.5991	0.0474	1.0292	0.9104		
		C	事前	1週間後	0.5459	0.5092	0.0367	1.0222	0.9204		
			事前	2ヶ月後	0.5459	0.4646	0.0814	2.2634	0.0711		
			1週間後	2ヶ月後	0.5092	0.4646	0.0446	1.2412	0.6439		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.5(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	54.3%	56.6%	2.2%	0.3534	0.7238	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	54.3%	54.9%	0.5%	0.0833	0.9336	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	54.3%	46.2%	8.1%	1.2717	0.2035	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	54.3%	54.6%	0.3%	0.0514	0.9590	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	56.6%	54.9%	1.7%	0.2606	0.7944	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	56.6%	46.2%	10.3%	1.6056	0.1084	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	56.6%	54.6%	2.0%	0.3796	0.7042	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	54.9%	46.2%	8.6%	1.3169	0.1879	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	54.9%	54.6%	0.3%	0.0514	0.9590	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	46.2%	54.6%	8.4%	1.5971	0.1102	[]	
	Q6.5(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	59.8%	59.8%	0.0%	0.0010	0.9992	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	59.8%	66.4%	6.5%	1.0453	0.2959	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	59.8%	63.0%	3.2%	0.5124	0.6084	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	59.8%	50.9%	8.9%	1.7453	0.0809	[]
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	59.8%	66.4%	6.5%	1.0367	0.2999	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	59.8%	63.0%	3.2%	0.5085	0.6111	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	59.8%	50.9%	8.9%	1.7177	0.0858	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.4%	63.0%	3.3%	0.5330	0.5941	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	66.4%	50.9%	15.5%	2.8968	0.0038	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	63.0%	50.9%	12.1%	2.3124	0.0208	[*]	
Q6.5(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	52.8%	54.9%	2.2%	0.3421	0.7323	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	52.8%	61.9%	9.2%	1.4359	0.1510	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	52.8%	58.0%	5.2%	0.8240	0.4099	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	52.8%	46.5%	6.3%	1.2305	0.2185	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	54.9%	61.9%	7.0%	1.0919	0.2749	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	54.9%	58.0%	3.1%	0.4798	0.6314	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	54.9%	46.5%	8.5%	1.6275	0.1036	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.9%	58.0%	4.0%	0.6158	0.5381	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	61.9%	46.5%	15.5%	2.8922	0.0038	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	58.0%	46.5%	11.5%	2.1955	0.0281	[*]	

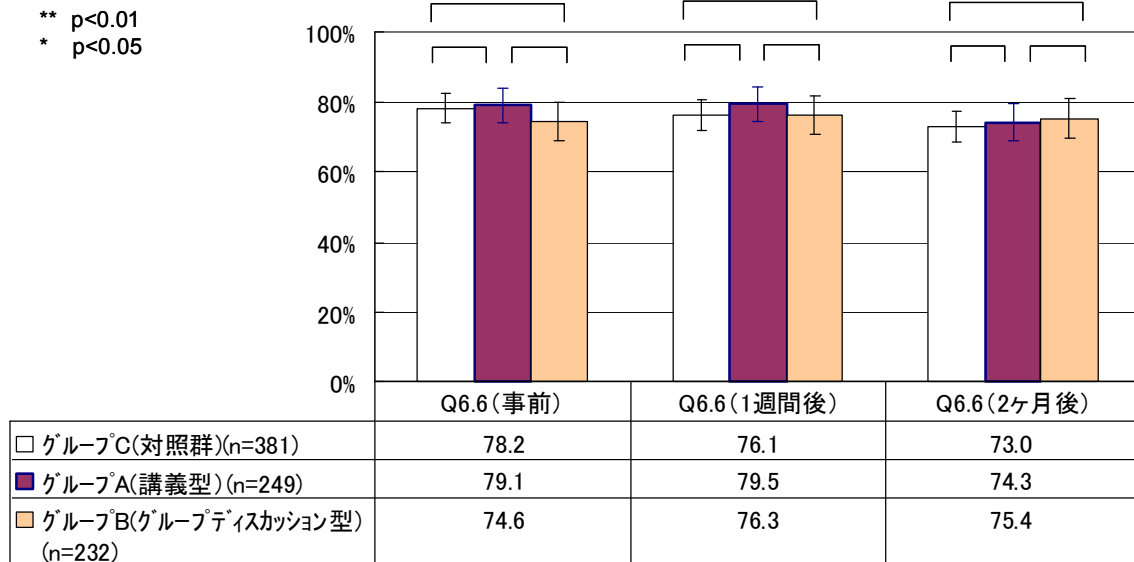
6) 野菜を洗浄

「キャベツを買ったらよく洗うようにする」については特に説明しておらず、意見交換会実施前後で差異はみられない。

(「A 県産のキャベツから残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき)

Q6.6. キャベツを買ったらよく洗うようにする

該当率(「あてはまる」+「ややあてはまる」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
Q6.6	F 値	自由度1	自由度2	P 値
	3.3592	8	2577	0.0008

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	0.2184	2	0.1092	0.6019	0.5479	
時期	0.5175	2	0.2587	1.4261	0.2404	
グループ * 時期	0.3534	4	0.0883	0.4869	0.7454	
誤差	467.5361	2577	0.1814			
全体	468.7413	2585				

**:1%有意 *:5%有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.6	Bonferroni	A	B	0.7764	0.7543	0.0221	0.9861	0.9725	
			A	C	0.7764	0.7577	0.0188	0.9373	1.0000	
			B	C	0.7543	0.7577	0.0033	0.1633	1.0000	
時期	Q6.6	Bonferroni	事前	1週間後	0.7749	0.7715	0.0035	0.1696	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.7749	0.7401	0.0348	1.6963	0.2699	
			1週間後	2ヶ月後	0.7715	0.7401	0.0313	1.5267	0.3809	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.6	事前	グループ	0.2839	2	0.1419	0.7823	0.4575	
		誤差	467.5361	2577	0.1814			
	1週間後	グループ	0.1974	2	0.0987	0.5441	0.5804	
		誤差	467.5361	2577	0.1814			
	2ヶ月後	グループ	0.0904	2	0.0452	0.2492	0.7794	
		誤差	467.5361	2577	0.1814			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.6	Bonferroni	事前	A	B	0.7912	0.7457	0.0455	1.1700	0.7263	
			A	C	0.7912	0.7822	0.0090	0.2596	1.0000	
			B	C	0.7457	0.7822	0.0365	1.0280	0.9122	
			A	B	0.7952	0.7629	0.0322	0.8297	1.0000	
			A	C	0.7952	0.7612	0.0340	0.9803	0.9811	
			B	C	0.7629	0.7612	0.0018	0.0501	1.0000	
		1週間後	A	B	0.7430	0.7543	0.0113	0.2917	1.0000	
			A	C	0.7430	0.7297	0.0133	0.3835	1.0000	
			B	C	0.7543	0.7297	0.0247	0.6950	1.0000	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.6	A	時期	0.4203	2	0.2102	1.1585	0.3141	
		誤差	467.5361	2577	0.1814			
	B	時期	0.0345	2	0.0172	0.0950	0.9093	
		誤差	467.5361	2577	0.1814			
	C	時期	0.5319	2	0.2660	1.4660	0.2310	
		誤差	467.5361	2577	0.1814			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.6	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.7912	0.7952	0.0040	0.1052	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.7912	0.7430	0.0482	1.2625	0.6207	
			1週間後	2ヶ月後	0.7952	0.7430	0.0522	1.3677	0.5146	
			事前	1週間後	0.7457	0.7629	0.0172	0.4360	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.7457	0.7543	0.0086	0.2180	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.7629	0.7543	0.0086	0.2180	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.7822	0.7612	0.0210	0.6804	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.7822	0.7297	0.0525	1.7010	0.2672	
			1週間後	2ヶ月後	0.7612	0.7297	0.0315	1.0206	0.9226	

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.6(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	79.5%	78.7%	0.8%	0.1628	0.8707	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	79.5%	77.0%	2.5%	0.4761	0.6340	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	79.5%	72.3%	7.3%	1.3325	0.1827	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	79.5%	78.2%	1.3%	0.3120	0.7550	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	78.7%	77.0%	1.7%	0.3132	0.7541	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	78.7%	72.3%	6.4%	1.1588	0.2465	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	78.7%	78.2%	0.5%	0.1104	0.9121	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.0%	72.3%	4.7%	0.8256	0.4090	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	77.0%	78.2%	1.2%	0.2756	0.7829	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	72.3%	78.2%	5.9%	1.3414	0.1798	[]	
	Q6.6(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	83.5%	75.4%	8.1%	1.5744	0.1154	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	83.5%	80.5%	2.9%	0.5915	0.5542	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	83.5%	72.3%	11.2%	2.1200	0.0340	[*]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	83.5%	76.1%	7.3%	1.7301	0.0836	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	75.4%	80.5%	5.1%	0.9449	0.3447	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	75.4%	72.3%	3.1%	0.5548	0.5790	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	75.4%	76.1%	0.7%	0.1587	0.8739	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	80.5%	72.3%	8.3%	1.4790	0.1391	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	80.5%	76.1%	4.4%	0.9814	0.3264	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	72.3%	76.1%	3.8%	0.8482	0.3963	[]	
Q6.6(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	76.4%	72.1%	4.2%	0.7666	0.4433	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	76.4%	77.0%	0.6%	0.1121	0.9107	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	76.4%	73.9%	2.4%	0.4408	0.6594	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	76.4%	73.0%	3.4%	0.7575	0.4488	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	72.1%	77.0%	4.9%	0.8537	0.3933	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	72.1%	73.9%	1.8%	0.3180	0.7505	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	72.1%	73.0%	0.8%	0.1802	0.8570	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.0%	73.9%	3.0%	0.5379	0.5906	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	77.0%	73.0%	4.0%	0.8555	0.3923	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	73.9%	73.0%	1.0%	0.2115	0.8325	[]	

7) 安全性に関する情報を収集

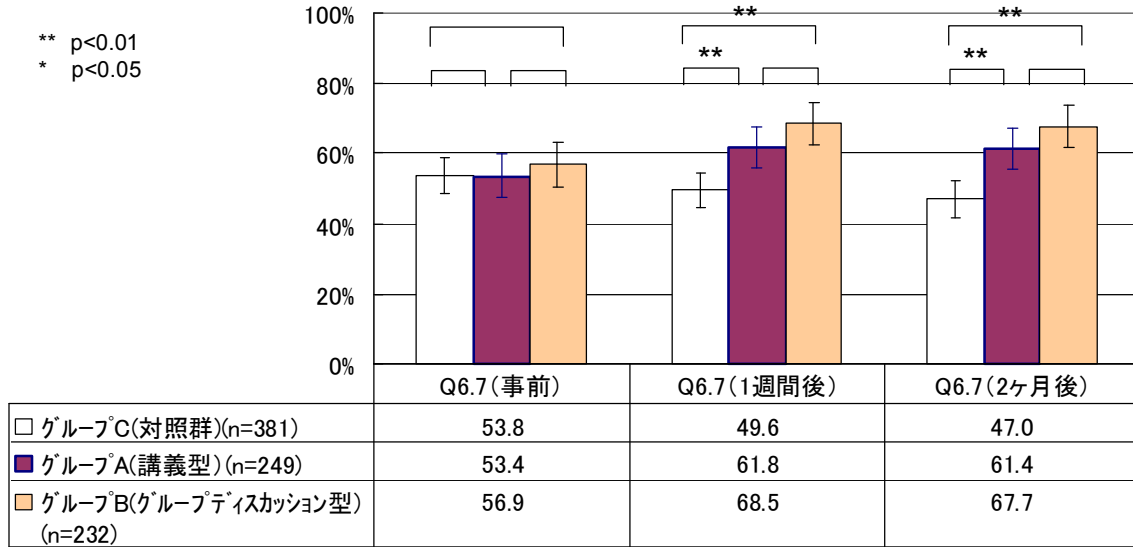
「その農薬についての安全性に関する情報を収集する」について、意見交換会実施後に「あてはまる」と回答した人の割合は、対照群では約5割だが、グループA（講義型）では約6割、グループB（グループディスカッション型）では約7割となっている。

グループB（グループディスカッション型）で「あてはまる」と回答した人の割合が増加している。

（「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.7. その農薬についての安全性に関する情報を収集する

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.7	21.8379	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	9.3756	2	4.6878	19.4149	0.0000	**
時期	1.2500	2	0.6250	2.5884	0.0753	
グループ * 時期	3.3803	4	0.8451	3.4999	0.0074	**
誤差	622.2290	2577	0.2415			
全体	635.5858	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.7	Bonferroni	A	B	0.5890	0.6437	0.0547	2.1113	0.1045	
			A	C	0.5890	0.5013	0.0877	3.7939	0.0005	**
			B	C	0.6437	0.5013	0.1424	6.0259	0.0000	**
時期	Q6.7	Bonferroni	事前	1週間後	0.5452	0.5824	0.0371	1.5684	0.3507	
			事前	2ヶ月後	0.5452	0.5673	0.0220	0.9313	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.5824	0.5673	0.0151	0.6372	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.7	事前	グループ	0.1809	2	0.0905	0.3747	0.6875	
		誤差	622.2290	2577	0.2415			
	1週間後	グループ	5.6227	2	2.8113	11.6433	0.0000	**
		誤差	622.2290	2577	0.2415			
	2ヶ月後	グループ	6.9523	2	3.4761	14.3967	0.0000	**
		誤差	622.2290	2577	0.2415			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.7	Bonferroni	事前	A	B	0.5341	0.5690	0.0348	0.7768	1.0000		
			A	C	0.5341	0.5381	0.0039	0.0979	1.0000		
			B	C	0.5690	0.5381	0.0309	0.7553	1.0000		
			1週間後	A	B	0.6185	0.6853	0.0669	1.4914	0.4079	
			A	C	0.6185	0.4961	0.1224	3.0570	0.0068	**	
			B	C	0.6853	0.4961	0.1893	4.6256	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.6145	0.6767	0.0623	1.3887	0.4951		
			A	C	0.6145	0.4698	0.1446	3.6122	0.0009	**	
			B	C	0.6767	0.4698	0.2069	5.0563	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *:5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.7	A	時期	1.1272	2	0.5636	2.3341	0.0971	
		誤差	622.2290	2577	0.2415			
	B	時期	1.9511	2	0.9756	4.0404	0.0177	*
		誤差	622.2290	2577	0.2415			
	C	時期	0.9029	2	0.4514	1.8697	0.1544	
		誤差	622.2290	2577	0.2415			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.7	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5341	0.6185	0.0843	1.9151	0.1668		
			事前	2ヶ月後	0.5341	0.6145	0.0803	1.8239	0.2049		
			1週間後	2ヶ月後	0.6185	0.6145	0.0040	0.0912	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.5690	0.6853	0.1164	2.5509	0.0324	*
			事前	2ヶ月後	0.5690	0.6767	0.1078	2.3619	0.0548		
			1週間後	2ヶ月後	0.6853	0.6767	0.0086	0.1890	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.5381	0.4961	0.0420	1.1796	0.7148		
			事前	2ヶ月後	0.5381	0.4698	0.0682	1.9168	0.1661		
			1週間後	2ヶ月後	0.4961	0.4698	0.0262	0.7372	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.7(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	55.1%	51.6%	3.5%	0.5501	0.5822	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	55.1%	57.5%	2.4%	0.3747	0.7079	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	55.1%	56.3%	1.2%	0.1869	0.8518	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	55.1%	53.8%	1.3%	0.2570	0.7971	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	51.6%	57.5%	5.9%	0.9048	0.3656	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	51.6%	56.3%	4.7%	0.7261	0.4678	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	51.6%	53.8%	2.2%	0.4174	0.6764	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	57.5%	56.3%	1.2%	0.1875	0.8513	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	57.5%	53.8%	3.7%	0.6969	0.4859	[]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	56.3%	53.8%	2.5%	0.4774	0.6331	[]	
	Q6.7(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	61.4%	62.3%	0.9%	0.1425	0.8867	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	61.4%	77.0%	15.6%	2.5982	0.0094	[**]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	61.4%	60.5%	0.9%	0.1467	0.8834	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	61.4%	49.6%	11.8%	2.3084	0.0210	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gティスカッション型(1回目)	62.3%	77.0%	14.7%	2.4417	0.0146	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	62.3%	60.5%	1.8%	0.2855	0.7752	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	62.3%	49.6%	12.7%	2.4431	0.0146	[*]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	77.0%	60.5%	16.5%	2.7029	0.0069	[**]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		C.対照群	77.0%	49.6%	27.4%	5.1486	0.0000	[**]	
B-2.Gティスカッション型(2回目)		C.対照群	60.5%	49.6%	10.9%	2.0775	0.0378	[*]	
Q6.7(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	57.5%	65.6%	8.1%	1.3117	0.1896	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	57.5%	70.8%	13.3%	2.1420	0.0322	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	57.5%	64.7%	7.2%	1.1610	0.2456	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	57.5%	47.0%	10.5%	2.0493	0.0404	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	65.6%	70.8%	5.2%	0.8581	0.3908	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	65.6%	64.7%	0.9%	0.1414	0.8876	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	65.6%	47.0%	18.6%	3.5761	0.0003	[**]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	70.8%	64.7%	6.1%	0.9914	0.3215	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	70.8%	47.0%	23.8%	4.4517	0.0000	[**]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	64.7%	47.0%	17.7%	3.3766	0.0007	[**]	

8) 行政からの情報に注意

「食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する」について、意見交換会実施後に「あてはまる」と回答した人の割合は、対照群では約 5 割だが、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）では、ともに 7 割以上となっている。

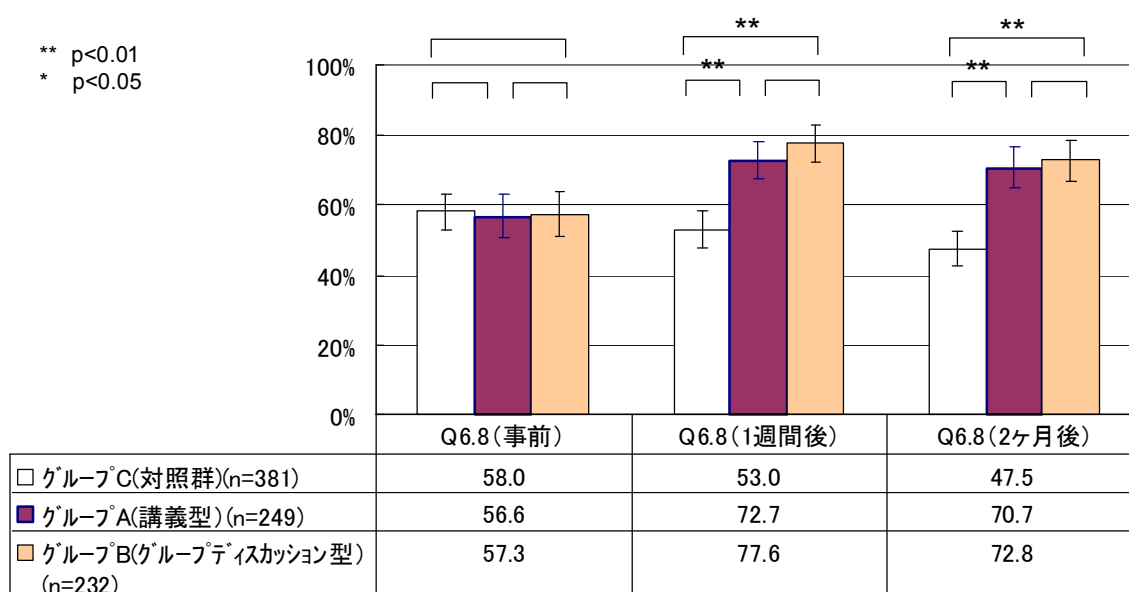
グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも「あてはまる」と回答する人が増加しており、行政情報への注意が高まっている。このことは、行政機関への信頼性の高まりとも整合がとれている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

（「A 県産のキャベツから残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.8. 食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.8	50.0292	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	14.7270	2	7.3635	32.2772	0.0000	**
時期	4.5540	2	2.2770	9.9809	0.0000	**
グループ * 時期	8.4374	4	2.1094	9.2461	0.0000	**
誤差	587.9005	2577	0.2281			
全体	613.7541	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.8	Bonferroni	A	B	0.6667	0.6925	0.0259	1.0278	0.9124	
			A	C	0.6667	0.5284	0.1382	6.1513	0.0000	**
			B	C	0.6925	0.5284	0.1641	7.1456	0.0000	**
時期	Q6.8	Bonferroni	事前	1週間後	0.5742	0.6531	0.0789	3.4288	0.0018	**
			事前	2ヶ月後	0.5742	0.6102	0.0360	1.5631	0.3544	
			1週間後	2ヶ月後	0.6531	0.6102	0.0429	1.8657	0.1866	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.8	事前	グループ	0.0289	2	0.0145	0.0634	0.9386	
		誤差	587.9005	2577	0.2281			
	1週間後	グループ	10.6091	2	5.3046	23.2520	0.0000	**
		誤差	587.9005	2577	0.2281			
	2ヶ月後	グループ	12.5264	2	6.2632	27.4541	0.0000	**
		誤差	587.9005	2577	0.2281			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.8	Bonferroni	事前	A	B	0.5663	0.5733	0.0070	0.1609	1.0000	
			A	C	0.5663	0.5801	0.0138	0.3542	1.0000	
			B	C	0.5733	0.5801	0.0068	0.1704	1.0000	
			A	B	0.7269	0.7759	0.0490	1.1232	0.7843	
			A	C	0.7269	0.5302	0.1967	5.0542	0.0000	**
			B	C	0.7759	0.5302	0.2457	6.1766	0.0000	**
		1週間後	A	B	0.7068	0.7284	0.0216	0.4961	1.0000	
			A	C	0.7068	0.4751	0.2318	5.9544	0.0000	**
			B	C	0.7284	0.4751	0.2534	6.3703	0.0000	**

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.8	A	時期	3.8153	2	1.9076	8.3619	0.0002	**
		誤差	587.9005	2577	0.2281			
	B	時期	5.2098	2	2.6049	11.4182	0.0000	**
		誤差	587.9005	2577	0.2281			
	C	時期	2.1015	2	1.0507	4.6058	0.0101	*
		誤差	587.9005	2577	0.2281			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.8	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5663	0.7269	0.1606	3.7528	0.0005	**
			事前	2ヶ月後	0.5663	0.7068	0.1406	3.2837	0.0031	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7269	0.7068	0.0201	0.4691	1.0000	
			事前	1週間後	0.5733	0.7759	0.2026	4.5682	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.5733	0.7284	0.1552	3.4990	0.0014	**
			1週間後	2ヶ月後	0.7759	0.7284	0.0474	1.0692	0.8553	
		B	事前	1週間後	0.5801	0.5302	0.0499	1.4411	0.4491	
			事前	2ヶ月後	0.5801	0.4751	0.1050	3.0338	0.0073	**
			1週間後	2ヶ月後	0.5302	0.4751	0.0551	1.5927	0.3340	

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.8(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	59.1%	54.1%	5.0%	0.7890	0.4301	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	59.1%	60.2%	1.1%	0.1768	0.8597	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	59.1%	54.6%	4.4%	0.7017	0.4829	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	59.1%	58.0%	1.0%	0.2078	0.8354	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	54.1%	60.2%	6.1%	0.9405	0.3470	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	54.1%	54.6%	0.5%	0.0816	0.9350	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	54.1%	58.0%	3.9%	0.7587	0.4480	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	60.2%	54.6%	5.6%	0.8551	0.3925	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	60.2%	58.0%	2.2%	0.4115	0.6807	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	54.6%	58.0%	3.4%	0.6512	0.5149	[]	
	Q6.8(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	70.1%	75.4%	5.3%	0.9439	0.3452	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	70.1%	78.8%	8.7%	1.5338	0.1251	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.1%	76.5%	6.4%	1.1307	0.2582	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	70.1%	53.0%	17.1%	3.3660	0.0008	**
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	75.4%	78.8%	3.4%	0.6101	0.5418	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	75.4%	76.5%	1.1%	0.1926	0.8473	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	75.4%	53.0%	22.4%	4.3678	0.0000	**	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	78.8%	76.5%	2.3%	0.4182	0.6758	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	78.8%	53.0%	25.7%	4.8846	0.0000	**	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	76.5%	53.0%	23.5%	4.5340	0.0000	**	
Q6.8(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	70.9%	70.5%	0.4%	0.0649	0.9483	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	70.9%	70.8%	0.1%	0.0119	0.9905	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.9%	74.8%	3.9%	0.6908	0.4897	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	70.9%	47.5%	23.4%	4.5699	0.0000	**
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	70.5%	70.8%	0.3%	0.0512	0.9591	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.5%	74.8%	4.3%	0.7481	0.4544	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	70.5%	47.5%	23.0%	4.4276	0.0000	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.8%	74.8%	4.0%	0.6836	0.4942	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	70.8%	47.5%	23.3%	4.3555	0.0000	**	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	74.8%	47.5%	27.3%	5.2128	0.0000	**	

9) 行政機関に照会

「食品安全委員会『食の安全ダイヤル』など行政機関に聞いてみる」について「あてはまる」と回答した人の割合は、対照群では約1~2割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約3割となっている。

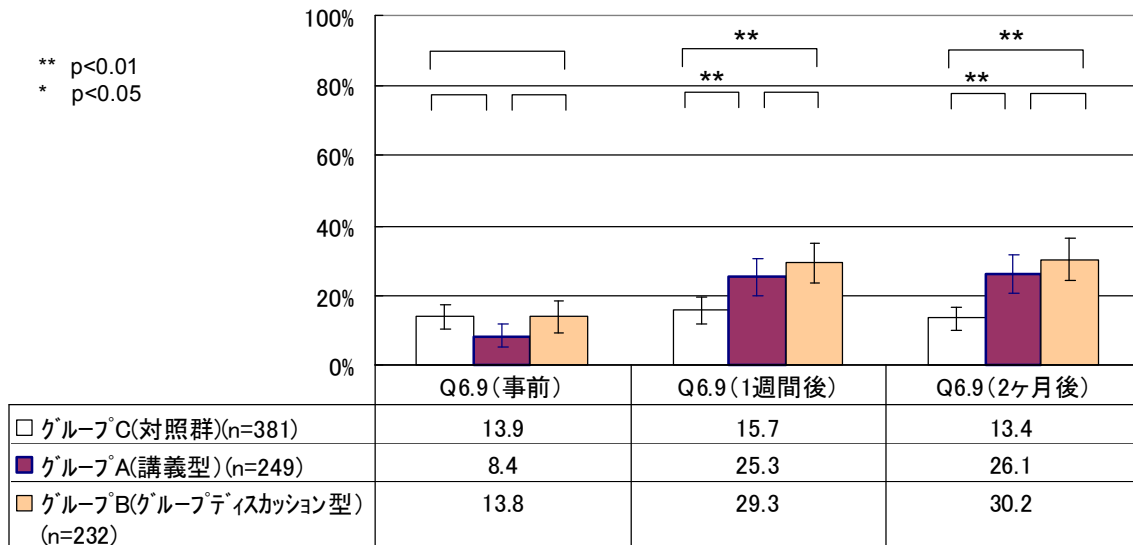
グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも「あてはまる」と回答する人が増加しており、利用意向は高まっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）との間に有意差はない。また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

(「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき)

Q6.9. 食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる

該当率(「あてはまる」+「ややあてはまる」)±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.9	45.6903	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	4.5620	2	2.2810	15.5010	0.0000	**
時期	6.9873	2	3.4937	23.7420	0.0000	**
グループ * 時期	3.7398	4	0.9350	6.3538	0.0000	**
誤差	379.2075	2577	0.1472			
全体	392.7877	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	**:1%有意 *:5%有意	
									P 値	判定
グループ	Q6.9	Bonferroni	A	B	0.1995	0.2443	0.0448	2.2162	0.0803	
			A	C	0.1995	0.1435	0.0560	3.1019	0.0058	**
			B	C	0.2443	0.1435	0.1008	5.4637	0.0000	**
時期	Q6.9	Bonferroni	事前	1週間後	0.1230	0.2216	0.0986	5.3367	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.1230	0.2158	0.0928	5.0227	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2216	0.2158	0.0058	0.3139	1.0000	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.9	事前	グループ	0.5228	2	0.2614	1.7763	0.1695	
		誤差	379.2075	2577	0.1472			
	1週間後	グループ	2.9983	2	1.4991	10.1877	0.0000	**
		誤差	379.2075	2577	0.1472			
	2ヶ月後	グループ	4.7808	2	2.3904	16.2444	0.0000	**
		誤差	379.2075	2577	0.1472			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.9	Bonferroni	事前	A	B	0.0843	0.1379	0.0536	1.5311	0.3776	
			A	C	0.0843	0.1391	0.0548	1.7521	0.2396	
			B	C	0.1379	0.1391	0.0012	0.0368	1.0000	
			A	B	0.2530	0.2931	0.0401	1.1454	0.7565	
			A	C	0.2530	0.1575	0.0955	3.0560	0.0068	**
			B	C	0.2931	0.1575	0.1356	4.2455	0.0001	**
		1週間後	A	B	0.2610	0.3017	0.0407	1.1622	0.7358	
			A	C	0.2610	0.1339	0.1272	4.0686	0.0001	**
			B	C	0.3017	0.1339	0.1679	5.2548	0.0000	**
			A	B	0.2530	0.2931	0.0401	1.1454	0.7565	
			A	C	0.2530	0.1575	0.0955	3.0560	0.0068	**
			B	C	0.2931	0.1575	0.1356	4.2455	0.0001	**

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.9	A	時期	4.9585	2	2.4793	16.8484	0.0000	**
		誤差	379.2075	2577	0.1472			
	B	時期	3.9425	2	1.9713	13.3962	0.0000	**
		誤差	379.2075	2577	0.1472			
	C	時期	0.1172	2	0.0586	0.3984	0.6715	
		誤差	379.2075	2577	0.1472			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q6.9	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.0843	0.2530	0.1687	4.9063	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.0843	0.2610	0.1767	5.1399	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2530	0.2610	0.0080	0.2336	1.0000	
			事前	1週間後	0.1379	0.2931	0.1552	4.3567	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.1379	0.3017	0.1638	4.5988	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2931	0.3017	0.0086	0.2420	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.1391	0.1575	0.0184	0.6611	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.1391	0.1339	0.0052	0.1889	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.1575	0.1339	0.0236	0.8499	1.0000	
			事前	1週間後	0.1379	0.2931	0.1552	4.3567	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.1379	0.3017	0.1638	4.5988	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2931	0.3017	0.0086	0.2420	1.0000	

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.9(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	7.9%	9.0%	1.1%	0.3243	0.7457	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	7.9%	14.2%	6.3%	1.5638	0.1179	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	7.9%	13.4%	5.6%	1.4204	0.1555	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	7.9%	13.9%	6.0%	1.7875	0.0739	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	9.0%	14.2%	5.1%	1.2352	0.2167	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	9.0%	13.4%	4.4%	1.0899	0.2758	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	9.0%	13.9%	4.9%	1.4119	0.1580	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	14.2%	13.4%	0.7%	0.1576	0.8748	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	14.2%	13.9%	0.2%	0.0669	0.9466	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	13.4%	13.9%	0.5%	0.1285	0.8978	[]	
	Q6.9(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	25.2%	25.4%	0.2%	0.0386	0.9692	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	25.2%	35.4%	10.2%	1.7214	0.0852	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	25.2%	23.5%	1.7%	0.3043	0.7609	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	25.2%	15.7%	9.4%	2.3946	0.0166	[*]
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	25.4%	35.4%	10.0%	1.6661	0.0957	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	25.4%	23.5%	1.9%	0.3394	0.7343	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	25.4%	15.7%	9.7%	2.4128	0.0158	[*]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	35.4%	23.5%	11.9%	1.9851	0.0471	[*]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	35.4%	15.7%	19.7%	4.5655	0.0000	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	23.5%	15.7%	7.8%	1.9458	0.0517	[]	
Q6.9(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	19.7%	32.8%	13.1%	2.3531	0.0186	[*]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	19.7%	31.9%	12.2%	2.1621	0.0306	[*]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	19.7%	28.6%	8.9%	1.6313	0.1028	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	19.7%	13.4%	6.3%	1.7236	0.0848	[]
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	32.8%	31.9%	0.9%	0.1520	0.8792	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	32.8%	28.6%	4.2%	0.7093	0.4781	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	32.8%	13.4%	19.4%	4.8449	0.0000	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	31.9%	28.6%	3.3%	0.5452	0.5856	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	31.9%	13.4%	18.5%	4.5273	0.0000	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	28.6%	13.4%	15.2%	3.8496	0.0001	[**]	

10) 何もしない

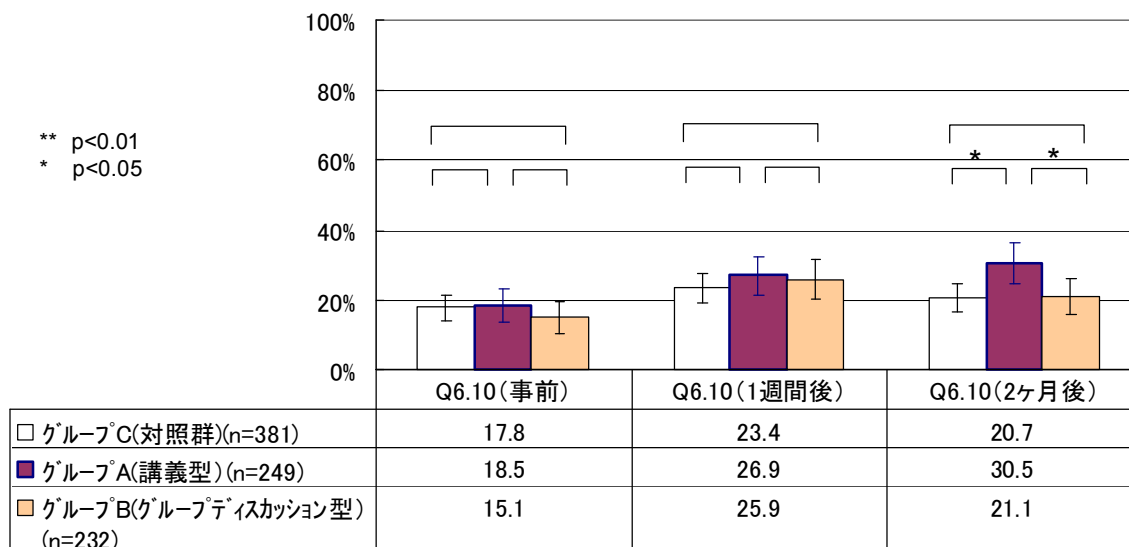
「何もしない」と回答した人の割合は、対照群では約2割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約2～3割となっている。

グループA（講義型）でやや増加しており、2ヶ月後の時点で他のグループとの間で有意差がみられる。

（「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとき）

Q6.10. 何もしない(気にしない)

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q6.10	14.1410	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	1.1427	2	0.5713	3.3552	0.0351	*
時期	3.2416	2	1.6208	9.5180	0.0001	**
グループ * 時期	0.8749	4	0.2187	1.2845	0.2737	
誤差	438.8235	2577	0.1703			
全体	443.8024	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q6.10	Bonferroni	A	B	0.2530	0.2069	0.0461	2.1212	0.1020	
			A	C	0.2530	0.2065	0.0465	2.3970	0.0498	*
			B	C	0.2069	0.2065	0.0004	0.0213	1.0000	
時期	Q6.10	Bonferroni	事前	1週間後	0.1729	0.2506	0.0777	3.9104	0.0003	**
			事前	2ヶ月後	0.1729	0.2367	0.0638	3.2100	0.0040	**
			1週間後	2ヶ月後	0.2506	0.2367	0.0139	0.7004	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.10	事前	グループ	0.1594	2	0.0797	0.4681	0.6262	
		誤差	438.8235	2577	0.1703			
	1週間後	グループ	0.2101	2	0.1050	0.6169	0.5397	
		誤差	438.8235	2577	0.1703			
	2ヶ月後	グループ	1.6481	2	0.8240	4.8392	0.0080 **	
		誤差	438.8235	2577	0.1703			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定								**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.10	Bonferroni	事前	A	B	0.1847	0.1509	0.0339	0.8997	1.0000		
			A	C	0.1847	0.1785	0.0063	0.1862	1.0000		
			B	C	0.1509	0.1785	0.0276	0.8036	1.0000		
			1週間後	A	B	0.2691	0.2586	0.0105	0.2777	1.0000	
			A	C	0.2691	0.2336	0.0355	1.0551	0.8744		
			B	C	0.2586	0.2336	0.0250	0.7282	1.0000		
		2ヶ月後	A	B	0.3052	0.2112	0.0940	2.4968	0.0378 *		
			A	C	0.3052	0.2073	0.0979	2.9105	0.0109 *		
			B	C	0.2112	0.2073	0.0039	0.1123	1.0000		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q6.10	A	時期	1.9036	2	0.9518	5.5895	0.0038 **	
		誤差	438.8235	2577	0.1703			
	B	時期	1.3534	2	0.6767	3.9741	0.0189 *	
		誤差	438.8235	2577	0.1703			
	C	時期	0.5792	2	0.2896	1.7006	0.1828	
		誤差	438.8235	2577	0.1703			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定								**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q6.10	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1847	0.2691	0.0843	2.2804	0.0680		
			事前	2ヶ月後	0.1847	0.3052	0.1205	3.2578	0.0034 **		
			1週間後	2ヶ月後	0.2691	0.3052	0.0361	0.9773	0.9855		
			B	事前	1週間後	0.1509	0.2586	0.1078	2.8125	0.0149 *	
			事前	2ヶ月後	0.1509	0.2112	0.0603	1.5750	0.3461		
			1週間後	2ヶ月後	0.2586	0.2112	0.0474	1.2375	0.6480		
		C	事前	1週間後	0.1785	0.2336	0.0551	1.8435	0.1961		
			事前	2ヶ月後	0.1785	0.2073	0.0289	0.9657	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2336	0.2073	0.0262	0.8779	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q6.10(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	16.5%	20.5%	4.0%	0.8042	0.4213	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	16.5%	13.3%	3.3%	0.7062	0.4800	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	16.5%	16.8%	0.3%	0.0571	0.9545	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	16.5%	17.8%	1.3%	0.3369	0.7362	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	13.3%	7.2%	1.4709	0.1413	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	16.8%	3.7%	0.7340	0.4630	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	20.5%	17.8%	2.6%	0.6547	0.5126	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	13.3%	16.8%	3.5%	0.7514	0.4524	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	13.3%	17.8%	4.6%	1.1420	0.2535	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	16.8%	17.8%	1.0%	0.2603	0.7946	[]	
	Q6.10(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	27.6%	26.2%	1.3%	0.2365	0.8131	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	27.6%	17.7%	9.9%	1.8141	0.0697	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	27.6%	33.6%	6.1%	1.0308	0.3026	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	27.6%	23.4%	4.2%	0.9541	0.3400	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	26.2%	17.7%	8.5%	1.5740	0.1155	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	26.2%	33.6%	7.4%	1.2521	0.2105	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	26.2%	23.4%	2.9%	0.6455	0.5186	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	17.7%	33.6%	15.9%	2.7670	0.0057	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	17.7%	23.4%	5.7%	1.2743	0.2026	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	33.6%	23.4%	10.3%	2.2317	0.0256	[*]	
Q6.10(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	32.3%	28.7%	3.6%	0.6158	0.5380	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	32.3%	20.4%	11.9%	2.0860	0.0370	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	32.3%	21.8%	10.4%	1.8372	0.0662	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	32.3%	20.7%	11.5%	2.6535	0.0080	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	28.7%	20.4%	8.3%	1.4806	0.1387	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	28.7%	21.8%	6.8%	1.2210	0.2221	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	28.7%	20.7%	8.0%	1.8263	0.0678	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.4%	21.8%	1.5%	0.2788	0.7804	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	20.4%	20.7%	0.4%	0.0879	0.9300	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	21.8%	20.7%	1.1%	0.2604	0.7946	[]	

11) まとめ

①2ヶ月後の変化

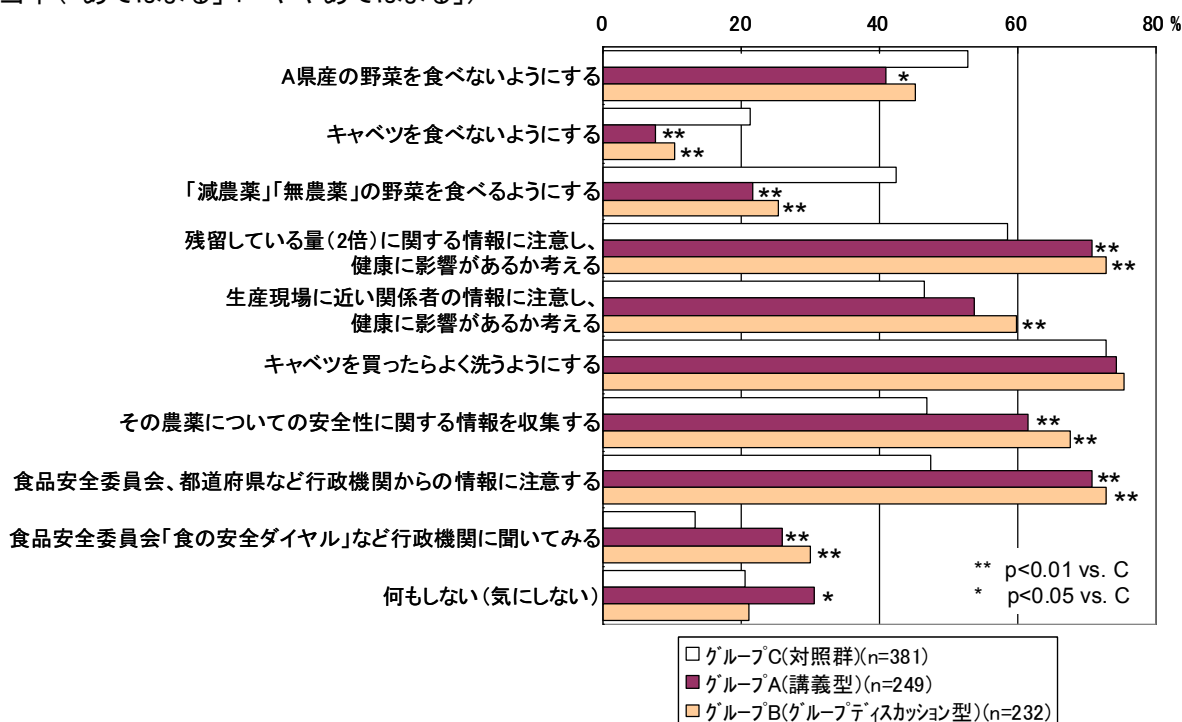
「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」場合の行動についてみると、全体的に、「キャベツを食べないようにする」「『減農薬』『無農薬』の野菜を食べる」などの回避行動をとる人の割合が減少し、情報に注意する人の割合が増加している。

グループA、Bを比較すると「気にしない」を除く全ての行動についてグループB（グループディスカッション型）の選択率が高くなっている。

Q6「A県産のキャベツから残留基準量の2倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとします。

そのとき、あなたはどのように行動しますか。

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）



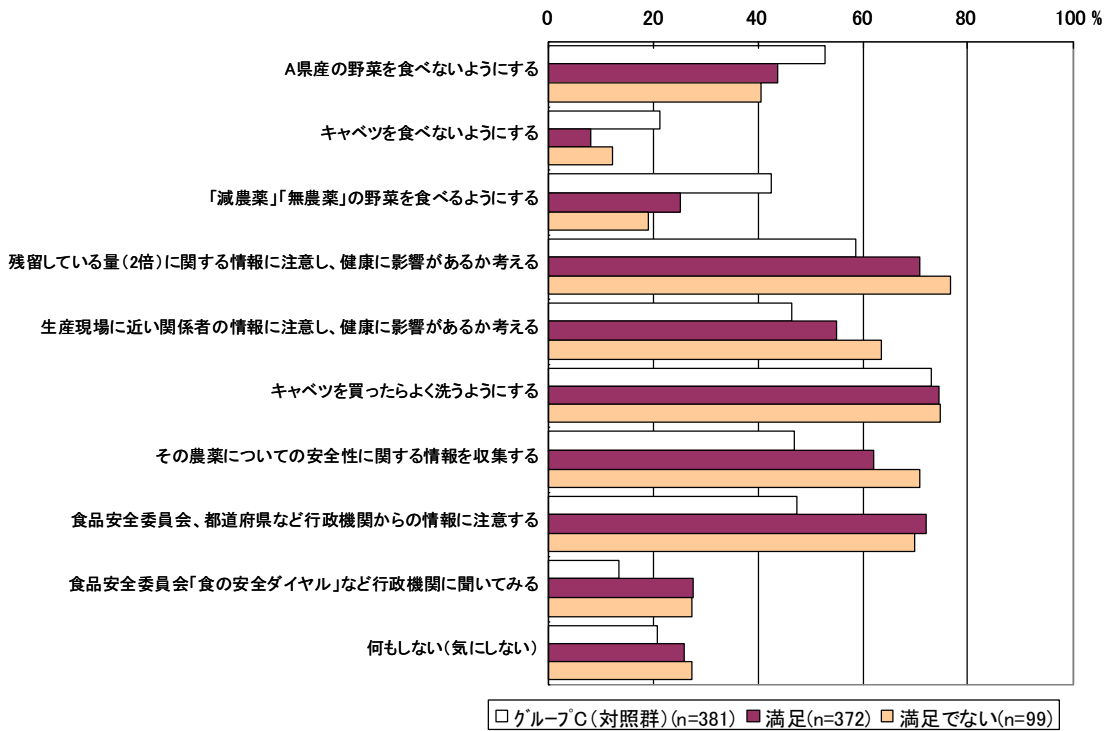
	合計	Q6 (2ヶ月後)										
		A県産の野菜を食べないようにする	キャベツを食べないようにする	「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする	残留している量(2倍)に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える	生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える	キャベツを買ったらよく洗うようにする	その農薬についての安全性に関する情報を収集する	食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する	食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる	何もしない(気にしない)	
全体	862	47.3	14.4	31.9	65.9	52.2	74.0	56.7	61.0	21.6	23.7	
グループ	A. 講義型 計	249	41.0	7.6	21.7	70.7	53.8	74.3	61.4	70.7	26.1	30.5
	-A-1. 講義型(1回目)	127	36.2	6.3	19.7	70.1	52.8	76.4	57.5	70.9	19.7	32.3
	-A-2. 講義型(2回目)	122	45.9	9.0	23.8	71.3	54.9	72.1	65.6	70.5	32.8	28.7
	B. Grディスカッション型 計	232	45.3	10.3	25.4	72.8	59.9	75.4	67.7	72.8	30.2	21.1
	-B-1. Grディスカッション型(1回目)	113	49.6	10.6	29.2	71.7	61.9	77.0	70.8	70.8	31.9	20.4
	-B-2. Grディスカッション型(2回目)	119	41.2	10.1	21.8	73.9	58.0	73.9	64.7	74.8	28.6	21.8
C. 対照群	381	52.8	21.3	42.5	58.5	46.5	73.0	47.0	47.5	13.4	20.7	

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q6.「A 県産のキャベツから残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとします。そのとき、あなたはどのように行動しますか。

該当率（「あてはまる」+「ややあてはまる」）



グループ	満足度	合計	Q6 (2ヶ月後)									
			A県産の野菜を食べないようにする	キャベツを食べないようにする	「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする	残留している量(2倍)に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える	生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える	キャベツを買ったらよく洗うようにする	その農薬についての安全性に関する情報を収集する	食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する	食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる	何もしない(気にしない)
全体		862	47.3	14.4	31.9	65.9	52.2	74.0	56.7	61.0	21.6	23.7
グループA	満足	372	43.5	8.1	25.0	70.7	54.8	74.5	62.1	72.0	27.4	25.8
	満足でない	99	40.4	12.1	19.2	76.8	63.6	74.7	70.7	69.7	27.3	27.3
グループB	満足	216	40.7	6.9	22.2	69.9	53.7	74.5	59.7	70.8	24.5	29.2
	満足でない	156	47.4	9.6	28.8	71.8	56.4	74.4	65.4	73.7	31.4	21.2
グループC	満足	27	37.0	11.1	22.2	77.8	55.6	70.4	66.7	63.0	29.6	40.7
	満足でない	72	41.7	12.5	18.1	76.4	66.7	76.4	72.2	72.2	26.4	22.2
グループC (対照群)		381	52.8	21.3	42.5	58.5	46.5	73.0	47.0	47.5	13.4	20.7

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
A県産の野菜を食べないようにする	満足	満足でない	43.5%	40.4%	3.1%	0.5618	0.5743	[]
キャベツを食べないようにする	満足	満足でない	8.1%	12.1%	4.1%	1.2587	0.2081	[]
「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする	満足	満足でない	25.0%	19.2%	5.8%	1.2064	0.2277	[]
残留している量(2倍)に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える	満足	満足でない	70.7%	76.8%	6.1%	1.1948	0.2321	[]
生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える	満足	満足でない	54.8%	63.6%	8.8%	1.5700	0.1164	[]
キャベツを買ったらよく洗うようにする	満足	満足でない	74.5%	74.7%	0.3%	0.0579	0.9539	[]
その農薬についての安全性に関する情報を収集する	満足	満足でない	62.1%	70.7%	8.6%	1.5853	0.1129	[]
食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する	満足	満足でない	72.0%	69.7%	2.3%	0.4598	0.6457	[]
食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる	満足	満足でない	27.4%	27.3%	0.1%	0.0291	0.9768	[]
何もしない(気にしない)	満足	満足でない	25.8%	27.3%	1.5%	0.2952	0.7679	[]

(7)食品選択に係る行動

1) 危険性を意識せずに選択

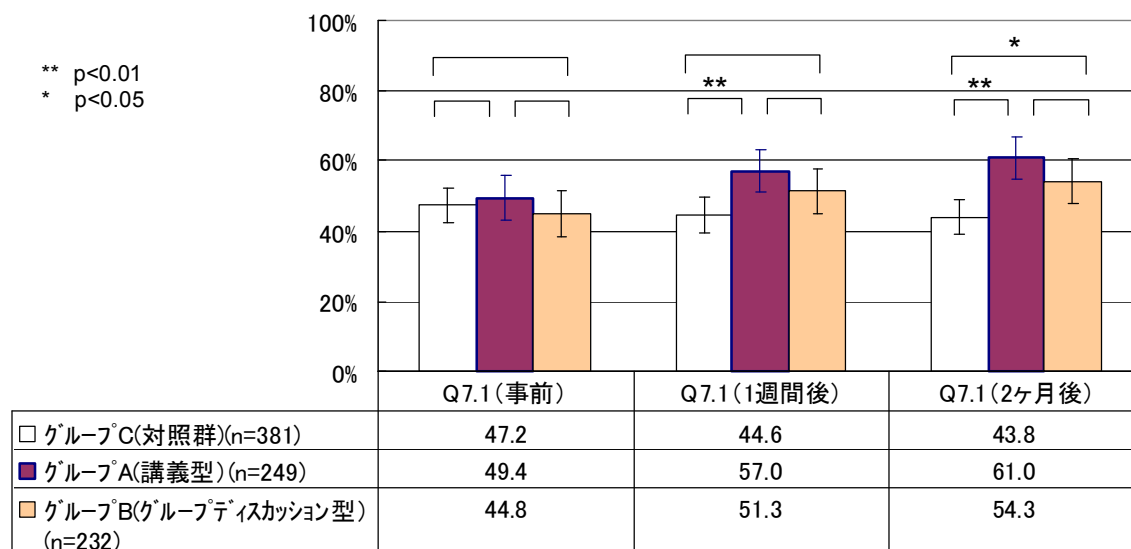
「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」と回答した人の割合は対照群では約 4～5 割だが、グループ A（講義型）では約 6 割、グループ B（グループディスカッション型）では約 5 割となっている。

2ヶ月後においては、グループ A（講義型）と対照群との間に 20%近い差異がある。

また、グループ A（講義型）では 1週間後と 2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q7.1. 普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している。

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

ルビーン検定				
目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.1	4.5894	8	2577	0.0000

分散分析表					
因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値 判定
グループ	5.0945	2	2.5473	10.2842	0.0000 **
時期	1.4748	2	0.7374	2.9770	0.0511
グループ * 時期	2.2184	4	0.5546	2.2391	0.0625
誤差	638.2915	2577	0.2477		
全体	646.4613	2585			

多重比較検定									
因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値 判定
グループ	Q7.1	Bonferroni	A	B	0.5582	0.5014	0.0568	2.1662	0.0912
			A	C	0.5582	0.4523	0.1059	4.5233	0.0000 **
			B	C	0.5014	0.4523	0.0491	2.0527	0.1206
時期	Q7.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.4722	0.5000	0.0278	1.1614	0.7367
			事前	2ヶ月後	0.4722	0.5162	0.0441	1.8389	0.1981
			1週間後	2ヶ月後	0.5000	0.5162	0.0162	0.6775	1.0000

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.1	事前	グループ	0.2509	2	0.1254	0.5064	0.6027	
		誤差	638.2915	2577	0.2477			
	1週間後	グループ	2.3717	2	1.1859	4.7877	0.0084	**
		誤差	638.2915	2577	0.2477			
	2ヶ月後	グループ	4.6903	2	2.3451	9.4681	0.0001	**
		誤差	638.2915	2577	0.2477			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q7.1	Bonferroni	事前	A	B	0.4940	0.4483	0.0457	1.0063	0.9431	
			A	C	0.4940	0.4724	0.0215	0.5310	1.0000	
			B	C	0.4483	0.4724	0.0242	0.5831	1.0000	
		1週間後	A	B	0.5703	0.5129	0.0574	1.2629	0.6203	
			A	C	0.5703	0.4462	0.1241	3.0596	0.0067	**
			B	C	0.5129	0.4462	0.0667	1.6102	0.3224	
	2ヶ月後	A	B	0.6104	0.5431	0.0673	1.4828	0.4148		
		A	C	0.6104	0.4383	0.1721	4.2440	0.0001	**	
		B	C	0.5431	0.4383	0.1048	2.5282	0.0346	*	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定							**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.1	A	時期	1.7430	2	0.8715	3.5185	0.0298	*
		誤差	638.2915	2577	0.2477			
	B	時期	1.0891	2	0.5445	2.1985	0.1112	
		誤差	638.2915	2577	0.2477			
	C	時期	0.2432	2	0.1216	0.4910	0.6121	
		誤差	638.2915	2577	0.2477			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4940	0.5703	0.0763	1.7108	0.2617		
			事前	2ヶ月後	0.4940	0.6104	0.1165	2.6111	0.0272	*	
			1週間後	2ヶ月後	0.5703	0.6104	0.0402	0.9004	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.4483	0.5129	0.0647	1.3992	0.4856	
				事前	2ヶ月後	0.4483	0.5431	0.0948	2.0522	0.1208	
				1週間後	2ヶ月後	0.5129	0.5431	0.0302	0.6530	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.4724	0.4462	0.0262	0.7279	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.4724	0.4383	0.0341	0.9463	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.4462	0.4383	0.0079	0.2184	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

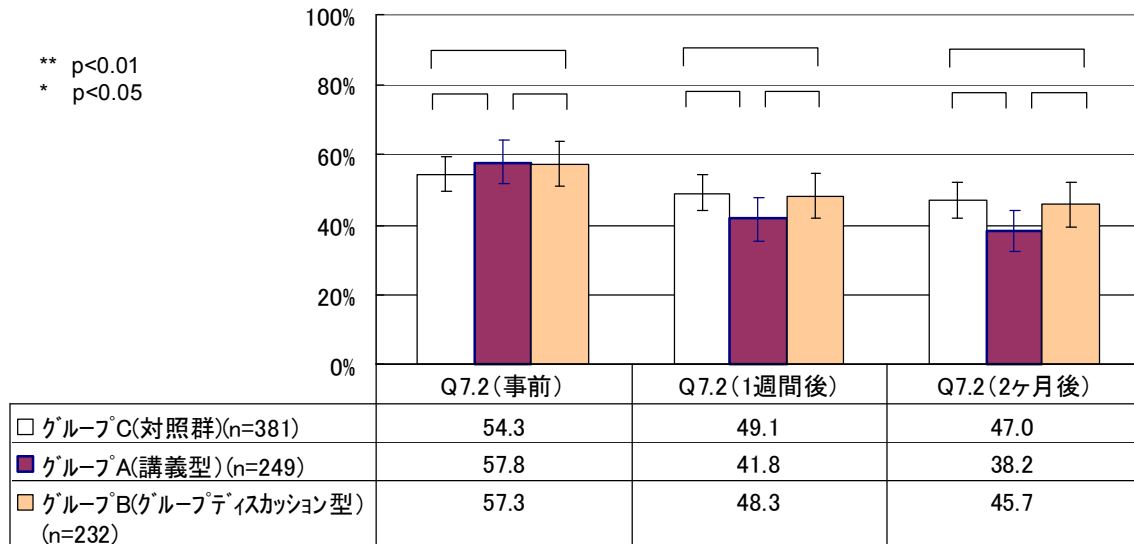
カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	50.4%	48.4%	2.0%	0.3208	0.7484	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	50.4%	42.5%	7.9%	1.2270	0.2198	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	50.4%	47.1%	3.3%	0.5229	0.6010	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	50.4%	47.2%	3.1%	0.6153	0.5384	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	48.4%	42.5%	5.9%	0.9048	0.3656	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	48.4%	47.1%	1.3%	0.2023	0.8397	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	48.4%	47.2%	1.1%	0.2149	0.8298	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	42.5%	47.1%	4.6%	0.7013	0.4831	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	42.5%	47.2%	4.8%	0.8925	0.3721	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	47.1%	47.2%	0.2%	0.0353	0.9718	[]	
	Q7.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	58.3%	55.7%	2.5%	0.4032	0.6868	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	58.3%	46.0%	12.3%	1.8969	0.0578	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	58.3%	56.3%	2.0%	0.3114	0.7555	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	58.3%	44.6%	13.6%	2.6661	0.0077	**
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	55.7%	46.0%	9.7%	1.4893	0.1364	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	55.7%	56.3%	0.6%	0.0883	0.9296	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	55.7%	44.6%	11.1%	2.1407	0.0323	*	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	46.0%	56.3%	10.3%	1.5665	0.1172	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	46.0%	44.6%	1.4%	0.2624	0.7930	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	56.3%	44.6%	11.7%	2.2281	0.0259	*	
Q7.1(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	60.6%	61.5%	0.8%	0.1368	0.8912	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	60.6%	51.3%	9.3%	1.4501	0.1470	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	60.6%	57.1%	3.5%	0.5556	0.5785	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	60.6%	43.8%	16.8%	3.2814	0.0010	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	61.5%	51.3%	10.1%	1.5682	0.1168	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.5%	57.1%	4.3%	0.6846	0.4936	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	61.5%	43.8%	17.6%	3.3945	0.0007	**	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	51.3%	57.1%	5.8%	0.8888	0.3741	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	51.3%	43.8%	7.5%	1.4051	0.1600	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	57.1%	43.8%	13.3%	2.5396	0.0111	*	

2) 問題となった食品を回避

「問題があると話題になった食品は買わない」と回答した人の割合は、対照群では約 5 割だが、グループ A（講義型）では約 4 割、グループ B（グループディスカッション型）では約 5 割となっており、グループ A（講義型）においてやや減少している。

また、グループ A（講義型）では、1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q7.2. 問題があると話題になった食品は買わない 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.2	6.1077	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	0.9988	2	0.4994	2.0205	0.1328	
時期	7.5669	2	3.7835	15.3073	0.0000	**
グループ * 時期	1.3649	4	0.3412	1.3806	0.2381	
誤差	636.9506	2577	0.2472			
全体	646.2386	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q7.2	Bonferroni	A	B	0.4592	0.5043	0.0451	1.7235	0.2548	
			A	C	0.4592	0.5013	0.0421	1.8017	0.2151	
			B	C	0.5043	0.5013	0.0030	0.1254	1.0000	
時期	Q7.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.5615	0.4675	0.0940	3.9239	0.0003	**
			事前	2ヶ月後	0.5615	0.4408	0.1206	5.0381	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.4675	0.4408	0.0267	1.1142	0.7959	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.2	事前	グループ	0.2287	2	0.1143	0.4626	0.6297	
		誤差	636.9506	2577	0.2472			
	1週間後	グループ	0.8794	2	0.4397	1.7789	0.1690	
		誤差	636.9506	2577	0.2472			
	2ヶ月後	グループ	1.2557	2	0.6279	2.5402	0.0790	
		誤差	636.9506	2577	0.2472			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.2	Bonferroni	事前	A	B	0.5783	0.5733	0.0050	0.1110	1.0000		
			A	C	0.5783	0.5433	0.0350	0.8641	1.0000		
			B	C	0.5733	0.5433	0.0300	0.7239	1.0000		
			1週間後	A	B	0.4177	0.4828	0.0651	1.4347	0.4544	
			A	C	0.4177	0.4908	0.0731	1.8054	0.2134		
			B	C	0.4828	0.4908	0.0081	0.1946	1.0000		
		2ヶ月後	A	B	0.3815	0.4569	0.0754	1.6614	0.2903		
			A	C	0.3815	0.4698	0.0883	2.1793	0.0882		
			B	C	0.4569	0.4698	0.0129	0.3121	1.0000		

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.2	A	時期	5.4645	2	2.7323	11.0543	0.0000	**
		誤差	636.9506	2577	0.2472			
	B	時期	1.7328	2	0.8664	3.5052	0.0302	*
		誤差	636.9506	2577	0.2472			
	C	時期	1.0919	2	0.5459	2.2088	0.1100	
		誤差	636.9506	2577	0.2472			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.5783	0.4177	0.1606	3.6054	0.0010	**	
			事前	2ヶ月後	0.5783	0.3815	0.1968	4.4166	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.4177	0.3815	0.0361	0.8112	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.5733	0.4828	0.0905	1.9609	0.1500	
			事前	2ヶ月後	0.5733	0.4569	0.1164	2.5212	0.0353	*	
			1週間後	2ヶ月後	0.4828	0.4569	0.0259	0.5603	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.5433	0.4908	0.0525	1.4573	0.4354		
			事前	2ヶ月後	0.5433	0.4698	0.0735	2.0403	0.1243		
			1週間後	2ヶ月後	0.4908	0.4698	0.0210	0.5829	1.0000		

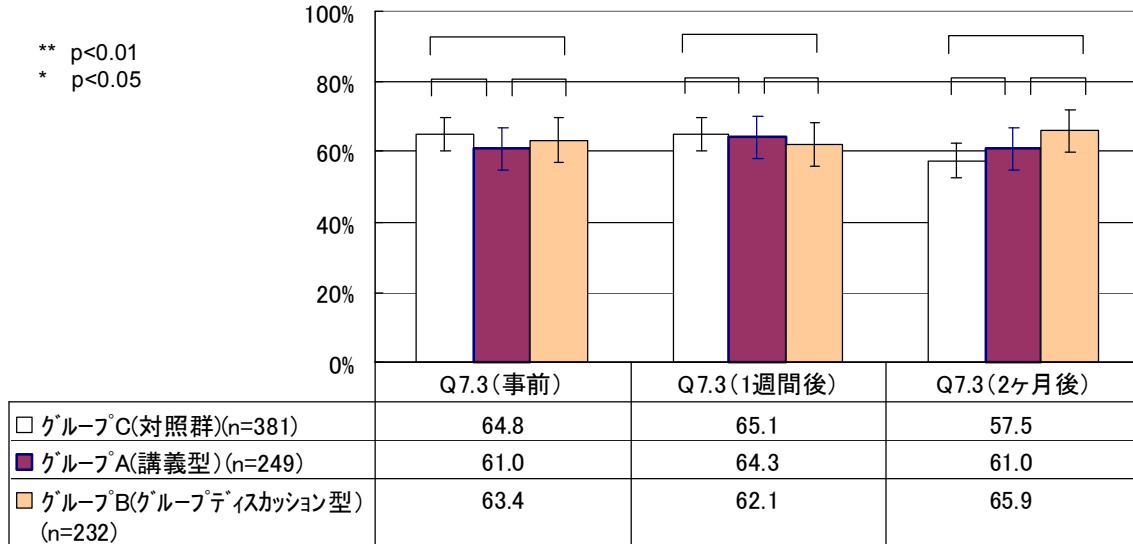
開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	60.6%	54.9%	5.7%	0.9124	0.3616	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	60.6%	60.2%	0.5%	0.0716	0.9429	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	60.6%	54.6%	6.0%	0.9533	0.3405	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	60.6%	54.3%	6.3%	1.2382	0.2156	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	54.9%	60.2%	5.3%	0.8147	0.4153	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	54.9%	54.6%	0.3%	0.0462	0.9632	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	54.9%	54.3%	0.6%	0.1134	0.9097	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	60.2%	54.6%	5.6%	0.8551	0.3925	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	60.2%	54.3%	5.8%	1.0986	0.2719	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	54.6%	54.3%	0.3%	0.0557	0.9556	[]	
	Q7.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	44.1%	39.3%	4.8%	0.7598	0.4474	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	44.1%	52.2%	8.1%	1.2566	0.2089	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	44.1%	44.5%	0.4%	0.0700	0.9442	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	44.1%	49.1%	5.0%	0.9743	0.3299	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	39.3%	52.2%	12.9%	1.9791	0.0478	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	39.3%	44.5%	5.2%	0.8170	0.4140	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	39.3%	49.1%	9.7%	1.8761	0.0606	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	52.2%	44.5%	7.7%	1.1693	0.2423	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	52.2%	49.1%	3.1%	0.5846	0.5588	[]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	44.5%	49.1%	4.5%	0.8660	0.3865	[]	
Q7.2(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	34.6%	41.8%	7.2%	1.1623	0.2451	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	34.6%	47.8%	13.1%	2.0675	0.0387	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	34.6%	43.7%	9.1%	1.4544	0.1458	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	34.6%	47.0%	12.3%	2.4260	0.0153	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	41.8%	47.8%	6.0%	0.9219	0.3566	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	41.8%	43.7%	1.9%	0.2972	0.7663	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	41.8%	47.0%	5.2%	0.9992	0.3177	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	47.8%	43.7%	4.1%	0.6251	0.5319	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	47.8%	47.0%	0.8%	0.1507	0.8802	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	43.7%	47.0%	3.3%	0.6273	0.5305	[]	

3) 国産のものを購入

「なるべく国産のものを購入するようにしている」と回答した人の割合に大きな変化はない。

Q7.3. なるべく国産のものを購入するようにしている 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.3	3.3204	8	2577	0.0009

分散分析表	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	** : 1%有意 * : 5%有意
因子						判定
グループ	0.1148	2	0.0574	0.2454	0.7824	
時期	0.2304	2	0.1152	0.4924	0.6112	
グループ * 時期	1.2707	4	0.3177	1.3582	0.2460	
誤差	602.7537	2577	0.2339			
全体	604.6435	2585				

多重比較検定	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	** : 1%有意 * : 5%有意
因子										判定
グループ	Q7.3	Bonferroni	A	B	0.6212	0.6379	0.0168	0.6586	1.0000	
			A	C	0.6212	0.6247	0.0035	0.1547	1.0000	
			B	C	0.6379	0.6247	0.0133	0.5702	1.0000	
時期	Q7.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.6334	0.6404	0.0070	0.2988	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.6334	0.6079	0.0255	1.0956	0.8201	
			1週間後	2ヶ月後	0.6404	0.6079	0.0325	1.3944	0.4900	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.3	事前	グループ	0.2158	2	0.1079	0.4613	0.6305	
		誤差	602.7537	2577	0.2339			
	1週間後	グループ	0.1335	2	0.0667	0.2853	0.7518	
		誤差	602.7537	2577	0.2339			
	2ヶ月後	グループ	1.0363	2	0.5181	2.2152	0.1093	
		誤差	602.7537	2577	0.2339			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.3	Bonferroni	事前	A	B	0.6104	0.6336	0.0232	0.5252	1.0000		
			A	C	0.6104	0.6483	0.0379	0.9604	1.0000		
			B	C	0.6336	0.6483	0.0147	0.3643	1.0000		
			1週間後	A	B	0.6426	0.6207	0.0219	0.4958	1.0000	
			A	C	0.6426	0.6509	0.0083	0.2118	1.0000		
			B	C	0.6207	0.6509	0.0302	0.7506	1.0000		
		2ヶ月後	A	B	0.6104	0.6595	0.0490	1.1113	0.7997		
			A	C	0.6104	0.5748	0.0356	0.9043	1.0000		
			B	C	0.6595	0.5748	0.0847	2.1025	0.1068		

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.3	A	時期	0.1714	2	0.0857	0.3663	0.6933	
		誤差	602.7537	2577	0.2339			
	B	時期	0.1810	2	0.0905	0.3870	0.6791	
		誤差	602.7537	2577	0.2339			
	C	時期	1.4226	2	0.7113	3.0410	0.0480 *	
		誤差	602.7537	2577	0.2339			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6104	0.6426	0.0321	0.7412	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6104	0.6104	0.0000	0.0000	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.6426	0.6104	0.0321	0.7412	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.6336	0.6207	0.0129	0.2880	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.6336	0.6595	0.0259	0.5759	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.6207	0.6595	0.0388	0.8639	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.6483	0.6509	0.0026	0.0749	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6483	0.5748	0.0735	2.0973	0.1082		
			1週間後	2ヶ月後	0.6509	0.5748	0.0761	2.1722	0.0898		

開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	62.2%	59.8%	2.4%	0.3832	0.7016	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	62.2%	64.6%	2.4%	0.3846	0.7005	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	62.2%	62.2%	0.0%	0.0032	0.9974	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	62.2%	64.8%	2.6%	0.5342	0.5932	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	59.8%	64.6%	4.8%	0.7525	0.4517	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	59.8%	62.2%	2.3%	0.3738	0.7086	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	59.8%	64.8%	5.0%	0.9977	0.3184	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	64.6%	62.2%	2.4%	0.3819	0.7025	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	64.6%	64.8%	0.2%	0.0445	0.9645	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	62.2%	64.8%	2.6%	0.5253	0.5994	[]	
	Q7.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	67.7%	60.7%	7.1%	1.1622	0.2452	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	67.7%	66.4%	1.3%	0.2213	0.8249	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	67.7%	58.0%	9.7%	1.5802	0.1141	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	67.7%	65.1%	2.6%	0.5398	0.5893	[]
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	60.7%	66.4%	5.7%	0.9089	0.3634	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	60.7%	58.0%	2.7%	0.4223	0.6728	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	60.7%	65.1%	4.4%	0.8885	0.3743	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.4%	58.0%	8.4%	1.3162	0.1881	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	66.4%	65.1%	1.3%	0.2511	0.8017	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	58.0%	65.1%	7.1%	1.4053	0.1599	[]	
Q7.3(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	64.6%	57.4%	7.2%	1.1630	0.2448	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	64.6%	71.7%	7.1%	1.1786	0.2386	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	64.6%	60.5%	4.1%	0.6581	0.5105	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	64.6%	57.5%	7.1%	1.4076	0.1593	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	57.4%	71.7%	14.3%	2.2861	0.0222	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	57.4%	60.5%	3.1%	0.4933	0.6218	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	57.4%	57.5%	0.1%	0.0201	0.9840	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	71.7%	60.5%	11.2%	1.7957	0.0725	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	71.7%	57.5%	14.2%	2.7147	0.0066	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	60.5%	57.5%	3.0%	0.5838	0.5594	[]	

4) 「減農薬」「無農薬」野菜を購入（健康に対する不安から）

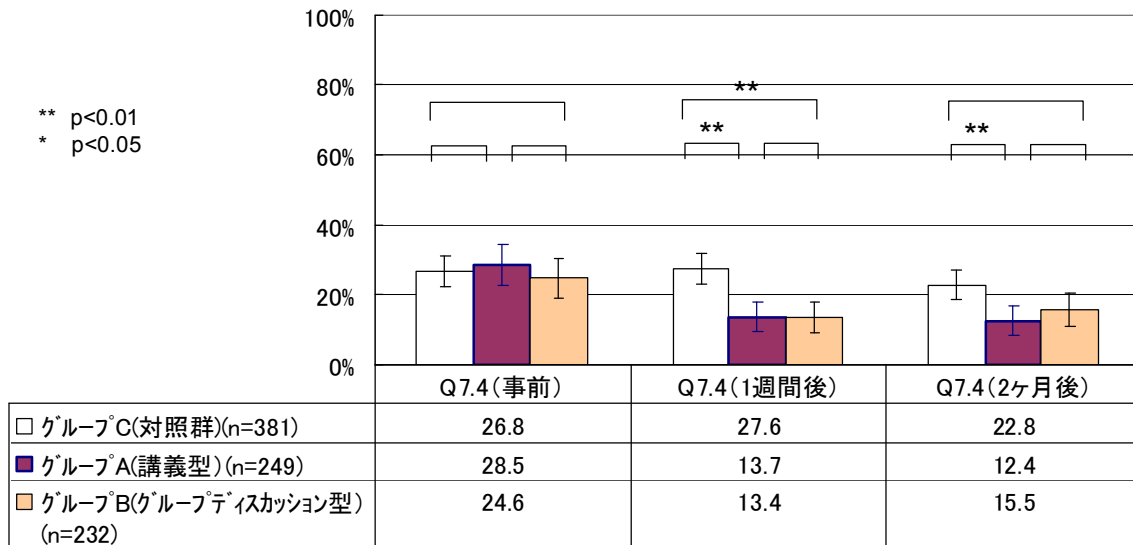
「『減農薬』『無農薬』野菜を購入している（健康に対する不安から）」と回答した人の割合は、対照群では約2割だが、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）では、ともに約1～2割となっている。

この変化は「『減農薬』『無農薬』野菜が必ずしも安全とは限らない」という説明内容と整合がとれている。

また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q7.4. 「減農薬」「無農薬」野菜を購入している（健康に対する不安から）

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.4	34.3569	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	3.7907	2	1.8953	11.4814	0.0000	**
時期	4.5577	2	2.2788	13.8045	0.0000	**
グループ * 時期	2.3909	4	0.5977	3.6209	0.0060	**
誤差	425.4100	2577	0.1651			
全体	435.3163	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q7.4	Bonferroni	A	B	0.1821	0.1782	0.0039	0.1822	1.0000	
			A	C	0.1821	0.2572	0.0752	3.9316	0.0003	**
			B	C	0.1782	0.2572	0.0791	4.0470	0.0002	**
時期	Q7.4	Bonferroni	事前	1週間後	0.2668	0.1972	0.0696	3.5566	0.0011	**
			事前	2ヶ月後	0.2668	0.1787	0.0882	4.5050	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.1972	0.1787	0.0186	0.9484	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.4	事前	グループ	0.1875	2	0.0937	0.5678	0.5668	
		誤差	425.4100	2577	0.1651			
	1週間後	グループ	4.1951	2	2.0976	12.7064	0.0000	**
		誤差	425.4100	2577	0.1651			
	2ヶ月後	グループ	1.7990	2	0.8995	5.4490	0.0044	**
		誤差	425.4100	2577	0.1651			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定						**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q7.4	Bonferroni	事前	A	B	0.2851	0.2457	0.0395	1.0641	0.8622	
			A	C	0.2851	0.2677	0.0174	0.5263	1.0000	
			B	C	0.2457	0.2677	0.0220	0.6510	1.0000	
		1週間後	A	B	0.1365	0.1336	0.0029	0.0789	1.0000	
			A	C	0.1365	0.2756	0.1390	4.1995	0.0001	**
			B	C	0.1336	0.2756	0.1420	4.1959	0.0001	**
	2ヶ月後	A	B	0.1245	0.1552	0.0307	0.8274	1.0000		
		A	C	0.1245	0.2283	0.1038	3.1365	0.0052	**	
		B	C	0.1552	0.2283	0.0732	2.1627	0.0920		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.4	A	時期	3.9866	2	1.9933	12.0748	0.0000	**
		誤差	425.4100	2577	0.1651			
	B	時期	1.6408	2	0.8204	4.9697	0.0070	**
		誤差	425.4100	2577	0.1651			
	C	時期	0.4882	2	0.2441	1.4786	0.2281	
		誤差	425.4100	2577	0.1651			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定						**:1%有意 *5%有意					
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.4	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2851	0.1365	0.1486	4.0808	0.0001	**	
			事前	2ヶ月後	0.2851	0.1245	0.1606	4.4116	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.1365	0.1245	0.0120	0.3309	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.2457	0.1336	0.1121	2.9708	0.0090	**
				事前	2ヶ月後	0.2457	0.1552	0.0905	2.3995	0.0495	*
				1週間後	2ヶ月後	0.1336	0.1552	0.0216	0.5713	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.2677	0.2756	0.0079	0.2675	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2677	0.2283	0.0394	1.3374	0.5436		
			1週間後	2ヶ月後	0.2756	0.2283	0.0472	1.6049	0.3259		

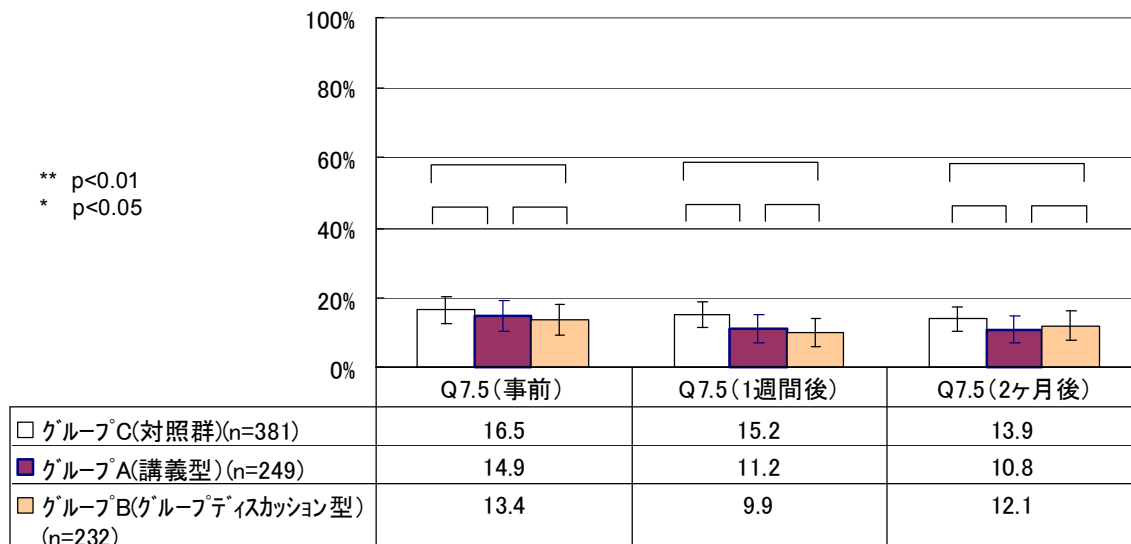
開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.4(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	23.6%	33.6%	10.0%	1.7445	0.0811	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	23.6%	23.0%	0.6%	0.1121	0.9107	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	23.6%	26.1%	2.4%	0.4408	0.6594	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	23.6%	26.8%	3.1%	0.7009	0.4833	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	33.6%	23.0%	10.6%	1.7979	0.0722	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	33.6%	26.1%	7.6%	1.2813	0.2001	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	33.6%	26.8%	6.8%	1.4566	0.1452	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	23.0%	26.1%	3.0%	0.5379	0.5906	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	23.0%	26.8%	3.8%	0.8017	0.4227	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	26.1%	26.8%	0.7%	0.1554	0.8765	[]	
	Q7.4(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	11.0%	16.4%	5.4%	1.2336	0.2173	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	11.0%	16.8%	5.8%	1.3002	0.1935	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	11.0%	10.1%	0.9%	0.2395	0.8107	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	11.0%	27.6%	16.5%	3.8103	0.0001	**
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	16.4%	16.8%	0.4%	0.0866	0.9310	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	16.4%	10.1%	6.3%	1.4431	0.1490	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	16.4%	27.6%	11.2%	2.4838	0.0130	*	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	16.8%	10.1%	6.7%	1.5059	0.1321	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	16.8%	27.6%	10.7%	2.3134	0.0207	*	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	10.1%	27.6%	17.5%	3.9305	0.0001	**	
Q7.4(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	10.2%	14.8%	4.5%	1.0795	0.2804	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	10.2%	17.7%	7.5%	1.6758	0.0938	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	10.2%	13.4%	3.2%	0.7800	0.4354	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	10.2%	22.8%	12.6%	3.0923	0.0020	**	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	14.8%	17.7%	2.9%	0.6127	0.5401	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	14.8%	13.4%	1.3%	0.2918	0.7704	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	14.8%	22.8%	8.1%	1.9113	0.0560	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	17.7%	13.4%	4.3%	0.8944	0.3711	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	17.7%	22.8%	5.1%	1.1639	0.2445	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	13.4%	22.8%	9.4%	2.2107	0.0271	*	

5) 「減農薬」「無農薬」野菜を購入（環境への配慮から）

『減農薬』『無農薬』野菜を購入している（環境に対する配慮から）」と回答した人の割合は、いずれも約1～2割で大きな変化はない。

Q7.5. 「減農薬」「無農薬」野菜を購入している（環境への配慮から）
 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.5	5.1179	8	2577	0.0000

分散分析表	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
因子						
グループ	0.6491	2	0.3246	2.7880	0.0617	
時期	0.4057	2	0.2028	1.7424	0.1753	
グループ * 時期	0.1236	4	0.0309	0.2654	0.9003	
誤差	300.0046	2577	0.1164			
全体	301.1694	2585				

多重比較検定	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
因子	Q7.5	Bonferroni	A	B	0.1232	0.1178	0.0053	0.2973	1.0000	
			A	C	0.1232	0.1522	0.0291	1.8110	0.2108	
			B	C	0.1178	0.1522	0.0344	2.0979	0.1080	
			事前	1週間後	0.1520	0.1265	0.0255	1.5529	0.3617	
時期	Q7.5	Bonferroni	事前	2ヶ月後	0.1520	0.1253	0.0267	1.6235	0.3138	
			1週間後	2ヶ月後	0.1265	0.1253	0.0012	0.0706	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.5	事前	グループ	0.1492	2	0.0746	0.6408	0.5269	
		誤差	300.0046	2577	0.1164			
	1週間後	グループ	0.4751	2	0.2376	2.0405	0.1302	
		誤差	300.0046	2577	0.1164			
	2ヶ月後	グループ	0.1484	2	0.0742	0.6374	0.5288	
		誤差	300.0046	2577	0.1164			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.5	Bonferroni	事前	A	B	0.1486	0.1336	0.0150	0.4809	1.0000		
			A	C	0.1486	0.1654	0.0168	0.6028	1.0000		
			B	C	0.1336	0.1654	0.0317	1.1168	0.7925		
			1週間後	A	B	0.1124	0.0991	0.0133	0.4276	1.0000	
			A	C	0.1124	0.1522	0.0398	1.4307	0.4579		
			B	C	0.0991	0.1522	0.0531	1.8686	0.1854		
		2ヶ月後	A	B	0.1084	0.1207	0.0123	0.3937	1.0000		
			A	C	0.1084	0.1391	0.0307	1.1032	0.8101		
			B	C	0.1207	0.1391	0.0184	0.6482	1.0000		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.5	A	時期	0.2436	2	0.1218	1.0464	0.3513	
		誤差	300.0046	2577	0.1164			
	B	時期	0.1408	2	0.0704	0.6047	0.5463	
		誤差	300.0046	2577	0.1164			
	C	時期	0.1312	2	0.0656	0.5636	0.5692	
		誤差	300.0046	2577	0.1164			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.5	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1486	0.1124	0.0361	1.1820	0.7119		
			事前	2ヶ月後	0.1486	0.1084	0.0402	1.3133	0.5676		
			1週間後	2ヶ月後	0.1124	0.1084	0.0040	1.1313	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.1336	0.0991	0.0345	1.0885	0.8294	
			事前	2ヶ月後	0.1336	0.1207	0.0129	0.4082	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.0991	0.1207	0.0216	0.6803	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.1654	0.1522	0.0131	0.5309	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.1654	0.1391	0.0262	1.0617	0.8654		
			1週間後	2ヶ月後	0.1522	0.1391	0.0131	0.5309	1.0000		

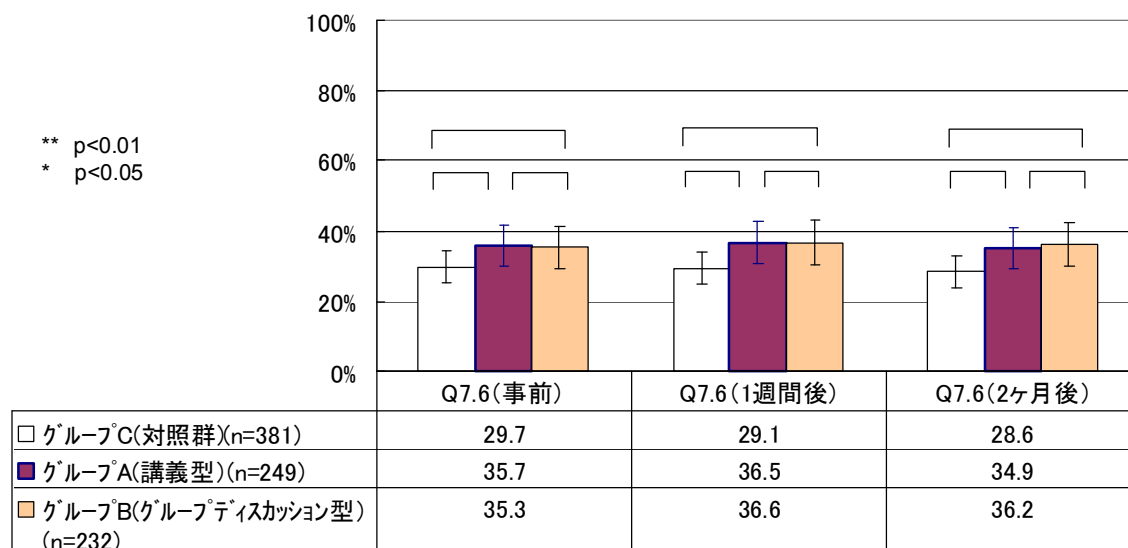
開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.5(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	14.2%	15.6%	1.4%	0.3106	0.7561	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	14.2%	8.8%	5.3%	1.2824	0.1997	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	14.2%	17.6%	3.5%	0.7455	0.4560	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	14.2%	16.5%	2.4%	0.6297	0.5289	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	15.6%	8.8%	6.7%	1.5659	0.1174	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	15.6%	17.6%	2.1%	0.4325	0.6654	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	15.6%	16.5%	1.0%	0.2503	0.8024	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	8.8%	17.6%	8.8%	1.9685	0.0490	[*]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	8.8%	16.5%	7.7%	2.0219	0.0432	[*]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	17.6%	16.5%	1.1%	0.2831	0.7771	[]	
	Q7.5(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	11.8%	10.7%	1.2%	0.2885	0.7730	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	11.8%	13.3%	1.5%	0.3421	0.7322	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	11.8%	6.7%	5.1%	1.3699	0.1707	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	11.8%	15.2%	3.4%	0.9493	0.3425	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	10.7%	13.3%	2.6%	0.6191	0.5359	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	10.7%	6.7%	3.9%	1.0824	0.2791	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	10.7%	15.2%	4.6%	1.2610	0.2073	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	13.3%	6.7%	6.6%	1.6691	0.0951	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	13.3%	15.2%	1.9%	0.5127	0.6082	[]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	6.7%	15.2%	8.5%	2.3914	0.0168	[*]	
Q7.5(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	10.2%	11.5%	1.2%	0.3144	0.7532	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	10.2%	12.4%	2.2%	0.5269	0.5982	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	10.2%	11.8%	1.5%	0.3833	0.7015	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	10.2%	13.9%	3.7%	1.0666	0.2861	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	11.5%	12.4%	0.9%	0.2161	0.8289	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	11.5%	11.8%	0.3%	0.0701	0.9441	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	11.5%	13.9%	2.4%	0.6890	0.4908	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	12.4%	11.8%	0.6%	0.1460	0.8839	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	12.4%	13.9%	1.5%	0.4148	0.6783	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	11.8%	13.9%	2.1%	0.5999	0.5486	[]	

6) 信頼のおける店舗や宅配などから購入

「信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している」と回答した人の割合に大きな変化はない。

Q7.6. 信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.6	6.9501	8	2577	0.0000

分散分析表 因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	2.9214	2	1.4607	6.6276	0.0013	**
時期	0.0305	2	0.0152	0.0692	0.9332	
グループ * 時期	0.0446	4	0.0112	0.0506	0.9952	
誤差	567.9586	2577	0.2204			
全体	570.9532	2585				

多重比較検定 因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q7.6	Bonferroni	A	B	0.3574	0.3606	0.0032	0.1295	1.0000	
			A	C	0.3574	0.2913	0.0661	2.9922	0.0084	**
			B	C	0.3606	0.2913	0.0693	3.0699	0.0065	**
時期	Q7.6	Bonferroni	事前	1週間後	0.3295	0.3329	0.0035	0.1539	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.3295	0.3248	0.0046	0.2052	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.3329	0.3248	0.0081	0.3591	1.0000	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.6	事前	グループ	0.7400	2	0.3700	1.6788	0.1868	
		誤差	567.9586	2577	0.2204			
	1週間後	グループ	1.1822	2	0.5911	2.6819	0.0686	
		誤差	567.9586	2577	0.2204			
	2ヶ月後	グループ	1.0438	2	0.5219	2.3681	0.0939	
		誤差	567.9586	2577	0.2204			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.6	Bonferroni	事前	A	B	0.3574	0.3534	0.0040	0.0929	1.0000		
			A	C	0.3574	0.2966	0.0608	1.5904	0.3356		
			B	C	0.3534	0.2966	0.0569	1.4544	0.4379		
			1週間後	A	B	0.3655	0.3664	0.0009	0.0214	1.0000	
			A	C	0.3655	0.2913	0.0741	1.9375	0.1584		
			B	C	0.3664	0.2913	0.0750	1.9194	0.1651		
		2ヶ月後	A	B	0.3494	0.3621	0.0127	0.2958	1.0000		
			A	C	0.3494	0.2861	0.0633	1.6548	0.2942		
			B	C	0.3621	0.2861	0.0760	1.9434	0.1562		

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.6	A	時期	0.0321	2	0.0161	0.0729	0.9297	
		誤差	567.9586	2577	0.2204			
	B	時期	0.0201	2	0.0101	0.0456	0.9554	
		誤差	567.9586	2577	0.2204			
	C	時期	0.0210	2	0.0105	0.0476	0.9535	
		誤差	567.9586	2577	0.2204			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.6	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.3574	0.3655	0.0080	0.1909	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.3574	0.3494	0.0080	0.1909	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.3655	0.3494	0.0161	0.3818	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.3534	0.3664	0.0129	0.2967	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.3534	0.3621	0.0086	0.1978	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.3664	0.3621	0.0043	0.0989	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.2966	0.2913	0.0052	0.1543	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2966	0.2861	0.0105	0.3087	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2913	0.2861	0.0052	0.1543	1.0000		

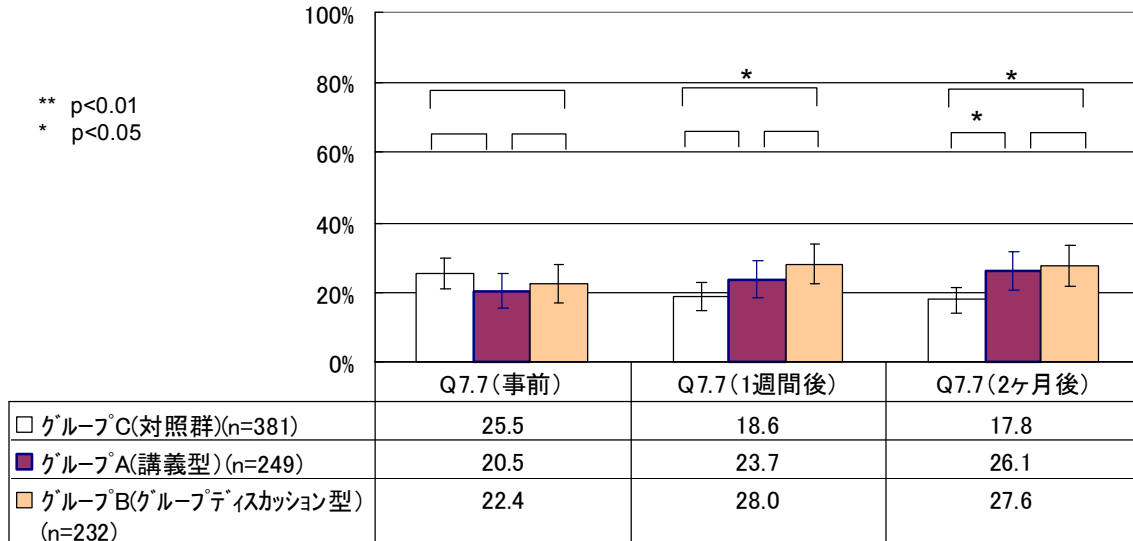
開催回別の差異 (Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.6(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	34.6%	36.9%	2.2%	0.3686	0.7124	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	34.6%	35.4%	0.8%	0.1220	0.9029	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	34.6%	35.3%	0.6%	0.1066	0.9151	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	34.6%	29.7%	5.0%	1.0532	0.2922	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	36.9%	35.4%	1.5%	0.2370	0.8126	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	36.9%	35.3%	1.6%	0.2571	0.7971	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	36.9%	29.7%	7.2%	1.4966	0.1345	[*]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	35.4%	35.3%	0.1%	0.0166	0.9868	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	35.4%	29.7%	5.7%	1.1588	0.2465	[*]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	35.3%	29.7%	5.6%	1.1603	0.2459	[*]	
	Q7.6(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	35.4%	37.7%	2.3%	0.3721	0.7098	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	35.4%	36.3%	0.9%	0.1371	0.8910	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	35.4%	37.0%	1.5%	0.2515	0.8014	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	35.4%	29.1%	6.3%	1.3328	0.1826	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	37.7%	36.3%	1.4%	0.2255	0.8216	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	37.7%	37.0%	0.7%	0.1172	0.9067	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	37.7%	29.1%	8.6%	1.7782	0.0754	[*]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	36.3%	37.0%	0.7%	0.1093	0.9130	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	36.3%	29.1%	7.1%	1.4461	0.1482	[*]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	37.0%	29.1%	7.8%	1.6144	0.1064	[*]	
Q7.6(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	35.4%	34.4%	1.0%	0.1666	0.8677	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	35.4%	33.6%	1.8%	0.2934	0.7692	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	35.4%	38.7%	3.2%	0.5232	0.6009	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	35.4%	28.6%	6.8%	1.4490	0.1473	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	34.4%	33.6%	0.8%	0.1290	0.8974	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	34.4%	38.7%	4.2%	0.6818	0.4954	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	34.4%	28.6%	5.8%	1.2201	0.2224	[*]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	33.6%	38.7%	5.0%	0.7964	0.4258	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	33.6%	28.6%	5.0%	1.0249	0.3054	[*]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	38.7%	28.6%	10.0%	2.0685	0.0386	[*]	

7) 食品の安全性について情報を収集

「食品の安全性について情報収集している」と回答した人の割合は約2~3割。グループC（対照群）がわずかに減少しているのに対して、グループB（グループディスカッション型）が1週間後からわずかに増加している。

Q7.7. 食品の安全性について情報収集している 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.7	10.1009	8	2577	0.0000

分散分析表 因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	1.2720	2	0.6360	3.6180	0.0270	*
時期	0.0472	2	0.0236	0.1344	0.8743	
グループ * 時期	2.1678	4	0.5419	3.0829	0.0152	*
誤差	453.0219	2577	0.1758			
全体	456.4764	2585				

多重比較検定 因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q7.7	Bonferroni	A	B	0.2343	0.2601	0.0258	1.1674	0.7294	
			A	C	0.2343	0.2065	0.0278	1.4091	0.4768	
			B	C	0.2601	0.2065	0.0536	2.6581	0.0237	*
時期	Q7.7	Bonferroni	事前	1週間後	0.2320	0.2262	0.0058	0.2872	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.2320	0.2285	0.0035	0.1723	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.2262	0.2285	0.0023	0.1149	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.7	事前	グループ	0.3928	2	0.1964	1.1172	0.3274	
		誤差	453.0219	2577	0.1758			
	1週間後	グループ	1.3096	2	0.6548	3.7247	0.0242 *	
		誤差	453.0219	2577	0.1758			
	2ヶ月後	グループ	1.7375	2	0.8687	4.9418	0.0072 **	
		誤差	453.0219	2577	0.1758			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.7	Bonferroni	事前	A	B	0.2048	0.2241	0.0193	0.5049	1.0000		
			A	C	0.2048	0.2546	0.0498	1.4568	0.4359		
			B	C	0.2241	0.2546	0.0305	0.8722	1.0000		
			1週間後	A	B	0.2369	0.2802	0.0432	1.1298	0.7760	
			A	C	0.2369	0.1864	0.0506	1.4808	0.4163		
			B	C	0.2802	0.1864	0.0938	2.6870	0.0218 *		
		2ヶ月後	A	B	0.2610	0.2759	0.0148	0.3873	1.0000		
			A	C	0.2610	0.1785	0.0826	2.4165	0.0472 *		
			B	C	0.2759	0.1785	0.0974	2.7891	0.0160 *		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.7	A	時期	0.3963	2	0.1981	1.1270	0.3242	
		誤差	453.0219	2577	0.1758			
	B	時期	0.4511	2	0.2256	1.2832	0.2773	
		誤差	453.0219	2577	0.1758			
	C	時期	1.3351	2	0.6675	3.7973	0.0226 *	
		誤差	453.0219	2577	0.1758			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.7	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2048	0.2369	0.0321	0.8550	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2048	0.2610	0.0562	1.4963	0.4041		
			1週間後	2ヶ月後	0.2369	0.2610	0.0241	0.6413	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.2241	0.2802	0.0560	1.4394	0.4505	
			事前	2ヶ月後	0.2241	0.2759	0.0517	1.3287	0.5522		
			1週間後	2ヶ月後	0.2802	0.2759	0.0043	0.1107	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.2546	0.1864	0.0682	2.2464	0.0743		
			事前	2ヶ月後	0.2546	0.1785	0.0761	2.5056	0.0369 *		
			1週間後	2ヶ月後	0.1864	0.1785	0.0079	0.2592	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.7(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	20.5%	20.5%	0.0%	0.0038	0.9970	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	27.4%	7.0%	1.2649	0.2059	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	17.6%	2.8%	0.5633	0.5732	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	20.5%	25.5%	5.0%	1.1362	0.2559	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	27.4%	6.9%	1.2480	0.2120	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	17.6%	2.8%	0.5618	0.5742	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	20.5%	25.5%	5.0%	1.1141	0.2652	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	27.4%	17.6%	9.8%	1.7867	0.0740	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	27.4%	25.5%	2.0%	0.4207	0.6740	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	17.6%	25.5%	7.8%	1.7520	0.0798	[]	
	Q7.7(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	19.7%	27.9%	8.2%	1.5182	0.1290	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	19.7%	23.9%	4.2%	0.7900	0.4295	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	19.7%	31.9%	12.2%	2.1994	0.0278	[*]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	19.7%	18.6%	1.0%	0.2617	0.7935	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	27.9%	23.9%	4.0%	0.6945	0.4874	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	27.9%	31.9%	4.1%	0.6891	0.4907	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	27.9%	18.6%	9.2%	2.1841	0.0290	[*]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	23.9%	31.9%	8.0%	1.3628	0.1729	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	23.9%	18.6%	5.3%	1.2311	0.2183	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	31.9%	18.6%	13.3%	3.0669	0.0022	[**]	
Q7.7(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	23.6%	28.7%	5.1%	0.9100	0.3628	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	23.6%	25.7%	2.0%	0.3667	0.7139	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	23.6%	29.4%	5.8%	1.0292	0.3034	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	23.6%	17.8%	5.8%	1.4282	0.1532	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	28.7%	25.7%	3.0%	0.5204	0.6028	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	28.7%	29.4%	0.7%	0.1237	0.9016	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	28.7%	17.8%	10.8%	2.5825	0.0098	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	25.7%	29.4%	3.7%	0.6384	0.5232	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	25.7%	17.8%	7.8%	1.8368	0.0662	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	29.4%	17.8%	11.6%	2.7228	0.0065	[**]	

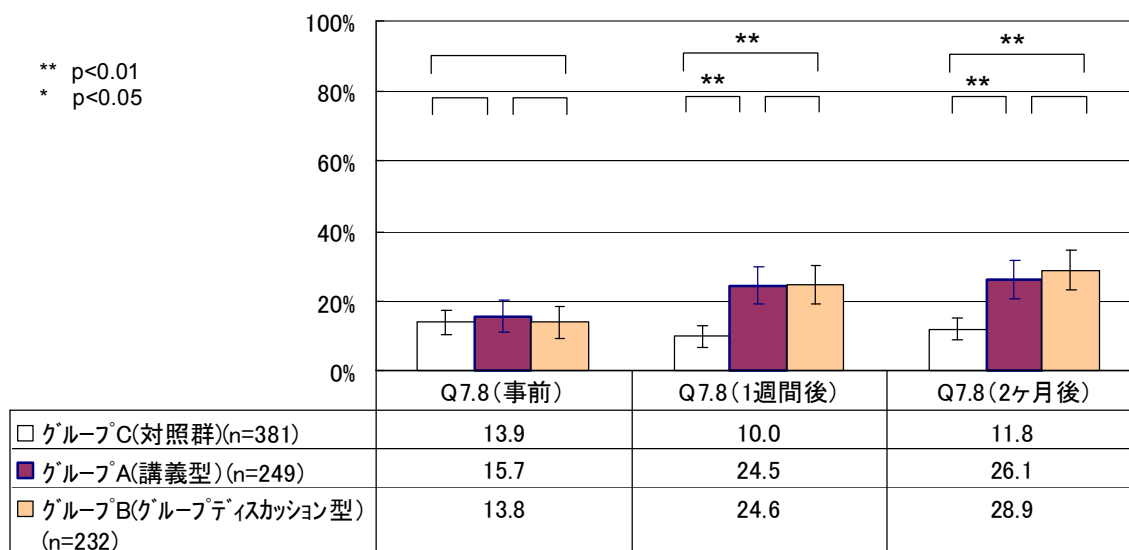
8) 気になったときは行政から情報を得る

「食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている」と回答した人の割合は対照群では約 1 割だが、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）では、ともに約 2～3 割となっている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも選択した人が増加しており、行政情報の利用意向はやや高まっている。

また、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも 1 週間後と 2 ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q7.8. 食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q7.8	40.0125	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	6.8319	2	3.4159	24.1350	0.0000	**
時期	2.6015	2	1.3008	9.1904	0.0001	**
グループ * 時期	3.0190	4	0.7547	5.3326	0.0003	**
誤差	364.7350	2577	0.1415			
全体	376.2386	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q7.8	Bonferroni	A	B	0.2209	0.2241	0.0033	0.1642	1.0000	
			A	C	0.2209	0.1190	0.1019	5.7569	0.0000	**
			B	C	0.2241	0.1190	0.1052	5.8133	0.0000	**
時期	Q7.8	Bonferroni	事前	1週間後	0.1439	0.1810	0.0371	2.0486	0.1218	
			事前	2ヶ月後	0.1439	0.2053	0.0615	3.3929	0.0021	**
			1週間後	2ヶ月後	0.1810	0.2053	0.0244	1.3444	0.5368	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.8	事前	グループ	0.0573	2	0.0287	0.2026	0.8166	
		誤差	364.7350	2577	0.1415			
	1週間後	グループ	4.5061	2	2.2530	15.9187	0.0000	**
		誤差	364.7350	2577	0.1415			
	2ヶ月後	グループ	5.2874	2	2.6437	18.6789	0.0000	**
		誤差	364.7350	2577	0.1415			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.8	Bonferroni	事前	A	B	0.1566	0.1379	0.0187	0.5446	1.0000		
			A	C	0.1566	0.1391	0.0175	0.5714	1.0000		
			B	C	0.1379	0.1391	0.0012	0.0376	1.0000		
			1週間後	A	B	0.2450	0.2457	0.0007	0.0207	1.0000	
			A	C	0.2450	0.0997	0.1452	4.7375	0.0000	**	
			B	C	0.2457	0.0997	0.1460	4.6586	0.0000	**	
		2ヶ月後	A	B	0.2610	0.2888	0.0277	0.8083	1.0000		
			A	C	0.2610	0.1181	0.1429	4.6623	0.0000	**	
			B	C	0.2888	0.1181	0.1707	5.4480	0.0000	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q7.8	A	時期	1.5743	2	0.7871	5.5615	0.0039	**
		誤差	364.7350	2577	0.1415			
	B	時期	2.8017	2	1.4009	9.8977	0.0001	**
		誤差	364.7350	2577	0.1415			
	C	時期	0.2957	2	0.1479	1.0447	0.3520	
		誤差	364.7350	2577	0.1415			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q7.8	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1566	0.2450	0.0884	2.6205	0.0265	*	
			事前	2ヶ月後	0.1566	0.2610	0.1044	3.0969	0.0059	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.2450	0.2610	0.0161	0.4764	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.1379	0.2457	0.1078	3.0850	0.0062	**
			事前	2ヶ月後	0.1379	0.2888	0.1509	4.3189	0.0000	**	
			1週間後	2ヶ月後	0.2457	0.2888	0.0431	1.2340	0.6520		
		C	事前	1週間後	0.1391	0.0997	0.0394	1.4444	0.4463		
			事前	2ヶ月後	0.1391	0.1181	0.0210	0.7703	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.0997	0.1181	0.0184	0.6740	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q7.8(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	18.9%	12.3%	6.6%	1.4330	0.1519	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	18.9%	14.2%	4.7%	0.9832	0.3255	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	18.9%	13.4%	5.5%	1.1581	0.2468	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	18.9%	13.9%	5.0%	1.3572	0.1747	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	12.3%	14.2%	1.9%	0.4219	0.6731	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	12.3%	13.4%	1.2%	0.2667	0.7897	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	12.3%	13.9%	1.6%	0.4542	0.6497	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	14.2%	13.4%	0.7%	0.1576	0.8748	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	14.2%	13.9%	0.2%	0.0669	0.9466	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	13.4%	13.9%	0.5%	0.1285	0.8978	[]	
	Q7.8(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	26.0%	23.0%	3.0%	0.5564	0.5780	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	26.0%	24.8%	1.2%	0.2141	0.8305	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	26.0%	24.4%	1.6%	0.2915	0.7707	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	26.0%	10.0%	16.0%	4.5064	0.0000	***
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	23.0%	24.8%	1.8%	0.3286	0.7424	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	23.0%	24.4%	1.4%	0.2592	0.7955	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	23.0%	10.0%	13.0%	3.6948	0.0002	***	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	24.8%	24.4%	0.4%	0.0723	0.9423	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	24.8%	10.0%	14.8%	4.0624	0.0000	***	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	24.4%	10.0%	14.4%	4.0242	0.0001	***	
Q7.8(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	26.0%	26.2%	0.2%	0.0440	0.9649	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	26.0%	25.7%	0.3%	0.0566	0.9548	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	26.0%	31.9%	5.9%	1.0290	0.3035	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	26.0%	11.8%	14.2%	3.8369	0.0001	***
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	26.2%	25.7%	0.6%	0.0988	0.9213	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	26.2%	31.9%	5.7%	0.9751	0.3295	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	26.2%	11.8%	14.4%	3.8494	0.0001	***	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	25.7%	31.9%	6.3%	1.0531	0.2923	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	25.7%	11.8%	13.9%	3.6238	0.0003	***	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	31.9%	11.8%	20.1%	5.1497	0.0000	***	

9) まとめ

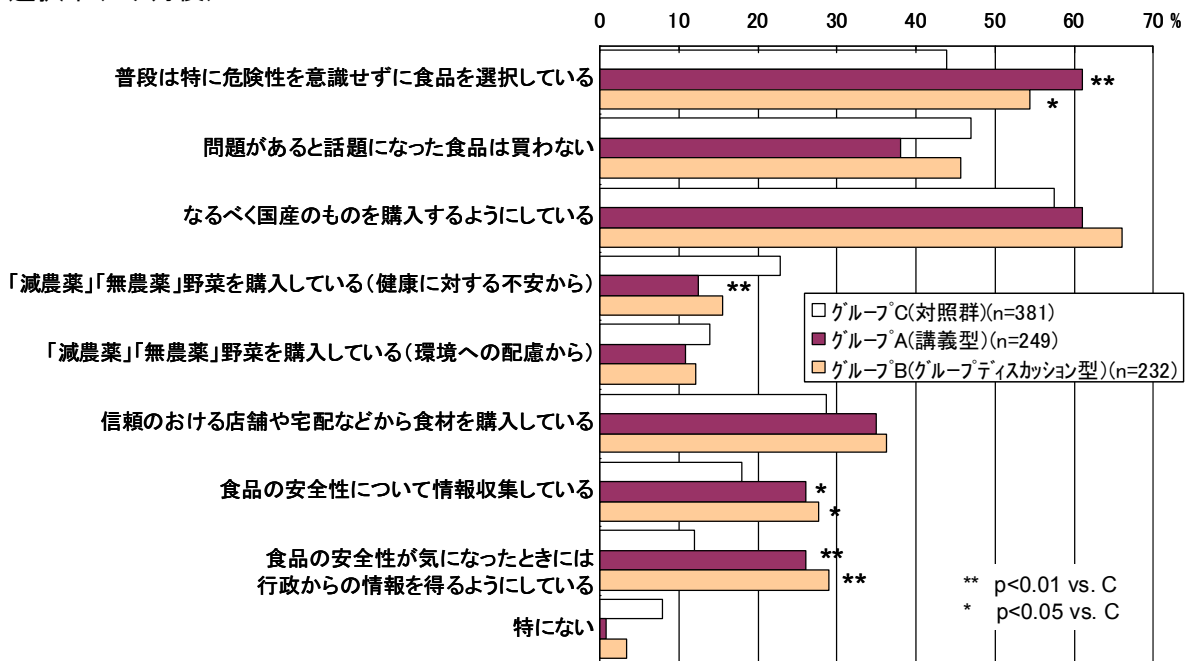
①2ヶ月後の変化

グループ A (講義型) では「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」「食品の安全性について情報収集している」「食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている」が増加し、『減農薬』『無農薬』野菜を購入している (健康に対する不安から) が減少しており、2ヶ月後では、いずれも対照群と 10%以上の差異がある。

グループ B (グループディスカッション型) では「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」「食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている」が増加しており、2ヶ月後では対照群と 10%以上の差異がある。

グループ A、B を比較すると「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」を除く全ての行動についてグループ B での選択率が高くなっている。

Q7. あなたの日常的な食品選択について、あてはまるものをお選び下さい。(いくつでも)
選択率(2ヶ月後)

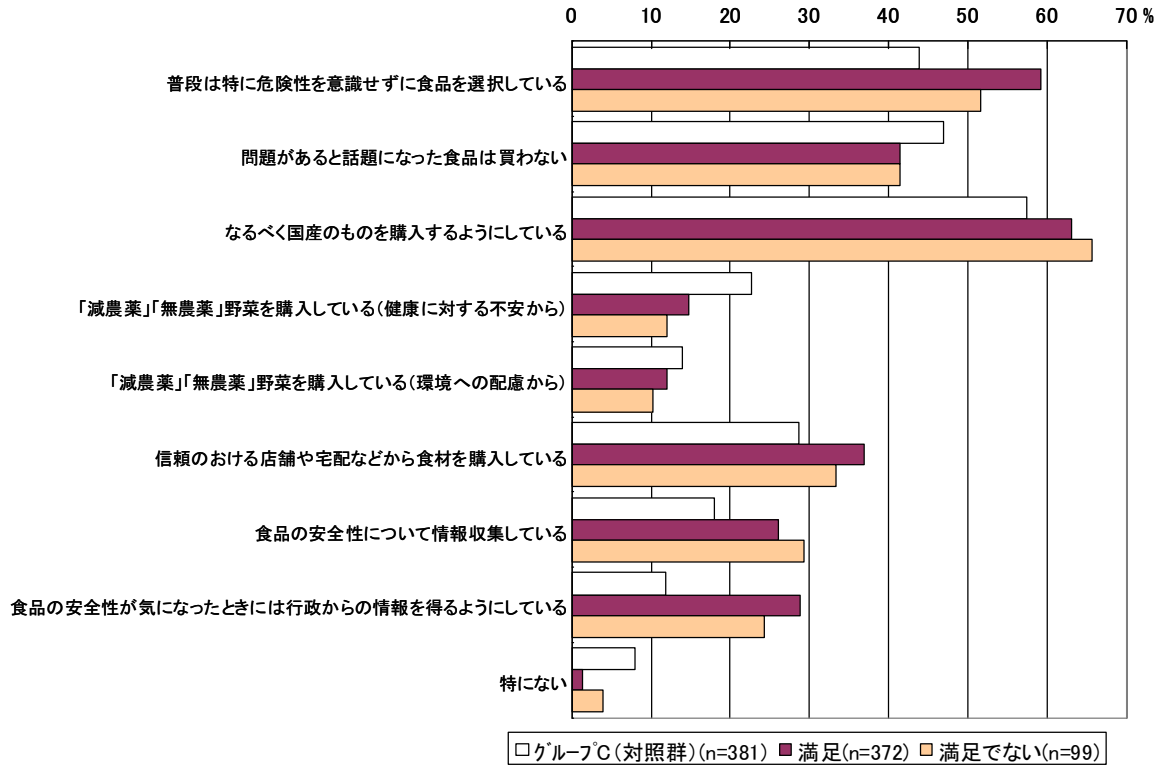


	合計	Q7 (2ヶ月後)								
		普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している	問題があると話題になった食品は買わない	なるべく国産のものを購入するようにしている	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(健康に対する不安から)	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(環境への配慮から)	信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している	食品の安全性について情報収集している	食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている	特にない
全体	862	51.6	44.1	60.8	17.9	12.5	32.5	22.9	20.5	4.6
グループ	A. 講義型 計	249	61.0	38.2	61.0	12.4	10.8	34.9	26.1	0.8
	—A-1. 講義型(1回目)	127	60.6	34.6	64.6	10.2	10.2	35.4	23.6	0.0
	—A-2. 講義型(2回目)	122	61.5	41.8	57.4	14.8	11.5	34.4	28.7	1.6
	B. グループディスカッション型 計	232	54.3	45.7	65.9	15.5	12.1	36.2	27.6	3.4
	—B-1. グループディスカッション型(1回目)	113	51.3	47.8	71.7	17.7	12.4	33.6	25.7	4.4
	—B-2. グループディスカッション型(2回目)	119	57.1	43.7	60.5	13.4	11.8	38.7	29.4	2.5
	C. 対照群	381	43.8	47.0	57.5	22.8	13.9	28.6	17.8	11.8

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q7. あなたの日常的な食品選択について、あてはまるものをお選び下さい。（いくつでも）
 選択率（2ヶ月後）



	合計	Q7 (2ヶ月後)									
		普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している	問題があると話題になった食品は買わない	なるべく国産のものを購入するようにしている	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(健康に対する不安から)	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(環境への配慮から)	信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している	食品の安全性について情報収集している	食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている	特にない	
全体	862	51.6	44.1	60.8	17.9	12.5	32.5	22.9	20.5	4.6	
グループA	グループA(講義型)	216	59.1	41.4	63.2	14.8	12.1	36.8	26.1	1.3	
	グループB(グループディスカッション型)	156	61.6	39.4	61.1	12.0	10.2	34.7	25.5	0.9	
グループB×満足	満足でない	99	51.5	41.4	65.7	12.1	10.1	33.3	29.3	4.0	
	グループA(講義型)	27	51.9	25.9	63.0	18.5	18.5	44.4	33.3	0.0	
満足	グループB(グループディスカッション型)	72	51.4	47.2	66.7	9.7	6.9	29.2	27.8	5.6	
	グループC(対照群)	381	43.8	47.0	57.5	22.8	13.9	28.6	17.8	7.9	

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している	満足	満足でない	59.1%	51.5%	7.6%	1.3640	0.1726	[]
問題があると話題になった食品は買わない	満足	満足でない	41.4%	41.4%	0.0%	0.0029	0.9977	[]
なるべく国産のものを購入するようにしている	満足	満足でない	63.2%	65.7%	2.5%	0.4569	0.6478	[]
「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(健康に対する不安から)	満足	満足でない	14.8%	12.1%	2.7%	0.6743	0.5001	[]
「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(環境への配慮から)	満足	満足でない	12.1%	10.1%	2.0%	0.5495	0.5827	[]
信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している	満足	満足でない	36.8%	33.3%	3.5%	0.6434	0.5200	[]
食品の安全性について情報収集している	満足	満足でない	26.1%	29.3%	3.2%	0.6428	0.5204	[]
食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている	満足	満足でない	28.8%	24.2%	4.5%	0.8922	0.3723	[]
特にない	満足	満足でない	1.3%	4.0%	2.7%	1.7415	0.0816	[]

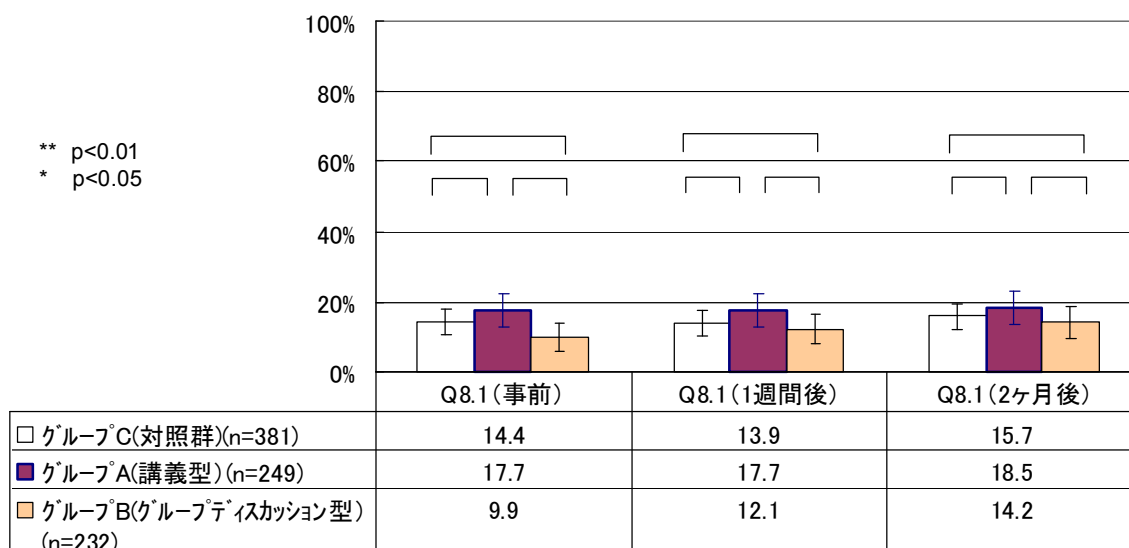
(8)日常的な保存・調理等に係る行動

1) 作り置き、買い置きをしない

「作り置き、買い置きをしないようにしている」と回答したのはいずれも約 1~2 割。意見交換会実施前後で差異はみられない。

Q8.1. 作り置き、買い置きをしないようにしている

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q8.1	6.3522	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	1.2519	2	0.6260	4.9355	0.0073	**
時期	0.2038	2	0.1019	0.8034	0.4479	
グループ * 時期	0.1034	4	0.0259	0.2039	0.9363	
誤差	326.8372	2577	0.1268			
全体	328.3836	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q8.1	Bonferroni	A	B	0.1794	0.1207	0.0587	3.1284	0.0053	**
			A	C	0.1794	0.1470	0.0324	1.9339	0.1597	
			B	C	0.1207	0.1470	0.0263	1.5355	0.3743	
時期	Q8.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.1415	0.1450	0.0035	0.2029	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.1415	0.1613	0.0197	1.1497	0.7512	
			1週間後	2ヶ月後	0.1450	0.1613	0.0162	0.9468	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.1	事前	グループ	0.7281	2	0.3640	2.8703	0.0569	
		誤差	326.8372	2577	0.1268			
	1週間後	グループ	0.4007	2	0.2003	1.5795	0.2063	
		誤差	326.8372	2577	0.1268			
	2ヶ月後	グループ	0.2266	2	0.1133	0.8934	0.4094	
		誤差	326.8372	2577	0.1268			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定						**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q8.1	Bonferroni	事前	A	B	0.1767	0.0991	0.0776	2.3870	0.0512	
			A	C	0.1767	0.1444	0.0323	1.1147	0.7953	
			B	C	0.0991	0.1444	0.0452	1.5247	0.3824	
		1週間後	A	B	0.1767	0.1207	0.0560	1.7238	0.2546	
			A	C	0.1767	0.1391	0.0376	1.2956	0.5857	
			B	C	0.1207	0.1391	0.0184	0.6210	1.0000	
		2ヶ月後	A	B	0.1847	0.1422	0.0425	1.3078	0.5732	
			A	C	0.1847	0.1575	0.0273	0.9393	1.0000	
			B	C	0.1422	0.1575	0.0152	0.5138	1.0000	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.1	A	時期	0.0107	2	0.0054	0.0422	0.9587	
		誤差	326.8372	2577	0.1268			
	B	時期	0.2155	2	0.1078	0.8496	0.4277	
		誤差	326.8372	2577	0.1268			
	C	時期	0.0682	2	0.0341	0.2690	0.7641	
		誤差	326.8372	2577	0.1268			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定						**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q8.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.1767	0.1767	0.0000	0.0000	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.1767	0.1847	0.0080	0.2517	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.1767	0.1847	0.0080	0.2517	1.0000	
		B	事前	1週間後	0.0991	0.1207	0.0216	0.6518	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.0991	0.1422	0.0431	1.3036	0.5775	
			1週間後	2ヶ月後	0.1207	0.1422	0.0216	0.6518	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.1444	0.1391	0.0052	0.2034	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.1444	0.1575	0.0131	0.5086	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.1391	0.1575	0.0184	0.7121	1.0000	

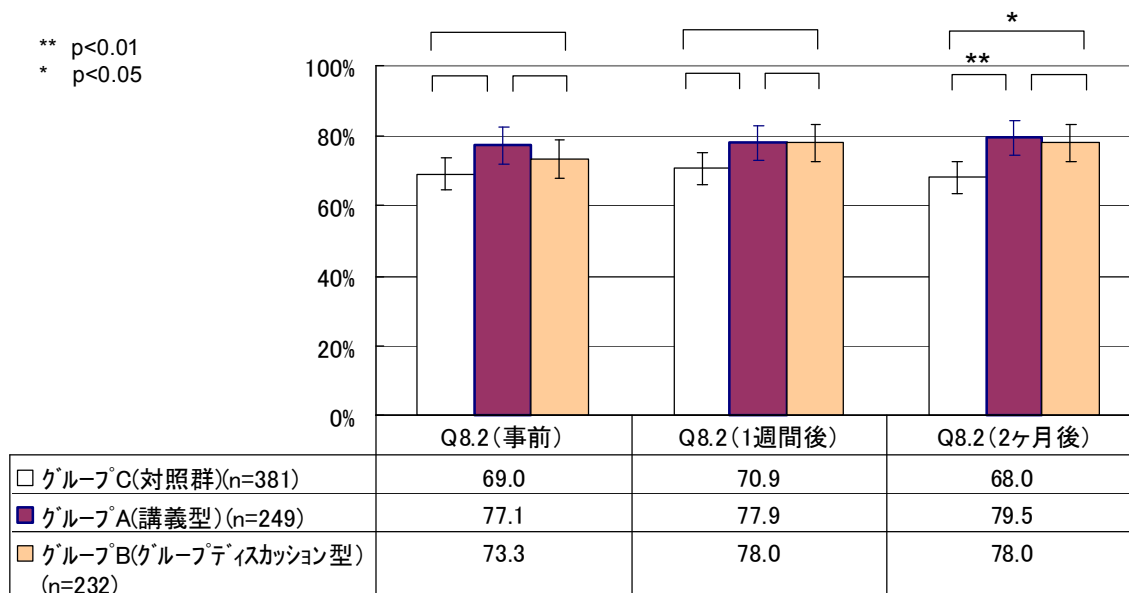
開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q8.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	15.0%	20.5%	5.5%	1.1439	0.2527	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	15.0%	5.3%	9.7%	2.4430	0.0146	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	15.0%	14.3%	0.7%	0.1497	0.8810	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	15.0%	14.4%	0.5%	0.1452	0.8845	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	20.5%	5.3%	15.2%	3.4363	0.0006	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	20.5%	14.3%	6.2%	1.2698	0.2042	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	20.5%	14.4%	6.1%	1.5919	0.1114	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	5.3%	14.3%	9.0%	2.2867	0.0222	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	5.3%	14.4%	9.1%	2.5896	0.0096	[**]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	14.3%	14.4%	0.1%	0.0407	0.9676	[]	
	Q8.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	12.6%	23.0%	10.4%	2.1410	0.0323	[*]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	12.6%	9.7%	2.9%	0.7009	0.4834	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	12.6%	14.3%	1.7%	0.3880	0.6980	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	12.6%	13.9%	1.3%	0.3738	0.7085	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	23.0%	9.7%	13.2%	2.7208	0.0065	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	23.0%	14.3%	8.7%	1.7258	0.0844	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	23.0%	13.9%	9.0%	2.3643	0.0181	[*]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	9.7%	14.3%	4.6%	1.0636	0.2875	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	9.7%	13.9%	4.2%	1.1610	0.2456	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	14.3%	13.9%	0.4%	0.1029	0.9180	[]	
Q8.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	18.1%	18.9%	0.7%	0.1509	0.8801	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	18.1%	9.7%	8.4%	1.8574	0.0633	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	18.1%	18.5%	0.4%	0.0765	0.9390	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	18.1%	15.7%	2.4%	0.6236	0.5329	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	18.9%	9.7%	9.1%	1.9852	0.0471	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	18.9%	18.5%	0.4%	0.0727	0.9420	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	18.9%	15.7%	3.1%	0.8040	0.4214	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	9.7%	18.5%	8.8%	1.9078	0.0564	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	9.7%	15.7%	6.0%	1.6003	0.1095	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	18.5%	15.7%	2.7%	0.7045	0.4811	[]	

2) 加熱すべき食材の十分な加熱

「加熱すべき食材は十分に加熱する」については特に説明しておらず、意見交換会実施前後で大きな変化はみられない。

Q8.2. 加熱すべき食材は十分に加熱する 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q8.2	12.4770	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	4.2400	2	2.1200	11.0275	0.0000	**
時期	0.2842	2	0.1421	0.7391	0.4777	
グループ * 時期	0.3464	4	0.0866	0.4505	0.7721	
誤差	495.4159	2577	0.1922			
全体	500.2413	2585				

** : 1%有意 * : 5%有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	** : 1%有意 * : 5%有意	
									P 値	判定
グループ	Q8.2	Bonferroni	A	B	0.7818	0.7644	0.0174	0.7544	1.0000	
			A	C	0.7818	0.6929	0.0889	4.3085	0.0001	**
			B	C	0.7644	0.6929	0.0715	3.3895	0.0021	**
時期	Q8.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.7251	0.7483	0.0232	1.0986	0.8162	
			事前	2ヶ月後	0.7251	0.7401	0.0151	0.7141	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.7483	0.7401	0.0081	0.3845	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.2	事前	グループ	1.0018	2	0.5009	2.6056	0.0741	
		誤差	495.4159	2577	0.1922			
	1週間後	グループ	1.0708	2	0.5354	2.7849	0.0619	
		誤差	495.4159	2577	0.1922			
	2ヶ月後	グループ	2.5138	2	1.2569	6.5380	0.0015 **	
		誤差	495.4159	2577	0.1922			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q8.2	Bonferroni	事前	A	B	0.7711	0.7328	0.0383	0.9579	1.0000		
			A	C	0.7711	0.6903	0.0808	2.2613	0.0715		
			B	C	0.7328	0.6903	0.0425	1.1631	0.7346		
			1週間後	A	B	0.7791	0.7802	0.0011	0.0264	1.0000	
			A	C	0.7791	0.7087	0.0705	1.9719	0.1462		
			B	C	0.7802	0.7087	0.0715	1.9585	0.1508		
		2ヶ月後	A	B	0.7952	0.7802	0.0150	0.3751	1.0000		
			A	C	0.7952	0.6798	0.1154	3.2295	0.0038 **		
			B	C	0.7802	0.6798	0.1004	2.7492	0.0180 *		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.2	A	時期	0.0750	2	0.0375	0.1950	0.8229	
		誤差	495.4159	2577	0.1922			
	B	時期	0.3477	2	0.1739	0.9043	0.4049	
		誤差	495.4159	2577	0.1922			
	C	時期	0.1627	2	0.0814	0.4232	0.6550	
		誤差	495.4159	2577	0.1922			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q8.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.7711	0.7791	0.0080	0.2044	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.7711	0.7952	0.0241	0.6132	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.7791	0.7952	0.0161	0.4088	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.7328	0.7802	0.0474	1.1647	0.7328	
			事前	2ヶ月後	0.7328	0.7802	0.0474	1.1647	0.7328		
			1週間後	2ヶ月後	0.7802	0.7802	0.0000	0.0000	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.6903	0.7087	0.0184	0.5784	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6903	0.6798	0.0105	0.3305	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.7087	0.6798	0.0289	0.9088	1.0000		

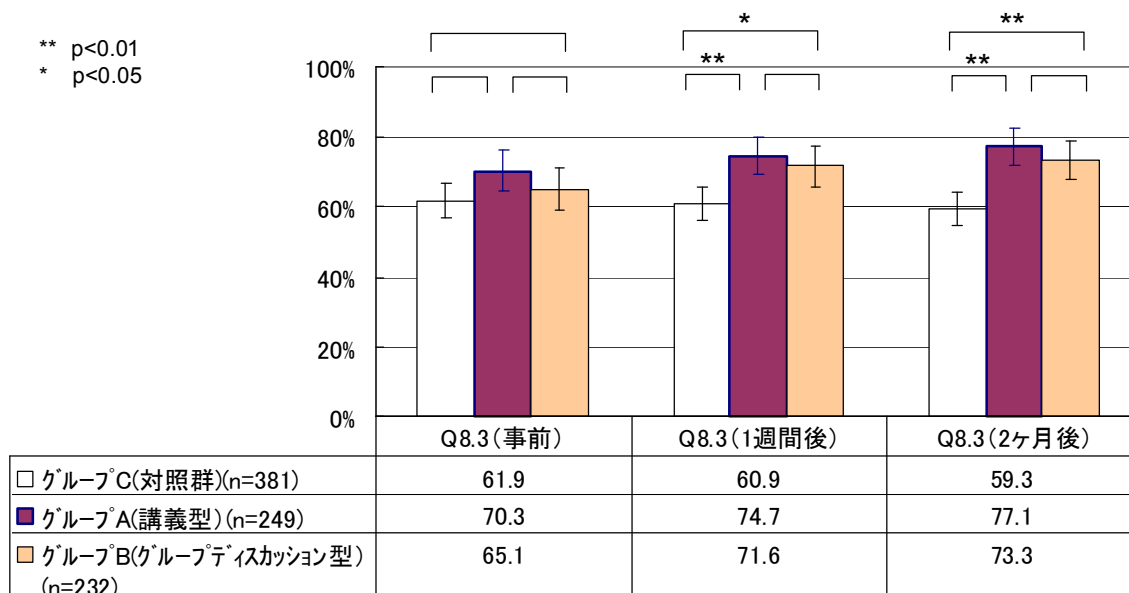
開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q8.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	75.6%	78.7%	3.1%	0.5817	0.5608	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	75.6%	71.7%	3.9%	0.6870	0.4921	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	75.6%	74.8%	0.8%	0.1453	0.8845	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C対照群	75.6%	69.0%	6.6%	1.4066	0.1595	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	78.7%	71.7%	7.0%	1.2448	0.2132	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	78.7%	74.8%	3.9%	0.7165	0.4737	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C対照群	78.7%	69.0%	9.7%	2.0543	0.0399	[*]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	71.7%	74.8%	3.1%	0.5348	0.5928	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C対照群	71.7%	69.0%	2.7%	0.5385	0.5902	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C対照群	74.8%	69.0%	5.8%	1.2018	0.2295	[]	
	Q8.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	78.7%	77.0%	1.7%	0.3215	0.7478	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	78.7%	83.2%	4.4%	0.8734	0.3825	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	78.7%	73.1%	5.6%	1.0337	0.3013	[]	
A-1.講義型(1回目)		C対照群	78.7%	70.9%	7.9%	1.7276	0.0841	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	77.0%	83.2%	6.1%	1.1751	0.2400	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.0%	73.1%	3.9%	0.7072	0.4794	[]	
A-2.講義型(2回目)		C対照群	77.0%	70.9%	6.2%	1.3291	0.1838	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	83.2%	73.1%	10.1%	1.8524	0.0640	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C対照群	83.2%	70.9%	12.3%	2.6118	0.0090	[**]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C対照群	73.1%	70.9%	2.2%	0.4727	0.6364	[]	
Q8.2(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	76.4%	82.8%	6.4%	1.2527	0.2103	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	76.4%	78.8%	2.4%	0.4413	0.6590	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	76.4%	77.3%	0.9%	0.1733	0.8624	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C対照群	76.4%	68.0%	8.4%	1.7901	0.0734	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	82.8%	78.8%	4.0%	0.7837	0.4332	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	82.8%	77.3%	5.5%	1.0642	0.2872	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C対照群	82.8%	68.0%	14.8%	3.1557	0.0016	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	78.8%	77.3%	1.5%	0.2666	0.7898	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C対照群	78.8%	68.0%	10.8%	2.2060	0.0274	[*]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C対照群	77.3%	68.0%	9.3%	1.9429	0.0520	[]	

3) 食品、手、調理器具等の清潔維持

「食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている」については特に説明しておらず大きな変化はないが、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）ともわずかに増加している。

Q8.3. 食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている 選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q8.3	24.6394	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	8.8164	2	4.4082	20.2537	0.0000	**
時期	0.7817	2	0.3908	1.7958	0.1662	
グループ * 時期	1.1402	4	0.2851	1.3097	0.2640	
誤差	560.8833	2577	0.2176			
全体	571.2947	2585				

**:1%有意 *:5%有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q8.3	Bonferroni	A	B	0.7403	0.6997	0.0406	1.6511	0.2965	
			A	C	0.7403	0.6072	0.1331	6.0648	0.0000	**
			B	C	0.6997	0.6072	0.0925	4.1255	0.0001	**
時期	Q8.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.6520	0.6775	0.0255	1.1357	0.7685	
			事前	2ヶ月後	0.6520	0.6821	0.0302	1.3422	0.5389	
			1週間後	2ヶ月後	0.6775	0.6821	0.0046	0.2065	1.0000	

**:1%有意 *:5%有意

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.3	事前	グループ	1.0475	2	0.5238	2.4064	0.0903	
		誤差	560.8833	2577	0.2176			
	1週間後	グループ	3.3293	2	1.6647	7.6484	0.0005	**
		誤差	560.8833	2577	0.2176			
	2ヶ月後	グループ	5.5798	2	2.7899	12.8182	0.0000	**
		誤差	560.8833	2577	0.2176			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q8.3	Bonferroni	事前	A	B	0.7028	0.6509	0.0519	1.2203	0.6674		
			A	C	0.7028	0.6194	0.0834	2.1934	0.0851		
			B	C	0.6509	0.6194	0.0314	0.8092	1.0000		
			1週間後	A	B	0.7470	0.7155	0.0315	0.7393	1.0000	
			A	C	0.7470	0.6089	0.1381	3.6316	0.0009	**	
			B	C	0.7155	0.6089	0.1066	2.7436	0.0184	*	
		2ヶ月後	A	B	0.7711	0.7328	0.0383	0.9003	1.0000		
			A	C	0.7711	0.5932	0.1779	4.6796	0.0000	**	
			B	C	0.7328	0.5932	0.1396	3.5928	0.0010	**	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.3	A	時期	0.5971	2	0.2985	1.3716	0.2539	
		誤差	560.8833	2577	0.2176			
	B	時期	0.8649	2	0.4325	1.9870	0.1373	
		誤差	560.8833	2577	0.2176			
	C	時期	0.1330	2	0.0665	0.3055	0.7368	
		誤差	560.8833	2577	0.2176			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q8.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.7028	0.7470	0.0442	1.0566	0.8724		
			事前	2ヶ月後	0.7028	0.7711	0.0683	1.6329	0.3078		
			1週間後	2ヶ月後	0.7470	0.7711	0.0241	0.5763	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.6509	0.7155	0.0647	1.4926	0.4070	
			事前	2ヶ月後	0.6509	0.7328	0.0819	1.8907	0.1763		
			1週間後	2ヶ月後	0.7155	0.7328	0.0172	0.3980	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.6194	0.6089	0.0105	0.3106	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6194	0.5932	0.0262	0.7765	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.6089	0.5932	0.0157	0.4659	1.0000		

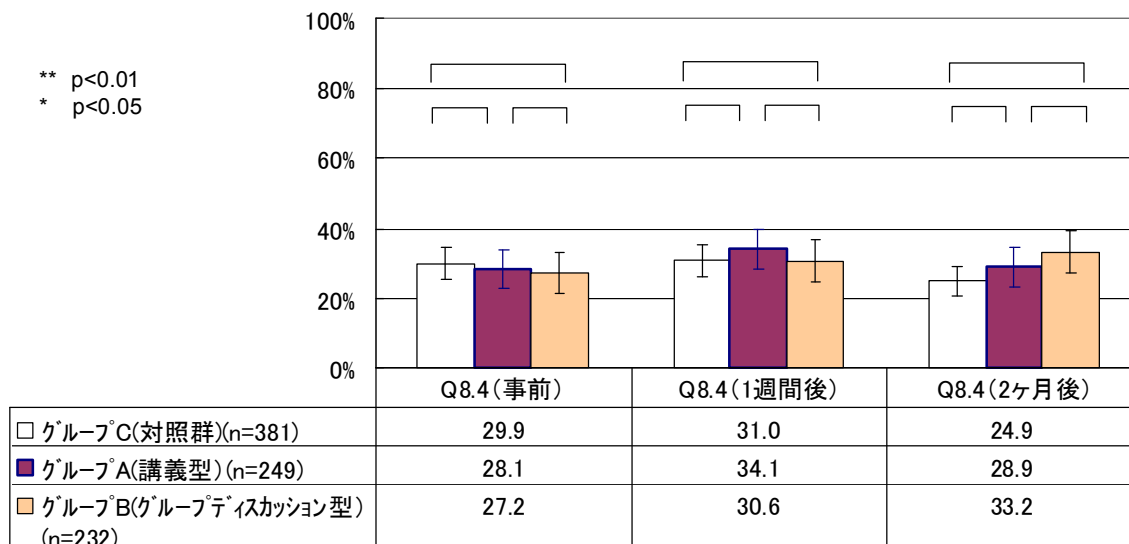
開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q8.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	65.4%	75.4%	10.1%	1.7356	0.0826	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	65.4%	66.4%	1.0%	0.1659	0.8683	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	65.4%	63.9%	1.5%	0.2441	0.8072	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	65.4%	61.9%	3.4%	0.6890	0.4909	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	75.4%	66.4%	9.0%	1.5266	0.1269	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	75.4%	63.9%	11.5%	1.9499	0.0512	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	75.4%	61.9%	13.5%	2.7181	0.0066	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.4%	63.9%	2.5%	0.4002	0.6890	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	66.4%	61.9%	4.4%	0.8563	0.3919	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	63.9%	61.9%	1.9%	0.3781	0.7054	[]	
	Q8.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	71.7%	77.9%	6.2%	1.1278	0.2594	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	71.7%	69.9%	1.7%	0.2964	0.7669	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	71.7%	73.1%	1.5%	0.2551	0.7986	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	71.7%	60.9%	10.8%	2.1826	0.0291	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	77.9%	69.9%	8.0%	1.3902	0.1645	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	77.9%	73.1%	4.8%	0.8592	0.3903	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	77.9%	60.9%	17.0%	3.4217	0.0006	[**]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	69.9%	73.1%	3.2%	0.5396	0.5895	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	69.9%	60.9%	9.0%	1.7435	0.0812	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	73.1%	60.9%	12.2%	2.4207	0.0155	[*]	
Q8.3(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	74.8%	79.5%	4.7%	0.8834	0.3770	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	74.8%	72.6%	2.2%	0.3931	0.6942	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	74.8%	73.9%	0.9%	0.1533	0.8782	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	74.8%	59.3%	15.5%	3.1336	0.0017	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	79.5%	72.6%	6.9%	1.2480	0.2120	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	79.5%	73.9%	5.6%	1.0215	0.3070	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	79.5%	59.3%	20.2%	4.0489	0.0001	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	72.6%	73.9%	1.4%	0.2380	0.8119	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	72.6%	59.3%	13.2%	2.5528	0.0107	[*]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	73.9%	59.3%	14.6%	2.8827	0.0039	[**]	

4) 消費期限、賞味期限の厳守

「消費期限、賞味期限を厳守している」については特に説明しておらず、意見交換会実施前後で大きな変化はみられない。

Q8.4. 消費期限、賞味期限を厳守している 選択率±95%信頼区間



** p<0.01
* p<0.05

等分散性の検定

ルビーン検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q8.4	4.7604	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeⅢ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	0.1943	2	0.0971	0.4664	0.6273	
時期	0.5763	2	0.2882	1.3835	0.2509	
グループ * 時期	1.1173	4	0.2793	1.3411	0.2522	
誤差	536.7499	2577	0.2083			
全体	538.6949	2585				

**: 1% 有意 *: 5% 有意

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q8.4	Bonferroni	A	B	0.3039	0.3032	0.0007	0.0300	1.0000	
			A	C	0.3039	0.2861	0.0178	0.8287	1.0000	
			B	C	0.3032	0.2861	0.0171	0.7780	1.0000	
時期	Q8.4	Bonferroni	事前	1週間後	0.2865	0.3179	0.0313	1.4248	0.4630	
			事前	2ヶ月後	0.2865	0.2831	0.0035	0.1583	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.3179	0.2831	0.0348	1.5832	0.3405	

**: 1% 有意 *: 5% 有意

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.4	事前	グループ	0.1206	2	0.0603	0.2895	0.7486	
		誤差	536.7499	2577	0.2083			
	1週間後	グループ	0.1953	2	0.0977	0.4689	0.6258	
		誤差	536.7499	2577	0.2083			
	2ヶ月後	グループ	0.9957	2	0.4978	2.3902	0.0918	
		誤差	536.7499	2577	0.2083			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q8.4	Bonferroni	事前	A	B	0.2811	0.2716	0.0096	0.2299	1.0000		
			A	C	0.2811	0.2992	0.0181	0.4864	1.0000		
			B	C	0.2716	0.2992	0.0277	0.7278	1.0000		
			1週間後	A	B	0.3414	0.3060	0.0353	0.8484	1.0000	
			A	C	0.3414	0.3097	0.0317	0.8511	1.0000		
			B	C	0.3060	0.3097	0.0037	0.0967	1.0000		
		2ヶ月後	A	B	0.2892	0.3319	0.0427	1.0263	0.9145		
			A	C	0.2892	0.2493	0.0398	1.0705	0.8535		
			B	C	0.3319	0.2493	0.0826	2.1721	0.0898		

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q8.4	A	時期	0.5328	2	0.2664	1.2790	0.2785	
		誤差	536.7499	2577	0.2083			
	B	時期	0.4253	2	0.2126	1.0209	0.3604	
		誤差	536.7499	2577	0.2083			
	C	時期	0.7927	2	0.3963	1.9028	0.1494	
		誤差	536.7499	2577	0.2083			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q8.4	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2811	0.3414	0.0602	1.4728	0.4228		
			事前	2ヶ月後	0.2811	0.2892	0.0080	0.1964	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.3414	0.2892	0.0522	1.2764	0.6057		
			B	事前	1週間後	0.2716	0.3060	0.0345	0.8138	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.2716	0.3319	0.0603	1.4241	0.4636		
			1週間後	2ヶ月後	0.3060	0.3319	0.0259	0.6103	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.2992	0.3097	0.0105	0.3175	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2992	0.2493	0.0499	1.5082	0.3949		
			1週間後	2ヶ月後	0.3097	0.2493	0.0604	1.8257	0.2040		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q8.4(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	22.8%	33.6%	10.8%	1.8902	0.0587	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	22.8%	28.3%	5.5%	0.9740	0.3301	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	22.8%	26.1%	3.2%	0.5869	0.5572	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	22.8%	29.9%	7.1%	1.5379	0.1241	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	33.6%	28.3%	5.3%	0.8752	0.3814	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	33.6%	26.1%	7.6%	1.2813	0.2001	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	33.6%	29.9%	3.7%	0.7673	0.4429	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	28.3%	26.1%	2.3%	0.3883	0.6978	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	28.3%	29.9%	1.6%	0.3279	0.7430	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	26.1%	29.9%	3.9%	0.8123	0.4166	[]	
	Q8.4(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	29.1%	39.3%	10.2%	1.6986	0.0894	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	29.1%	31.9%	2.7%	0.4580	0.6470	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	29.1%	29.4%	0.3%	0.0479	0.9618	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	29.1%	31.0%	1.8%	0.3894	0.6970	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	39.3%	31.9%	7.5%	1.1964	0.2316	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	39.3%	29.4%	9.9%	1.6224	0.1047	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	39.3%	31.0%	8.4%	1.7118	0.0869	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	31.9%	29.4%	2.4%	0.4042	0.6861	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	31.9%	31.0%	0.9%	0.1788	0.8581	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	29.4%	31.0%	1.6%	0.3222	0.7473	[]	
Q8.4(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	25.2%	32.8%	7.6%	1.3206	0.1866	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	25.2%	37.2%	12.0%	2.0046	0.0450	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	25.2%	29.4%	4.2%	0.7421	0.4580	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	25.2%	24.9%	0.3%	0.0592	0.9528	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	32.8%	37.2%	4.4%	0.7040	0.4814	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	32.8%	29.4%	3.4%	0.5658	0.5715	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	32.8%	24.9%	7.9%	1.7035	0.0885	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	37.2%	29.4%	7.8%	1.2540	0.2098	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	37.2%	24.9%	12.2%	2.5511	0.0107	[*]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	29.4%	24.9%	4.5%	0.9720	0.3310	[]	

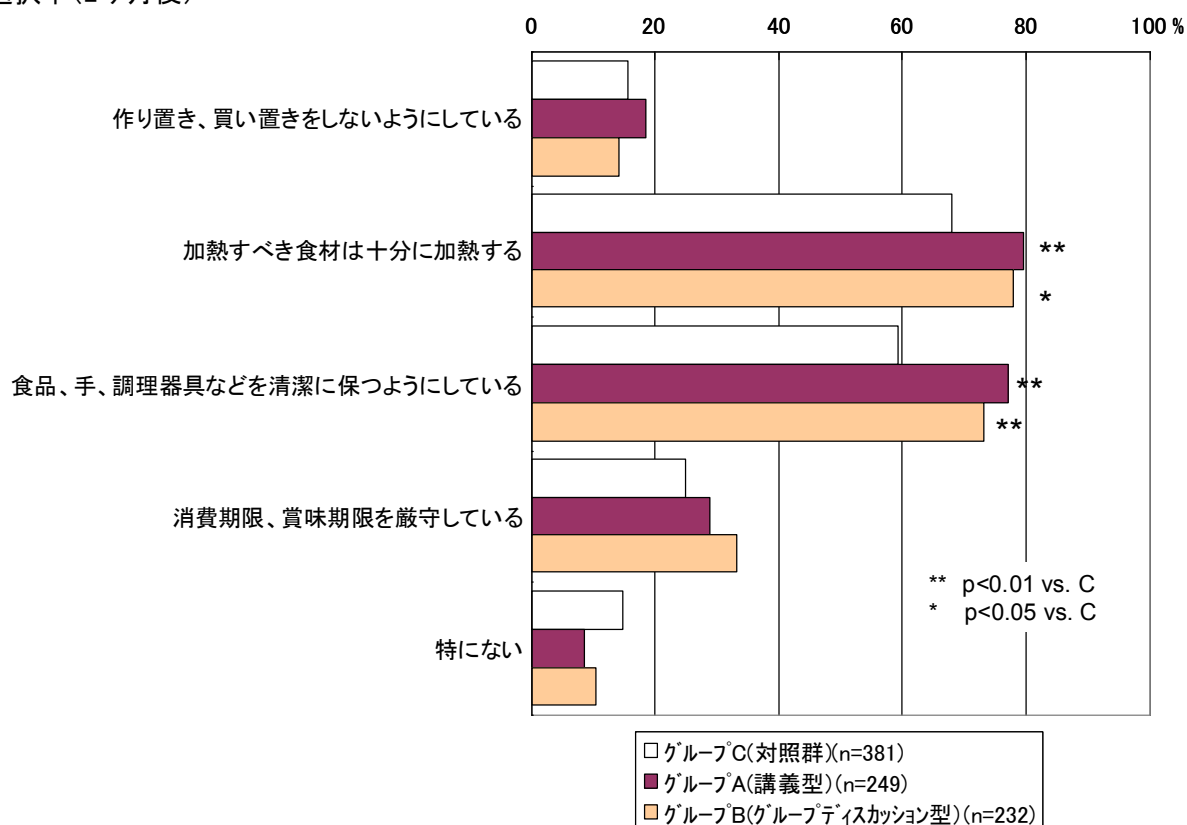
5) まとめ

①2ヶ月後の変化

意見交換会では、保存調理等に係る行動については特に言及しておらず、大きな影響はみられない。「加熱すべき食材は十分に加熱する」「食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている」については、2ヶ月後の段階で対照群とグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）で有意差がみられるが、対照群とグループA（講義型）の間には、事前調査の段階で差異があるため、実際に有意差が認められるのはグループB（グループディスカッション型）のみである。

Q8. あなたの日常的な食品の保存や調理に関する行動について、あてはまるものをお選び下さい。(いくつでも)

選択率(2ヶ月後)



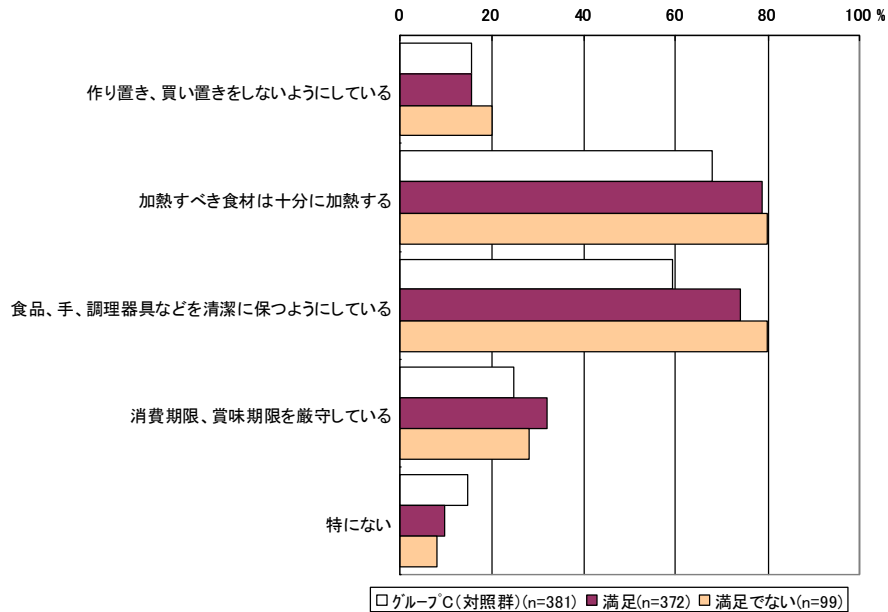
	合計	Q8 (2ヶ月後)				
		作り置き、買い置きをしないようにしている	加熱すべき食材は十分に加熱する	食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている	消費期限、賞味期限を厳守している	特にない
全体	862	16.1	74.0	68.2	28.3	11.7
グループ A. 講義型 計	249	18.5	79.5	77.1	28.9	8.4
-A-1. 講義型(1回目)	127	18.1	76.4	74.8	25.2	7.1
-A-2. 講義型(2回目)	122	18.9	82.8	79.5	32.8	9.8
グループ B. Gディスカッション型 計	232	14.2	78.0	73.3	33.2	10.3
-B-1. Gディスカッション型(1回目)	113	9.7	78.8	72.6	37.2	9.7
-B-2. Gディスカッション型(2回目)	119	18.5	77.3	73.9	29.4	10.9
グループ C. 対照群	381	15.7	68.0	59.3	24.9	14.7

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q8. あなたの日常的な食品の保存や調理に関する行動について、あてはまるものをお選び下さい。（いくつでも）

選択率（2ヶ月後）



	合計	Q8 (2ヶ月後)				
		作り置き、買い置きをしないようにしている	加熱すべき食材は十分に加熱する	食品、手、調理器具などを清潔に保つようになっている	消費期限、賞味期限を厳守している	特にない
全体	862	16.1	74.0	68.2	28.3	11.7
グループ×満足	372	15.6	78.8	73.9	32.0	9.7
グループA (講義型)	216	18.1	80.1	76.9	29.6	8.3
グループB (グループディスカッション型)	156	12.2	76.9	69.9	35.3	11.5
満足でない	99	20.2	79.8	79.8	28.3	8.1
グループA (講義型)	27	25.9	81.5	77.8	25.9	7.4
グループB (グループディスカッション型)	72	18.1	79.2	80.6	29.2	8.3
グループC (対照群)	381	15.7	68.0	59.3	24.9	14.7

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
作り置き、買い置きをしないようにしている	満足	満足でない	15.6%	20.2%	4.6%	1.0968	0.2727	[]
加熱すべき食材は十分に加熱する	満足	満足でない	78.8%	79.8%	1.0%	0.2245	0.8224	[]
食品、手、調理器具などを清潔に保つようになっている	満足	満足でない	73.9%	79.8%	5.9%	1.2019	0.2294	[]
消費期限、賞味期限を厳守している	満足	満足でない	32.0%	28.3%	3.7%	0.7073	0.4794	[]
特にない	満足	満足でない	9.7%	8.1%	1.6%	0.4851	0.6276	[]

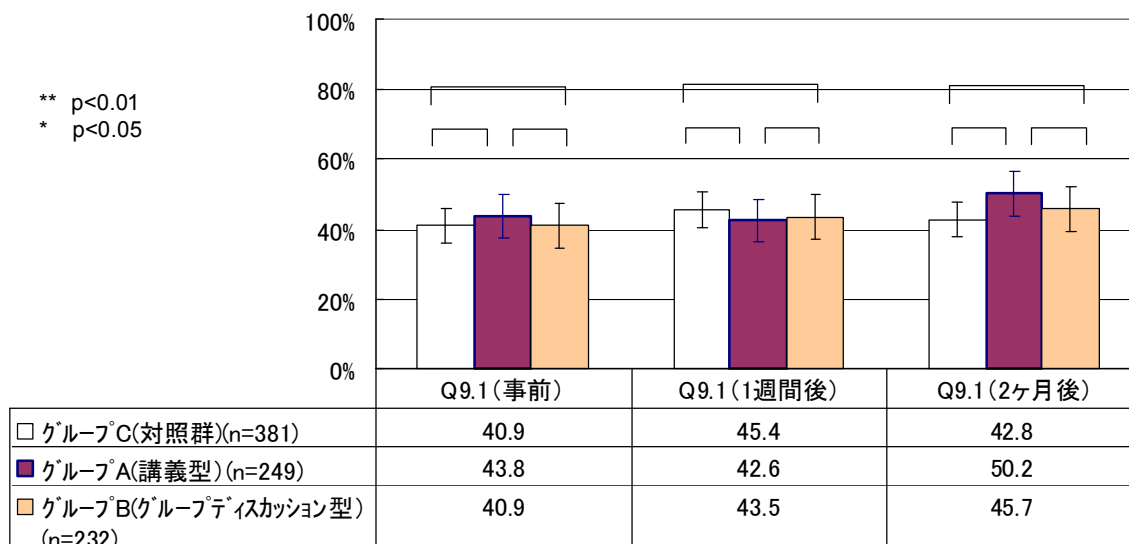
(9)食品のリスクに対する考え方

1) 一定のリスクの受容

「食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない」については、意見交換会実施前後で差異はみられない。

Q9.1. 食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない。

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q9.1	2.0313	8	2577	0.0394

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	0.2960	2	0.1480	0.6007	0.5485	
時期	0.7748	2	0.3874	1.5723	0.2078	
グループ * 時期	0.8052	4	0.2013	0.8170	0.5141	
誤差	634.9452	2577	0.2464			
全体	636.7239	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q9.1	Bonferroni	A	B	0.4552	0.4339	0.0212	0.8124	1.0000	
			A	C	0.4552	0.4304	0.0247	1.0580	0.8705	
			B	C	0.4339	0.4304	0.0035	0.1451	1.0000	
時期	Q9.1	Bonferroni	事前	1週間後	0.4176	0.4408	0.0232	0.9704	0.9958	
			事前	2ヶ月後	0.4176	0.4571	0.0394	1.6497	0.2974	
			1週間後	2ヶ月後	0.4408	0.4571	0.0162	0.6793	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意	
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和 F 値	P 値	判定
Q9.1	事前	グループ	0.1417	2	0.0709	0.2876	0.7501
		誤差	634.9452	2577	0.2464		
	1週間後	グループ	0.1307	2	0.0654	0.2653	0.7670
		誤差	634.9452	2577	0.2464		
	2ヶ月後	グループ	0.8288	2	0.4144	1.6818	0.1862
		誤差	634.9452	2577	0.2464		

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q9.1	Bonferroni	事前	A	B	0.4378	0.4095	0.0283	0.6241	1.0000	
			A	C	0.4378	0.4094	0.0283	0.6997	1.0000	
			B	C	0.4095	0.4094	0.0000	0.0008	1.0000	
			1週間後	A	B	0.4257	0.4353	0.0096	0.2129	1.0000
			A	C	0.4257	0.4541	0.0284	0.7012	1.0000	
			B	C	0.4353	0.4541	0.0187	0.4530	1.0000	
		2ヶ月後	A	B	0.5020	0.4569	0.0451	0.9960	0.9581	
			A	C	0.5020	0.4278	0.0742	1.8340	0.2003	
			B	C	0.4569	0.4278	0.0291	0.7034	1.0000	

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意	
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和 F 値	P 値	判定
Q9.1	A	時期	0.8380	2	0.4190	1.7006	0.1828
		誤差	634.9452	2577	0.2464		
	B	時期	0.2615	2	0.1307	0.5307	0.5883
		誤差	634.9452	2577	0.2464		
	C	時期	0.3832	2	0.1916	0.7776	0.4596
		誤差	634.9452	2577	0.2464		

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意			
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q9.1	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.4378	0.4257	0.0120	0.2708	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.4378	0.5020	0.0643	1.4444	0.4462	
			1週間後	2ヶ月後	0.4257	0.5020	0.0763	1.7153	0.2593	
			B	事前	1週間後	0.4095	0.4353	0.0259	0.5612	1.0000
			事前	2ヶ月後	0.4095	0.4569	0.0474	1.0288	0.9110	
			1週間後	2ヶ月後	0.4353	0.4569	0.0216	0.4676	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.4094	0.4541	0.0446	1.2407	0.6445	
			事前	2ヶ月後	0.4094	0.4278	0.0184	0.5109	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.4541	0.4278	0.0262	0.7298	1.0000	

開催回別の差異(Z検定)

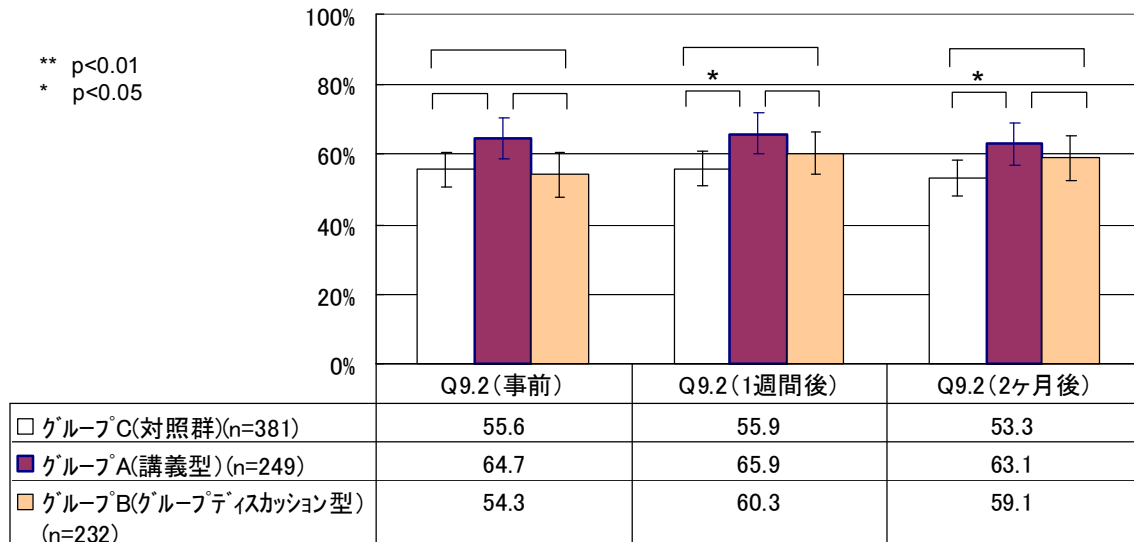
カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q9.1(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	43.3%	44.3%	1.0%	0.1519	0.8793	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	43.3%	38.9%	4.4%	0.6863	0.4925	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	43.3%	42.9%	0.4%	0.0712	0.9432	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C対照群	43.3%	40.9%	2.4%	0.4678	0.6399	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	44.3%	38.9%	5.3%	0.8271	0.4082	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	44.3%	42.9%	1.4%	0.2199	0.8259	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C対照群	44.3%	40.9%	3.3%	0.6467	0.5178	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	38.9%	42.9%	3.9%	0.6068	0.5440	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C対照群	38.9%	40.9%	2.0%	0.3817	0.7027	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C対照群	42.9%	40.9%	1.9%	0.3697	0.7116	[]	
	Q9.1(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	46.5%	38.5%	7.9%	1.2655	0.2057	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	46.5%	38.9%	7.5%	1.1746	0.2401	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	46.5%	47.9%	1.4%	0.2265	0.8208	[]	
A-1.講義型(1回目)		C対照群	46.5%	45.4%	1.0%	0.2057	0.8370	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	38.5%	38.9%	0.4%	0.0650	0.9482	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	38.5%	47.9%	9.4%	1.4690	0.1418	[]	
A-2.講義型(2回目)		C対照群	38.5%	45.4%	6.9%	1.3337	0.1823	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	38.9%	47.9%	9.0%	1.3760	0.1688	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C対照群	38.9%	45.4%	6.5%	1.2168	0.2237	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C対照群	47.9%	45.4%	2.5%	0.4762	0.6339	[]	
Q9.1(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	52.8%	47.5%	5.2%	0.8227	0.4107	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	52.8%	39.8%	12.9%	2.0046	0.0450	[*]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	52.8%	51.3%	1.5%	0.2346	0.8145	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C対照群	52.8%	42.8%	10.0%	1.9555	0.0505	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	47.5%	39.8%	7.7%	1.1914	0.2335	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	47.5%	51.3%	3.7%	0.5774	0.5637	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C対照群	47.5%	42.8%	4.8%	0.9217	0.3567	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	39.8%	51.3%	11.4%	1.7480	0.0805	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C対照群	39.8%	42.8%	3.0%	0.5595	0.5758	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C対照群	51.3%	42.8%	8.5%	1.6235	0.1045	[]	

2) 合理的に達成できる範囲で小さく

「経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである」については、意見交換会実施前後で差異はみられない。

Q9.2. 経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである。

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q9.2	10.5806	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	TypeIII平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	4.1823	2	2.0912	8.6517	0.0002	**
時期	0.3109	2	0.1555	0.6432	0.5257	
グループ * 時期	0.4452	4	0.1113	0.4604	0.7648	
誤差	622.8748	2577	0.2417			
全体	627.7838	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q9.2	Bonferroni	A	B	0.6452	0.5790	0.0662	2.5569	0.0319	*
			A	C	0.6452	0.5494	0.0958	4.1424	0.0001	**
			B	C	0.5790	0.5494	0.0296	1.2519	0.6322	
時期	Q9.2	Bonferroni	事前	1週間後	0.5789	0.5998	0.0209	0.8818	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.5789	0.5766	0.0023	0.0980	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.5998	0.5766	0.0232	0.9798	0.9819	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.2	事前	グループ	1.6304	2	0.8152	3.3727	0.0344	*
		誤差	622.8748	2577	0.2417			
	1週間後	グループ	1.4975	2	0.7488	3.0978	0.0453	*
		誤差	622.8748	2577	0.2417			
	2ヶ月後	グループ	1.4996	2	0.7498	3.1021	0.0451	*
		誤差	622.8748	2577	0.2417			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意			
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
Q9.2	Bonferroni	事前	A	B	0.6466	0.5431	0.1035	2.3067	0.0634	
			A	C	0.6466	0.5564	0.0902	2.2503	0.0735	
			B	C	0.5431	0.5564	0.0133	0.3255	1.0000	
		1週間後	A	B	0.6586	0.6034	0.0552	1.2302	0.6563	
			A	C	0.6586	0.5591	0.0996	2.4855	0.0390	*
			B	C	0.6034	0.5591	0.0444	1.0843	0.8350	
	2ヶ月後	A	B	0.6305	0.5905	0.0400	0.8917	1.0000		
		A	C	0.6305	0.5328	0.0977	2.4390	0.0444	*	
		B	C	0.5905	0.5328	0.0577	1.4095	0.4764		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.2	A	時期	0.0991	2	0.0495	0.2049	0.8147	
		誤差	622.8748	2577	0.2417			
	B	時期	0.4684	2	0.2342	0.9689	0.3796	
		誤差	622.8748	2577	0.2417			
	C	時期	0.1592	2	0.0796	0.3294	0.7194	
		誤差	622.8748	2577	0.2417			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *:5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.2	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6466	0.6586	0.0120	0.2734	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6466	0.6305	0.0161	0.3646	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.6586	0.6305	0.0281	0.6380	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.5431	0.6034	0.0603	1.3220	0.5589	
				事前	2ヶ月後	0.5431	0.5905	0.0474	1.0387	0.8971	
				1週間後	2ヶ月後	0.6034	0.5905	0.0129	0.2833	1.0000	
		C	事前	1週間後	0.5564	0.5591	0.0026	0.0737	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.5564	0.5328	0.0236	0.6632	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.5591	0.5328	0.0262	0.7369	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

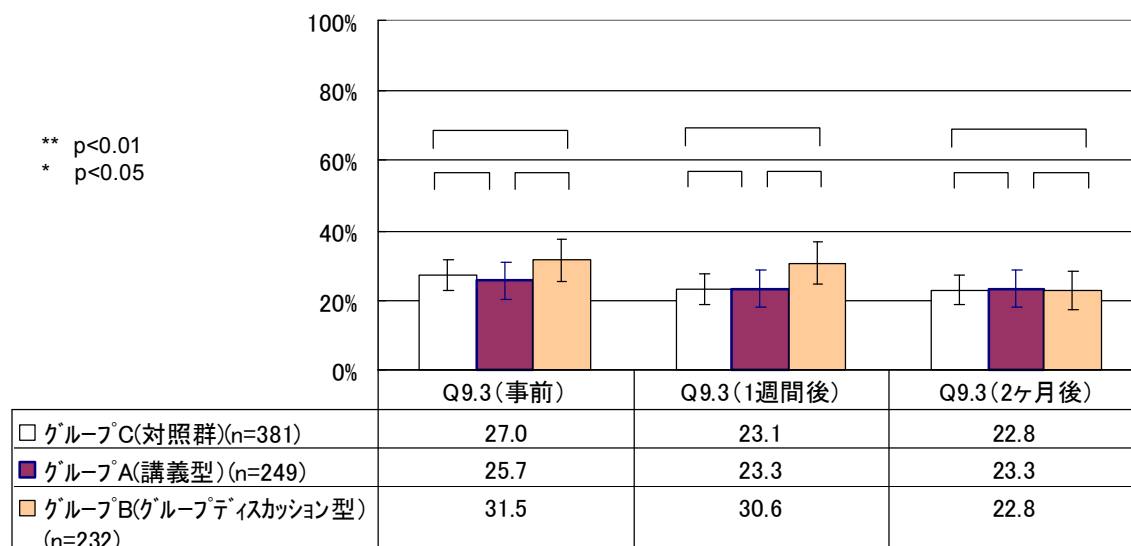
カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q9.2(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	65.4%	63.9%	1.4%	0.2343	0.8147	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	65.4%	58.4%	6.9%	1.1073	0.2682	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	65.4%	50.4%	14.9%	2.3727	0.0177	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	65.4%	55.6%	9.7%	1.9208	0.0548	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	63.9%	58.4%	5.5%	0.8691	0.3848	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	63.9%	50.4%	13.5%	2.1203	0.0340	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	63.9%	55.6%	8.3%	1.6131	0.1067	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	58.4%	50.4%	8.0%	1.2207	0.2222	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	58.4%	55.6%	2.8%	0.5202	0.6029	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	50.4%	55.6%	5.2%	0.9986	0.3180	[]	
	Q9.2(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	63.8%	68.0%	4.3%	0.7076	0.4792	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	63.8%	60.2%	3.6%	0.5742	0.5659	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	63.8%	60.5%	3.3%	0.5294	0.5965	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	63.8%	55.9%	7.9%	1.5564	0.1196	[]
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	68.0%	60.2%	7.9%	1.2555	0.2093	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	68.0%	60.5%	7.5%	1.2197	0.2226	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	68.0%	55.9%	12.1%	2.3690	0.0178	[*]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	60.2%	60.5%	0.3%	0.0509	0.9594	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	60.2%	55.9%	4.3%	0.8052	0.4207	[]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	60.5%	55.9%	4.6%	0.8845	0.3764	[]	
Q9.2(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	60.6%	65.6%	4.9%	0.8080	0.4191	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	60.6%	59.3%	1.3%	0.2112	0.8327	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	60.6%	58.8%	1.8%	0.2887	0.7728	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	60.6%	53.3%	7.3%	1.4421	0.1493	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	65.6%	59.3%	6.3%	0.9941	0.3202	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	65.6%	58.8%	6.8%	1.0807	0.2798	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	65.6%	53.3%	12.3%	2.3822	0.0172	[*]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	59.3%	58.8%	0.5%	0.0725	0.9422	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	59.3%	53.3%	6.0%	1.1272	0.2596	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	58.8%	53.3%	5.5%	1.0601	0.2891	[]	

3) ゼロリスク

「食品は100%の安全が確保されるべきである」については、意見交換会実施前後で差異はみられない。

Q9.3. 食品は100%の安全が確保されるべきである。

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定			
	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q9.3	5.6589	8	2577	0.0000

因子	分散分析表				**:1%有意 *:5%有意	
	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	0.8457	2	0.4228	2.2389	0.1068	
時期	1.0600	2	0.5300	2.8064	0.0606	
グループ * 時期	0.5378	4	0.1344	0.7119	0.5837	
誤差	486.6873	2577	0.1889			
全体	489.0971	2585				

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	**:1%有意 *:5%有意	
									P 値	判定
グループ	Q9.3	Bonferroni	A	B	0.2410	0.2830	0.0421	1.8381	0.1985	
			A	C	0.2410	0.2432	0.0023	0.1103	1.0000	
			B	C	0.2830	0.2432	0.0398	1.9061	0.1703	
時期	Q9.3	Bonferroni	事前	1週間後	0.2784	0.2517	0.0267	1.2747	0.6076	
			事前	2ヶ月後	0.2784	0.2297	0.0487	2.3276	0.0600	
			1週間後	2ヶ月後	0.2517	0.2297	0.0220	1.0530	0.8774	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.3	事前	グループ	0.4434	2	0.2217	1.1740	0.3093	
		誤差	486.6873	2577	0.1889			
	1週間後	グループ	0.9363	2	0.4682	2.4789	0.0840	
		誤差	486.6873	2577	0.1889			
	2ヶ月後	グループ	0.0037	2	0.0018	0.0097	0.9904	
		誤差	486.6873	2577	0.1889			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.3	Bonferroni	事前	A	B	0.2570	0.3147	0.0576	1.4532	0.4389		
			A	C	0.2570	0.2703	0.0133	0.3759	1.0000		
			B	C	0.3147	0.2703	0.0443	1.2245	0.6627		
			1週間後	A	B	0.2329	0.3060	0.0731	1.8435	0.1961	
			A	C	0.2329	0.2310	0.0020	0.0554	1.0000		
			B	C	0.3060	0.2310	0.0751	2.0741	0.1145		
		2ヶ月後	A	B	0.2329	0.2284	0.0045	0.1131	1.0000		
			A	C	0.2329	0.2283	0.0046	0.1295	1.0000		
			B	C	0.2284	0.2283	0.0001	0.0028	1.0000		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.3	A	時期	0.0964	2	0.0482	0.2552	0.7748	
		誤差	486.6873	2577	0.1889			
	B	時期	1.0460	2	0.5230	2.7692	0.0629	
		誤差	486.6873	2577	0.1889			
	C	時期	0.4217	2	0.2108	1.1164	0.3276	
		誤差	486.6873	2577	0.1889			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定							**:1%有意 *5%有意				
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.3	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.2570	0.2329	0.0241	0.6187	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.2570	0.2329	0.0241	0.6187	1.0000		
			1週間後	2ヶ月後	0.2329	0.2329	0.0000	0.0000	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.3147	0.3060	0.0086	0.2137	1.0000	
			事前	2ヶ月後	0.3147	0.2284	0.0862	2.1365	0.0982		
			1週間後	2ヶ月後	0.3060	0.2284	0.0776	1.9229	0.1638		
		C	事前	1週間後	0.2703	0.2310	0.0394	1.2504	0.6338		
			事前	2ヶ月後	0.2703	0.2283	0.0420	1.3338	0.5472		
			1週間後	2ヶ月後	0.2310	0.2283	0.0026	0.0834	1.0000		

開催回別の差異(Z 検定)

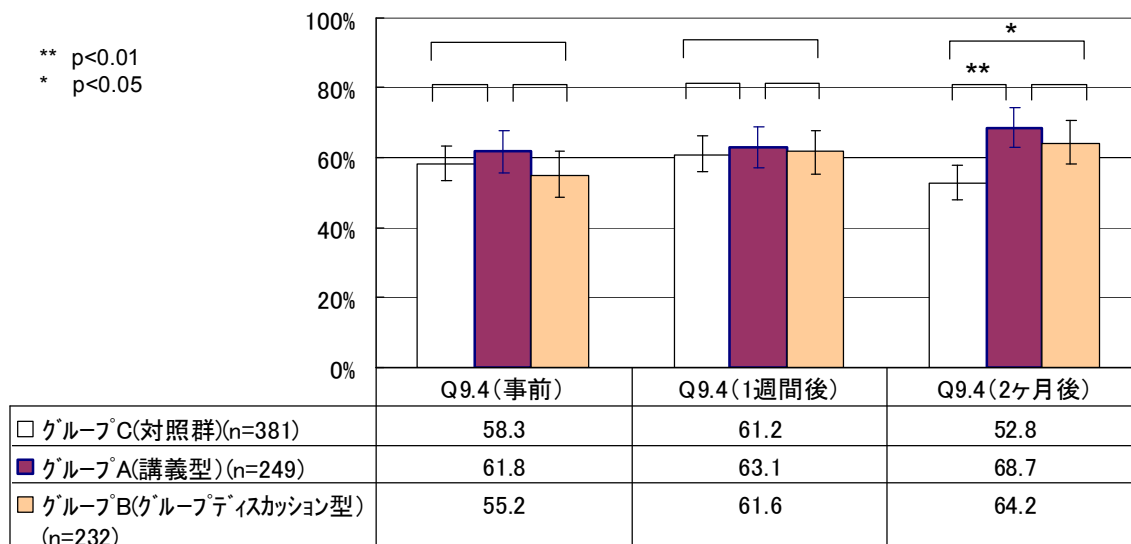
カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q9.3(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	23.6%	27.9%	4.2%	0.7666	0.4433	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	23.6%	32.7%	9.1%	1.5723	0.1159	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	23.6%	30.3%	6.6%	1.1729	0.2408	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	23.6%	27.0%	3.4%	0.7575	0.4488	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	27.9%	32.7%	4.9%	0.8131	0.4162	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	27.9%	30.3%	2.4%	0.4075	0.6837	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	27.9%	27.0%	0.8%	0.1802	0.8570	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	32.7%	30.3%	2.5%	0.4084	0.6830	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	32.7%	27.0%	5.7%	1.1827	0.2369	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	30.3%	27.0%	3.2%	0.6840	0.4940	[]	
	Q9.3(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	26.0%	20.5%	5.5%	1.0250	0.3054	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	26.0%	34.5%	8.5%	1.4392	0.1501	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	26.0%	26.9%	0.9%	0.1611	0.8720	[]
		A-1.講義型(1回目)	C.対照群	26.0%	23.1%	2.9%	0.6615	0.5083	[]
A-2.講義型(2回目)		B-1.ディスカッション型(1回目)	20.5%	34.5%	14.0%	2.4125	0.0158	[*]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	20.5%	26.9%	6.4%	1.1688	0.2425	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	20.5%	23.1%	2.6%	0.6001	0.5484	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		B-2.ディスカッション型(2回目)	34.5%	26.9%	7.6%	1.2593	0.2079	[]	
B-1.ディスカッション型(1回目)		C.対照群	34.5%	23.1%	11.4%	2.4387	0.0147	[*]	
B-2.ディスカッション型(2回目)		C.対照群	26.9%	23.1%	3.8%	0.8459	0.3976	[]	
Q9.3(2ヶ月後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	22.0%	24.6%	2.5%	0.4746	0.6351	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	22.0%	26.5%	4.5%	0.8131	0.4162	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	22.0%	19.3%	2.7%	0.5258	0.5990	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	22.0%	22.8%	0.8%	0.1836	0.8543	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.ディスカッション型(1回目)	24.6%	26.5%	2.0%	0.3440	0.7308	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	24.6%	19.3%	5.3%	0.9861	0.3241	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	24.6%	22.8%	1.8%	0.3994	0.6896	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	B-2.ディスカッション型(2回目)	26.5%	19.3%	7.2%	1.3094	0.1904	[]	
	B-1.ディスカッション型(1回目)	C.対照群	26.5%	22.8%	3.7%	0.8155	0.4148	[]	
	B-2.ディスカッション型(2回目)	C.対照群	19.3%	22.8%	3.5%	0.8062	0.4202	[]	

4) リスクの大きさが問題

「どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である」を選んだ人の割合に大きな変化はないが、2ヶ月後の対照群がやや低くなっており、相対的にグループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも対照群よりも高くなっている。

Q9.4. どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である。

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q9.4	9.9641	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	2.2987	2	1.1494	4.8241	0.0081	**
時期	0.6665	2	0.3333	1.3988	0.2471	
グループ * 時期	2.5649	4	0.6412	2.6913	0.0296	*
誤差	613.9879	2577	0.2383			
全体	619.3442	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q9.4	Bonferroni	A	B	0.6452	0.6034	0.0418	1.6255	0.3126	
			A	C	0.6452	0.5739	0.0713	3.1055	0.0058	**
			B	C	0.6034	0.5739	0.0295	1.2579	0.6257	
時期	Q9.4	Bonferroni	事前	1週間後	0.5847	0.6183	0.0336	1.4309	0.4577	
			事前	2ヶ月後	0.5847	0.6044	0.0197	0.8388	1.0000	
			1週間後	2ヶ月後	0.6183	0.6044	0.0139	0.5921	1.0000	

「時期」の各水準における「グループ」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.4	事前	グループ	0.5379	2	0.2689	1.1288	0.3236	
		誤差	613.9879	2577	0.2383			
	1週間後	グループ	0.0554	2	0.0277	0.1163	0.8902	
		誤差	613.9879	2577	0.2383			
	2ヶ月後	グループ	4.2703	2	2.1352	8.9616	0.0001 **	
		誤差	613.9879	2577	0.2383			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定						**:1%有意 *:5%有意					
目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.4	Bonferroni	事前	A	B	0.6185	0.5517	0.0667	1.4986	0.4023		
			A	C	0.6185	0.5827	0.0358	0.8999	1.0000		
			B	C	0.5517	0.5827	0.0310	0.7615	1.0000		
			1週間後	A	B	0.6305	0.6164	0.0141	0.3175	1.0000	
			A	C	0.6305	0.6115	0.0190	0.4770	1.0000		
			B	C	0.6164	0.6115	0.0048	0.1188	1.0000		
		2ヶ月後	A	B	0.6867	0.6422	0.0445	0.9992	0.9533		
			A	C	0.6867	0.5276	0.1592	4.0020	0.0002 **		
			B	C	0.6422	0.5276	0.1147	2.8213	0.0145 *		

「グループ」の各水準における「時期」の単純主効果の検定						**:1%有意 *:5%有意		
目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.4	A	時期	0.6613	2	0.3307	1.3878	0.2498	
		誤差	613.9879	2577	0.2383			
	B	時期	1.0086	2	0.5043	2.1167	0.1206	
		誤差	613.9879	2577	0.2383			
	C	時期	1.3876	2	0.6938	2.9119	0.0545	
		誤差	613.9879	2577	0.2383			

「グループ」の各水準における「時期」の多重比較検定						**:1%有意 *:5%有意					
目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.4	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.6185	0.6305	0.0120	0.2754	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.6185	0.6867	0.0683	1.5607	0.3562		
			1週間後	2ヶ月後	0.6305	0.6867	0.0562	1.2853	0.5965		
			B	事前	1週間後	0.5517	0.6164	0.0647	1.4266	0.4614	
			事前	2ヶ月後	0.5517	0.6422	0.0905	1.9973	0.1377		
			1週間後	2ヶ月後	0.6164	0.6422	0.0259	0.5706	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.5827	0.6115	0.0289	0.8164	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.5827	0.5276	0.0551	1.5585	0.3577		
			1週間後	2ヶ月後	0.6115	0.5276	0.0840	2.3749	0.0529		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q9.4(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	65.4%	58.2%	7.2%	1.1623	0.2451	[]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	65.4%	52.2%	13.1%	2.0675	0.0387	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	65.4%	58.0%	7.4%	1.1890	0.2344	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	65.4%	58.3%	7.1%	1.4120	0.1579	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	58.2%	52.2%	6.0%	0.9219	0.3566	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	58.2%	58.0%	0.2%	0.0336	0.9732	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	58.2%	58.3%	0.1%	0.0138	0.9890	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	52.2%	58.0%	5.8%	0.8834	0.3770	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	52.2%	58.3%	6.1%	1.1415	0.2537	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	58.0%	58.3%	0.3%	0.0549	0.9562	[]	
	Q9.4(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	66.9%	59.0%	7.9%	1.2932	0.1959	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	66.9%	61.9%	5.0%	0.8056	0.4205	[]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.9%	61.3%	5.6%	0.9132	0.3611	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	66.9%	61.2%	5.8%	1.1647	0.2442	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gディスカッション型(1回目)	59.0%	61.9%	2.9%	0.4590	0.6462	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	59.0%	61.3%	2.3%	0.3691	0.7120	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	59.0%	61.2%	2.1%	0.4208	0.6739	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.9%	61.3%	0.6%	0.0943	0.9249	[]	
B-1.Gディスカッション型(1回目)		C.対照群	61.9%	61.2%	0.8%	0.1518	0.8793	[]	
B-2.Gディスカッション型(2回目)		C.対照群	61.3%	61.2%	0.2%	0.0371	0.9704	[]	
Q9.4(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	70.9%	66.4%	4.5%	0.7607	0.4468	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	70.9%	61.9%	8.9%	1.4631	0.1434	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	70.9%	66.4%	4.5%	0.7572	0.4489	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	70.9%	52.8%	18.1%	3.5731	0.0004	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gディスカッション型(1回目)	66.4%	61.9%	4.4%	0.7106	0.4773	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	66.4%	66.4%	0.0%	0.0011	0.9991	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	66.4%	52.8%	13.6%	2.6414	0.0083	[**]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	B-2.Gディスカッション型(2回目)	61.9%	66.4%	4.4%	0.7051	0.4807	[]	
	B-1.Gディスカッション型(1回目)	C.対照群	61.9%	52.8%	9.2%	1.7242	0.0847	[]	
	B-2.Gディスカッション型(2回目)	C.対照群	66.4%	52.8%	13.6%	2.6149	0.0089	[**]	

5) 多くの食品のリスクは小さい

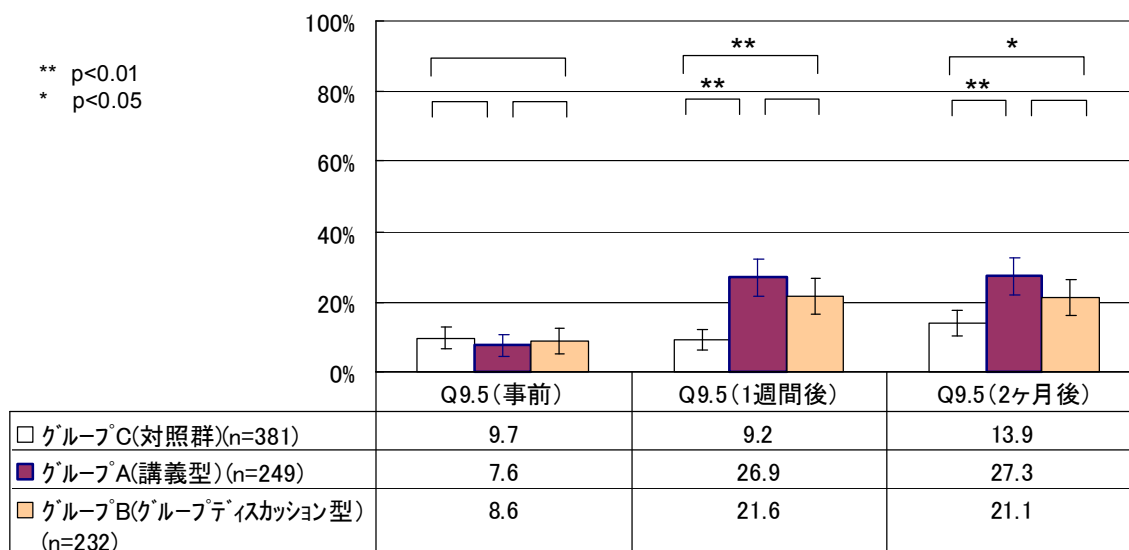
「多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない」と回答した人の割合は、対照群では約1割だが、意見交換会実施後においてグループA（講義型）では約3割、グループB（グループディスカッション型）では約2割となっている。

グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも選択した人の割合が増加しており、リスクを小さく感じるようになってきている。

また、グループA（講義型）、グループB（グループディスカッション型）とも1週間後と2ヶ月後に有意差はなく、効果は持続している。

Q9.5. 多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない。

選択率±95%信頼区間



等分散性の検定

目的変数	ルビーン検定 F 値	自由度1	自由度2	P 値
Q9.5	55.2116	8	2577	0.0000

分散分析表

因子	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	判定
グループ	4.5103	2	2.2552	17.9967	0.0000	**
時期	7.1507	2	3.5754	28.5323	0.0000	**
グループ * 時期	3.5380	4	0.8845	7.0585	0.0000	**
誤差	322.9216	2577	0.1253			
全体	336.7456	2585				

多重比較検定

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定
グループ	Q9.5	Bonferroni	A	B	0.2062	0.1710	0.0352	1.8865	0.1780	
			A	C	0.2062	0.1094	0.0968	5.8119	0.0000	**
			B	C	0.1710	0.1094	0.0616	3.6202	0.0009	**
時期	Q9.5	Bonferroni	事前	1週間後	0.0882	0.1763	0.0882	5.1708	0.0000	**
			事前	2ヶ月後	0.0882	0.1972	0.1090	6.3954	0.0000	**
			1週間後	2ヶ月後	0.1763	0.1972	0.0209	1.2247	0.6625	

目的変数	時期	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.5	事前	グループ	0.0664	2	0.0332	0.2650	0.7672	
		誤差	322.9216	2577	0.1253			
	1週間後	グループ	5.2164	2	2.6082	20.8142	0.0000 **	
		誤差	322.9216	2577	0.1253			
	2ヶ月後	グループ	2.7654	2	1.3827	11.0345	0.0000 **	
		誤差	322.9216	2577	0.1253			

目的変数	手法	時期	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.5	Bonferroni	事前	A	B	0.0763	0.0862	0.0099	0.3065	1.0000		
			A	C	0.0763	0.0971	0.0208	0.7213	1.0000		
			B	C	0.0862	0.0971	0.0109	0.3700	1.0000		
			1週間後	A	B	0.2691	0.2155	0.0536	1.6581	0.2923	
			A	C	0.2691	0.0919	0.1772	6.1432	0.0000 **		
			B	C	0.2155	0.0919	0.1237	4.1946	0.0001 **		
		2ヶ月後	A	B	0.2731	0.2112	0.0619	1.9159	0.1665		
			A	C	0.2731	0.1391	0.1340	4.6447	0.0000 **		
			B	C	0.2112	0.1391	0.0721	2.4458	0.0436 *		

目的変数	グループ	因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値	判定
Q9.5	A	時期	6.2999	2	3.1499	25.1373	0.0000 **	
		誤差	322.9216	2577	0.1253			
	B	時期	2.5029	2	1.2514	9.9868	0.0000 **	
		誤差	322.9216	2577	0.1253			
	C	時期	0.5109	2	0.2555	2.0387	0.1304	
		誤差	322.9216	2577	0.1253			

目的変数	手法	グループ	水準1	水準2	平均値1	平均値2	差	統計量	P 値	判定	
Q9.5	Bonferroni	A	事前	1週間後	0.0763	0.2691	0.1928	6.0762	0.0000 **		
			事前	2ヶ月後	0.0763	0.2731	0.1968	6.2028	0.0000 **		
			1週間後	2ヶ月後	0.2691	0.2731	0.0040	0.1266	1.0000		
			B	事前	1週間後	0.0862	0.2155	0.1293	3.9343	0.0003 **	
			事前	2ヶ月後	0.0862	0.2112	0.1250	3.8032	0.0004 **		
			1週間後	2ヶ月後	0.2155	0.2112	0.0043	0.1311	1.0000		
		C	事前	1週間後	0.0971	0.0919	0.0052	0.2047	1.0000		
			事前	2ヶ月後	0.0971	0.1391	0.0420	1.6374	0.3050		
			1週間後	2ヶ月後	0.0919	0.1391	0.0472	1.8421	0.1967		

開催回別の差異(Z 検定)

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク	
Q9.5(事前)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	3.9%	11.5%	7.5%	2.2399	0.0251	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	3.9%	10.6%	6.7%	2.0142	0.0440	[*]	
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	3.9%	6.7%	2.8%	0.9759	0.3291	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	3.9%	9.7%	5.8%	2.0463	0.0407	[*]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	11.5%	10.6%	0.9%	0.2090	0.8345	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	11.5%	6.7%	4.8%	1.2808	0.2003	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	11.5%	9.7%	1.8%	0.5618	0.5742	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	10.6%	6.7%	3.9%	1.0570	0.2905	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	10.6%	9.7%	0.9%	0.2836	0.7767	[]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	6.7%	9.7%	3.0%	0.9944	0.3200	[]	
	Q9.5(1週間後)	A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	28.3%	25.4%	2.9%	0.5223	0.6014	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	28.3%	15.9%	12.4%	2.2994	0.0215	[*]
A-1.講義型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	28.3%	26.9%	1.5%	0.2551	0.7986	[]	
A-1.講義型(1回目)		C.対照群	28.3%	9.2%	19.2%	5.3929	0.0000	[**]	
A-2.講義型(2回目)		B-1.Gティスカッション型(1回目)	25.4%	15.9%	9.5%	1.7875	0.0739	[]	
A-2.講義型(2回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	25.4%	26.9%	1.5%	0.2616	0.7936	[]	
A-2.講義型(2回目)		C.対照群	25.4%	9.2%	16.2%	4.6191	0.0000	[**]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		B-2.Gティスカッション型(2回目)	15.9%	26.9%	11.0%	2.0296	0.0424	[*]	
B-1.Gティスカッション型(1回目)		C.対照群	15.9%	9.2%	6.7%	2.0340	0.0420	[*]	
B-2.Gティスカッション型(2回目)		C.対照群	26.9%	9.2%	17.7%	4.9490	0.0000	[**]	
Q9.5(2ヶ月後)		A-1.講義型(1回目)	A-2.講義型(2回目)	26.8%	27.9%	1.1%	0.1943	0.8460	[]
		A-1.講義型(1回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	26.8%	18.6%	8.2%	1.5064	0.1320	[]
	A-1.講義型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	26.8%	23.5%	3.2%	0.5853	0.5583	[]	
	A-1.講義型(1回目)	C.対照群	26.8%	13.9%	12.9%	3.3317	0.0009	[**]	
	A-2.講義型(2回目)	B-1.Gティスカッション型(1回目)	27.9%	18.6%	9.3%	1.6796	0.0930	[]	
	A-2.講義型(2回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	27.9%	23.5%	4.3%	0.7705	0.4410	[]	
	A-2.講義型(2回目)	C.対照群	27.9%	13.9%	14.0%	3.5477	0.0004	[**]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	B-2.Gティスカッション型(2回目)	18.6%	23.5%	4.9%	0.9224	0.3563	[]	
	B-1.Gティスカッション型(1回目)	C.対照群	18.6%	13.9%	4.7%	1.2225	0.2215	[]	
	B-2.Gティスカッション型(2回目)	C.対照群	23.5%	13.9%	9.6%	2.4859	0.0129	[*]	

6) まとめ

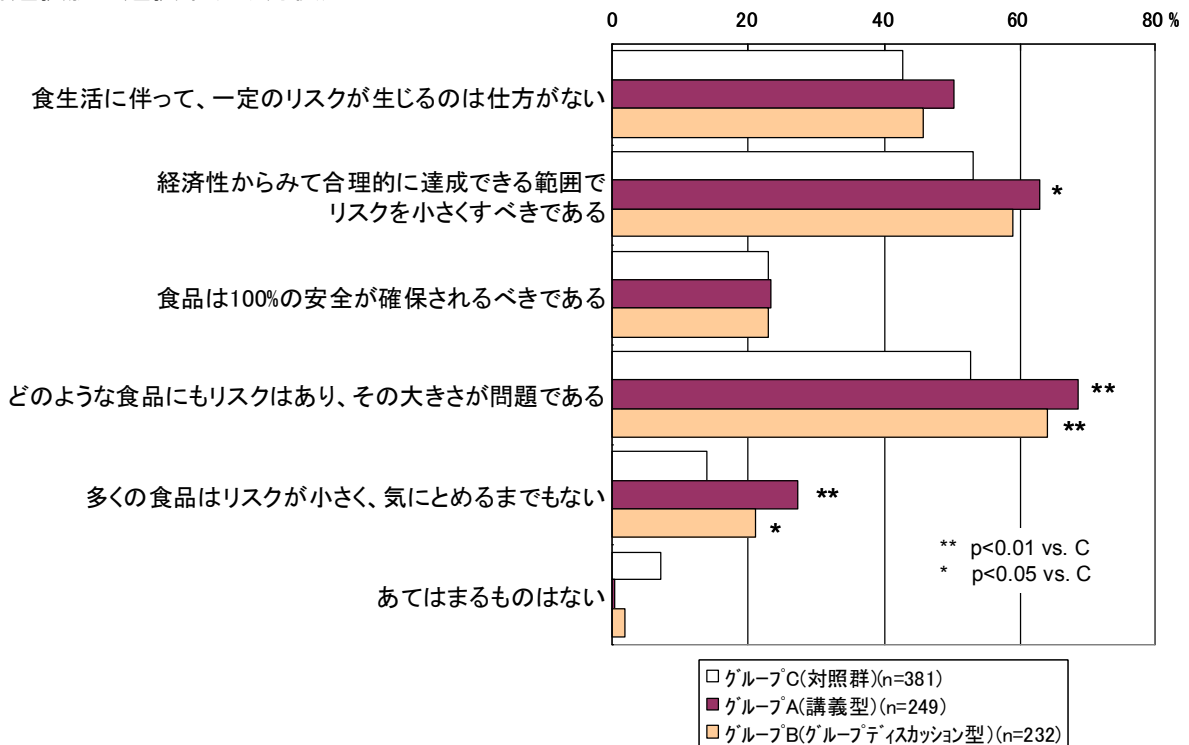
① 2ヶ月後の変化

意見交換会では直接の言及はしていないが、食品のリスクに対する考え方についてたずねた。

グループ A（講義型）では、「どのような食品にもリスクがあり、その大きさが問題である」「多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない」を選択した人の割合が対照群とくらべて高くなっている。

グループ B（グループディスカッション型）でも同様の傾向がみられるが、グループ A（講義型）ほど顕著ではない。

Q9. 食品のリスクについて、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)
各選択肢の選択率(2ヶ月後)



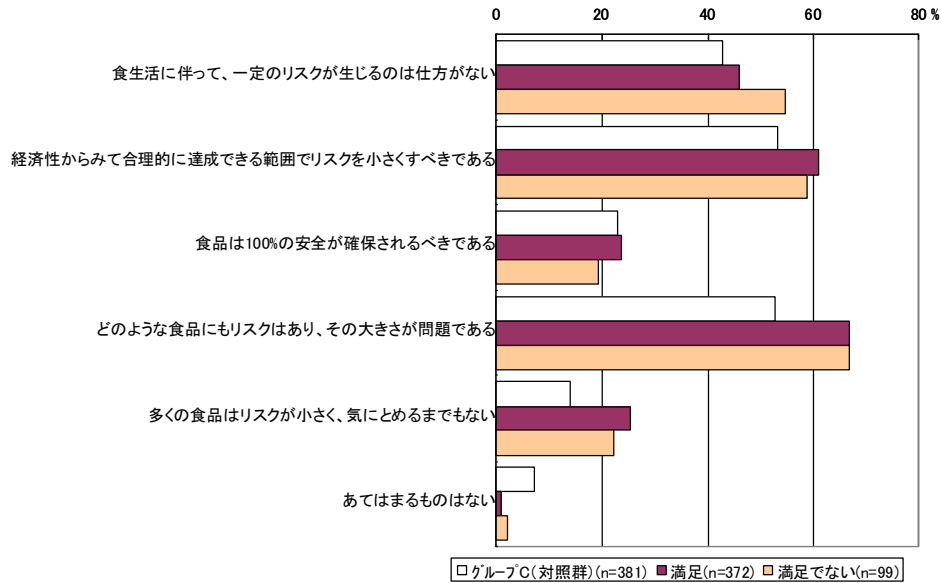
	合計	Q9 (2ヶ月後)					
		食生活に伴って、一定のリスクが生じる	経済性からみて合理的に達成できる	食品は100%の安全が確保されるべき	どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である	多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない	あてはまるものはない
全体	862	45.7	57.7	23.0	60.4	19.7	3.7
グループ A. 講義型 計	249	50.2	63.1	23.3	68.7	27.3	0.4
-A-1. 講義型(1回目)	127	52.8	60.6	22.0	70.9	26.8	0.8
-A-2. 講義型(2回目)	122	47.5	65.6	24.6	66.4	27.9	0.0
グループ B. グループディスカッション型 計	232	45.7	59.1	22.8	64.2	21.1	1.7
-B-1. グループディスカッション型(1回目)	113	39.8	59.3	26.5	61.9	18.6	2.7
-B-2. グループディスカッション型(2回目)	119	51.3	58.8	19.3	66.4	23.5	0.8
グループ C. 対照群	381	42.8	53.3	22.8	52.8	13.9	7.1

②満足度別の変化（2ヶ月後）

会合当日の満足度による差異をみたところ、会合全体として満足した参加者（「満足」「やや満足」と満足していない参加者（「どちらともいえない」「やや不満」「不満」）との間に差はみられない。

Q9. 食品のリスクについて、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。（いくつでも）

各選択肢の選択率（2ヶ月後）



満足度	グループ	合計	Q9 (2ヶ月後)					
			食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない	経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである	食品は100%の安全が確保されるべきである	どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である	多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない	あてはまるものはない
	全体	862	45.7	57.7	23.0	60.4	19.7	3.7
満足	グループA (講義型)	216	48.1	63.9	23.6	69.4	28.2	0.0
	グループB (グループディスカッション型)	156	42.9	57.1	23.7	62.8	21.2	1.9
満足でない	グループA (講義型)	99	54.5	58.6	19.2	66.7	22.2	2.0
	グループA (講義型)	27	59.3	51.9	11.1	66.7	25.9	3.7
	グループB (グループディスカッション型)	72	52.8	61.1	22.2	66.7	20.8	1.4
	グループC (対照群)	381	42.8	53.3	22.8	52.8	13.9	7.1

会合の満足度別の差異（Z検定）

カテゴリ	カテゴリ	カテゴリ	比率1	比率2	比率差	統計量	P値	判定マーク
食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない	満足	満足でない	46.0%	54.5%	8.6%	1.5185	0.1289	[]
経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである	満足	満足でない	61.0%	58.6%	2.4%	0.4406	0.6595	[]
食品は100%の安全が確保されるべきである	満足	満足でない	23.7%	19.2%	4.5%	0.9421	0.3462	[]
どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である	満足	満足でない	66.7%	66.7%	0.0%	-	1.0000	[]
多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない	満足	満足でない	25.3%	22.2%	3.0%	0.6253	0.5318	[]
あてはまるものはない	満足	満足でない	0.8%	2.0%	1.2%	1.0473	0.2950	[]

6. 意見交換会の効果と推奨事項

6.1 意見交換会の効果について

(1)知識の獲得

■ 意見交換会による知識提供の効果は大きい。

意見交換会の参加者の大半が、意見交換会で扱った内容について「知っている」という認識を持つようになっている。

また、講義型、グループディスカッション型とも具体的な説明内容が理解されている。実際には、講義型とグループディスカッション型ないし各開催回ごとに説明した情報量は異なる。特にグループディスカッション型は、開催当日のアンケートでは理解度の評価が低かったが、結果的にはいずれもほぼ同様に知識を獲得することができている。

実施形式、会合に対する満足度の違いによる差異は小さい。

1) 知識に対する自己認識

意見交換会参加者の大半は、残留農薬の安全性がどのように評価、管理されているかを知っているという意識を持つようになった。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間では大きな差異はない。

2) 具体的な内容の理解

意見交換会で説明ないし言及したこと、配付資料に含まれていることについては理解が促進される。とりわけ、主題に直接関係する内容（安全性評価や基準値関係）については顕著である。

今回の意見交換会の主題である安全性評価や基準値関連の内容についてみると「農薬はすべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている」「残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている」「基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない」は、グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）とも約8割から9割が「そう思う」と回答している。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間では大きな差異はない。

なお、当日の来場者アンケートにおける評価よりも、事後に理解度が向上している項目もみられた。当日の理解度が低かったグループ（回）においても、事後評価では他のグループ（回）と差異がなくなっている。事後に配付資料やその他の情報によって関連する内容を学習している可能性が示唆される。

(2)農薬や食品の安全性に関する認識の変化

■ 意見交換会への参加はハザードやリスクに対する認識に変化をもたらす。(リスクの観念的な理解、不安緩和)

今回のテーマでは農薬を扱ったが、農薬に対する認識も変化がみられる。農薬による被害可能性の認識は低くなり、有効性の認識が高まるなど、全体的に受容性が高まる方向に変化をもたらしている。

リスクの遍在性とその量が問題であることへの理解は進んだが、一定のリスクの存在を受容する人の割合に変化はなく、リスクを観念的に理解したからといって、それが必ずしもリスクを受け入れることを意味しないことが示唆される。なお、講義型では現状認識として食品のリスクは小さいということへの理解が進んだ。

実施形式、満足度の違いによる差異は小さい。

1) 農薬に対する認識

意見交換会への参加によって農薬に対する認識は大きく変化している。農薬による被害可能性を持つ人は減少した。また、参加者の大半が農薬の有用性を認めるとともに、残留農薬が管理されていることの認識を持つようになった。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型)の間では大きな差異はない。

2) リスクに対する認識

食品のリスクに対する考え方をいくつか示したところ、それほど顕著ではないが、いくつかの変化がみられた。

グループ A (講義型)、グループ B (グループディスカッション型)とも「どのような食品にもリスクがあり、その大きさが問題である」が増加しており、リスクの観念的な理解は進んでいる。一方、「食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない」については大きな変化はみられない。このことから、リスクの観念的な理解が進んだからといっても、必ずしも自分自身がリスクを受け入れるわけではないことがうかがえる。

グループ A (講義型)では「多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない」を選択した人の割合がやや増加しており、現状認識としてリスクは大きくないとの理解は進んでいる。

(3)信頼感の変化

■ 意見交換会への参加は信頼感の向上につながる。

安全性評価、管理制度や行政機関に対する信頼感が向上がみられる。特に、今回の意見交換会の主催である食品安全委員会に対する信頼感は大きく向上した。実施形式の違いによる差異は小さいが、食品安全委員会に対する信頼感は講義型よりもグループディスカッション型において高まりが大きかった。これは、グループディスカッション型が一方向的でなく意見を言える方法であったこと、実際に接することができたと感じられることが影響している可能性がある。

■ グループディスカッション型では、予期せぬ結果(報道に対する信頼感の向上)がみられた。

グループディスカッション型では報道に対する信頼感が向上するなど、必ずしも趣旨に合致しない変化がみられた。

会合に対する満足度の違いによる差異は小さい。

1) 仕組み、制度に対する信頼感

意見交換会への参加によって、科学的な安全性評価、安全管理のための規制の仕組みに対する信頼感は大きく高まり、参加者の7～8割が信頼できるとしている。

グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)の間では大きな差異はない。

2) 関係機関に対する信頼感

今回の意見交換会では、生産者、事業者、行政機関などの信頼感は全体的に高まったが、特に行政機関の信頼感が高まっている。特に食品安全委員会について「信頼できる」としたのは、事前には約3～4割程度だったが、意見交換会の後では講義型で約6割、グループディスカッション型で約7割となっている。

情報源としての行政機関の信頼性も向上している。意見交換会参加後には、グループA(講義型)、グループB(グループディスカッション型)とも、食品安全委員会は、各種メディア、関係機関等の中で最も信頼される機関となっている。特に、グループディスカッション型の参加者については半数以上が食品安全委員会を、食品の安全性に関する情報源として「信頼できる」としている。

ところで、今回の意見交換会は、「基準値の2倍」といった事象に対して、現在の報道は必ずしもリスクを適切に伝え切れていないという主張を含んでいた。しかし、グループB(グループディスカッション型)では、報道に対する信頼感が高まっていた。これは趣旨に一致しない変化であった。グループディスカッション型では、話題のコントロールが難しく予期せぬ結果が生じる可能性がうかがえる。

(4)行動の変化

■ 意見交換会への参加はテーマに係る行動の変容をもたらす。

今回の意見交換会のテーマであった「A 県産のキャベツから基準値を超える農薬検出」という事象への反応や日常的な行動に変化が見られる。

○回避行動

回避行動をとるといふ人が減少している。当該作物の産地（A 県産野菜）や作物自体（キャベツ）を回避する人は減少している。また、「減農薬」「無農薬」野菜を食べるようにするという人も減少している。この点については実施形式の違いによる差異は小さい。

○情報収集

意見交換会への参加によって、情報に注意し、健康に影響があるか考える人の割合が高まっている。実施形式の違いによる差異は小さいが、このように情報に注意して健康影響について考える人の割合は、講義型よりもグループディスカッション型においてやや大きく増加している。

講義型では受動的に情報を受け取るだけだが、グループディスカッション型では自分も考えて発言する必要があった。また、今回の意見交換会に限って言えばグループディスカッション型において「疑問点が明らかになった」と感じた人が少なかった。この経験が情報収集意欲を高めた可能性がある。

○行政機関の利用

行政機関の情報に対する注意や利用意向も高まる。

意見交換会への参加によって「行政機関からの情報に注意する」「行政機関に聞いてみる」「食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている」とした人の割合が高まっている。

実施形式の違いによる差異は小さいが、講義型よりもグループディスカッション型において、行政機関の情報に注意したり、行政機関に聞いてみるという人の割合がやや大きく増加している。これは、グループディスカッション型において信頼感がやや大きく高まったことに関連があると考えられる。

○”講義型→冷静”、”グループディスカッション型→能動”

全体として、実施形式の違いによる差異は小さいが、いくつかの項目では効果の出現に差異がみられた。

講義型では「気にしない」「何もしない」「意識しない」といった項目が増加し、いくつかの回避行動をとる人が少なくなっている。一方、グループディスカッション型では「報道への信頼」「生産者の情報に注意」が高まっているほか、「基準値を超える農薬検出」の場面において、提示した全ての項目において、グループ B（グループディスカッション型）の方が、グループ A（講義型）よりも行動するとした回答者の割合が大きい。

このことから、講義型は冷静な対応をもたらす、グループディスカッション型は能動的な行動をもたらす可能性が示唆される。

なお、会合に対する満足度の違いによる差異は小さい。

1) 事象（A 県産のキャベツから基準値を超える農薬検出）に対する反応

①回避行動

意見交換会への参加によって、当該産地の野菜、当該農作物を回避する人の割合はやや減少している。また、「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする人の割合も減少しており、意義の小さい回避行動を減らす効果がみられる。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間では大きな差異はないが、グループ A（講義型）において、回避行動をとる人の割合がやや低い。

②情報への注意と健康影響に対する考慮

意見交換会への参加によって「残留量に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える」「生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える」「安全性に関する情報を収集する」人の

割合が高まっている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間では大きな差異はないが、このように情報に注意して健康影響について考える人の割合は、グループ A（講義型）よりもグループ B（グループディスカッション型）においてやや大きく増加している。

③行政機関からの情報収集

意見交換会への参加によって「行政機関からの情報に注意する」「行政機関に聞いてみる」人の割合が高まっている。

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）の間では大きな差異はないが、グループ A（講義型）よりもグループ B（グループディスカッション型）においてやや大きく増加している。

2) 日常的な行動

①食品選択

グループ A（講義型）では「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」「食品の安全性について情報収集している」「食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている」が増加し、『減農薬』『無農薬』野菜を購入している（健康に対する不安から）が減少しており、2ヶ月後では、いずれも対照群と10%以上の差異がある。

グループ B（グループディスカッション型）では「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」「食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている」が増加しており、2ヶ月後では対照群と10%以上の差異がある。

グループ A、B を比較すると「普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している」を除く全ての行動についてグループ B での選択率が高くなっている。

②保存・調理

意見交換会では、保存調理等に係る行動については特に言及しておらず、大きな影響はみられない。

3) 行動全般

グループ A（講義型）、グループ B（グループディスカッション型）を比較すると、全体として、何らかの行動をとる人の割合はグループ B（グループディスカッション型）において高い。

逆に「何もしない」という人の割合はグループ A（講義型）において高まっている。

グループ A（講義型）のみに効果がみられた／効果が大きかった項目

- (A 県産キャベツから基準値の 2 倍の農薬検出の際) A 県産の野菜を食べないようにする (減少)
- (A 県産キャベツから基準値の 2 倍の農薬検出の際) 何もしない (気にしない) (増加)
- 普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している (やや増加)
- 「減農薬」「無農薬」野菜を購入している (健康に対する不安から) (減少)
- 問題があると話題になった食品は買わない (やや減少)
- 多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない (増加)

グループ B（グループディスカッション型）のみに効果がみられた／効果が大きかった項目

- 食品の安全性に関する報道 (信頼感) (増加)
- (A 県産キャベツから基準値の 2 倍の農薬検出の際) 生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える (増加)
- (A 県産キャベツから基準値の 2 倍の農薬検出の際) の行動全体として グループ B>グループ A

2ヶ月後における介入群と対照群との差異

分類	項目	C(対照群)				A(講義型)			B(グループディスカッション型)		
		該当率	該当率	比率差 (vs.C)	p値	該当率	比率差 (vs.C)	p値	該当率	比率差 (vs.C)	p値
A講義型、Bグループディスカッション型ともに変化がみられた項目											
知識	食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている	24.1	91.2	67.0	0.0000 **	92.7	68.5	0.0000 **			
知識	食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている	18.4	90.4	72.0	0.0000 **	87.9	69.6	0.0000 **			
内容理解	農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている	77.2	43.0	-34.2	0.0000 **	42.2	-34.9	0.0000 **			
内容理解	農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている	51.2	85.1	34.0	0.0000 **	85.8	34.6	0.0000 **			
内容理解	残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている	51.4	91.2	39.7	0.0000 **	89.2	37.8	0.0000 **			
内容理解	基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない	62.7	92.0	29.2	0.0000 **	92.7	29.9	0.0000 **			
内容理解	基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている	49.3	81.5	32.2	0.0000 **	85.8	36.4	0.0000 **			
内容理解	洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している	64.6	43.4	-21.2	0.0000 **	46.1	-18.4	0.0000 **			
内容理解	「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い	59.6	26.1	-33.5	0.0000 **	28.4	-31.1	0.0000 **			
内容理解	特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切	67.2	91.2	24.0	0.0000 **	90.9	23.8	0.0000 **			
農業への認識	いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える	48.3	13.7	-34.6	0.0000 **	21.1	-27.2	0.0000 **			
農業への認識	農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである	66.9	94.0	27.0	0.0000 **	93.1	26.2	0.0000 **			
農業への認識	国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている	51.2	88.0	36.8	0.0000 **	90.1	38.9	0.0000 **			
信頼感	農業等に対する科学的なリスク評価	41.7	78.3	36.6	0.0000 **	74.1	32.4	0.0000 **			
信頼感	食品の安全管理のための規制の仕組み	36.2	72.7	36.5	0.0000 **	71.1	34.9	0.0000 **			
信頼感	生産者、事業者等の法令遵守	19.9	43.8	23.8	0.0000 **	40.1	20.1	0.0000 **			
信頼感	食品安全委員会	31.2	62.7	31.4	0.0000 **	67.2	36.0	0.0000 **			
信頼感	厚生労働省・農林水産省(うち、食品安全行政について)	25.7	58.6	32.9	0.0000 **	57.8	32.0	0.0000 **			
信頼感	厚生労働省(情報源として信頼)	13.9	34.9	21.0	0.0000 **	31.9	18.0	0.0000 **			
信頼感	農林水産省(情報源として信頼)	13.4	32.9	19.5	0.0000 **	33.2	19.8	0.0000 **			
信頼感	食品安全委員会(情報源として信頼)	19.4	44.6	25.2	0.0000 **	50.9	31.4	0.0000 **			
事象への反応	キャベツを食べないようにする	21.3	7.6	-13.6	0.0000 **	10.3	-10.9	0.0011 **			
事象への反応	「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする	42.5	21.7	-20.8	0.0000 **	25.4	-17.1	0.0000 **			
事象への反応	残留している量(2倍)に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える	58.5	70.7	12.2	0.0039 **	72.8	14.3	0.0006 **			
事象への反応	その農業についての安全性に関する情報を収集する	47.0	61.4	14.5	0.0009 **	67.7	20.7	0.0000 **			
事象への反応	食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する	47.5	70.7	23.2	0.0000 **	72.8	25.3	0.0000 **			
事象への反応	食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる	13.4	26.1	12.7	0.0001 **	30.2	16.8	0.0000 **			
日常的行動	食品の安全性について情報収集している	17.8	26.1	8.3	0.0472 *	27.6	9.7	0.0160 *			
日常的行動	食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている	11.8	26.1	14.3	0.0000 **	28.9	17.1	0.0000 **			
日常的行動	食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている	59.3	77.1	17.8	0.0000 **	73.3	14.0	0.0010 **			
リスクの考え方	どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である	52.8	68.7	15.9	0.0002 **	64.2	11.5	0.0145 *			
A講義型のみに変化がみられた/A講義型の方が変化が大きかった項目											
事象への反応	A県産の野菜を食べないようにする	52.8	41.0	-11.8	0.0102 *	45.3	-7.5	0.2048			
事象への反応	何もしない(気にしない)	20.7	30.5	9.8	0.0109 *	21.1	0.4	1.0000			
日常的行動	普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している	43.8	61.0	17.2	0.0001 **	54.3	10.5	0.0346 *			
日常的行動	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(健康に対する不安から)	22.8	12.4	-10.4	0.0052 **	15.5	-7.3	0.0920			
リスクの考え方	多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない	13.9	27.3	13.4	0.0000 **	21.1	7.2	0.0436 *			
日常的行動	問題があると話題になった食品は買わない	47.0	38.2	-8.8	0.0882	45.7	-1.3	1.0000			
Bグループディスカッション型のみに変化がみられた/Bグループディスカッション型の方が変化が大きかった項目											
信頼感	食品の安全性に関する報道	24.1	32.5	8.4	0.0607	38.4	14.2	0.0004 **			
事象への反応	生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える	46.5	53.8	7.4	0.2067	59.9	13.5	0.0034 **			
変化がみられなかった項目											
事象への反応	キャベツを買ったらよく洗うようにする	73.0	74.3	1.3	0.3835	75.4	2.5	0.6950			
日常的行動	なるべく国産のものを購入するようにしている	57.5	61.0	3.6	1.0000	65.9	8.5	0.1068			
日常的行動	「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(環境への配慮から)	13.9	10.8	-3.1	0.8101	12.1	-1.8	1.0000			
日常的行動	信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している	28.6	34.9	6.3	0.2942	36.2	7.6	0.1562			
日常的行動	作り置き、買い置きをしないようにしている	15.7	18.5	2.7	1.0000	14.2	-1.5	1.0000			
日常的行動	加熱すべき食材は十分に加熱する	68.0	79.5	11.5	0.0038 **	78.0	10.0	0.0180 *			
日常的行動	消費期限、賞味期限を厳守している	24.9	28.9	4.0	0.8535	33.2	8.3	0.0898			
リスクの考え方	食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない	42.8	50.2	7.4	0.2003	45.7	2.9	1.0000			
リスクの考え方	経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである	53.3	63.1	9.8	0.0444 *	59.1	5.8	0.4764			
リスクの考え方	食品は100%の安全が確保されるべきである	22.8	23.3	0.5	1.0000	22.8	0.0	1.0000			

「時期」の各水準における「グループ」の多重比較検定(Bonferroniの方法)のうち、「2ヶ月後」の結果を記載

6.2 リスクコミュニケーション（意見交換会）に係る推奨事項

本調査研究事業の成果をふまえて、今後の意見交換会に係る推奨事項を検討する。

(1)計画・準備

1) タイトルのつけ方

- 推奨事項
 - 生活者の目線からタイトルを付与。具体的かつ容易にテーマを想起できるようにする。
- 狙い
 - 自分にとって関わりがある問題であると感じてもらう。
- 方法(例)
 - サブタイトルに「どうしたらいいの?」「安全なの?」など生活者の目線と「基準値の2倍の農薬」などシチュエーションが見える文言を入れる。

■ 生活者の目線からタイトルを付与。具体的かつ容易にテーマを想起できるようにする。

参加者からの質問をみると、関心事項の多くは、自分や家族にとって安全かどうか、自分が何をすべきかという点に帰着する。生活者の目線で日常生活との関わりがわかるようなタイトルを付与することが興味の喚起につながる。

2) 内容の設定

- 推奨事項
 - 参加者が知りたいと思うことを事前にたずねて内容に反映し、
 - 事前にたずねた内容を反映したことを伝える。
- 狙い
 - 参加者にとって有用な内容にする。
 - 主催者の誠意を伝える。
- 方法(例)
 - 応募フォームに「〇〇について、あなたが知りたいこと」の欄を設ける。
 - 参加者からの意見を反映したことを参加者に伝える。

■ 参加者が知りたいと思うことを事前にたずねて内容に反映する。

参加者が知りたいと思うことをあらかじめ把握することで、適切な情報提供ができる。

■ 事前にたずねた内容を反映したことを伝える。

あらかじめ申し出た関心事項を反映したことを伝えることが参加者の満足度の向上につながる。

3) 告知・募集

■ 推奨事項

- 募集にあたっては、食品安全とは無関係な媒体、告知方法を含める。
- 開催回ごとにターゲットを明確に設定する。既存のコミュニティを活用してもよい。

■ 狙い

- 普段は積極的に情報を取得しない層や知識がない層からの参加を得る。
- 対象となる層に対して、自分にとって関わりがある問題であると感じてもらおう。

■ 方法(例)

- 店頭、宅配業者の配布物、新聞、雑誌(週刊誌等)、ネットニュースなど利用者が受動的(非選択的)に情報を受け取るメディア)を利用する。
- 「子供がいる人向け」「家庭の安全を守る立場の人向け」などターゲットを絞り、学校での告知、「3歳児健診」受診者に対する告知など、ターゲットに到達しやすい手段で告知する。
- 保護者会、習い事など、既にあるコミュニティに対して参加を求める。
- 参加のインセンティブをつける(ノベルティ、登録制モニターデータベースから調査事業として参加を求める)。

■ 募集にあたっては、食品安全とは無関係な媒体、告知方法を含める。

今回の参加者は食品安全に馴染みのない一般生活者が大半であったが、参加者の大半は食品の安全性に関する知識や意識を高めており、行動を変容させている。この効果は開催形式や満足度にはほとんど依存しない。さらに、参加者の8~9割が今後もこのような会合に参加したいと感じている。

今回の参加者のように、普段は積極的に情報を取得しない層や知識がない層であっても、意見交換会に出席することによって大きな影響を与えることが示唆される。

普段から意見交換会に参加するような層だけでなく、今回の参加者のように、普段は食品安全という切り口から情報をあまり取得しない層や知識がない層からの参加を得ることによって意見交換会の効果を高めることができる。

■ 開催回ごとにターゲットを明確に設定する。既存のコミュニティを活用してもよい。

「子供がいる人向け」「家庭の安全を守る立場の人向け」など、ターゲットを明確に設定して告知する。自分が意見交換会の対象者であると感じてもらい関心を喚起することができるとともに、ターゲットが絞られることで参加者に適合した情報提供ができる。

既にあるコミュニティを活用することも考えられる。ターゲットが絞られるだけでなく、事後に当該コミュニティを通じた波及効果を期待することができる。

(2)実施

1) 実施形式

<ul style="list-style-type: none">■ 推奨事項<ul style="list-style-type: none">➢ 講義、グループディスカッション、専門家との対話を組み込む。■ 狙い<ul style="list-style-type: none">➢ 各方式の利点を組み合わせて、満足と理解を得る。■ 方法(例)<ul style="list-style-type: none">➢ プログラムに以下を組み込む。<ul style="list-style-type: none">◇ 体系的な説明(講義)◇ 他者の意見による触発、考えの正当化・相対化(グループディスカッション)◇ ふだん触れることのない専門家と接する経験(対話)◇ 理解と納得(質疑応答)➢ テーマによって、グループディスカッションと講義のウェイトを変える。<ul style="list-style-type: none">◇ 馴染みが薄い問題、論点があきらかにない問題はグループディスカッションを充実◇ 明確な論点について事実を知りたいという問題は講義を充実➢ 参加者の知識によって、グループディスカッションと講義のウェイトを変える。<ul style="list-style-type: none">◇ 知識が少ない層が多い場合には講義を充実

■ 講義、グループディスカッション、専門家との対話を組み込む。

食品の安全性をテーマとする意見交換会においては体系的に説明しなければ理解できない内容が含まれる。理解を効率的に得るためには講義は必要である。例えば、基準値設定については動物実験、ADI、各作物への基準値設定という流れで説明する必要がある。今回のグループディスカッション型についてみると、この流れを体系立てて説明した2回目の方が理解度、満足度ともに高かった。

一方、講義型の参加者からは、単なる講義ではなくディスカッション形式を求める意見が目立った。また、他者の意見にふれたことで触発されたとの参加者も多い。

講義だけ、ディスカッションだけではなく、それぞれを組み合わせることで、さらに効果を高めることが期待できる。

参加者にとって馴染みが薄く、何が問題なのか論点があきらかにない問題については、グループディスカッションを充実させる。明確な論点について事実関係を知りたいという問題については講義型を充実させるなど、テーマによってグループディスカッションと講義のウェイトを変えることも考えられる。

また、参加者の知識を考慮してもよい。知識の少ない層を対象とする場合には、知識の獲得を重視して講義を充実させることも考えられる。

2) 講義

■ 推奨事項

- 説明事項の量に照らして講義時間を十分にとる。
- 具体性のある説明に努める。
- 対立がある論点については両論にふれる。
- 補完手段(DVD等)を活用する。

■ 狙い

- 効果的な知識の提供。

■ 方法(例)

- 資料をすべて説明するのに十分な時間を設定する。
- 日頃寄せられる質問、報道内容などを参考に、対立がある論点を把握し、講義内容に含める。
- 抽象的概念だけでなく実例を示す。(安全評価であれば計算例など)
- 導入段階でDVD視聴

■ 講義時間を十分にとる。

講義型に対する満足度は高く、問題は時間不足にあった。また、グループディスカッション型の参加者からは専門家の話が聞きたいとの要望が目立った。よって、講義時間は今回のケース(40分)よりも増やすことが望まれていると考えられる。

■ 具体性のある説明に努める。

質疑等の内容をみると、参加者は抽象的内容よりも、自分の安全を守るための方法論や、結局のところ安全かどうかなど、具体的な内容に関心があることがうかがえる。意見交換会参加による知識や意識等の変容をみても、具体的な内容については理解が促進された。

一方、「様々な考え方のあるものについて、明確な結論が得られた」とする参加者は必ずしも多くなかった。正確さとの兼ね合いはあるが、多少、細部を捨象しても言い切れるところは言い切っても良いと思われる。

■ 対立がある論点については両論にふれる。

意見交換会で伝えようとする情報と、参加者が普段接している情報、とりわけ食品の安全性に警鐘を鳴らすタイプの情報とは対立する可能性がある。対立意見を無視した講義は片面的との印象を与える可能性がある。対立がある論点については、反対意見があることにふれつつ説明することが必要である。

■ 補完手段(視聴覚素材等)を活用する。

講義の満足度は講師に依存する。常に優れた講師が得られるとは限らないことから、ある程度の補完手段が必要であると思われる。

3) グループディスカッション

<p>■ 推奨事項</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 規模を適正とする。➢ 意図、タスクを明確に伝える。➢ ディスカッション前に講義を行うなど、主要なメッセージはあらかじめ伝えておく。➢ ファシリテータにより議論をコントロールする。➢ グループの成果物を十分に活用する。 <p>■ 狙い</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 議論の円滑化。➢ 参加意識と満足度を高める。 <p>■ 方法(例)</p> <ul style="list-style-type: none">➢ (参加者 6 名＋ファシリテータ) × 8 グループ以下とする。➢ ディスカッションで求める成果物のイメージを提示する。➢ 各グループに対して、専門家、他の参加者が講評、コメントする時間を設ける。
--

■ 規模を適正とする。

グループ数が多くなると発表、講評に時間を要するだけでなく、類似の発表が多くなることから参加者の集中力を削ぐ可能性がある。

1 グループ内の人数が多くなると、円滑に対話ができない、共通の素材（例えばテーブルの模造紙など）を見たり触れたりできないなどの弊害が発生する。

今回の 1 グループの人数は 10 人超だったが、もっと少ない方がよいとの意見が目立った。

■ 意図、タスクを明確に伝える。

今回のグループディスカッションの時間は短く（導入含め 35 分）、進行も参加者に委ねたが「グループの疑問をまとめる」というタスクは時間どおりに達成することができた。

■ ディスカッション前に講義を行うなど、主要なメッセージはあらかじめ伝えておく。

グループディスカッション型では、議論の方向性が参加者に委ねられる。方向付けをしないままに、議論を進めると、参加者がもともと持っている不安や懸念が相互に承認されて増幅し、必ずしも意図しない変化をもたらされる可能性がある。

今回のケースでは、「基準値の 2 倍」がすぐさま健康への悪影響をもたらすものでないことが主要なメッセージの一つだったが、いくつかのグループでは悪影響があることを前提として議論が進められたようだった。また、「基準値の 2 倍」のような事象に対する報道はリスクを適切に表現できていないとの指摘を込めようとしたが、グループディスカッション型では報道に対する信頼が向上している。

グループディスカッション実施においては、主要なメッセージはディスカッションの前にある程度伝えておくことが望ましい。

■ ファシリテータにより議論をコントロールする。

議論の円滑化のためには、技能を持ったファシリテータを置くことが望ましい。

また、グループディスカッションでは「声の大きい」参加者に議論が誘導されるきらいがある。バランスをとりながら進行することに注意が必要である。

■ グループの成果物を十分に活用する。

今回のグループディスカッション型では成果物にたいする講評や議論のための時間が不足し、グループの成果を十分に活用されていない印象を与え、不満につながった。グループディスカッションの成果物を利用し、成果物に対するフィードバックが得られるようにする必要がある。

4) 対話・質疑応答

<p>■ 推奨事項</p> <ul style="list-style-type: none">➢ テーマをカバーできるように専門家を立てる(場合により複数)。➢ 専門家の資質(能力、人柄、立場など)に留意する。➢ 共感を示しながら対話する。➢ テーマを逸脱する質問を想定し、あらかじめ線引きを設定する。➢ 事後に個別の質問時間を設けるなど、大勢の前で質問できない人に配慮する。 <p>■ 狙い</p> <ul style="list-style-type: none">➢ テーマに関する専門的な知識を提供できるようにする。➢ 意見交換会の趣旨、メッセージに対する信頼感を高め、メッセージの受容を促す。➢ 運営の円滑化。 <p>■ 方法(例)</p> <ul style="list-style-type: none">➢ テーマを網羅できるように専門家を複数立てる。➢ 当日回答できない質問に対して、後日回答する方法をあらかじめ想定する。(ホームページ掲載、事後メール)➢ 相手に対する理解を示す、一市民としての自らの経験などを織り交ぜて対話するなど、共感を示す。➢ 終了後に専門家やスタッフが個別に質疑応答を受け付ける。➢ 事後アンケートでも質問を受け付ける。

■ 専門家を複数立てる。

テーマの範囲をカバーして情報を提供できるようにする。専門家は自分の専門とする分野以外は専門家ではないことから、複数の専門家が必要になることも考えられる。

■ 専門家の資質(能力、人柄、立場など)に留意する。

経験と知識のある専門家の参加を得る。また、偏った内容にならないように、公的研究機関の研究者など、特定の立場、業界等を代表しない専門家を選定する。

■ 共感を示しながら対話する。

参加者の中には、大勢の前では質問しづらいなど自分の持つ疑問に自信が持てない人がいる。また、講義等の内容が一面的に感じられるなど、趣旨に対する警戒を持っていることもある。

参加者との対話にあたっては、単に事実を教えるというスタンスではなく、参加者に対して共感を示すことで気持ちを解きほぐす。

■ テーマを逸脱する質問を想定し、あらかじめ線引きを設定する。

質疑応答においては、テーマを逸脱する質問が出る可能性がある。逸脱する質問に答えることで誠意を感じられる面もあるが、どこまで回答するかをあらかじめ想定しないと、無駄な時間をとられたり、他の参加者の不満を呼ぶ可能性もある。

■ 事後に個別の質問時間を設けるなど、大勢の前で質問できない人に配慮する。

参加者の多くは意見交換会のような会合に慣れておらず、大勢の前で発言できない人もいる。終了後に個別に対話する、紙で質問をとるなどの配慮も必要と思われる。

5) 配布資料

<ul style="list-style-type: none">■ 推奨事項<ul style="list-style-type: none">➢ 配付資料は説明しきれぬ量とする。➢ 資料のみで内容が理解できるようにする。■ 狙い<ul style="list-style-type: none">➢ 駆け足説明の回避、「配布しただけ」との不満を回避する。➢ 関心が高まった参加者の事後学習や参照に利用してもらい、知識を深めてもらう。■ 方法<ul style="list-style-type: none">➢ 資料に盛り込む内容の優先順位をつける。以下を優先；<ul style="list-style-type: none">◇ 応募者にあらかじめたずねた関心事項・疑問、頻出の質問◇ 体系的な説明を要するトピック(毒性評価～基準値設定などの流れなど)➢ 資料を見ればわかるように説明文や用語解説をつける。
--

■ 配付資料は説明しきれぬ量とする。

今回は 20 頁強の資料を配付したが、説明は駆け足となった。また、断片的にしか利用しなかった開催日程（特にグループディスカッション型）では不満が目立った。

よって、配付資料は説明しきれぬ量とすることが望ましい。

■ 事後学習などの可能性を踏まえ、資料のみを見れば内容が理解できるようにする。

意見交換会への出席によって参加者の 8 割以上が興味・関心を高め、情報収集意欲も高まっている。このような参加者が後日にも資料を参照できるようにすることで、知識を深めることができる。

(3)フォローアップ

1) 会合後の情報提供

<ul style="list-style-type: none">■ 推奨事項<ul style="list-style-type: none">➢ 当日の説明が不足した部分について情報提供する。➢ 情報提供や対話を継続する仕組みを確保する。■ 狙い<ul style="list-style-type: none">➢ 理解と納得をさらに深める。➢ 興味、関心の維持、対話の継続。■ 方法(例)<ul style="list-style-type: none">➢ 議事録、質疑応答内容の提供(メール、Web 掲載など)➢ 参加者を対象とした情報提供や対話を継続(メルマガ、コミュニティサイトなど)➢ 参加経験者の組織化
--

■ 当日の説明が不足した部分について情報提供する。

意見交換会の限られた時間では説明・回答しきれないこと、理解しきれないことが生じる。疑問を残したままで終わらせないようにするために、フォローアップすることが望ましい。

■ 情報提供や対話を継続する仕組みを確保する。

意見交換会の実施から時間が経過した後でも知識や意識、行動の変化は持続している。また、行政からの情報の利用意向も高まっている。

よって、意見交換会参加者に対して情報提供や対話を継続する仕組みは活用され、リスクコミュニケーションの新たな方策となることが期待される。

添付資料

事前調査調査票

「食生活に関するアンケート」

(食品の選択方法など食行動の現状)

Q1. あなたは、自分が食べる食品を自分で選んでいますか。(ひとつだけ)

1. ほとんど自分自身で選択する
2. 自分自身で選択することが多い
3. どちらともいえない
4. 他の人(家族など)が選択することが多い
5. ほとんど他の人(家族など)が選択する

Q2. 食品を選択する際、あなたが重視していることは何ですか。以下よりあてはまるものを全てお選び下さい。(いくつでも)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 価格 | 9. 天然素材・自然素材 |
| 2. おいしさ | 10. 簡便性(手間がかからない) |
| 3. 鮮度 | 11. 季節感・旬 |
| 4. 見栄え | 12. 産地(国産・海外産等) |
| 5. 栄養 | 13. 生産者・食品メーカー |
| 6. 安全性 | 14. その他() |
| 7. 量・大きさ | 15. 特にない |
| 8. 低カロリー・ヘルシー | |

Q3. 食品選択の際に、あなたが参照しているものをお選び下さい(いくつでも)

1. 食品表示(ラベル)
2. 消費期限・賞味期限表示
3. JAS マーク
4. 小売店のPOP・チラシ
5. その他()
6. 特にない

Q4. あなたは、食品の安全性についてどこから情報を入手していますか。(いくつでも)

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| 1. テレビ: ニュース・報道番組 | 19. 大学・研究機関・研究者 |
| 2. テレビ: ワイドショー・情報番組 | 20. 学校(幼稚園、小・中学校、高校) |
| 3. テレビ: ドキュメンタリー番組 | 21. 病院 |
| 4. ラジオ | 22. NPO・消費者団体 |
| 5. 新聞 | 23. 家族・知人 |
| 6. 一般の雑誌(週刊誌、月刊誌など) | 24. 個人のブログ |
| 7. 専門誌 | 25. その他() |
| 8. 一般の書籍 | 26. 特にない |
| 9. 専門書・学術書・論文等 | |
| 10. インターネット上のニュースサイト | |
| 11. インターネット上のコミュニティサイト
(SNS等) | |
| 12. 厚生労働省 | |
| 13. 農林水産省 | |
| 14. 食品安全委員会 | |
| 15. 保健所 | |
| 16. 生産者・食品メーカー | |
| 17. スーパー・小売店 | |
| 18. 生協などの協同組合 | |

Q7. 食の安全について、あなたの認識や行動に近いものをお選び下さい。

	あてはまる	まあやあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 問題が発生したときの被害が大きい	1	2	3	4	5
2. 問題が発生する確率が高い	1	2	3	4	5
3. 得体が知れない	1	2	3	4	5
4. 将来世代にまで影響を及ぼす	1	2	3	4	5
5. 摂取するたびに人体に蓄積されている	1	2	3	4	5
6. いったん被害を受けると回復がむずかしい	1	2	3	4	5
7. 安全性を判断する材料が不十分	1	2	3	4	5
8. どのような被害・影響があるのか知っている	1	2	3	4	5
9. どのように安全管理されているか知っている	1	2	3	4	5
10. 危害の回避に必要な情報が提供されている	1	2	3	4	5
11. 科学的な食品健康影響評価(*)が行われている	1	2	3	4	5
12. 行政による安全管理施策・体制が確立している	1	2	3	4	5
13. 生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している	1	2	3	4	5
14. 家庭において、食品の安全な保存、調理に気をつけている。	1	2	3	4	5
15. 危ないとされるものは食べない、買わないようにしている	1	2	3	4	5

* 食品健康影響評価

食品が健康に悪い影響を与える可能性と程度を科学的に評価することです。リスク評価ともいいます。農薬の残留基準のような基準値を決める根拠にもなります。

Q8. 食生活のリスクについて、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)

1. 食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない
2. 経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである
3. 食品は100%の安全が確保されるべきである
4. どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である
5. 多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない
6. あてはまるものはない

(食品の安全性に関する基礎的な知識)

Q9. あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択するとよいかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(ひとつだけ)

1. 十分にあると思う
2. ある程度あると思う
3. あまりないと思う
4. 全くないと思う

Q10. あなたは、食生活によって健康に悪影響を与えないようにするために、食品の選択や調理、保存の際にどのようなことに気をつけていますか。実際に行っていることをお書き下さい。(ご自由に)

--

Q11. 食品をより安全に保ち、食中毒を防ぐために有効だと思うものを、以下の中からすべてお選びください。(いくつでも)

1. 正しい手洗いや調理器具の洗浄・消毒を行い、清潔に保つこと
2. 生の食品と加熱済み食品などの異なる食材を分けて取り扱うこと
3. 加熱が必要な食品をよく加熱すること
4. 調理済み食品を室温に二時間以上放置しないこと
5. 野菜や果物など生で食べる食材をよく洗うこと
6. 賞味期限を過ぎたものは食べないようにすること
7. わからない
8. 上記のいずれもあてはまらない

Q12. 食品中に残留する農薬の基準について、以下の中から正しいと思うものをすべてお選びください。(いくつでも)

1. 人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている
2. 一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない
3. 残留農薬に対する規制は加工食品も対象である
4. 加工食品には農薬が残留してはいけない
5. わからない
6. 上記のいずれも正しくない

Q13. BSE(牛海綿状脳症)について、以下の中から正しいと思うものをすべてお選びください。(いくつでも)

1. 全ての月齢の牛に対するBSE検査が行われている
2. BSE検査対象は21月齢以上の牛に限られている
3. 20月齢以下の牛に対するBSE検査をしても、陽性の牛を発見できる可能性は低い
4. BSEの感染源と考えられる牛由来の肉骨粉を家畜用飼料に用いることは禁止されている
5. BSEプリオン(*)が蓄積する特定危険部位(**)の除去が行われている
6. わが国では現在でもBSE陽性の牛が数多く発生している
7. 海外では現在でもBSE陽性の牛が数多く発生している
8. わからない
9. 上記のいずれも正しくない

*BSEプリオン

BSEを引き起こす異常なタンパク質です。

**特定危険部位

BSEプリオンが蓄積しやすいといわれる部位です。具体的には、牛の脳、眼、脊髄及びすべての牛の腸の一部です。

(リスクコミュニケーションの認識)

Q14. あなたは、食品の安全性についてどのような情報がほしいですか。(いくつでも)

1. 安全性評価の根拠となるデータ
2. 安全性評価の方法
3. 安全性評価の結果
4. 安全管理の方法
5. 健康被害の種類
6. 健康被害を受けた人の意見
7. 食品選択などの判断に役立つ情報
8. 安全な調理、保存に役立つ情報
9. その他 ()
10. 特にない

Q15. あなたは行政(国)による食品の安全性に関する情報提供に対して、どのように感じますか。(いくつでも)

1. 正確である
2. わかりやすい
3. 信用できる
4. 科学的である
5. 中立的である
6. 興味がわく
7. わからないので、それ以上聞く気になれなくなる
8. はぐらかそうとしている
9. 見下されている気がする
10. 理解させようという気がないように感じる
11. その他 ()
12. 特に気にならない
13. 行政(国)による食品の安全性に関する情報提供を見聞きしたことがない

Q16. 食品の安全に関する行政や事業者との関係について、あなたのお考えに近いものを選び下さい。(いくつでも)

1. できる限り情報を開示してほしい
2. 共通の情報をもとに意見交換したい
3. 関係機関の考え方を知りたい
4. 問題があるならば共に解決方法について話し合いたい
5. 自分の意見を伝えたい
6. 施策に自分の意見を反映してほしい
7. 対話を通じて信頼関係を構築したい
8. 情報開示や対話を求めなくてよいくらいに、安心して任せられるとよい
9. 安全は自分で守るものであり、行政や事業者に依存すべきものではない
10. 特にない

(食品安全行政に対する認識)

Q17. 食品の安全性に関する情報提供について、行政に期待することは何ですか。あなたが期待することについて5つまでお選びください。(5つまで)

1. 正確な情報の提供
2. わかりやすい情報の提供
3. 科学的根拠に基づいた情報の提供
4. ネガティブ（マイナス）情報も包み隠さず開示
5. 中立的・公平な立場での見解
6. 食品表示制度の改善
7. 迅速な情報提供
8. 情報へのアクセスのしやすさ
9. ウェブサイトの充実
10. メールマガジンの発信
11. パンフレット・広報誌の充実
12. 消費者の相談を受ける窓口の設置
13. 説明会などの開催
14. 意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供
15. その他（ ）
16. 特にない

(食品安全委員会に対する認識)

Q18. あなたは、食品安全委員会をご存知ですか。(ひとつだけ)

1. どんな機関であるかを含めて知っている
2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない

Q19. 食品安全委員会に対するイメージとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 食品安全の基準設定や規制を実施している
2. 食品の健康影響評価（リスク評価）に取り組んでいる
3. 食品安全について消費者を含む幅広い関係者との情報・意見交換に取り組んでいる
4. 重大な食品事故などの緊急時対応に取り組んでいる
5. 食品安全に必要な施策などについて関係省庁に勧告している
6. 信頼性がある
7. 中立公正である
8. 科学的である
9. 親しみやすい
10. 透明性がある
11. 専門的である
12. 消費生活に密着している
13. 行動が迅速である
14. 消費者の安全・安心に貢献している
15. 消費者の立場や意見を大切にしている
16. 食品の生産者や製造・流通業者における食品安全の取組みに貢献している
17. 食品安全について正確な情報を提供している
18. 食品安全について消費者に分かりやすい情報を提供している
19. 豊富な科学的データを保有している
20. わからない・イメージがない

(食品健康影響評価に対する認識)

Q20. あなたは、食品安全委員会が食品の健康に対する影響（リスク）を科学的に評価していることをご存じですか。（ひとつだけ）

1. 評価している機関が食品安全委員会であることを含めて知っている
2. 評価機関は知らないが、国が評価していることを知っている
3. 知らない

Q21. 食品安全委員会が行う、食品の健康に対する影響の科学的な評価（食品健康影響評価）をどの程度信用できますか。（ひとつだけ）

1. 信頼できる
2. やや信頼できる
3. どちらともいえない
4. あまり信頼できない
5. 信頼できない

(リスクコミュニケーションに対する認識)

Q22. 食品安全委員会ではリスクに関する情報及び意見の相互交換（リスクコミュニケーション）に取り組んでいることを知っていますか。（ひとつだけ）

1. 知っている
2. 知らない

(意見交換会の認識)

Q23. 食品安全委員会では、食品の安全性について国民と関係者が意見を交わすことができる意見交換会を開催していることをご存じですか。（ひとつだけ）

1. 知っている
2. 知らない

Q24. あなたは、このような意見交換会に参加したいと思いますか。（ひとつだけ）

1. 参加したい（理由 _____）
2. どちらともいえない
3. 参加したいと思わない（理由 _____）

Q25. このような意見交換会に期待することは何ですか（いくつでも）

1. 他では得られない詳しい情報を得たい
2. 専門的な内容について、わかりやすい説明を聞きたい
3. どのような施策がとられているのか知りたい
4. 疑問のある点について質問したい
5. 他の人と意見交換したい
6. 様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞きたい
7. 国が行うリスクコミュニケーションの取組を知りたい
8. その他（ _____）
9. 特になし

(基本属性)

F1. 性別

1. 男性
2. 女性

F2. 年齢

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代

F3. 職業

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 農林水産業 | 7. 専業主婦・主夫 |
| 2. 自営業・家族従業者 | 8. 学生 |
| 3. 自由業 | 9. 無職 |
| 4. 会社員 | 10. その他 () |
| 5. 公務員・公共団体職員・教員 | |
| 6. 派遣・嘱託・契約社員・パート・アルバイト | |

F4. あなたはご結婚されていますか。

1. 既婚（配偶者あり）
2. 既婚（離別・死別）
3. 未婚

F5. あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。

1. いる[→F6へ]
2. いない[→F7へ]

【お子さんがいらっしゃる方（前問に「いる」と回答した方）へ】

F6. あなたのお子さんは以下のいずれにあてはまりますか。あてはまるものを全てお選びください。別居しているお子さまも含めてお答えください。【いくつでも】

- | | |
|---------|----------------------|
| 1. 未就学児 | 5. 専門学校・専修学校生 |
| 2. 小学生 | 6. 短大・高等専門学校・大学・大学院生 |
| 3. 中学生 | 7. 学校を卒業 |
| 4. 高校生 | |

F7. あなたが同居している人を以下の中から全てお選び下さい。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 自分の両親 | 7. 孫 |
| 2. 自分の祖父母 | 8. 兄弟姉妹 |
| 3. 配偶者の両親 | 9. 友人 |
| 4. 配偶者の祖父母 | 10. 恋人 |
| 5. 配偶者 | 11. その他 () |
| 6. 子ども | 12. 一人暮らし |

F8. 最後に卒業された（予定も含む）学校についてお答えください。

1. 小学校・中学校
2. 高等学校（旧制中学校も含む）
3. 専門学校・専修学校 [→F9へ]
4. 短期大学 [→F9へ]
5. 高等専門学校 [→F9へ]
6. 四年制大学 [→F9へ]
7. 大学院 [→F9へ]

【前問で「3.専門学校・専修学校」「4.短期大学」「5.高等専門学校」「6.四年制大学」「7.大学院」と答えた方へ】

F9. あなたの専攻は理科系、文科系どちらでしたか。以下よりあてはまるものをひとつお選び下さい。【ひとつだけ】

1. 理科系（どちらかといえば）
2. 文科系（どちらかといえば）
3. どちらともいえない

F10. 居住地域（都道府県）

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 北海道 | 17. 石川県 | 33. 岡山県 |
| 2. 青森県 | 18. 福井県 | 34. 広島県 |
| 3. 岩手県 | 19. 山梨県 | 35. 山口県 |
| 4. 宮城県 | 20. 長野県 | 36. 徳島県 |
| 5. 秋田県 | 21. 岐阜県 | 37. 香川県 |
| 6. 山形県 | 22. 静岡県 | 38. 愛媛県 |
| 7. 福島県 | 23. 愛知県 | 39. 高知県 |
| 8. 茨城県 | 24. 三重県 | 40. 福岡県 |
| 9. 栃木県 | 25. 滋賀県 | 41. 佐賀県 |
| 10. 群馬県 | 26. 京都府 | 42. 長崎県 |
| 11. 埼玉県 | 27. 大阪府 | 43. 熊本県 |
| 12. 千葉県 | 28. 兵庫県 | 44. 大分県 |
| 13. 東京都 | 29. 奈良県 | 45. 宮崎県 |
| 14. 神奈川県 | 30. 和歌山県 | 46. 鹿児島県 |
| 15. 新潟県 | 31. 鳥取県 | 47. 沖縄県 |
| 16. 富山県 | 32. 島根県 | |

来場者アンケート調査票

もっと知りたい 食の安全
基準値の2倍！どうしたらいいの？－残留農薬の危険性を考える－
ご来場者アンケート

本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。以下の設問にお答えいただき、お帰りの際に受付にご提出いただけますようお願い申し上げます。

あなた自身についてお答え下さい(それぞれひとつずつ)

性別	男性	女性	年齢	20代	30代	40代	50代	60代
ご職業	1. 農林水産業 2. 自営業・家族従業者 3. 会社員・団体職員・公務員（食品関係） 4. 会社員・団体職員・公務員（食品関係以外） 5. パート・アルバイト		6. 専業主婦・主夫 7. 学生 8. 自由業 9. 無職 10. その他 ()					
居住地	1. 千葉県 2. 埼玉県 3. 東京都 4. 神奈川県							

Q1.本日の内容の満足度についてあてはまるものをお選び下さい。(それぞれひとつずつ)

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
1. 応募時に「知りたい」と伝えたことが内容に反映されていたこと	1	2	3	4	5
2. 配付資料	1	2	3	4	5
3. DVD「気になる農薬」	1	2	3	4	5
4. 専門家の話	1	2	3	4	5
5. 専門家との対話・質疑応答	1	2	3	4	5
6. 他の参加者の意見にふれたこと	1	2	3	4	5
7. 本日の会合全般として	1	2	3	4	5

Q2.上記にあげたもののうち、もっとも満足度が高かったものをひとつだけお選び下さい。(ひとつだけ)

1. 応募時に知りたいと伝えたことが、内容に反映されていたこと
2. 配付資料
3. DVD「気になる農薬」
4. 専門家の話
5. 専門家との対話・質疑応答
6. 他の参加者の意見にふれたこと
7. その他 ()
8. ない

Q3.本日、上映したDVD「気になる農薬」の内容は理解できましたか。(ひとつだけ)

1. 理解できた
2. やや理解できた
3. どちらともいえない
4. あまり理解できなかった
5. 理解できなかった

Q4.本日、専門家からお伝えした内容は理解できましたか。あてはまるものをお選び下さい。(それぞれひとつずつ)

	理解できた	やや理解できた	どちらともいえない	た できなかつ	あまり理解できなかった	理解できなかった
1. 基準値を超えたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではないこと。	1	2	3	4	5	5
2. 基準値は、動物実験の結果をもとに、余裕をもって定められていること。	1	2	3	4	5	5
3. いろいろな食品のそれぞれについて、残留基準が定められていること。	1	2	3	4	5	5
4. 残留してもよい農薬がリスト化されていること。	1	2	3	4	5	5
5. 毒性試験が、様々な人体への影響を考慮して、それぞれに行われていること。	1	2	3	4	5	5
6. 現在使われている農薬のほとんどは、毒物・劇物でないこと。	1	2	3	4	5	5
7. 農薬の場合には、複合作用はまれにしかみられないこと。	1	2	3	4	5	5
8. 農薬は収穫量の増加など、社会的に役立つ面があること。	1	2	3	4	5	5
9. 「ふつうの」野菜よりも「有機・無農薬」野菜が安全とは限らないこと。	1	2	3	4	5	5
10. 専門家の話全般として	1	2	3	4	5	5

Q5.本日配布した資料の中で、知りたいことがわかったと感じたスライドはありますか。配付資料のスライド番号をお答え下さい。(いくつでも)

--

Q6.本日の会合の印象としてあてはまるものをお選び下さい。(それぞれひとつずつ)

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまらない
1. 他では得られない情報が得られた。	1	2	3	4	5
2. 専門的な内容について、分かりやすい説明を聞いた。	1	2	3	4	5
3. 疑問点が明らかになった。	1	2	3	4	5
4. 様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞いた。	1	2	3	4	5
5. 新しい知識を得ることができた。	1	2	3	4	5
6. 食品の安全性に対する興味・関心が高まった。	1	2	3	4	5
7. 食品の安全性に対する不安が軽減された。	1	2	3	4	5
8. 自分の食生活に役立つ情報を得ることができた。	1	2	3	4	5
9. 講演者の熱意を感じた。	1	2	3	4	5
10. 今後もこのような会合に参加したいと思う。	1	2	3	4	5

Q7.本日の会合は、残留農薬を中心とする食の安全性について理解を深めるとともに、意見や情報の共有を図ることを目的として開催されましたが、全体を通してのご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせ下さい。(自由回答)

--

ご協力ありがとうございました。

行動指標調査票

行動指標調査票（案） ①事前、②1週間後、③2ヶ月後 共通

食生活に関するアンケート

■理解に関する設問

(知識についての自己認識)

Q1. 次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。(それぞれひとつずつ)

	そう思う	うややそう思	わからない	思わない	あまりそう	い	そう思わな
1. 食品に残留する農薬の安全性がどのように評価されているか知っている	1	2	3	4	5		
2. 食品に残留する農薬の安全性がどのように管理されているか知っている。	1	2	3	4	5		

(講義、情報提供内容や関連事項の事実関係の理解) ※ 講義、情報提供内容をもとに作成

Q2. 次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。(それぞれひとつずつ)

	そう思う	うややそう思	わからない	思わない	あまりそう	い	そう思わな
1. 農薬は摂取するたびに人体に蓄積されている	1	2	3	4	5		
2. 農薬は、すべて健康への影響が科学的に評価され、基準値が決められている。	1	2	3	4	5		
3. 残留農薬の基準値は、動物実験の結果をもとに、毎日一生涯にわたって摂取しても悪影響がないと判断される量として設定されている	1	2	3	4	5		
4. 基準値の2倍の農薬が付着した野菜を数回食べたからといって、すぐさま健康に悪影響があるわけではない	1	2	3	4	5		
5. 基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通は原則として禁止されている	1	2	3	4	5		
6. 洗浄前の野菜の多くには農薬が残留している	1	2	3	4	5		
7. 「減農薬」「無農薬」野菜は一般の野菜よりも安全性が高い	1	2	3	4	5		
8. 特定の食品の危険性に悩むよりも、栄養のあるものをバランスよく食べることが大切	1	2	3	4	5		

■評価・判断に関する質問

(安全性等の認識について)

Q3. 次にあげる事柄について、あなたの認識をお答え下さい。(それぞれひとつずつ)

	そう思う	う やや そう思	わから ない	思わ ない あまり そう	い そう 思わ な
1. いま流通している食品に含まれる残留農薬は自分や家族の健康に被害を与える	1	2	3	4	5
2. 農薬は社会にとって有益な面があり、管理のもとで使用すべきである	1	2	3	4	5
3. 国民の健康への悪影響がないように、残留農薬は規制や生産・流通段階で管理されている	1	2	3	4	5

(信頼性の認識について)

Q4. 次にあげるものの信頼性についてどう感じますか。(それぞれひとつずつ)

	信頼 でき る	き る やや 信頼 で	い え な い	ど ち ら と も で き な い	あ ま り 信 頼 で き な い	信 頼 で き な い
1. 農薬等に対する科学的なリスク評価	1	2	3	4	5	
2. 食品の安全管理のための規制の仕組み	1	2	3	4	5	
3. 生産者、事業者等の法令遵守	1	2	3	4	5	
4. 食品安全委員会	1	2	3	4	5	
5. 厚生労働省・農林水産省(うち、食品安全行政について)	1	2	3	4	5	
6. 食品の安全性に関する関する報道	1	2	3	4	5	

Q5. 食品の安全性に関する情報を得る場合、次にあげるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものをお選びください。(いくつでも)

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. テレビ：ニュース・報道番組 | 15. 保健所 |
| 2. テレビ：ワイドショー・情報番組 | 16. 生産者・食品メーカー |
| 3. テレビ：ドキュメンタリー番組 | 17. スーパー・小売店 |
| 4. ラジオ | 18. 生協などの協同組合 |
| 5. 新聞 | 19. 大学・研究機関・研究者 |
| 6. 一般の雑誌(週刊誌、月刊誌など) | 20. 学校(幼稚園、小・中学校、高校) |
| 7. 専門誌 | 21. 病院 |
| 8. 一般の書籍 | 22. NPO・消費者団体 |
| 9. 専門書・学術書・論文等 | 23. 家族・知人 |
| 10. インターネット上のニュースサイト | 24. 個人のブログ |
| 11. インターネット上のコミュニティサイト(SNS等) | 25. 25. その他() |
| 12. 厚生労働省 | 26. 特にな |
| 13. 農林水産省 | |
| 14. 食品安全委員会 | |

■行動に関する質問

(架空の状況下における行動)

Q6. 「A 県産のキャベツから残留基準量の 2 倍の農薬が検出された」という報道を目にしたとします。そのとき、あなたはどのように行動しますか。あてはまるものをお選び下さい。(いくつでも)

	あてはまる (する)	ややあてはまる (多分する)	わからない	あまりあてはま らない(多分し ない)	あてはまらな い(しない)
1. A 県産の野菜を食べないようにする	1	2	3	4	5
2. キャベツを食べないようにする	1	2	3	4	5
3. 「減農薬」「無農薬」の野菜を食べるようにする	1	2	3	4	5
4. 残留している量(2倍)に関する情報に注意し、健康に影響があるか考える	1	2	3	4	5
5. 生産現場に近い関係者の情報に注意し、健康に影響があるか考える	1	2	3	4	5
6. キャベツを買ったらよく洗うようにする	1	2	3	4	5
7. その農薬についての安全性に関する情報を収集する	1	2	3	4	5
8. 食品安全委員会、都道府県など行政機関からの情報に注意する	1	2	3	4	5
9. 食品安全委員会「食の安全ダイヤル」など行政機関に聞いてみる	1	2	3	4	5
10. 何もしない(気にしない)	1	2	3	4	5

(日常的な行動) ※ 意見交換会のテーマとは直接関係ないが波及効果などの参考として

Q7. あなたの日常的な食品選択について、あてはまるものをお選び下さい。(いくつでも)

1. 普段は特に危険性を意識せずに食品を選択している
2. 問題があると話題になった食品は買わない
3. なるべく国産のものを購入するようにしている
4. 「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(健康に対する不安から)
5. 「減農薬」「無農薬」野菜を購入している(環境への配慮から)
6. 信頼のおける店舗や宅配などから食材を購入している
7. 食品の安全性について情報収集している
8. 食品の安全性が気になったときには行政からの情報を得るようにしている
9. 特にない

Q8. あなたの日常的な食品の保存や調理に関する行動について、あてはまるものをお選び下さい。(いくつでも)

1. 作り置き、買い置きをしないようにしている
2. 加熱すべき食材は十分に加熱する
3. 食品、手、調理器具などを清潔に保つようにしている
4. 消費期限、賞味期限を厳守している
5. 特にない

Q9. 食品のリスクについて、あなたのお考えに近いものをお選び下さい。(いくつでも)

1. 食生活に伴って、一定のリスクが生じるのは仕方がない
2. 経済性からみて合理的に達成できる範囲でリスクを小さくすべきである
3. 食品は100%の安全が確保されるべきである
4. どのような食品にもリスクはあり、その大きさが問題である
5. 多くの食品はリスクが小さく、気にとめるまでもない
6. あてはまるものはない

■基本属性

F1. 性別

1. 男性
2. 女性

F2. 年齢

- | | |
|--------|--------|
| 1. 20代 | 4. 50代 |
| 2. 30代 | 5. 60代 |
| 3. 40代 | |

F3. 職業

1. 農林水産業
2. 自営業・家族従業者
3. 会社員・団体職員・公務員（食品関係）
4. 会社員・団体職員・公務員（食品関係以外）
5. パート・アルバイト
6. 専業主婦・主夫
7. 学生
8. 自由業
9. 無職
10. その他（ ）

F4. あなたはご結婚されていますか。

1. 既婚（配偶者あり）
2. 既婚（離別・死別）
3. 未婚

F5. あなたのいちばん下のお子さんは以下のいずれにあてはまりますか。あてはまるものを全てお選びください。別居しているお子さまも含めてお答えください。【ひとつだけ】

- | | |
|---------|----------------------|
| 1. 未就学児 | 5. 専門学校・専修学校生 |
| 2. 小学生 | 6. 短大・高等専門学校・大学・大学院生 |
| 3. 中学生 | 7. 学校を卒業 |
| 4. 高校生 | 8. 子供はいない |

F6. あなたが同居している人を以下の中から全てお選び下さい。

1. 自分の両親
2. 自分の祖父母
3. 配偶者の両親
4. 配偶者の祖父母
5. 配偶者
6. 子ども
7. 孫
8. 兄弟姉妹
9. 友人
10. 恋人
11. その他 ()
12. 一人暮らし

F7. 最後に卒業された（予定も含む）学校についてお答えください。

1. 小学校・中学校
2. 高等学校（旧制中学校も含む）
3. 専門学校・専修学校 [→F9へ]
4. 短期大学 [→F9へ]
5. 高等専門学校 [→F9へ]
6. 四年制大学 [→F9へ]
7. 大学院 [→F9へ]

【前問で「3.専門学校・専修学校」「4.短期大学」「5.高等専門学校」「6.四年制大学」「7.大学院」と答えた方へ】

F8. あなたの専攻は理科系、文科系どちらでしたか。以下よりあてはまるものをひとつお選び下さい。

【ひとつだけ】

1. 理科系（どちらかといえば）
2. 文科系（どちらかといえば）
3. どちらともいえない